西横野西部地区遺跡群

二〇二〇　群馬県安中市教育委員会

西横野西部地区遺跡群

行田二本杉原東Ⅱ遺跡
行田市子塚遺跡
行田大道北横道東遺跡
行田大道南横道東遺跡
行田大道南横道西遺跡
二軒在家二本杉Ⅱ遺跡

県営農地整備事業・県営水利施設等整備事業松義西部地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２０

群馬県安中市教育委員会

西横野西部地区遺跡群

行田二本杉原東Ⅱ遺跡
行田市子塚遺跡
行田大道北横道東遺跡
行田大道南横道東遺跡
行田大道南横道西遺跡
二軒在家二本杉Ⅱ遺跡

県営農地整備事業・県営水利施設等整備事業松義西部地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２０

群馬県安中市教育委員会

序

群馬県西部に位置する安中市南部一帯に広がる東横野・西横野地区は、群馬県による大規模な農地整備事業によって群馬県の名産であるコンニャクを中心とした県内屈指の農業地帯となっています。また、両地区のある横野台地には、旧石器時代から古代に至るまでの人々の生活の痕跡が遺跡として多数発見される地域として知られています。

安中市教育委員会では、平成18年度より西横野地区（松義地区）において計画された県営農地整備事業等に伴う埋蔵文化財の発掘調査を東部、中部、西部のそれぞれの地区に分けて平成29年度まで実施しました。本事業のこれまでの発掘調査では、主に縄文時代中期、古墳時代中期を中心とした集落群、奈良・平安時代の馬を飼育したとされる牧の跡や道路の跡など、学術的にも貴重な遺跡が確認されています。

このたび報告する西横野西部地区遺跡群は、西横野地区の西部、妙義山の麓に近い行田地区並びに八城地区と二軒在家地区の両地区の一部に広がっています。平成25年度から平成29年度に実施された発掘調査では、縄文時代中期の集落跡、奈良･平安時代の牧跡が発見され、この地域においても、いにしえの時代より人々の活動の営みが活発であったことが明らかとなりました。

本調査の成果が、すでに発掘調査が行われた東部、中部地区の成果をあわせ、西横野地区における原始古代の郷土資料、さらに学術資料として活用されることを願っております。

最後に発掘調査にご協力いただいた地権者の方々、松義台地土地改良区をはじめとする各関係機関の皆様、過酷な気象条件のもとで発掘調査に従事していただいた方々に感謝申し上げる次第です。

令和２年３月

安中市教育委員会
教育長　竹　内　　徹

例言

1　本書は群馬県西部農業事務所が計画した（農山）県営農地整備事業（畑地帯担い手育成型）松義西部地区及び（農山）県営水利施設等整備事業（畑地帯担い手育成型）松義西部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

なお、平成27年度に平成25～27年度の発掘調査について概要報告書を刊行しているが、本書の内容をもって正式報告とする。

2　遺跡群名は、事業名ではなく、行政区名を優先して「西横野西部地区遺跡群」とした。なお、富岡市では、「松義西部地区遺跡群」として事業名で呼称した。

3　調査した遺跡の所在地は下記のとおりである。遺跡名は大字小字を合わせた表記である。

行田二本杉原東Ⅱ遺跡（遺跡略称：Ｎ－19・19Ｂ）　安中市松井田町行田字二本杉原東地内
行田市子塚遺跡（遺跡略称：Ｎ－20・20Ｂ）　安中市松井田町行田字市子塚地内
行田大道南横道東遺跡（遺跡略称：Ｎ－21・Ｎ－21Ｂ）　安中市松井田町行田字大道南横道東・大道北横道東地内
行田大道北横道東遺跡（遺跡略称：Ｎ－22・22Ｂ）　安中市松井田町行田字大道北横道東地内
二軒在家二本杉Ⅱ遺跡（遺跡略称：Ｎ－23・23Ｂ・23Ｃ）　安中市松井田町二軒在家字二本杉、行田字市子塚・大道南横道東地内
行田大道南横道西遺跡（遺跡略称：Ｎ－24）　安中市松井田町行田字大道南横道西地内

4　発掘調査及び資料整理は、群馬県西部農業事務所からの委託金（平成25～令和元年度）、農家負担分は国宝重要文化財等保存整備費補助金（平成25～27年度）、群馬県文化財保存整備費補助金（平成25～27年度）並びに安中市費により実施した。

5　本発掘調査は、安中市教育委員会が直営で実施した。調査体制は、以下のとおりである。

なお、平成25年度は学習の森発掘調査係であったが、平成26年度に文化財保護課埋蔵文化財係と改称した。

調査組織　安中市教育委員会　教育部（平成25年度～平成31年度・令和元年度）

教育長　中澤四郎（平成25年４月～平成26年５月）
　　桑原幸正（平成26年５月～平成30年５月）
　　竹内　徹（平成30年５月～）

教育部長　佐俣信之（平成25年４月～平成26年10月）
　　田村昌俊（平成26年10月～平成29年３月）
　　田中秀雄（平成29年４月～平成31年３月）
　　高橋信秀（平成31年４月～）

学習の森所長　佐藤房之（平成25年４月～平成26年３月）

文化財保護課長　須藤　朗（平成26年４月～平成29年3月）
　　大竹将夫（平成29年４月～平成31年３月）
　　齊藤勝彦（平成31年４月～）

発掘調査係長　千田茂雄（平成25年４月～平成26年３月）

埋蔵文化財係長　千田茂雄（平成26年４月～平成30年３月）
井上慎也（平成30年４月～）
埋蔵文化財係主査（文化財保護主事）　井上慎也（平成25年４月～平成30年３月）
同主査　瀧川仲男（平成25年４月～平成28年３月）
同主査　小川知哉（平成28年４月～平成30年３月）
同主任　多胡美佳（平成30年４月～平成31年３月）
同主事（文化財保護主事）　菅原龍彦（平成25年４月～平成29年３月）
同主事　壁　崇志（平成29年４月～平成31年３月）
同主事補　鳥居貴庸（平成31年４月～）
同主事補　関根史比古（平成31年４月～）
行政事務嘱託　壁　伸明（平成25年４月～平成27年７月）
行政事務嘱託　鬼形敦子（平成29年10月～平成30年７月）
調査従事者　生駒朝男　今井保美　岩井英雄　岩坂康男　上原美淑　大沢早知子　大月圭子
大手啓子　鬼形栄子　金井美由紀　阪西　武　清水昭代　清水　正　須賀ユミ子
染谷綾子　田川真知　鷹野　務　竹井五郎　多胡栄夫　多胡わぐり　萩原治枝
町田千明　村瀬希久雄　村椿　健　湯本久江　和田テル子　吉岡正夫　吉川ひろ子

6　調査期間は、下記のとおりである。
平成25年度　発掘調査　平成25年５月８日～10月11日（行田大道南横道東遺跡・行田市子塚遺跡）
資料整理　平成25年10月14日～平成26年２月21日
平成26年度　発掘調査　平成26年12月10日～平成27年３月３日
（行田大道南横道東遺跡・行田大道北横道東遺跡・行田市子塚遺跡・行田二本杉原東Ⅱ遺跡）
資料整理　平成26年９月30日～平成27年３月20日
平成27年度　発掘調査　平成27年５月11日～８月27日
（行田大道南横道東遺跡・行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡）
平成27年10月26日～10月29日（行田二本杉原東Ⅱ遺跡）
平成28年２月１日～３月４日（行田大道北横道西遺跡）
資料整理　平成27年４月21日～平成28年３月22日
平成28年度　発掘調査　平成28年５月12日～７月20日
（行田大道北横道東遺跡・行田大道南横道東遺跡）
平成29年１月10日～２月７日
（二軒在家二本杉Ⅱ遺跡・行田二本杉原東Ⅱ遺跡・行田大道南横道西遺跡）
資料整理　平成28年４月22日～平成29年３月21日
平成29年度　発掘調査　平成29年５月１日～９月14日（行田大道南横道西遺跡）
資料整理　平成29年４月21日～平成30年３月23日
平成30年度　資料整理　平成30年４月20日～平成31年３月22日
令和元年度（平成31年度）　報告書作成　令和元年６月３日～令和２年３月23日

7　発掘調査は、文化財保護課埋蔵文化財係（平成25年度は学習の森発掘調査係）主査瀧川仲男（平成25年度）、同主査（文化財保護主事）井上慎也が担当し、同主事壁　崇志（平成29年度）が補佐

した。

8　資料整理及び報告書作成は井上が担当した。作業分担は以下のとおりである。

総括・編集・本文執筆（自然科学分析を除く）：井上

図面・データ整理及び報告書版下作成、デジタル編集：井上、大月圭子、町田千明、大手啓子

遺物整理全般：井上、大月、町田、大手、田川真知、染谷綾子、鬼形栄子、鬼形敦子

遺物実測・観察表他（委託分）：（有）毛野考古学研究所（縄文土器の一部）

遺物実測：井上（土器の一部、石器、石製品、土製品）、田川、大月、町田、大手、染谷、鬼形(栄)、鬼形(敦)、中里徳子、廣上良枝（委託分を除く）

遺物観察表：井上、鬼形（敦）

写真整理・編集：大手、大月、町田、井上

自然科学分析：株式会社火山灰考古学研究所

9　遺構写真の撮影は、瀧川（平成25年度）、井上（平成26～29年度）が行った。遺物写真の撮影は、関根・鳥居が行った。

10　業務委託は、下記のとおりである。

基準杭測量、グリッドの設定、調査区平面図作成：株式会社コイデ（平成26年度）

遺構デジタル測量・グリッドの設定、航空写真撮影：株式会社測研（平成25、27～29年度）

自然科学分析：株式会社火山灰考古学研究所（平成25、29年度）

縄文土器実測・トレース等：有限会社毛野考古学研究所（平成29年度）

11　発掘調査の記録、出土遺物等は安中市教育委員会が保管している。

12　発掘調査及び資料整理の期間中、地権者の方々、松義台地土地改良区、富岡市教育委員会等の関係機関等をはじめとする多くの方々にご指導、ご協力をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。（順不同・敬称略）

清水　司　水田雅美　根田洋平　津金澤吉茂　片野雄介　淺間　陽　日沖剛史　佐野亨介

阿部里美　福島邦男　佐藤幸信　高島英之　飯田陽一　早田　勉　下岡順直　小原俊行　伊丹忠七

長野県軽井沢町教育委員会　群馬県教育委員会

凡　例

1　本文中で使用した地図は国土地理院発行の地形図「富岡」（1/50000）、旧松井田町都市計画地図（1/5000）、西部農業事務所作成の工事用図面（1/5000）である。作成した挿図中の北マークは座標北である。磁北を使用した図面については方位の補正を行った。なお、座標は世界測地系を使用した。

2　本文中の遺跡名については、表記が長くなるため、大字名を省き、小字名のみとしている。

行田二本杉原東Ⅱ遺跡→二本杉原東Ⅱ遺跡

行田市子塚遺跡→市子塚遺跡

行田大道南横道東遺跡→大道南横道東遺跡

行田大道北横道東遺跡→大道北横道東遺跡

行田大道南横道西遺跡→大道南横道西遺跡

二軒在家二本杉Ⅱ遺跡→二本杉Ⅱ遺跡

3　遺構略称

Ｊ：縄文住居、Ｈ：古代住居、Ｔ：竪穴状遺構、Ｄ：土坑、Ｓ：集石・配石、Ｍ：溝、Ｕ：埋設土器・単独、Ｐ：ピット、ＳＫ：炭窯

4　本文・図面で示す火山灰の名称は、以下の記号を用いた。

浅間Ａ軽石：Ａｓ－Ａ　浅間Ｂ軽石：Ａｓ－Ｂ　浅間Ｃ軽石：Ａｓ－Ｃ

浅間黄色軽石層：Ａｓ－ＹＰ

5　土層説明中での記号、略称は次のとおりである。

土層名称及び量の基準：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）による。

色調＜：より明るい方向を示す（暗＜明）

しまり、粘性　◎：あり　○：ややあり　△：あまりない　×：なし

混入物の量　◎：大量（30～50％）　○：多量（15～25％）　△：少量（５～10％）

※：若干（１～３％）

混入物　ＲＰ：ローム粒子（溶け込んだ状態）　ＲＢ：ロームブロック（固まりの状態）

ＹＰ：板鼻黄色軽石（Ａｓ－ＹＰ）

6　石材略称

Ob：黒曜石、Ch：チャート、BAn：黒色安山岩、HSh：硬質頁岩、KSh：珪質頁岩、Ja：鉄石英、Sh：頁岩、Ho：ホルンフェルス、An：安山岩、SS：牛伏砂岩、SC：結晶片岩、GrR：緑色岩類、Ryu：流紋岩

7　遺物実測図の縮尺

縄文土器・土師器・須恵器・土師質土器　１／４　土製品　２／３、１／２

石器Ａ類　２／３、１／２　石器Ｂ類　１／２、２／３　石器Ｃ類　１／４

石器Ｄ類　１／４、１／８　石器Ｅ類　１／２　石器Ｆ類　２／３、１／２　弥生石器　１／２

8　縄文土器実測図の断面に「●」があるものは、胎土に繊維を含む。縄文土器にある「赤色塗彩」、「黒色付着物」は実測図にトーンの濃淡で示した。

9　石器にある付着物、磨面等については、実測図にトーンの濃淡で示した。

10　各遺構の分類（「西横野東部地区遺跡群」の分類に準じる）

縄文時代の住居跡分類

A形態：掘り込みが深い壁のある竪穴住居。

Ａ１：周溝、炉、柱穴が規則的に配置され、構造に規格性がある。

Ａ２：Ａ１に準じるが周溝がない。

B形態：掘り込みが浅く壁が明確ではない竪穴住居。

Ｂ１：炉、柱穴が規則的に配置される。

Ｂ２：柱穴が不規則に配置される。炉が無いもの有り。竪穴状遺構に類似。

C形態：敷石住居

Ｃ１：柄鏡形。全面あるいは柄部に敷石。

Ｃ２：構造が規格的ではなく、ピットが不規則に並ぶい。部分敷石。埋設土器を伴うものがある。

D形態：平地住居、掘立柱建物

Ｄ１：柱穴が円形ないし規則的に並ぶ。炉、埋設土器があるものもある。

Ｄ２：ピットが不規則に分布。炉はない。が無く、柱穴不明。

E形態：分類不明

土坑の分類

平面　A：円形、B：楕円形、C：方形、D：不整形

断面　1：鍋底形（逆台形。壁面が直立で深い）、２：皿形（碗状。壁面が緩く浅い）、
　　３：袋状（フラスコ状）

覆土　Ⅰ：自然堆積、Ⅱ：人為的堆積、Ⅲ：浅間Ｂ軽石あるいは混入土堆積

土器重量　※：100ｇ未満、△：100ｇ以上 、○：500ｇ以上、◎：1㎏以上

礫　小：100ｇ未満、中：100ｇ以上、大：1㎏以上、特大：10㎏以上

Ｍ－１号溝の分類

大溝の断面形態　A：両方の法面が上場と下場の途中で屈曲し、底面までほぼ垂直となる（対称）
　　B：上場から底面までの法面が一定（箱堀状）
　　C：片側の法面が途中で屈曲し、断面が非対称となるもの

大溝の覆土形態　A：底面付近にローム混入土が厚く堆積する（流入、人為）。
　　B：自然堆積（流入）、壁崩落土の堆積

大溝の底面　A：浅い溝状（底面から一段下がる）　B：平坦（フラット）

埋設土器の堀方状態

Ⅰ：堀方のみ（土器の大きさと同一、埋め込み）　Ⅱ：土坑内　Ⅲ：堀方無し

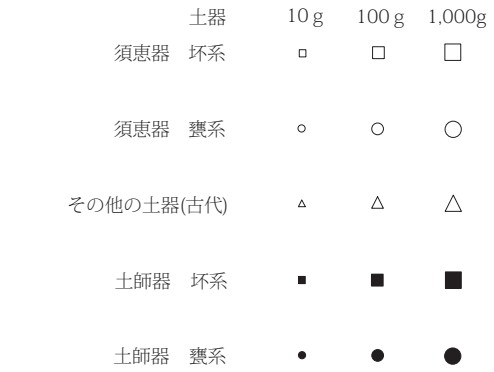
11　時代区分

本報告の「古代」は、律令期（古墳時代終末期）から奈良・平安時代を含めて呼称した。

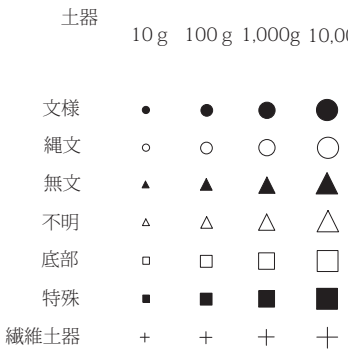
12　写真図版の遺物の大きさは任意である。

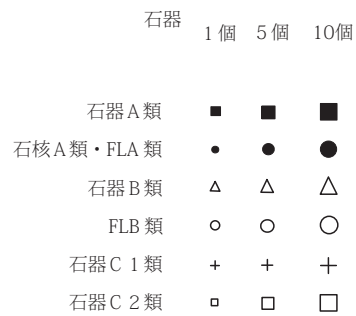
13　各平面図にある等高線の単位はｍである。

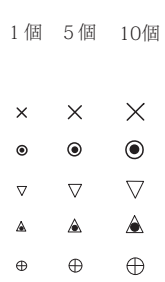
遺物重量分布及び遺物分布図マーク



遺物重量分布及び遺物分布図マーク

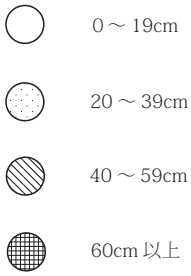






土器分布図マーク

ピットの深さ



遺構塗りの凡例

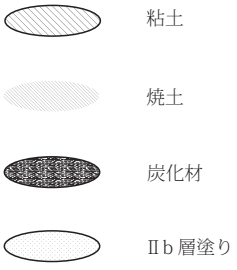


表１　縄文時代　石器・石材分類表

系列	器種系列(類)	器種		技術的特徴
打製系列	押圧剥離系列（Ａ類）	石器	石槍 石鏃 石錐 石匙Ａ類 スクレイパーＡ類(ＳｃＡ) リタッチド・フレイクＡ類(ＲＦＡ) 楔形石器	調整に押圧剥離を多用
		剥片類	剥片Ａ類 石核Ａ類・原石Ａ類	
	直接打撃系列(Ｂ類)	石器	打製石斧 石匙Ｂ類 スクレイパーＢ類(ＳｃＢ) リタッチド・フレイクＢ類(ＲＦＢ)	調整に直列打撃を多用
		剥片類	剥片Ｂ類 石核Ｂ類・原石Ｂ類	
使用痕系列	形状選択系列（Ｃ１類）	石器	凹石 磨石 石皿 球石 磨き石（部分研磨石器）・球石	研磨痕・敲打痕により石器と認識できるもの
	形状非選択(Ｃ２類)	石器	敲石 台石 砥石	
複合技術系列	非機能系列(Ｄ類)	石器	石棒 棒状礫 多孔石・丸石	直接打撃・敲打・研磨を複合的に用いる
	機能系列(Ｅ類)	石器	磨製石斧	
		剥片類	剥片Ｅ類 石核Ｅ類・原石Ｅ類	
	装身系列(Ｆ類)	石器	垂飾類 玉類（ｹﾂ状耳飾等） 各種石製品	
		剥片類	剥片Ｆ類 原石Ｆ類	

石材系列	石材	略称	石材の特徴
Ⅰ類 剥離最適系列	黒曜石 チャート 硬質頁岩 珪質頁岩 黒色安山岩 メノウ・碧玉 鉄石英・碧玉	Ob Ch HSh Ksh BAn Ja	硬質で粘度が少ない 剥片剥離に最も適する 剥離面は極めて平滑で、エッジは鋭利
Ⅱ類 剥離適合系列	頁岩類 黒色頁岩	Sh Bsh	多少軟質でやや粘度がある 剥離に適する 剥離面はやや平滑で、エッジはやや鋭利
Ⅲａ類 剥離不適系列	安山岩類 流紋岩（粗） ﾋﾝ岩・礫岩	An Ryu	やや軟質で粘度がある 剥離に不適である 割れ面は粗面でエッジは鋭利でない 耐火性に富む
Ⅲｂ類 剥離不能系列	砂岩(牛状砂岩) 凝灰岩	SS Tuff	軟質で粘度がない 剥離は極めて不適である 割れ面は極めて粗面で、エッジは鋭い
Ⅳ類 節理系列	結晶片岩類	Sc	硬質、軟質な部分があり、粘度はややある 節理で剥離に方向性があり、やや不適である 剥離面の鋭利さは方向に左右され一定でない
Ⅴ類 緻密質系列	緑色岩類 蛇紋岩	GrR	緻密質で比較的硬質で、粘度もある 剥離にあまり適さない 剥離面は粗面で、エッジはやや鋭利
Ⅵ類 その他	滑石 軽石 石英　等		比較的稀少な多種多様な石材

表２　縄文時代　石器器種分類表

種別	器種	形態	分類基準・特徴
Ａ類	石槍		
	石鏃	Ⅰ	凹基無茎(細部の違いによりａ～ｇ形態に細分)
		Ⅱ	平基無茎(細部の違いによりａ・ｂ形態に細分)
		Ⅲ	凸基有茎
	石錐	Ⅰ	摘み無し
		Ⅱ	摘み有り
			ａ：小形　ｂ：大形
	石匙Ａ類	Ⅰ	縦形
		Ⅱ	横形
			ａ：押圧剥離による精緻な調整
			ｂ：押圧剥離・直接打撃併用の調整
			ｃ：摘み部分のみを調整
	スクレイパーＡ類	Ⅰ	ａ：押圧剥離による精緻な調整
			ｂ：押圧剥離と直接打撃による調整
		Ⅱ	直接打撃による粗雑な調整
		Ⅲ	縁辺微細剥離(一辺の１／２以上)
	リタッチドフレイクＡ類		縁辺微細剥離(一辺の１／２以下)
	楔形石器		両極技法により両端部が潰れている
Ｂ類	打製石斧	Ⅰ	撥形・急角度調整・断面蒲鉾形・片刃 (細部の違いによりａ～ｊ形態に細分)
		Ⅱ	撥形～短冊形・両面調整・断面レンズ状・両刃
	スクレイパーＢ類	Ⅰ	ａ：押圧剥離を主体とした精緻な調整
			ｂ：粗雑な押圧剥離と細かい直接打撃による調整
		Ⅱ	直接打撃による調整
		Ⅲ	縁辺微細剥離(一辺の１／２以上)
	石匙Ｂ類	Ⅰ	縦形
		Ⅱ	横形
			ａ：押圧剥離による精緻な調整
			ｂ：押圧剥離・直接打撃併用の調整
			ｃ：摘み部分のみを調整
	リタッチドフレイクＢ類		縁辺微細剥離(一辺の１／２以下)
Ｃ１類	磨石	Ⅰ	円形
		Ⅱ	楕円形
		Ⅲ	棒状
		Ⅳ	四角形
		Ⅴ	不定形
	石皿	Ⅰａ	円形・作業面は凹面
		Ⅰｂ	円形・作業面は平面
		Ⅱａ	楕円形・作業面は凹面
		Ⅱｂ	楕円形・作業面は平坦
		Ⅲｂ	不定形・作業面は平坦

種別	器種	形態	分類基準・特徴
Ｃ１類	凹石	Ⅰｂ	円形・切り合い関係は凹→磨
	凹石Ｂ	Ⅰｃ	円形・凹のみ
		Ⅱａ	惰円形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅱｂ	惰円形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅱｃ	惰円形・凹のみ
		Ⅲａ	棒状・切り合い関係は磨→凹
		Ⅲｂ	棒状・切り合い関係は凹→磨
		Ⅲｃ	棒状・凹のみ
		Ⅳａ	四角形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅳｂ	四角形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅴａ	不定形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅴｂ	不定形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅴｃ	不定形・凹のみ
Ｃ２類	台石		
	敲石	Ⅰ	円形
		Ⅱ	楕円形
		Ⅲ	棒状
		Ⅳ	四角形
		Ⅴ	不定形
	砥石	Ⅰ	荒砥
		Ⅱ	中砥
		Ⅲ	仕上砥
Ｄ類	石棒		加工痕有り
	棒状礫		加工痕無し
	多孔石		凹有り
	丸石		凹無し
Ｅ類	磨製石斧	Ⅰ	小形
		Ⅱ	中形
		Ⅲ	大形
			ａ：断面楕円形
			ｂ：定角式

目　　次

序
例言
凡例
目次

Ⅰ　調査の経緯と経過 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1
2　調査の経過 …… 2

Ⅱ　調査の方法 …… 6

1　発掘調査の方法 …… 6
2　資料整理の方法 ……11

Ⅲ　遺跡群の地理的・歴史的環境 …13

1　地理的環境 ……13
2　歴史的環境 ……17
3　層　序 ……19

Ⅳ　遺跡各説……20

1　行田二本杉原東Ⅱ遺跡 ……20
2　行田市子塚遺跡 ……20
3　行田大道南横道東遺跡 ……20
4　行田大道北横道東遺跡……25
5　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡 ……46
6　行田大道南横道西遺跡……69
7　古代大溝（Ｍ－１号溝）……143

Ⅴ　出土遺物 ……161

1　縄文時代の土器 ……161
2　縄文時代の土製品 ……162
3　縄文時代の石器 ……209
4　弥生時代の遺物 ……270
5　古代の遺物 ……270
6　中世以降の遺物 ……270

Ⅶ　成果と問題点……272

1　縄文時代について ……272
2　古代の牧について ……272
3　総括 ……273

Ⅷ　自然科学分析 ……277

1　大道南横道東地区Ｍ－１号溝の
土層とテフラ……277
2　大道南横道東地区Ｍ－１号溝に
おける植物珪酸体分析……279
3　大道南横道東地区Ｍ－１号溝
における樹種同定 ……281
4　行田大道南横道西遺跡のローム層分析……283

遺構観察表 ……291

土器観察表 ……310

写真図版１～８

抄録

データ編（添付ＤＶＤ）

1．付図（全体図、遺物分布図）
2．石器・礫観察表
3．写真図版（遺構・遺物）

Ⅰ　調査の経緯と経過

1　調査に至る経緯

平成17年５月、安中市西横野地区と富岡市高田・中里地区の両市で計画された県営農地整備事業松義台地地区（東部・中部・西部）における埋蔵文化財事前協議について群馬県西部農業事務所、安中市・富岡市の両市教育委員会（以下、市教委という）で行った。その後、両市教委と西部農業事務所との間で、埋蔵文化財の取り扱いについて群馬県教育委員会と協議を進めながら、定期的に調整会議を行うことになった。調整会議では、調査主体者・体制、調査計画、調査費用等、事業への対応策について協議を進めてきたが、安中・富岡両市の調査体制が十分に整っていない等の事情から、群馬県教育委員会での対応が可能であるかを含め協議を進めてきた。しかし、県営の土地改良（農地整備）事業は、地元への還元が高く、県内では、基本的に市町村の文化財担当部局が対応してきた経緯もあり、事業開始が目前と迫ったため、本事業に伴う発掘調査については、最終的に両市が調整し、直営で対応することになった。そこで、本事業に伴う発掘調査は、途中で計画変更をしながら、東部地区が平成18～25年度まで、中部地区が平成20～28年度までの計画で実施されていた。西部地区についても、群馬県西部農業事務所と東部・中部地区事業と並行して埋蔵文化財の取り扱いについて事前調整を継続してきた。

平成24年８月、県営農地整備事業松義西部地区事業が認可され、事前調整の結果、平成25～29年度の計画（５ヶ年計画）で工事が実施されることになり、本格的な調査スケジュール等の協議を随時実施することになった。そして、発掘調査は、地元営農調整により、これまでの東部・中部各地区の発掘調査と同様の方針で、次年度工区分をその前年度と次年度の工事着手前に分けて実施することになった。

発掘調査及び資料整理は、両市それぞれの市長と群馬県西部農業事務所との間で単年度委託契約を締結して実施することになった。また、農家負担分については、文化財担当部局が国庫補助事業等で負担した（補助事業は平成27年度まで。平成28年度以降は、事業費が低額のため補助対象外となり、市の一般財源で対応）。

発掘調査の対象は、基本的には道路・水路等の構造物、切り土等で工事によって遺跡への影響が避けられない範囲とし、遺物包含層へ掘削が及ばない、もしくは盛土等の措置が講じられる部分については現状保存の措置とした。

当初の計画では、平成25年度に幹線道路部分、平成26年度以降、畑地の造成等の面的工事が施される場所を対象とするものであった。しかし、幹線部分の一部範囲（舗装道路部分等）については、工事計画の関係で予定が遅れることとなり、未調査部分を対象とした調査は、その都度、調整が整った段階で着手あるいは工事立ち会いをすることになった。

なお、平成27年度には、工事計画が変更（延長）となったため、発掘調査は平成29年度まで継続されることになり、それに伴い埋蔵文化財の発掘調査事業自体も平成30年度まで延長（５年から６年計画に変更）されることになった。しかし、平成30年度には、市の人事異動に伴い体制的に対応が困難な状況となったため、協議によって報告書作成を１年延長し、実質７年計画での実施となった。

2　調査の経過

（1）平成25年度の調査（平成26年度幹線道路工区）

事業区域で市境を貫通する幹線道路部分を対象とし、東側半分の調査を実施した（平成25年５月８日から10月11日）。西側部分は、地形的に遺構が存在する可能性が低いこと、富岡市教育委員会で一部対応することから、本調査から除外した。調査は、当初から中部地区から続く古代のＭ－１号溝が道路予定地内に存在することが予想されていたため、トレンチによる確認調査を実施し、遺構が確認された範囲について調査区を設定し、本調査を実施した。Ｍ－１号溝の調査は、バックホーと人力を併用して覆土を掘削したあと、遺構の精査は人力で行い、遺構の状況を検出した。また、遺構測量は、委託してデジタル測量で行い、必要に応じて土層堆積状況を記録した。９月には、無線操縦ヘリコプターによる航空写真撮影を委託した。発掘調査終了後、出土品については安中警察署へ発見届及び保管証（コンテナ２箱）を提出した。なお、工事計画に伴う未調査部分については、次年度以降実施することになった。資料整理は10月から開始し、出土遺物の水洗い、図面整理等の基礎資料整理を２月まで断続的に行った。

（2）平成26年度の調査（平成27年度工区）

平成27年度工区を対象とし、遺跡の範囲確認調査及び本調査の一部、幹線道路部分北側のＭ－１号溝の調査を実施した（平成26年12月10日～平成27年３月３日）。調査は、道水路部分及び切り土部分を対象に巾２～４ｍのトレンチを設定し、バックホー及び人力による表土掘削を行った。その後、人力による遺構確認を行い、遺構の広がりを確かめながら、本調査となる範囲を決定していった。12月には二本杉原東地区（１～14トレンチ）について確認調査を実施したが、縄文時代の遺物が数点出土したのみであったため、遺跡が存在する可能性が低い範囲と判断し、本調査から除外した。同月から同時並行で大道南横道東地区の支道部分（Ｂ～Ｄ区）を対象に確認調査を実施したところ、Ｍ－１号溝の北側部分の一部と縄文時代中期の遺物包含層を確認した。また、切り土部分では縄文時代前期の遺物包含層を確認し、遺跡の存在が明らかとなった。市子塚地区では、切り土部分を対象としたトレンチ調査（１～５トレンチ）で遺構、遺物はほとんど検出されなかった。また、支道部分の確認調査（Ａ・Ｂ区）では、縄文時代及び古代の遺物包含層を検出し、遺跡の存在が明らかとなった。二本杉西地区（１～７トレンチ）では、表面で石器が採集されたが、遺構・遺物は検出されなかったため、本調査からは除外した。大道北横道東地区では、支道部分周辺で調査前から縄文時代の遺物散布が認められたことから、支道全面を本調査の対象とした。なお、支道周辺については、遺跡の広がりが予想されたが、盛土工事により遺構の現状保存の措置が講じられるとの判断から、本調査からは除外した。二本杉地区では、Ⅳ層中から縄文時代中期の遺物が広範囲で確認されたため、工事によって影響を被る部分について本調査の対象とした。１月以降、調査対象範囲で遺構が確認された範囲が狭く、小規模である場所については、一部本調査まで実施した（大道南横道東遺跡Ｂ区、市子塚遺跡）。大道南横道東遺跡Ａ区、大道北横道東遺跡、二本杉遺跡では、遺構が多数存在することが予想されたため、本調査は次年度とした。Ｍ－１号溝については、調査可能範囲のみを対象に２月に部分的な発掘調査を実施した。本年度調査の遺構測量は、直営で平板測量等を調査の進捗状況に合わせて行った。発掘調査終了後、出土品については安中警察署へ発見届及び保管証（遺物収納箱１箱）を提出した。

県営農地整備事業(畑地帯担い手育成型)　松義西部地区（計画図）

第１図　事業区域の年度別調査区

資料整理は、９月から開始し、遺物の水洗い・注記、図面整理等の基礎資料整理を３月まで断続的に行った。

（３）平成27年度の調査（平成27・28年度工区）

前半の調査（平成27年５月１日～８月31日）は、前年度の確認調査の結果から、遺構・遺物の密度と調査面積で判断して、行田大道北横道東遺跡（支道周辺）、行田大道南横道東遺跡Ｂ区（支道、切り土周辺）について５月から開始した。縄文時代中期後半の二軒在家二本杉Ⅱ遺跡（支道、切り土周辺）は、前述した両遺跡の調査が終了次第、７月末まで行った。遺構測量については、委託によりデジタル測量を調査の進捗状況に合わせて行った。８月には、各遺跡の無線操縦ヘリコプターによる航空写真撮影、補足調査等を実施し、22日に一般向けの現地説明会を実施し、31日に前半の調査を終了した。10月には、幹線道路と県道との取り付け部分（二本杉原東地区）の工事に伴いＭ－１号溝の発掘調査を実施した（10月26～29日）。発掘調査終了後、出土品については安中警察署へ発見届及び保管証（遺物収納箱30箱）を提出した。

後半の調査（平成28年２月１日～３月４日）は、平成28年度工区を対象としてバックホーにより工事で影響を被る部分についてトレンチ調査を実施し、遺構が確認された範囲を中心に調査区を拡張した。本工区内では、南側でＭ－１号溝の続きを確認したが、他では遺構、遺物は検出されなかったため、本調査から除外した。なお、大道北横道東遺跡の調査区の東側部分については、工事計画が切り土と変更となったため、急遽、本調査の対象とし、バックホーによる表土掘削の一部を先行して行った。この部分の本調査は、次年度に実施することになった。

資料整理は、４月から開始し、９月までに平成26年度までの図面、遺物、写真等の資料整理についてほぼ完了させ、年度後半に予定している縄文時代の遺構、遺物が大量に見込まれる二軒在家二本杉Ⅱ遺跡の調査に備えた。本遺跡の資料整理は、前半調査分の遺物整理を優先し、一部発掘調査と並行しながら遺物水洗い・注記・選別、遺物台帳作成等を行い、縄文土器については一部実測まで行った。本遺跡の遺構図の修正・編集、挿図作成等の図面整理、写真整理及び写真データの編集等については、調査終了後から３月まで行った。なお、平成25～27年度までの調査の成果については、３月に概要報告書を刊行した。

（４）平成28年度の調査（平成28・29年度工区、幹線道路工区）

前半の調査（平成28年４月22日～平成28年）は、道具、ユニットハウス・トイレ等の調査準備した後、Ｍ－１号溝の続きが確認された大道南横道東遺跡と平成27年度に工事計画の変更となった大道北横道東遺跡の本調査を５月から行った。発掘調査は、大道南横道東遺跡を先行して５月に実施し、大道北横道東遺跡は５月下旬から７月まで、調査区を設定し、グリッド単位とした人力による包含層精査、遺構確認、遺構精査、写真撮影を行った。遺構測量（平面・断面）については、委託によりデジタル測量を調査の進捗状況に合わせて行った。

発掘調査終了後、出土品については安中警察署へ発見届及び保管証（遺物収納箱16箱）を提出した。

後半の調査（平成29年１月10日～平成29年２月７日）は、平成29年度工区予定地の予備調査の他、二本杉Ⅱ遺跡及び幹線道路のＭ－１号溝の未調査部分の本調査を行った。

工事予定区域内では、区域西半分にある鉄塔付近で縄文時代の遺物が多数採集されていることから、遺跡が広がる可能性が予想されたため、この部分を対象としたトレンチ調査によって遺跡範囲を確認し、調査区を設定して表土掘削の一部を行った。また、区域東半分に対しては、盛土工事が中心であったた

め、道路（支道）部分を中心にトレンチ調査を実施したが、遺構、遺物は検出されなかったため、本調査からは除外した。二本杉Ⅱ遺跡の調査は、平成27年度に調査を実施した２か所の遺跡の間（Ｂ区）を対象として、表土掘削後に人力で包含層精査、遺構確認・精査、写真撮影を行なった。世妙義道と推定される現道路部（Ｃ区）に対して、道路に直交するトレンチを設定し、道路の遺構とその範囲について調査を行った。遺構測量は、直営で平板測量、ビニール転写法により行った。幹線道路のＭ－１号溝を対象とした調査（Ｄ区）では、幹線道路に係る現道路の範囲については人力で表土を掘削し、幹線道路部分は、道路を一次通行止めにしてバックホーで表土を掘削した。遺構測量は、直営による平板測量を行った。発掘調査終了後、出土品については安中警察署へ発見届及び保管証（遺物収納箱３箱）を提出した。

資料整理は、４月から平成27年調査分の遺物、図面等の整理を開始し、本年度調査分については、発掘調査終了後から遺物の水洗い・注記・選別、台帳作成等の遺物整理を優先し、並行して遺構図の集成・編集、写真整理、土器・石器等の遺物実測を３月まで行った。遺物実測のうち、縄文土器は復元中の大形土器を除く破片土器の一部、石器については、本年度中に予定した点数の実測を完了させた。

（５）平成29年度の調査（平成29年度工区、幹線道路工区）

西部地区事業に伴う発掘調査の最終年度にあたり、大道南横道西遺跡を対象に本調査を行った。４月には、幹線道路のＭ－１号溝の未調査部分（二本杉原東Ⅱ遺跡）について工事立ち会いを実施した。発掘調査は、発掘調査は、５月から開始し、切り土及び道路部分に対してトレンチ調査の結果からＡ～Ｃ区に調査区を設定した。面的調査を実施したＡ区、道路（支道）予定地内で調査したＢ区、切り土部分を対象にトレンチ調査を実施したＢ区の一部とＣ区にそれぞれ調査区を区分し、Ａ区は７月下旬まで、Ｂ区は７月中旬から８月上旬まで、Ｃ区は８月上旬から９月中旬まで本調査を実施した。Ａ区では、グリッドを単位として、Ｂ区では、４ｍ単位で区割り、Ｃ区では調査区を４ｍ単位または４分割で区割りした。また、調査は、包含層精査、人力による遺構確認・遺構精査・写真撮影等を行い、遺構測量（平面・断面）については、委託によりデジタル測量で調査の進捗状況に合わせて行った。７月には、Ａ区の航空写真撮影を行った。また、一般市民を対象とした現地説明会を実施した。８月には、Ｃ区において遺跡の立地環境を把握するためにローム層の分析を委託して行った。大道北横道西遺跡については、当初、調査対象としたが、区域内において地形の改変が著しく、遺物の散布が確認できなかったため、本調査から除外した。Ｄ区として支道部分を対象としたトレンチ調査を一部実施したが、遺構は確認されず、耕作土中で石器が１点出土したのみであった。

なお、地元住民及び一般市民を対象とした現地説明会を平成29年７月22日に実施し、60名の参加があった。

発掘調査終了後、出土品については安中警察署へ発見届及び保管証（遺物収納箱105箱）を提出した。予定している発掘調査は、幹線道路の舗装部分を残して本年度をもって完了した。

資料整理は、４月から開始し、年度の前半までに平成28年度調査分の図面、遺物の基礎資料整理を完了した。大道南横道西遺跡については、発掘調査の後半から並行して遺物整理を優先して行い、遺物水洗い・インクジェットプリンターを使用した注記（一部手書き）、遺物台帳作成、土器接合・復元、遺物実測等を行った。なお、縄文土器の一部については、外部へ委託した。また、平成28年度までの縄文土器の追加実測を行い、石器実測については、本年度予定していた全てを完了させた。

（６）平成30年度の調査（資料整理・幹線道路工区立会）

本年度は、これまで発掘調査を実施した６遺跡について資料整理を継続し、並行して報告書作成・編集を行った。資料整理は、遺物実測図作成・修正（縄文土器・石器等）、遺物観察表の作成、遺物写真撮影、遺構・遺物写真画像編集等を行った。報告書作成は、本文執筆、本文に関わる挿図・表、遺構挿図、遺物挿図、各観察表、写真図版等の編集を行った。

また、幹線道路の未調査部分（二本杉原東地区）については、11月に工事立ち会いを実施し、大溝（Ｍ－１号溝）の遺構状況を確認した。

（７）令和元年度（平成31年度）の調査（資料整理・報告書作成）

報告書の原稿執筆、報告書入稿用データ・添付ＤＶＤデータの作成・編集を行った。報告書入稿後は、校正を行った。また、各記録類、遺物の保管整理作業を行った。

Ⅱ　調査の方法

１　発掘調査の方法

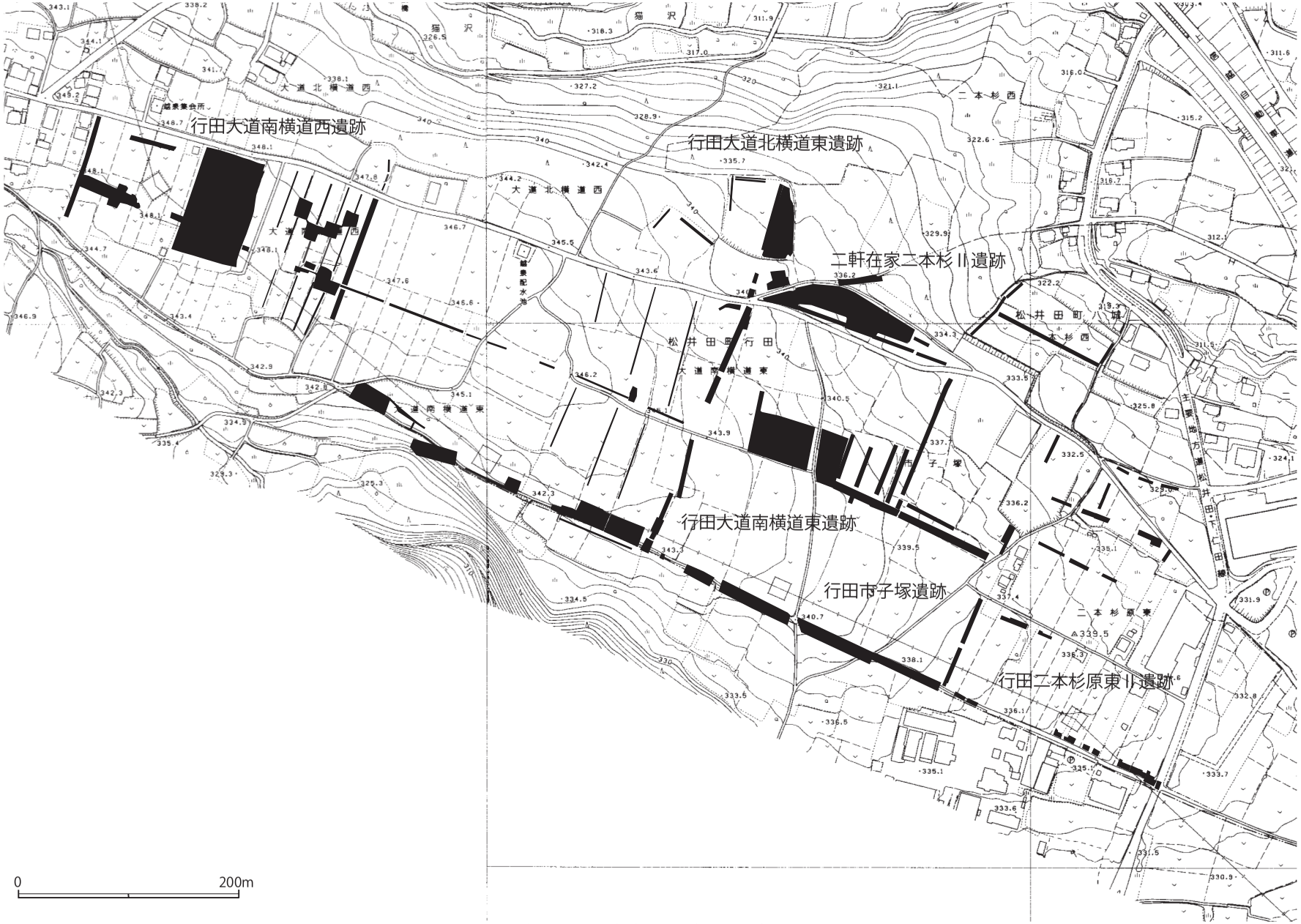
（１）発掘調査の方針

西横野地区は、事業実施前の分布調査及び周辺における発掘調査の成果等によって、遺跡が濃密に分布する遺跡群であることが判明していた。そこで、広大な工事区域を対象とした発掘調査を継続的に調査することが予想されたため、担当者及び遺跡間で齟齬が生じないよう、統一した調査基準・方法に基づき実施した。

発掘調査は、道路・水路等の構造物、造成による削平等の工事によって遺跡への影響が被る部分を中心にトレンチ調査を実施し、遺跡の範囲及び状況に応じて可能な限り本調査の範囲を拡大して遺跡全体の把握に努めた調査を実施する方針をとった。これにより、本遺跡群の特徴で古代牧に関連する大溝等の施設、縄文集落等の範囲及び各遺構の構造等の全体を明らかにすることができた。

確認調査では、バックホー（0.6m3）を使用して遺跡の有無と遺跡の広がりを確認し、調査区の設定を行った。調査区設定後は、バックホー（0.6m3）で遺構確認面（Ⅲ層下部からⅣ層上面）まで掘削し、人力でジョレンを用いて遺構確認を行った。また、遺構の検出状況により、調査区の拡張を行った。遺構番号は、各遺跡で遺構毎に通し番号を付けた。なお、遺跡間を超えて分布がまとまる遺構群（住居、溝等）は、遺跡に関係なく通し番号とした

検出された遺構については、遺構毎に遺構略称と番号を付け、各遺構の調査方法に基づき精査を行った。遺物は、遺構を単位及びグリッドを記録して取り上げた。遺構写真は、土層断面状況及び完掘した遺構を中心に、リバーサルフィルム、白黒フィルム（各35 mm）で撮影を行った。また、遺構記録用としてデジタルカメラを使用して撮影を行った。遺構測量は、平面図、断面図共にデジタル機器を使用して行った。土層断面断面図については、デジタルカメラで撮影したものを縮尺にあわせて解析・編集して作成した。土層断面図の一部（平成25・26年度調査分）、重要な遺構等の遺物分布図、遺構微細図については、必要に応じて「ビニール転写法」で作成した。遺跡の全景写真は、無線操縦ヘリコプターを使用してカラーフィルム及びデジタルで撮影を行った。



第２図　調査位置図（1/6000）

グリッドについては、100m×100mの大グリッドと４m×４m小グリッドを併用して設定した。グリッドの呼称は、北西隅を座標値とすることとし、北から南へアルファベットでA、B、C・・・Y（100mでアルファベットが一巡する）、西から東へ算用数字で１、２、３・・・と４m進法で呼ぶことにした。そして、グリッドの位置は国家座標（世界測地系）に取り付けた。

西部地区の発掘調査では、国家座標に取り付けたグリッドと調査区・トレンチに対して任意のグリッドを併用した。なお、前者については、遺跡の調査区の関係から、平成25～28年度と平成29年度でグリッドの基点が異なっている。後者については、国家座標に準じて４mを基本として設定した。

M－１号溝については、これまでの調査成果から、西部地区に存在することが予想されていたため、東部・中部地区と同様、同一遺構名とした。また、調査区が細長く、遺構が座標に対して斜めであるため、通常のグリッド設定とは異なり、溝主軸方向に任意のメッシュを組み、西側から調査区番号を付した。

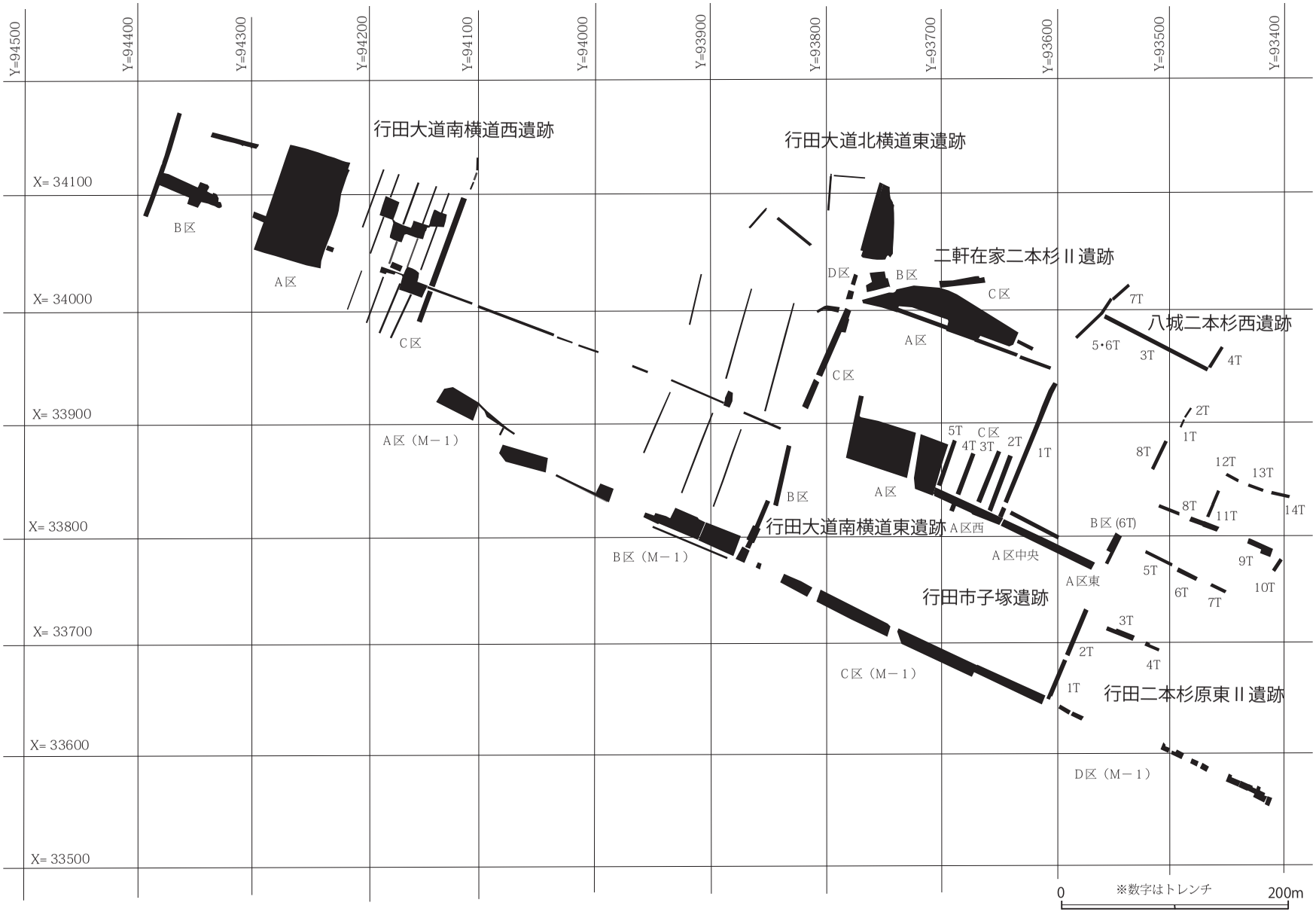
（２）遺構調査の方法

住居跡の調査

住居址の調査は、安中市で採用している「分層16分割法」を採用した。住居の時期に関係なく、範囲確認後、住居の南北方向に幅50㎝のサブトレンチを設定し、土層の堆積状況及び深さを確認しながら床面、壁面の検出を行った。サブトレンチ調査によって範囲が確定した後、東西南北の幅20㎝のベルト、16分割ポイントの設定を行った。セクションポイントは「赤」、分割ポイントは「黄」の各標識ポイントを使用した。土層断面は、常に陰となるように北面、西日が当たらないよう東面とした。住居址の掘削は、土層の厚さを基準（概ね１～３層に分層）にして、上層から全体を下層及び床面付近の遺物は残して床面まで掘り下げた。上層遺物については、層と区を記録して取り上げ、下層遺物とは区別した。下層の遺物及びベルトとして残した土層堆積（セクション）状況については、写真撮影後、区毎に記録して遺物を取り上げた。土層については、デジタルカメラによる画像解析で断面図を作成した。その後、層位毎にベルトを崩し、床面を精査し、柱穴、貯蔵穴等のピット及び土坑、周溝、炉といった住居付帯遺構の確認作業を行った。検出された遺構（炉、竈、貯蔵穴等）については、半裁（半分にして東側あるいは北側を掘削）により土層堆積を確認して、遺物を残して精査、写真撮影を基本とした。遺物は層位毎16分割で記録して取り上げ、遺構と関連のある遺物（埋設土器、土坑内、台石・礫等）または重要遺物等については、平面図に位置を記録して取り上げた。柱穴については、底面まで完掘した。竈については、残存部まで掘り下げ、半裁して精査した。各遺構の土層断面及び遺構・遺物微細図については、その都度、デジタルカメラで垂直撮影あるいは「ビニール転写法」を用いて記録した。床面精査、完掘後、全体写真及び各遺構の写真撮影を行った。縄文時代の住居址は「Ｊ」、古墳時代～古代の住居址は「H」とし、遺構毎に通し番号を付けた。住居内の遺構は、遺構名、番号を付けた。ピットの番号は、遺物出土がある場合に限って番号を付けた。

大溝（M－１号溝）の調査

大溝（M－１号溝）は、これまでの松義台地土地改良事業で発掘調査されている遺構である。遺構は、現在の地割りでも痕跡が確認でき、県道の西側に接する安中市と富岡市の境界に沿って計画されている幹線道路予定地（現道路部分）の一部に掛かると予想されていた。



第３図　グリッド設定図（全体）

なお、本遺構は、東部・中部地区に準じて遺構番号については、各遺跡共通番号として「M－1号溝」とした。また、本遺構は、富岡市との両市で調査を担当したため、若干の調査方法、土層区分に差異が生じたが、極力、現地において各担当者の意見を尊重しつつ、共通認識を計ることに努めた。

発掘調査は、バックホーにより表土を除去し、Ⅲ層下部からⅣ層上面あるいは浅間Ｂ軽石が検出されたところを遺構確認面として、溝の方向に沿って調査範囲を拡大していった。作業員による遺構確認後、溝調査区を設定し、サブトレンチによって溝の範囲及び底面までを把握する精査を行った。なお、二本杉原東及び大道南横道東地区では、一部、表土掘削を人力で行った。溝の範囲が確認したところで、再度、バックホーにより溝内に堆積する浅間Ｂ軽石層までを掘削した。ただし、作業の進捗状況、時間的制約によってはバックホーを使用して溝確認と溝内の浅間Ｂ軽石層掘削を同時並行におこなった場所もある。精査は、断面形状・土層に従ってスコップで底面付近まで掘削し、後を追うようにして移植ゴテ等で溝の形状あるいはピットを精査した。出土した遺物は、出土位置を記録して取り上げた。遺構平面図は、デジタル測量で行い、必要に応じて50㎝間隔の等高線を記録した。土層断面図は、デジタル測量及びデジタルカメラ撮影による画像解析、狭小範囲では、「ビニール転写法」を用い、それぞれ図化を行った。

なお、道路予定地の未調査部分については、狭小であること、事前の調査で溝（M－1号溝）への影響が低いこと等により、遺構の状況を確認するため、担当職員による工事立ち会いを実施した。立ち会いでは写真撮影、位置の記録等を行った。

竪穴状遺構、土坑、集石、溝、埋設土器、その他遺構の調査

竪穴状遺構は、大形の土坑で炉のない遺構とした。竪穴住居址との区別が判然としない遺構も含めた。調査は、２分割あるいは４分割し、土層観察用のベルトを残しながら掘り下げた。土坑は、掘り込みのある遺構で、大きさ50㎝を目安とした（50㎝以下はピット）。名称は、特定の機能を示さないで用いる「土坑」の用語で統一した。土坑は、半裁して北側もしくは東側を精査し、土層断面図を作成した後、残りを完掘した。遺物は出土状況によって覆土一括で取り上げた遺物とそのままの状態にして残す遺物に分けた。土坑内の遺物は、器種、材質などを記録し、番号を付けて取り上げたものは台帳に記録した。集石は、礫の出土状況と掘り込み（堀方）の有無を確認しながら精査した。集石は、デジタル測量及びデジタルカメラで撮影したものを画像補正して微細図を作成し、構成される礫については、礫番号を付すものと一括して取り上げるものと分け、石材、重量、破損、被熱等の属性を台帳に記録した。溝は、任意（小規模）または調査区単位で土層観察表のベルトを設定し、精査した。埋設土器は、地面に土器が埋め込まれた遺構とし、縄文時代の「埋甕」を含む。半裁して土器の内側を精査し、外側の堀方、土坑の有無を確認した。平面・断面図ともにデジタル測量で作成した。

その他、性格不明の遺構が検出された場合、範囲確認後、半裁して遺構の状況を精査して、完掘する方法を採った。

遺構測量の方法

遺構平面図・遺構微細図・遺構断面図は、デジタル測量（電子平板）を基本とし、必要に応じて平板測量、ビニール転写法を併用して作成した。主要な遺構は1/40、大溝は1/80、各遺構の微細図は1/20を基本とし、その他遺構は大きさに応じて任意で作成した。炉、集石、埋設土器等で微細図が必要な遺構は、デジタル測量とは別にデジタルカメラで垂直（真上）撮影したものを補正し、出力したものを修正、高さを記録した。

土層断面図は、デジタル測量を応用し、遺構（ベルト）の上面にスケール（箱尺）を置き、ポイントを起点として写真（画像）が重なるようにデジタルカメラで連続撮影し、補正・画像解析によって1/40で作成した。また、調査の状況により、測量が必要となった場合は、幅２ｍの農業用ビニールを遺構の断面及び平面にあて、マジックで原寸大に転写する方法で行った（「ビニール転写法」）。転写した図面は、遺構単位でデジタルカメラによる写真撮影を行い、画像をパソコンに取り込んで1/40に補正し、データとした。

遺物の出土記録

遺構出土の遺物は、遺構単位、層別、分割区毎に取り上げた。遺構外の遺物は、国家座標（世界測地系）に取り付けた４ｍグリッドを基準として４分割（ａ～ｄ）して取り上げた（大道南横道東遺跡Ａ区、大道北横道東遺跡Ａ区、大道南横道西遺跡、二本杉Ⅱ遺跡）。なお、大道南横道北遺跡Ａ区の表土掘削段階で出土した遺物は、調査区北西隅を基点に４ｍを単位とした任意のグリッドで記録して取り上げた。トレンチ調査区では、各トレンチを単位として４ｍごとに調査区を設定し、記録して取り上げた（市子塚遺跡Ａ・Ｂ区、大道南横道南遺跡Ｂ区他）。トレンチ内から出土した遺物は、一括して取り上げた。二本杉原東Ⅱ遺跡のＭ－１号溝調査区縄文時代遺物包含層では、遺物の位置を記録して取り上げた。

住居址出土の遺物は、層位毎に16分割、土坑の遺物は、出土状況を撮影した後、台帳に記録する遺物を選別し、位置を記録、炉等の遺構を構成する遺物は、位置を記録してそれぞれ取り上げた。また、遺構覆土中の遺物については、「覆土一括」として取り上げた。住居址の遺物出土量は、収納袋の大きさで相対的量（大量：◎、多量：○、少量：△、若干：※）に置き換え、遺物分布状況カードに記録し、資料整理の照合等で使用した。Ｍ－１号溝にかかわる調査区の遺物は、覆土内は調査区、溝周辺から出土した遺物は、出土場所をそれぞれ記録して取り上げた。その他遺構については、遺構単位で出土場所を記録して取り上げた。

２　資料整理の方法

（１）資料整理の方針

本遺跡群では、６遺跡について発掘調査を実施した。発掘調査の方針は、遺跡・遺構の範囲を把握し、可能な限り遺跡全体の面的調査を実施することであったため、遺構数、遺物量は年々増加することとなった。そこで、資料整理は、時間的制約もあるため、発掘調査と併行することとし、整理作業に時間のかかる遺物整理を優先して計画を立てることにした。調査年度の出土遺物は、可能な限り年度内で基礎整理（水洗い・注記、分類等）を完了させ、次年度以降に遺物台帳作成、土器復元、遺物実測を行うことにした。

遺構図の整理は、発掘調査終了後、遺構図の点検・データ編集、図面修正、図面台帳作成、土層台帳の入力等を行い、遺跡単位で遺構図ファイル（出力・データ）を作成した。なお、資料整理には、全ての作業工程でパソコンを使用した。パソコンを使用することで各種図面と報告書挿図の作成・編集を同時に行うことが可能となり、作業の効率化と大幅な作業時間の短縮が図られた。なお、平成27年度には、平成25～27年度の発掘調査成果をまとめた概報を作成した。

本報告では、西横野東部地区遺跡群の報告と同様、本文編を遺構と遺物に分けて、各遺跡を単位とし

て遺構を時代、種類の順で報告することにした。遺構配置図、遺物分布図の一部は、付図とした。

（２）遺物整理の方法

出土遺物の整理は、人力により洗浄、材質による選別（土器、石器、礫、その他）した後、インクジェットプリンター等を使用し、黒曜石や極小の石器等は手書きにより出土位置を注記した。選別された遺物は、器種分類及び計測・計量を行い、各種遺物観察表及び台帳を作成した。その後、遺物の実測・トレース、遺物写真撮影を行った。土器の復元は、完形個体を優先して行い、セメント系の材料で修復した。

土器：土器は縄文土器、弥生土器、土師器・須恵器（古代）に大別し、器種毎に分類した。土器は「量」を把握するために重量を区、層毎に記録し、16分割を基本とした分布図のデータとした。

遺構出土のものは、覆土中（１、２層出土遺物）と時期決定の目安となる床面直上に区別して、それぞれの一括性のある土器群として捉え、器種組成及び出土量を検討した。土器の分類は、破片と復元できる個体に分け、破片については器種毎に重量を記録した。復元できる個体については重量を記録した後、復元率によってランク付け（Ａ～Ｄ）を行い、個体台帳を作成し、器種、接合状態、重量を記録した。これによって遺物の出土量を記録することで、破片の情報も活用でき、遺構全体での遺物の出土傾向が把握できる点で有効性をもつと判断した。土器の実測は、遺構を優先し、遺構の時期が判断でき、一括性のある型式を中心に選別した。遺構外出土の遺物については、遺構出土重複が少ない土器、時期に限定した。実測した土器は、観察表を作成し、本文では、土器群特徴について所見を掲載した。

縄文土器については、土器型式に基づく分類を行った。型式が判然としなかったものは、時期による分類を行った。なお、型式分類については、遺跡群の主体的である加曽利Ｅ式のみ細分（Ⅰ～Ⅳ）を行った。ただし、細分が困難なものは、型式に幅をもたせた表記とした。

石器：縄文時代が主体であったが、弥生時代の石器が１点確認された。石器は、安中市の分類基準に準じ、石器系列、器種系列、石材系列に分けて分類し、観察表の元となる石器台帳を作成した（凡例図参照）。器種が特定できないもの、転用石器等は、別の器種名を備考に並記した。石器集計は、「器種」を優先したため、挿図にある器種と一部異なるものがある。石鏃、打製石斧・スクレイパー、磨製石斧等の器種で、石器製作にかかわる資料は、完成品、未成品、素材、（調整）剥片のそれぞれの大きさを把握する目的のため長幅グラフを作成した。黒曜石製石器は、石鏃製作を意識した器種分類を行った。石材分類は、肉眼観察によって、石材の特徴、石器と石材の関係によって考古学分類を行い、岩石学的細分は行わなかった。なお、本来、学術用語として呼称されるべき「黒曜岩」については、「黒曜石」とした。

その他遺物：　種類は少なく、縄文時代の土製品のみである。器種については特定できず、形状等から名称を付け、台帳に記録し、実測を行った。

礫　出土位置、石材、重量、欠損、その他（被熱、付着物等）を観察し、台帳を作成した。集石については、重量別度数グラフを作成した。

（３）写真整理の方法

写真整理については、遺構写真をリバーサル、白黒別にアルバムを作成した。また、記録用としてデ

ジタルカメラで撮影した画像データは、保管（保存）・活用のため、画像名（ファイル名）を付け、遺跡・遺構ごとにデジタル保存した。遺構写真図版に使用した画像は、全景、遺構土層堆積状況（セクション）、遺物出土状況を基本とし、必要に応じて画像を追加した。

遺物写真は、全てデジタルカメラによって撮影し、遺構写真と同様、画像をデジタル化した。遺物写真図版は、土器については復元されたものと大形のものは単体で撮影し、破片類は集合写真とした。石器及びその他の遺物については器種別の集合写真あるいは大形のものは単体とした。

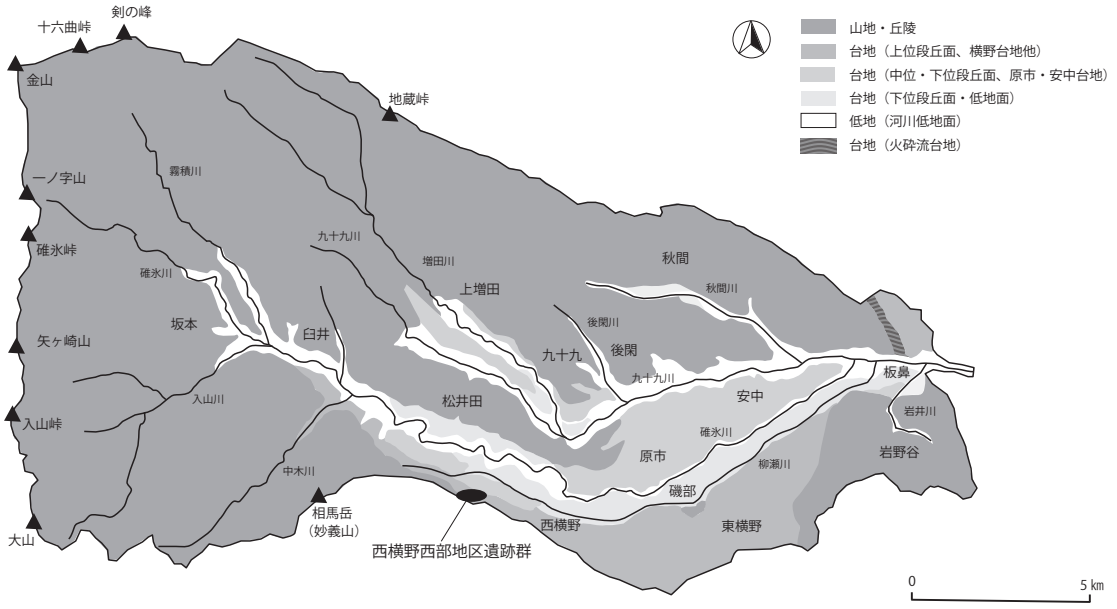
写真画像は、フィルムとは別に保管（保存）・活用を考慮し、デジタルデータとして保存した。

Ⅲ　遺跡群の地理的・歴史的環境

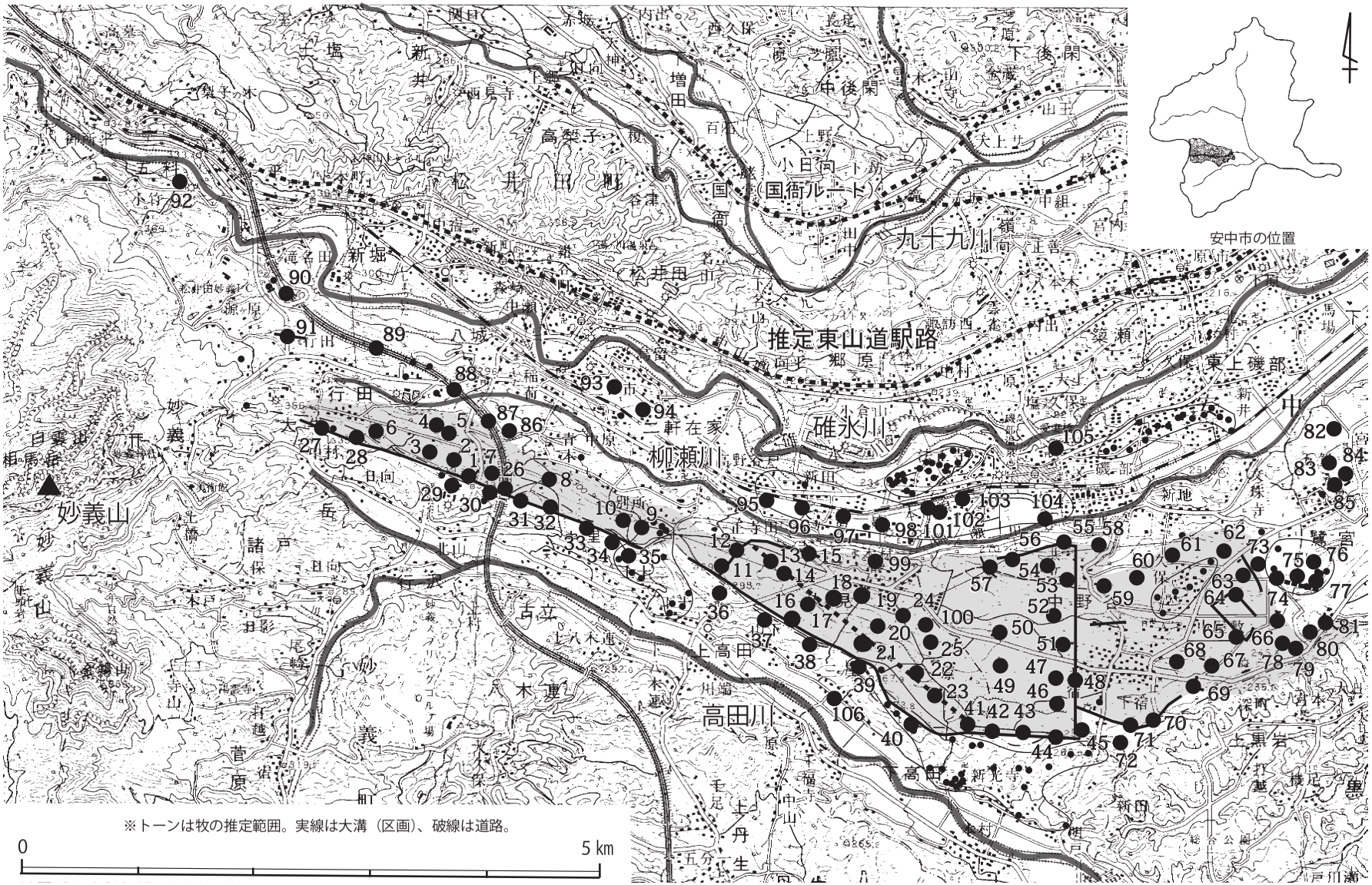
1　地理的環境

安中市は関東平野の周縁部である群馬県西部（西毛地域）に位置する。平成18年の合併により総面積274.42ｋ㎡となった。安中市の地形は、発達した河岸段丘の種類により、碓氷川及び九十九川流域等の下位段丘、九十九川と碓氷川に挟まれた中位段丘、碓氷川南の中野谷・西横野地区の上位段丘に分けられる。本市の西・北及び南東には山地及び丘陵地が広がる。

本遺跡群のある西横野地区は、安中市の南西部に位置し、碓氷川左岸の下位段丘を流れる行田地区を源流とする柳瀬川と妙義地区を流れる高田川に挟まれた上位段丘に区分される「横野台地（西横野丘陵）」に存在する。この台地は東西方向に細長く、三日月状に延びる地形で、妙義山の麓に近づくにつれ、



第４図　安中市地形図

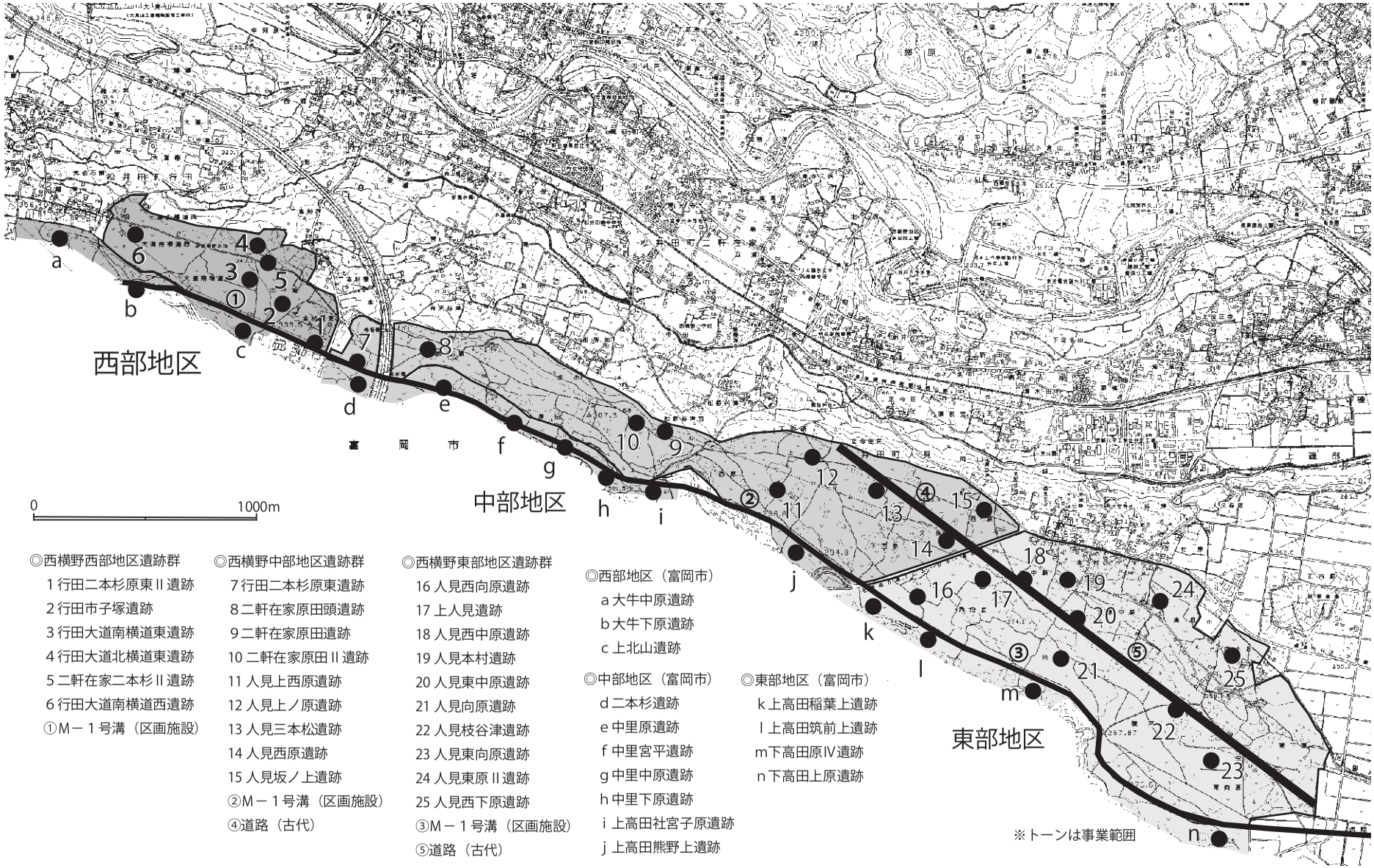


第５図　横野台地を中心とした遺跡分布（国土地理院『富岡』1/50000 を使用）

第１表　横野台地周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代	遺跡の性格
1	行田二本杉原東Ⅱ	縄文・奈良・平安	牧区画溝
2	行田市子塚	奈良・平安	牧区画溝
3	行田大道南横道東	縄文・奈良・平安	集落・牧区画溝
4	行田大道北横道東	縄文	集落
5	二軒在家二本杉Ⅱ	縄文・奈良・平安・中世	集落・妙義道
6	行田大道南横道西	縄文	集落
7	二軒在家原東	縄文・奈良・平安	牧区画溝
8	二軒在家原田頭	弥生・奈良・平安	集落・牧区画溝
9	二軒在家原田	縄文・古墳	集落・終末期円墳
10	二軒在家原田Ⅱ	縄文・古墳	集落
11	人見上西原	縄文・奈良・平安	集落・牧区画溝
12	人見上ノ原	奈良・平安	牧区画溝
13	人見三本松	古墳～平安	集落・道路・牧区画溝
14	人見西原	古墳	集落
15	人見坂ノ上	縄文・古墳	集落・牧区画溝
16	人見西向原	旧石器～弥生・奈良・平安	牧区画溝
17	上人見	弥生・古墳・奈良・平安	再葬墓・区画溝
18	人見西中原	縄文・奈良・平安	集落・道路・区画溝
19	人見本村	古墳・奈良・平安	集落
20	人見東中原	縄文・奈良・平安	集落・道路・区画溝
21	人見向原	奈良・平安	集落・牧区画溝
22	人見枝谷津	縄文・古墳・奈良・平安	集落・道路・区画溝
23	人見東向原	縄文・古墳・奈良・平安	集落・道路・区画溝
24	人見東原Ⅱ	縄文	集落
25	人見西下原	縄文	集落
26	行田二本杉	縄文・古墳	集落
27	大牛中原	縄文・古墳・奈良・平安	集落・牧区画溝
28	大牛下原	縄文・古墳・奈良・平安	集落・牧区画溝
29	上北山	奈良・平安	骨蔵器
30	行沢二本杉	古墳・奈良・平安	終末期円墳・牧区画溝
31	中里原	弥生	再葬墓
32	中里宮平	縄文・奈良・平安	集落・牧区画溝
33	中里中原	縄文・奈良・平安	集落・牧区画溝
34	中里下原	縄文・奈良・平安	集落・牧区画溝
35	上高田社宮子原	縄文・弥生・奈良・平安	集落・牧区画溝
36	上高田熊野上	奈良・平安	集落・牧区画溝
37	上高田稲葉上	奈良・平安	集落・牧区画溝・畠
38	上高田筑前上	古墳・奈良・平安	集落・牧区画溝
39	下高田原Ⅳ	縄文・古墳・奈良・平安	集落・牧区画溝
40	下高田上原	古墳・奈良・平安	集落・牧区画溝
41	人見大谷津	縄文・古墳・奈良・平安	集落・道路
42	西向原	縄文・奈良・平安	集落・牧区画溝
43	真光寺原	縄文・奈良・平安	牧区画溝
44	向原	縄文	集落
45	向原Ⅱ・向原Ⅲ	縄文・古墳・奈良・平安	集落・牧区画溝
46	南中島	中近世	炭焼窯
47	大道南・大道南Ⅱ	縄文	集落
48	上宿南	奈良・平安	牧区画溝
49	上原	奈良・平安	区画溝
50	西砂押・砂押原	縄文・古墳	集落・列石
51	砂押	縄文・奈良・平安	集落・牧区画溝
52	中島Ⅰ・Ⅱ	縄文・古墳・奈良・平安	集落
53	天神林	縄文	集落

番号	遺跡名	時代	遺跡の性格
54	加賀塚	縄文・古墳	集落・終末期円墳
55	向山	奈良・平安	牧区画溝
56	原	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	集落・牧区画溝
57	上北原	弥生・奈良・平安	集落・牧区画溝
58	長谷津	縄文・弥生・古墳	集落・青銅鏡
59	天神原	縄文・古墳・奈良・平安	集落・墓・配石、牧遺構
60	中野谷松原	縄文・古墳・奈良・平安	集落・終末期円墳
61	乙北原	縄文	包含層
62	北東・堤下	縄文・奈良・平安	集落
63	下塚田	縄文・奈良・平安	集落・牧区画溝
64	北下原	縄文・奈良・平安	牧区画溝
65	中原	縄文・奈良・平安	集落・牧区画溝
66	落合原	縄文・奈良・平安	牧区画溝
67	金井谷戸	縄文	集落、早期押型文
68	東畑	縄文	集落
69	下宿東	縄文・古墳・奈良・平安	集落・牧区画溝
70	細田	縄文・奈良・平安	集落・牧区画溝
71	和久田	奈良・平安	牧区画溝
72	東向原	奈良・平安	区画溝
73	三本木	縄文	包含層
74	落合・落合Ⅱ	縄文・古墳・奈良・平安	古墳・溜井
75	三本木Ⅱ	縄文・奈良・平安	集落・道路
76	三本木Ⅲ	奈良・平安	集落
77	平塚	古墳～奈良	終末期古墳群
78	吉田原	縄文	集落
79	大下原	縄文・弥生	集落
80	注連引原	縄文・弥生	集落
81	注連引原Ⅱ	縄文・弥生・奈良・平安	集落・牧区画溝
82	荒神平・吹上	縄文～古墳・奈良・平安	集落・礎石建物
83	上ノ久保	縄文～古墳・奈良・平安・中世	集落・館址
84	五ヶ	奈良・平安	集落
85	桜林・桜林Ⅱ	奈良・平安	集落
86	二軒在家二本杉	縄文・奈良・平安	集落
87	八城二本杉	縄文・弥生	集落・再葬墓
88	行田大道北	縄文	集落
89	行田梅木平	縄文・弥生・奈良・平安	集落・墓
90	新堀東源ヶ原	縄文・弥生・古墳	集落・終末期円墳
91	八城赤羽根	縄文・中世	区画溝（古代か）
92	五料丙小竹	縄文・奈良・平安	集落
93	二軒在家八日市	縄文	集落
94	二軒在家東光寺	縄文	集落
95	人見正寺田	奈良・平安	集落・道路
96	人見中の條	奈良・平安	集落
97	人見大王寺	奈良・平安・中世	集落・大王寺城
98	大王寺地区遺跡群	弥生・奈良・平安	集落、磯部郷中心地
99	人見谷津	弥生	集落
100	人見東原	縄文・古墳	集落
101	人見北原	古墳・奈良・平安	集落
102	西裏	縄文・古墳・奈良・平安	集落、「碓」墨書土器
103	西裏・諏訪辺	縄文・古墳・奈良・平安	集落
104	田中田・久保田	古墳・奈良・平安	墓・水田
105	塩ノ久保	古墳	中期円墳
106	高田館址	中世	高田氏居館



◎西横野西部地区遺跡群
1 行田二本杉原東Ⅱ遺跡
2 行田市子塚遺跡
3 行田大道南横道東遺跡
4 行田大道北横道東遺跡
5 二軒在家二本杉Ⅱ遺跡
6 行田大道南横道西遺跡
①M－１号溝（区画施設）

◎西横野中部地区遺跡群
7 行田二本杉原東遺跡
8 二軒在家原田頭遺跡
9 二軒在家原田遺跡
10 二軒在家原田Ⅱ遺跡
11 人見上西原遺跡
12 人見上ノ原遺跡
13 人見三本松遺跡
14 人見西原遺跡
15 人見坂ノ上遺跡
②M－１号溝（区画施設）
④道路（古代）

◎西横野東部地区遺跡群
16 人見西向原遺跡
17 上人見遺跡
18 人見西中原遺跡
19 人見本村遺跡
20 人見東中原遺跡
21 人見向原遺跡
22 人見枝谷津遺跡
23 人見東向原遺跡
24 人見東原Ⅱ遺跡
25 人見西下原遺跡
③M－１号溝（区画施設）
⑤道路（古代）

◎西部地区（富岡市）
a 大牛中原遺跡
b 大牛下原遺跡
c 上北山遺跡

◎中部地区（富岡市）
d 二本杉遺跡
e 中里原遺跡
f 中里宮平遺跡
g 中里中原遺跡
h 中里下原遺跡
i 上高田社宮子原遺跡
j 上高田熊野上遺跡

◎東部地区（富岡市）
k 上高田稲葉上遺跡
l 上高田筑前上遺跡
m下高田原Ⅳ遺跡
n 下高田上原遺跡

第６図　西横野地区の遺跡分布（事業区域内）

丘陵の南北両側は急峻な崖となっているのが特徴である。また、東西方向に樹枝状の谷が形成され、低地部では所々に湧水が存在する。台地上には、猫沢川を除き、際立つ河川は少ない。柳瀬川は、妙義山東麓を源とし、上位段丘面の北側を東へ流下する。本遺跡群の標高は、332～344ｍである。

２　歴史的環境

本遺跡群が立地する横野台地は、これまでに土地改良事業をはじめとする工業団地造成工事、道路建設・高速道路工事等の大規模開発で発掘調査が多数実施されている。その結果、台地のほぼ全域を対象とした調査であったこともあり、横野台地における原始古代の全体像が明らかとなっている。

ここでは、横野台地の西部（行田地区を中心）における遺跡について概観する。

今回発掘調査の対象となった区域には、平成18年度に実施した遺跡詳細分布調査で認定された縄文時代、古墳時代、平安時代の埋蔵文化財包蔵地（市№U185）が存在する。この包蔵地内における発掘調査事例は、これまで調査事例は無いが、大道南横道西地内に存在する送電線付近では、多数の縄文遺物が散布することで知られており、『松井田町誌』には、中期加曽利Ｅ式の縄文土器の出土が記載されている。

安中市との市境にある富岡市上北山地区では、境界上に古墳（大牛上北山古墳）の分布が知られていたが、富岡市の発掘調査を含め、今回の発掘調査において古墳の遺構は確認できなかった。

旧石器時代

浅間山を給源とする火山灰及び軽石が厚く堆積する地域であるため、遺跡が発見されることは少ない。行田大道北遺跡では、黒曜石製の細石器（細石核・細石刃）が表採された。

縄文時代

草創期では、新堀東源ヶ原遺跡で砂岩製の有舌尖頭器が表採された。

早期では、大牛下原遺跡で後半の土坑、遺物が確認された。

前期では、新堀東源ヶ原遺跡で初頭（花積下層式期）、八城二本杉東遺跡・八城赤羽根遺跡で前半（関山式期）、行田大道北遺跡・大牛中原遺跡で後半（諸磯ｂ式期）、行田大道北遺跡で後半～終末（諸磯ｃ式期～十三菩提式期）等の集落が確認された。新堀東源ヶ原遺跡では、滑石製の石製品（玦状耳飾、垂飾等の製作遺物を含む）、行田大道北遺跡では、諸磯ｂ～ｃ式期の琥珀玉、珪藻土製小型石棒、滑石製玦状耳飾、クッキー状炭化物等が出土した。富岡市大牛中原遺跡では、覆土内に大量の遺物・自然礫が廃棄された住居跡が確認された。また、遺跡からは土偶、石皿状土製品、獣面把手が付く深鉢等が出土した。

中期では、新堀東源ヶ原遺跡において中期を通じて継続する（五領ヶ台式期～加曽利Ｅ式期）、当地域における拠点的な環状集落が確認された。また、大牛中原遺跡で後半（加曽利Ｅ式期）の集落が確認された。横野台地では、中期後半において概ね５㎞間隔で拠点的集落が存在し、その周辺に小規模集落が広範囲に点在する傾向がみられる。一方、西部地区においては、中期（特に後半期の加曽利ＥⅢ式期）を中心に遺跡が分布することが判明し、谷を挟んだ富岡市側に大牛下原遺跡、大牛中原遺跡等が分布する。

後期では、行田梅木平遺跡において中期末～後期後半（加曽利ＥⅣ式期～加曽利Ｂ式期）の敷石住居

跡を伴う集落、大規模な配石墓群が確認された。また、大牛中原遺跡では、敷石住居跡、列石が確認された。八城二本杉遺跡では敷石住居跡が確認された。

晩期では、新堀東源ヶ原遺跡で末葉の土器が出土した。

弥生時代

前期末～中期前半の遺跡が多数分布する傾向がみられる。新堀東源ヶ原遺跡では、土坑から前期末葉の土器が出土した。八城二本杉東遺跡、行田梅木平遺跡、中里原遺跡等では、前期末～中期初頭の再葬墓に関連する遺構（土坑）が確認された。大牛下原遺跡では、中期中葉の土坑が確認された。

西部地区に隣接する二軒在家原田頭遺跡では、中期後葉（栗林Ⅰ式併行期）の集落が確認された。後期では、終末段階の遺跡は確認されるものの、後半までの遺跡は少ない。

古墳時代

弥生時代終末～前期初頭では、行田二本杉遺跡、大牛中原遺跡等で樽式系土器が出土した集落が確認され、吉ヶ谷系と櫛描文系（弥生樽式系）の土器が出土している。前期では、小規模集落が中部・東部地区や高田川を挟んだ丹生地区等で広域に分布している。中期以降の遺跡は少なく、新堀東源ヶ原遺跡、上北山遺跡において終末期の古墳が確認された。

奈良・平安時代

西部地区では、平安時代の小規模集落が点在するが、奈良時代から平安時代前期にかけての遺跡は少ない。行田梅木平遺跡では、平安後期の住居跡群と掘立柱建物群が確認された。上野国分寺と同笵の瓦類、漆が付着した土器、墨書土器（「寺」等）が出土した。大牛下原遺跡・大牛中原遺跡では、平安後期の集落が確認されている。大牛中原遺跡では木棺墓と推定される浅い土坑が確認された。

横野台地南側縁辺では、牧の区画溝と推定される遺構が確認された。この溝は、富岡市の調査で、西部地区において富岡市側へと向かって一直線に延び、妙義山から続く丘陵の谷に抜けていることが明らかとなった。西部地区で確認された遺構は、平安時代後期（９～10世紀前半）を中心としており、牧遺構との間に時期差が認められる。平安時代の遺構は、溝の内側とされる範囲に点在する。

富岡市上北山遺跡では、埋設された壺（骨蔵器）が確認された。

中・近世

中世以降で主体となる遺跡は、確認されていない。近世では、西部地域一帯で、浅間Ａ軽石が混入する耕作溝、軽石を寄せた灰掻山の分布が認められる。また、二本杉東Ⅱ遺跡では、妙義道と伝わる道路地割が確認されている。この妙義道は、妙義神社への参詣道とされ、中山道から分岐する６つのルートが推定されている（松井田町教育委員会1990）。

八城赤羽根遺跡では、東西方向を主軸とする溝が確認された。この遺構は、当初、中世の堀（松井田町教育委員会1991）と推定されてきたが、遺構を再検討（覆土・形態等）した結果、横野台地一帯で確認されている古代の大溝であった可能性が考えられる（覆土中から平安時代の鉄鏃出土）。

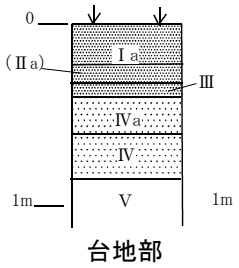
＜行田地区の小字名について＞

発掘調査を実施した地区には、「大道南横道東」、「大道南横道西」、「大道北横道東」、「大道北横道西」といった「大道」に由来した字名としては長い小字が存在する。字境は、現在の越泉地区を東西に横切る道路を境として南北に、さらに畑内を南北に横切る道路を境としている。この「大道」とは「鎌倉街道」あるいは、近世に妙義神社への参詣を目的に整備された「妙義道」を指すと言われる（群馬県教育委員会2001、上原1990、松井田文化会2007他）。

3　層　序

西横野地区における横野台地の基本層序は以下のとおりである。横野台地は平坦な地形が広がり、浅い谷が樹枝状に入り込んだ地形を形成している。台地部の土層堆積は、Ⅰ層（浅間Ａ軽石を混入する耕作土）、Ⅱ層（浅間Ｂ軽石を混入する黒色土）、Ⅲ層（黒色土：弥生～古代）、Ⅳ層（暗褐色土：縄文）と続き、以下ローム層が厚く堆積する。浅間Ａ軽石（Ⅰｂ層）は、耕作土に混入した状態あるいは二次的堆積で確認でき、純層として観察できるところは少ない。また、浅間Ｂ軽石（Ⅱｂ層）は、浅間Ａ軽石に比べ堆積が良好で、黒色土を覆うように確認された。低地部及び斜面部では、流れ込みの影響でⅢ層～Ⅳ層が厚く堆積する。台地部の頂部付近は、ローム層まで削平及び耕作による撹乱で堆積が薄い。遺構確認面は、縄文時代～古代までが確認可能なⅢ層下部～Ⅳ層上部付近に設定した。Ⅳ層上部では、縄文時代中期の遺物包含層を確認した。

なお、Ｍ－１号溝の覆土については、埋没時期、植生等を把握するため土壌分析を行った。また、大道南横道西遺跡Ｃ区では、横野台地（上位段丘面）のローム層の堆積状況、テフラ等を把握するための分析を行った。各分析成果については、第Ⅵ章を参照されたい。



層名	色調	しまり	粘性	混合物					備考
				ＲＰ	ＲＢ	ＹＰ	As-A	As-B	
Ⅰａ　黒褐色土層		△	△				○		耕作土
Ⅰｂ　灰白色軽石層	Ⅰａ＜Ⅰｂ	×	×				◎		Ａ純層
Ⅱａ　黒色土層	Ⅰｂ＞Ⅱａ	△	○					○	
Ⅱｂ　灰褐色軽石層	Ⅱａ＜Ⅱｂ	×	×					◎	Ｂ純層
Ⅲ　黒色土層	Ⅱｂ＞Ⅲ	△	○						
Ⅳ　暗褐色土層	Ⅳａ＞Ⅳ	○	○	※					上部にⅣａ
Ⅴ　暗黄褐色土層	Ⅳ＜Ⅴ	◎	◎	◎	◎				上部にｽﾘｯｺ
Ⅵ　黄色軽石層	Ⅴ＜Ⅵ	×	×			◎			ＹＰ純層

第７図　基本層序

Ⅳ　遺跡各説

1　行田二本杉原東Ⅱ遺跡

（1）縄文時代の遺構

対象区域におけるトレンチ調査では、7トレンチでⅣ層上部から自然礫が出土した。他のトレンチでは、遺物・遺構は確認されなかった。M－1号溝調査区の3、4トレンチでは、Ⅳ層下部から前期・中期の遺物包含層を確認した。遺物は有尾・黒浜式（前期中葉）、諸磯b式（前期後葉）、加曽利EⅢ式（中期後葉）の土器片が少量出土した。

（2）古代の遺構

横野台地一帯で確認される古代牧の遺構と推定される大溝（M－1号溝）が確認された。

2　行田市子塚遺跡

（1）縄文時代の遺構（第8図）

A区（東、西、中央に分割）とB区（6トレンチ）で中期後半の遺物包含層を確認した。遺構は、Ⅳ層を掘り込んだピットを確認したが、配列から建物等の遺構とは認識できず、時期・性格は不明である。遺物は、土器片（中期後半）、石器等が出土した。A区西ではⅣ層中から、黒曜石の剥片が少数出土した。C区のトレンチ調査では、遺跡の存在を示す遺構、遺物は認められなかった。

（2）古代

B区6トレンチでⅢ層中から奈良時代と推定される須恵器片、礫が出土した。出土層の一部が耕作の影響を受けていたため、遺構の存在は確認できなかった。他に遺構、遺物は確認されなかった。

横野台地一帯で確認される古代牧の遺構と推定される大溝（M－1号溝）が確認された。

3　行田大道南横道東遺跡

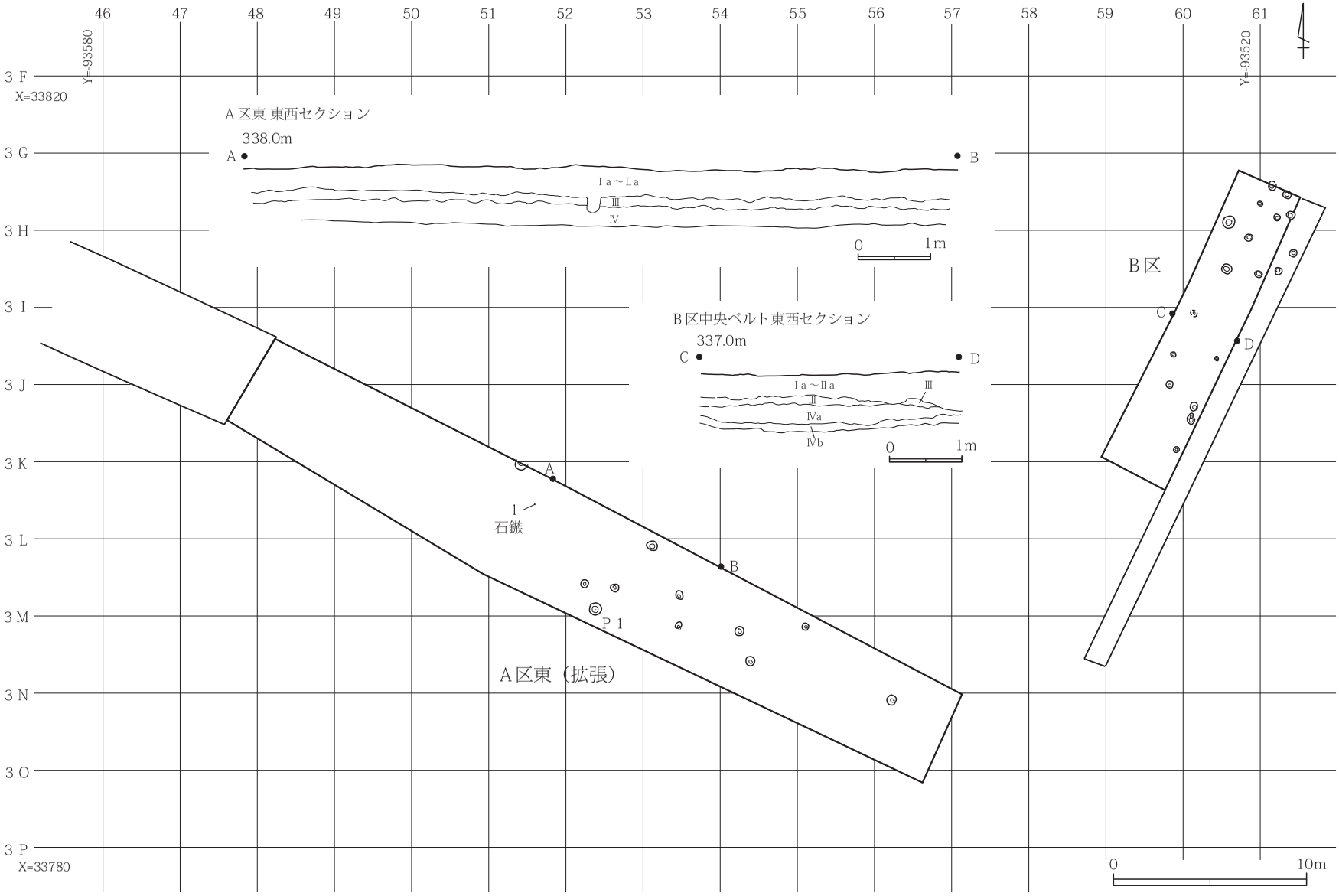
（1）縄文時代の遺構（第9～11図・付図1～4）

A区において前期の遺物包含層と土坑27基、多数のピットを確認した。他の調査区では遺構は確認されず、遺物が少数出土した。

B区トレンチでは、土坑、ピット、中期の遺物包含層が確認された。遺物は土器片が少数出土した。他の調査区におけるトレンチ調査では、遺構は検出されず、遺物の出土もみられなかった。

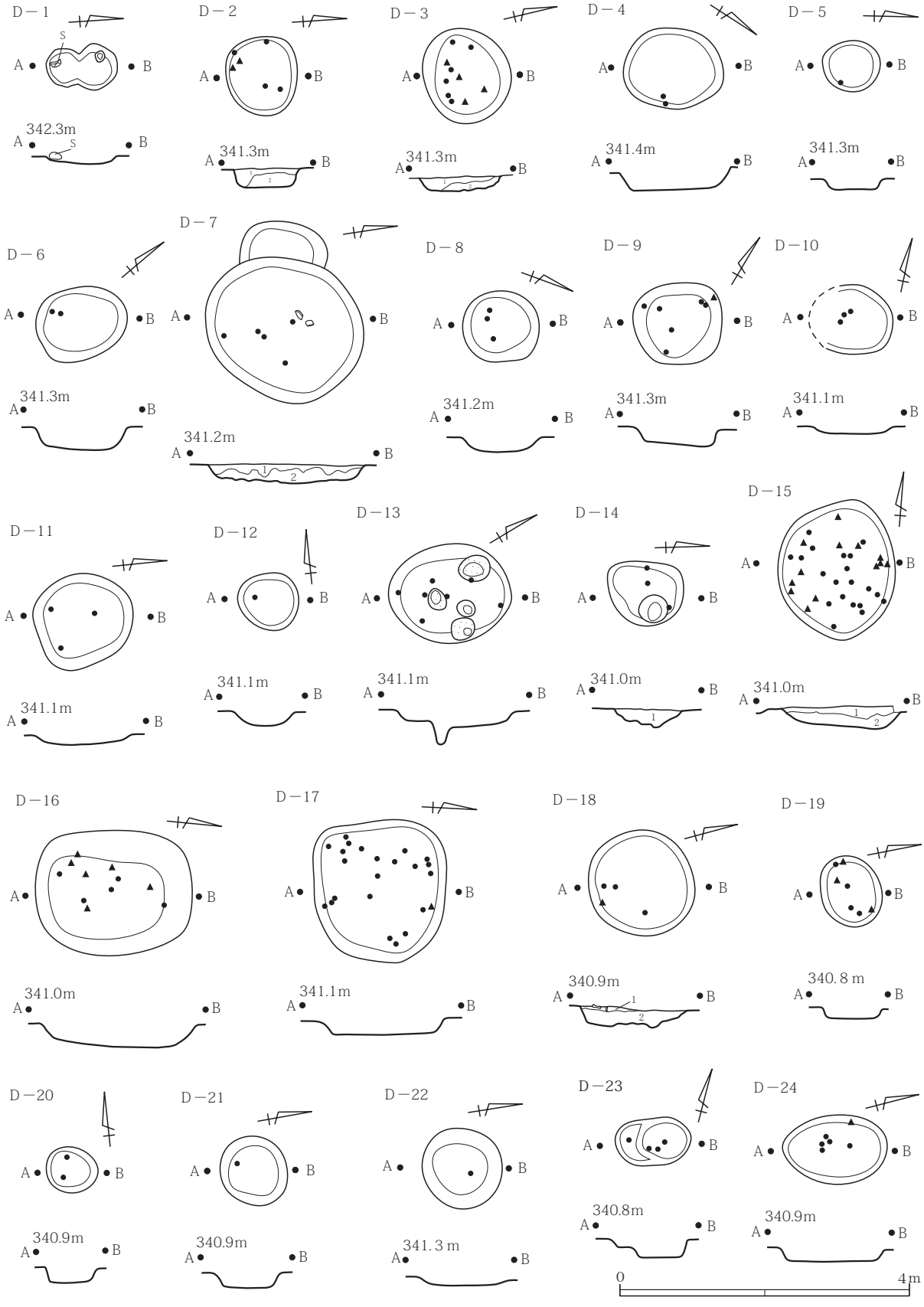
土坑（第10・11図）

土坑は、大きさは南北平均121㎝、東西平均117㎝、深さ平均21㎝である。平面A形態20基、B形

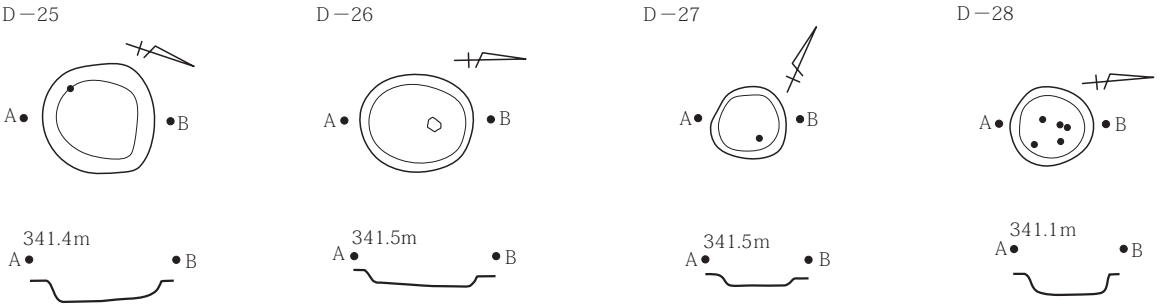


第８図　行田市子塚遺跡　調査区全体図

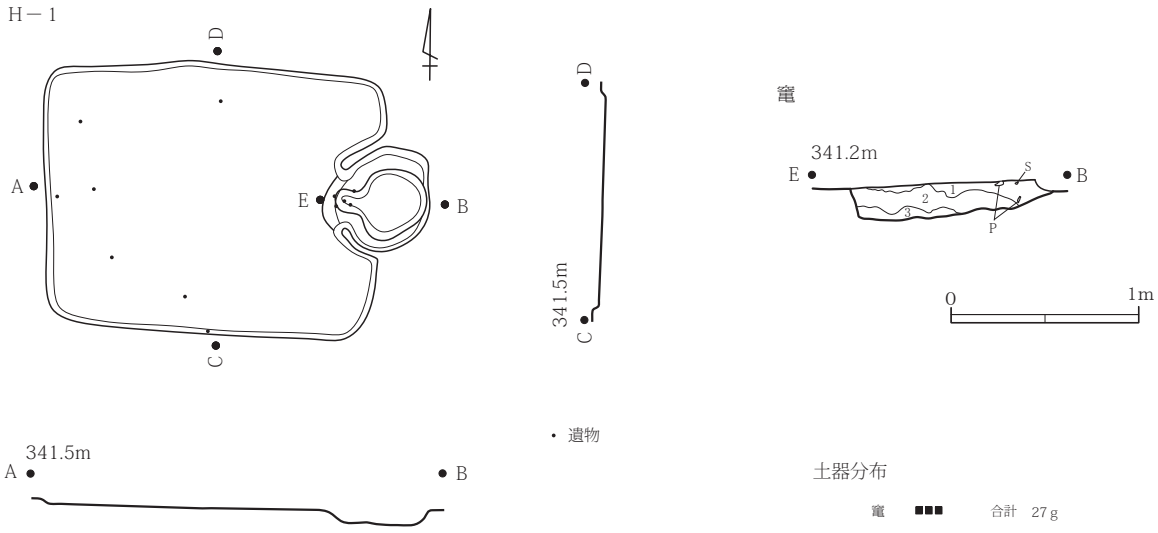
第９図　行田大道南横道東遺跡　調査区全体図



第10図　行田大道南横道東遺跡　土坑（1）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	
D－2	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	
D－3	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	
D－4	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	図なし
D－7	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		木根か
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×		
D－14	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
D－15	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		自然層の埋土
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×		
D－16	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×		
D－18	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×		



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	炭	焼土
H－1号住 竈	1	鈍い赤褐色土層5YR		○	○	※	×	×		※	
	2	灰褐色土層5YR	2＜1	○	○	※	×	×		※	※
	3	橙色土層5YR	1＜3	○	△	○	×	×		※	○
	4	明赤褐色土層5YR	4＜3	○	△	△	×	×		※	△

第11図　行田大道南横道東遺跡　土坑（2）・古代住居跡

態５基、Ｃ形態２基、Ｄ形態１基である。円形が主体である。断面１形態５基、２形態23基である。覆土は、Ⅰ形態26基、Ⅱ形態２基である。覆土に遺物が大量に廃棄された土坑（Ｄ－15～17号）が認められた。

土坑の時期は、出土遺物によって前期前葉の所産と判断される。土坑の分布は直径約35ｍ内に収まり、配置に規則性がある。土坑の特徴から、これらの土坑は墓の可能性が考えられる。ピットについては配置に規則性が認められなかったため用途は不明である。土坑の分布状況を把握するために調査区東側を拡張したが、遺物が少数出土したのみで遺構は検出されなかった（Ａ区東）。

遺物は、遺構に重複するように包含層が形成されていたが、その外側ではほとんど遺物は確認されなかった。遺物は、有尾･黒浜式期の遺物が主体で、他に諸磯ｂ式期、加曽利ＥⅢ式期の遺物が少数出土した。耕作による影響を受けていたが包含層中の遺物は、遺構の分布と重なるような状態で検出された。

（２）古代の遺構（第９・11図）

A区南側で縄文時代の遺構と重複して竪穴住居跡が１軒確認された（Ｈ－１号）。削平により遺存状態は良好とは言えないが、東西方向を主軸とする平面長方形で、東辺中央に竈の痕跡が検出されたが、構造は不明である。遺物は床面、竈内から土師器の細片が少数出土した。住居構造（東竈等）から平安時代の所産と考えられる。本住居跡以外には、遺構、遺物は確認されなかった。

また、横野台地一帯で確認される古代牧の遺構と推定される大溝（Ｍ－１号）が確認された。

４　行田大道北横道東遺跡

（１）縄文時代の遺構（第12～30図・付図５）

本遺跡では、加曽利ＥⅢ式期を主体とする中期後半の集落が確認された。調査は２回に分けて実施した。

確認された遺構は、住居４軒（Ｊ－１～３、６号）、土坑220基（Ｄ－１、244～461号まで。欠番含む）である。本遺跡の南側には、二軒在家二本杉Ⅱ遺跡が存在する。

住居跡（第15～18図）

住居跡は、周辺地域の中期後半と同様の基準で分類した（安中市教育委員会2014）。住居跡は、平面円形の竪穴住居（Ｊ－１、２号）と掘り込みが浅い円形住居（Ｊ－３、６号）に分類される。Ｊ－１号は、床面に半截した深鉢が逆位に置かれ、土器内からは同一個体の土器破片と礫が検出された。この深鉢の脇で凹石、台石が出土した。また、周溝からは埋め込まれた別個体の深鉢大形破片（Ｕ－２号）が確認された。また、住居跡北側覆土中には、中心に向かって多数の大形礫が廃棄されていた。炉が２基確認されていることから、建て替えが考えられる。Ｊ－２号では、炉付近の覆土中からほぼ完形の深鉢と浅鉢の欠損品が出土した。また、２区では黒曜石の原石が出土した。Ｊ－３号は、炉と柱穴が検出されたが、掘り込みが浅いと判断される。柱穴は外周するものと推定される。炉内には、一部抜き取られた埋設土器が確認された。Ｊ－６号は焼土（地床炉）のみの検出であったが、その後の周辺精査で柱穴と考えられるピットを確認したため、住居跡と認識した。

住居跡の時期は、時期差はあるものの中期後半（加曽利ＥⅢ式期）の所産と考えられる。

土坑（第19～25図）

土坑は221基確認された。大きさは、南北平均107㎝、東西平均108㎝、深さ平均31㎝である。平面でＡ形態141基、Ｂ形態63基、Ｃ形態６基、Ｄ形態５基、不明６基である。断面は１形態152基、２形態63基、不明６基である。覆土はⅠ形態214基、Ⅱ形態１基（不明除く）である。人為的な埋め戻しを確認できたのは１基であり、他土坑の覆土は、周辺遺跡と同様、混入物がほとんど混入しないⅣ層を基本とした土である。

土坑の遺物は、複数個体の土器小破片が混入するものが主体で、他に石鏃、打製石斧、磨石・凹石類等の石器あるいは大小の礫が混入するものといったパターンが認められ、土坑内に廃棄された状態を主体とする。調査区内の土坑分布状況から、南と北で列状に並ぶ５つの土坑群（Ａ～Ｅ群）に区分した。Ａ群は、土坑がやや散在して分布するが、Ｂ～Ｅ群は土坑が密集した状態であった。また、土坑に接してピットが存在するものもある。

土坑群は北側が密集し、南側はやや散漫な状況を示す。住居址はそれぞれの土坑群の間に存在する。土坑は全て加曽利Ｅ式期に帰属するが、重複がみられることから同時期ではあるが、時間差が存在する。

土坑内出土の遺物は、多数の個体の土器細片が出土した。接合する土器片、完形品は少ない。Ｄ－3、27号土坑は、意図的に土器を破砕して土坑中央に寄せるように廃棄されていた。

遺物分布（第28～30図）

調査区の南北２か所（Ａ～Ⅰグリッドラインと Ⅰ～Ｏグリッドライン）で遺物分布の中心が認められた。遺物は、遺構（土坑）を覆うようにして遺物包含層が形成されていたていた。縄文土器は破片が多数で、完形のものは認められなかった。遺物の分布にやや偏りがみられるのは、南側において層位的包含層調査を実施した結果によるものである。南側の遺物分布域では、黒曜石の遺物が集中する傾向が認められた。

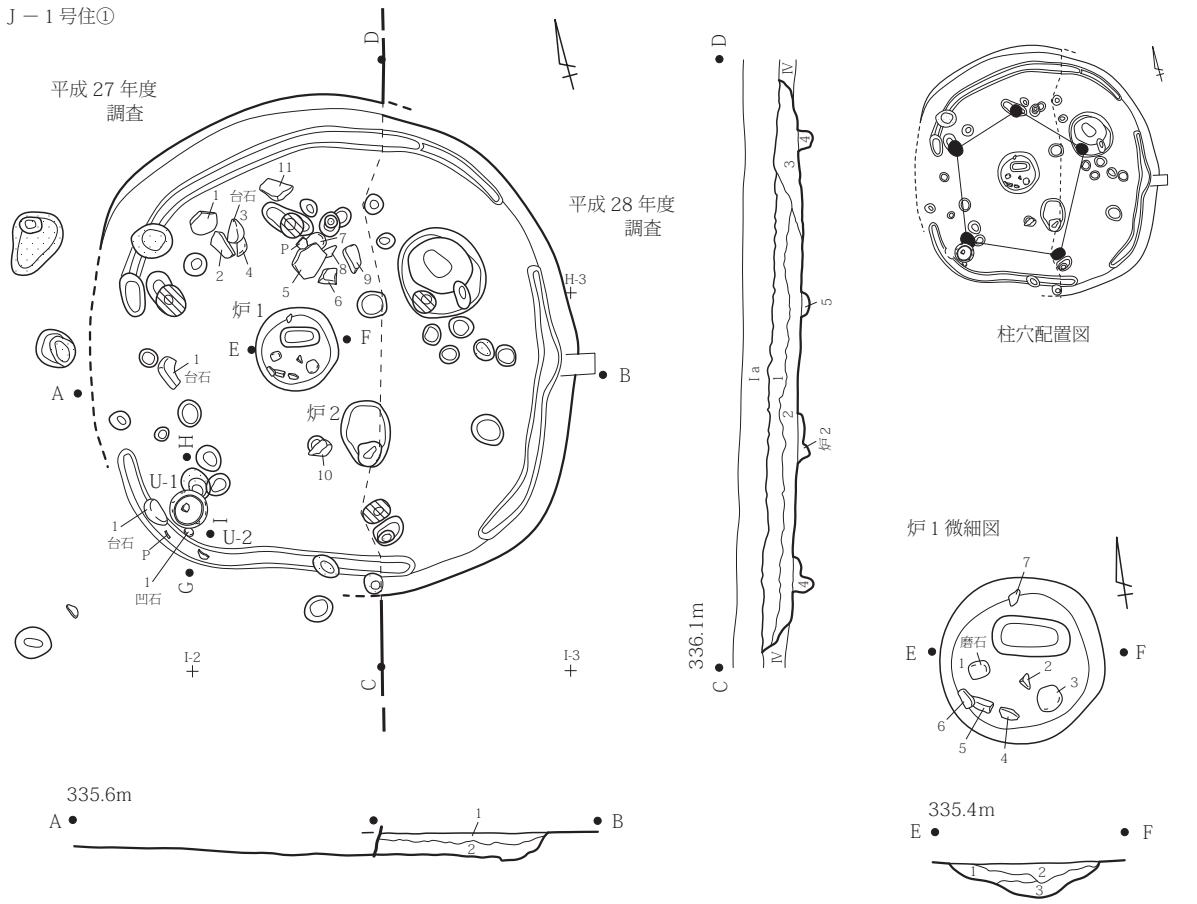
（２）中近世の遺構（第26・27図）

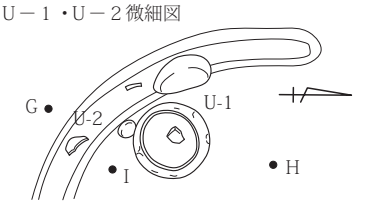
調査区南側で東西方向を主軸とする溝１条（Ｍ－１）、調査区東側で南北方向を主軸として平行する溝２条（Ｍ－２、３号）を確認した。後者の両溝は、規格が同一で底部付近は酸化鉄の堆積がみられ、硬く締まっている。２条の溝は、地割の境界に沿うことから、道路の側溝の可能性が考えられる。確認された３条の溝は、覆土に浅間Ｂ軽石が大量に混入する。

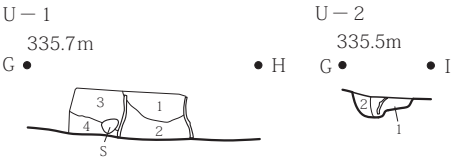
第12図　行田大道北横道北遺跡　調査区グリッド設定図

第13図　行田大道北横道東遺跡　調査区全体図（1）

第14図　行田大道北横道東遺跡　調査区全体図（2）







N－22B

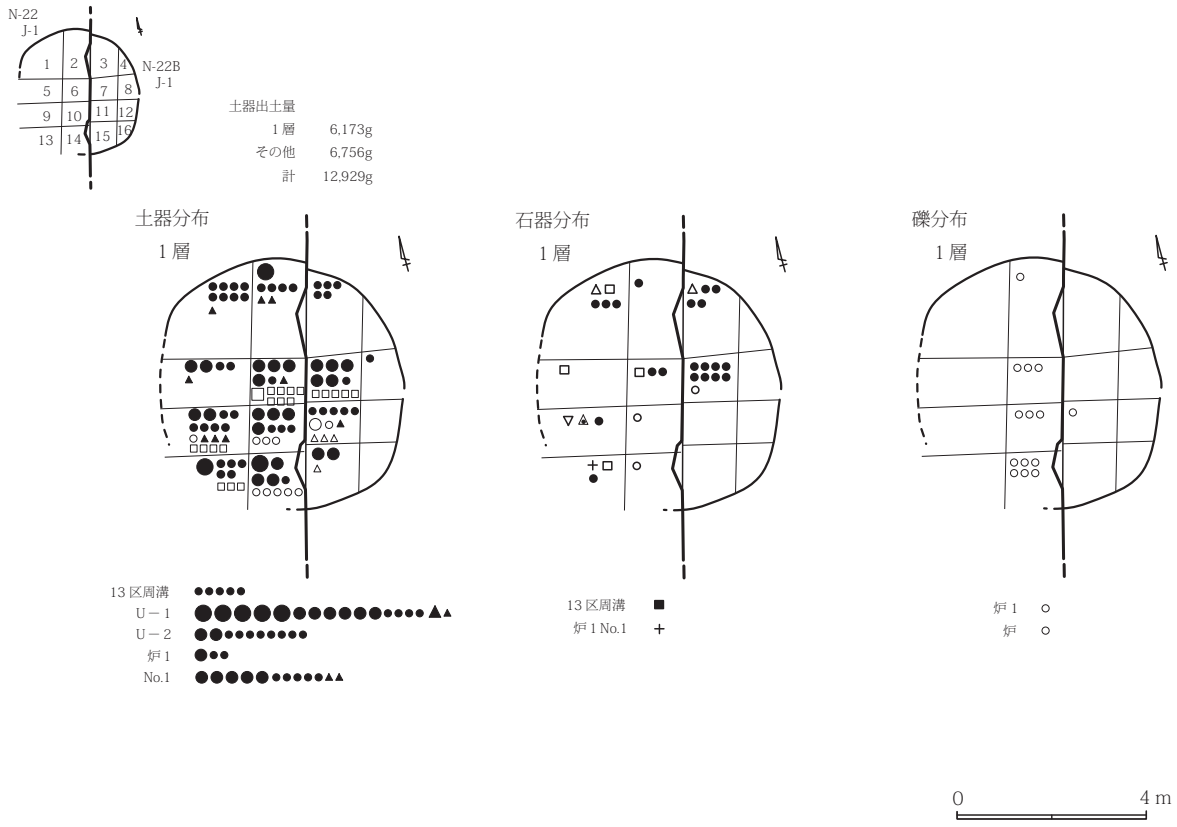
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
Ｊ－１号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	
東西セクション	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※	△	※

N－22

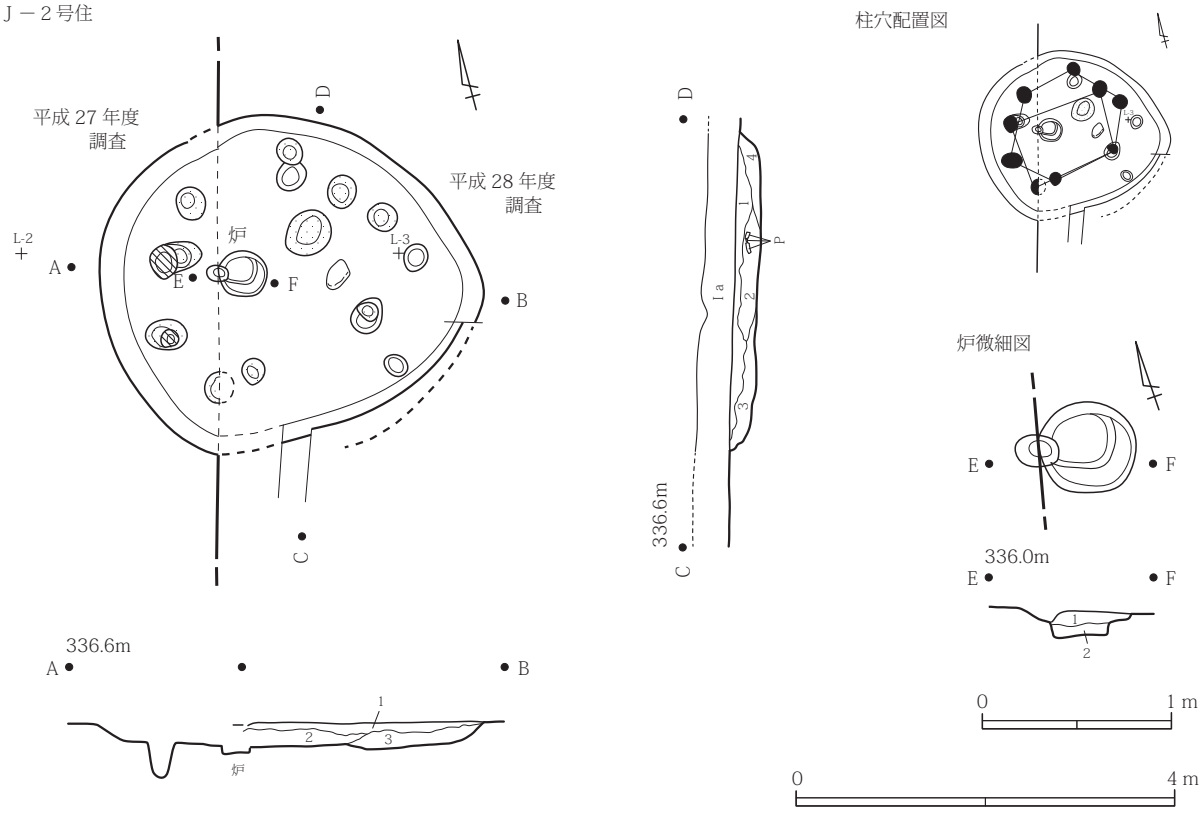
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	炭	焼土	備考
Ｊ－１号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	△	※	※	基本的には自然堆積
南北セクション	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	△	※	※	〃
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×	△	※	※	〃
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	◎	○	※	×	×	△	※	※	〃 （周溝）
	5	暗褐色土層10YR	2＜5	◎	○	※	×	×	※	※	※	ピット
炉1	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		※	※	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	×		※	※	
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	×		※	※	
Ｕ－１	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※			住居覆土
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	×	※			〃
	3	暗褐色土層10YR	1＝3	◎	○	※	×	×		※	※	〃
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	×	×		※	※	〃
Ｕ－２	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		×	×	埋め戻し
	2	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		×	×	〃

第15図　行田大道北横道東遺跡　Ｊ－１号住居跡（１）

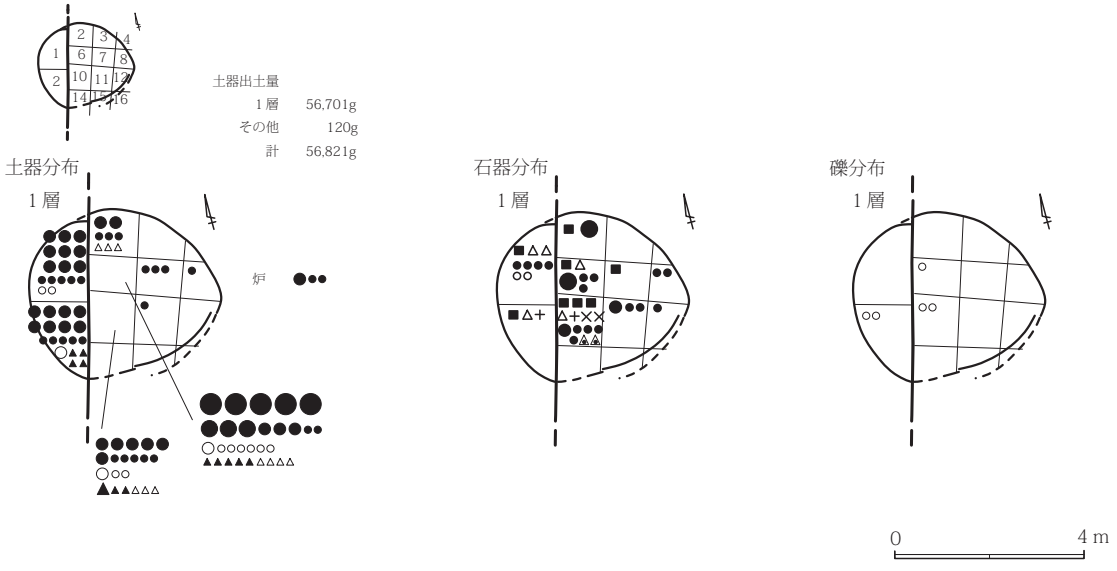
Ｊ－１号住②



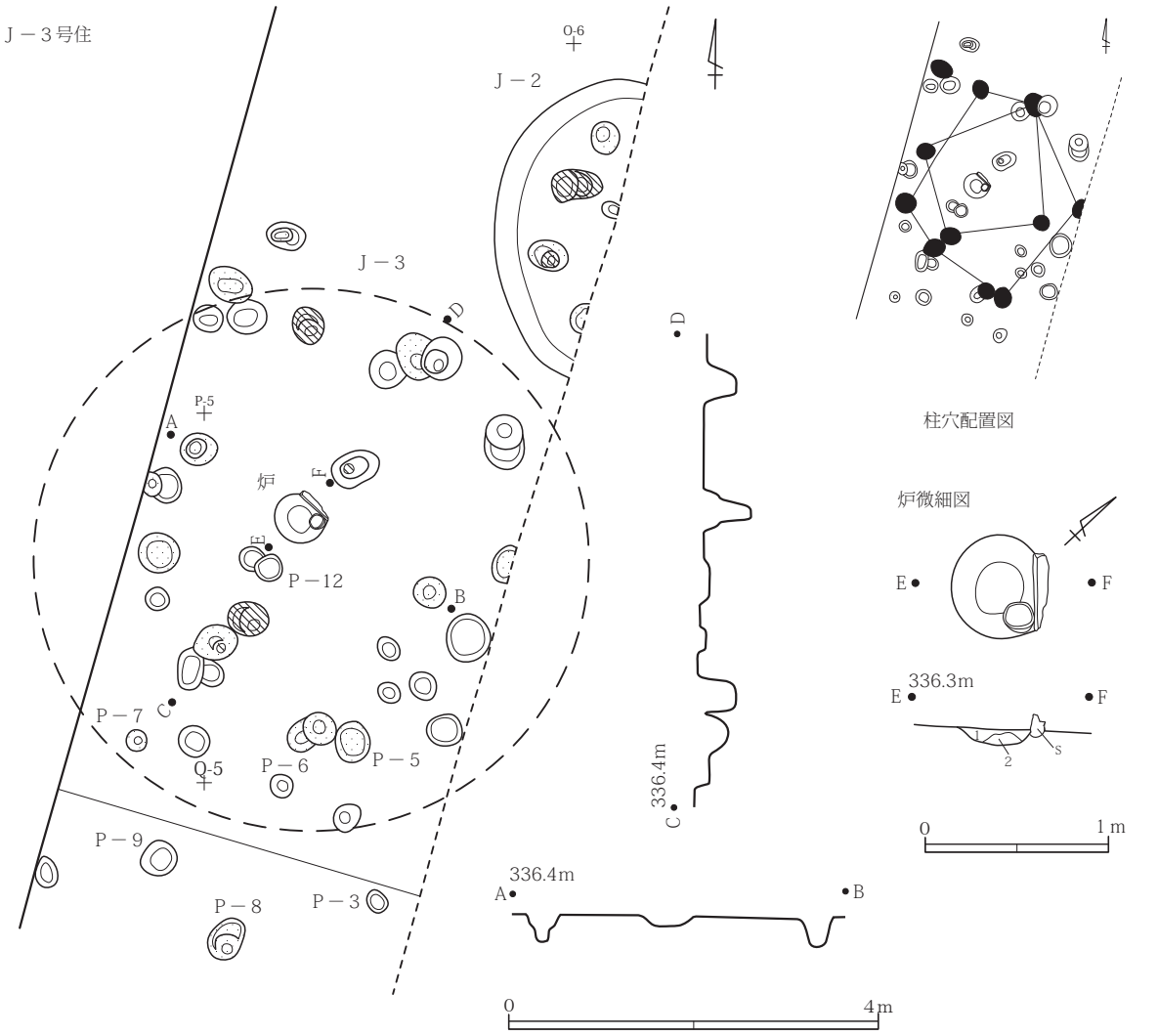
第16図　行田大道北横道東遺跡　Ｊ－１号住居跡（２）



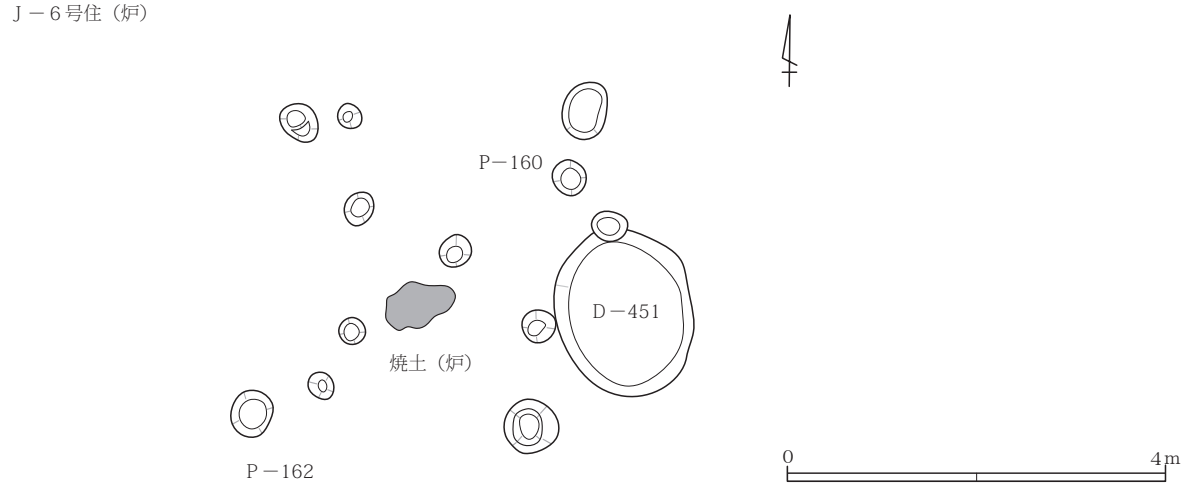
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色	赤色	備考
Ｊ－２号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※		△	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	※		△		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	×	×	×	×		※		
	4	暗褐色土層10YR	1＜4	◎	○	※	×	×	×		※		
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※	※			（掘方）
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	×	×			



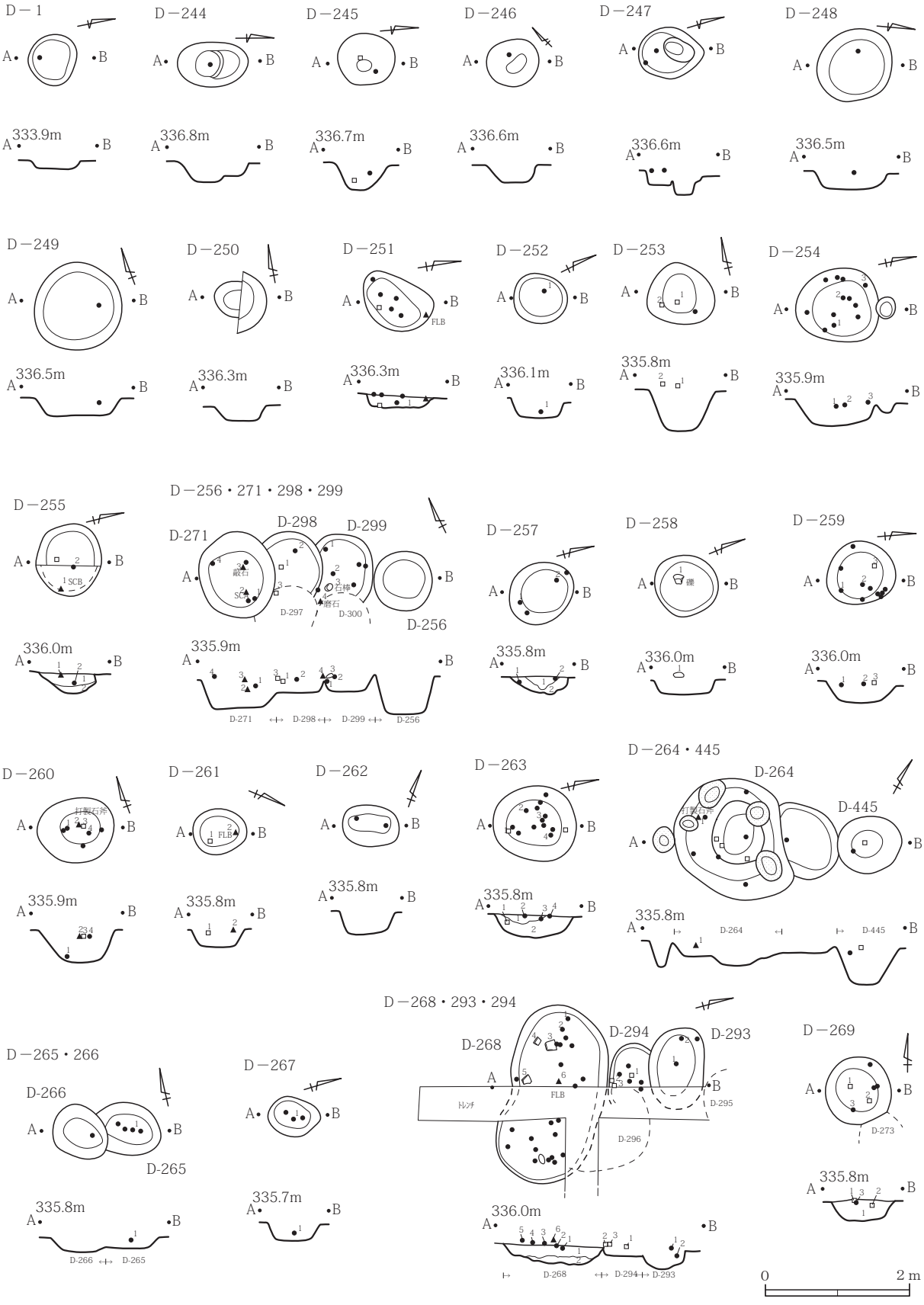
第17図　行田大道北横道東遺跡　Ｊ－２号住居跡



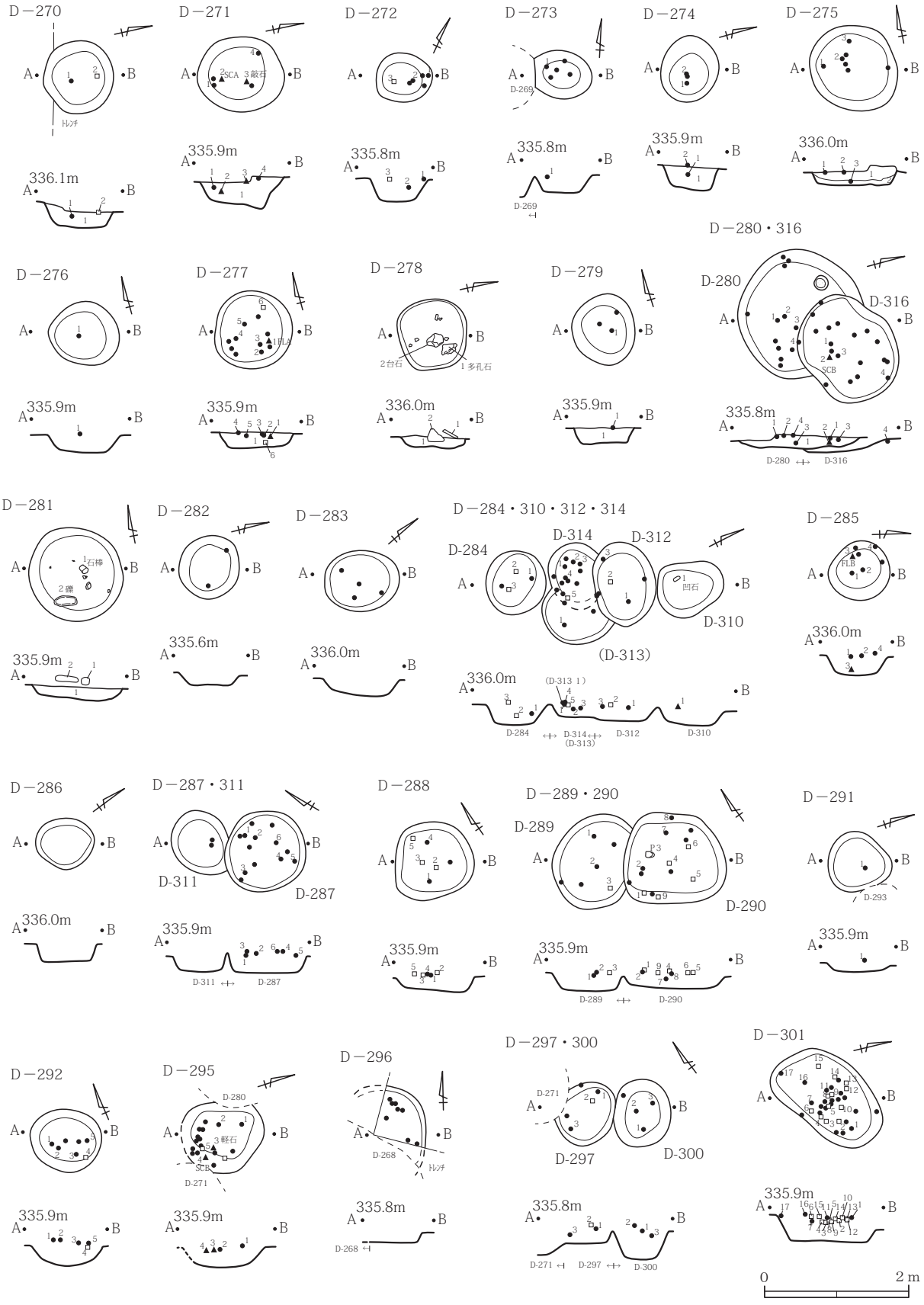
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	炭	焼土	備考
Ｊ－３号住　炉	1	暗褐色土層7.5YR		◎	○	※	×	×		※	※	
	2	赤褐色土層５YR	1＜2	◎	○	※	×	×		※	△	焼土はブロック状



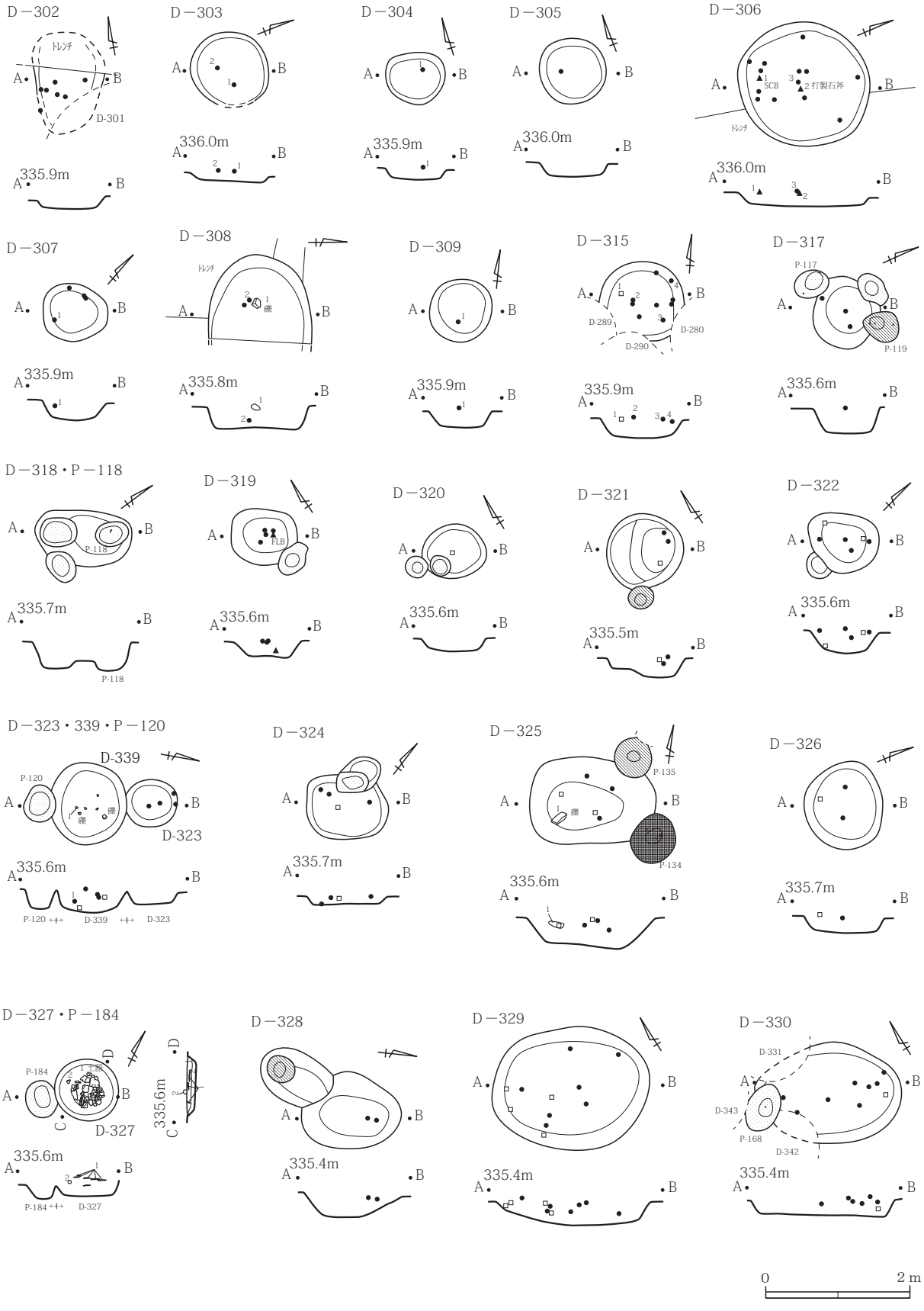
第18図　行田大道北横道東遺跡　Ｊ－３・６号住居跡



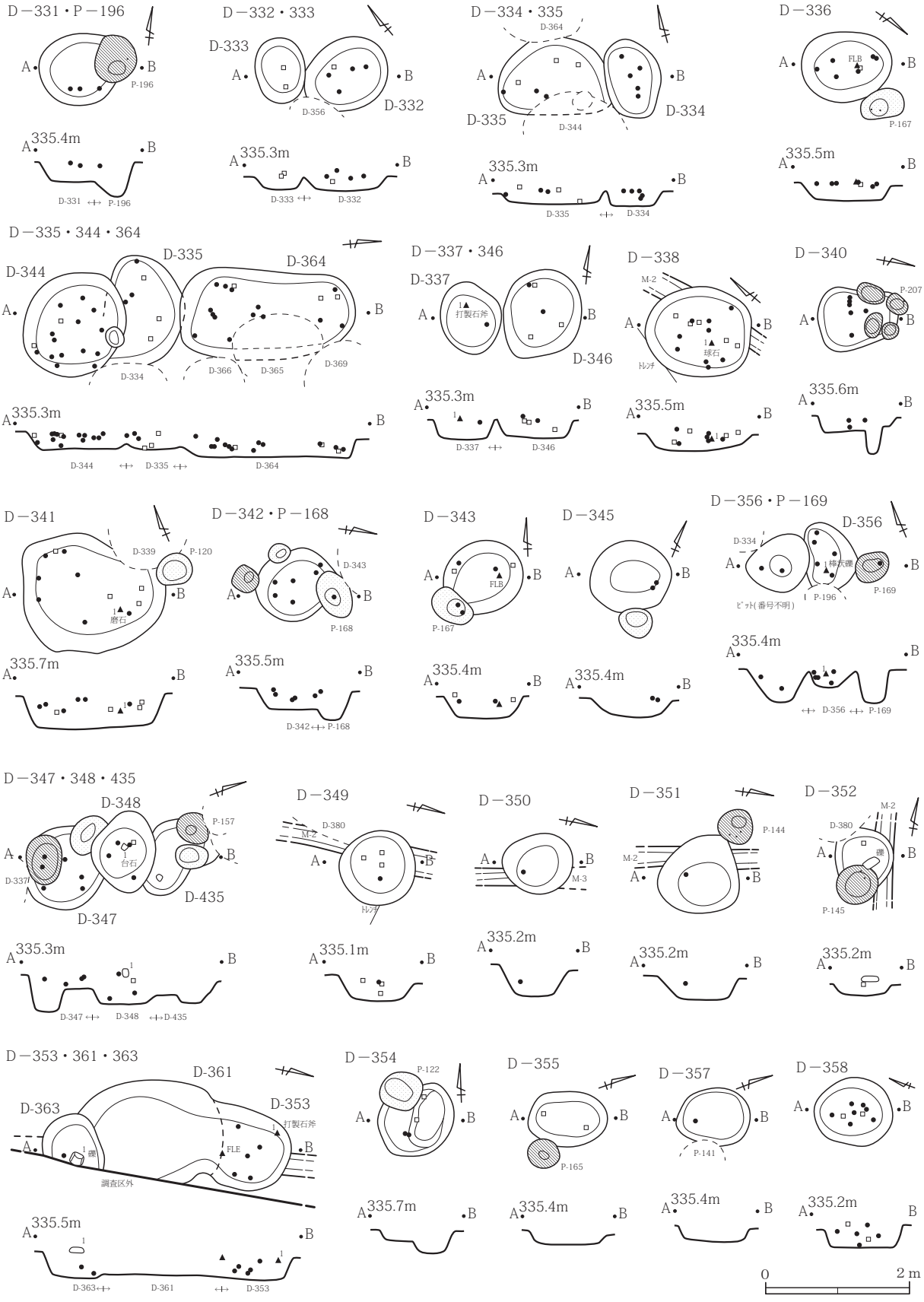
第19図　行田大道北横道東遺跡　土坑（1）



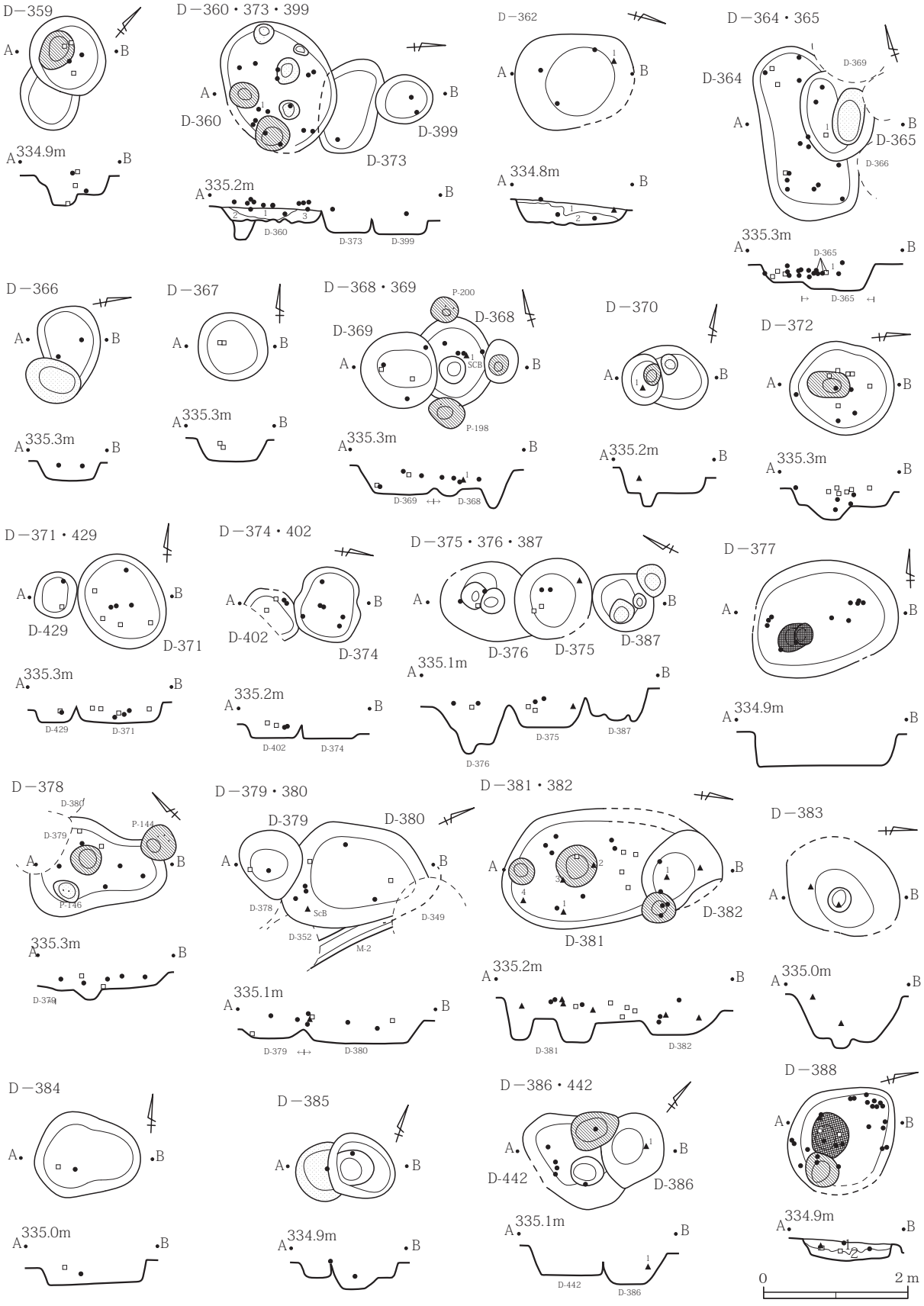
第20図　行田大道北横道東遺跡　土坑（2）



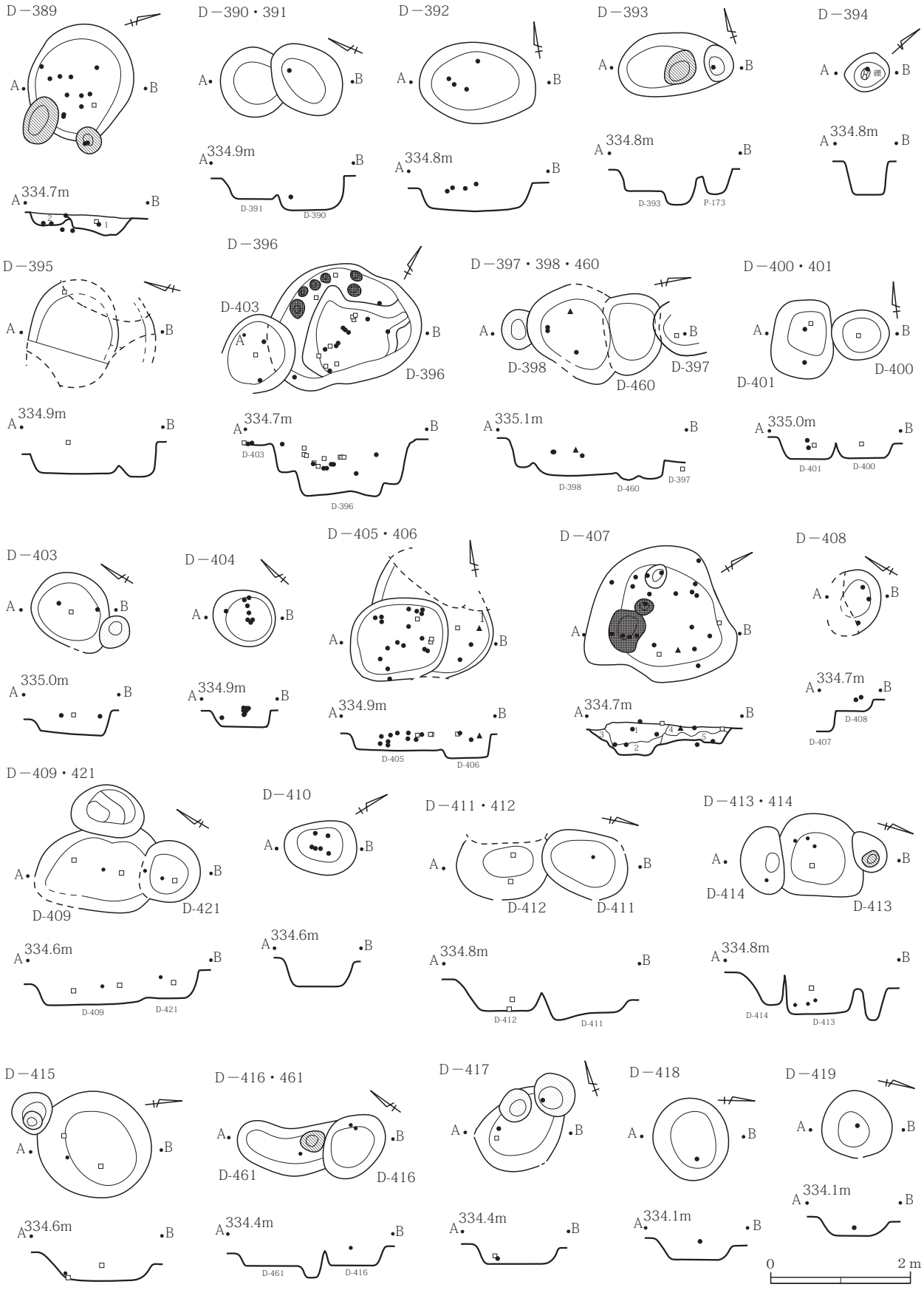
第21図　行田大道北横道東遺跡　土坑（3）



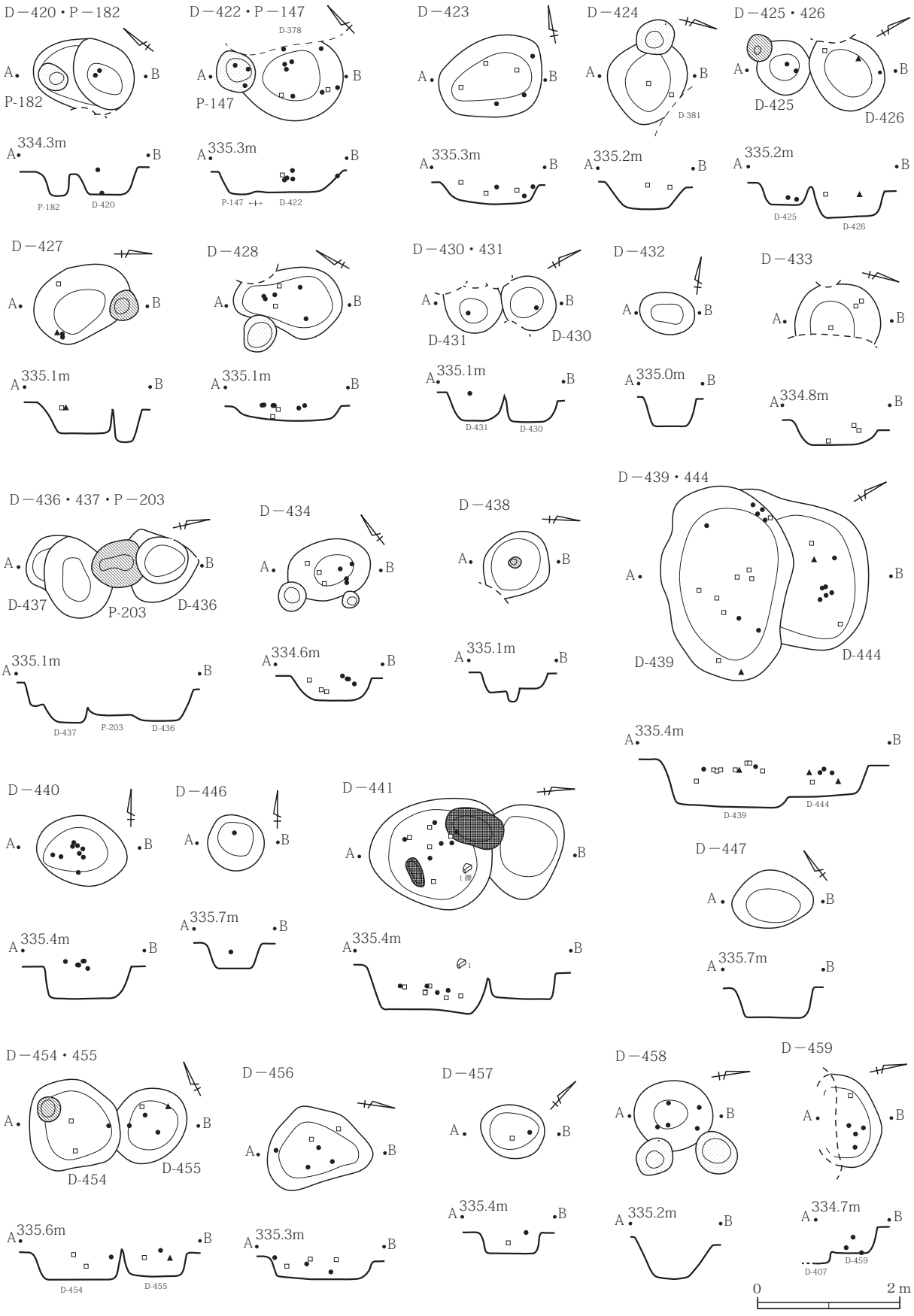
第22図　行田大道北横道東遺跡　土坑（4）



第23図　行田大道北横道東遺跡　土坑（５）



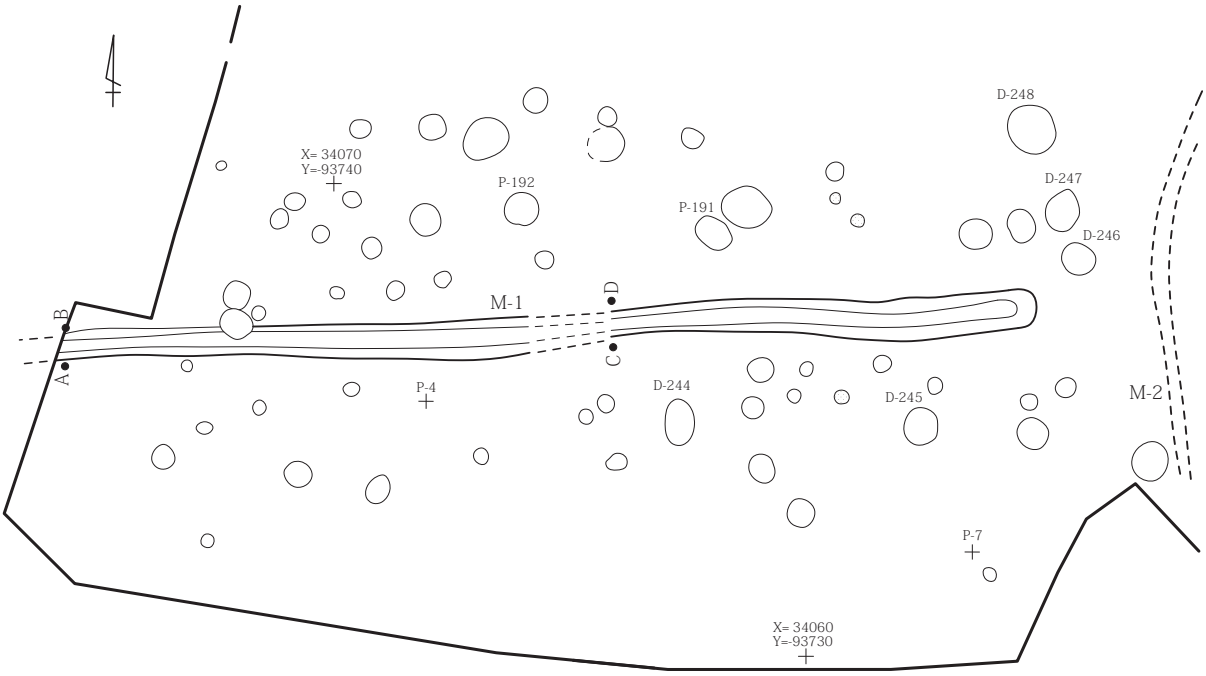
第24図　行田大道北横道東遺跡　土坑（6）



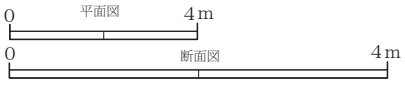
第25図　行田大道北横道東遺跡　土坑（7）

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色	赤色
D－251	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	※	×	×			
D－255	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×				
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×				
D－257	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×				
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×				
D－263	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×				
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×				
D－268	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	※			
D－269	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※			
D－270	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※			
D－274	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×			
D－275	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	×			
D－277	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×				
D－281	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※		※	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	※		※	※
D－360	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	※			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	×	×	×	※			
D－362	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	×			
D－407	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※			
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	◎	○	×	×	×	※			
	4	暗褐色土層10YR	1＜4	◎	○	×	×	×	※			
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	◎	○	×	×	×	※			

M－1

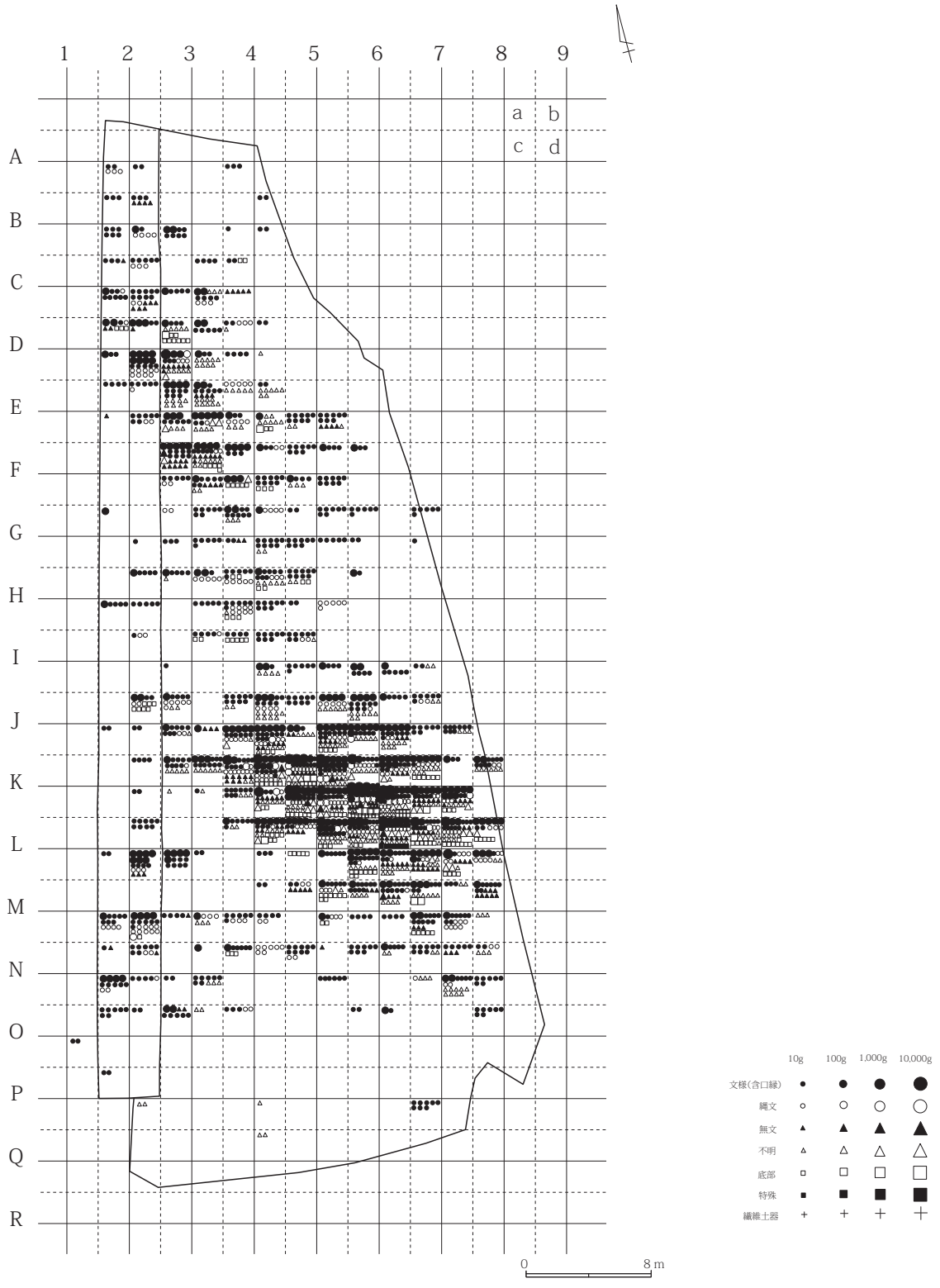


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 As-B
M－1	1	黒褐色土層10YR		△	△	○

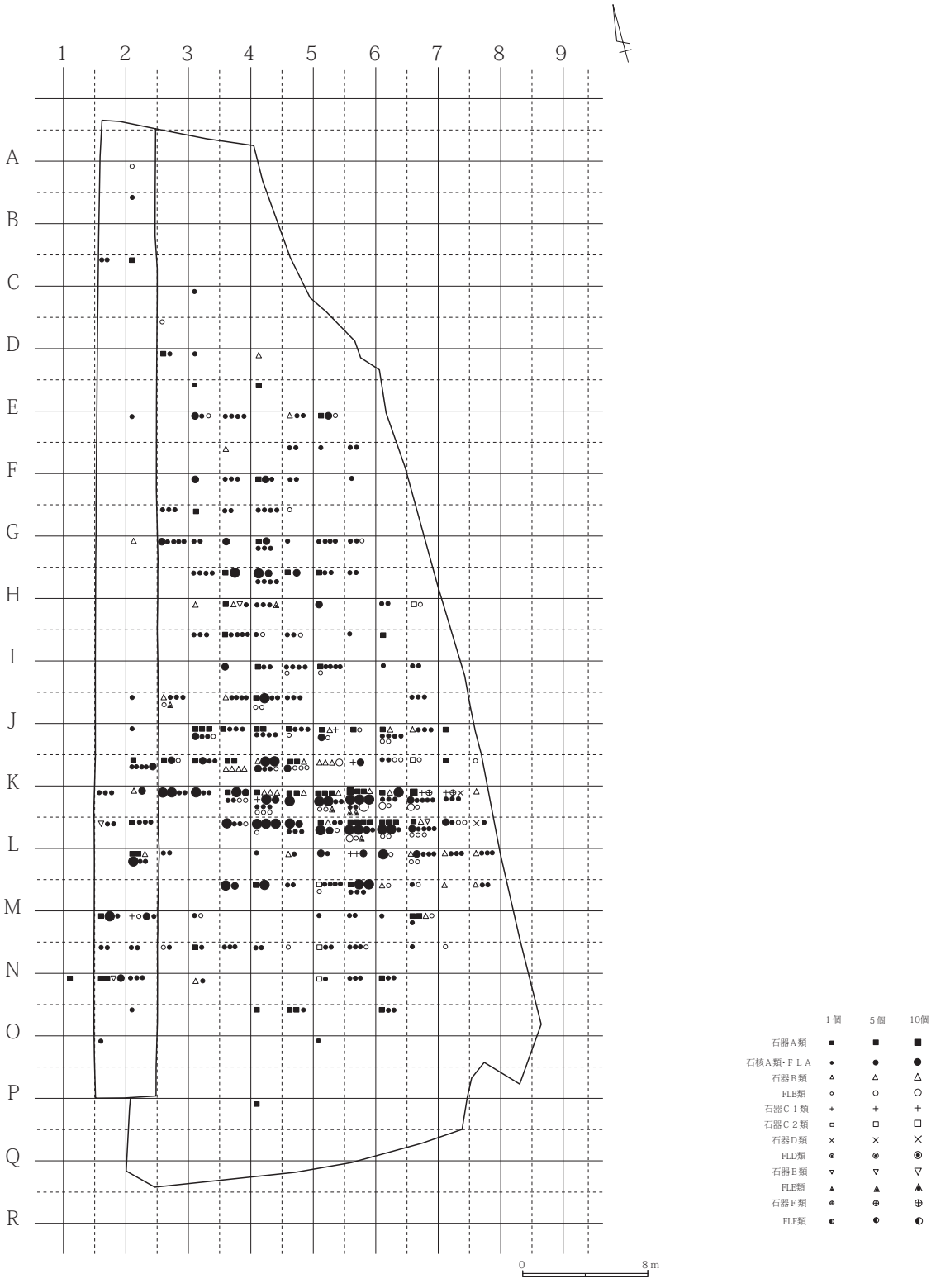


第26図　行田大道北横道東遺跡　溝（1）

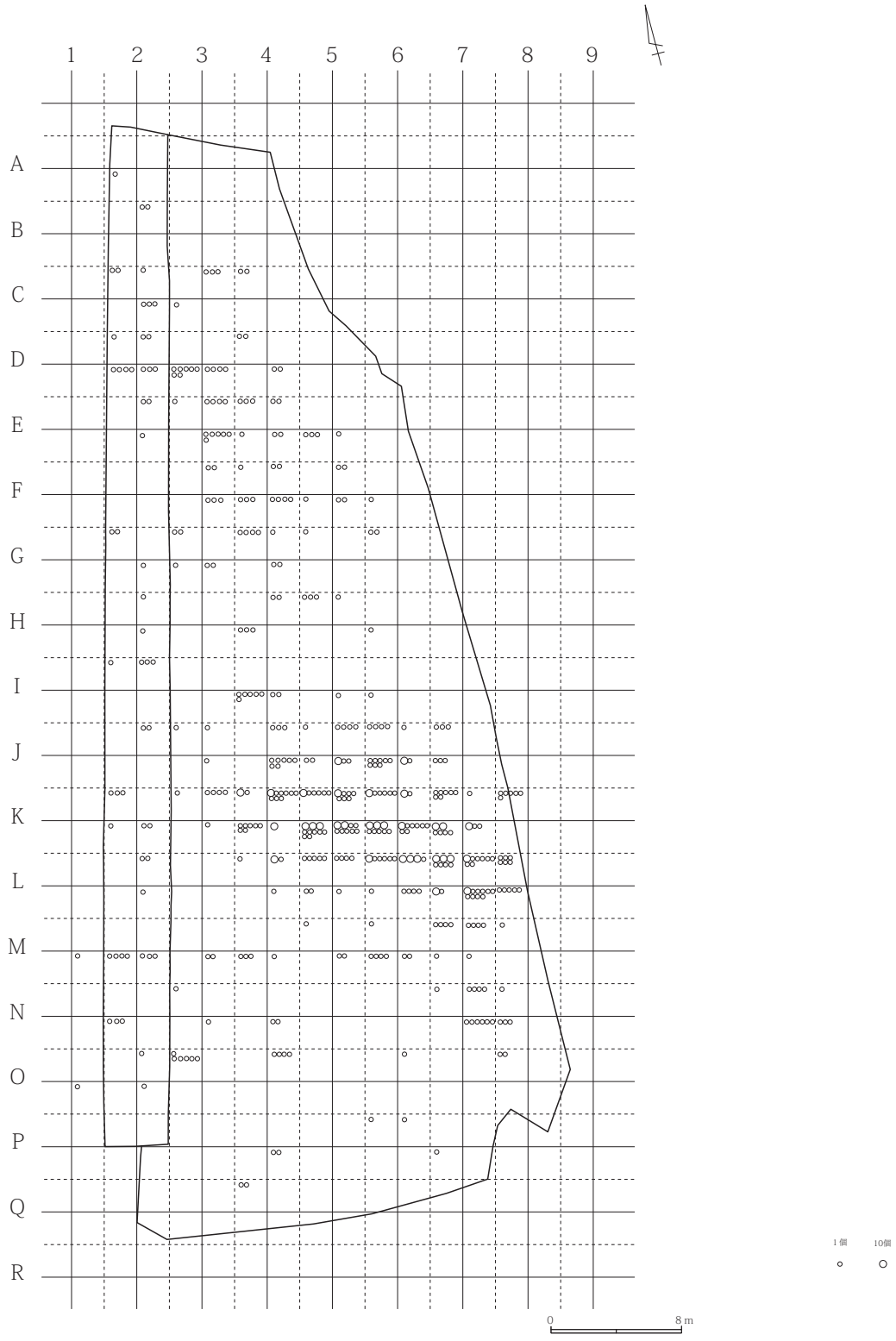
第27図　行田大道北横道東遺跡　溝（２）



第28図　行田大道北横道東遺跡　遺物分布図（縄文土器）



第29図　行田大道北横道東遺跡　遺物分布図（石器）



第30図　行田大道北横道東遺跡　遺物分布図（礫）

5　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡

（1）縄文時代の遺構（第31～48図・付図6～9）

中期（加曽利E式期主体）の集落が確認された。遺構は住居2軒（J－4、5号）、土坑239基（D－3～242号、462～474号。不明・欠番は除く）、立石1基（S－1号）、配石1基（S－2号）、埋設土器1基（U－1号）である。

本遺跡の北には、B区を挟んで大道北横道東遺跡が存在する。両遺跡とも遺構の分布状況から同一集落の一部と考えられる。また、本遺跡は、土坑を主体とした集落である。

住居跡（第35～37図）

住居跡は、いずれも竪穴住居と推定される。J－4号は、遺構の半分のみの調査であったが、壁際に柱穴が並ぶ構造である。床中央にある石囲炉は、使用痕跡（被熱痕、焼土・炭化物）はほとんど認められなかった。J－5号は、確認段階で掘り込みの範囲が明確ではなかったため、遺物の分布状況から住居と認定した。遺構確認面よりやや下がったところに炉が確認され、精査したところ2組となる6本柱が確認された。住居北側は土坑と重複するが、U－1号とした遺構は住居に伴わない可能性がある。炉は底面に焼土が残り、土器（U－1号）が廃棄されていた。

土坑（第38～47図）

土坑は、南北平均117㎝、東西平均118㎝、深さ平均31㎝である。形態分類可能な土坑をみると平面A形態129基（54％）、B形態93基（39％）、C形態6基（3％）、D形態11基（4％）である。断面形態1形態108基（45％）、2形態131基（55％）である。覆土はⅠ形態234基（98％）、Ⅱ形態5形態（2％）である。形態的には東西方向に主軸をもつ土坑が多い。覆土は地山を掘り起こした土の埋め戻しのため、土質は自然層（Ⅳ層）に近い。炭化物・焼土、ローム・軽石等の混入物は、ほとんど認められない。土坑内には、石器、礫、土器が認められたが、ほとんどが覆土中からの出土である。

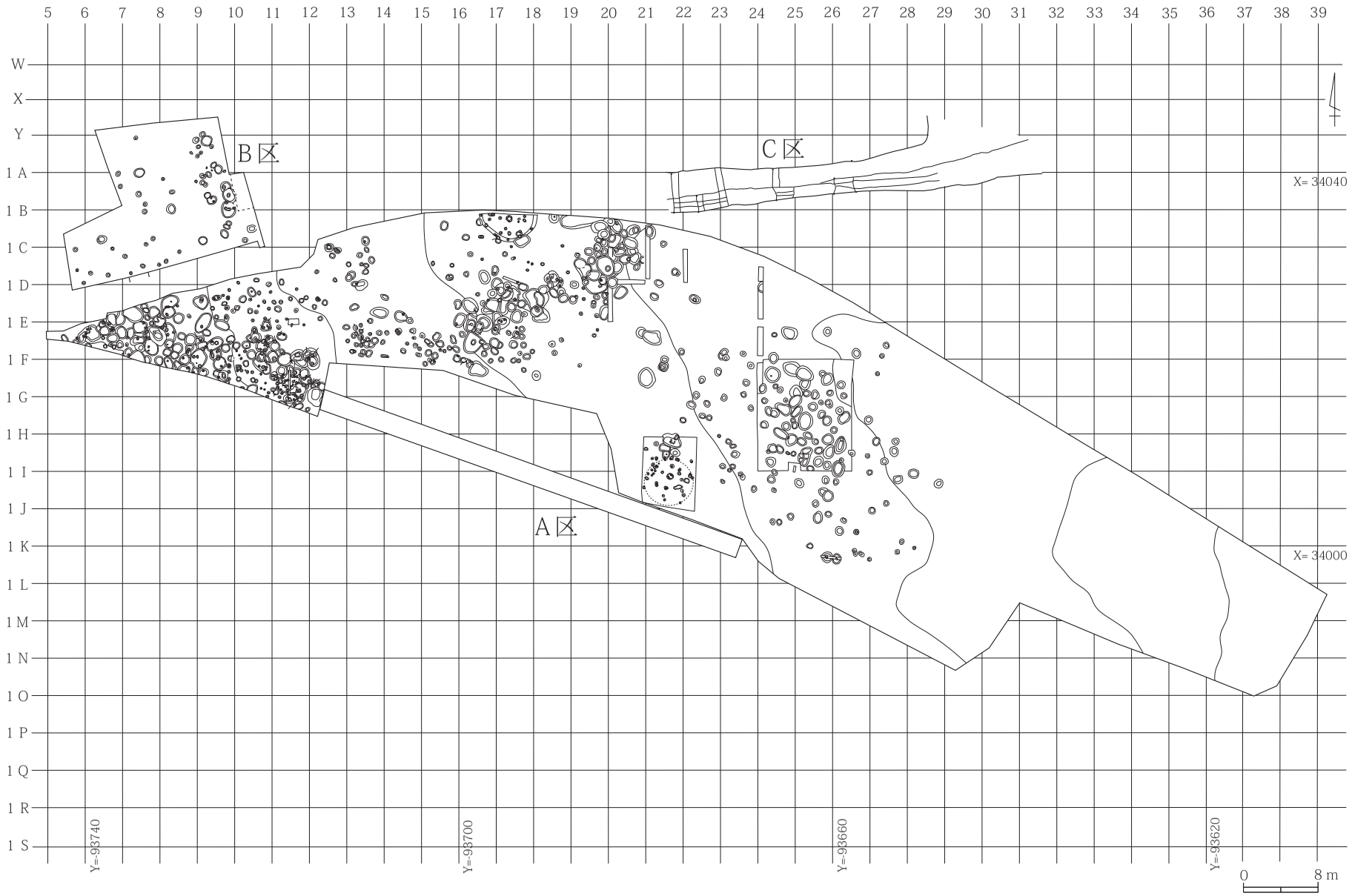
土坑の分布状況をみると7ヶ所に集中する。A群（5～10グリッドライン）、B群（10～12グリッドライン）、C群（13～15グリッドライン）、D群（15～19グリッドライン）、E群（19～21グリッドライン）、F群（21～28グリッドライン）、G群（Y～1Cグリッドライン）である。土坑群は狭い範囲で土坑の重複が著しく、密集する（C、G群を除く）。各土坑群との間には、空白部が存在し、集中する単位が認められることから、意図的に一定の間隔をもって構成されていた可能性が考えられる。土坑群の外側には、多数のピットが分布するもの（B、D、F群群）があり、B群の北側では立石（S－1号）が認められた。G群では土坑群と配石（S－2号）が重複し、土坑から石棒（D－473号）、埋設土器（D－472号）等が出土するものが認められた。

立石・配石（第48図）

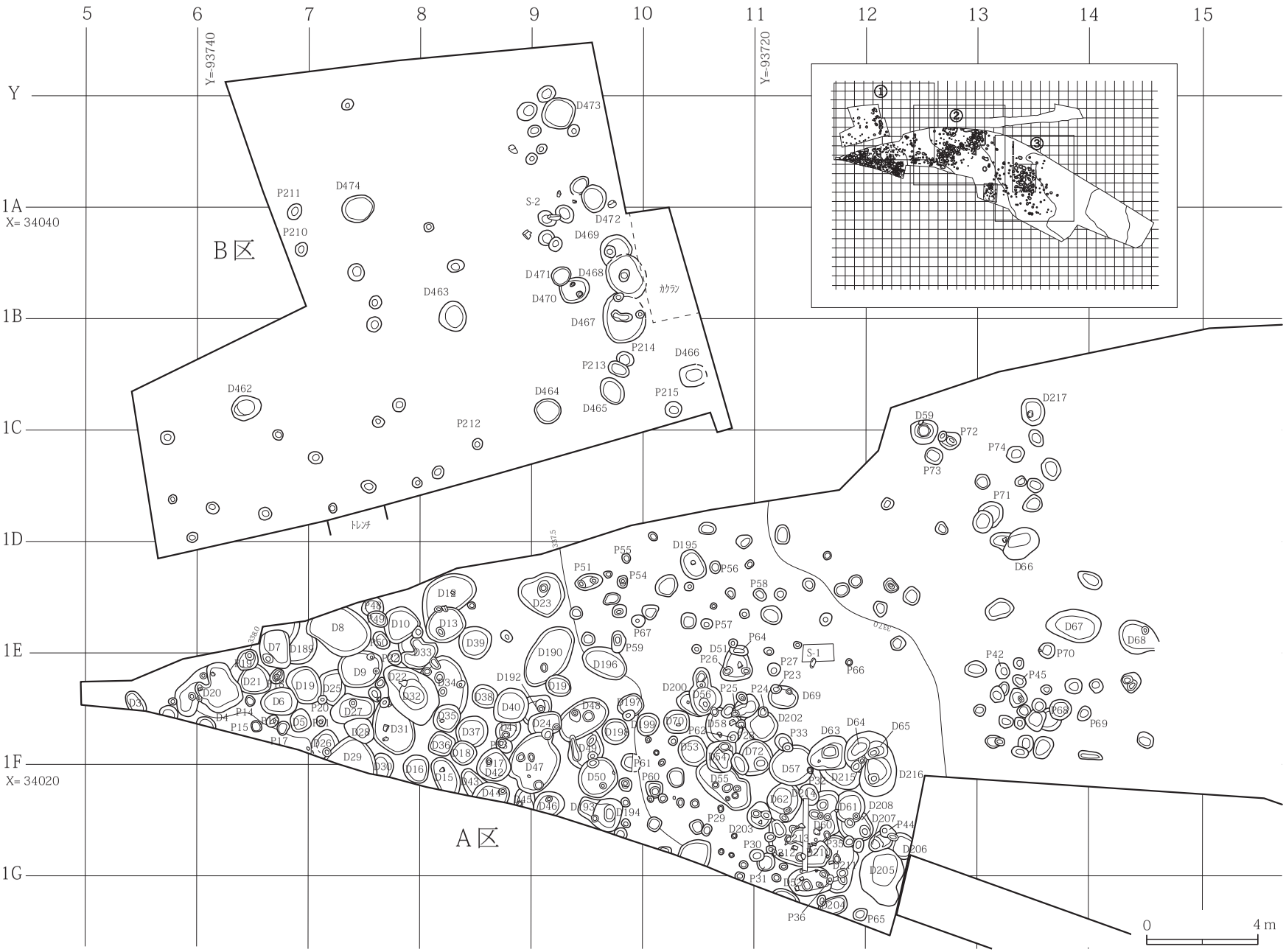
立石は、倒れた状態で検出された。耕作等により原位置から動いていたが、立石の直下に掘り方と推定される浅いピットが検出された。土坑の空白地に存在する状況から立石と判断した。石材は安山岩である。配石はB区で確認された。4ｍの範囲で大形礫が6点確認された。6の多孔石は耕作の影響で原位置から動いていた。

埋設土器（第48図）

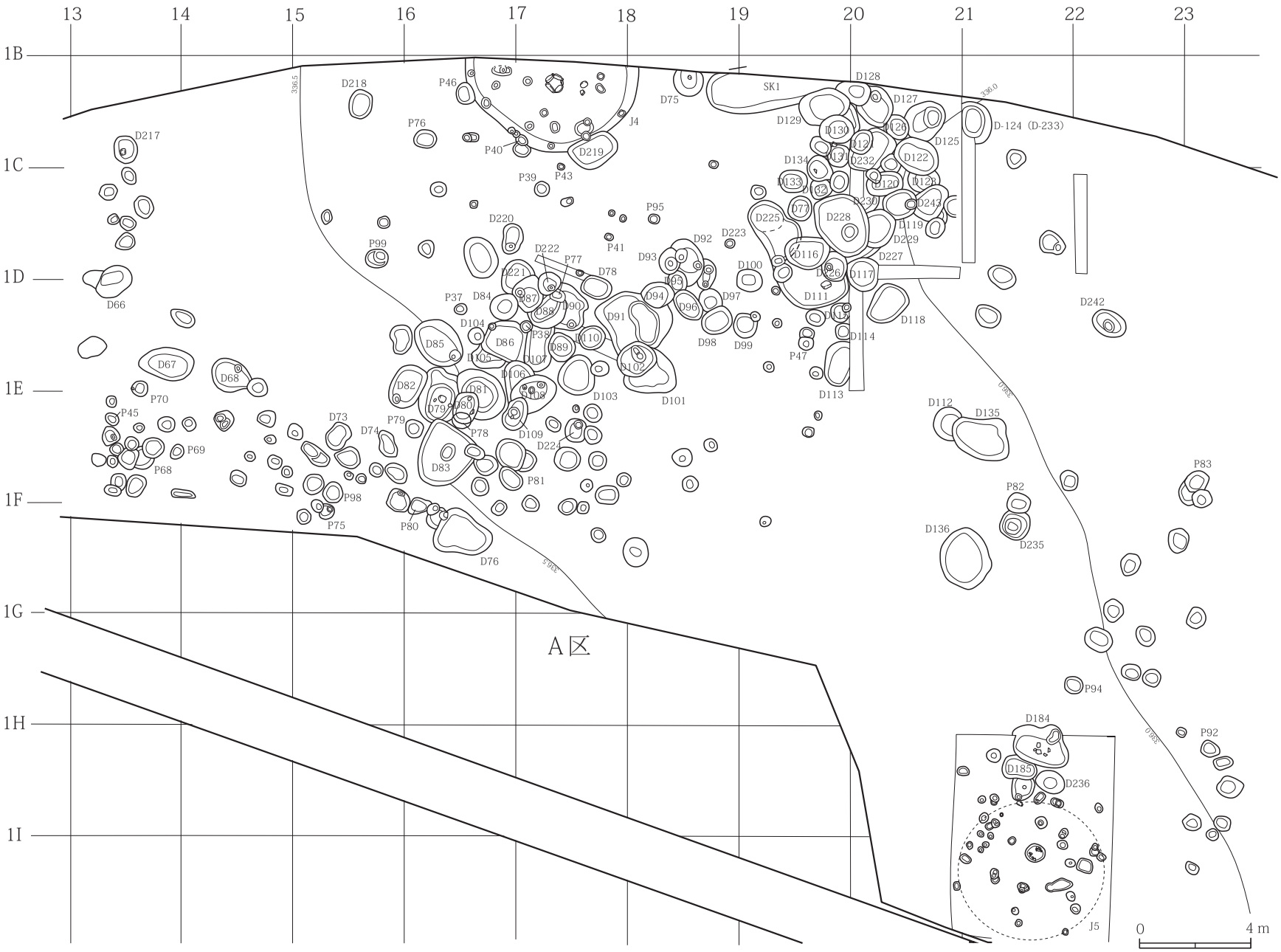
埋設土器は深鉢上半部の破片が地面に埋め込まれた状態で検出された。掘り方は明確ではないため、



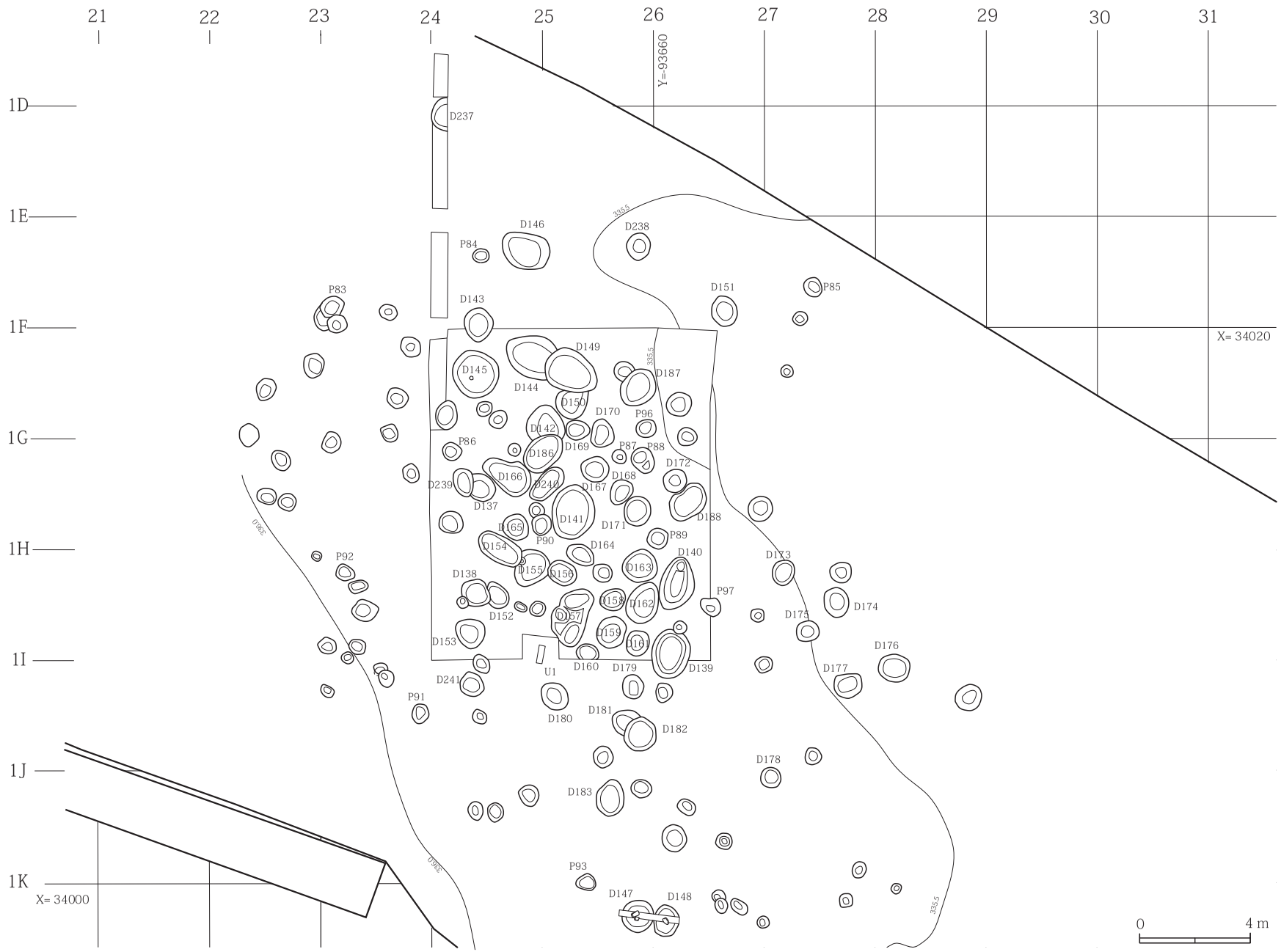
第31図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　調査区グリッド設定図



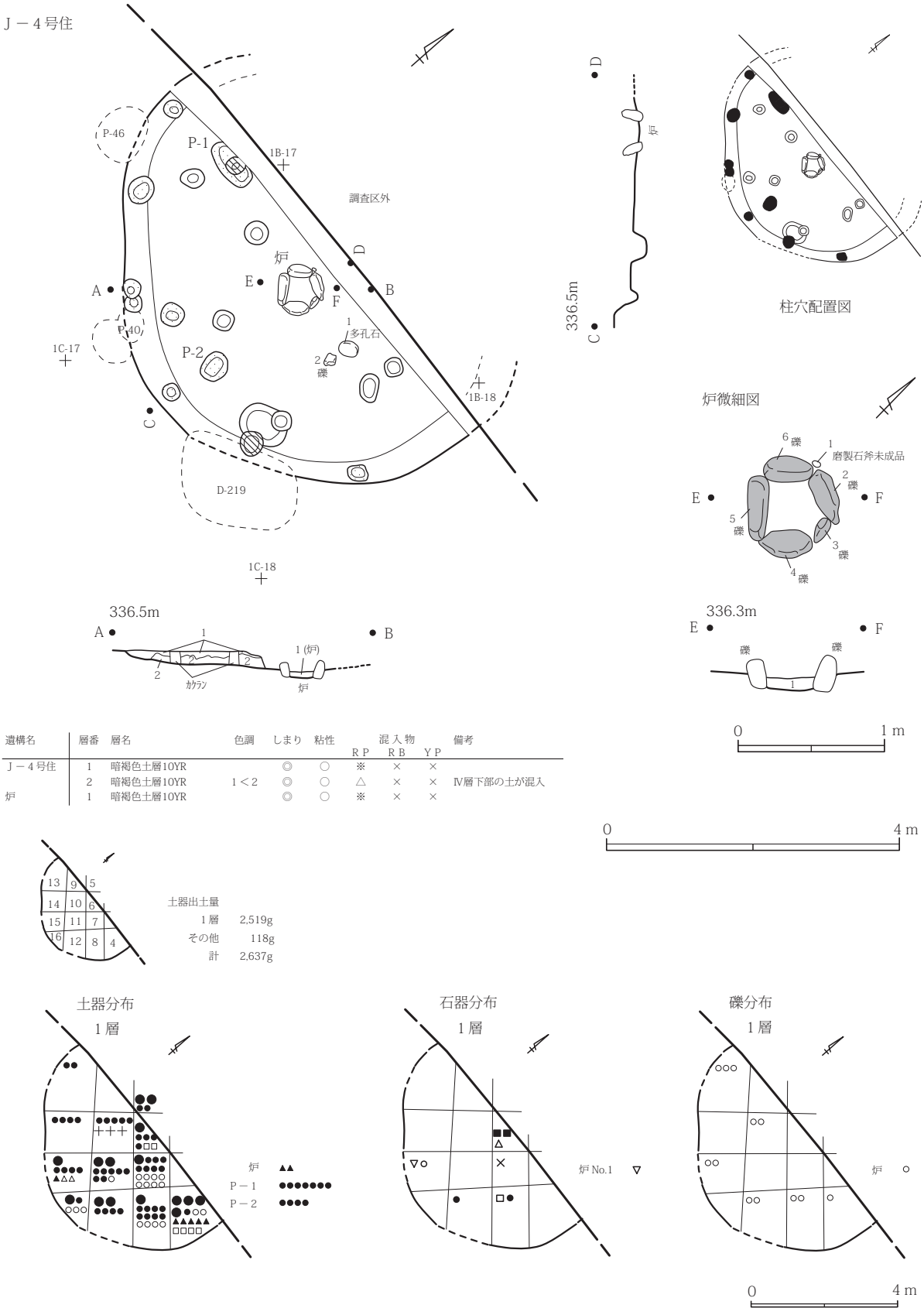
第32図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　調査区全体図（1）



第33図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　調査区全体図（２）



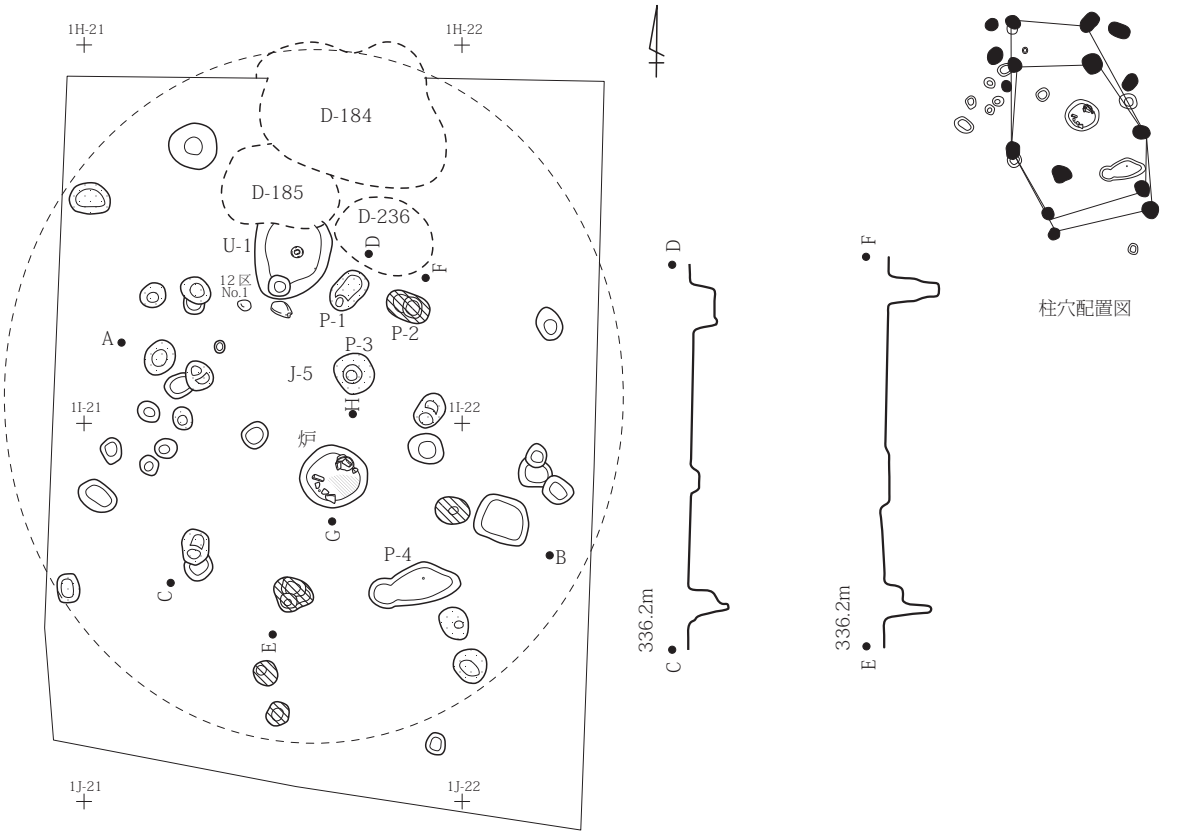
第34図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　調査区全体図（３）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
Ｊ－４号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	×	Ⅳ層下部の土が混入
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	

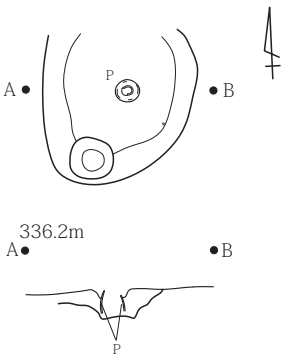
第35図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　Ｊ－４号住居跡

Ｊ－５号住

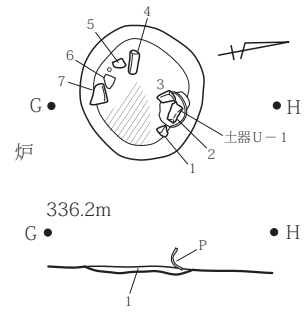


柱穴配置図

Ｊ－５(覆土内)Ｕ－１（土坑）



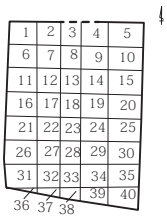
炉微細図



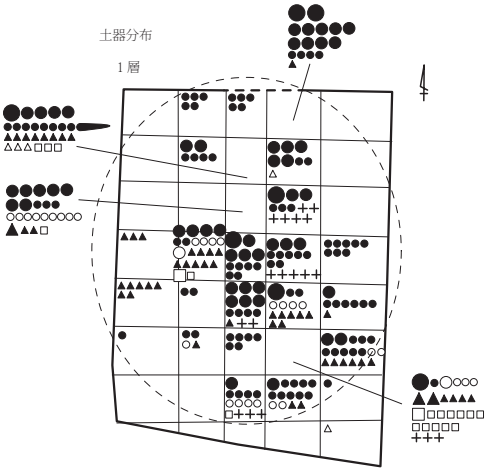
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	炭	焼土
Ｊ－５号住　Ｕ－１	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		※	※

第36図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　Ｊ－５号住居跡（１）

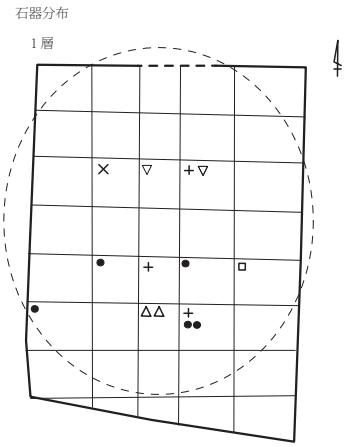
Ｊ－５号住



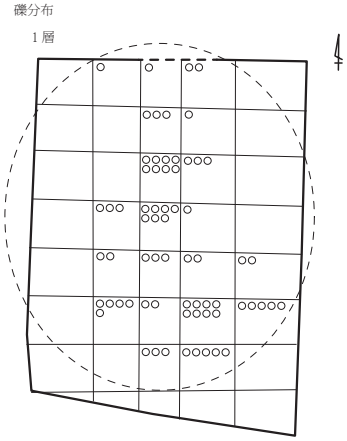
土器出土量	
1層	14,891
その他	1,769
計	16,659



Ｐ－１ ●
Ｐ－２ ▲
Ｐ－３ ●●●
Ｐ－４ ●●●
Ｕ－１
炉Ｕ－１
炉内 ●●●
一括 ●●

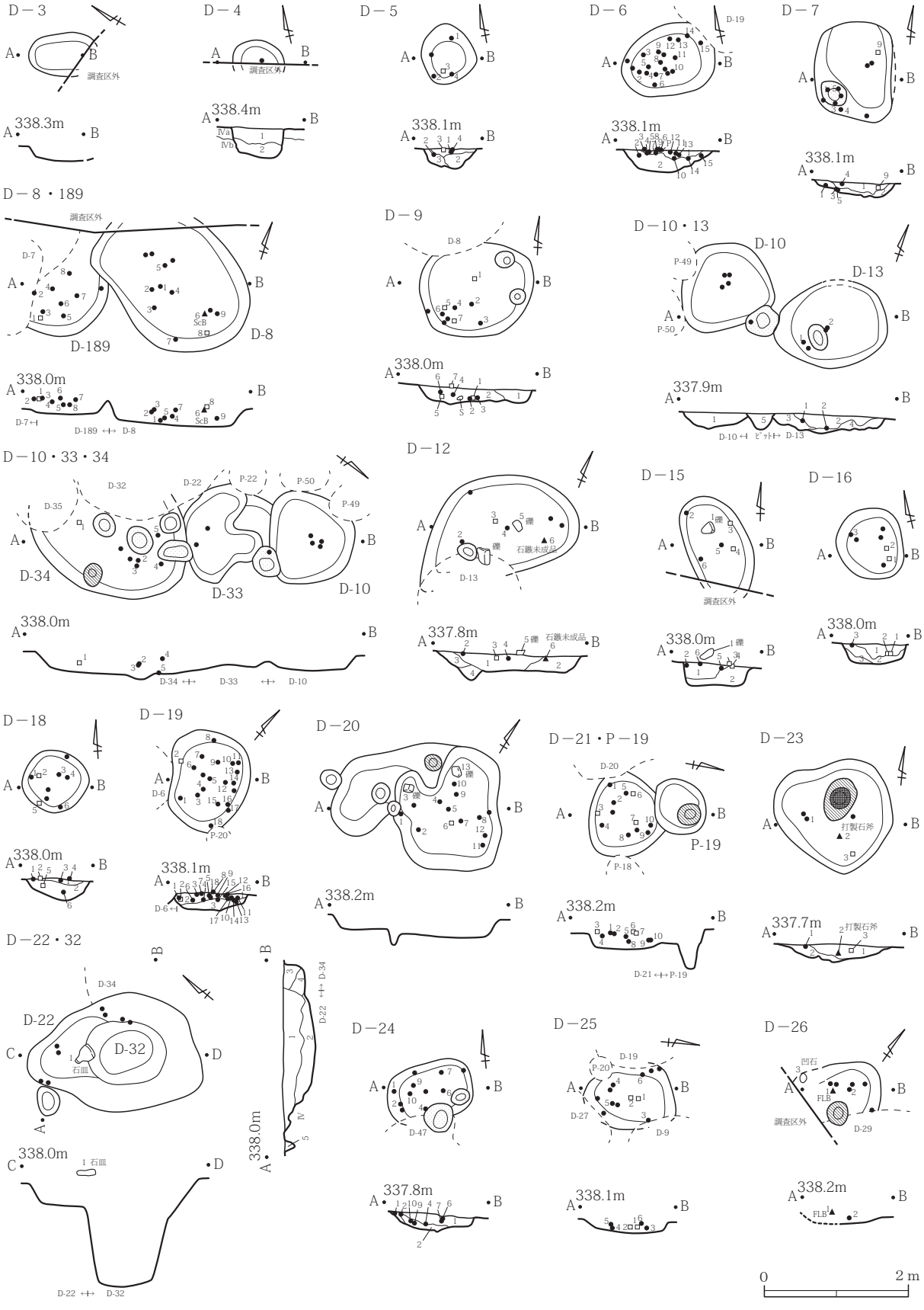


一括 ＋
1H-21c ＋＋▽
1H-21d ＋
炉No.1 ▽

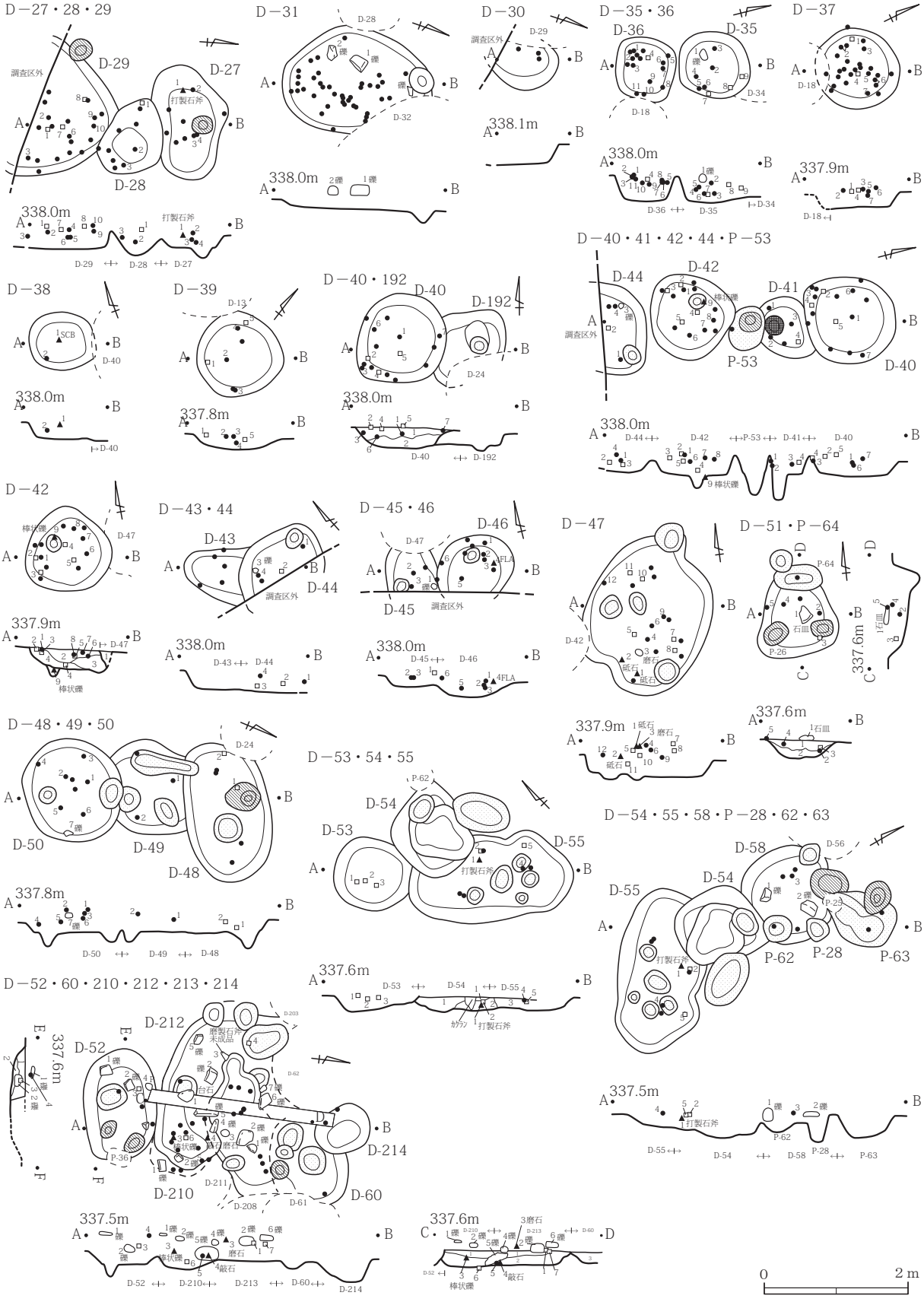


一括 ○○○○○
炉No.1 ○
炉No.3 ○
炉No.5 ○
炉No.6 ○
炉No.7 ○
炉Ｕ－１ ○○○
Ｕ－１集中 ○
その他 ○○

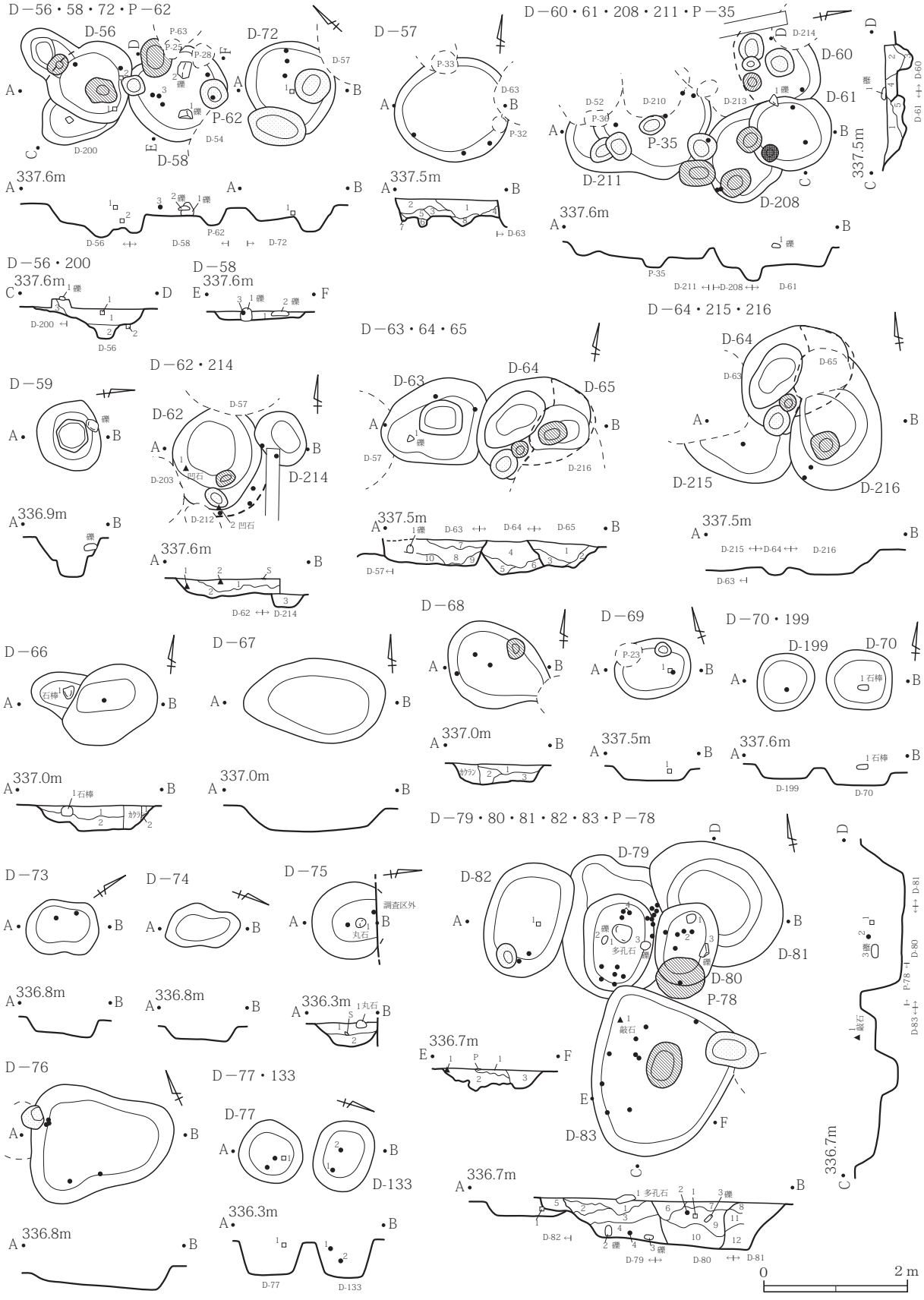
第37図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　Ｊ－５号住居跡（２）



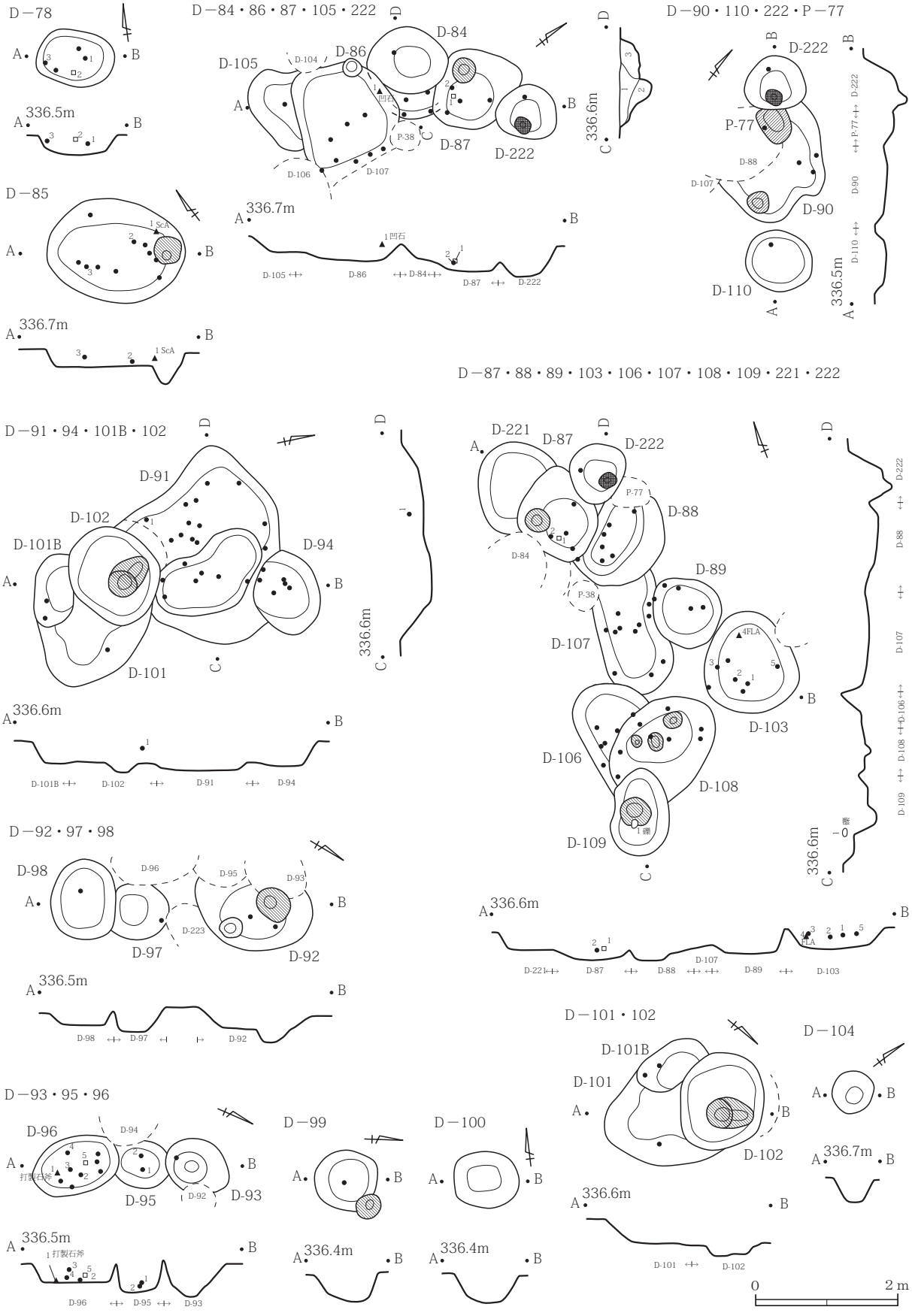
第38図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　土坑（1）



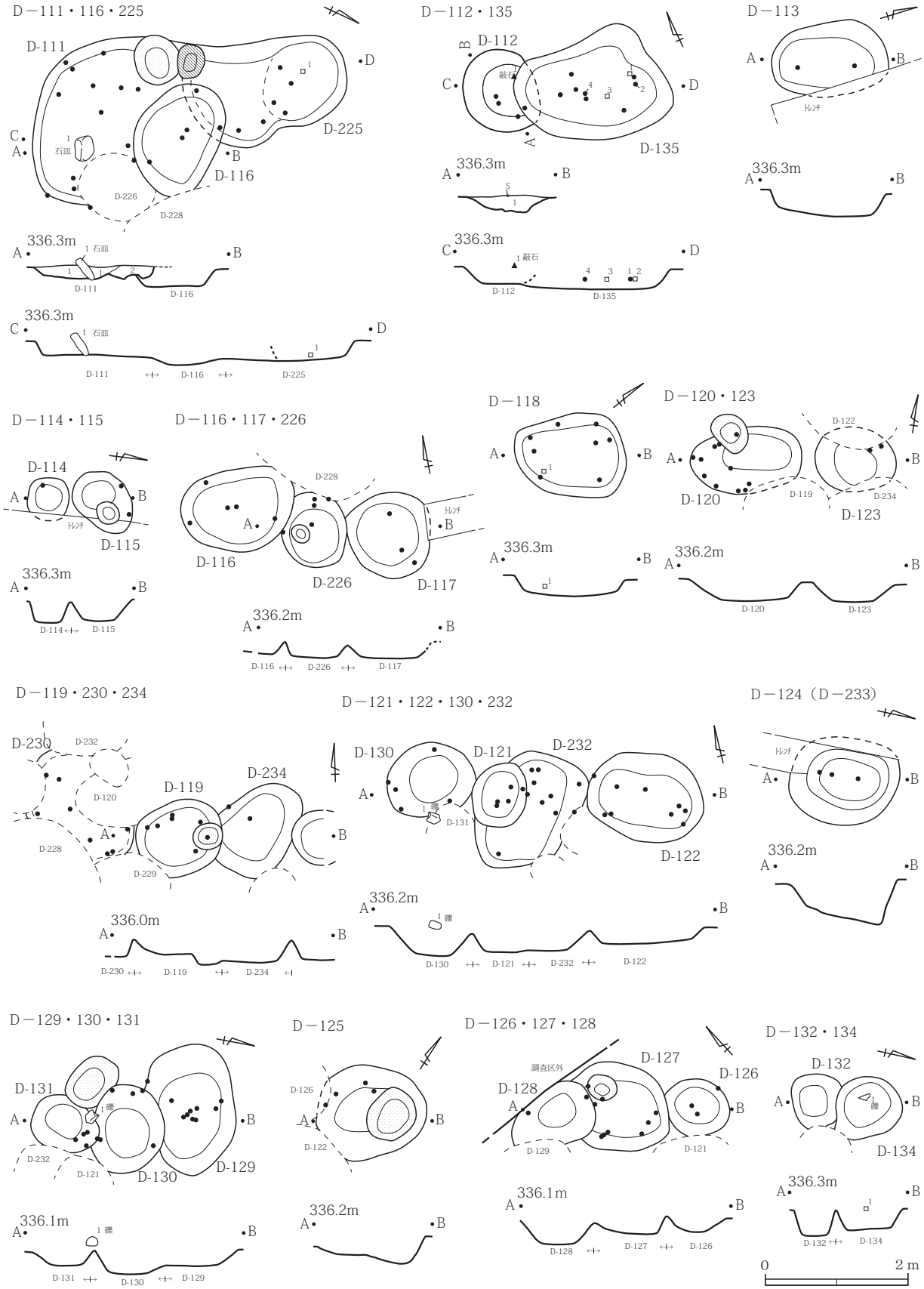
第39図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　土坑（2）



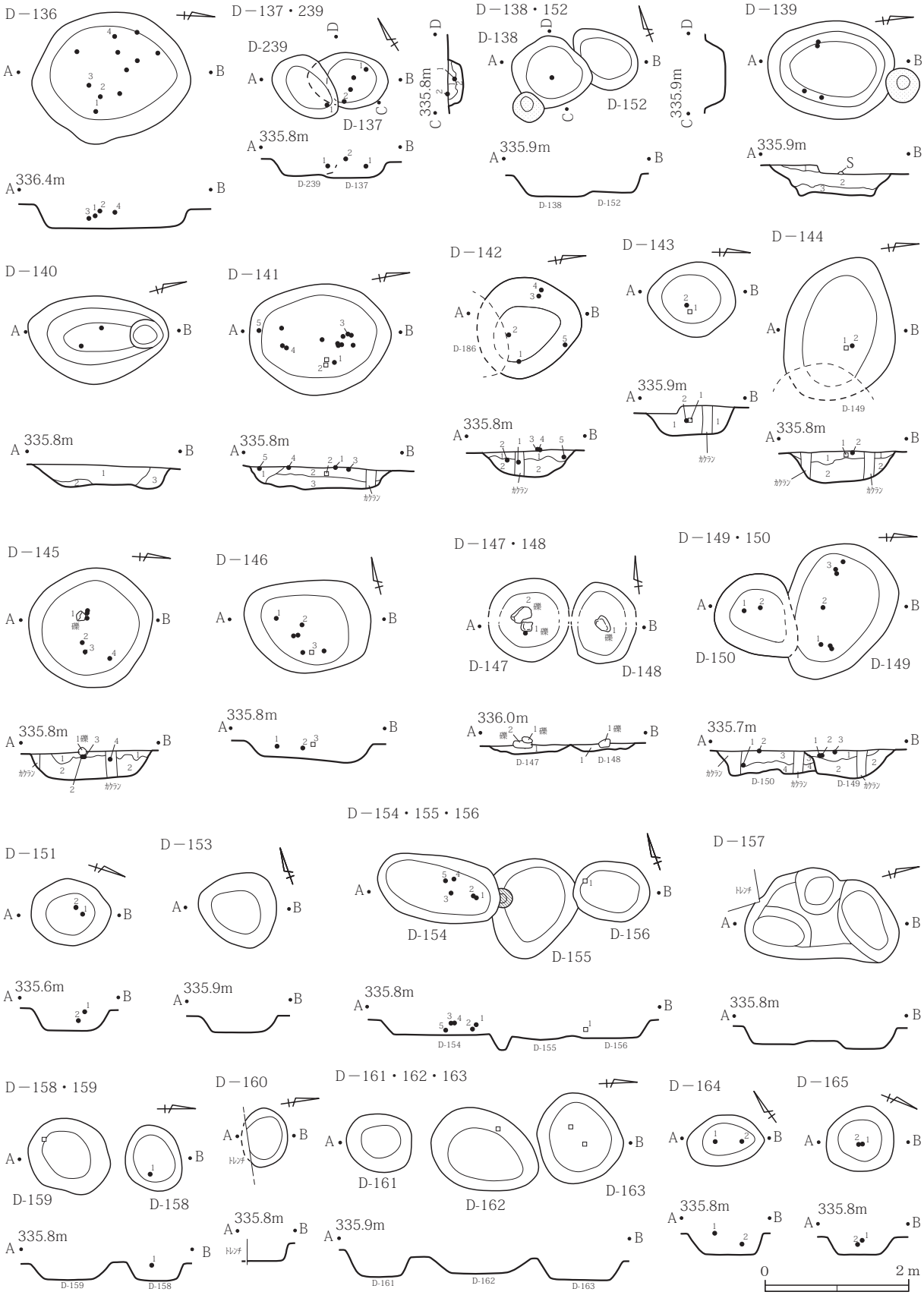
第40図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　土坑（3）



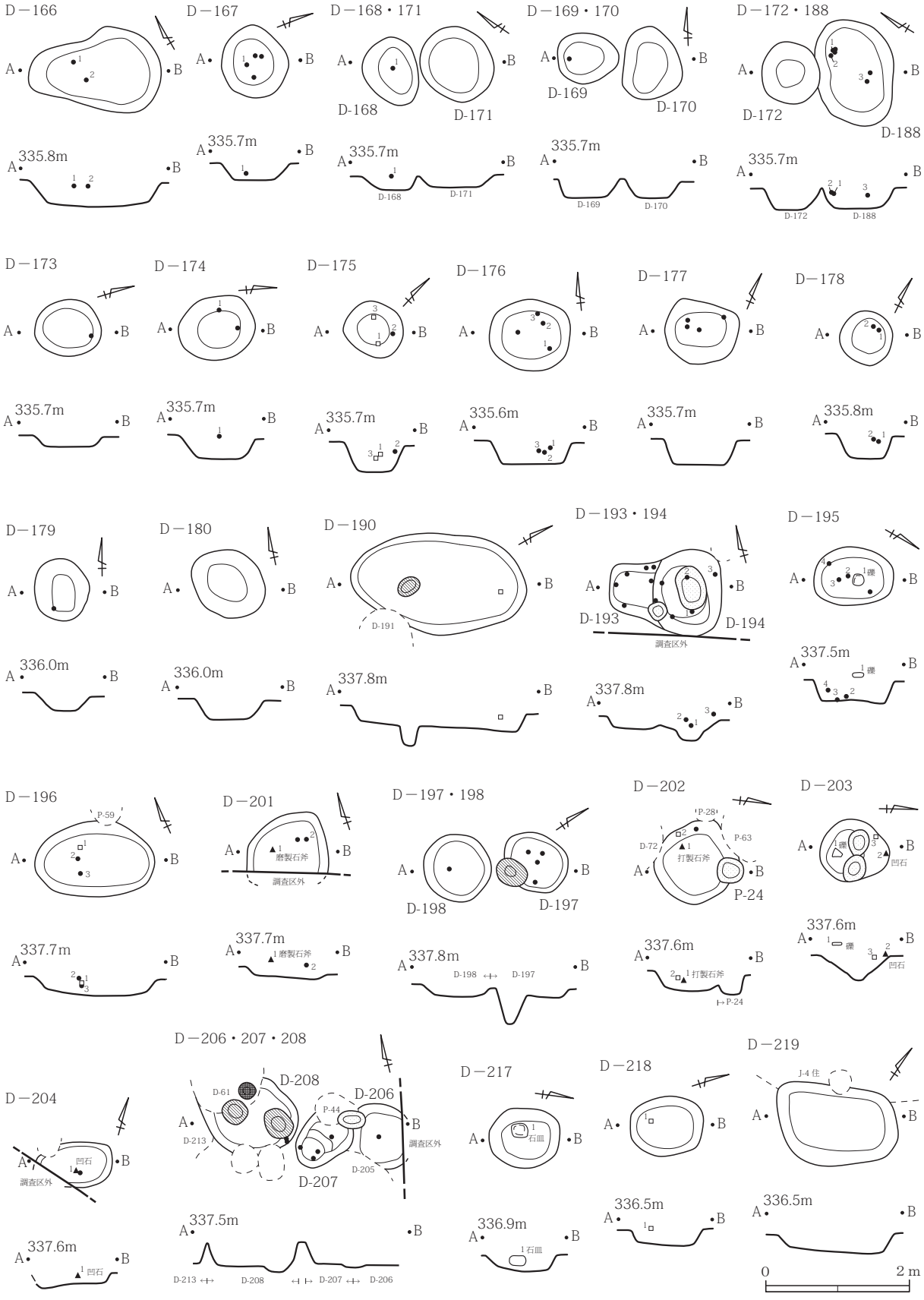
第41図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　土坑（4）



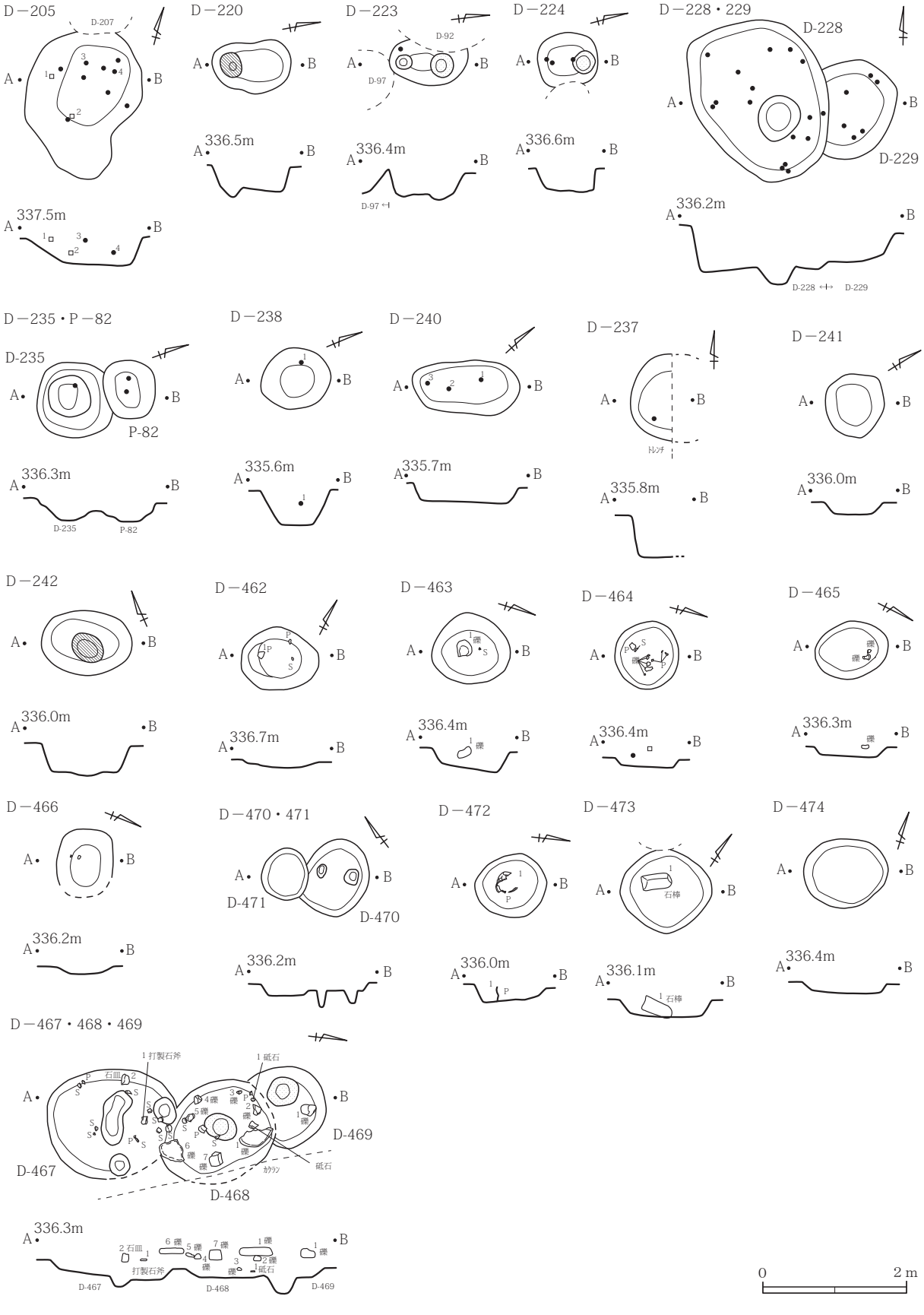
第42図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　土坑（5）



第43図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　土坑（6）



第44図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　土坑（7）



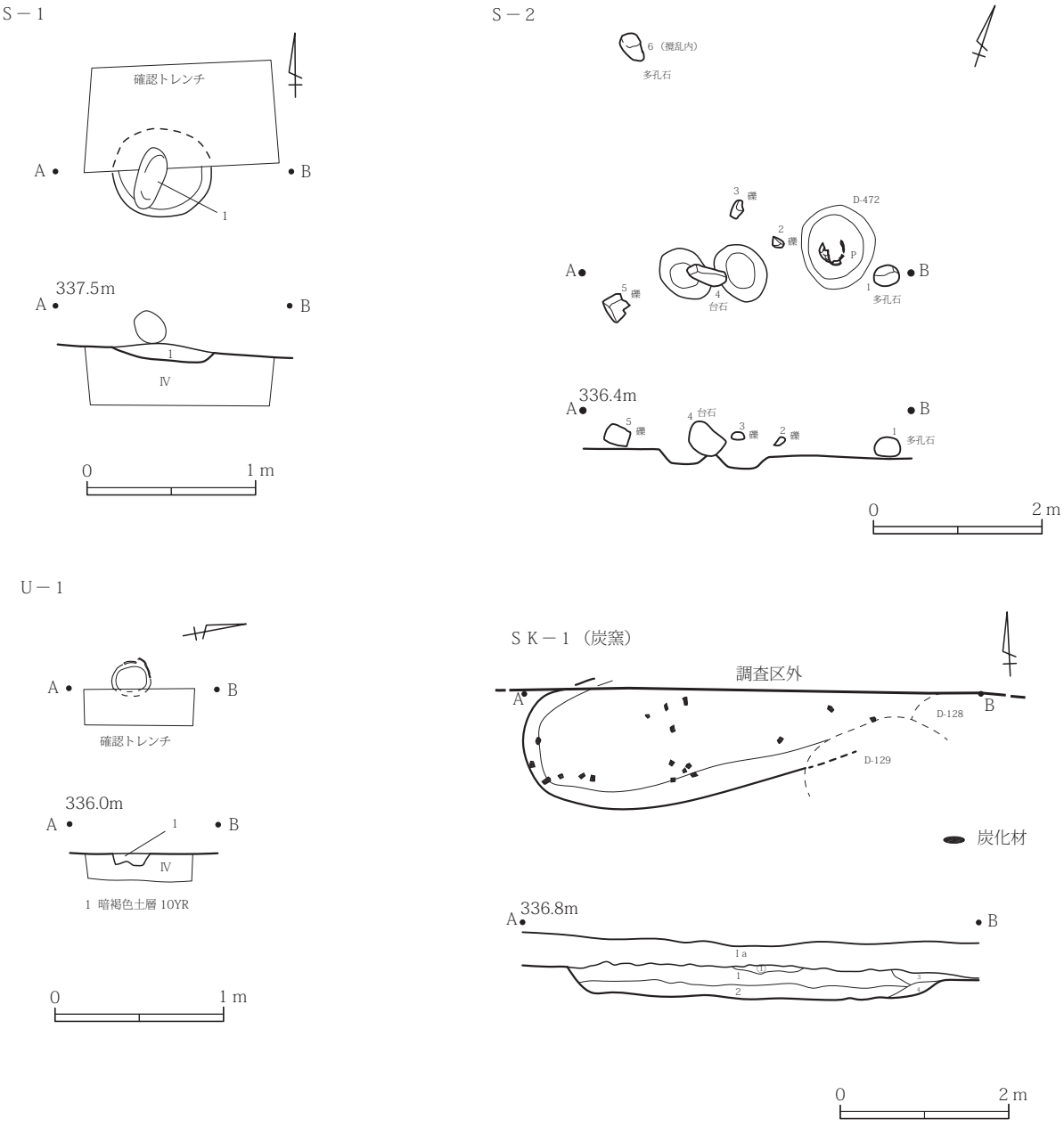
第45図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　土坑（8）

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物					備考
						ＲＰ	ＲＢ	ＹＰ	ＷＰ	炭	
Ｄ－４	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×			Ⅳa層からの掘り込み
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			〃
Ｄ－５	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×			
Ｄ－６	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×		※	Ⅳ層※
Ｄ－７	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			Ⅳ層※
Ｄ－９	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
Ｄ－10・13	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			Ｄ－10　自然層（Ⅳ層）
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			Ｄ－13　自然層（Ⅳ層）
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×			〃
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	×	×			〃
	5	暗褐色土層10YR	5＜1	◎	○	×	×	×			ピット
Ｄ－12	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
	3	暗褐色土層10YR	3＜1	◎	○	※	×	×			
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	×	×			ピット
Ｄ－15	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
Ｄ－16	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×			Ⅳ層※
Ｄ－18	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※		
Ｄ－19	1	褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			Ⅳ層※
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	×			
	3	褐色土層10YR	1＜3	◎	○	※	×	×			Ⅳ層※
Ｄ－23	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
Ｄ－24	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	※			
Ｄ－40	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※			
Ｄ－42	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			別土坑
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×	×	※	
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	◎	○	※	×	※	×		
Ｄ－51	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
Ｄ－52	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			Ⅳ層※
Ｄ－54・55	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			Ｄ－54
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			Ｄ－54　Ⅳ層※
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	◎	○	※	×	×			Ｄ－55
Ｄ－56	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※			
	3	暗褐色土層10YR	3＜1	◎	○	※	×	×			
Ｄ－57	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	×			
	3	褐色土層10YR	1＜3	◎	○	△	×	×			Ⅳ層※
	4	暗褐色土層10YR	1＜4	◎	○	※	×	×			
	5	暗褐色土層10YR	5＜2	◎	○	※	×	×			
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	◎	○	※	×	×			ピット
	7	暗褐色土層10YR	5＜7	◎	○	※	※	×			〃
	8	褐色土層10YR	1＜8	◎	○	△	×	×			
Ｄ－58	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
Ｄ－60・61	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			Ｄ－61
	2	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×			Ｄ－60
	3	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			〃
	4	暗褐色土層10YR	1＜4	◎	○	※	×	×			〃
	5	暗褐色土層10YR	1＜5	◎	○	※	×	×		※	Ｄ－61ｂ（古い土坑）
Ｄ－62	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
	3	褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			ピット　Ⅴ層※
Ｄ－63・64・65	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	※	×	×			Ｄ－65
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			〃
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	◎	○	※	×	×			〃
	4	暗褐色土層10YR	1＜4	◎	○	※	×	×			Ｄ－64
	5	褐色土層10YR	4＜5	◎	○	△	×	×			〃
	6	褐色土層10YR	5＜6	◎	○	△	※	×			〃
	7	暗褐色土層10YR	7＜4	◎	○	※	×	×			Ｄ－63
	8	暗褐色土層10YR	7＜8	◎	○	※	×	×			〃
	9	褐色土層10YR	8＜9	◎	○	△	×	×			〃
	10	褐色土層10YR	8＜10	◎	○	△	※	×			〃

第46図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　土坑（９）

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物					備考
						RP	RB	YP	WP	炭	
D－66	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
D－68	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	×			
D－75	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
D－79・80・81	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			D－79
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			〃
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	×			〃
	4	褐色土層10YR	3＜4	◎	○	△	※	※			〃
	5	暗褐色土層10YR	5＜1	◎	○	※	×	×			〃
	6	暗褐色土層10YR	6＜7	◎	○	※	×	×			D－80
	7	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			〃
	8	暗褐色土層10YR	7＜8	◎	○	※	×	×			D－81
	9	褐色土層10YR	7＜9	◎	○	△	※	※			D－80
	10	褐色土層10YR	9＜10	◎	○	△	△	※			〃
	11	褐色土層10YR	8＜11	◎	○	△	※	×			D－81
	12	暗褐色土層10YR	11＜12	◎	○	○	※	△			〃
D－83	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	※	×			
	3	暗褐色土層10YR	3＜1	◎	○	※	※	×			
D－84	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	×			
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	◎	○	※	×	×			
D－111	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
D－112	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
D－139	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×		※	
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	※	×			
D－140	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※			
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	◎	○	※	×	×			
D－141	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			ピット
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×			
D－142	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
D－144	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
D－145	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			
D－147・148	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		※	
D－149・150	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			D－149
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			〃
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	◎	○	※	×	×			D－150
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	×	※			〃

第47図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　土坑（10）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物					備考
						RP	RB	YP	炭	As-B	
SＫ－1	①	黒褐色土層10YR	Ia<①	◎	△	×	×	×		○	硬化
	1	黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×	※	◎	
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	△	△	×	×	×	◎	◎	
	3	黒褐色土層10YR	1＜3	△	△	×	×	×	△	○	
	4	黒褐色土層10YR	2＜4	△	△	×	×	×	△	○	
S－1	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×			

第48図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　集石・埋設土器・炭窯

深鉢の大きさに合わせて掘削されたものと推定される。

遺物分布（付図７～９）

遺物は大道北横道東遺跡と同様、遺構と重複するように遺物包含層を形成していた。縄文土器の破片が主体で完形は認められなかった。

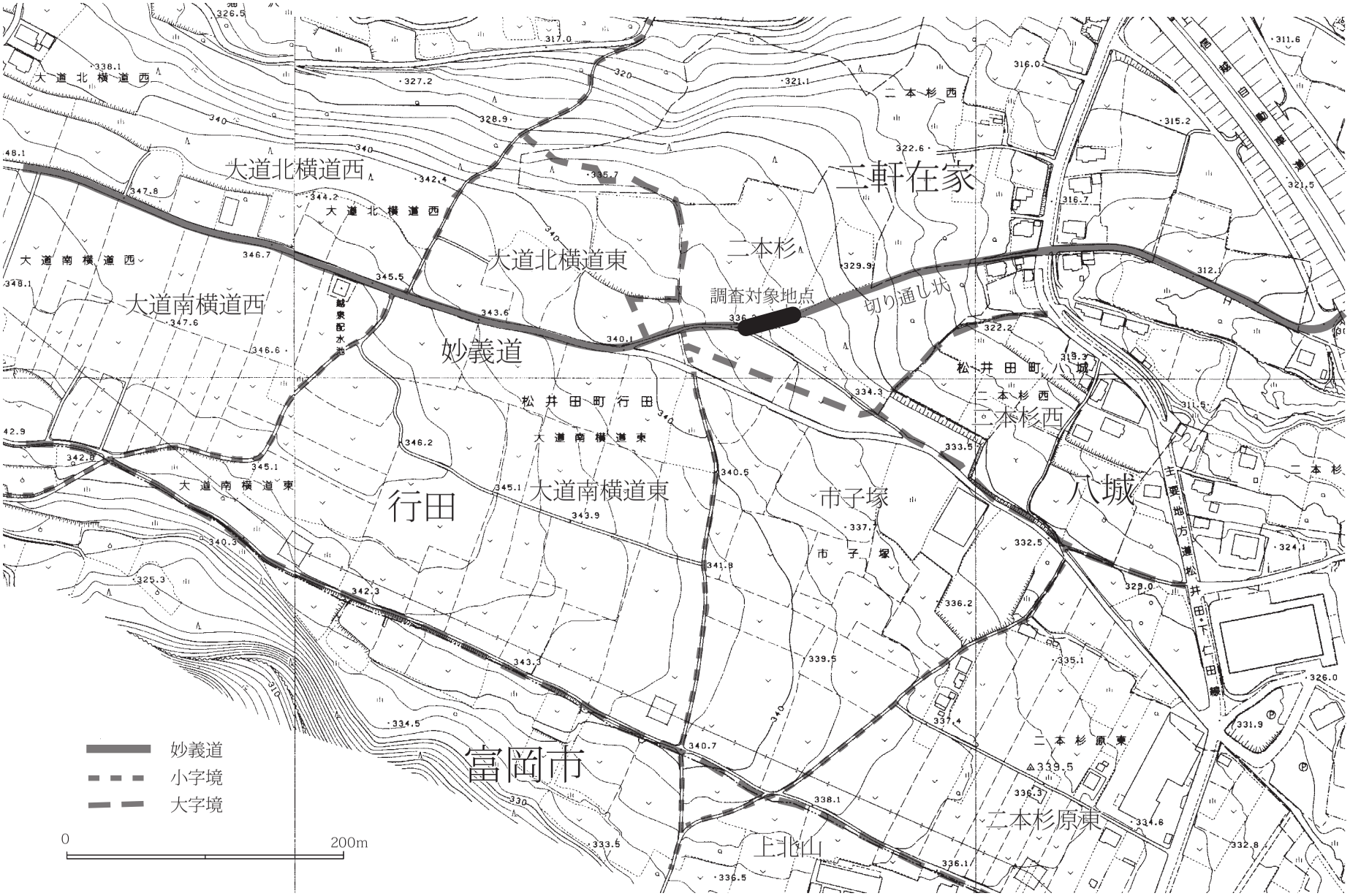
（２）中世の遺構（第48図）

浅間Ｂ軽石に覆われた炭窯１基（ＳＫ－１）が確認された。覆土には大量の炭化材破片が混入する。東西方向に主軸をもつ溝状の遺構である。

（３）近世の遺構（第49～51図）

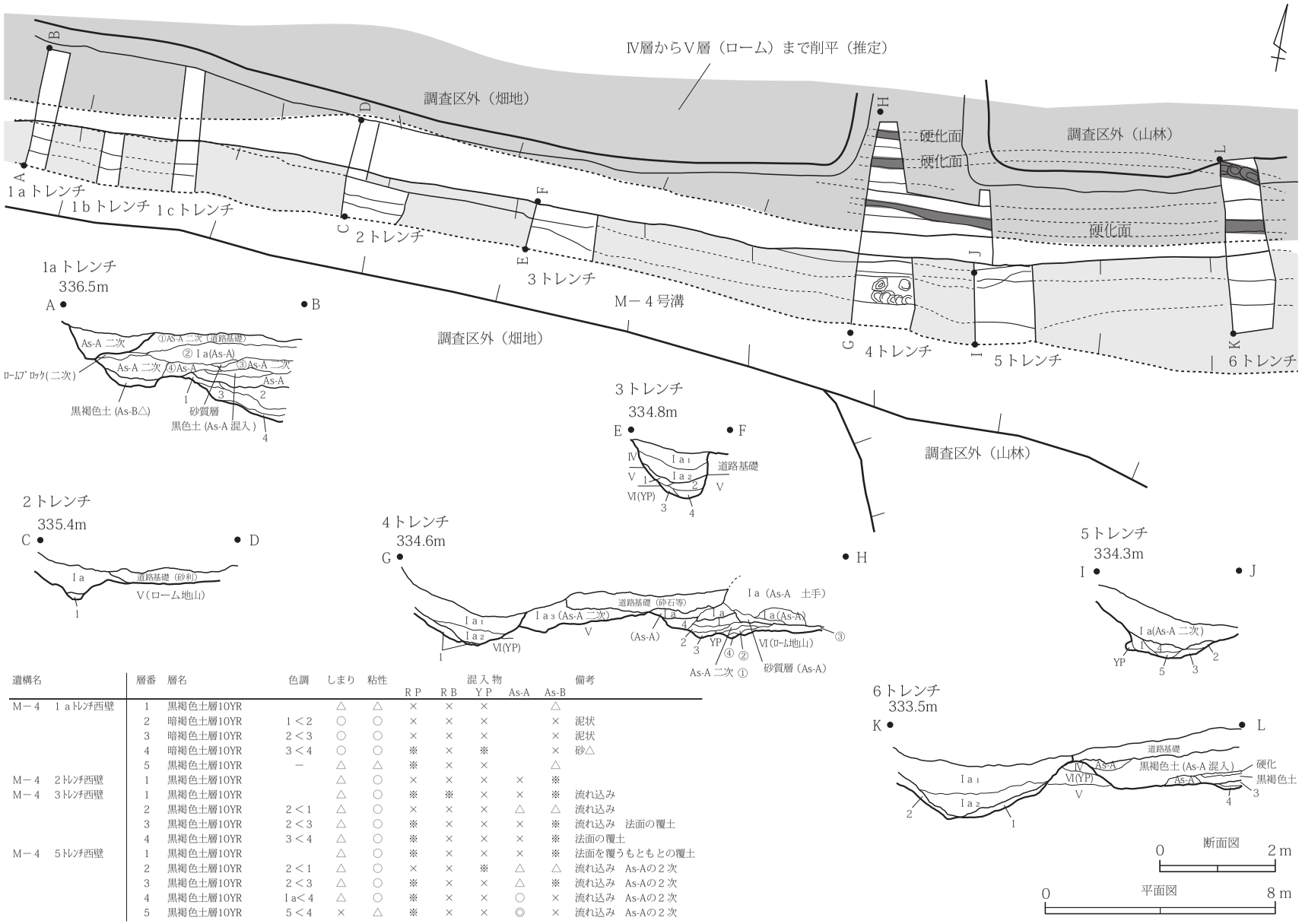
「妙義道」と推定される道路遺構を確認した。遺構は、斜面に直交して県道松井田･下仁田線まで切り通し状（Ｖ字状）に切り開かれており、現在も地割りとして残存していた。調査区内で現況に対して道路南側に平行して浅く窪んだ部分にトレンチ調査を実施したところ、溝（Ｍ－４号溝）であることを確認した。この溝は、断面が鍋底形を呈し、底面の一部で連続するピット、硬化面が検出された。埋没状況を見ると浅間Ｂ軽石を混入する土砂が底面を覆っており、その後に土砂の堆積が急速に進み、上部を浅間Ａ軽石の二次堆積層で覆われていた。また、道路の北側部分については、ローム層まで掘削による人為的な落ち込みを確認した。この落ち込みの法面あるいは底面には直交する筋状の硬化面が数カ所検出された。検出した遺構が溝であるかは、調査では確認できなかった。

遺構の年代は、浅間Ａ軽石の堆積状況から、降下以前（1783年以前）に掘削された遺構と推定される。



第49図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　妙義道の位置と周辺部の字境

第50図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　妙義道調査対象区域の地形図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	備考
M－4　1aﾄﾚﾝﾁ西壁	1	黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×		△	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		×	泥状
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×		×	泥状
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※		×	砂△
	5	黒褐色土層10YR	－	△	△	※	×	×		△	
M－4　2ﾄﾚﾝﾁ西壁	1	黒褐色土層10YR		△	○	×	×	×	×	※	
M－4　3ﾄﾚﾝﾁ西壁	1	黒褐色土層10YR		△	○	※	※	×	×	※	流れ込み
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	△	○	×	×	×	△	△	流れ込み
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	△	○	※	×	×	×	※	流れ込み　法面の覆土
	4	黒褐色土層10YR	3＜4	△	○	※	×	×	×	※	法面の覆土
M－4　5ﾄﾚﾝﾁ西壁	1	黒褐色土層10YR		△	○	※	×	×	×	※	法面を覆うもともとの覆土
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	△	○	×	×	※	△	△	流れ込み　As-Aの２次
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	△	○	※	×	×	△	※	流れ込み　As-Aの２次
	4	黒褐色土層10YR	Ⅰa＜4	△	○	※	×	×	○	×	流れ込み　As-Aの２次
	5	黒褐色土層10YR	5＜4	×	△	※	×	×	◎	×	流れ込み　As-Aの２次

第51図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　道路状遺構

6　行田大道南横道西遺跡

（1）縄文時代の遺構（第52～122図・付図10～12）

前期（有尾・黒浜式期、諸磯ｂ式期）と中期（五領ヶ台式期、阿玉台・勝坂式期、加曽利Ｅ式期）の遺構が確認された。Ａ区とＣ区で前期の小規模集落、Ａ区とＢ区で中期後半を主体とする住居と土坑で構成される拠点的集落（環状集落の一部と推定）が確認された。確認した遺構は、住居跡38軒（Ｊ－１～38号、拡張除く）、土坑399基（Ｄ－１～410号、不明・欠番を除く）、竪穴状遺構４基（Ｔ－１～４号）、集石６基（Ｓ－１～６号）、埋設土器４基（Ｕ－１～５号・欠番を除く）である。

住居跡（第52～92図）

前期の住居跡Ａ区２軒、Ｃ区２軒である。Ｊ－９号は、有尾･黒浜式期で長台形を呈した竪穴住居である。柱穴は６本（補助柱除く）、壁周溝が回り、床面に２ヶ所の炉、南側に入口施設（ピット２ヶ所と溝）等が認められた。３区床面では、大形の棒状礫が出土した。なお、本住居跡の覆土内13区で確認された大形台石は、住居覆土内に存在した土坑（諸磯ｂ式期）の遺物である。Ｊ－11号は、炉、柱穴が確認されなかったが、前期後半の遺物が覆土内から出土したため住居と認識した。Ｊ－36号は、隅丸方形となる構造と推定される。Ｊ－37号とほぼ同時期の前期前半と考えられる。両住居とも覆土内から土器の出土は少なかったが、チャートの遺物（石鏃製作関連遺物）が多数出土した。

中期の住居跡はＡ区12軒、Ｂ区22軒（拡張・一部重複するものを除く。Ｊ－32号は確認のみ）である。形態は、平面が円形または楕円形をするものが主体で、中期後半においてはＡ形態とＢ形態の異なる構造が認められた。この傾向は、横野台地で確認されている同時期の住居構造と共通する。

中期前半の住居跡は、Ｊ－１、15、24、35号の４軒である。Ｊ－１号は、住居覆土内からは五領ヶ台式～阿玉台式の土器が出土した。Ｐ－２は、覆土に焼土が若干混入していたことにより炉と推定される。Ｊ－15号は、小形の住居で主軸をずらして柱が建て替えられている。床面には炉の礫が散在する。Ｊ－24号は、６本柱をもち周溝がある。床面に深鉢口縁部が埋設されている。Ｊ－35号は、周溝をもつ４本柱と推定される。

中期後半の住居跡は、Ｊ－２～８、10～14、16～23、25～34、38号の30軒である。住居跡の時期は、加曽利ＥⅢ式を主体とするが、ＥⅠ式及びＥⅡ式に遡れる住居も認められた。

Ｊ－2号は、壁際に柱穴が回るもので、覆土内に大量の土器と共に大形の礫が多数混入していた。Ｊ－３号は４本柱に壁際に１本補助柱が確認された。住居覆土には、大量の遺物が廃棄されていた。Ｊ－４号は、５本柱の大形住居で南側の壁際に入口施設の柱穴（小ピット）が確認された。また、柱穴の脇の床面において逆位の状態で深鉢上半部が確認された。炉は底面に深鉢を埋設した痕跡を残し、廃棄された状態で確認された。Ｊ－５～７号ともに掘り込みが浅く、床面に小ピットが分布するもので炉はない。Ｊ－８号は、隅丸方形をした４本柱の住居で周溝には小ピットが認められた。住居南引きの張り出しは、入口部分と考えられる。炉の礫は一部抜き取られ、床面に散在する。Ｊ－10号は、掘り込みが浅いが、炉が存在し、柱穴５本が規則的に並ぶ。Ｊ－12号は、炉は確認されたが、柱穴は判然としない。Ｊ－13号は、掘り込みが浅く、やや不整円形であるが、柱穴は４本で床面の東において逆位の状態で深鉢上半部が確認された。Ｊ－14号は、壁際に柱穴が存在する。炉は北寄りに位置し、大形礫で囲まれている。Ｊ－16号は、東側と北側に張り出しているが、この部分は掘りすぎによる。本来は楕

円形であったと推定される。柱穴は６本で炉が中央やや北寄り存在する。住居覆土には大量の遺物が廃棄されており、７区付近の１層中で集石（Ｓ－４号）を確認した。覆土中であったため掘り込み、遺構の存在は確認できなかった。Ｊ－17号は、炉内に大量の礫が廃棄されていた。住居南では、周溝内で礫（１）の下で大形土器破片（２）が確認された。Ｊ－18号は、楕円形で周溝が全周し、６本の柱穴が存在する。中央と北側の柱の差し替えが認められた。南側部分の周溝付近に存在するピットは入口施設の可能性がある。住居覆土内には遺物が大量に廃棄され、５、６区付近の１層中で集石（Ｓ－５号）が確認された。掘り込み、遺構範囲は不明である。西側の周溝内では石棒が出土した。Ｊ－19号は、当初の調査で確認したＪ－19号Ａと調査区拡張により確認したＪ－19号Ｂに分けられる。前者は、五角形となる炉を確認したが柱穴は不明である。Ｊ－19号Ｂは、周溝と柱穴が確認され、調査によって少なくとも拡張・重複により５軒分存在したものと考えられる。Ｊ－20号は、中央に炉と推定される浅い掘り込みを確認した。住居の一部が重複するＪ－21号とＪ－22号は、Ｊ－21号が新しい。２軒とも６本柱だが、建て替えは認められなかった。また、南側の周溝部分にあるピットは入口施設と考えられる。Ｊ－21号の炉は、埋設土器が残存し、石皿片が廃棄されていた。また、炉とその周辺には広範囲で焼土が認められた。Ｊ－22号の炉は、炉石が抜き取られていた。両住居とも覆土内には大量の遺物が廃棄されていた。Ｊ－23号は、Ｊ－30号と接して確認された。Ｊ－23号は、６本柱で南側周溝付近に入口施設と考えられるピットが存在する。住居床面の東壁際において逆位の状態で深鉢上半部が確認された。また、２区の１層上部では、集石（Ｓ－６号）を確認した。Ｊ－30号は、掘り込みが浅く、柱穴が判然としない。Ｊ－25号は、平地式で柱穴は外周する。Ｊ－26号は調査段階で確認したＪ－28号Ｂと拡張によって確認されたＪ－26号Ａに分けられる。Ｊ－26号Ｂは、ピット、周溝等を確認したが、構造は不明である。Ｊ－27号は、包含層調査で遺物を取り上げ、床面を精査したところ、多数の柱穴、周溝が確認された。少なくとも２回以上の拡張、柱の付け替えがあったと考えられる。Ｊ－28号は、柱穴が周溝の一部に重なるもので、Ｐ－5内からは大形土器片が出土した。Ｊ－29号は、ほとんどが調査区外のため、構造は不明である。Ｊ－30号は、掘り込みが浅く、範囲が不明瞭である。五角形の炉は、遺存状態が良い。Ｊ－23号と接するが、本住居が古い。覆土内で台石（１）の破片が出土した。住居の痕跡のみ確認したＪ－32号に重複するＪ－34号は、掘り込みが浅く、７本柱と推定される。炉は四方を大形礫で囲むもので、底面には焼土痕が残る。Ｊ－33号は、包含層調査により確認した住居である。調査の制限により全体を把握することはできなかったが、床面精査により、大形のＪ－33号Ａと小形のＪ－33号Ｂに分けられ、Ｊ－33号Ａが最も新しい。炉１はＪ－33号Ａに伴うもので、炉石の間に直立した石棒が組み込まれていた。炉２は、炉１より古く、埋め戻されていた。Ｊ－33号Ｂの炉は不明である。Ｊ－38号は、炉と住居全体の約１／４を確認した。

土坑（第93～107図）

土坑は、南北平均134㎝、東西平均130㎝、深さ平均30㎝である。分類可能な土坑395基については、平面Ａ形態272基（69％）、Ｂ形態91基（23％）、Ｃ形態９基（２％）、Ｄ形態22基（６％）である。断面１形態176基（44.5％）、２形態217基（55％）、不明２基（0.5％）である。覆土はⅠ形態388基（98％）、Ⅱ形態６基（1.5％）、 不明１基（0.5％）である。本遺跡では、周辺遺跡と比較して円形が主体で南北方向を主軸するものが多い。土坑の形態的特徴は、大道南横道東遺跡、二軒在家二本杉Ⅱ遺跡と同様である。前期の土坑分布は、Ａ区、Ｃ区で確認されたが、密集せず、散漫な状況である。

中期の土坑分布は、Ａ区において２Ｕグリッドラインを境にとして土坑の分布に差が認められた。南

側の土坑分布は、密集すること無く、散漫な状況で住居との重複も少なかった。一方、北側では２か所で分布の集中域（２Ｎ～２Ｔグリッドラインで39～44のグリッドラインと46～52グリッドライン）が認められた。北側の土坑群は互いに空白地を挟んで土坑が分布しており、視覚的には環状となっている。また、この範囲では、住居との重複がほとんどみられないことから、居住域とは別の目的で土坑群が形成されたものと考えられる。土坑の形態は、浅いもののが主体で土坑内には完形土器や残留物は残されておらず、覆土内には大小様々な土器破片、石器、大形礫等が混入し、貯蔵を目的とした状態ではなかった。このことから、土坑の用途・機能については、個々の土坑の様相、分布状態からみて土坑墓の可能性があげられ、確認された土坑群の範囲を墓域として利用していたものと考えられる。この墓域の外側に住居が分布している状況で、居住域と墓域が同一集落内に存在する様相を示した遺跡として位置づけられる。Ｂ区では、土坑が住居と重複するもののＡ区とは分布状況の密度が異なることから、土坑群の外側に存在した土坑であったと考えられる。Ａ区で確認された密度の高い土坑群は、集落の核となるものとして考えられる。

特徴的な土坑は、土坑内に大形石器や礫が含まれるもの（Ｄ－１、174、183、327、337、355、373号等）、完形土器が置かれたもの（Ｄ－306号）または廃棄したもの（Ｄ－291号）、覆土内に埋設土器が存在するもの（Ｄ－289、351号等）、小礫が集中するもの（Ｄ－302号等）、石棒・棒状礫が出土するもの（Ｄ－247、387号等）、断面箱形で底部付近に磨石が出土するもの（Ｄ－208号）等があげられる。

竪穴状遺構（第108図）

Ｔ－１、２、４号は、底面に柱穴と考えられる浅いピットが確認され、上屋があった可能性がある。Ｔ－２号は、覆土からは完形深鉢、石製品、大形礫等が出土した。土器は五領ヶ台式期を主体とする。Ｔ－３号は底面に接して大形礫が確認されたが、遺構に伴うかは不明である。時期は中期である。

集石（第109図）

土坑状の掘り込みをもつもの（Ｓ－１～３号）と住居跡の覆土内で確認されたもの（Ｓ－４～６号）に分けられる。時期は中期である。

埋設土器（第110図）

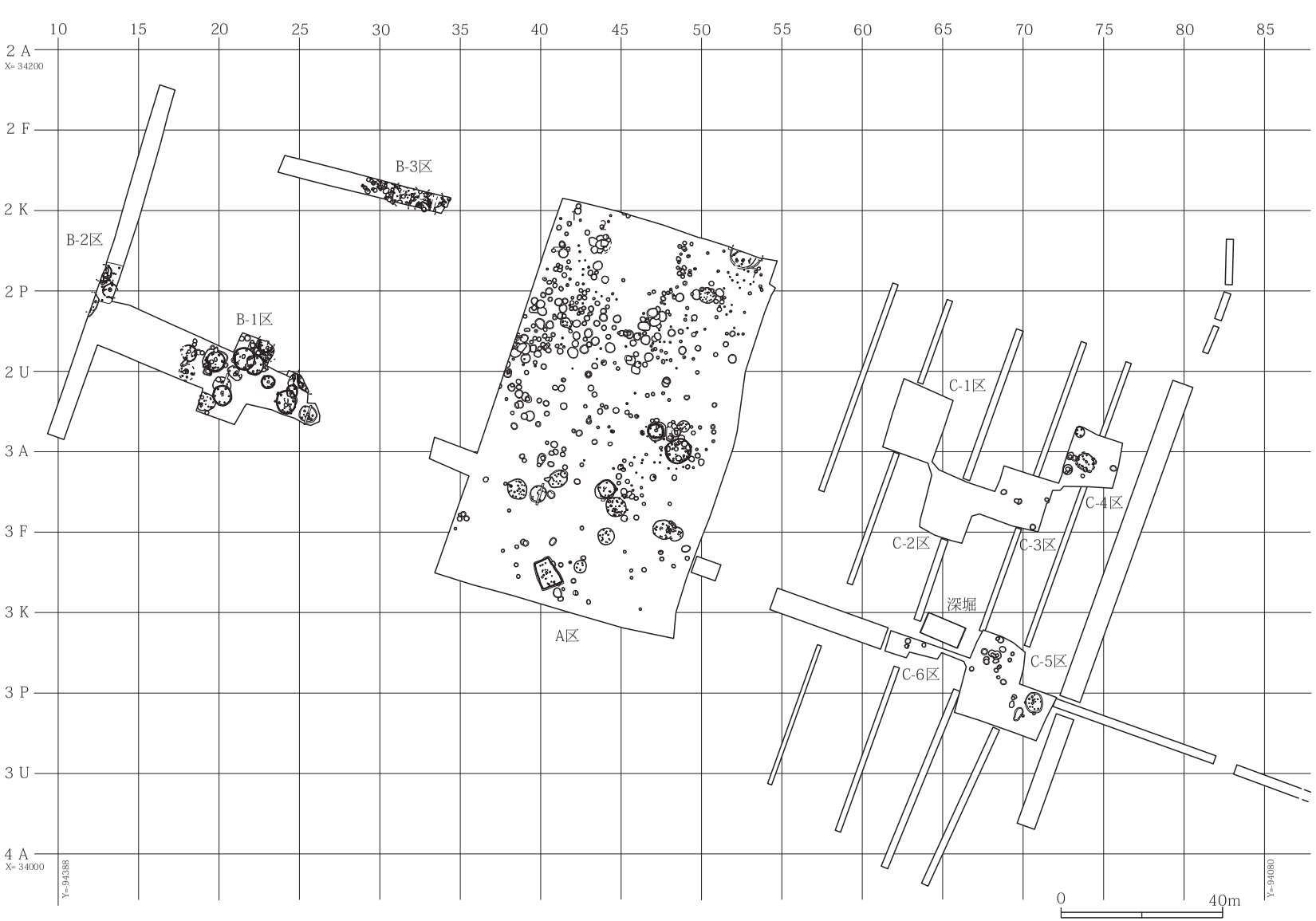
土坑状の掘り込みをもつもの（Ｕ－１、２、４号）と掘り込みが判然としないもの（Ｕ－５号）に分けられる。時期は中期である。

遺物分布（第111～122図）

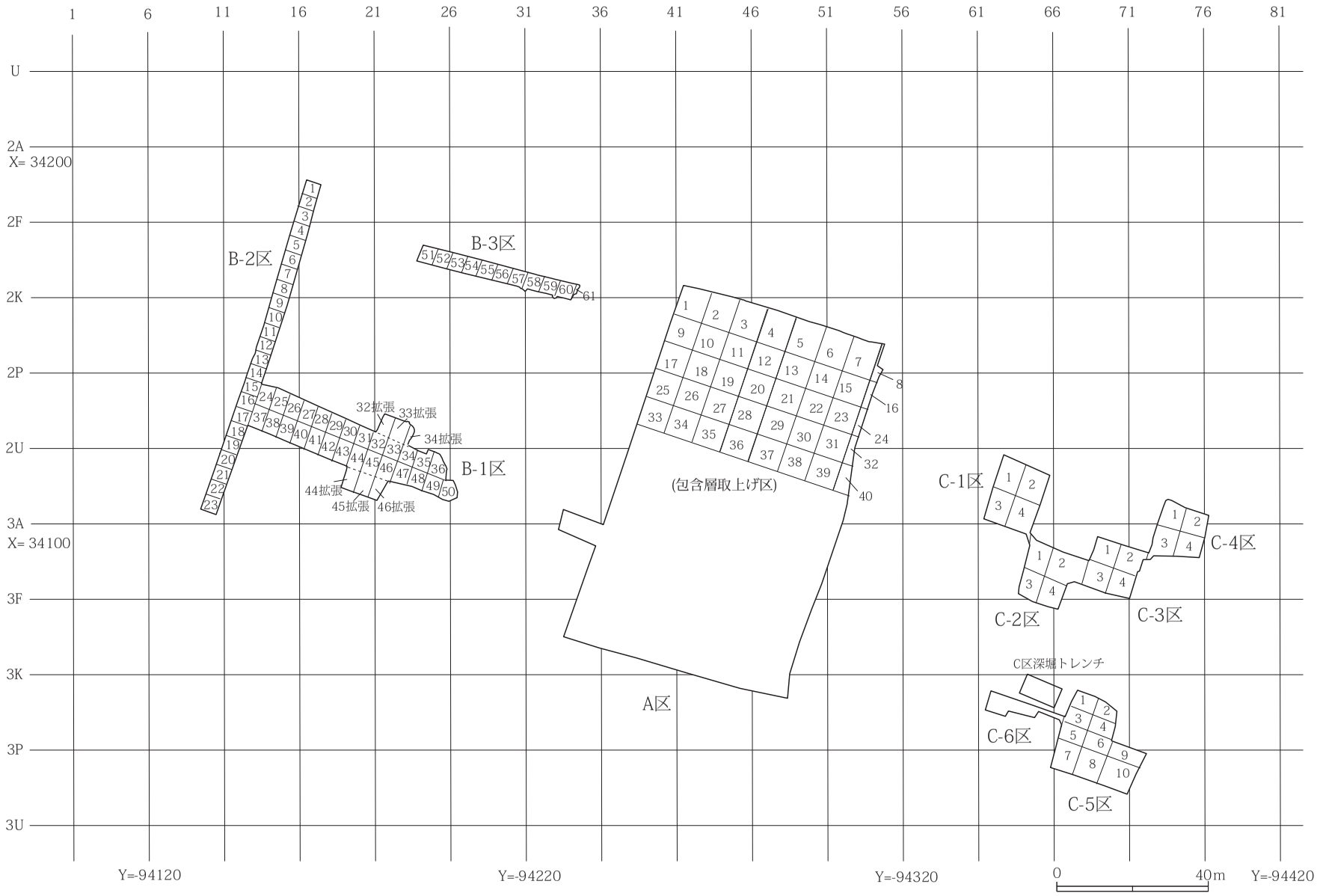
Ａ区では、遺物の取り上げを包含層調査（１次）とグリッド調査（２次）に分けて実施した。調査区のほぼ全域で遺物は分布している。包含層では25区で小型の黒曜石製石匙が出土した。Ｂ区では、遺構が密集する範囲では多数の遺物が出土したが、その範囲以外においては、撹乱が著しいため、遺物の出土は少なかった。Ａ区・Ｂ区とも遺物は中期を主体とする。Ｃ区では、前期と中期が混在する遺物包含層を確認した。土器についてはＡ区・Ｂ区と比較してやや散漫な状況であった。

（２）中世の遺構（第110図）

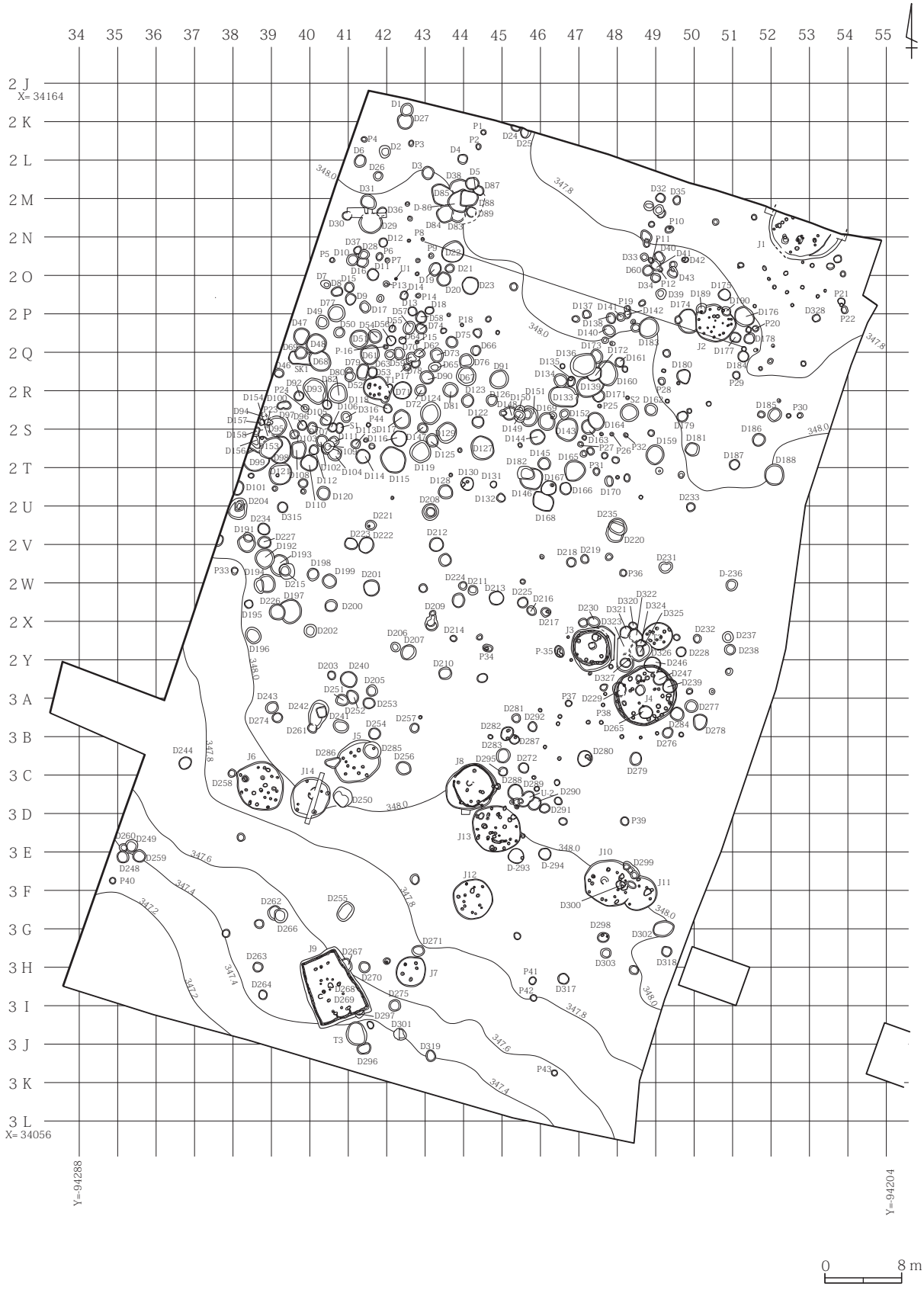
浅間Ｂ軽石、炭化材破片が混入する炭窯が確認された。深さは浅く、縄文時代の土坑と重複していたため、痕跡のみで遺存状態は良好ではない。



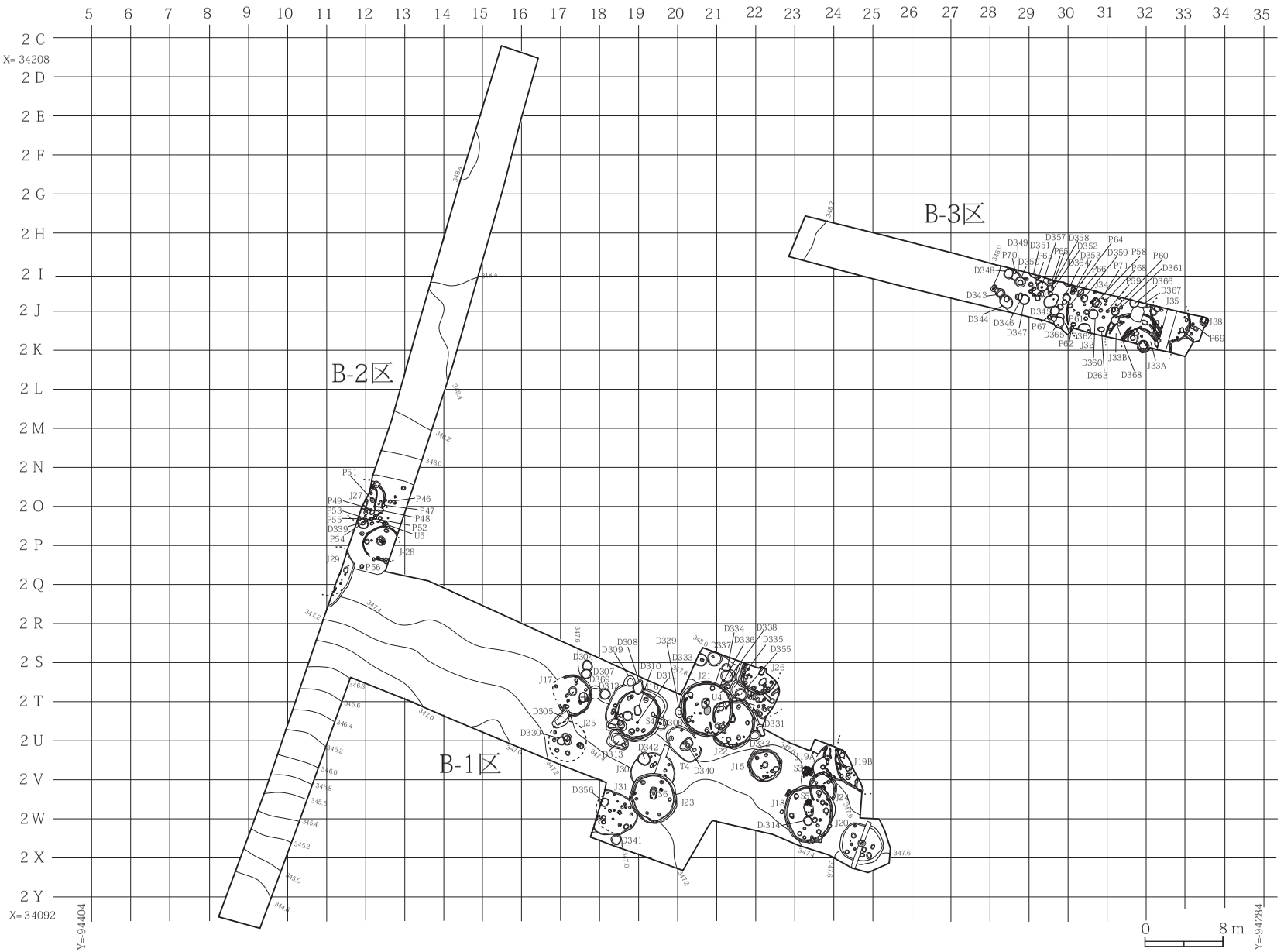
第52図　行田大道南横道西遺跡　調査区位置図



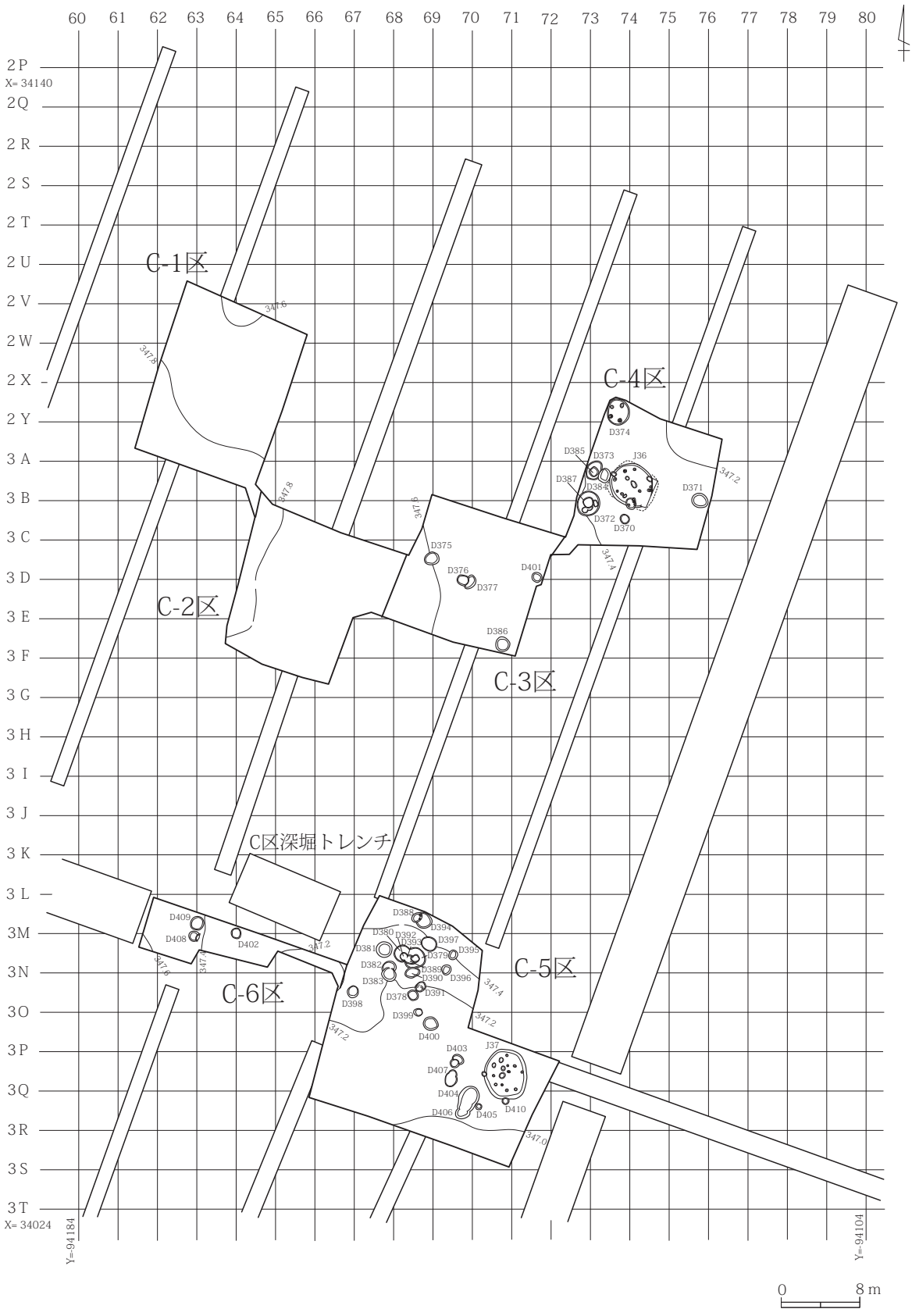
第53図　行田大道南横道西遺跡　調査区グリッド設定図



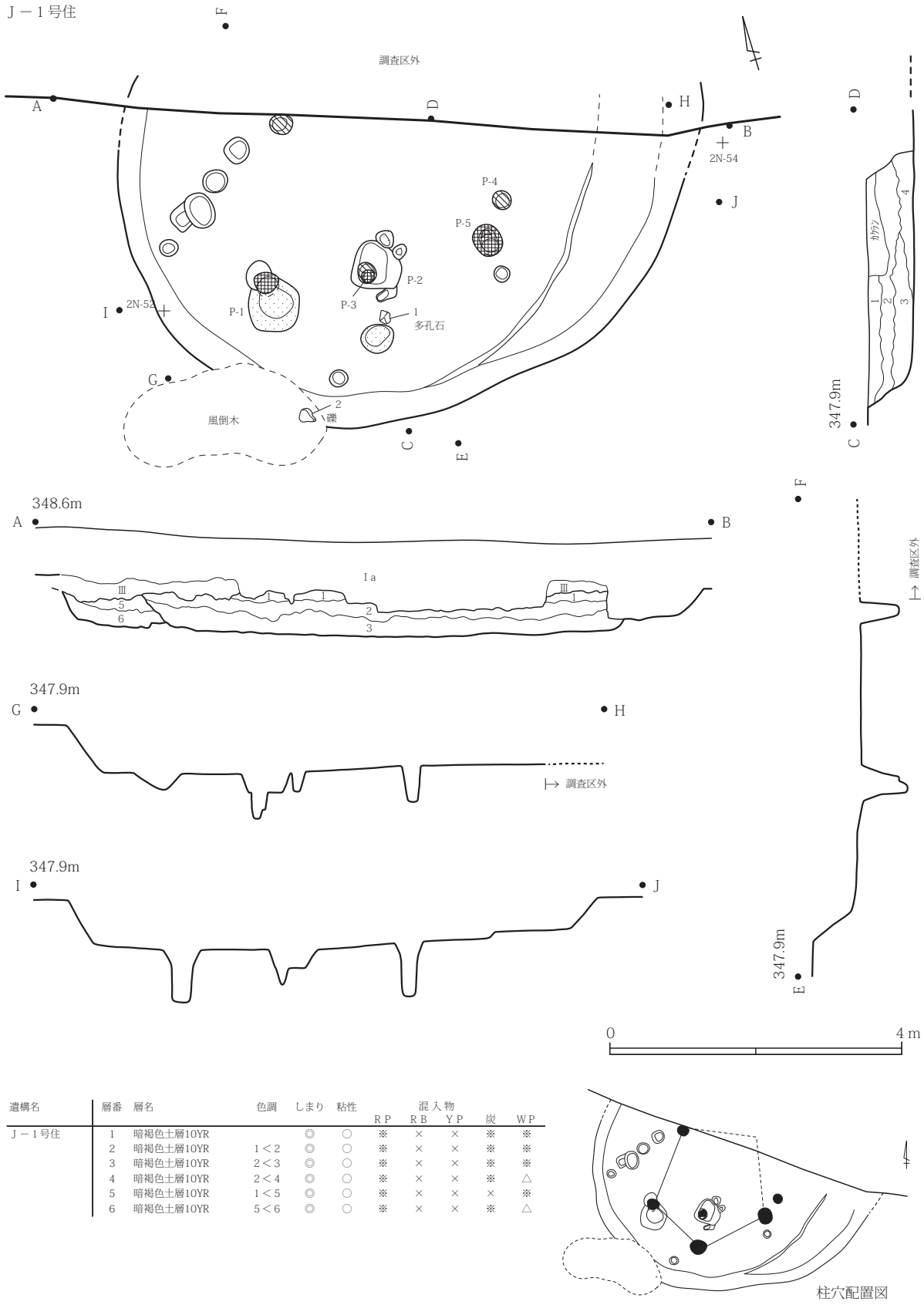
第54図　行田大道南横道西遺跡　A区全体図



第55図　行田大道南横道西遺跡　B区全体図

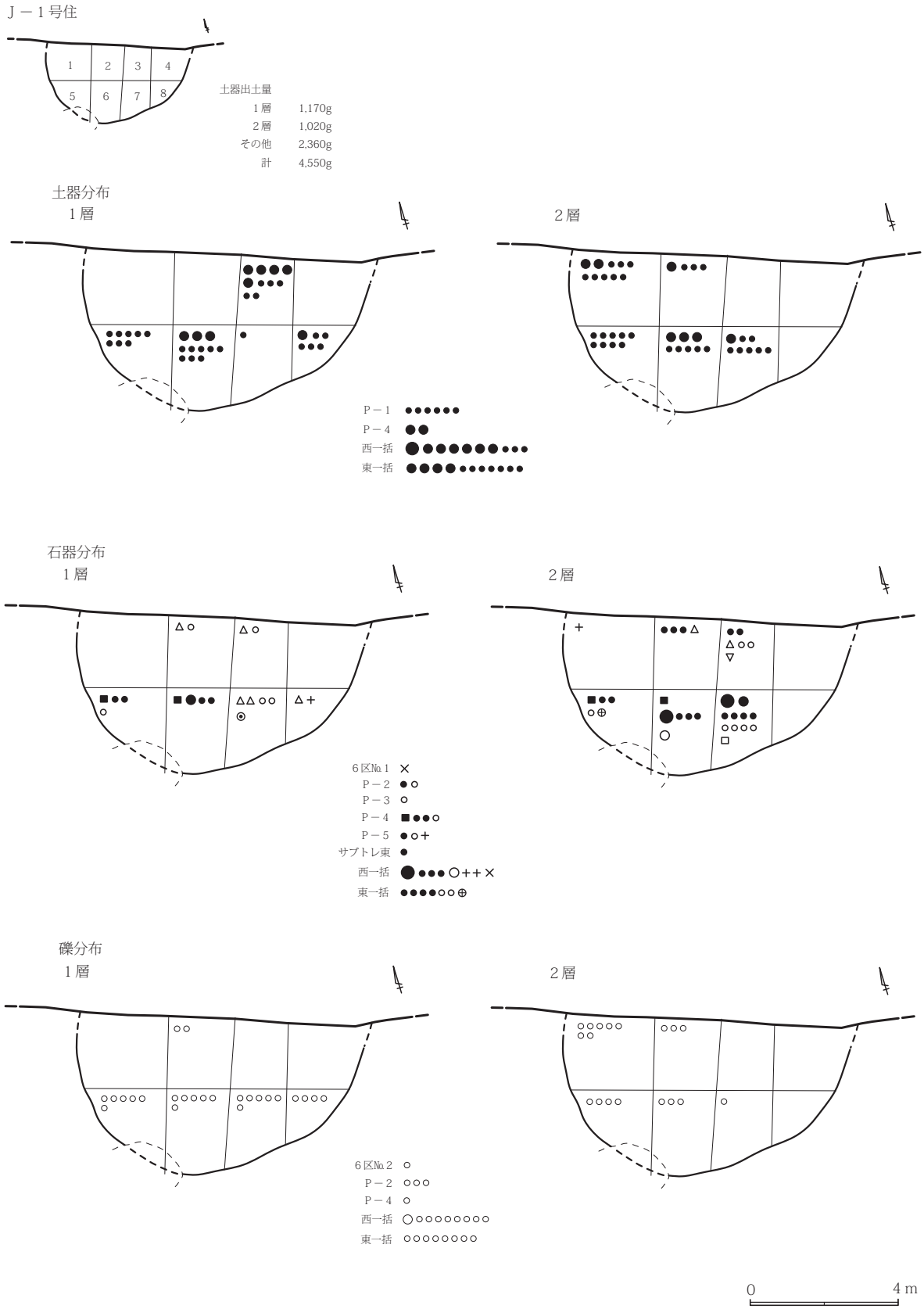


第56図　行田大道南横道西遺跡　C区全体図



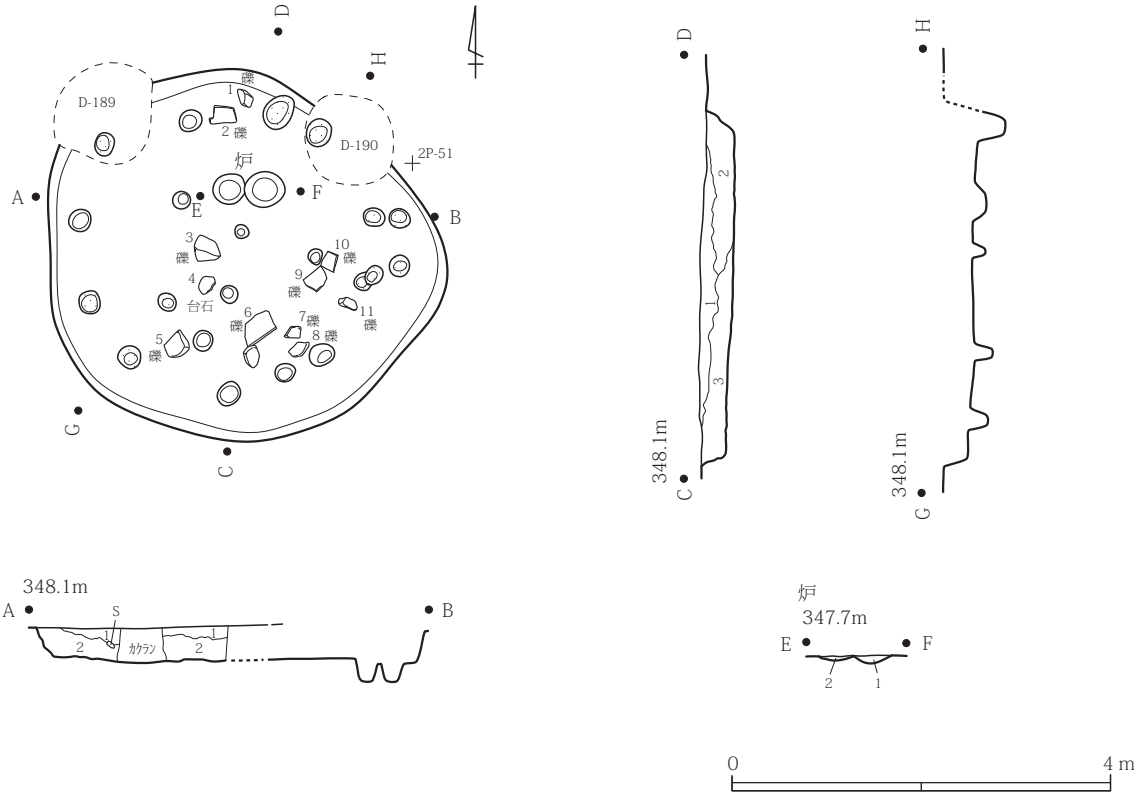
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	WP
Ｊ－１号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×	※	※
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	◎	○	※	×	×	※	△
	5	暗褐色土層10YR	1＜5	◎	○	※	×	×	×	※
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	◎	○	※	×	×	※	△

第57図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－１号住居跡（１）



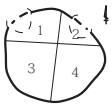
第58図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－１号住居跡（２）

Ｊ－２号住



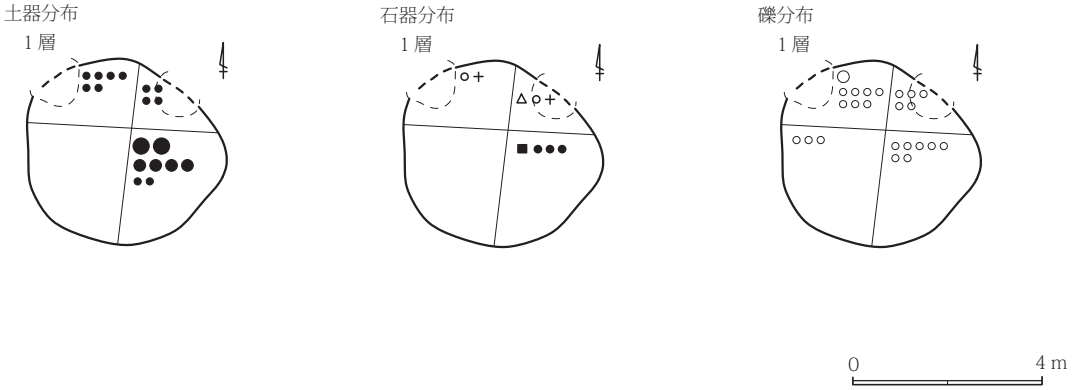
0　4 m

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	黄色P
Ｊ－2号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	×	×	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×	×	※
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※	※	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※	※	×



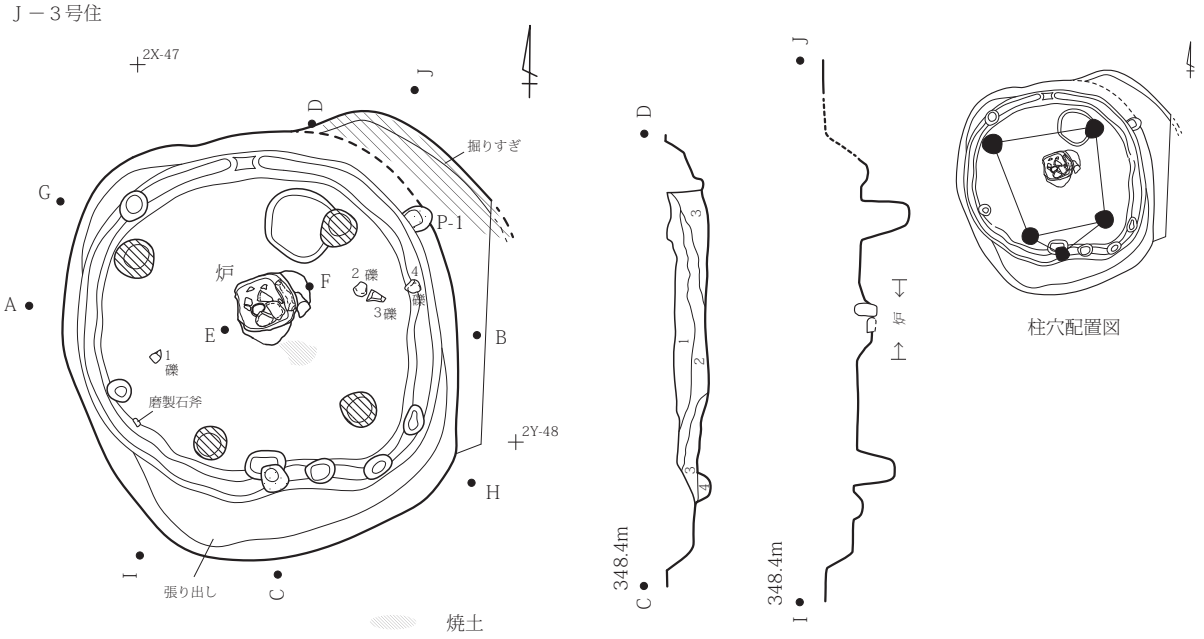
土器出土量

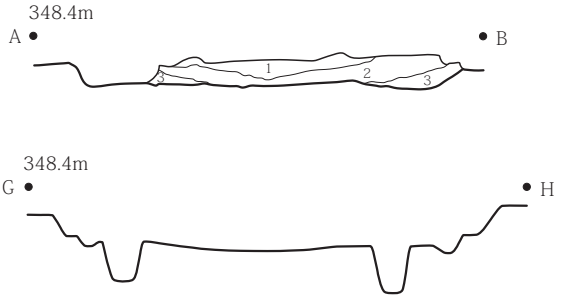
1層	2,480g
計	2,480g



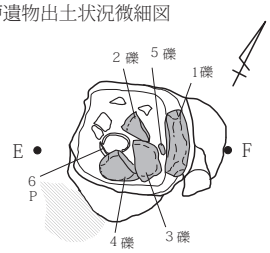
第59図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－２号住居跡

Ｊ－３号住

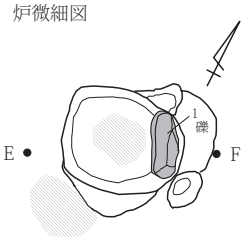




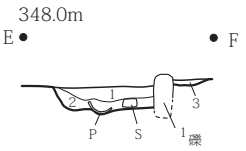
炉遺物出土状況微細図

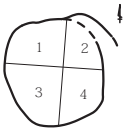


炉微細図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色P	遺物
Ｊ－３号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※		△	○
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	△		△	○
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	×	※		※	○
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	△	※	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	△	△	※	
	3	暗褐色土層10YR	3＜1	◎	○	△	×	×	×	×	×	

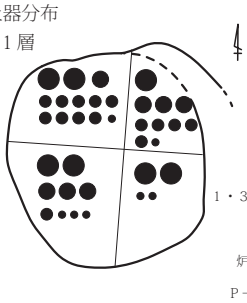




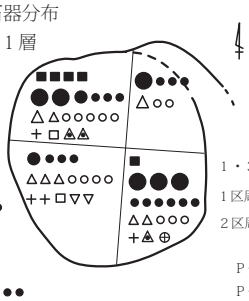
土器出土量

1層	78,520g
その他	3,135g
計	81,655g

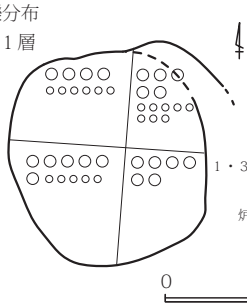
土器分布
1層



石器分布
1層

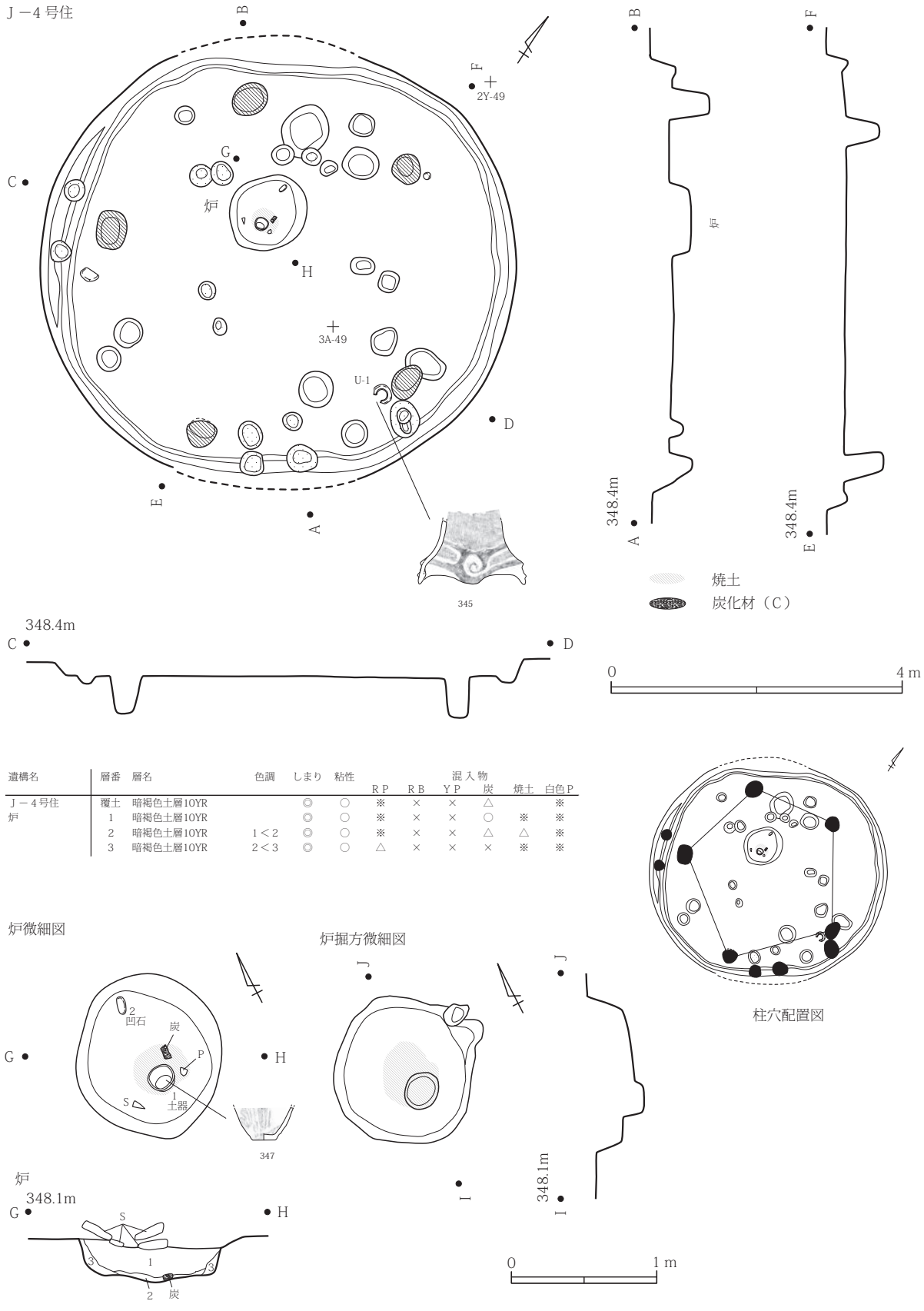


礫分布
1層

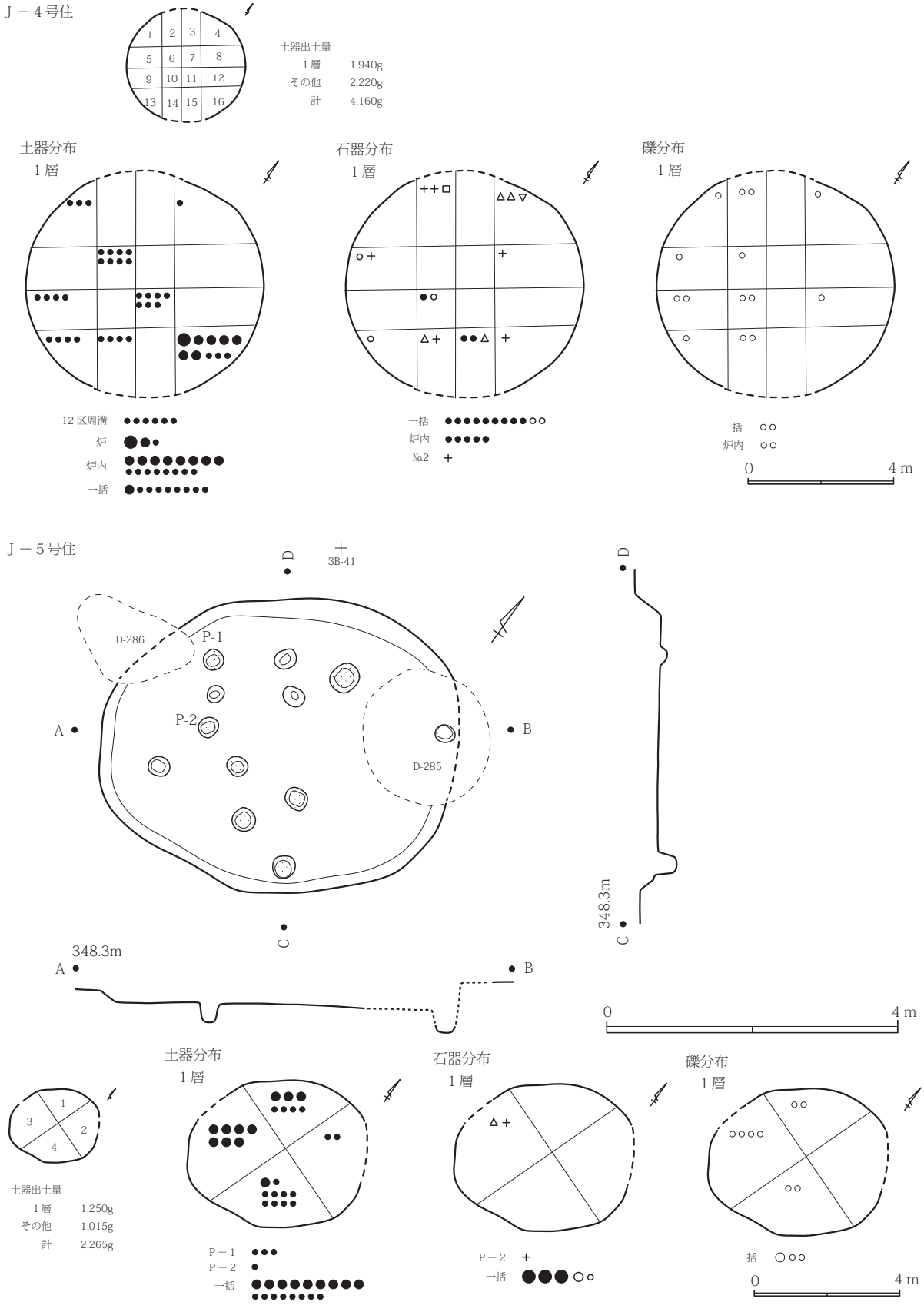


1・3区
炉
炉内
P－1
1区周溝
2区周溝
P－2
0
4 m

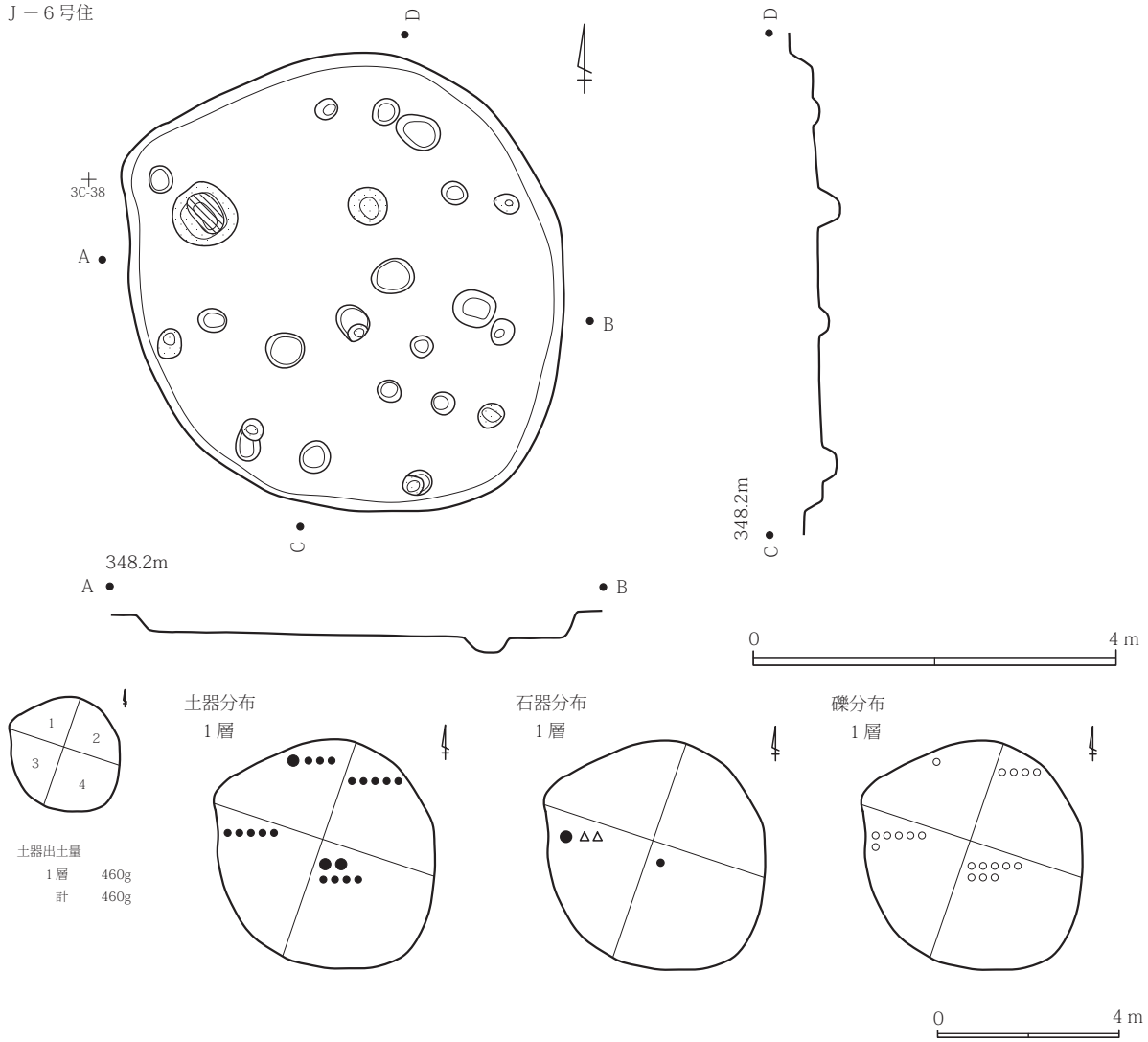
第60図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－３号住居跡



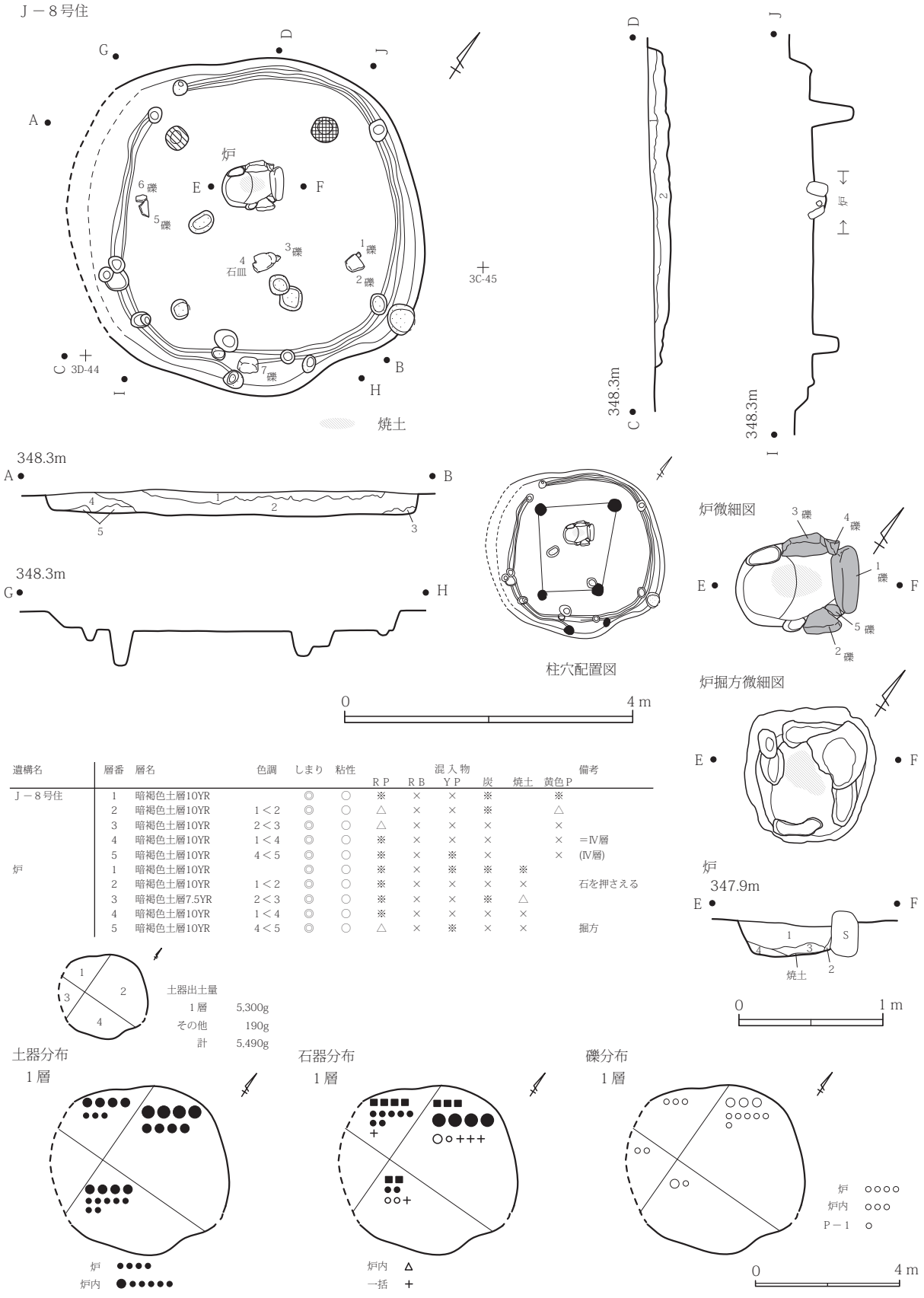
第61図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－4号住居跡（1）



第62図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－４号住居跡（２）・Ｊ－５号住居跡

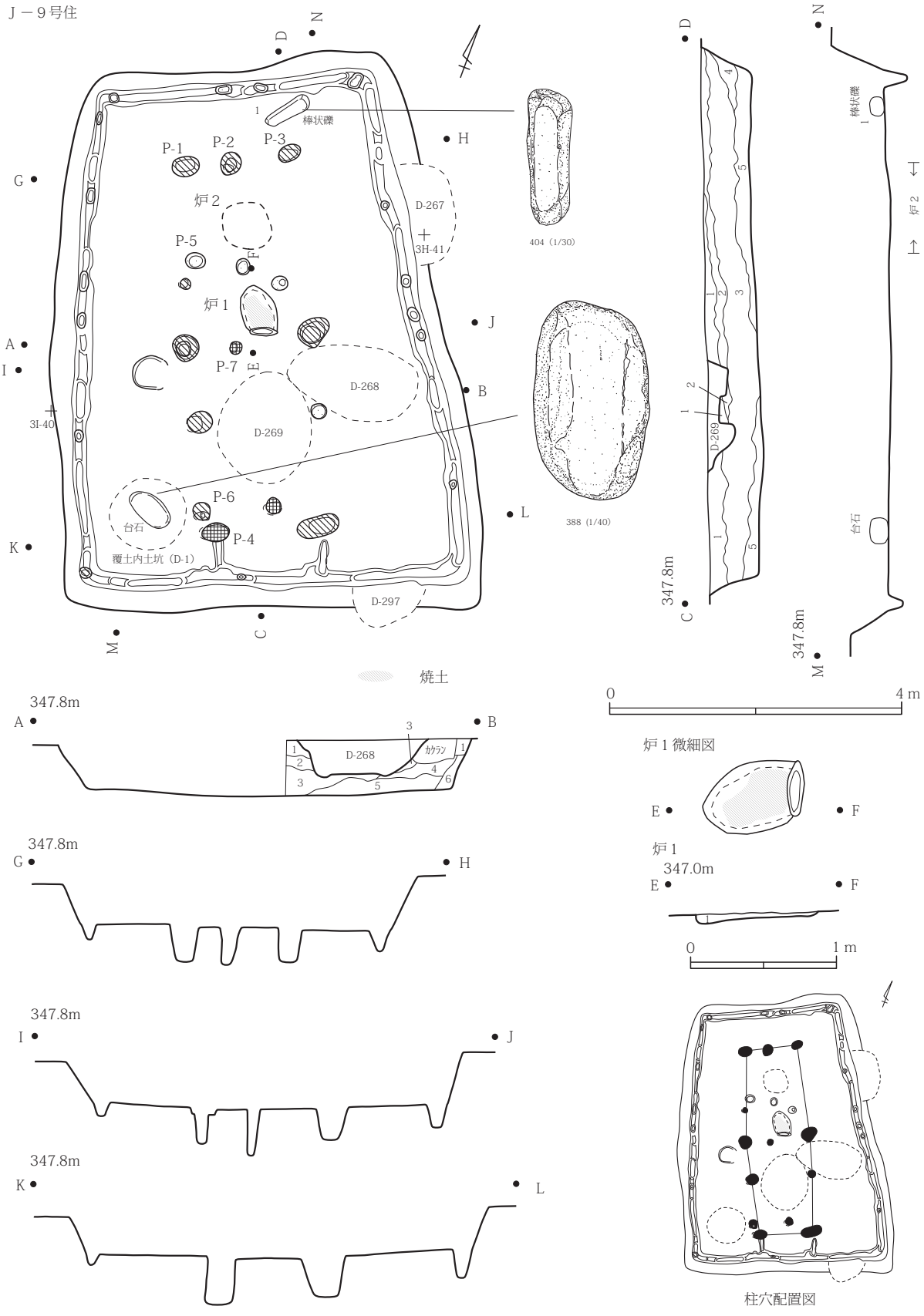


第63図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－６・７号住居跡



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	黄色P	備考
Ｊ－８号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※		※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	×	※		△	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	×	×		×	
	4	暗褐色土層10YR	1＜4	◎	○	※	×	×	×		×	＝Ⅳ層
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	◎	○	※	×	※	×		×	(Ⅳ層)
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※	※	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	×	×		石を押さえる
	3	暗褐色土層7.5YR	2＜3	◎	○	※	×	×	※	△		
	4	暗褐色土層10YR	1＜4	◎	○	※	×	×	×	×		
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	◎	○	△	×	※	×	×		掘方

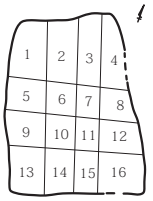
第64図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－８号住居跡



第65図　行田大道南横道西遺跡　J－9号住居跡（1）

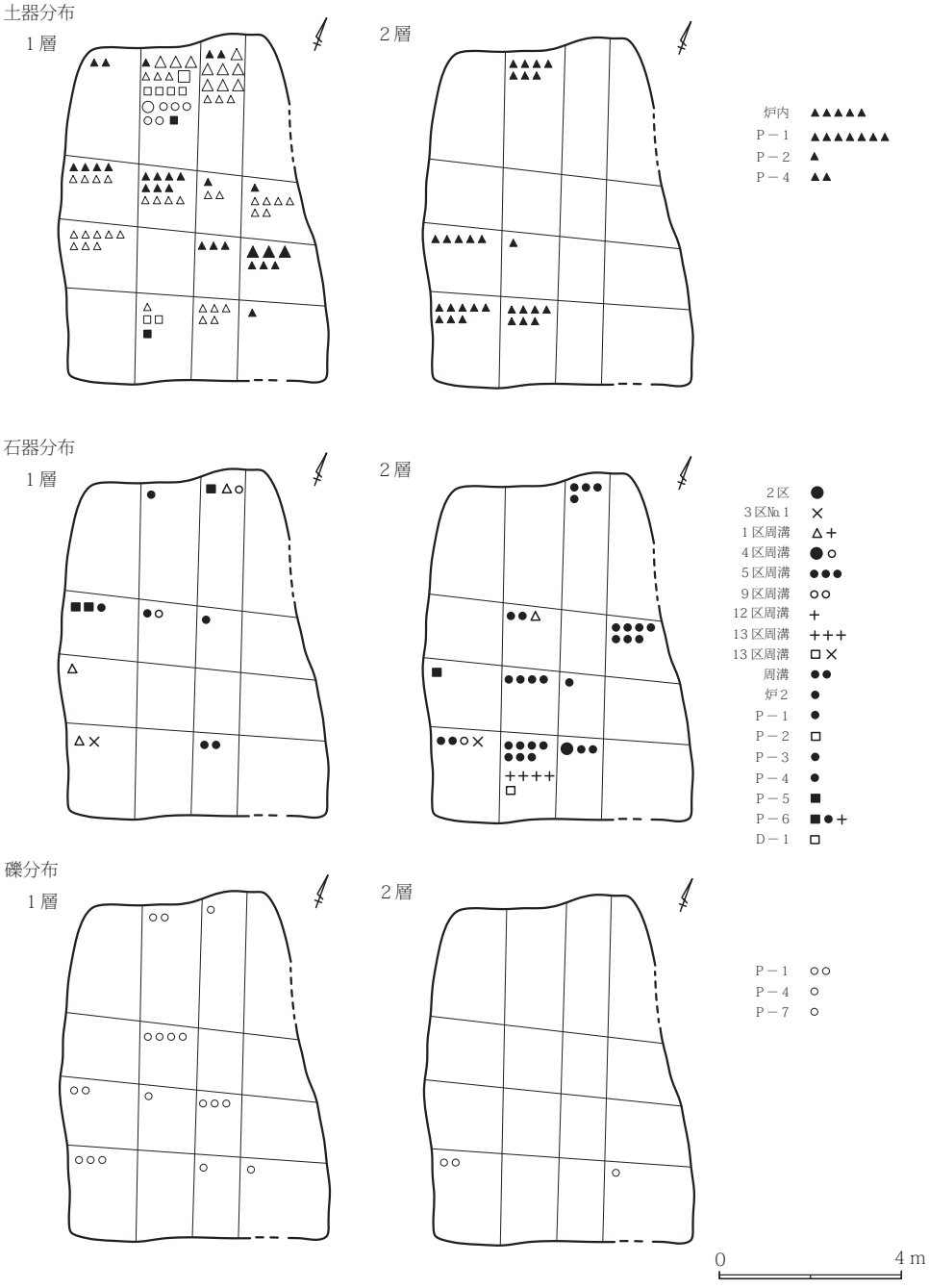
Ｊ－９号住

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	赤色P
Ｊ－９号住	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×		※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※		△
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	※	※		○
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	◎	○	△	×	×	※		△
	5	暗褐色土層10YR	3＜5	◎	○	△	※	※	※		△
	6	暗褐色土層10YR	3＜6	◎	○	△	×	×	×		※
炉1	1	褐色土層10YR		◎	○	△	×	△	※	※	

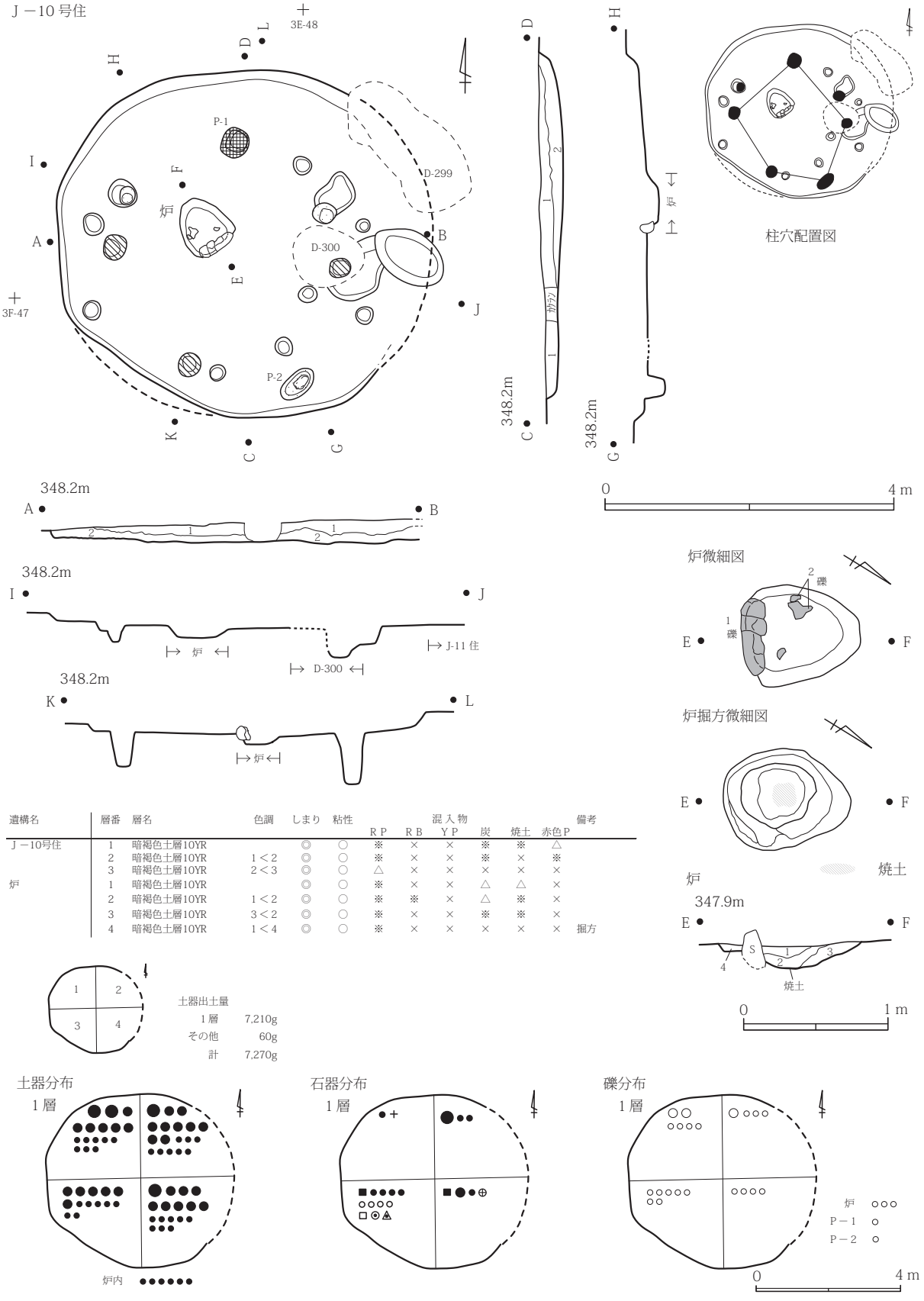


土器出土量

1層	2,172g
2層	289g
その他	147g
計	2,608g



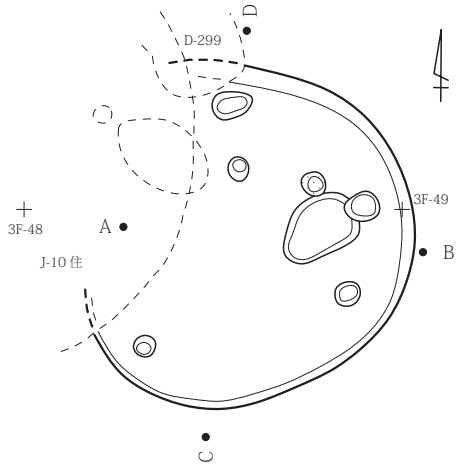
第66図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－９号住居跡（２）

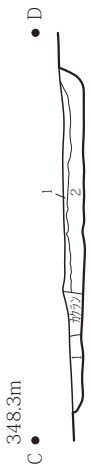


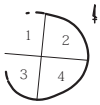
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	赤色P	備考
Ｊ－10号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	※	△	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	×	※	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	×	×	×	×	
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	△	△	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	※	×	△	※	×	
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	◎	○	※	×	×	※	※	×	
	4	暗褐色土層10YR	1＜4	◎	○	※	×	×	×	×	×	掘方

第67図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－10号住居跡

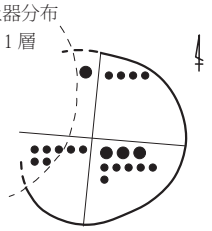
Ｊ－１１号住

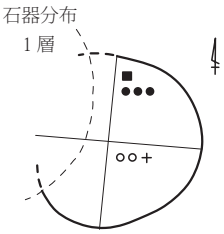


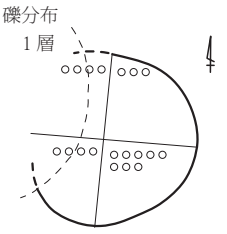


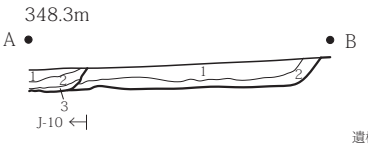


土器出土量
1層　570g
計　570g



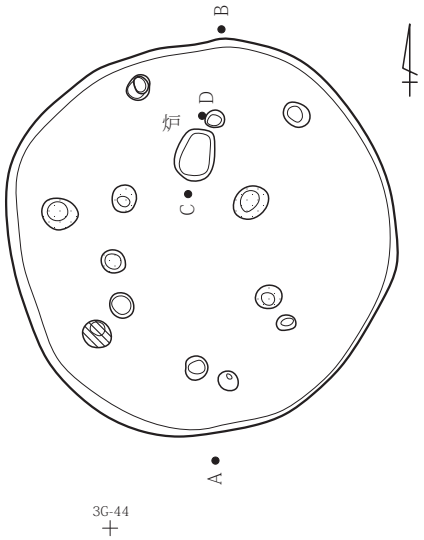


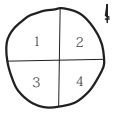




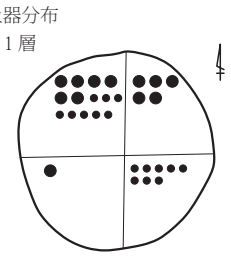
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	赤色P
Ｊ－11号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×	×	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	※	※

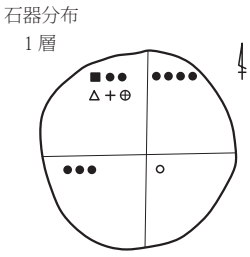
Ｊ－12号住

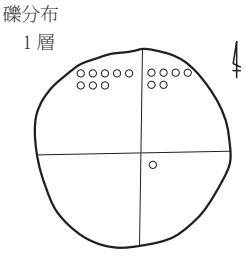




土器出土量
1層　1,360g
計　1,360g



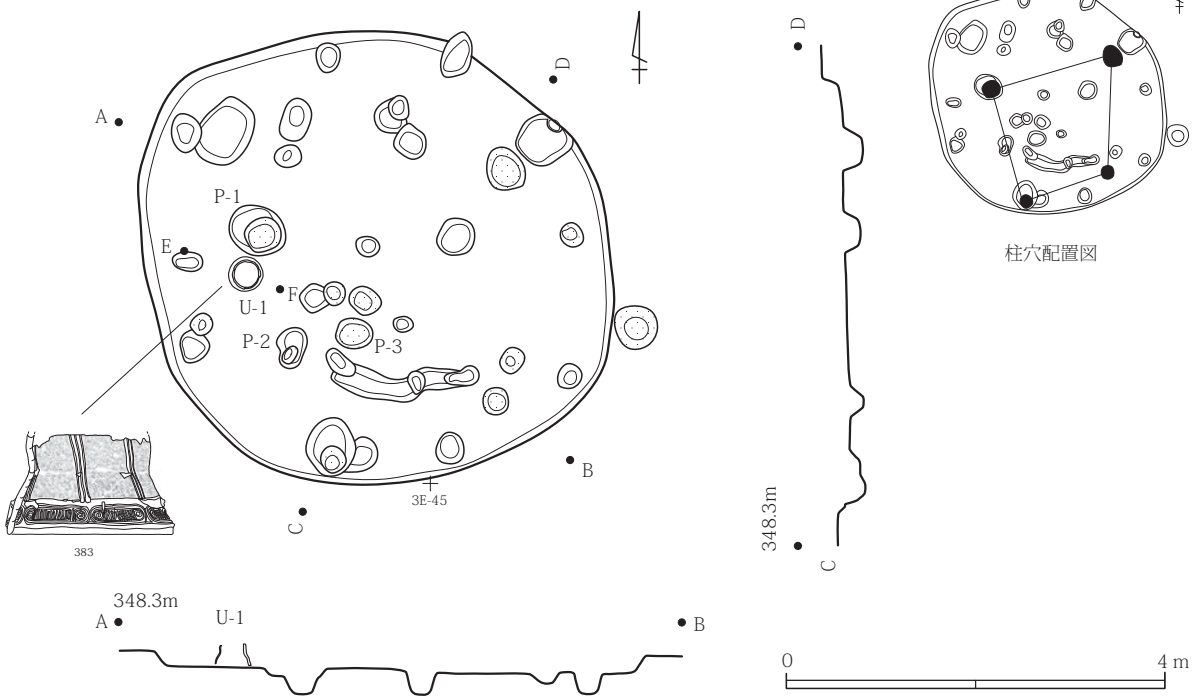




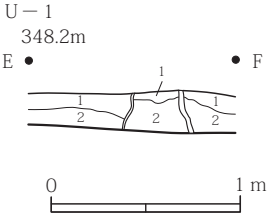
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
Ｊ－12号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※	×	×
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	×

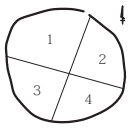
第68図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－11・12号住居跡

Ｊ－13 号住



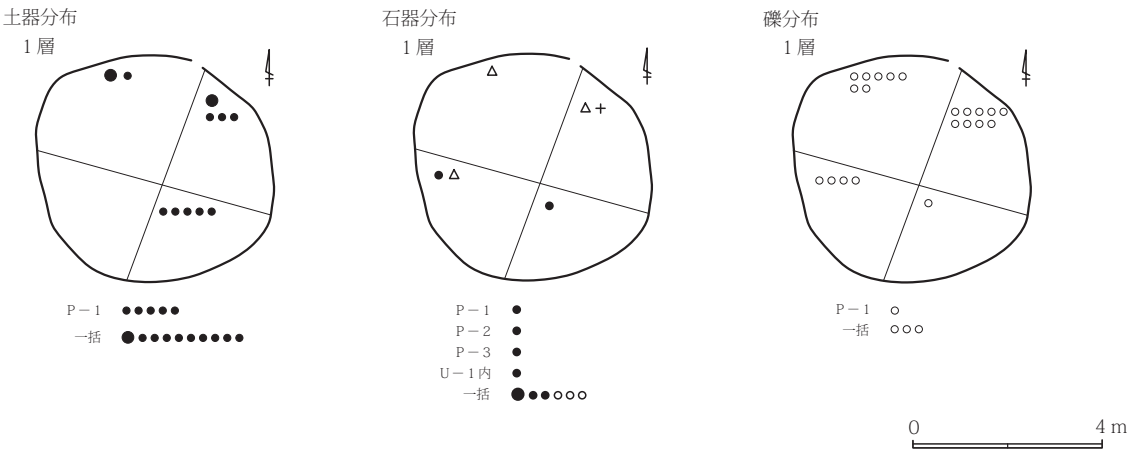
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
Ｊ－13号住　Ｕ－１	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	×	×



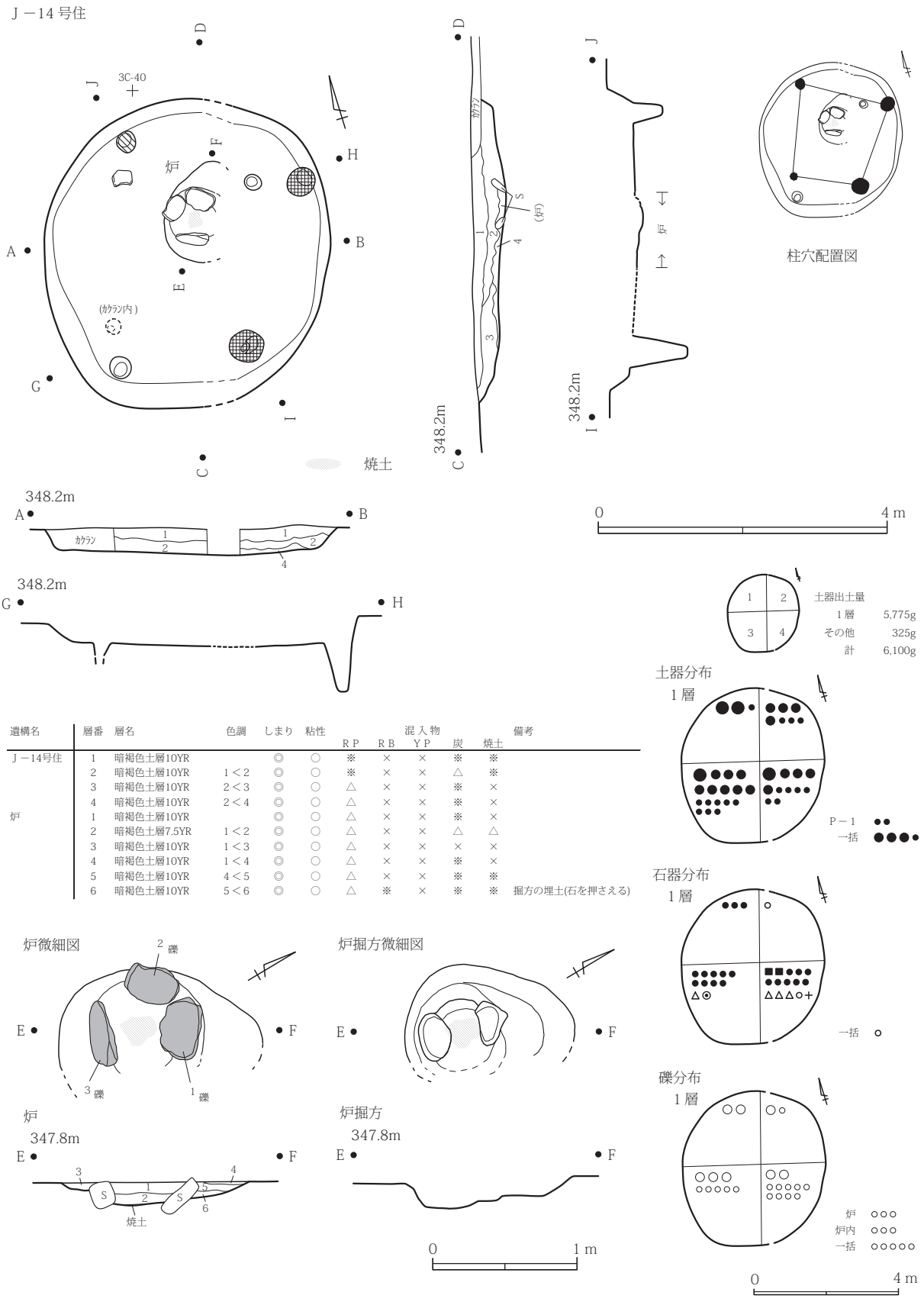


土器出土量

1 層	290g
その他	235g
計	525g



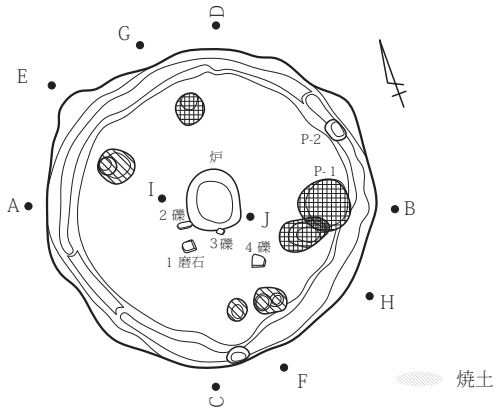
第69図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－13号住居跡

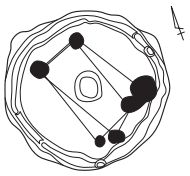


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
Ｊ－14号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	△	※	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	×	※	×	
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	◎	○	△	×	×	※	×	
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	△	×	×	※	×	
	2	暗褐色土層7.5YR	1＜2	◎	○	△	×	×	△	△	
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	◎	○	△	×	×	×	×	
	4	暗褐色土層10YR	1＜4	◎	○	△	×	×	※	×	
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	◎	○	△	×	×	※	※	
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	◎	○	△	※	×	※	※	掘方の埋土(石を押さえる)

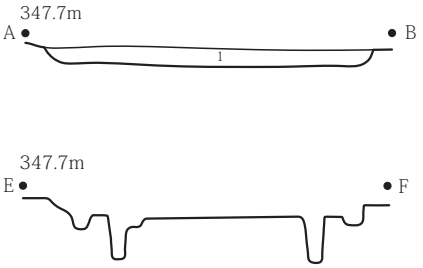
第70図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－14号住居跡

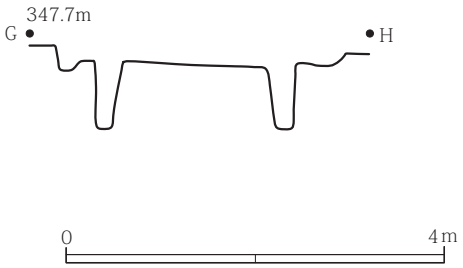
Ｊ－15 号住



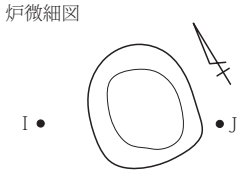


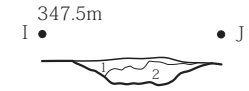
柱穴配置図





炉微細図



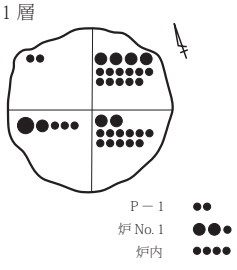


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色P
Ｊ－15号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	△	×	×	※		△
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	※	
	2	暗褐色土層5YR	1＜2	◎	○	△	×	×	※	△	

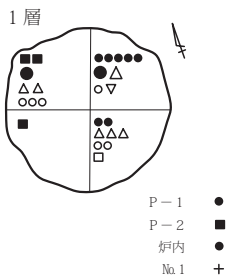
土器出土量

1層	1,920g
その他	270g
計	2,190g

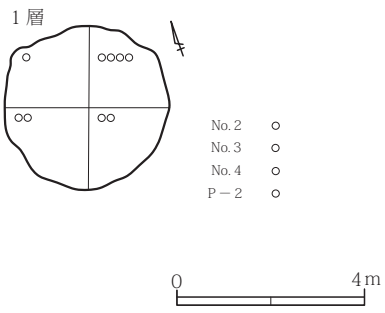
土器分布



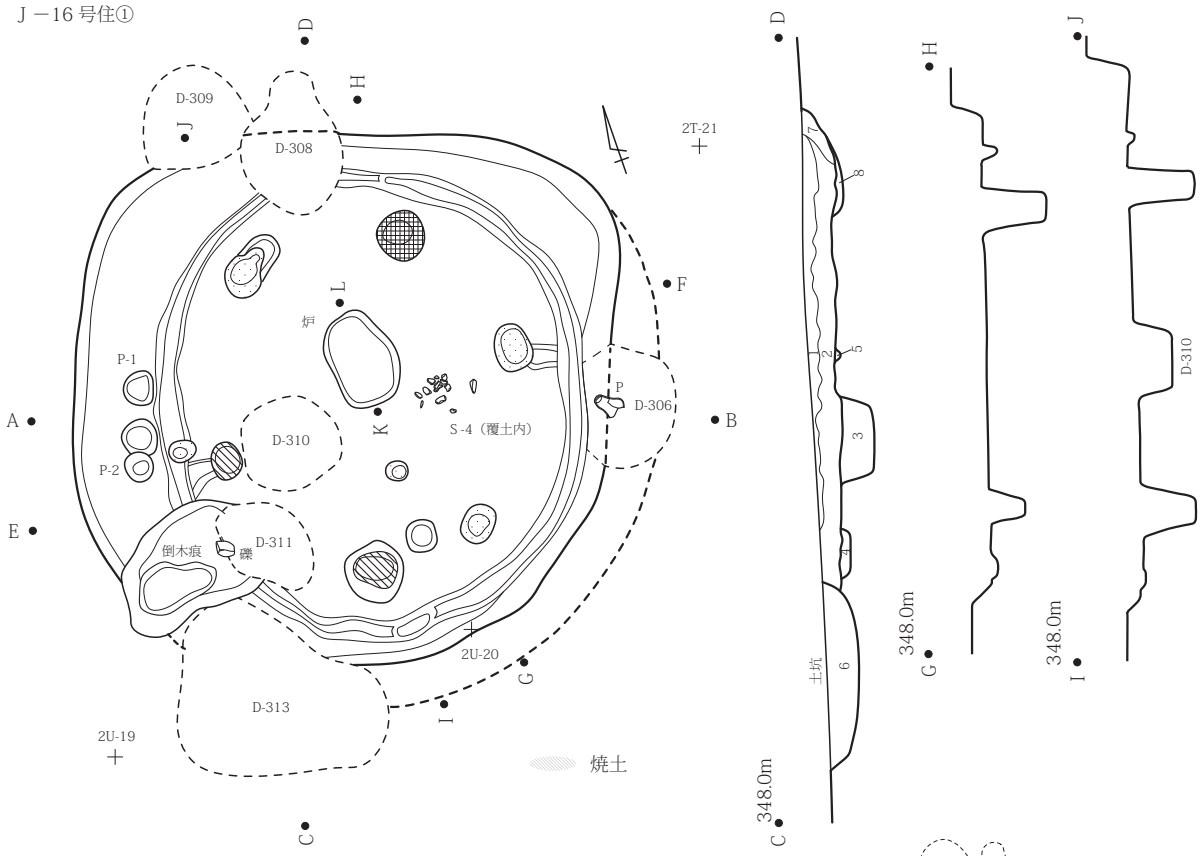
石器分布

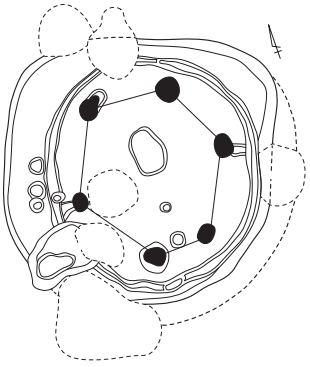


礫分布

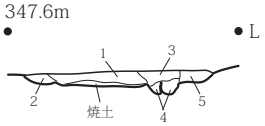


第71図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－15号住居跡

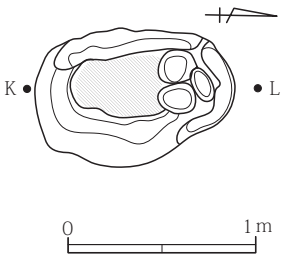




炉



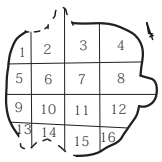
炉掘方微細図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	WP	備考
Ｊ－16号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	×	△	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	×	※	×	△	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×	※	※	※	
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	◎	○	※	×	×	×	×		D－311
	5	暗褐色土層10YR	2＜5	◎	○	△	×	×	×	×		
	6	暗褐色土層10YR	2＜6	◎	○	※	※	※	×	×		D－313
	7	暗褐色土層10YR	2＜7	◎	○	△	※	×	※	×		D－308
	8	暗褐色土層10YR	8＜7	◎	○	※	※	×	※	×		〃
	9	暗褐色土層10YR	1＜9	◎	○	※	×	×	×	×		D－306
	10	暗褐色土層10YR	9＜10	◎	○	△	×	×	×	×		〃
炉	1	暗赤褐色土層5YR		◎	○	△	※	×	※	△		
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	×	×	×		埋土
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×	※	※		礫抜き取り
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	△	×	×	×	×		〃
	5	暗褐色土層10YR	3＜5	◎	○	※	×	×	×	×		埋土

第72図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－16号住居跡（１）

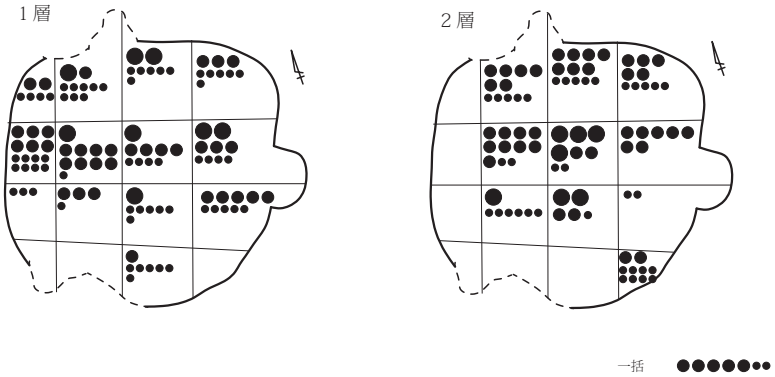
Ｊ－16 号住②



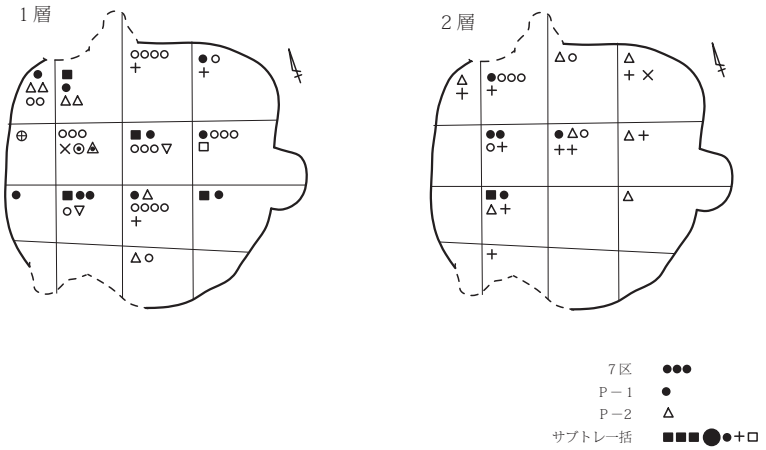
土器出土量

1層	12,205g
2層	11,355g
その他	520g
計	24,080g

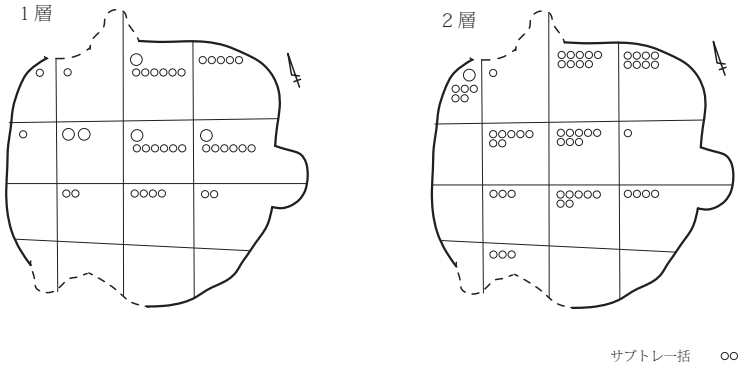
土器分布



石器分布

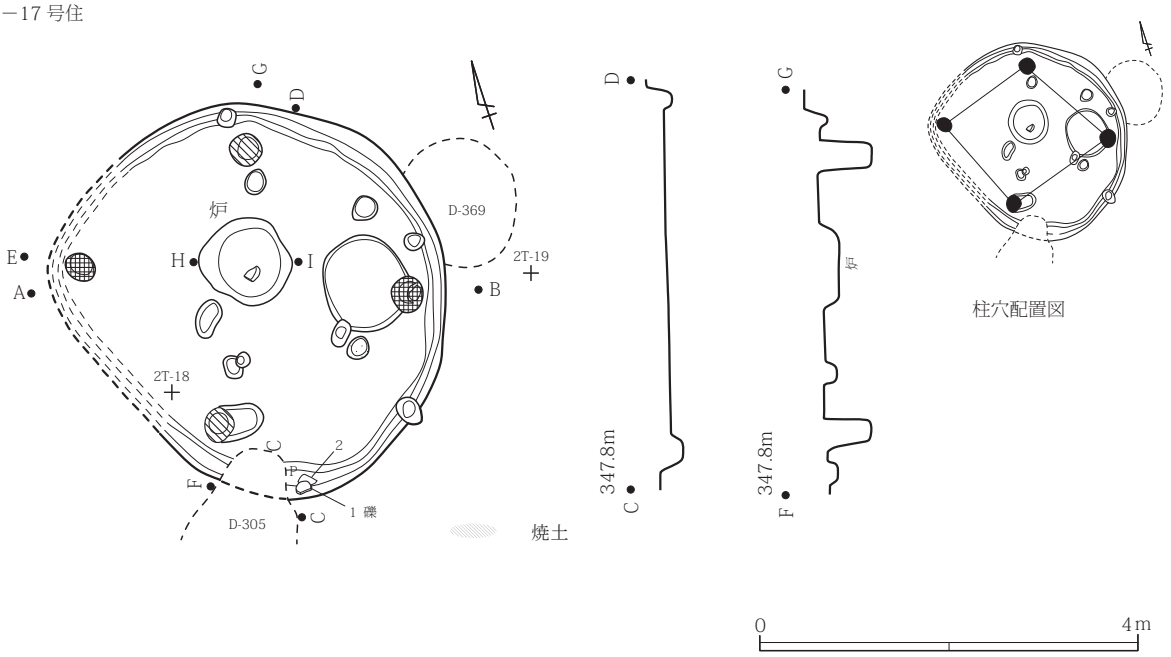


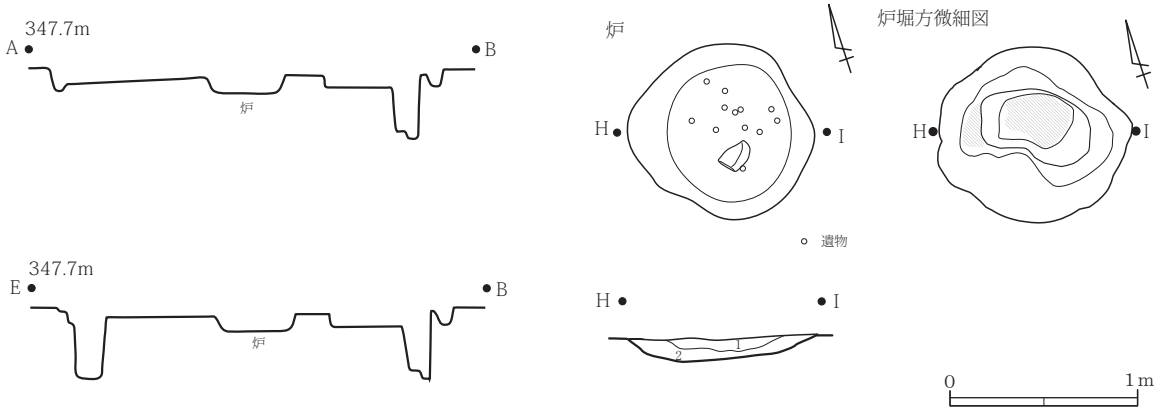
礫分布

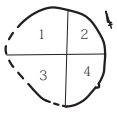


第73図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－16号住居跡（２）

Ｊ－17 号住



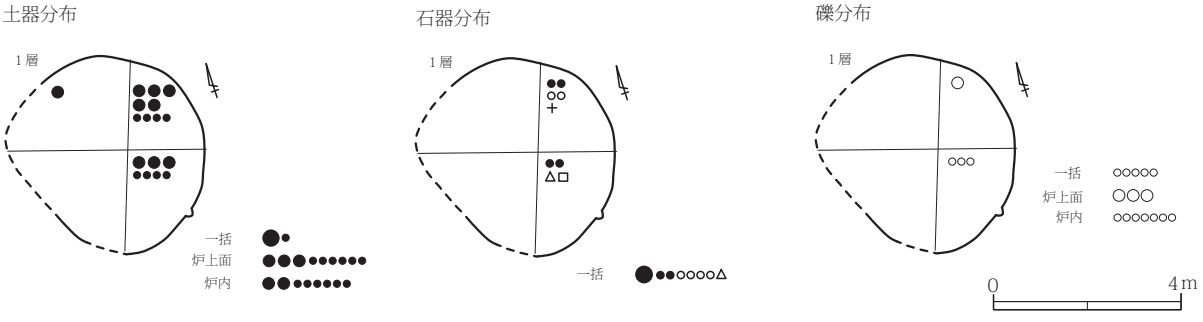




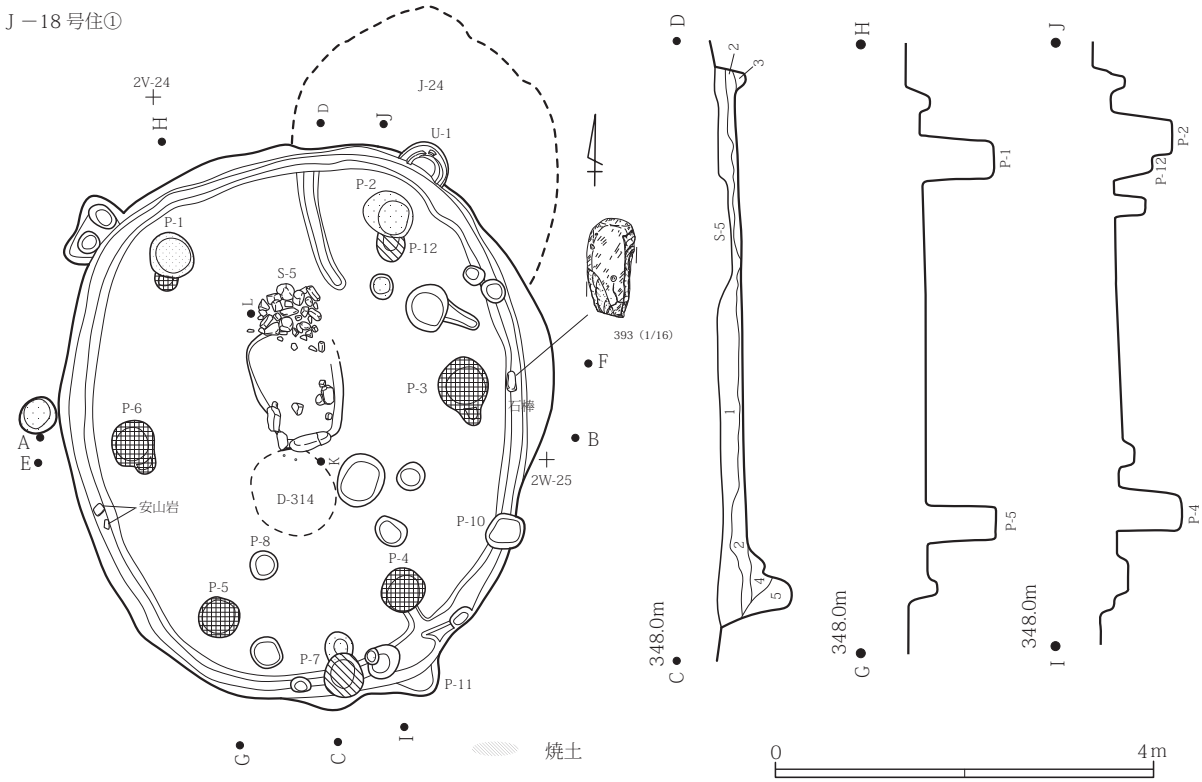
土器出土量

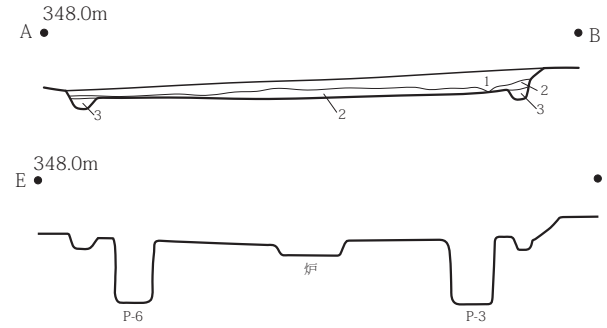
1 層	980g
その他	1,625g
計	2,605g

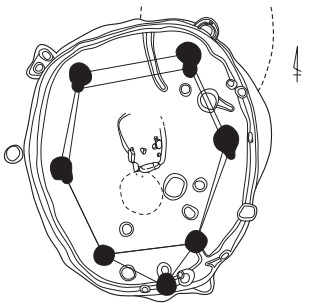
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
Ｊ－17号住　炉	1	暗褐色土層7.5YR		◎	○	△	×	×	※	※
	2	暗褐色土層7.5YR	1＜2	◎	○	△	×	×	※	△



第74図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－17号住居跡

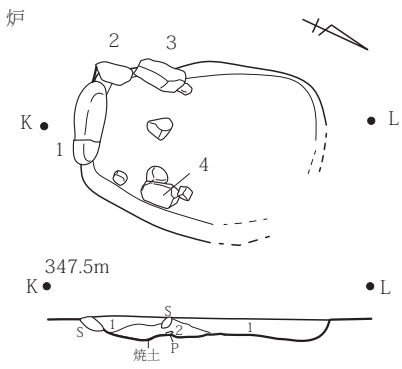


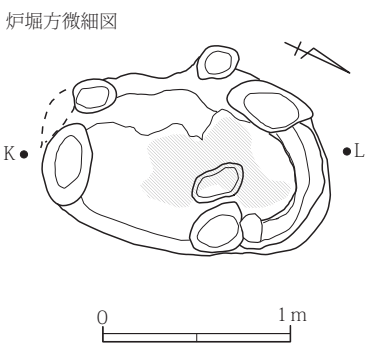




柱穴配置図

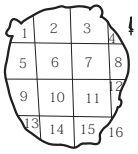
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	WP	備考
Ｊ－18号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	※	△	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	×	※	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	×	×	×		周溝
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	◎	○	△	×	×	×	×		〃
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	◎	○	△	※	※	×	×		
炉	1	暗褐色土層7.5YR		◎	○	※	×	×	※	※		
	2	暗赤褐色土層5YR	1＜2	◎	○	△	×	×	※	△		





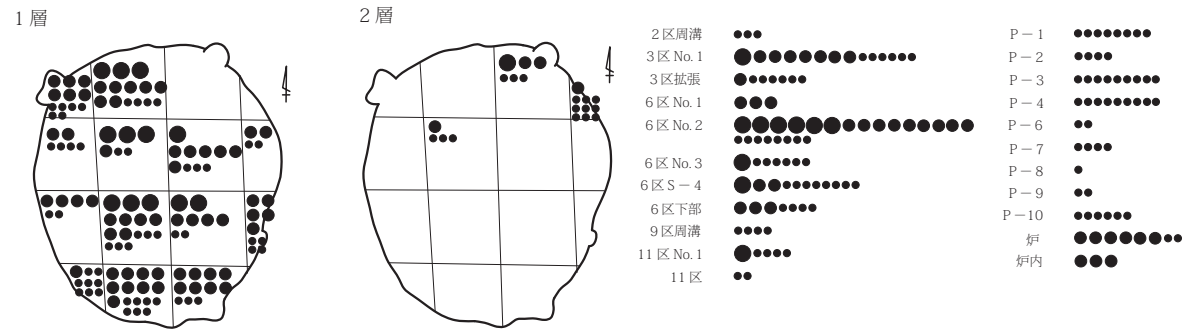
第75図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－18号住居跡（１）

Ｊ－18 号住②

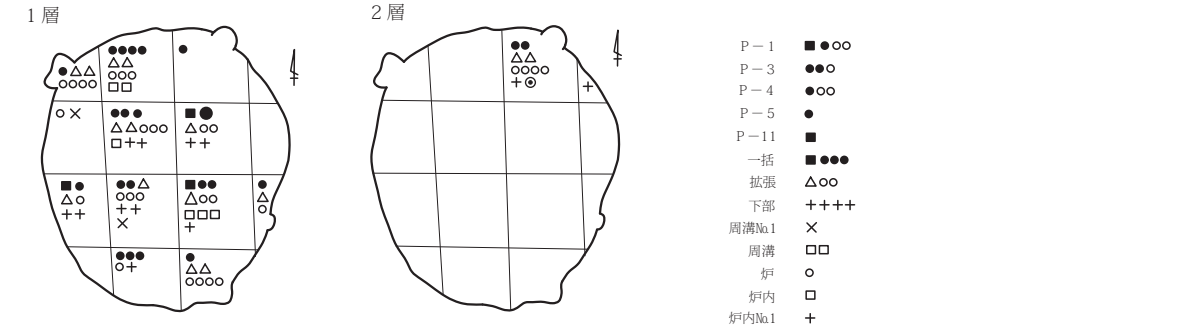


土器出土量	
1 層	18,630g
2 層	1,550g
その他	14,490g
計	34,670g

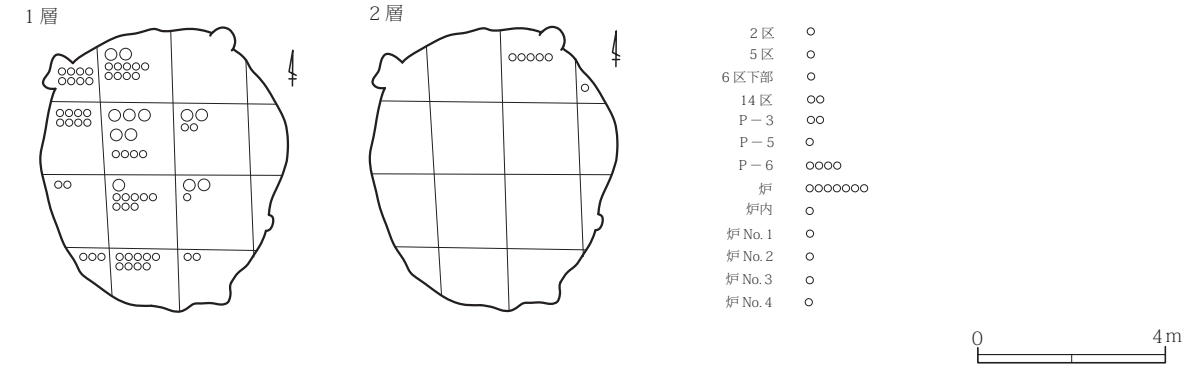
土器分布



石器分布

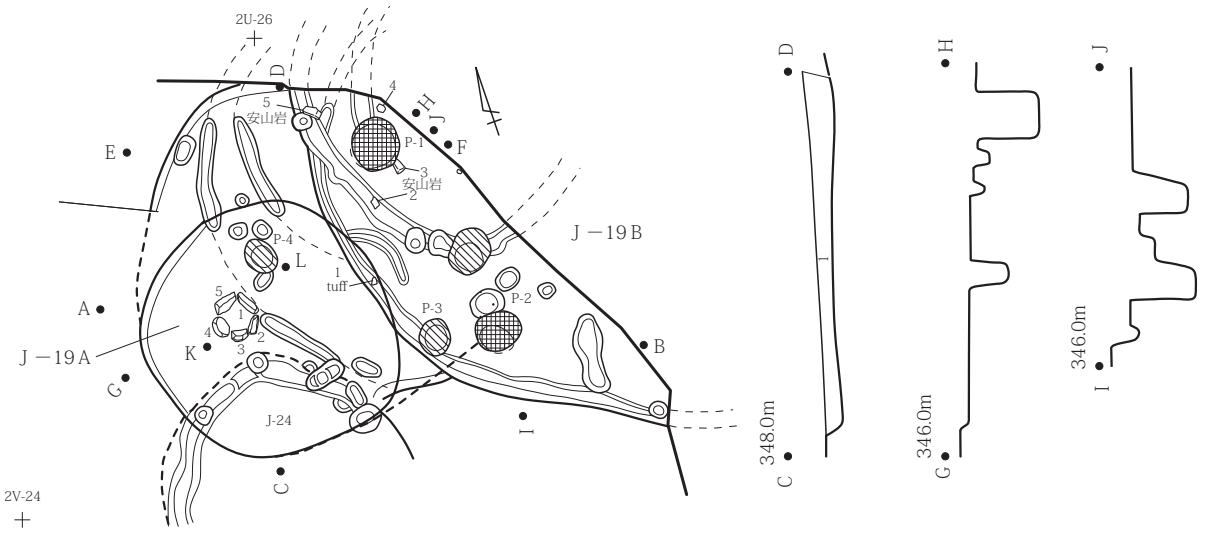


礫分布



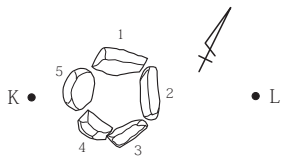
第76図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－18号住居跡（２）

Ｊ－19 号住

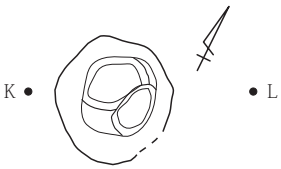


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	WP
Ｊ－19号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×	×	※
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	×	×	

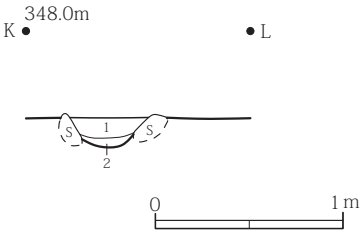
Ｊ－19Ａ住炉微細図



Ｊ－19Ａ住炉堀方微細図

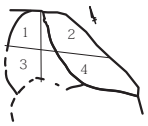


Ｊ－19Ａ炉



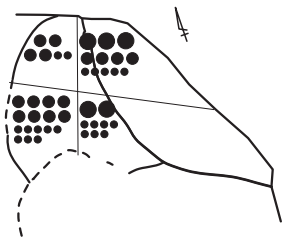
土器分布

1層



土器出土量

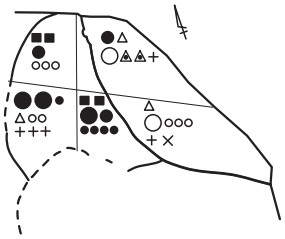
1層	6,815g
その他	1,440g
計	8,255g



P－1 ●●●
P－2 ●
P－3 ●●●●
一括 ●●●●●
炉 ●●●●●

石器分布

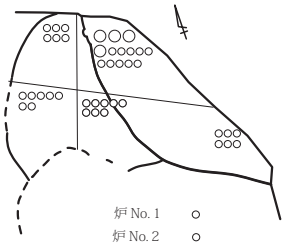
1層



P－1 ○
P－4 ■
炉 ●
炉内 ○
一括 △××

礫分布

1層

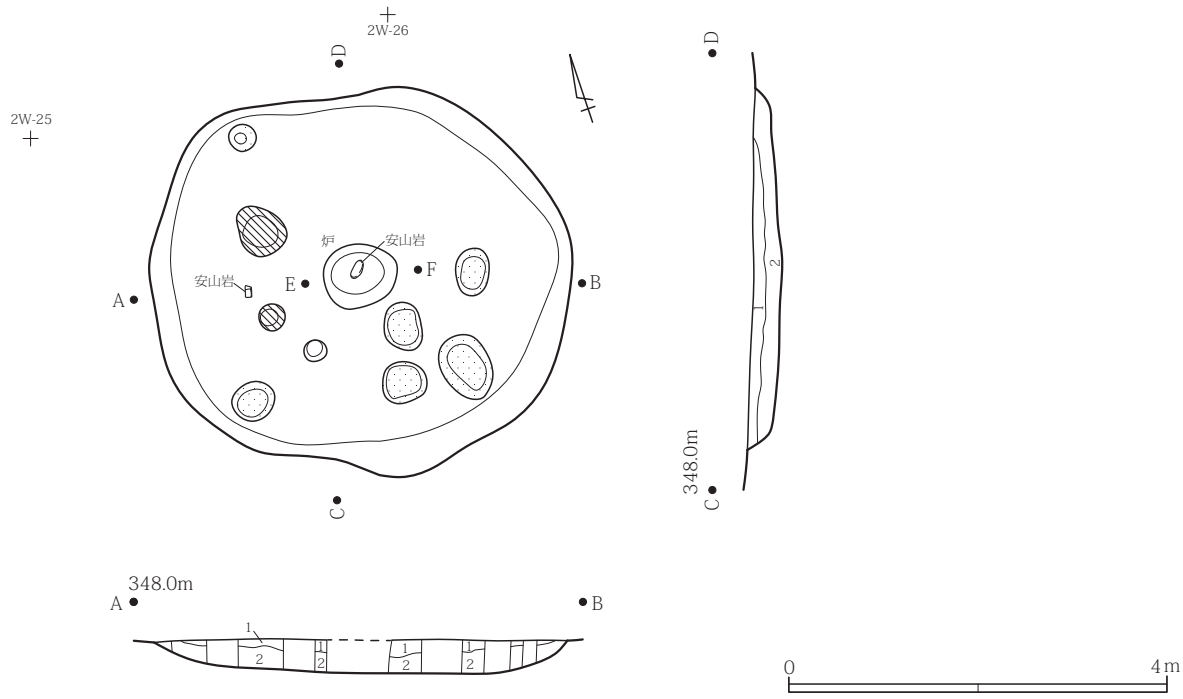


No. 1 ○○
No. 2 ○
No. 3 ○
No. 4 ○
No. 5 ○

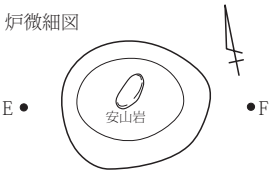
炉 No. 1 ○
炉 No. 2 ○
炉 No. 3 ○
炉 No. 4 ○
炉 No. 5 ○
P－1 ○
一括 ○○○○○○○
区不明 ○○○○○○○○○○○○○○

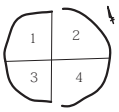
第77図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－19号住居跡

Ｊ－20 号住



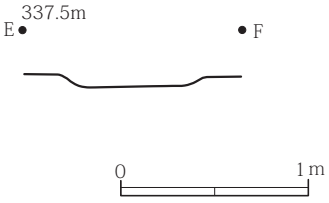
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	WP
Ｊ－20号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×	×	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	×	×	△



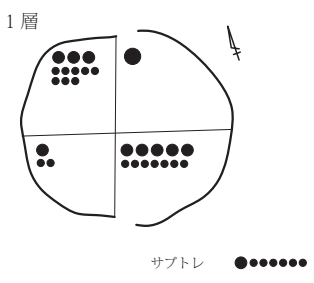


土器出土量

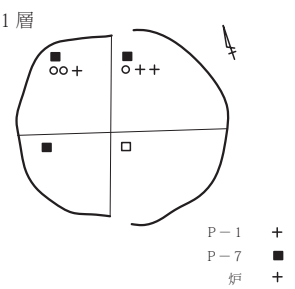
1層	2,065g
その他	160g
計	2,225g



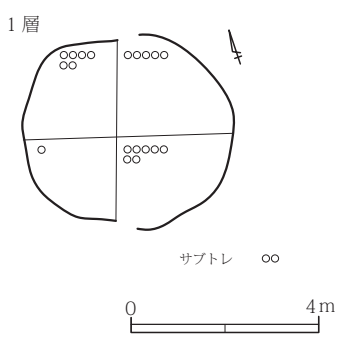
土器分布



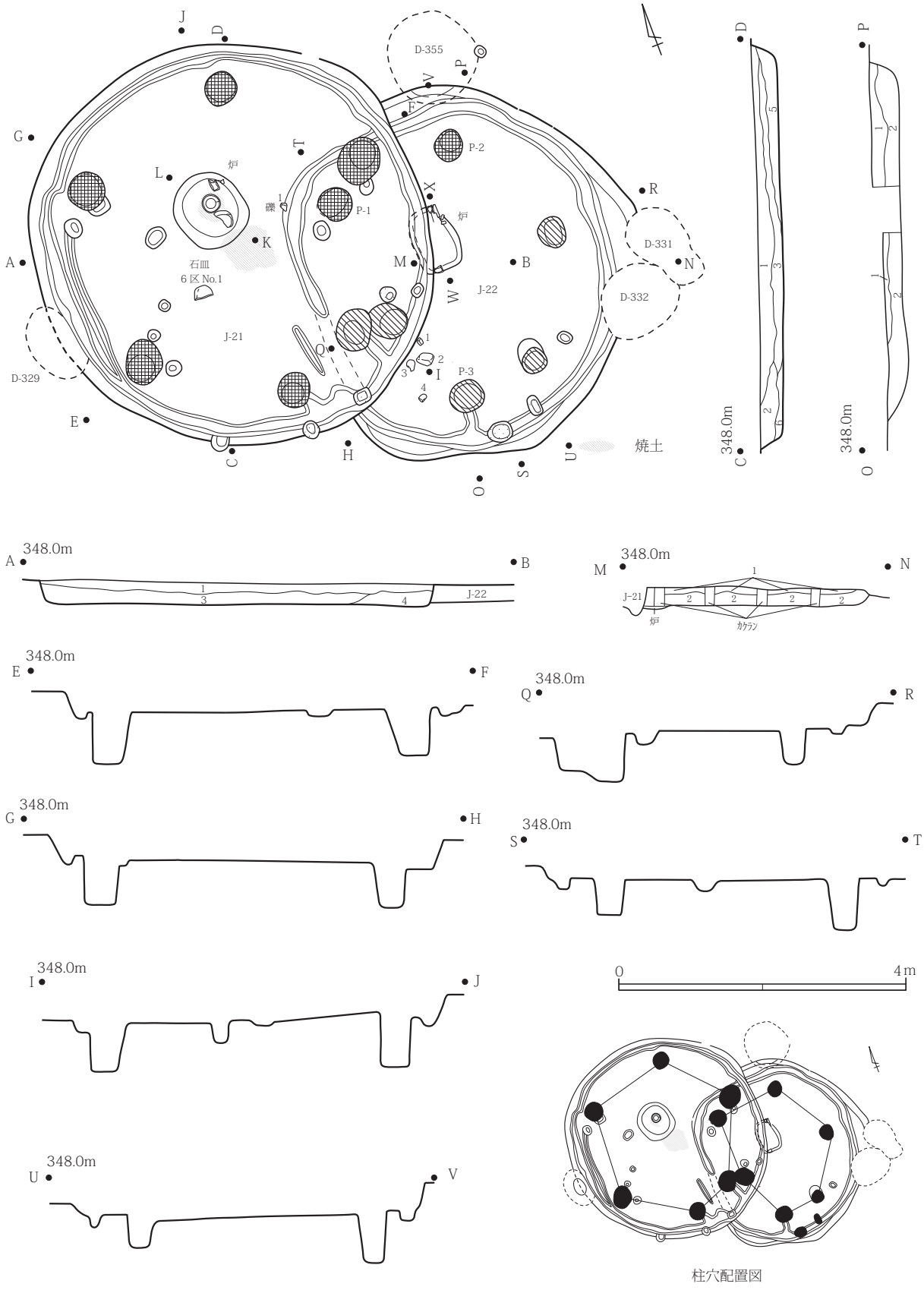
石器分布



礫分布



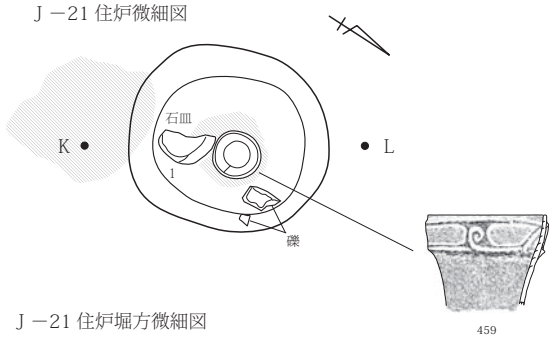
第78図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－20号住居跡



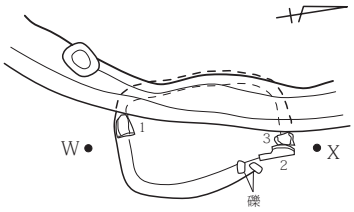
第79図　行田大道南横道西遺跡　J －21・22号住居跡（1）

Ｊ－21 号住・Ｊ－22 号住②

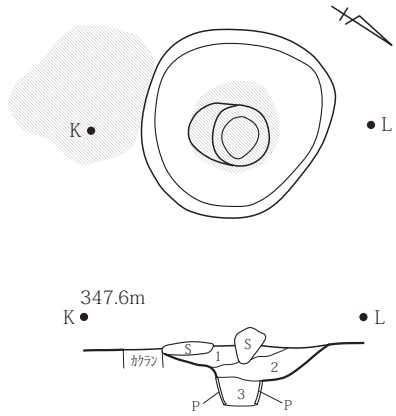
Ｊ－21 住炉微細図



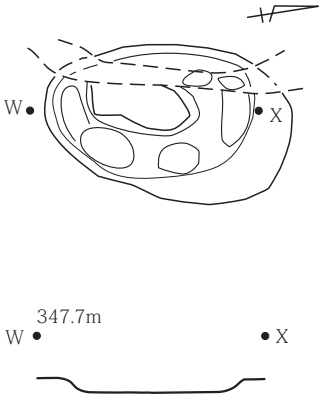
Ｊ－22 住炉微細図



Ｊ－21 住炉堀方微細図



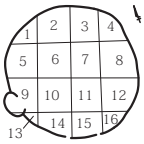
Ｊ－22 住炉堀方微細図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
Ｊ－21号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	×
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	◎	○	△	×	×	※	※
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	※	×	※	×
	5	暗褐色土層10YR	3＜5	◎	○	△	※	×	※	×
	6	暗褐色土層10YR	2＜6	◎	○	△	×	×	×	×
炉	1	暗褐色土層7.5YR		◎	○	※	×	×	※	※
	2	暗褐色土層7.5YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	※
	3	暗褐色土層7.5YR	2＜3	◎	○	△	×	×	※	※
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
Ｊ－22号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	×	※	※

第80図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－21・22号住居跡（２）

Ｊ－21 号住分布図

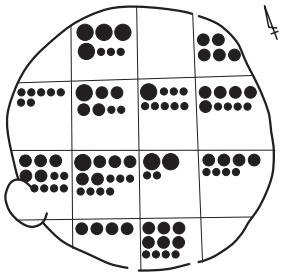


土器出土量

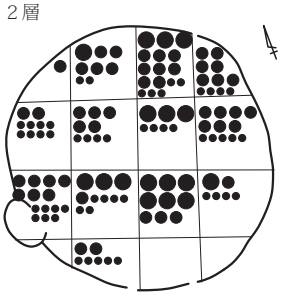
1 層	14,220g
2 層	22,440g
その他	13,840g
計	50,500g

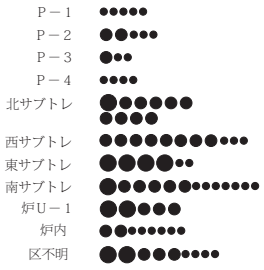
土器分布

1 層



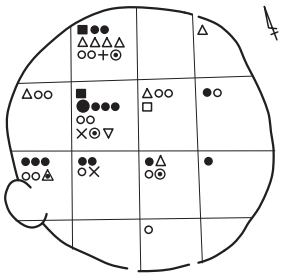
2 層



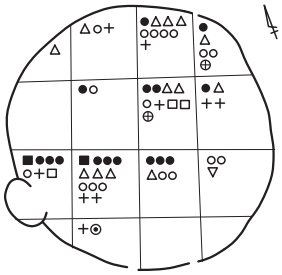


石器分布

1 層

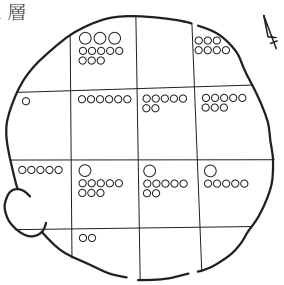


2 層

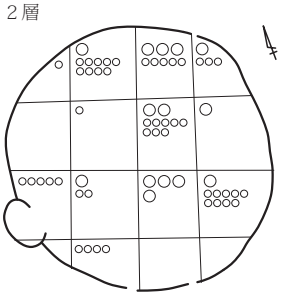


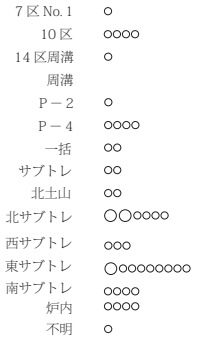
礫分布

1 層

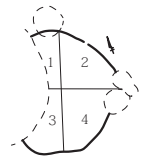


2 層





Ｊ－22 号住分布図

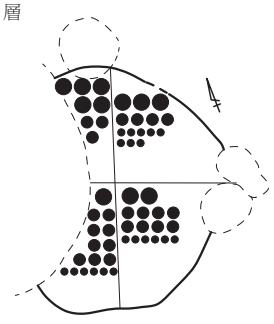


土器出土量

1 層	13,600g
その他	790g
計	14,390g

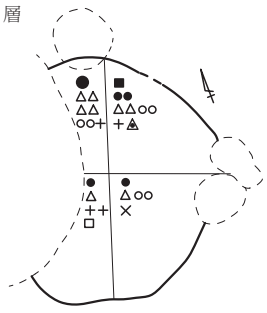
土器分布

1 層



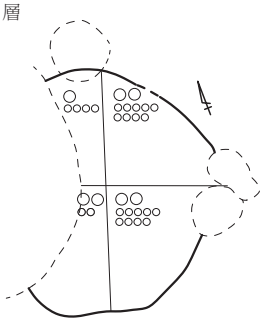
石器分布

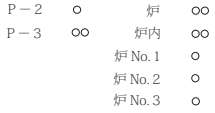
1 層



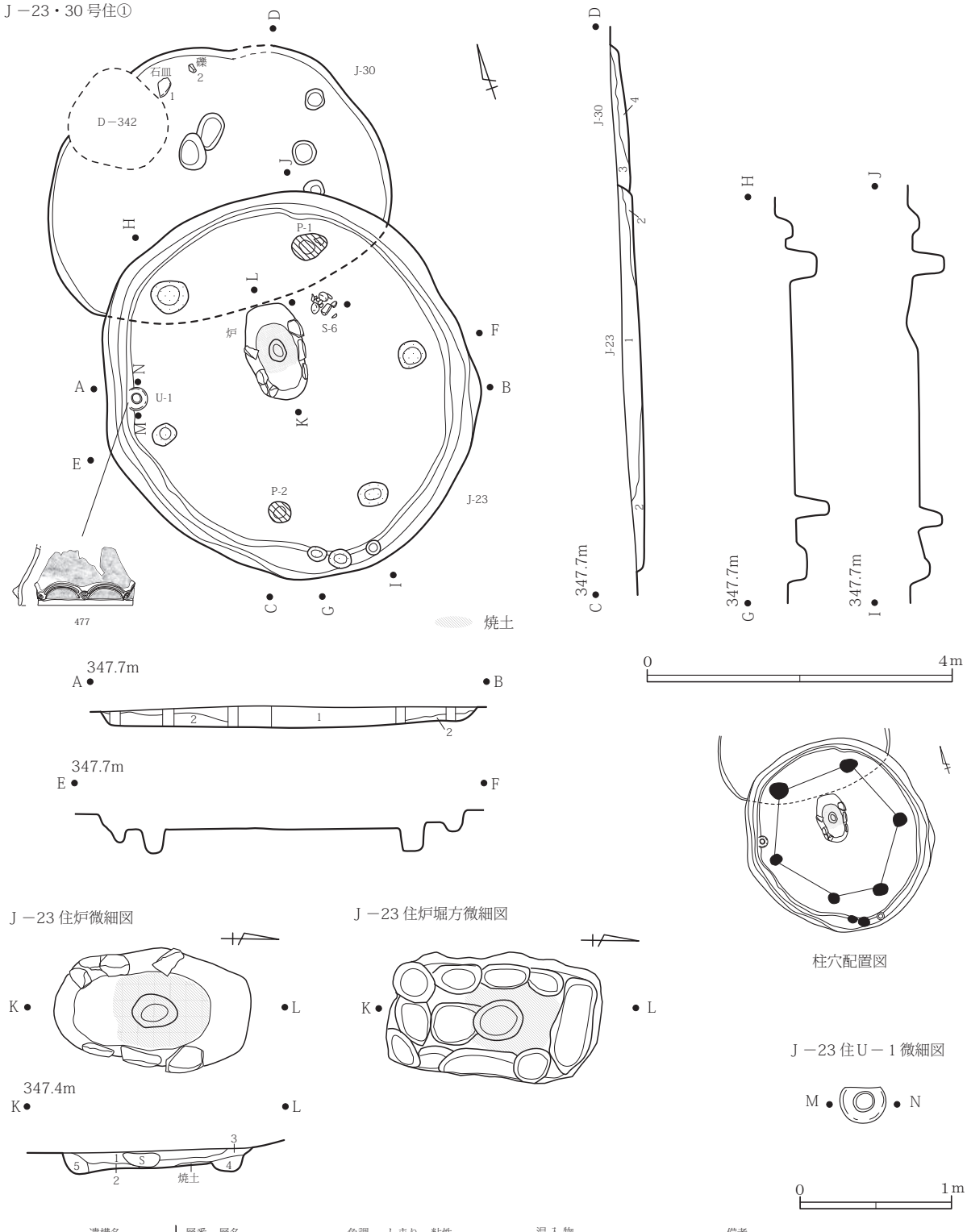
礫分布

1 層





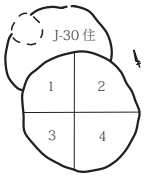
第81図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－21・22号住居跡（3）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	WP	遺物	備考
Ｊ－23号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	※		○	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	×	※	※			
	3	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×	×			
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	×	×	※	×			
炉	1	暗褐色土層7.5YR		◎	○	※	×	×	※	※	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	×	×	×	×		
	3	暗赤褐色土層５YR	1＜3	◎	○	△	×	×	※	△	※		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	△	×	×	×	×	×		
	5	暗褐色土層10YR	1＜5	◎	○	△	※	×	×	×			掘方

第82図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－23・30号住居跡（１）

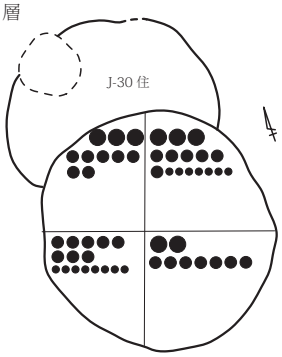
Ｊ－23・30 号住②



土器出土量	
1 層	10,950g
その他	4,360g
計	15,310g

Ｊ－23 住土器分布

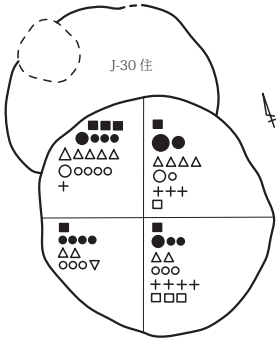
1 層



Ｐ－1
Ｕ－1
北サブトレ
南サブトレ
炉
炉内

Ｊ－23 住石器分布

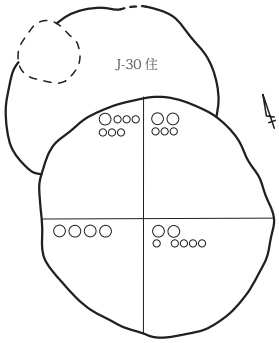
1 層



Ｐ－2
サブトレ南
北サブトレ
炉
3 区周溝

Ｊ－23 住礫分布

1 層



Ｐ－3
北サブトレ
南サブトレ
炉
炉 No. 1
炉 No. 2
炉 No. 3
炉 No. 4
炉 No. 5
炉 No. 6
炉 No. 7
炉 No. 8

Ｊ－30 住土器分布

一括

Ｊ－30 住石器分布

一括
No. 1

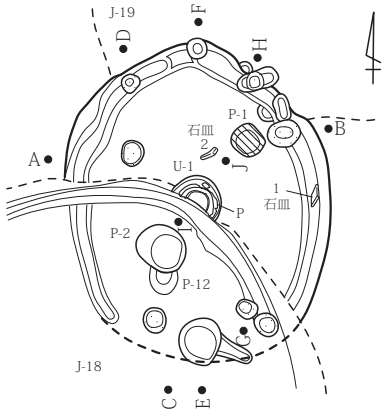
Ｊ－30 住礫分布

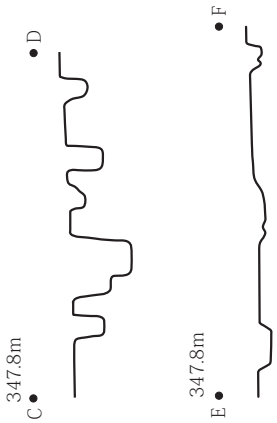
一括
No. 2

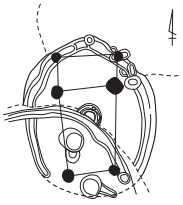
0　4m

第83図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－23・30号住居跡（2）

Ｊ－24 号住





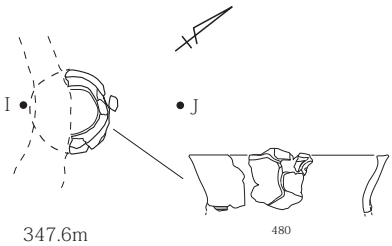


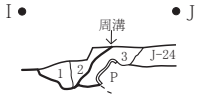
柱穴配置図

土器出土量

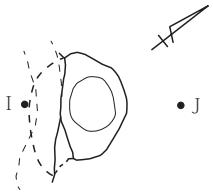
その他	1,840g
計	1,840g

Ｕ－１微細図





Ｕ－１堀方微細図



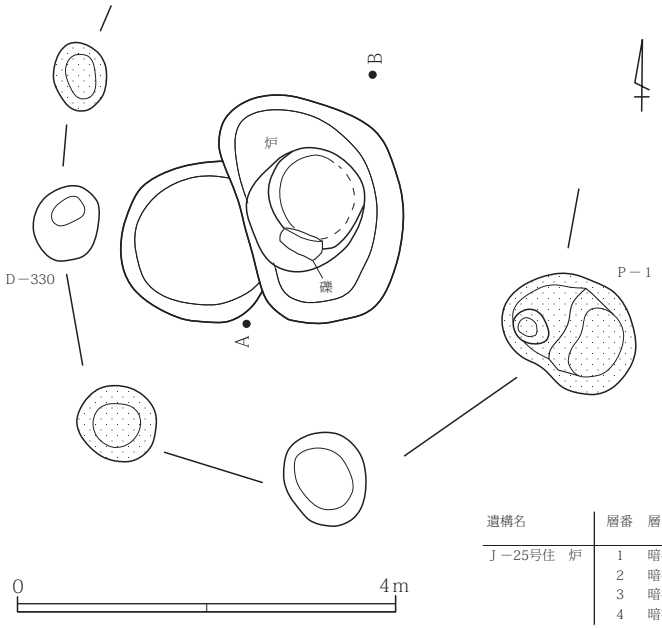
土器分布

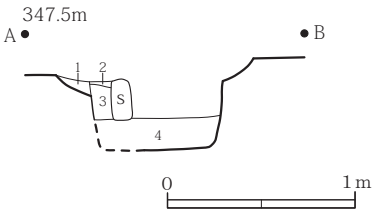
石器分布

礫分布

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
Ｊ－24号住　炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	※	×	※	×	周溝
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	※	Ｕ－１の掘方
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	×	※	※	〃

Ｊ－25 号住





土器分布

石器分布

礫分布

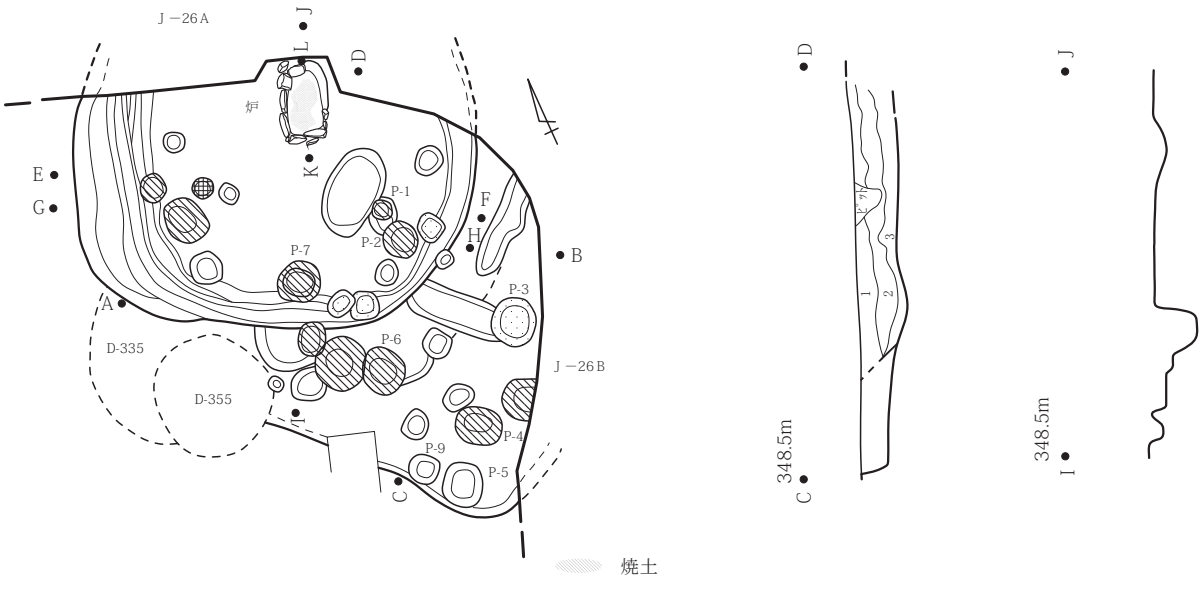
土器出土量

その他	510g
計	510g

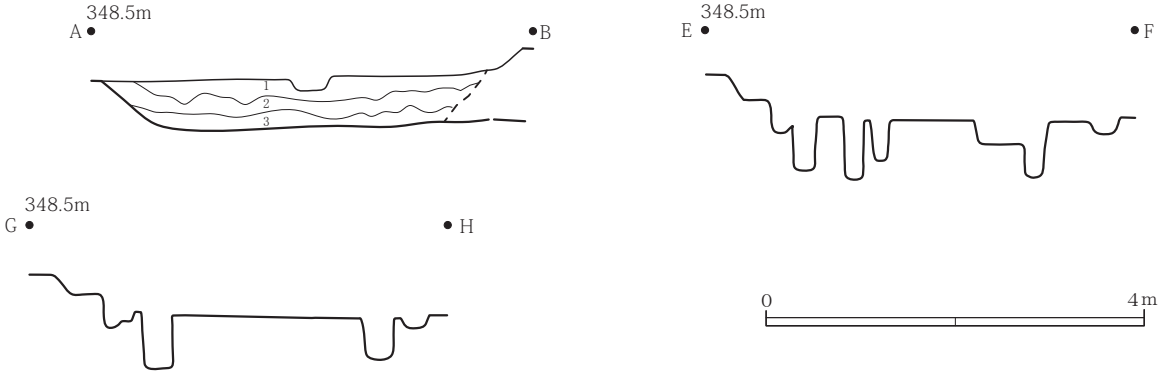
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
Ｊ－25号住　炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	×	※	×
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×	×	×
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	△	※	※	※	×

第84図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－24号住居跡

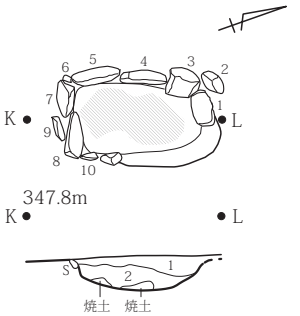
Ｊ－26 号住①



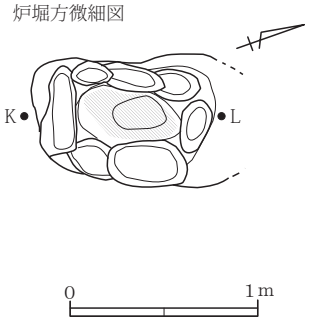
P-8：欠番

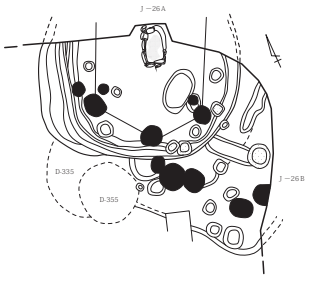


炉微細図



炉堀方微細図





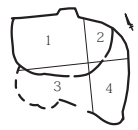
柱穴配置図

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	WP	備考
Ｊ－26号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×	×	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	×	※	×	※	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	×	※	※	※	
	(4)	黒褐色土層10YR	4＜1	◎	○	×	×	×	×	×	※	ﾋﾟｯﾄ
炉	1	暗褐色土層7.5YR		◎	○	※	×	×	※	△		
	2	暗赤褐色土層５YR	1＜2	◎	○	△	×	×	※	○		

第85図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－26号住居跡（１）

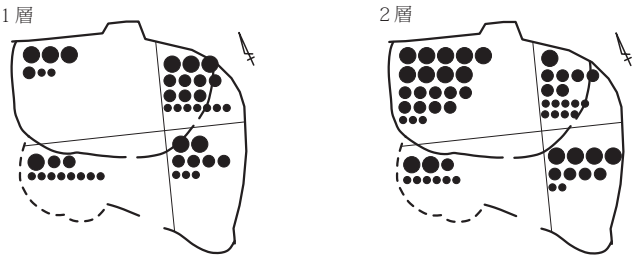
Ｊ－26 号住②

土器分布

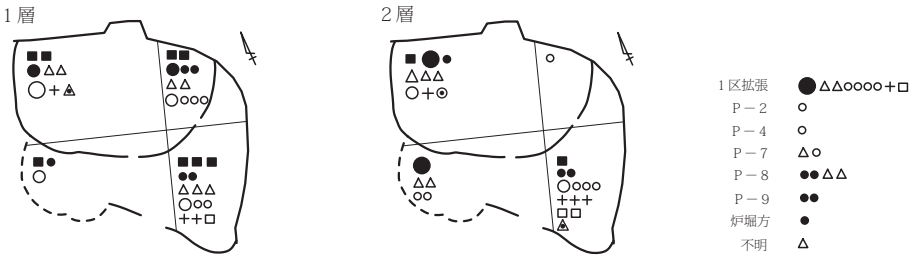


土器出土量

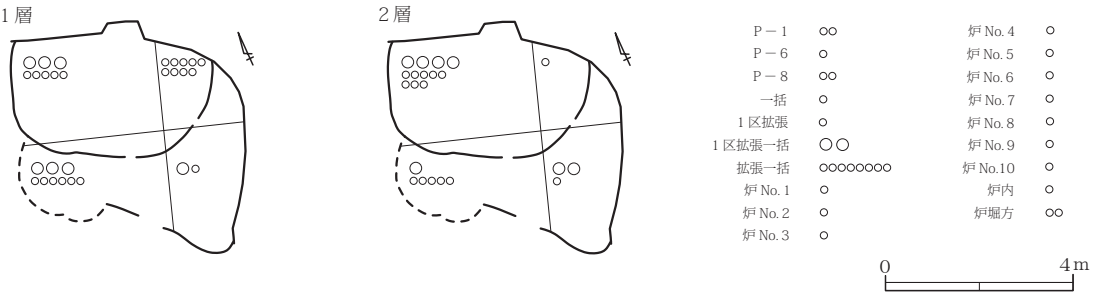
1 層	10,600g
2 層	18,200g
その他	3,060g
計	31,860g



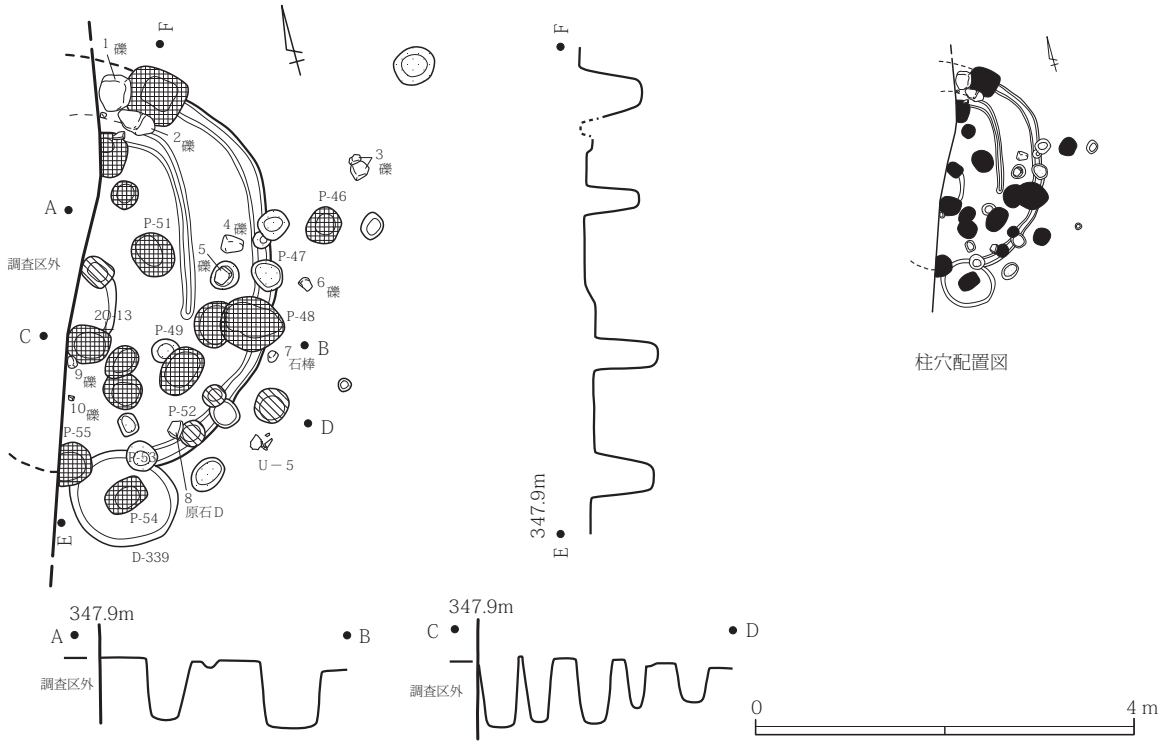
石器分布



礫分布

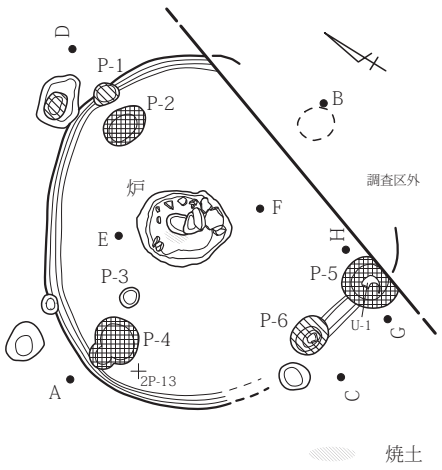


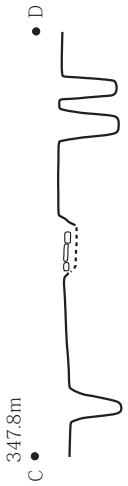
Ｊ－27 号住



第86図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－26号住居跡（２）・Ｊ－27号住居跡

Ｊ－28 号住





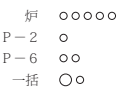
土器出土量

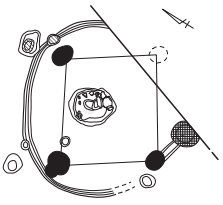
その他	1,860g
計	1,860g

土器分布

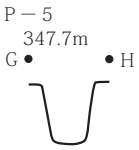
石器分布

礫分布

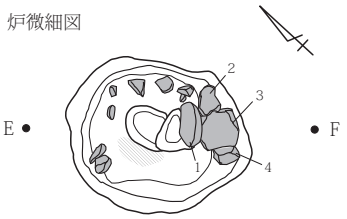


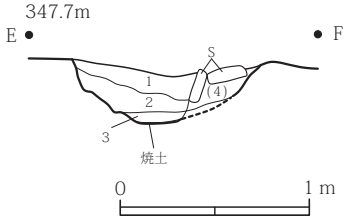


柱穴配置図



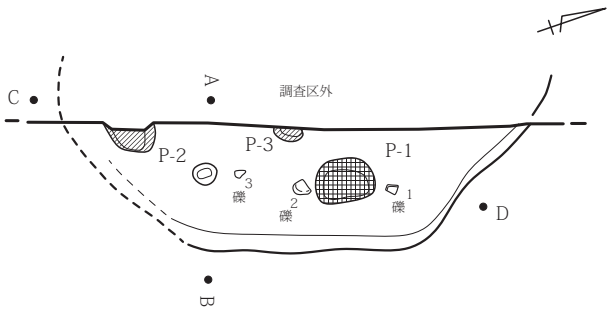
炉微細図

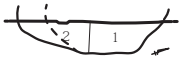




遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	WP
Ｊ－28号住　炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	※	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	※	※
	3	暗褐色土層7.5YR	2＜3	◎	○	※	×	×	※	△	△

Ｊ－29 号住





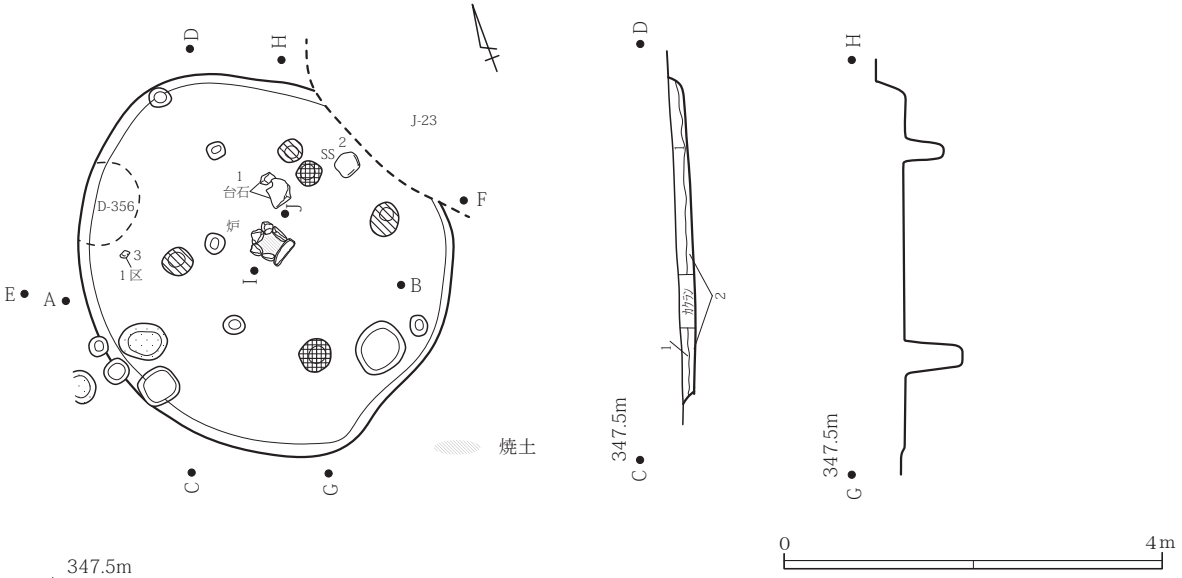
土器出土量

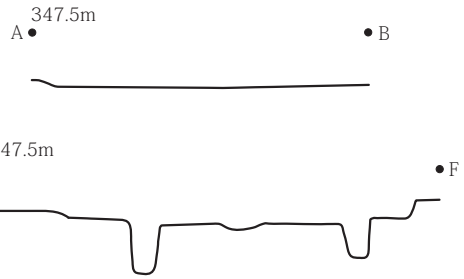
その他	110g
計	110g

Ｐ－３ ●●
Ｐ－２ ○○

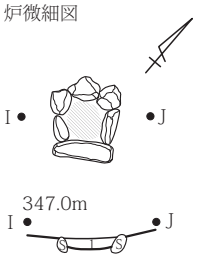
第87図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－28・29号住居跡

Ｊ－31 号住

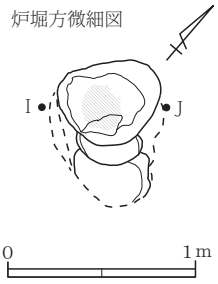




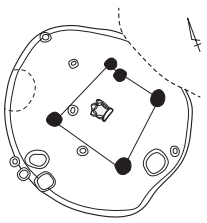
炉微細図



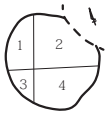
炉堀方微細図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	WP
Ｊ－31号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	※	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	×	※	※	※

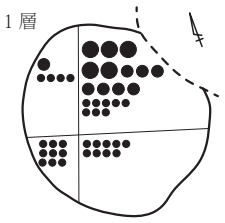


柱穴配置図

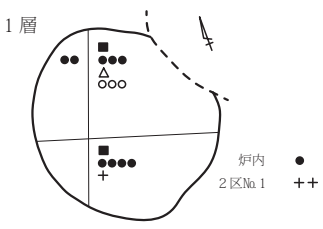


土器出土量
1層　6,910g
計　6,910g

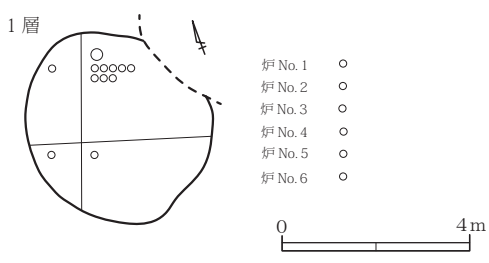
土器分布



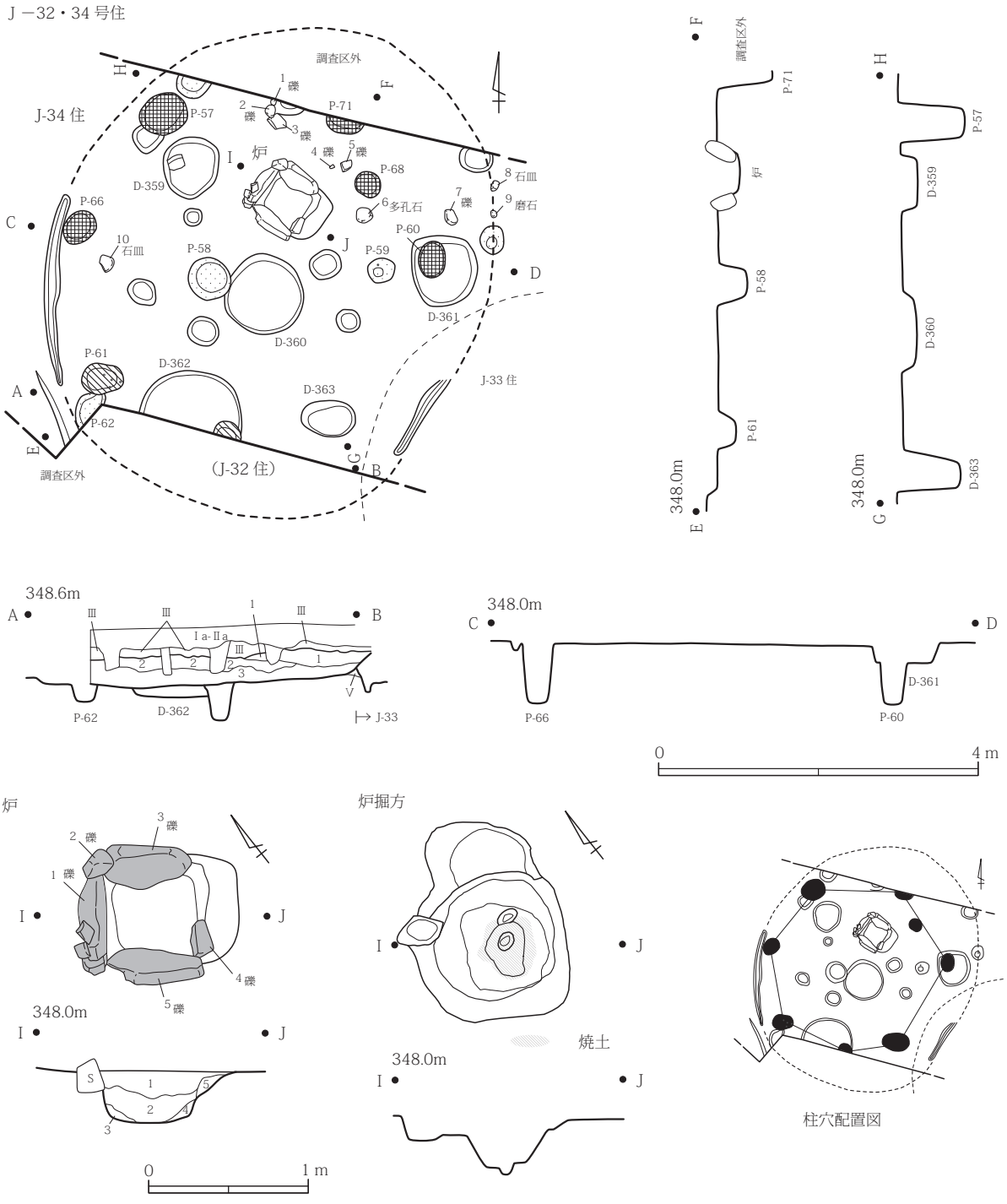
石器分布



礫分布

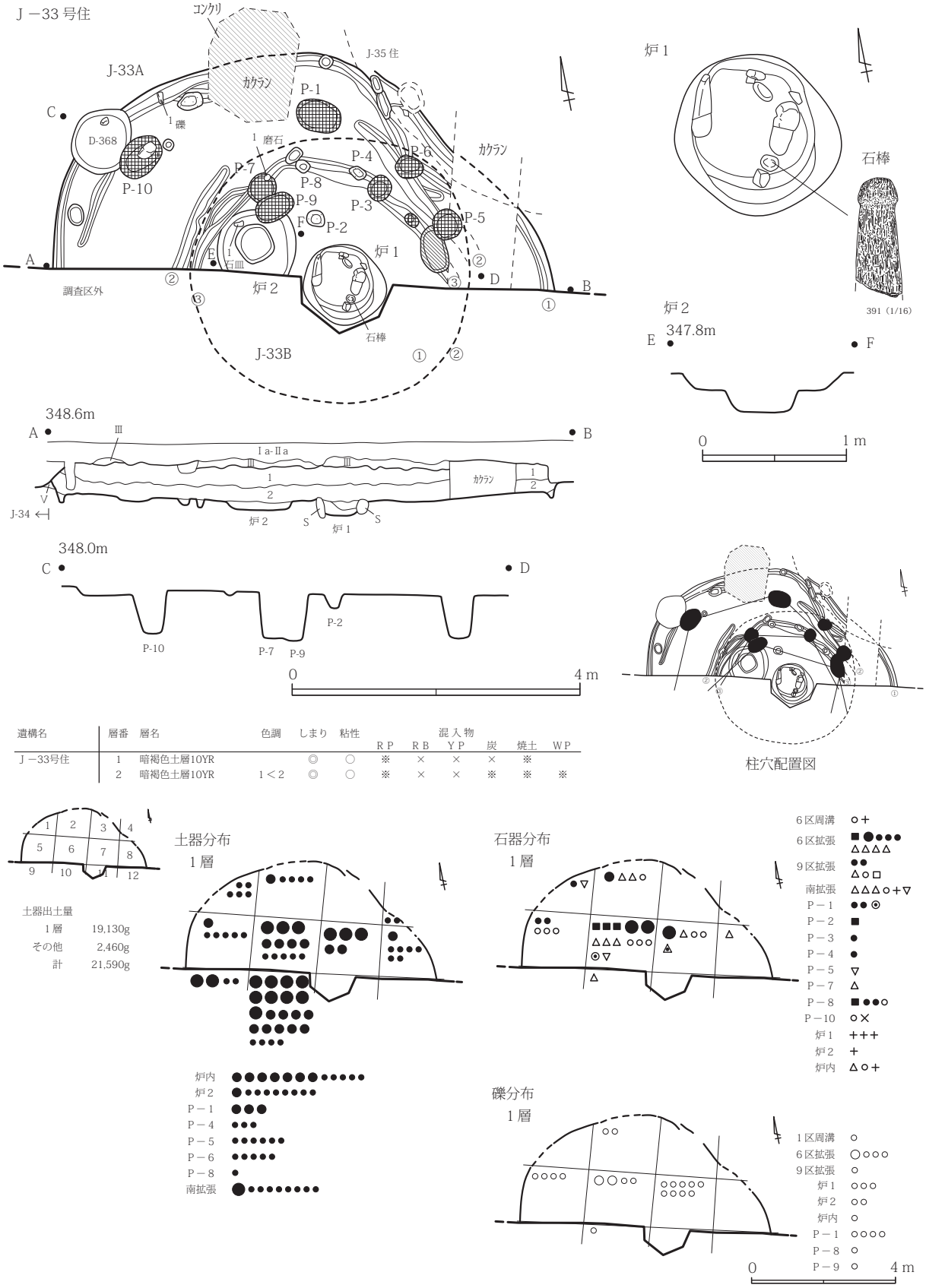


第88図　行田大道南横道西遺跡　Ｊ－31号住居跡



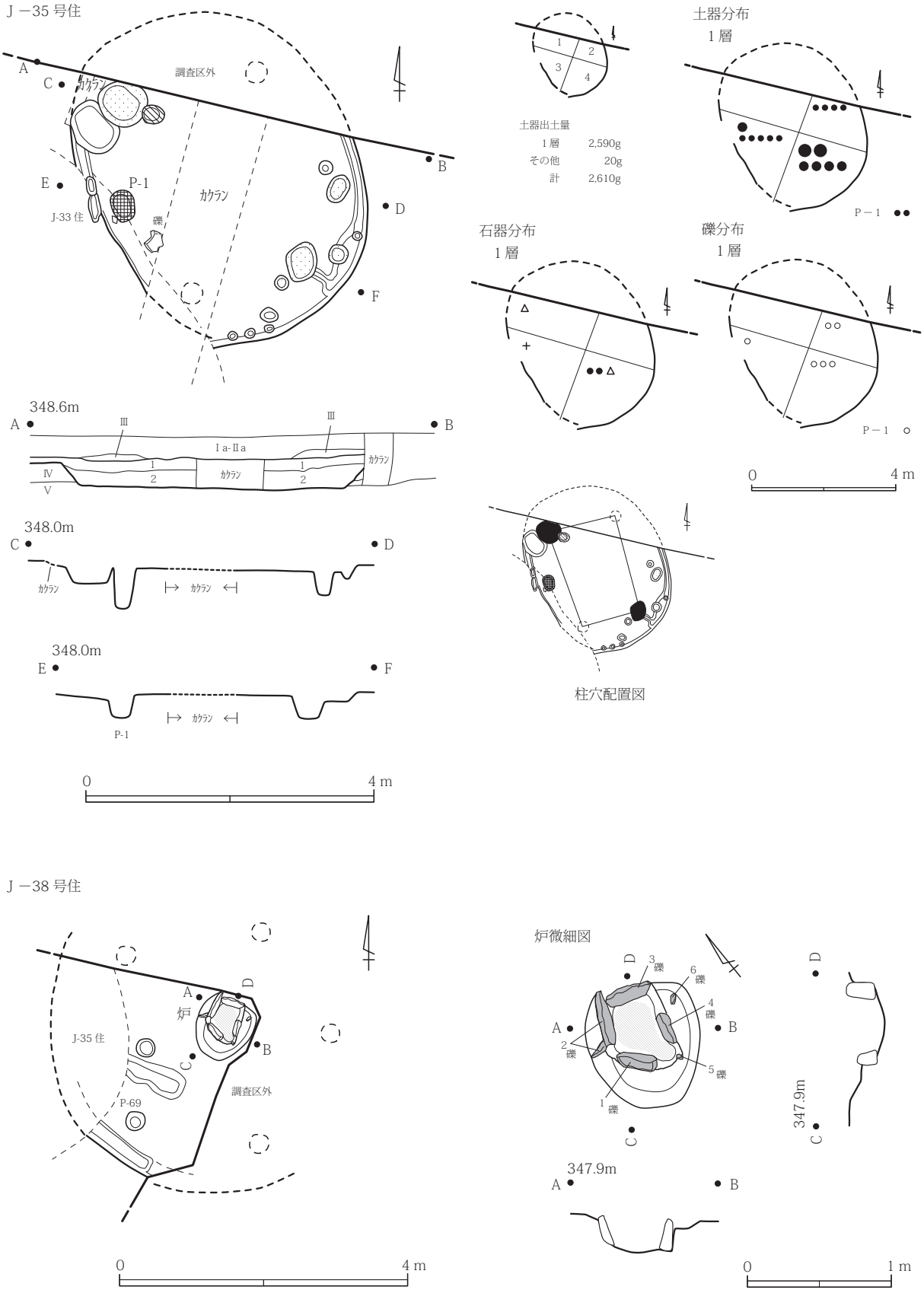
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	WP
J－34号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	×	×	×	※
J－34号住 炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	※	
	2	暗褐色土層7.5YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	※	
	3	暗褐色土層7.5YR	2＜3	◎	○	△	×	×	×	※	
	4	暗褐色土層7.5YR	2＜4	◎	○	△	×	×	×	※	
	5	暗褐色土層10YR	1＜5	◎	○	△	×	×	×	×	掘方の埋土

第89図　行田大道南横道西遺跡　J －32・34号住居跡

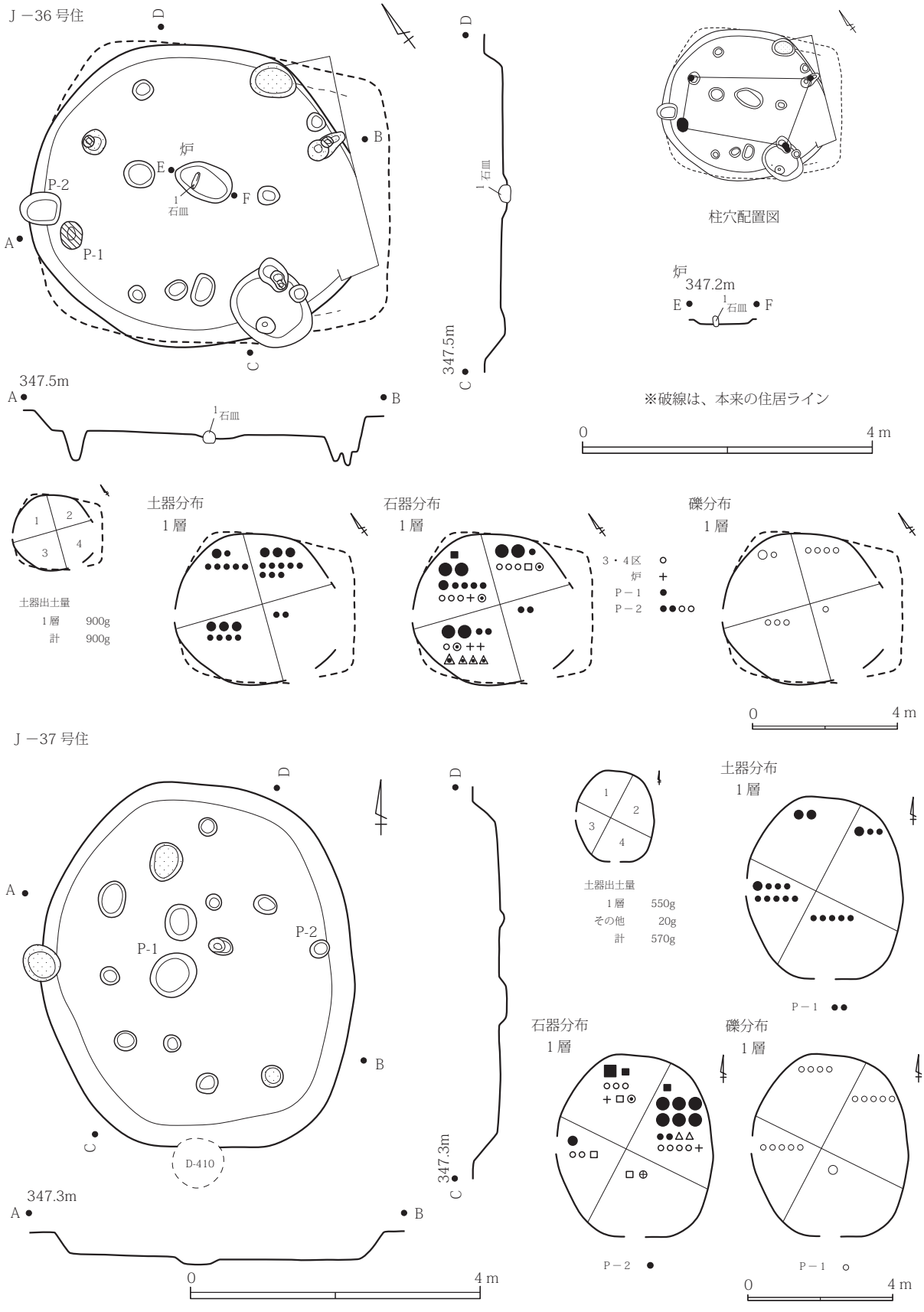


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	WP
J－33号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	※	※

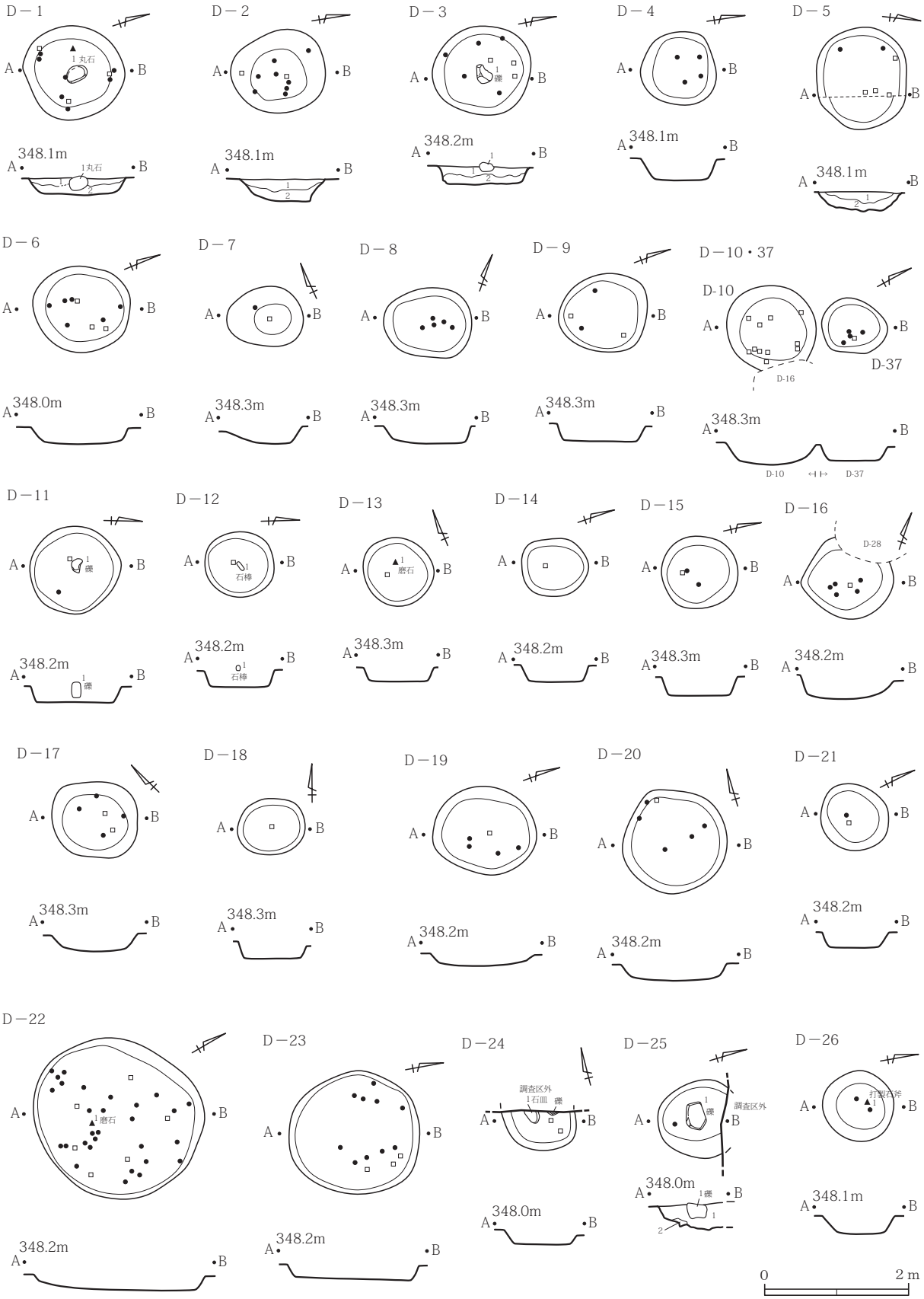
第90図　行田大道南横道西遺跡　J－33号住居跡



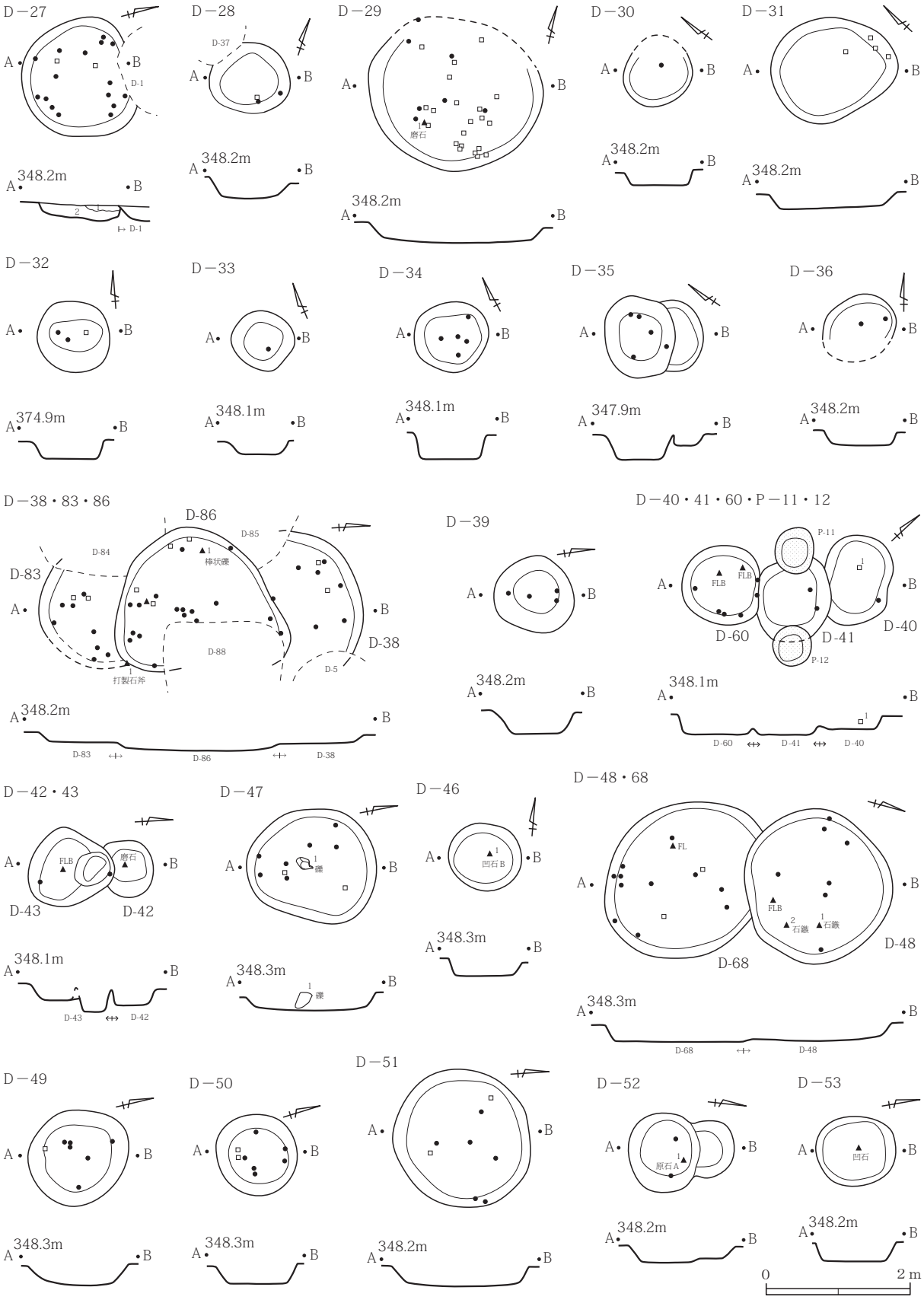
第91図　行田大道南横道西遺跡　J －35号住居跡



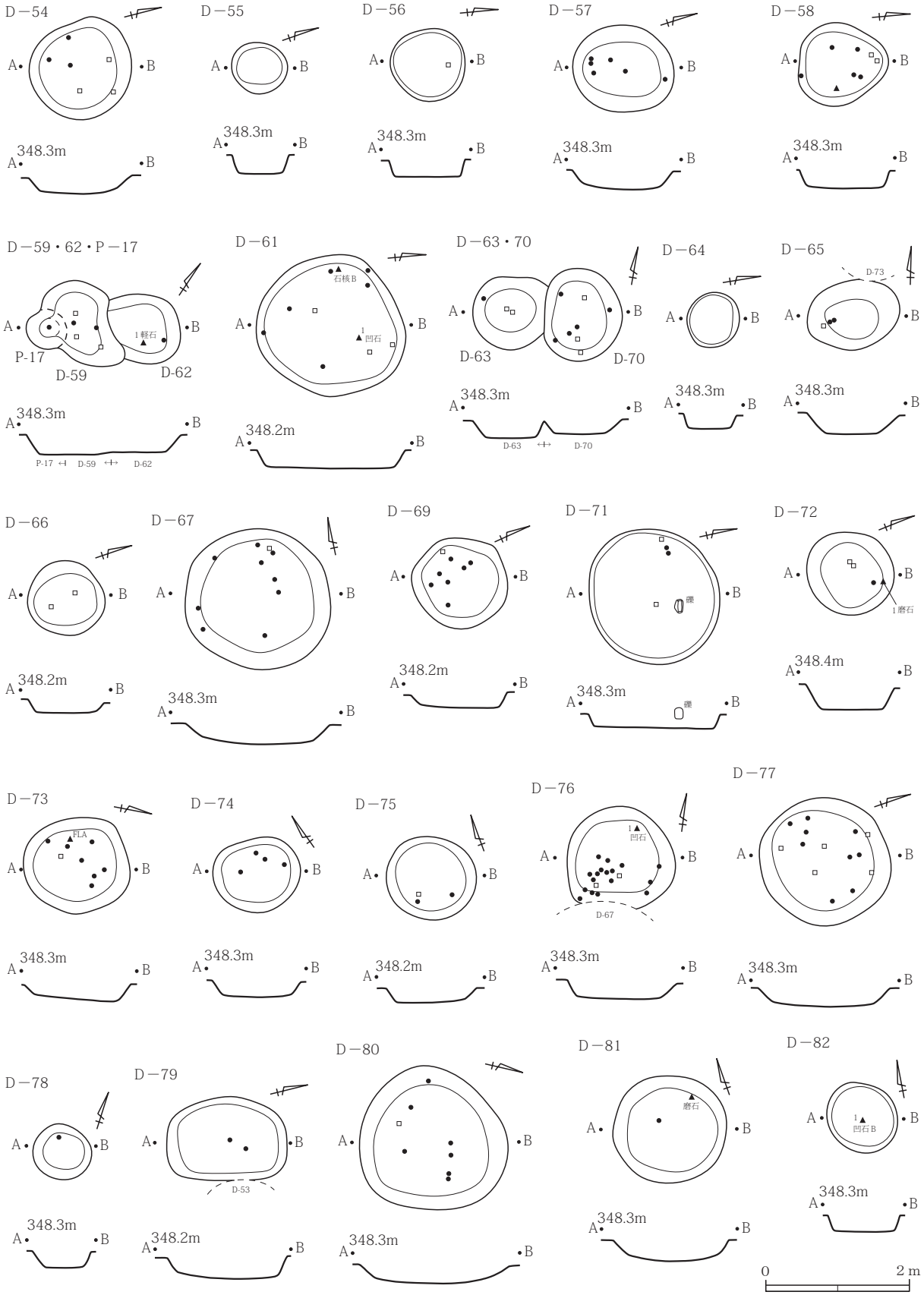
第92図　行田大道南横道西遺跡　J －36号住居跡



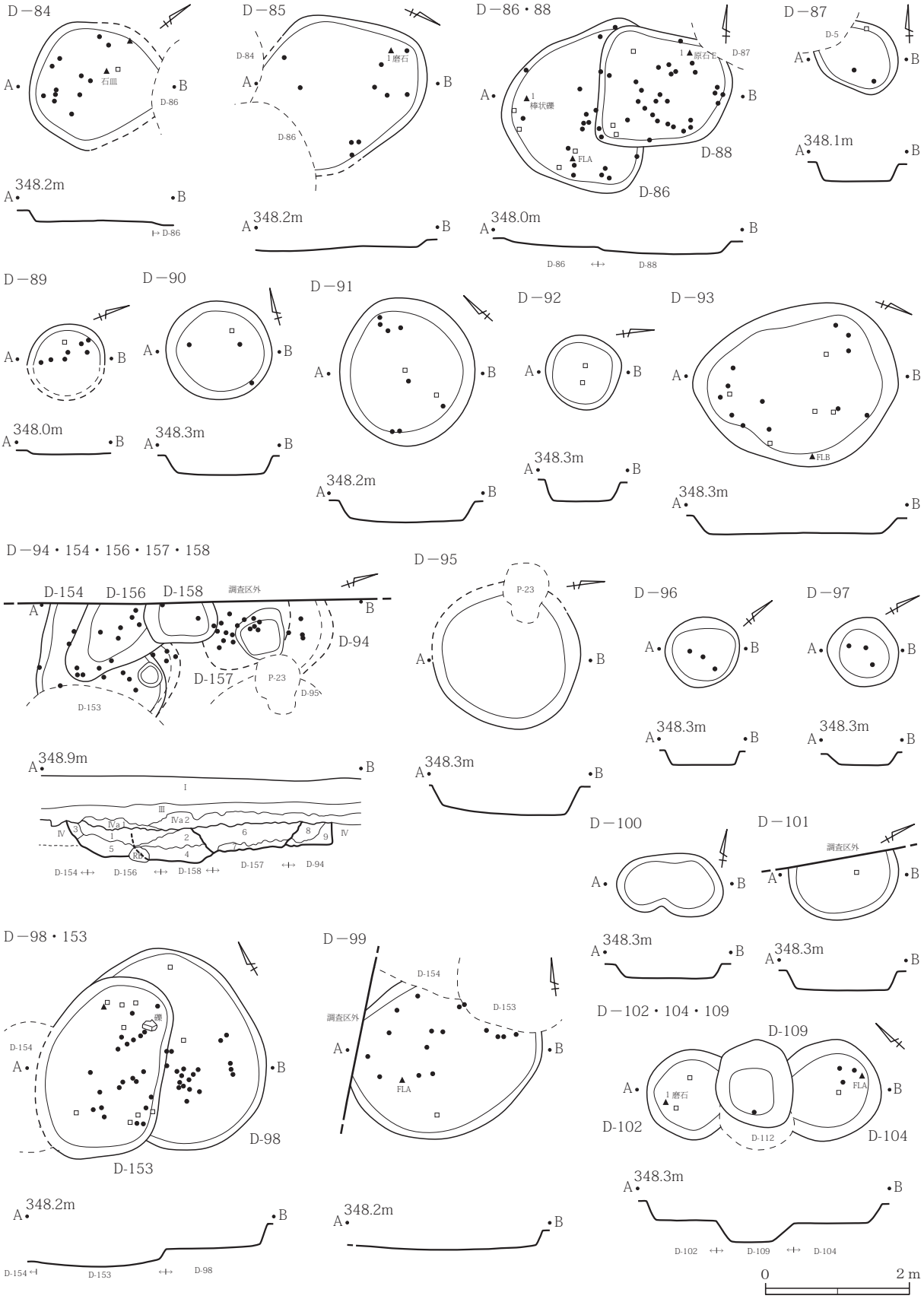
第93図　行田大道南横道西遺跡　土坑（1）



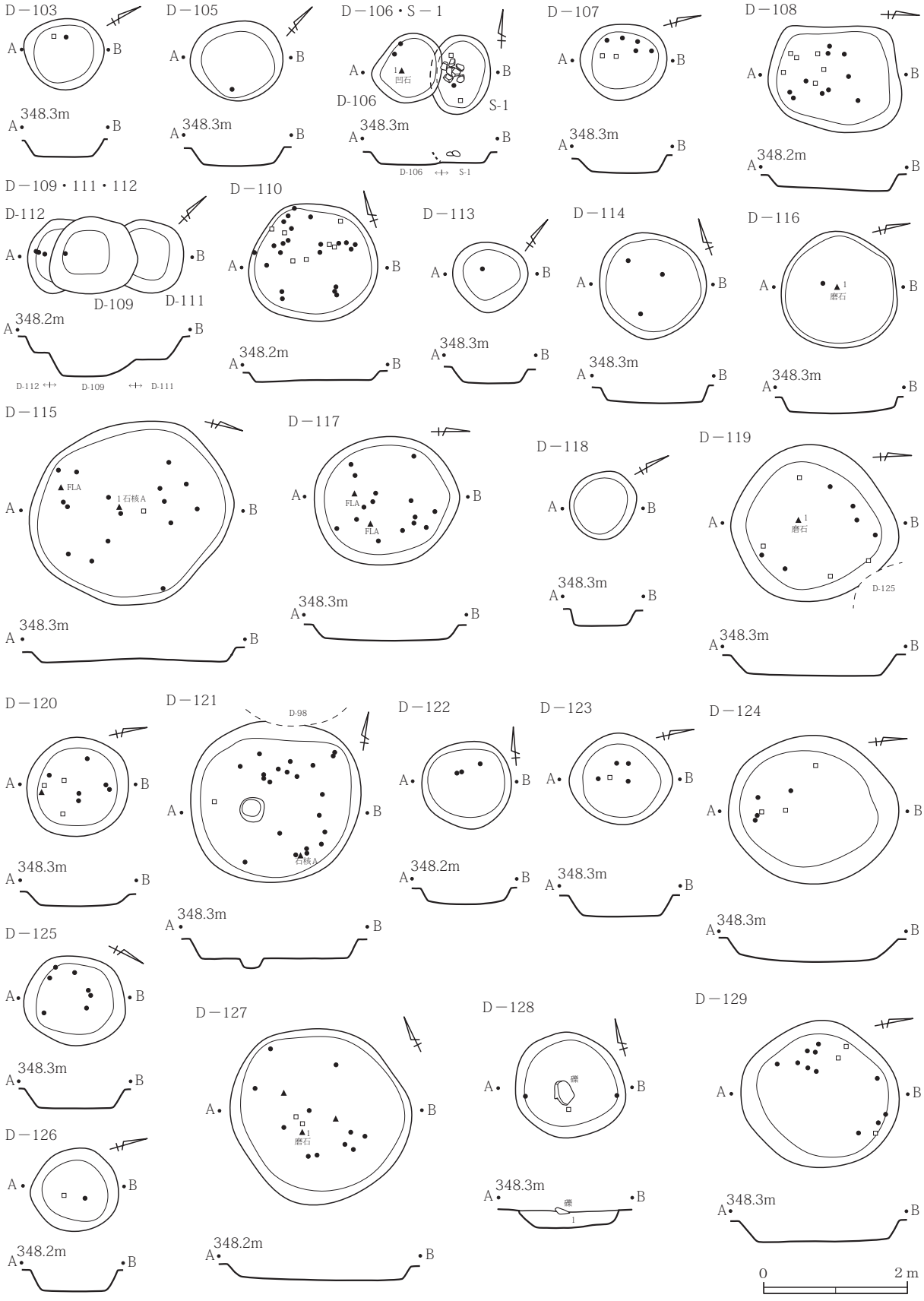
第94図　行田大道南横道西遺跡　土坑（2）



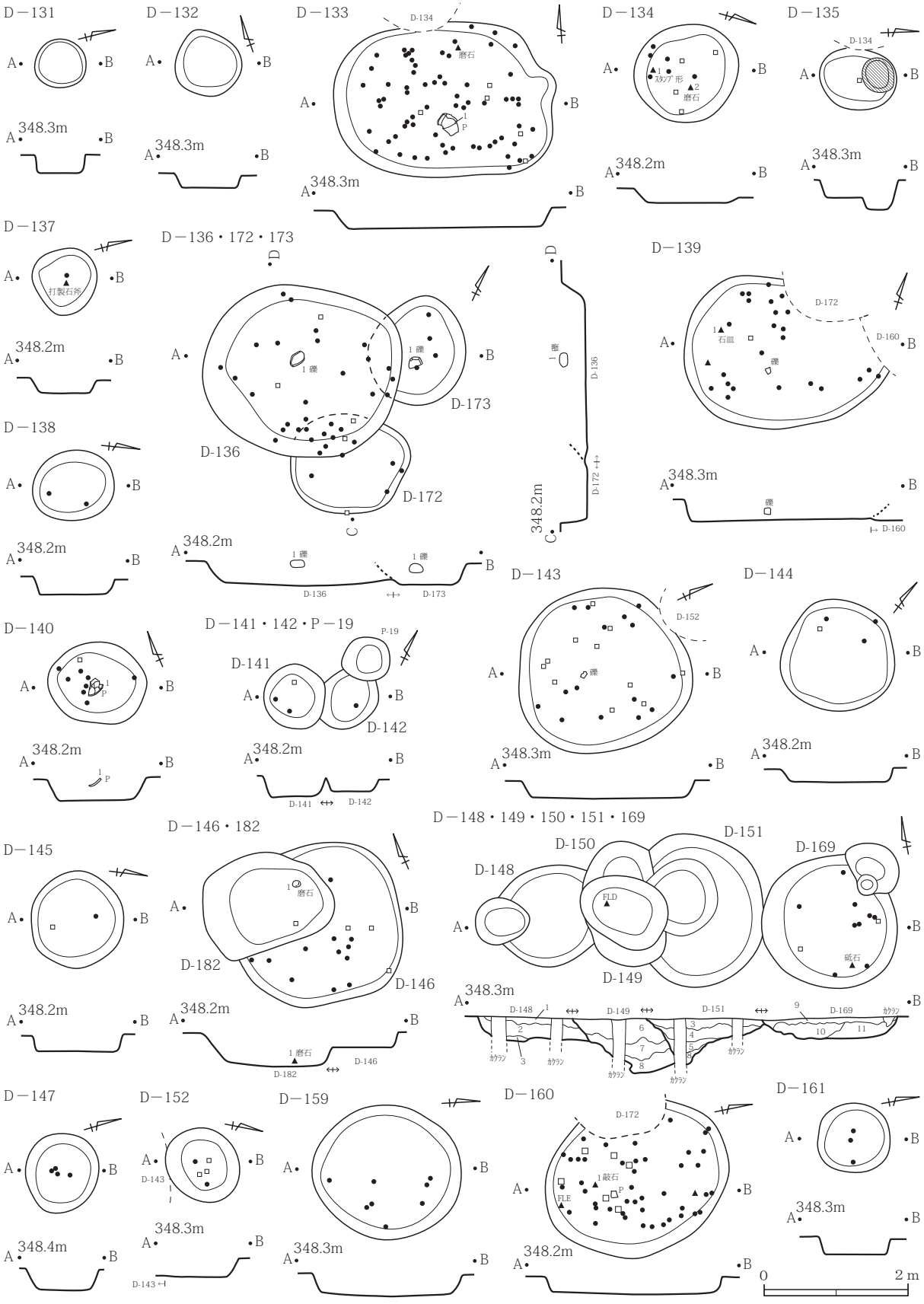
第95図　行田大道南横道西遺跡　土坑（3）



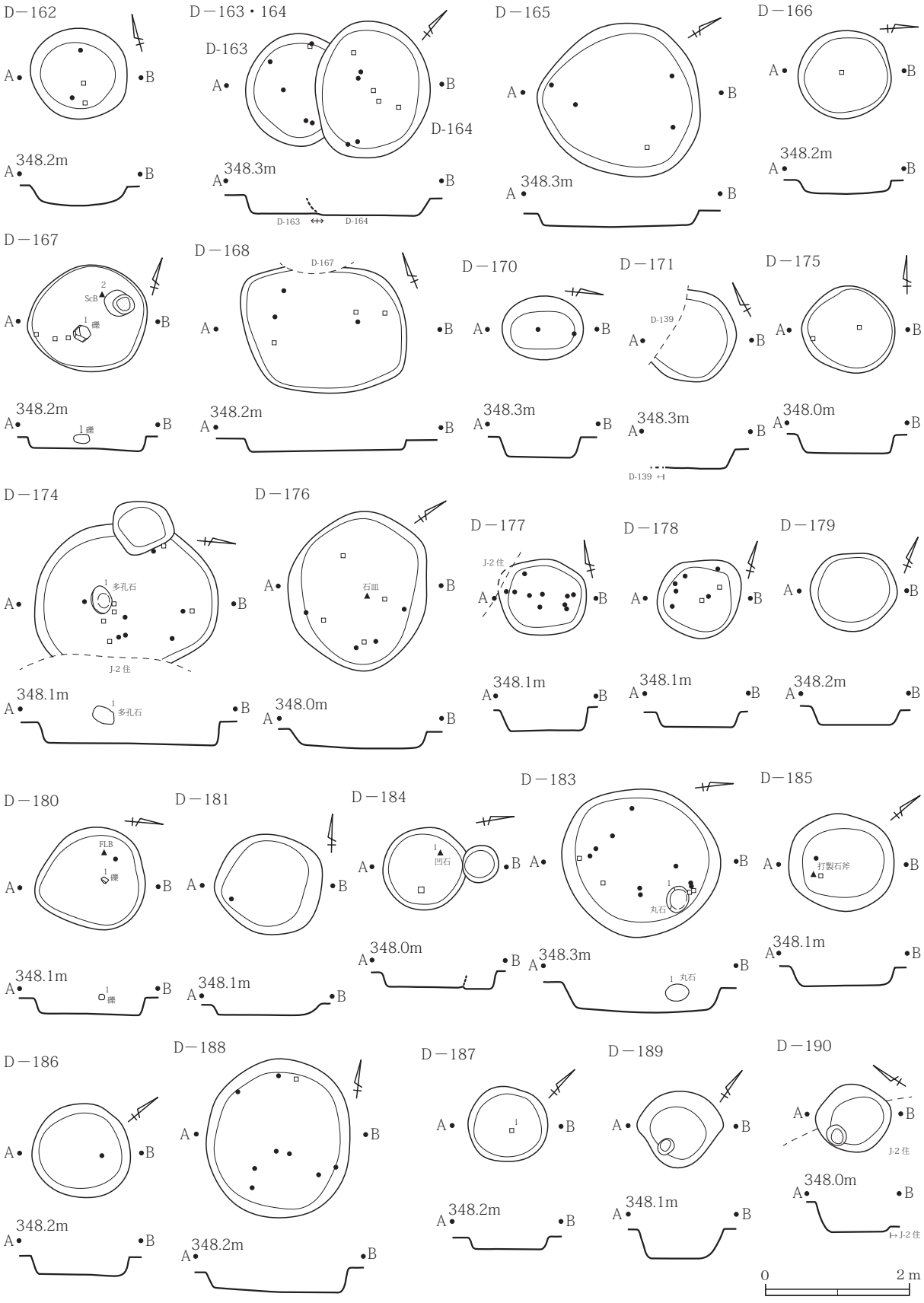
第96図　行田大道南横道西遺跡　土坑（4）



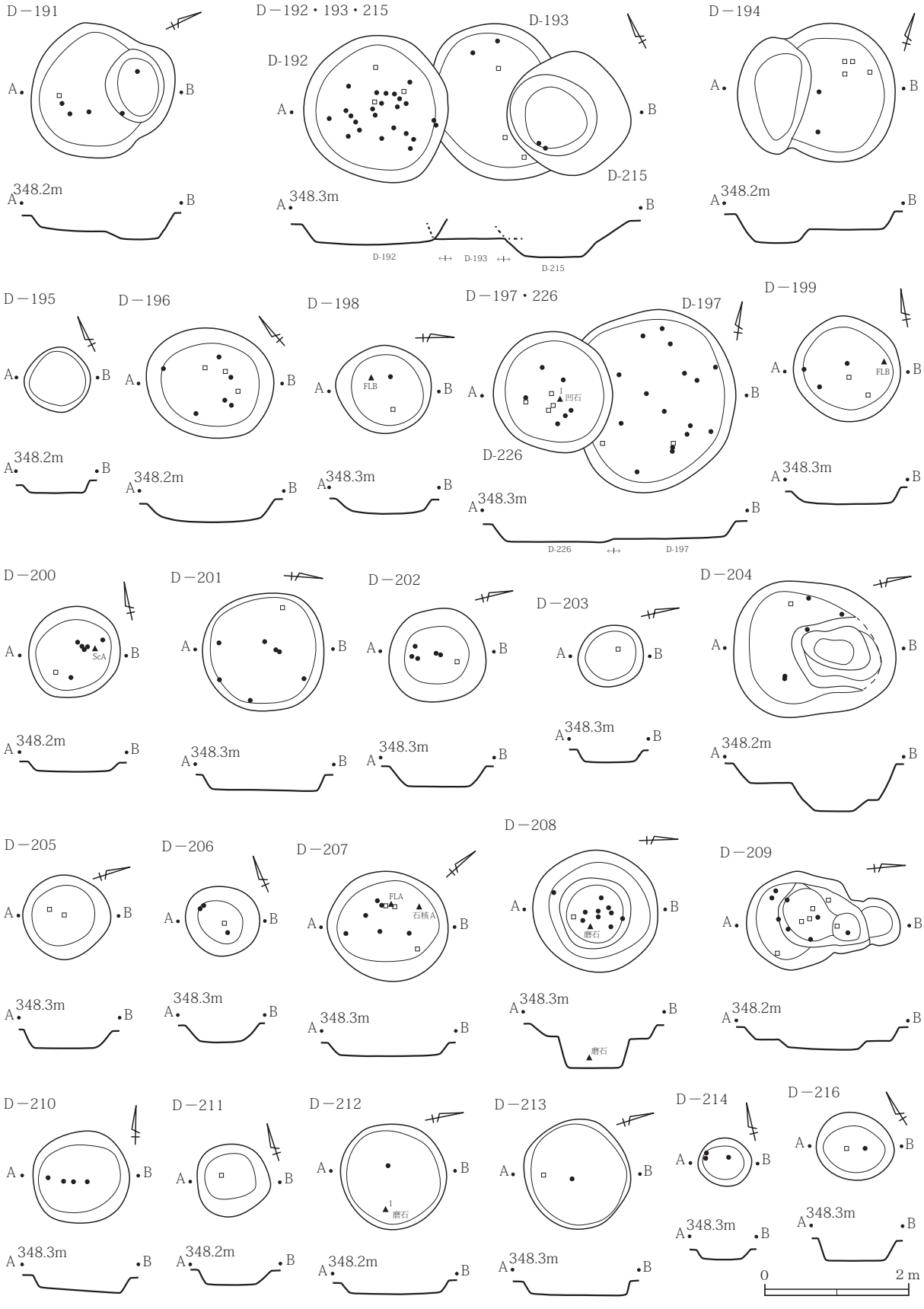
第97図　行田大道南横道西遺跡　土坑（5）



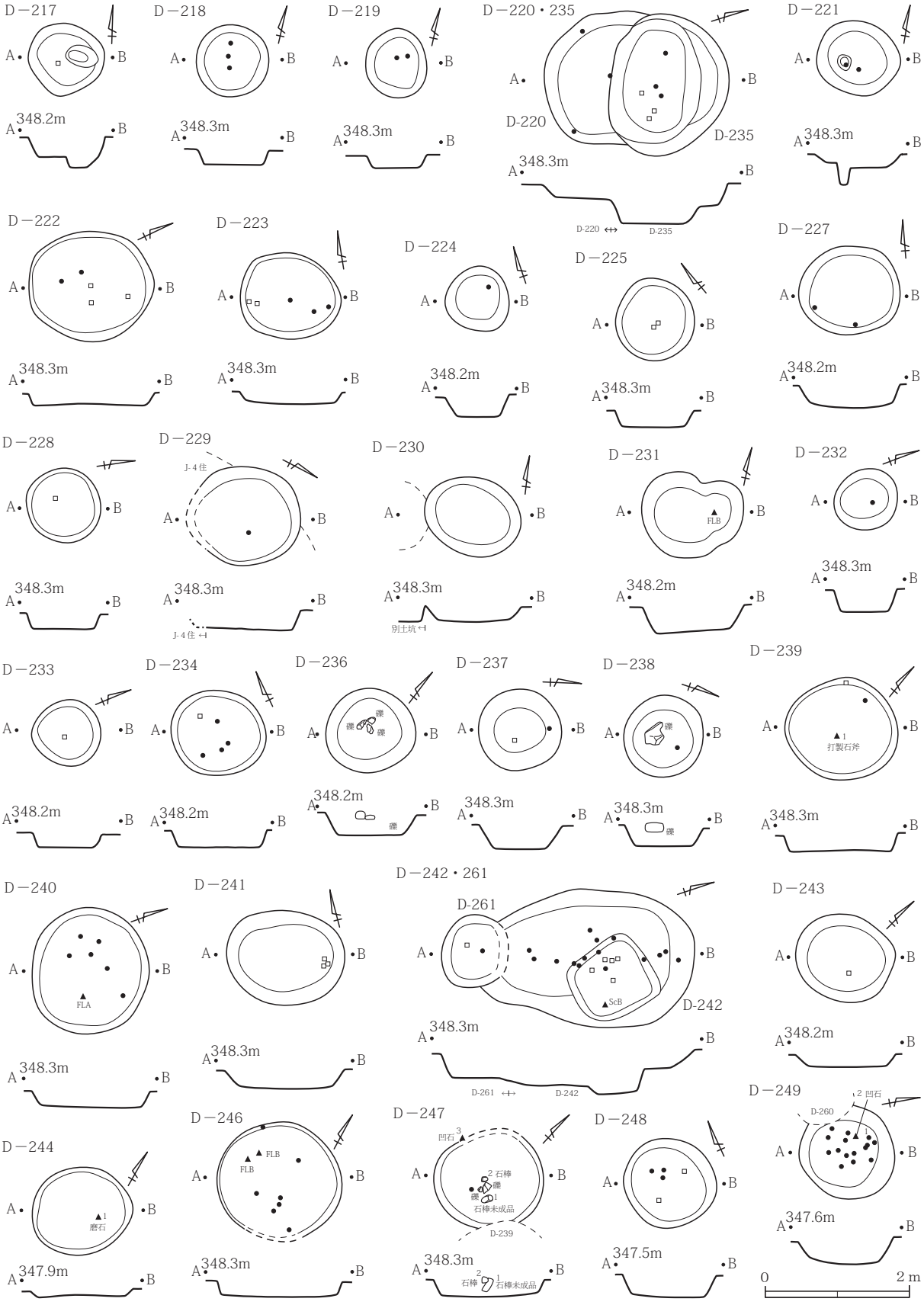
第98図　行田大道南横道西遺跡　土坑（6）



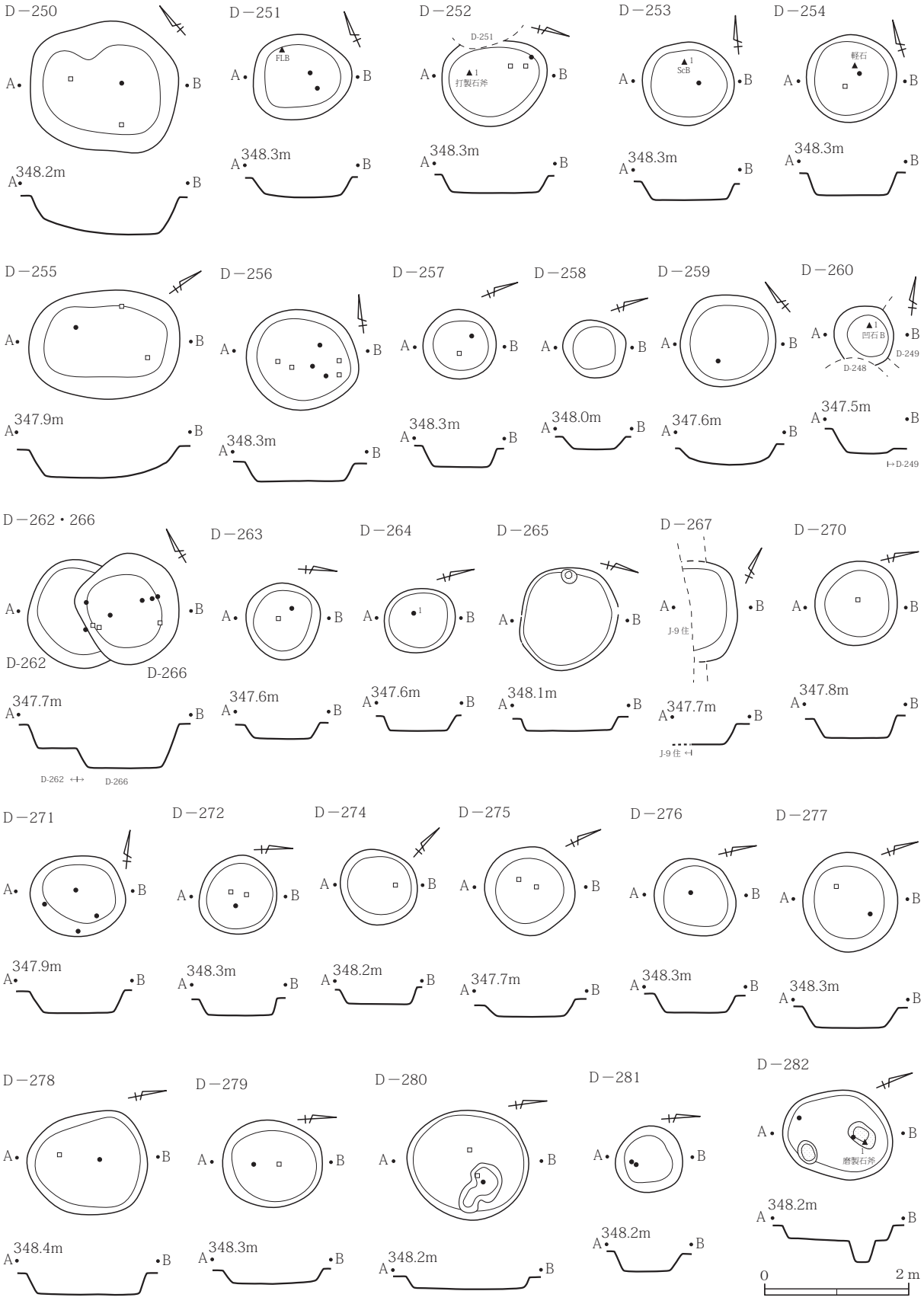
第99図　行田大道南横道西遺跡　土坑（7）



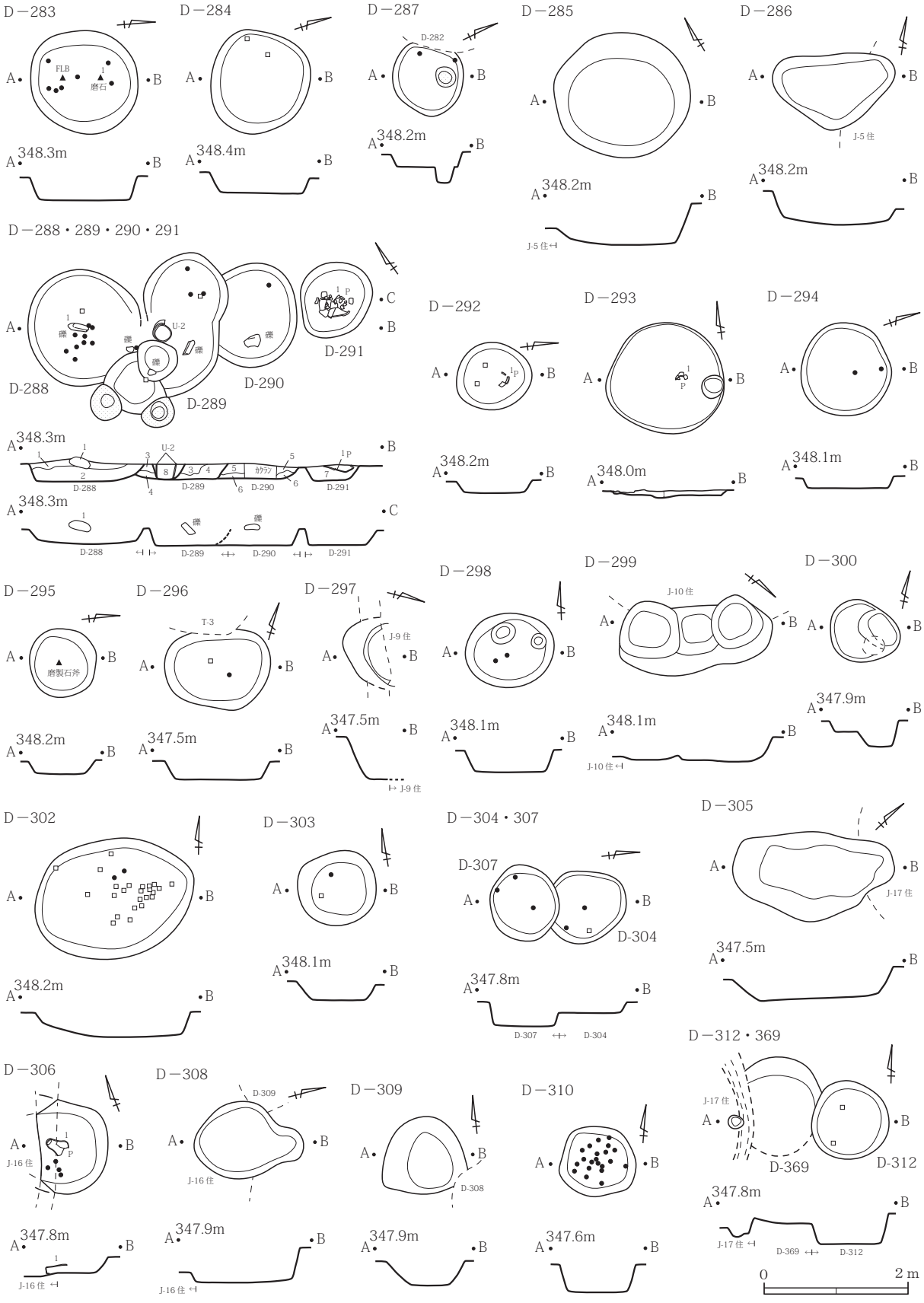
第100図　行田大道南横道西遺跡　土坑（8）



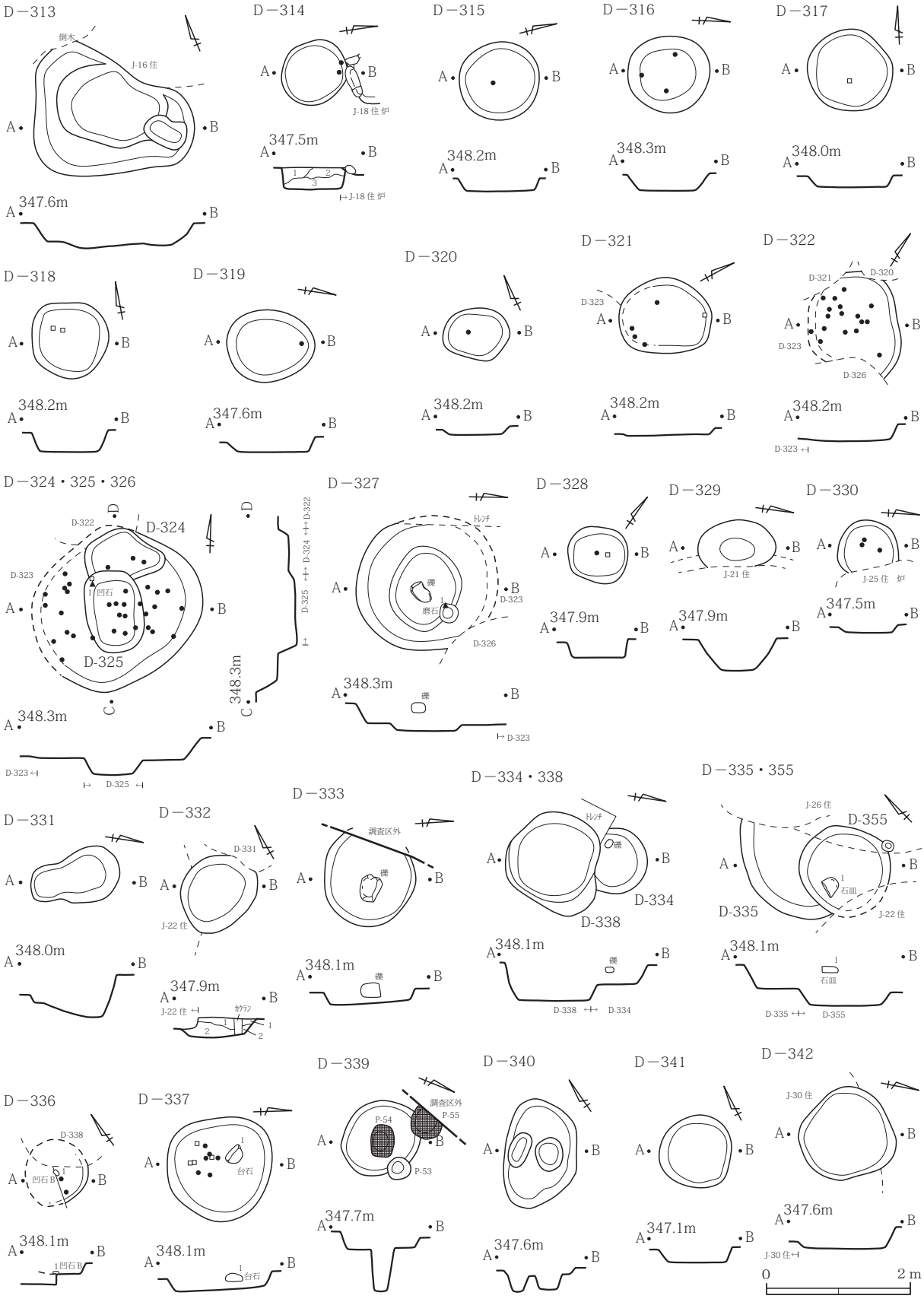
第101図　行田大道南横道西遺跡　土坑（9）



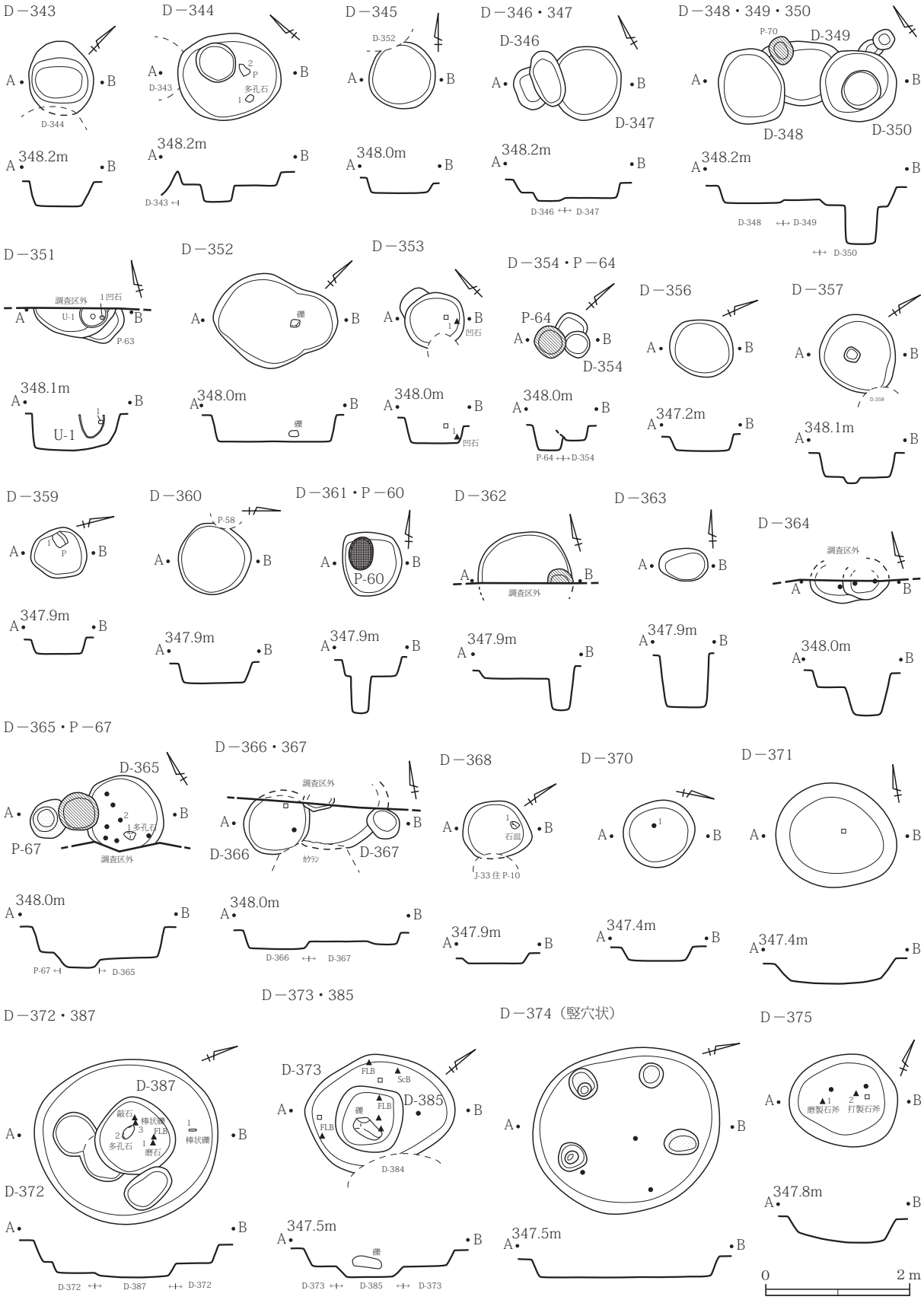
第102図　行田大道南横道西遺跡　土坑（11）



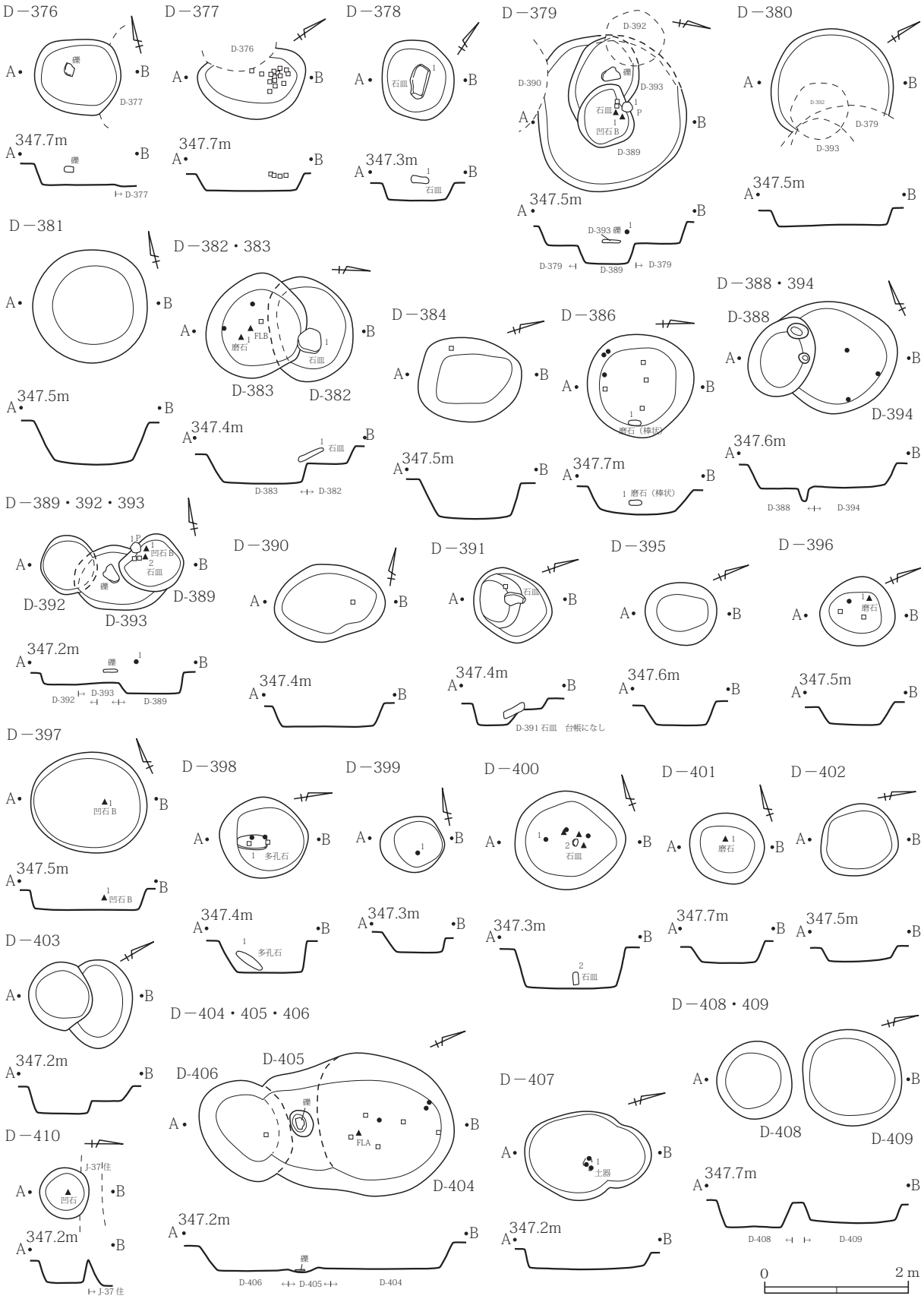
第103図　行田大道南横道西遺跡　土坑（12）



第104図　行田大道南横道西遺跡　土坑（13）



第105図　行田大道南横道西遺跡　土坑（14）

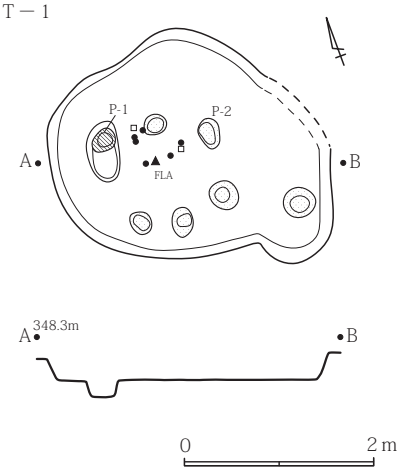


第106図　行田大道南横道西遺跡　土坑（15）

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物							備考
						RP	RB	YP	炭	焼土	白色P	黄色P	
D－1	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×		※		Ⅳ層
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	×		※		〃
D－2	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×		※		〃
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	×		※		〃
D－3	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×		※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	※		※		
D－5	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×		※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	×		※		
D－25	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※		※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	※	×	×		×		
D－27	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×		※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	×		×		
D－148	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×			×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	×			×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	※	×	×			×	
D－151	4	暗褐色土層10YR	4＜7	◎	○	※	×	×	×			×	
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	◎	○	※	×	×	×			※	土器包含層
	6	褐色土層10YR	5＜6	◎	○	△	×	×	×			※	
D－149	7	褐色土層10YR	1＜7	◎	○	△	△	×	×			※	
	8	褐色土層10YR	7＜8	◎	○	△	※	×	※			※	
D－169	9	褐色土層10YR	8＜9	◎	○	△	○	×	×			△	
	10	暗褐色土層10YR	10＜4	◎	○	※	×	×	×			×	
	11	暗褐色土層10YR	10＜11	◎	○	※	×	×	×			※	
D－245	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※			※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※			※	
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	◎	○	※	×	×	△			※	
D－288	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※		※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	※					
D－289	3	暗褐色土層10YR	3＜2	◎	○	×	×	×	※				
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	×	×	×			※		
D－290	5	暗褐色土層10YR	5＜4	◎	○	×	×	×					
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	◎	○	×	×	×					
D－291	7	暗褐色土層10YR	Ⅳ＜7	◎	○	×	×	※	×				
U－2	8	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×					
D－293	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	※	×				
西側土坑群	1	褐色土層10YR		◎	○	○	△	×	×			※	別土坑(掘り返し土)
	2	褐色土層10YR	2＜1	◎	○	△	×	×	※			※	〃
	3	暗褐色土層10YR	3＜1	◎	○	※	×	×	×			×	D－158
	4	褐色土層10YR	4＜2	◎	○	△	※	×	※			※	〃
	5	褐色土層10YR	5＜1	◎	○	△	×	×	※			※	D－156
	6	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※			※	D－157
	7	褐色土層10YR	6＜7	◎	○	△	※	×	×			※	〃
	8	暗褐色土層10YR	6＜8	◎	○	※	×	×	×			※	D－94
	9	暗褐色土層10YR	8＜9	◎	○	※	×	×	×			×	〃
D－314	1	褐色土層10YR		◎	○	△	※	※	※	×			埋め戻し
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	○	△	△	※	×			〃
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	○	○	○	△	※	×			〃
D－332	1	暗褐色土層10YR		◎	○	△	×	×	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	△	×	×	×			

第107図　行田大道南横道西遺跡　土坑（16）

T－1



土器分布

P－2 ●●●●●●●●

土器出土量

その他 80g

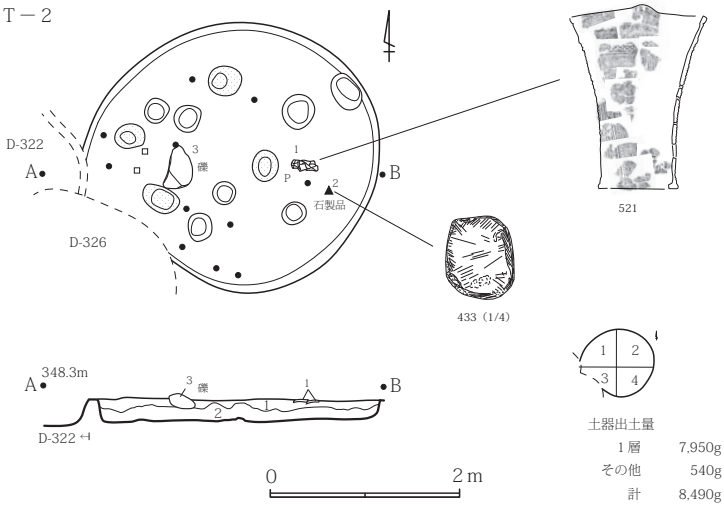
石器分布

P－1 ●

P－2 ●●●

一括 ●●●

T－2



土器出土量

1層 7,950g

その他 540g

計 8,490g

土器分布

1層

2・4区 ●●●●●●●●●

一括 ●●●●●●●

石器分布

1層

2・4区 ●

一括 ●●＋⊙

礫分布

1層

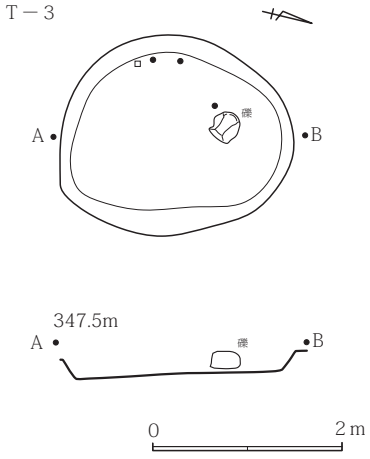
1・3区 ○

2・4区 ○

0 2m

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	黄色P	備考
T－2	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×	×	Ⅳ層ベース
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	×	×	〃

T－3



土器分布

一括 ●●●●●●●●●

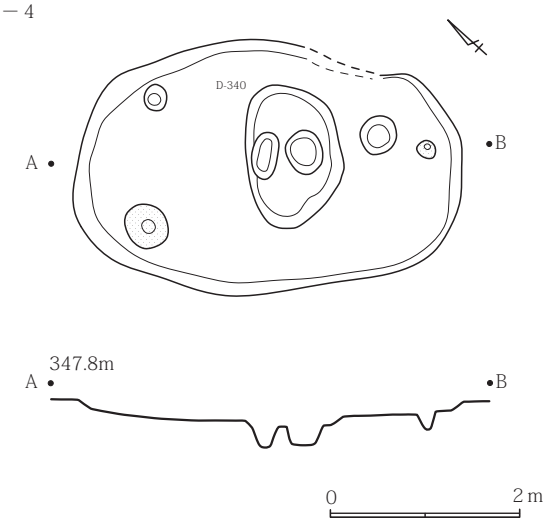
土器出土量

その他 90g

礫分布

一括 ○○

T－4



土器分布

一括 ●●●●●●●●●

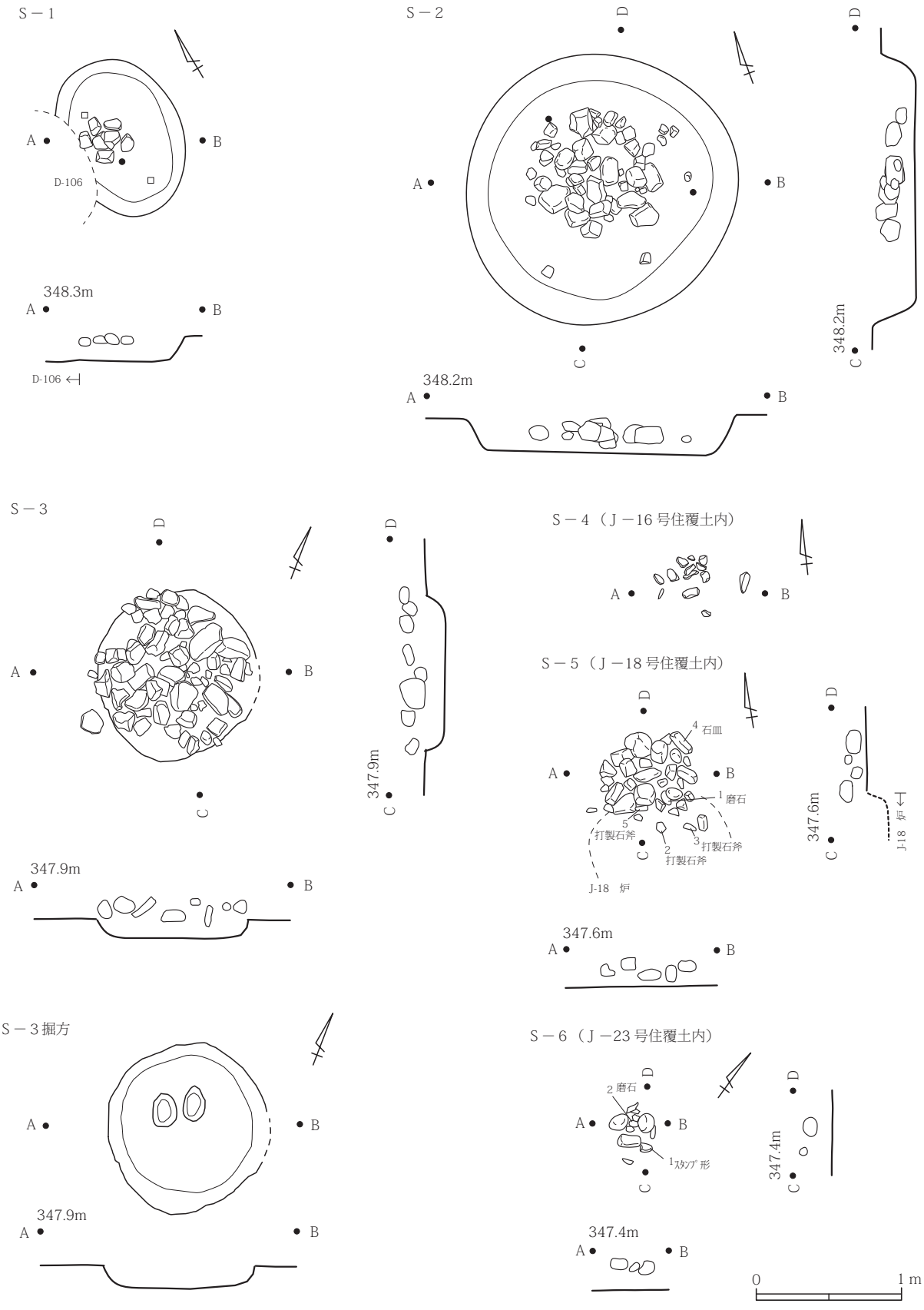
土器出土量

その他 90g

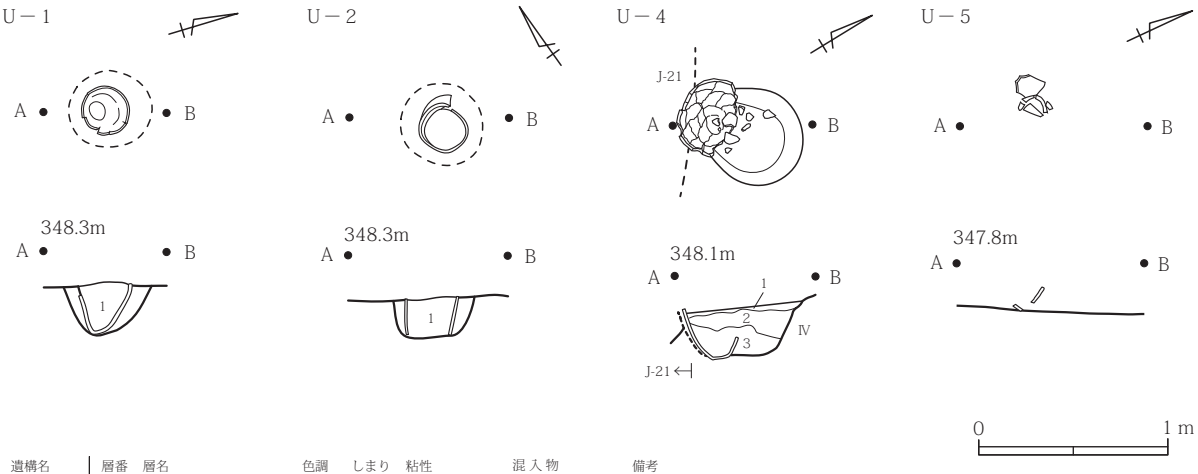
礫分布

一括 ○○

第108図　行田大道南横道西遺跡　竪穴状遺構

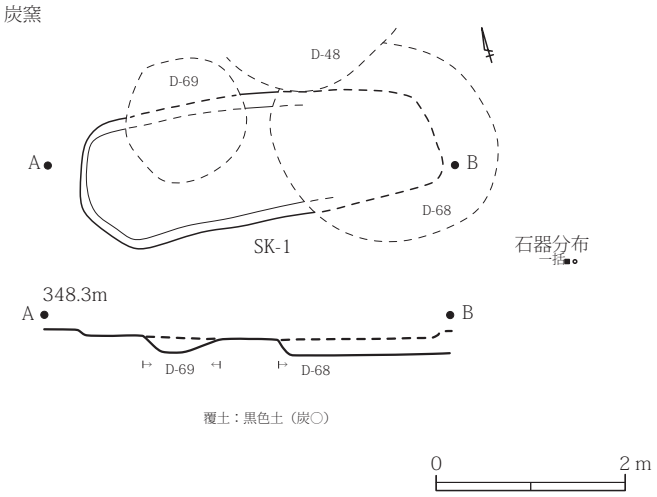


第109図　行田大道南横道西遺跡　集石

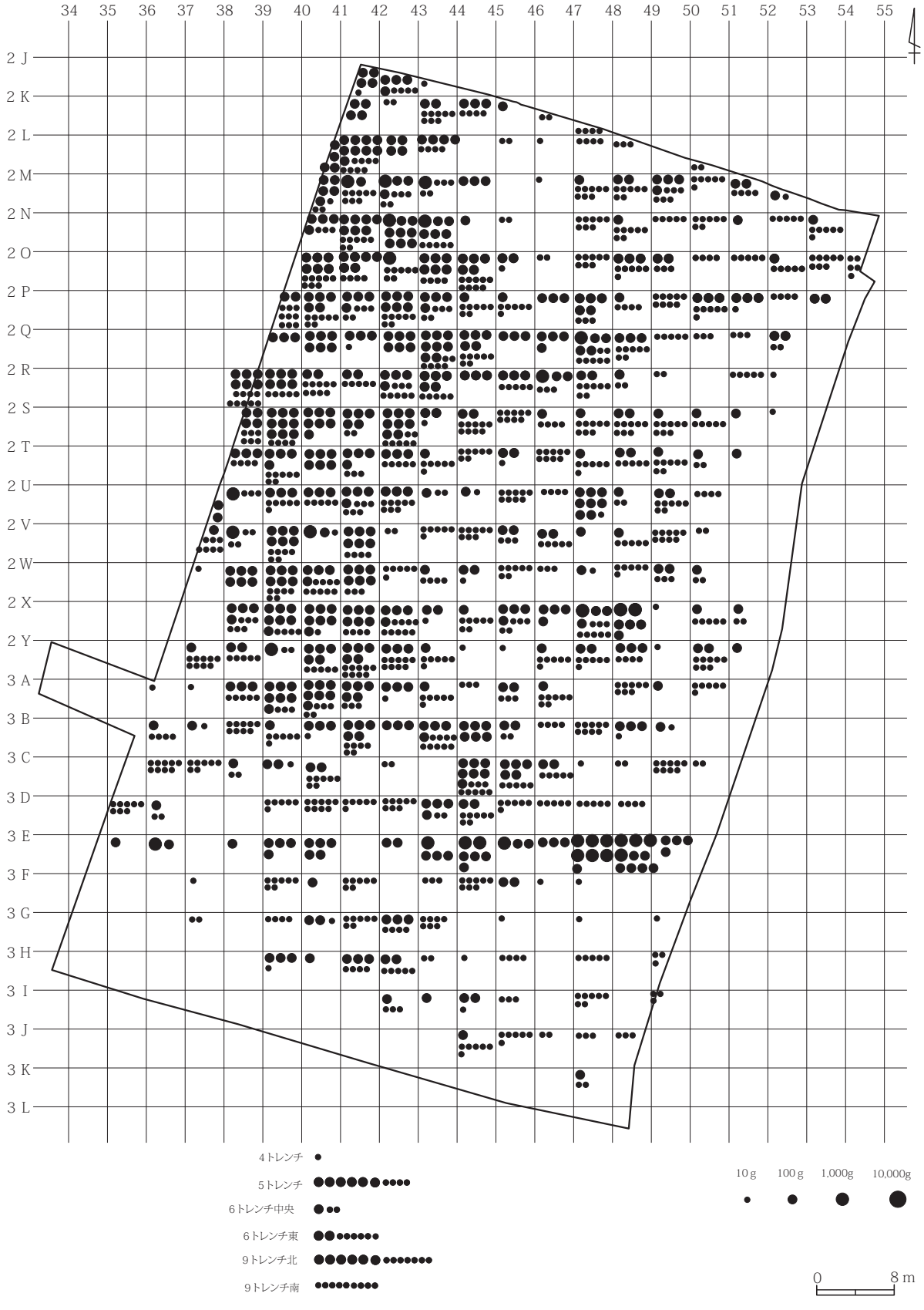


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	備考
U－1	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		混入物なし
U－2	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※	

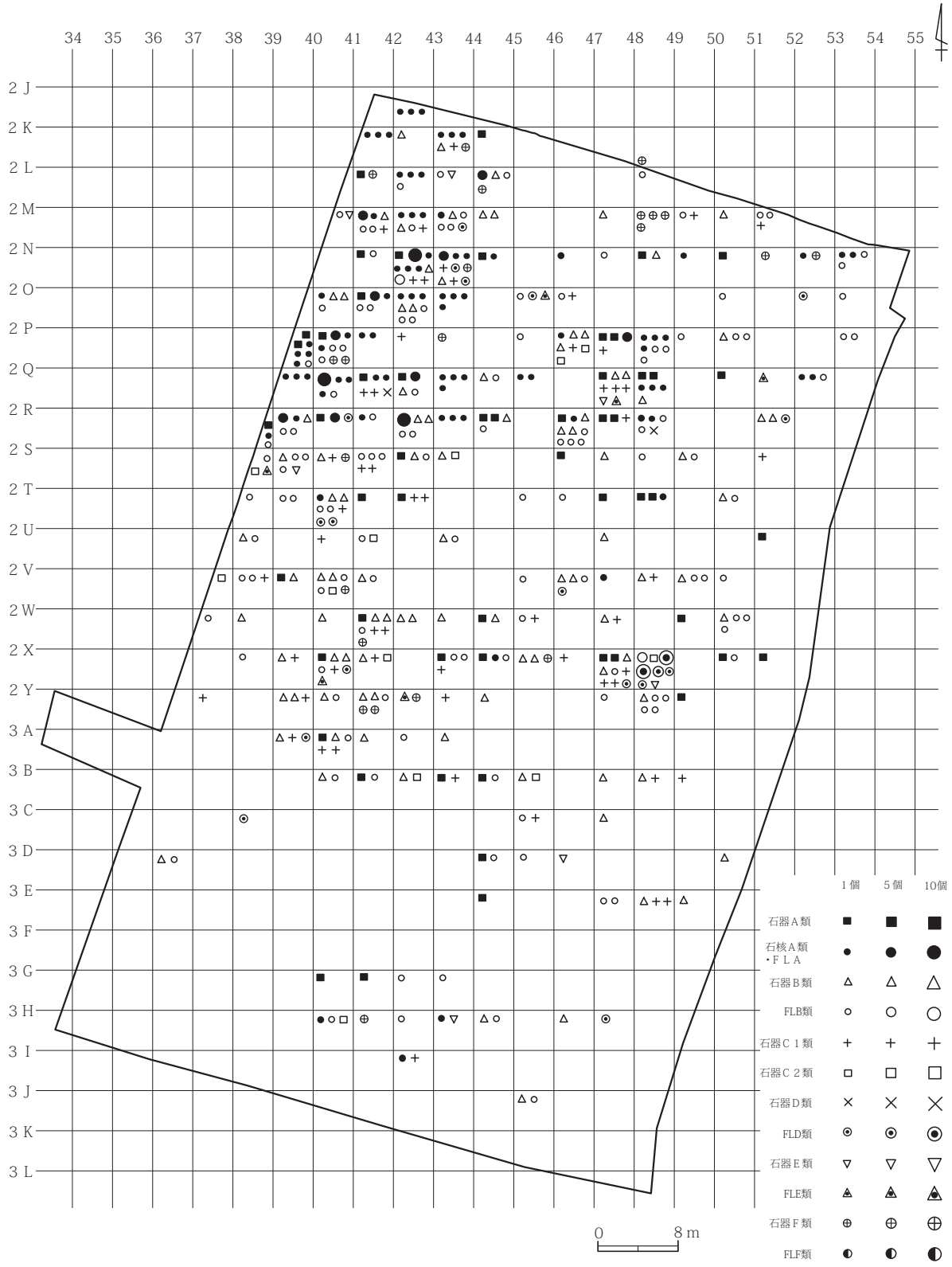
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
U－4	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×	×	Ⅳa層　自然層
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	×	×	自然層
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×	×	×	〃



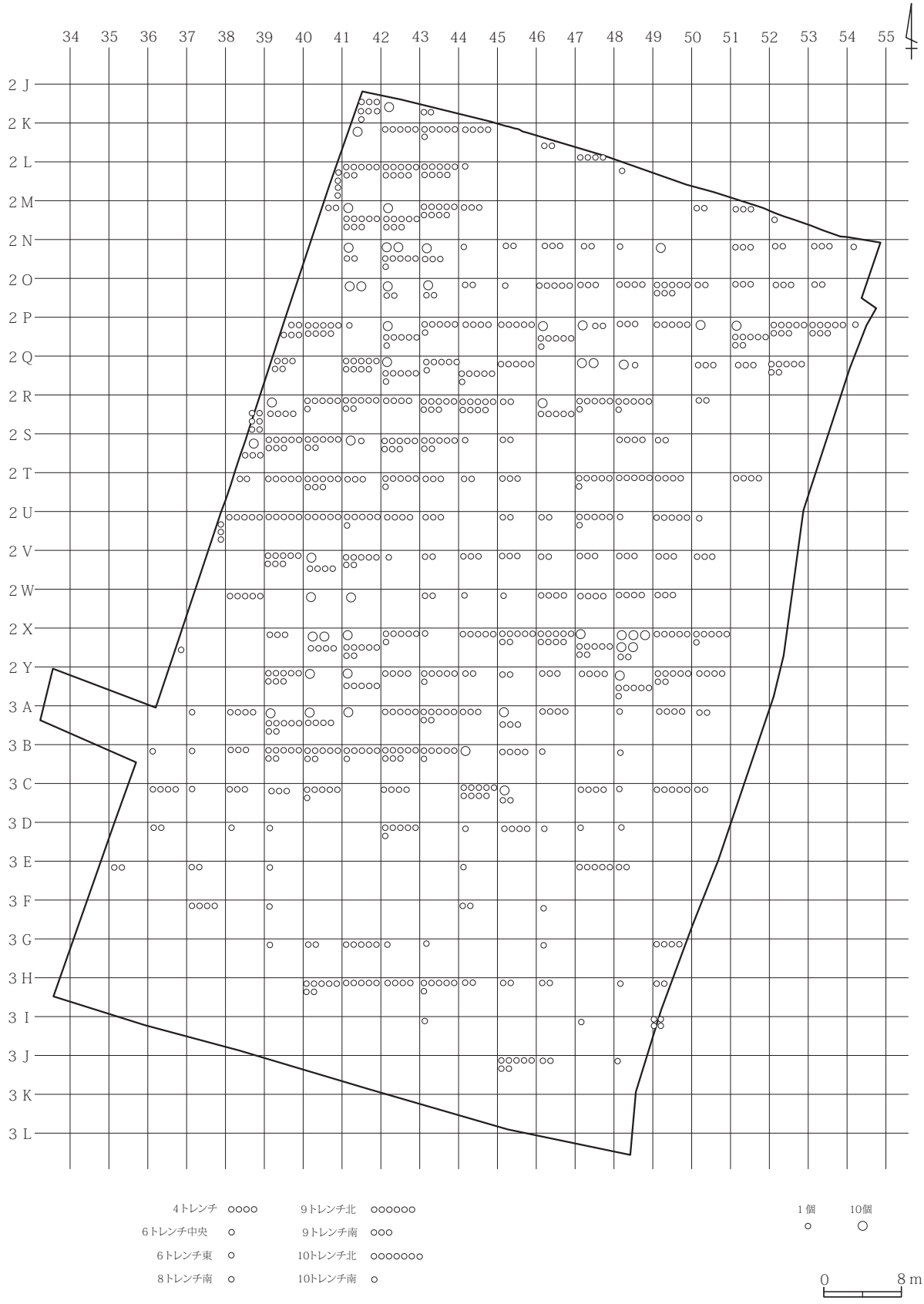
第110図　行田大道南横道西遺跡　埋設土器・炭窯



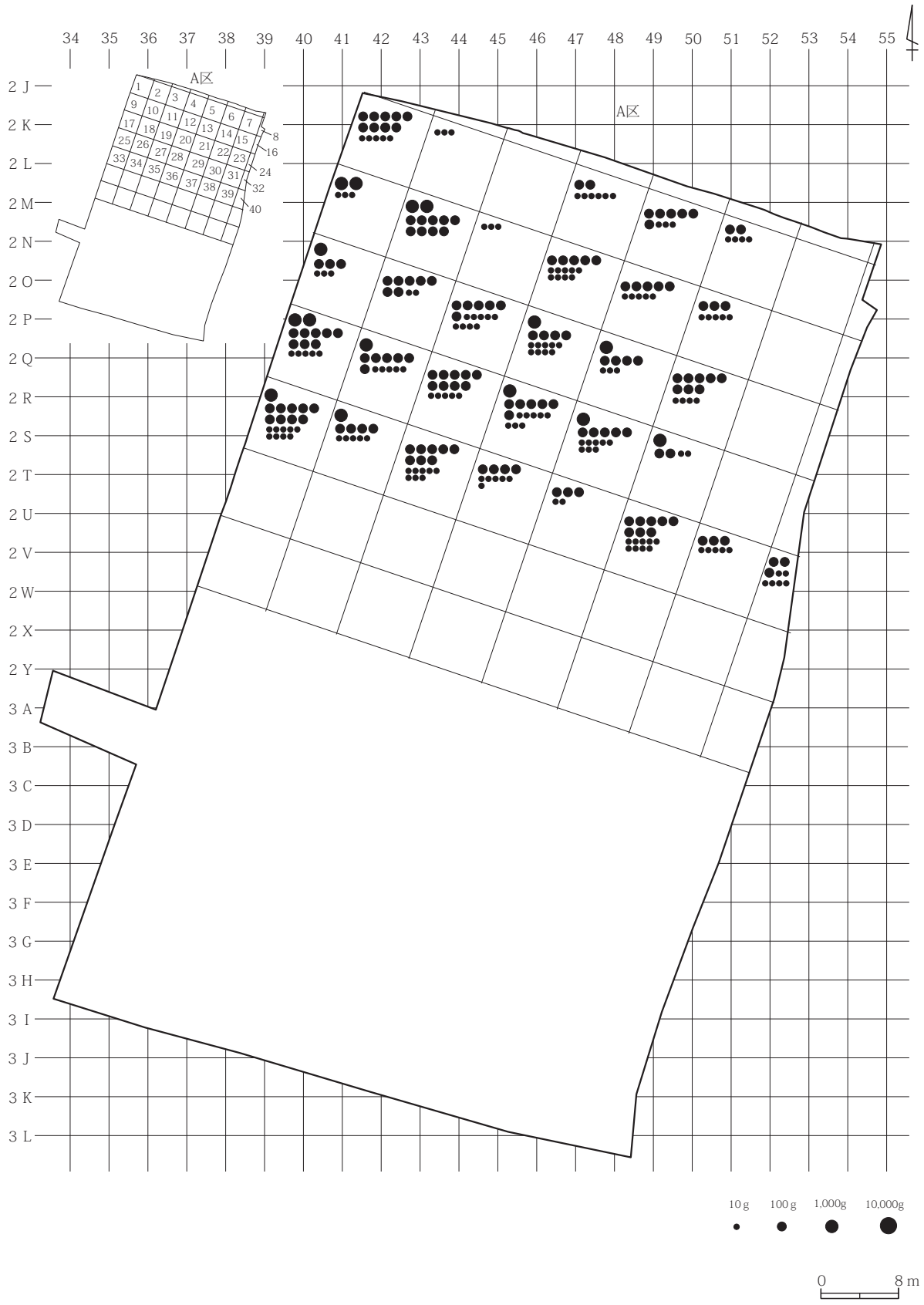
第111図　行田大道南横道西遺跡　A区遺物分布図（縄文土器）



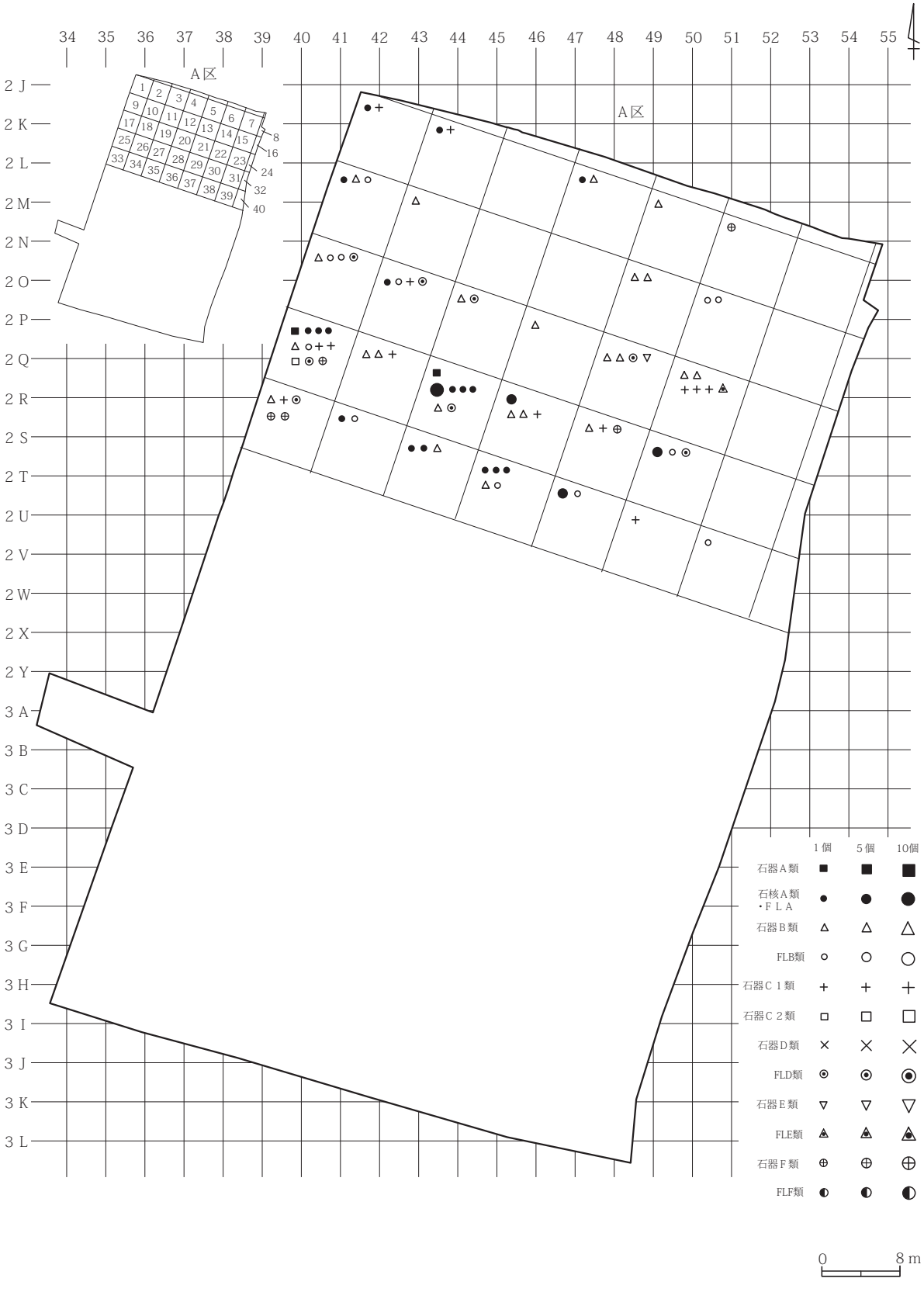
第112図　行田大道南横道西遺跡　A区遺物分布図（石器）



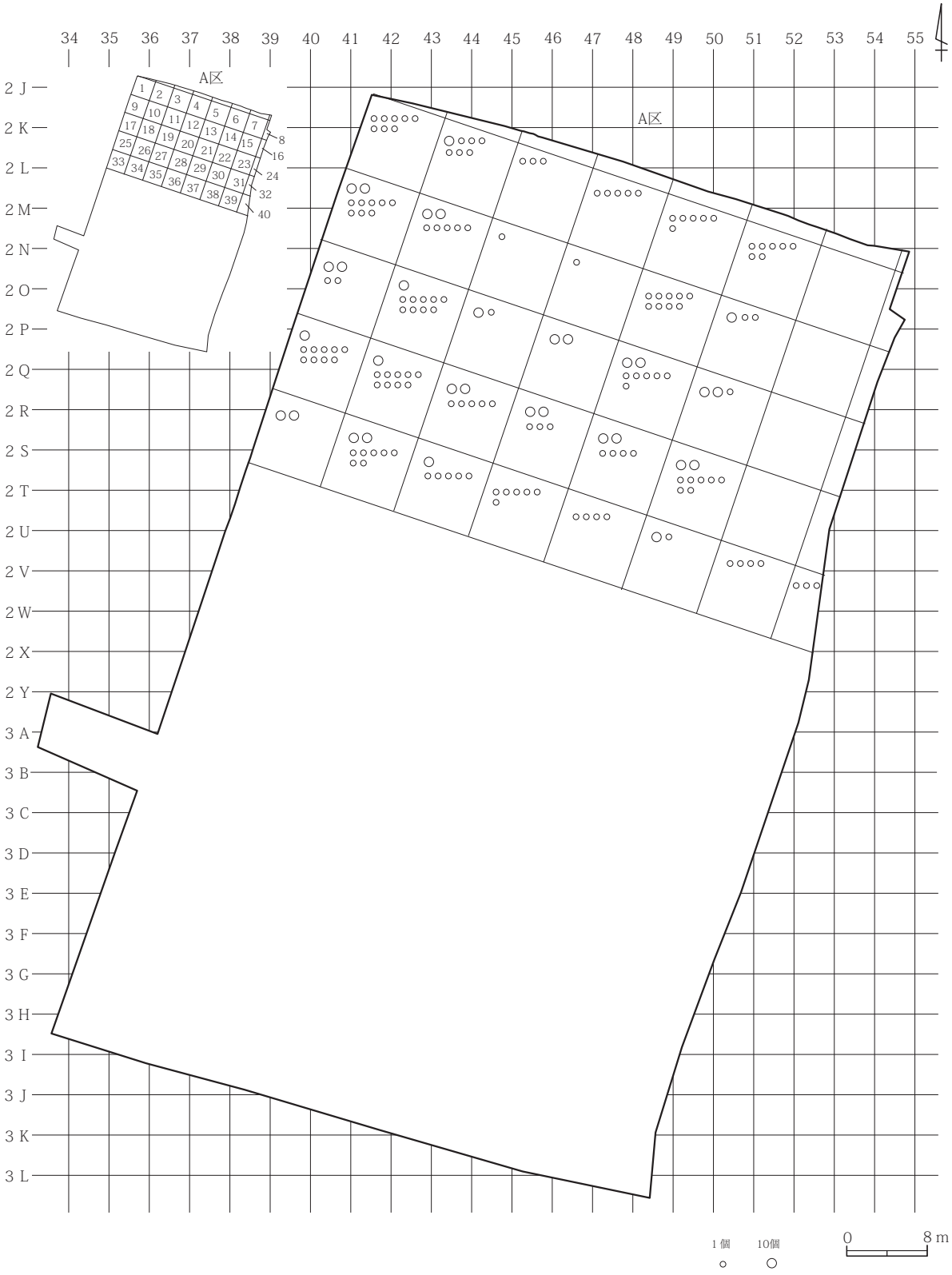
第113図　行田大道南横道西遺跡　A区遺物分布図（礫）



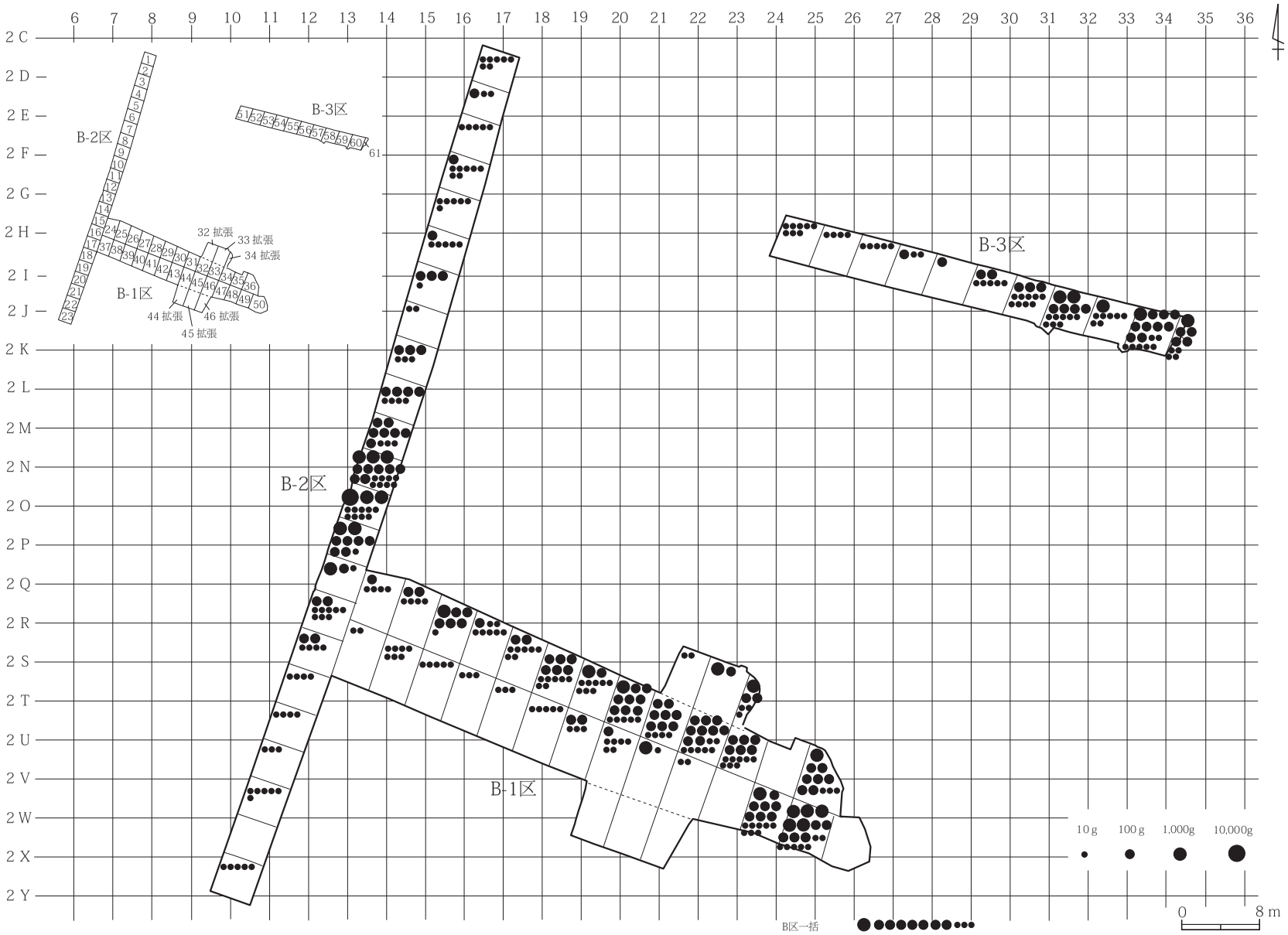
第114図　行田大道南横道西遺跡　A区包含層遺物分布図（縄文土器）



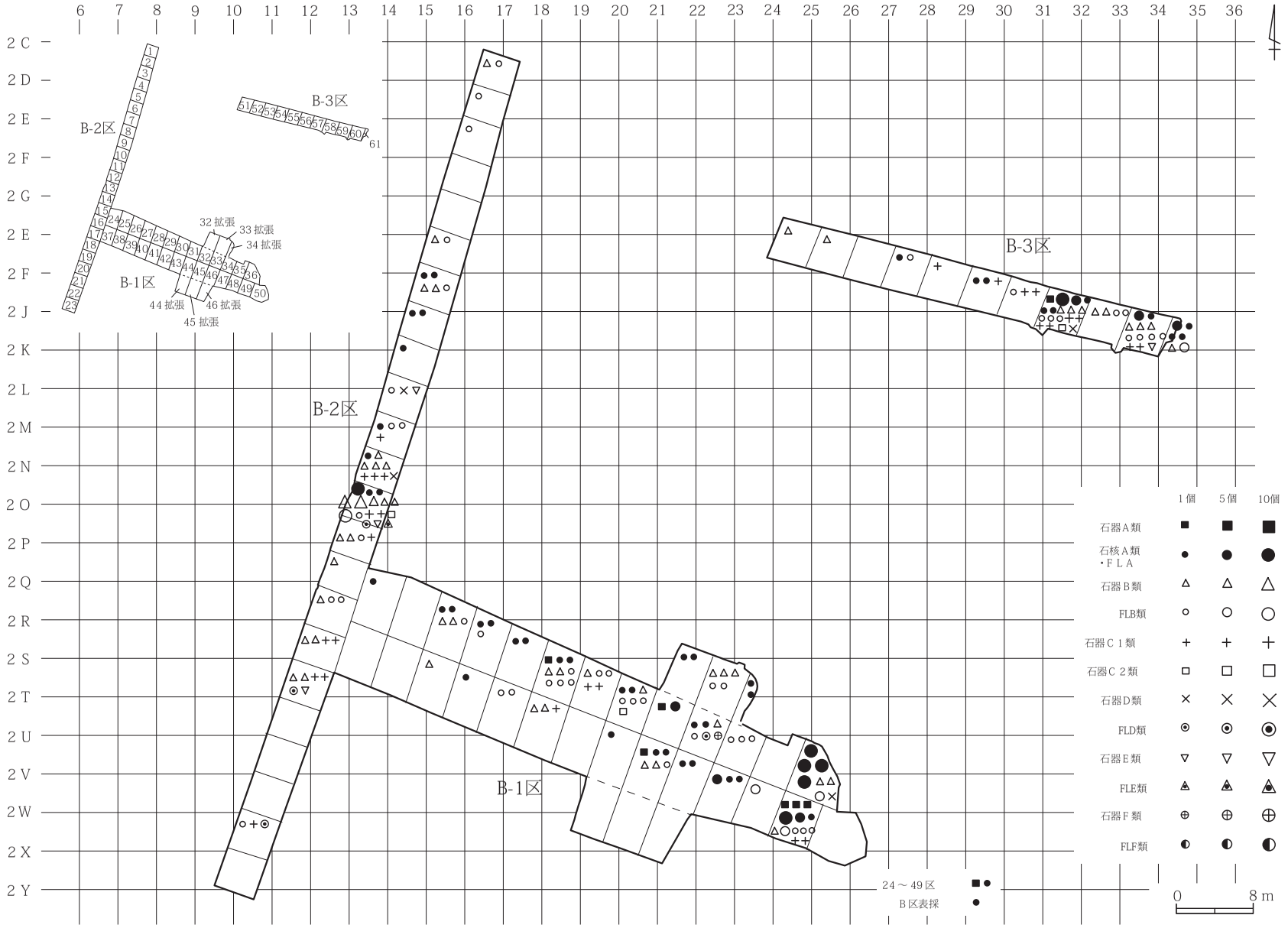
第115図　行田大道南横道西遺跡　A区包含層遺物分布図（石器）



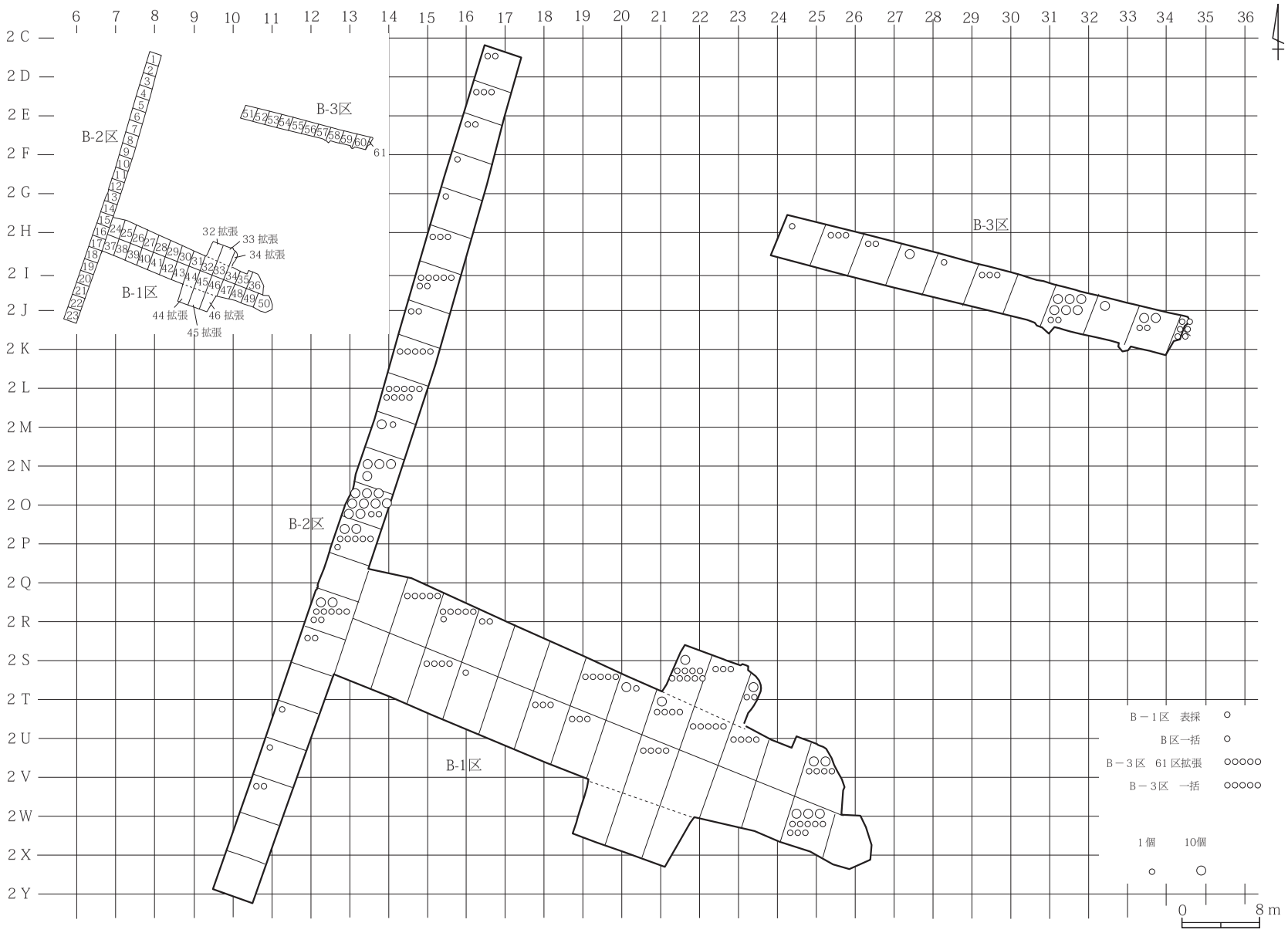
第116図　行田大道南横道西遺跡　A区包含層遺物分布図（礫）



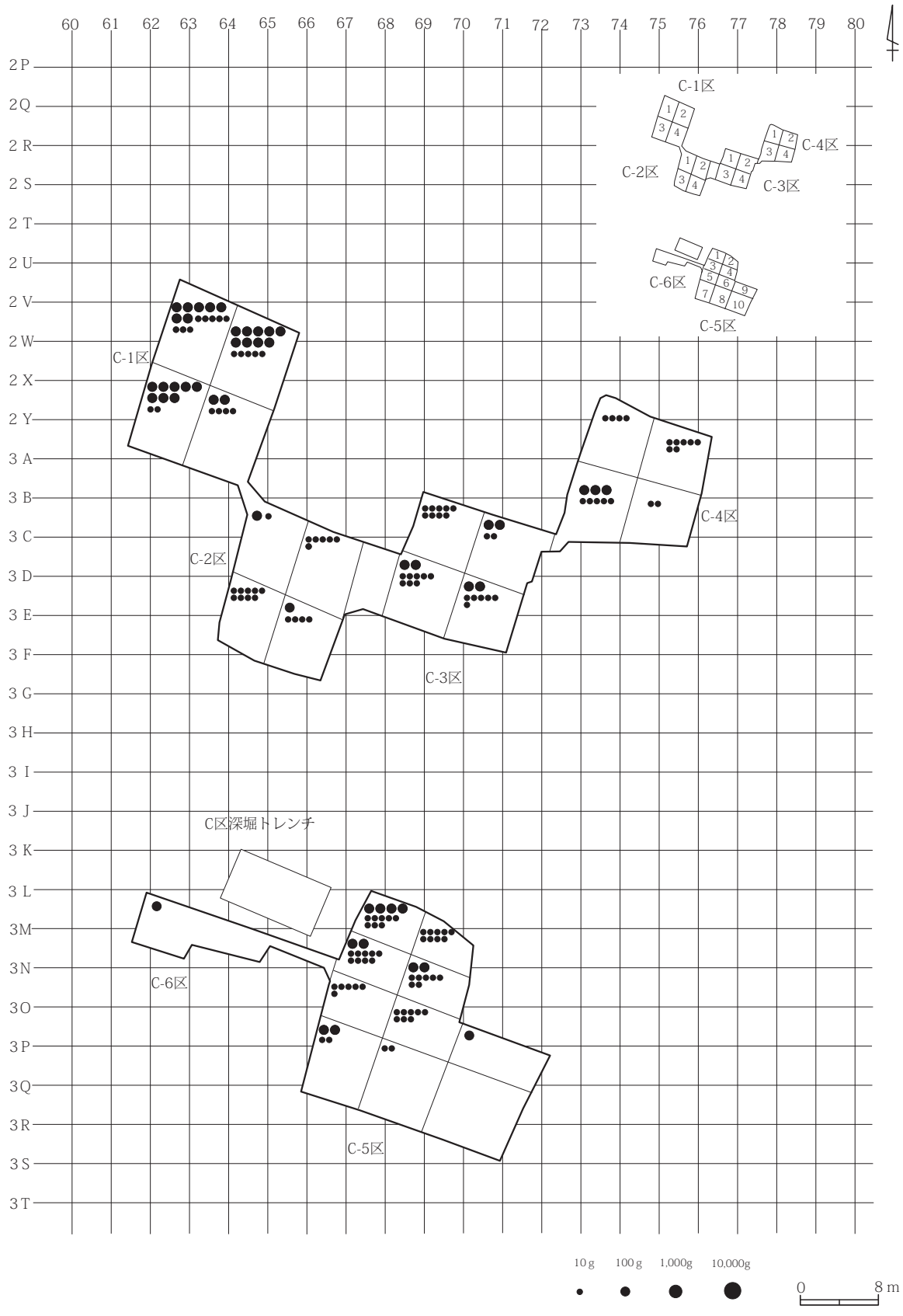
第117図　行田大道南横道西遺跡　B区遺物分布図（縄文土器）



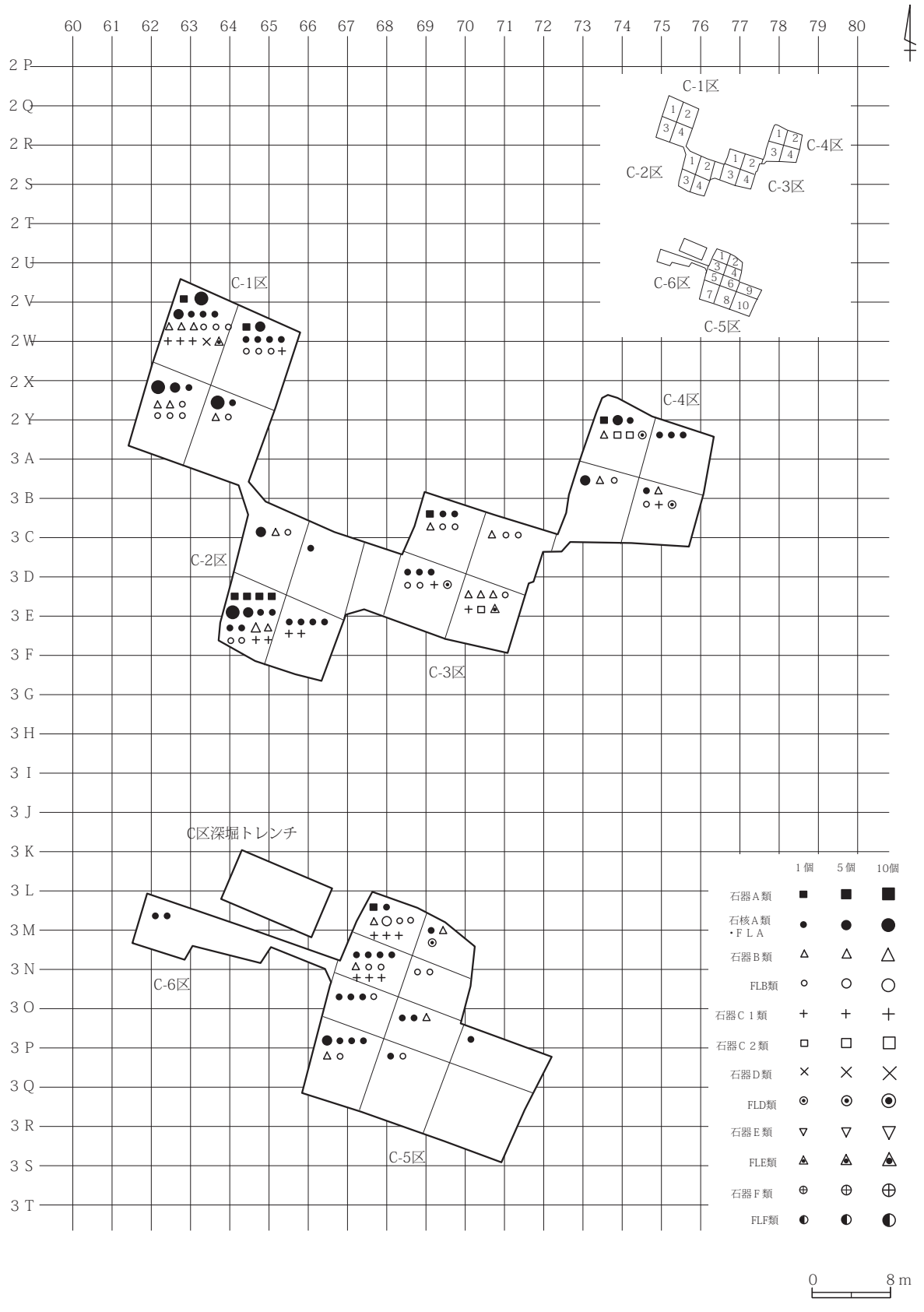
第118図　行田大道南横道西遺跡　B区遺物分布図（石器）



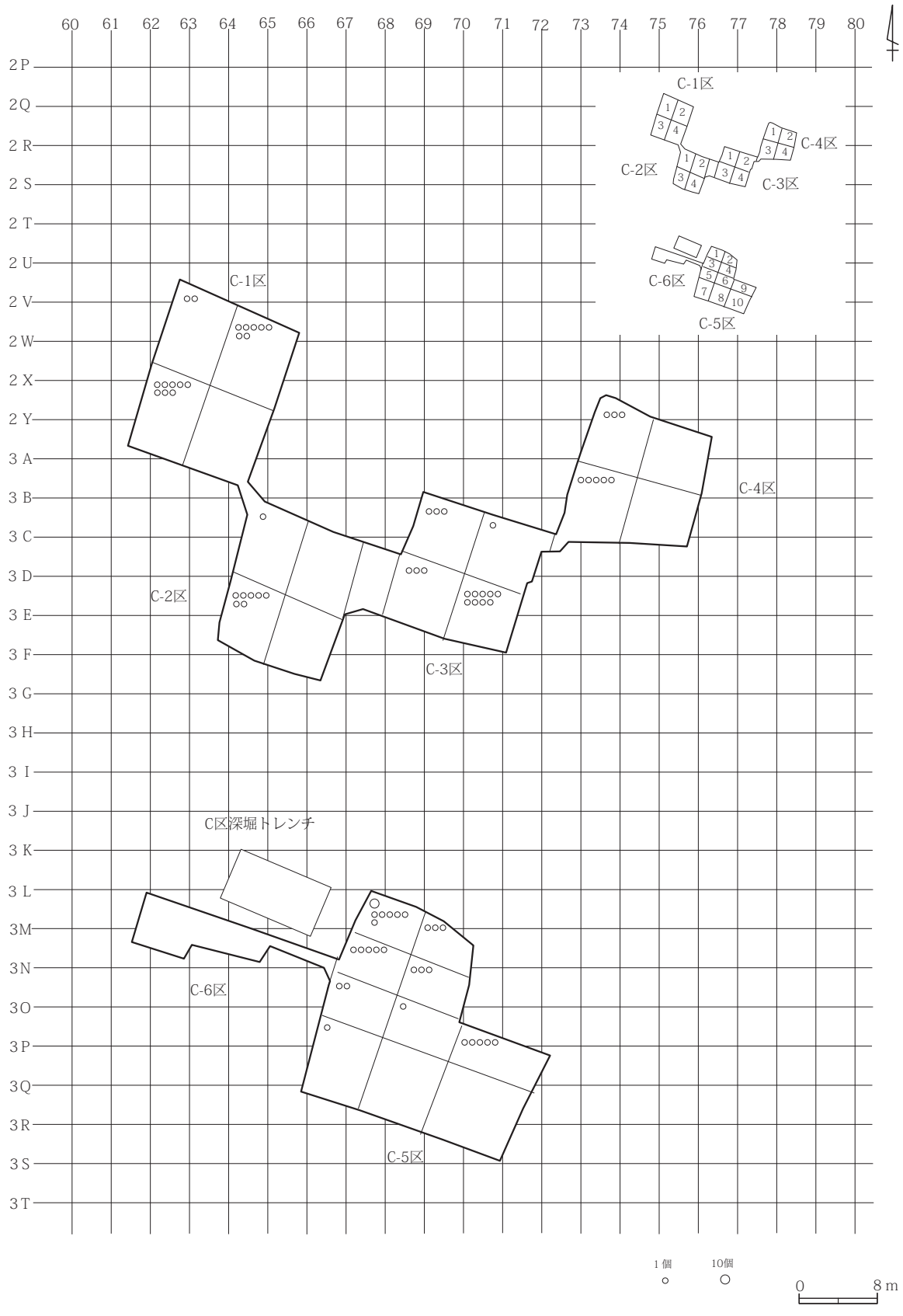
第119図　行田大道南横道西遺跡　B区遺物分布図（礫）



第120図　行田大道南横道西遺跡　C区遺物分布図（縄文土器）



第121図　行田大道南横道西遺跡　C区遺物分布図（石器）



第122図　行田大道南横道西遺跡　C区遺物分布図（礫）

7　古代大溝（Ｍ－１号溝）

（１）Ｍ－１号溝の調査（第123・136図・付図13）

古代牧に関連するＭ－１号溝は、大道南横道東地区、市子塚地区、二本杉原東地区で確認された（第123～138図）。

（１）平成25年度幹線道路部分

中部地区（行田二本杉原東遺跡）で確認されたＭ－１号溝の続きを調査した。遺構の性格上、区切ることはできないため、「Ｍ－１号溝」として一括し、調査区によって遺跡を区別した。発掘調査は、幹線道路東半分を対象としたトレンチ調査を行い、溝の位置と方向を確認した。大きな谷を境とした西半分は、一部の範囲を富岡市教育委員会の対応とした。調査対象遺跡は、行田大道南横道東遺跡（Ａ－１～３区、Ｂ－１～３区、Ｃ－１～３区）、行田市子塚遺跡（Ｃ－４、５区）である。

調査の結果、遺構は工事予定道路に沿って富岡市との境界にある谷の落ち際まで延びており、谷を越えてた富岡市側の台地まで延びていることが判明した富岡市の大牛中原遺跡）。市子塚地区（Ｃ区）では、Ｍ－１号溝覆土内から、８世紀代の土器が出土したが、古代の遺物は少数の出土であった。また、Ｍ－１号溝覆土内及び調査区内では、縄文土器（前・中期）、弥生土器（前期）、石器、礫が出土したが、遺構は確認されなかった。大道南横道南地区（Ａ区）では、時期不明の集石が１基確認された。

なお、行田二本杉原東地区に関しては、工事計画の関係で平成25年度以降に調査することになった。

（２）平成26年度調査区

平成25年度に調査を行った大道南横道東遺跡の一部で幹線道路につながる南北支線道路部分を対象とした調査である（Ｂ－４区）。畑地部分は工事の影響がないため現状保存とした。発掘調査は、バックホーで表土を除去し、浅間Ｂ軽石層あるいは混入土で覆われた溝を確認した。溝の掘削作業は、全て人力で行い、精査をした。溝の構造は、Ⅲ層（地山）を整地し、緩やかに傾斜を付け、途中で深く、傾斜のある溝となっている。また、溝の北側では、ローム混入土が張り付いて状態で確認されており、掘削時による排土を置いた範囲あるいは盛土の痕跡を残したものかが考えられる。遺物は、全く出土しなかった。底面から浮いた状態で人頭大の礫が出土した。発見された溝は、これまで発見されてきた溝と規模、構造に共通性がみられる。土層の堆積状態も概ね一致しており、他の地域と同様、同時期に埋没したと考えられる。

（３）平成27年度調査区

二本杉原東地区で前年度調査地点（Ｅ区８トレンチ）に接する県道との交差する現道路部分を対象とした（Ｅ区９トレンチ）。東西方向の現道路と重なって溝を検出し、県道付近から西側へ溝全体が緩く傾斜していることを確認した。

なお、11月には、群馬県教育委員会により、本遺跡に隣接する県道工事部分（U185遺跡）の立会調査において安中市と富岡市との境界付近で本溝が確認されている（群馬県教育委員会2018）。

（４）平成28～30年度調査区

二本杉原東地区Ｅ区において幹線道路予定地未調査部分（二本杉原東地区Ｄ区、Ｅ区）を対象とした工事に伴う立ち会い調査を実施した。立ち会い調査では、工事部分におけるＭ－１号溝の位置と状況を確認した。確認された溝は、一部、発掘調査を実施したが、道路部分下では現状保存の措置が講じられ

ている。

（２）Ｍ－１号溝の遺構概要（第125～135、137、138図）

本遺構は、横野台地一帯で確認されている溝遺構と同一で、東部・中部地区から続く溝であるため、西部地区においても各地区共通した遺構番号として「Ｍ－１号溝」とした。また、Ｍ－１号溝については、調査区としてＡ～Ｅ区に区分した。

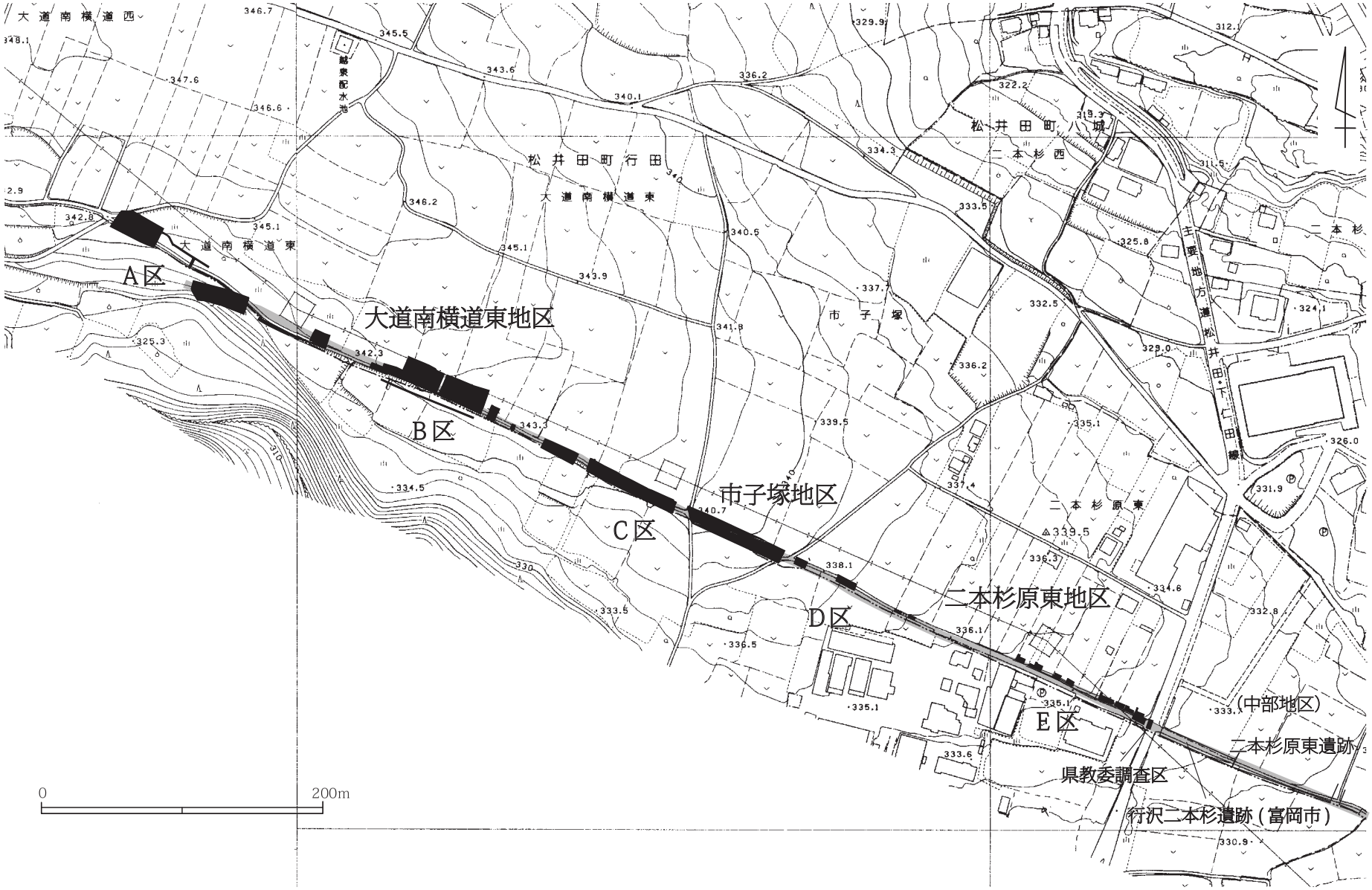
遺構は、地形に関係なく真っ直ぐに延びるもので、底面が平底、法面の途中が外に屈曲し開く。溝の内側（北）が外側（南）より高く、盛り土の痕跡が確認された。確認面で幅３～４ｍ、深さ1.8～２ｍを計る。底面には、一段下がって溝状となる掘り方が確認され、この部分は、掘削したローム混入土で埋め戻されていた。底面及びその付近にはピットが確認されたが、配列に規則性はみられない。ピットの性格については、溝に付随した施設（柵、橋脚等）の可能性あるいは工事用（足場、測量）の可能性が考えられる。これまでの調査では、溝が集落から離れ、周辺に溝と同時期の遺構がほとんどみられない場合、ピットは極端に減少することから、全ての範囲に柵が存在していない可能性が考えられる。

土橋については、３ヶ所確認した（立ち会い調査）。溝を地面の高さまで埋めて構築されている。土橋幅は約１ｍである。

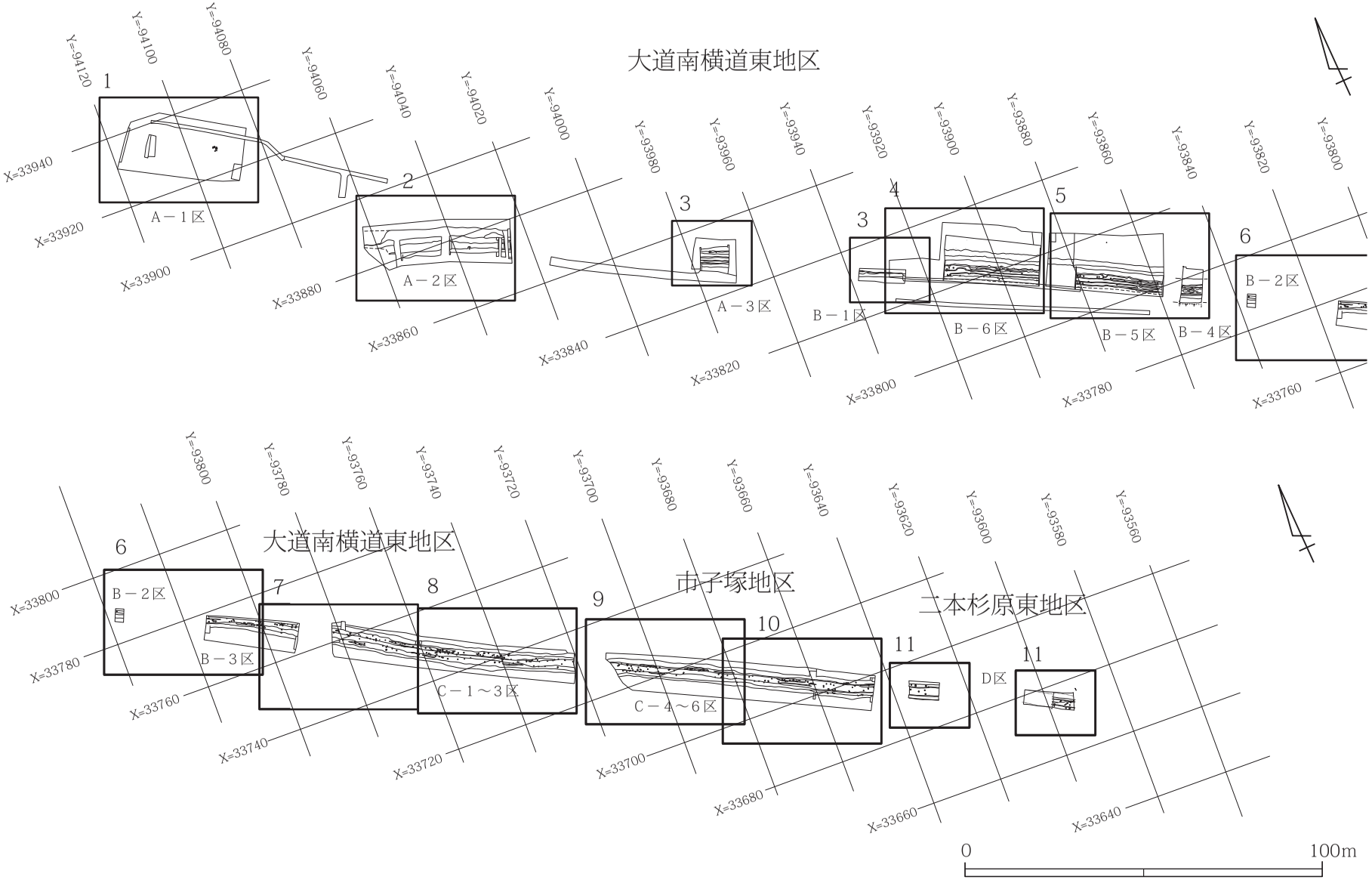
溝内側の縁には、溝に平行して盛り土の痕跡が帯状となって確認された。掘削した土（ローム）は、地面を浅く掘った上に盛もられていたものと考えられる。大道南横道東地区では、盛り土下から須恵器小破片の分布が認められた。

溝出土の遺物は、須恵器・土師器の破片同時期の遺物はほとんど出土しなかった。

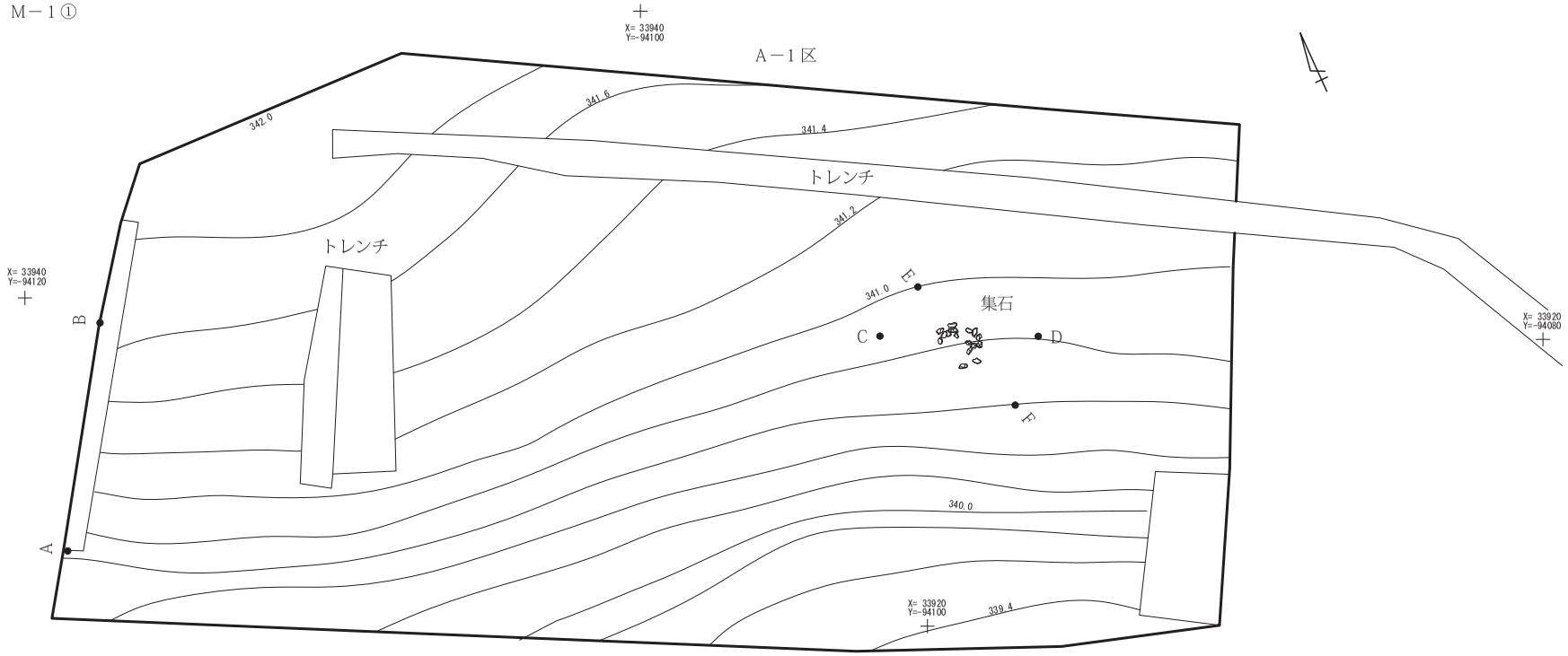
溝覆土は、これまでの調査と同様の堆積状況であった。確認したすべての場所で埋没状況に差が無いことから、ほぼ同時に溝の機能が失われたものと推測される。溝が機能していた段階では、定期的に土砂を除去してメンテナンスを行っているが、行われなくなると土砂の流入、法面の崩落等によって自然埋没が始まる。途中、浅間Ｂ軽石がレンズ状に堆積し、その後も堆積が進み、浅間Ａ軽石の堆積前には、溝は完全に埋没する。溝の時期は、底面付近の覆土中の遺物から８世紀前半には使用され、浅間Ｂ軽石の降下時期である1108年頃には放棄、埋没が進んだものと推定される。

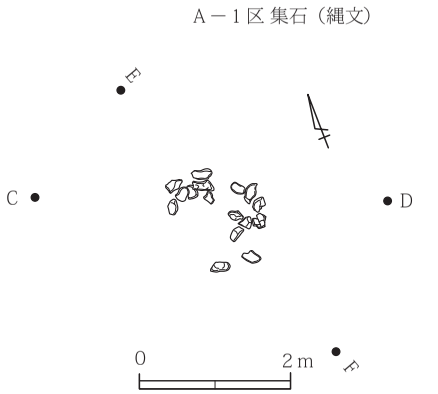


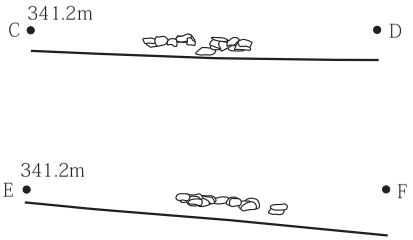
第123図　西横野西部地区遺跡群　M－1号溝調査区位置図

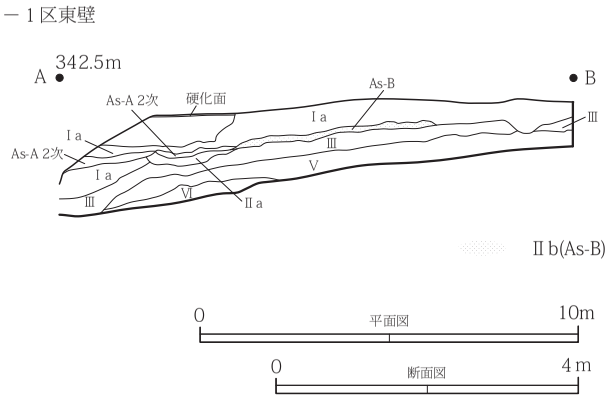


第124図　西横野西部地区遺跡群　M－1号溝割図

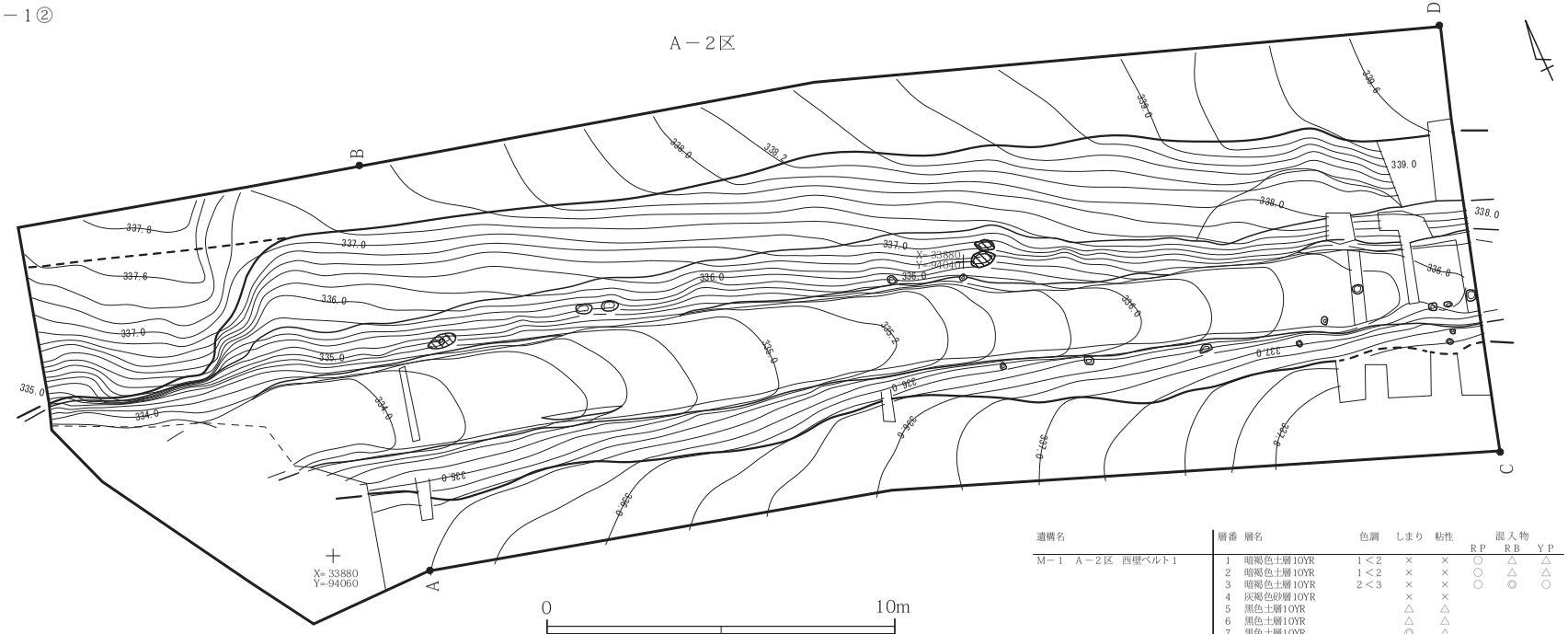






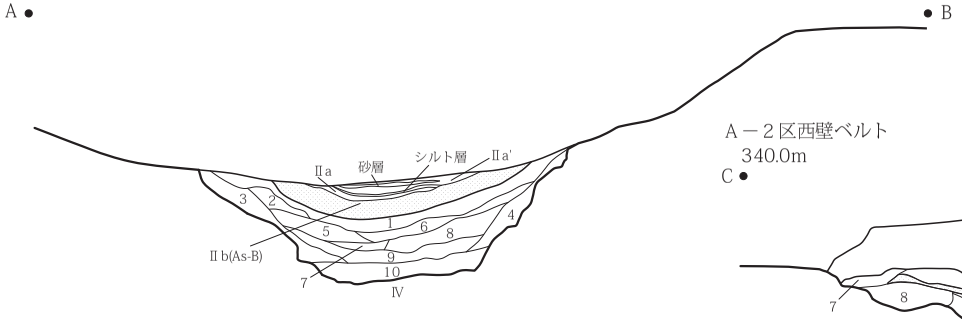


第125図　大道南横道東地区（A－1区）　M－1号溝（1）

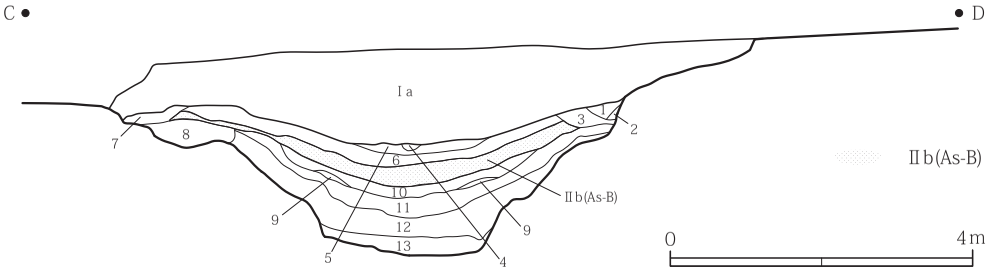


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
M－1　A－2区　西壁ベルト1	1	暗褐色土層10YR	1＜2	×	×	○	△	△
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	×	×	○	△	△
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	×	×	○	◎	○
	4	灰褐色砂層10YR		×	×			
	5	黒色土層10YR		△	△			
	6	黒色土層10YR		△	△			
	7	黒色土層10YR		◎	△			
	8	鈍い黄褐色土層10YR	9＜8	○	○	○		○
	9	鈍い黄褐色土層10YR	9＜8	○	○	○		※
	10	褐色土層10YR	9＜10	○	○	△		※
	11	褐色土層10YR	10＜11	○	○	△		※
	12	鈍い黄褐色土層10YR	11＜12	○	○	○		※
	13	黄褐色土層10YR	12＜13	○	○	◎	△	※
M－1　A－2区　東壁ベルト3	1	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※		※
	2	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△		△
	3	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△		※
	4	黄褐色土層10YR	5＜4	○	○	○	○	○
	5	黒褐色土層10YR	5＜6	○	○	※		※
	6	暗褐色土層10YR	7＜6	○	○	※		△
	7	暗褐色土層10YR	7＜8	○	○	※		※
	8	鈍い黄褐色土層10YR	9＜8	○	○	◎	※	△
	9	暗褐色土層10YR	9＜10	○	○	△		※
	10	黄褐色土層10YR	9＜10	○	○	◎	※	※

A－2区東壁ベルト
337.5m

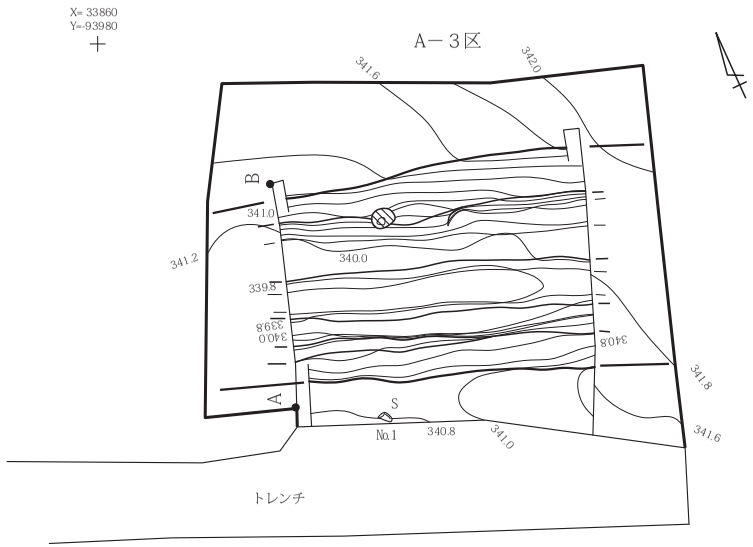


A－2区西壁ベルト
340.0m

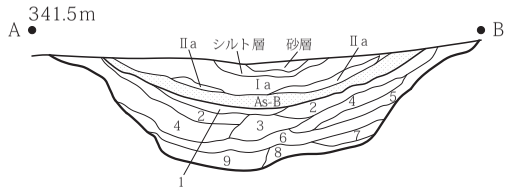


第126図　大道南横道東地区（A－2区）　M－1号溝（2）

M－1③



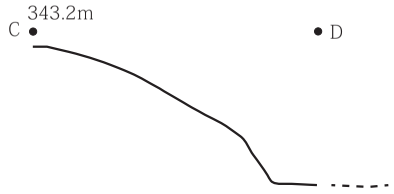
A－3区東壁

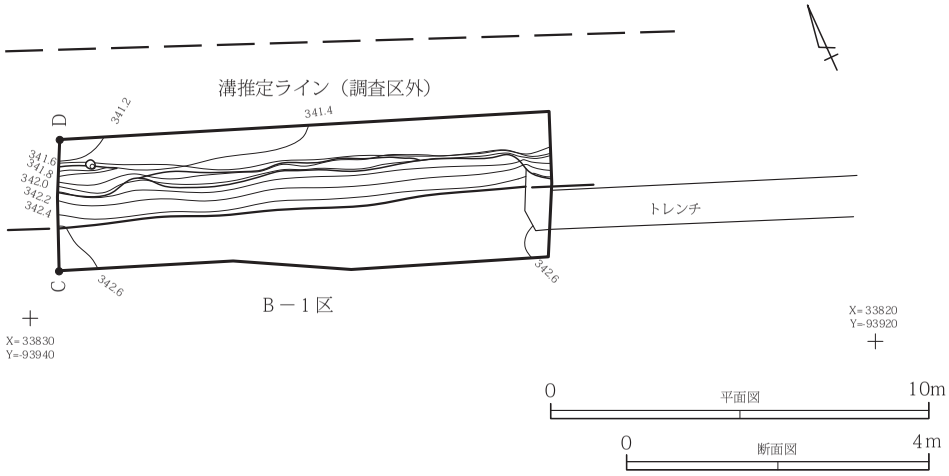


Ⅱb(As-B)

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
M－1　A－3区　東壁	1	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○			※
	2	黒褐色土層10YR	3＜2	○	○			※
	3	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※		※
	4	暗褐色土層10YR	5＜4	○	○	※		※
	5	暗褐色土層10YR	5＜6	○	○	※		
	6	褐色土層10YR	6＜7	○	○	△		△
	7	暗褐色土層10YR	8＜7	○	○	※		△
	8	褐色土層10YR	9＜8	○	○	△		△
	9	鈍い黄褐色土層10YR	9＜8	○	○	△		○

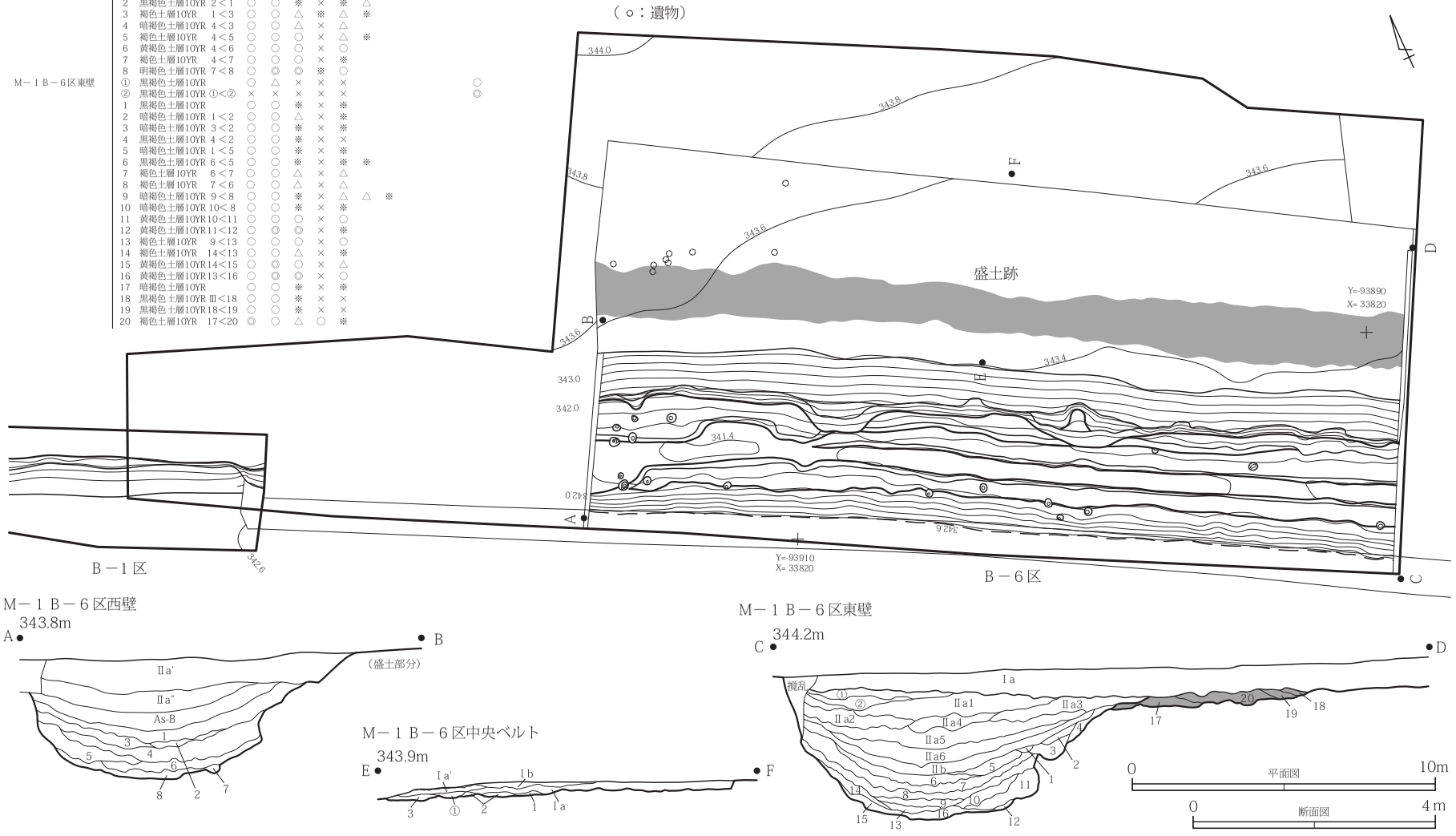
M－1④



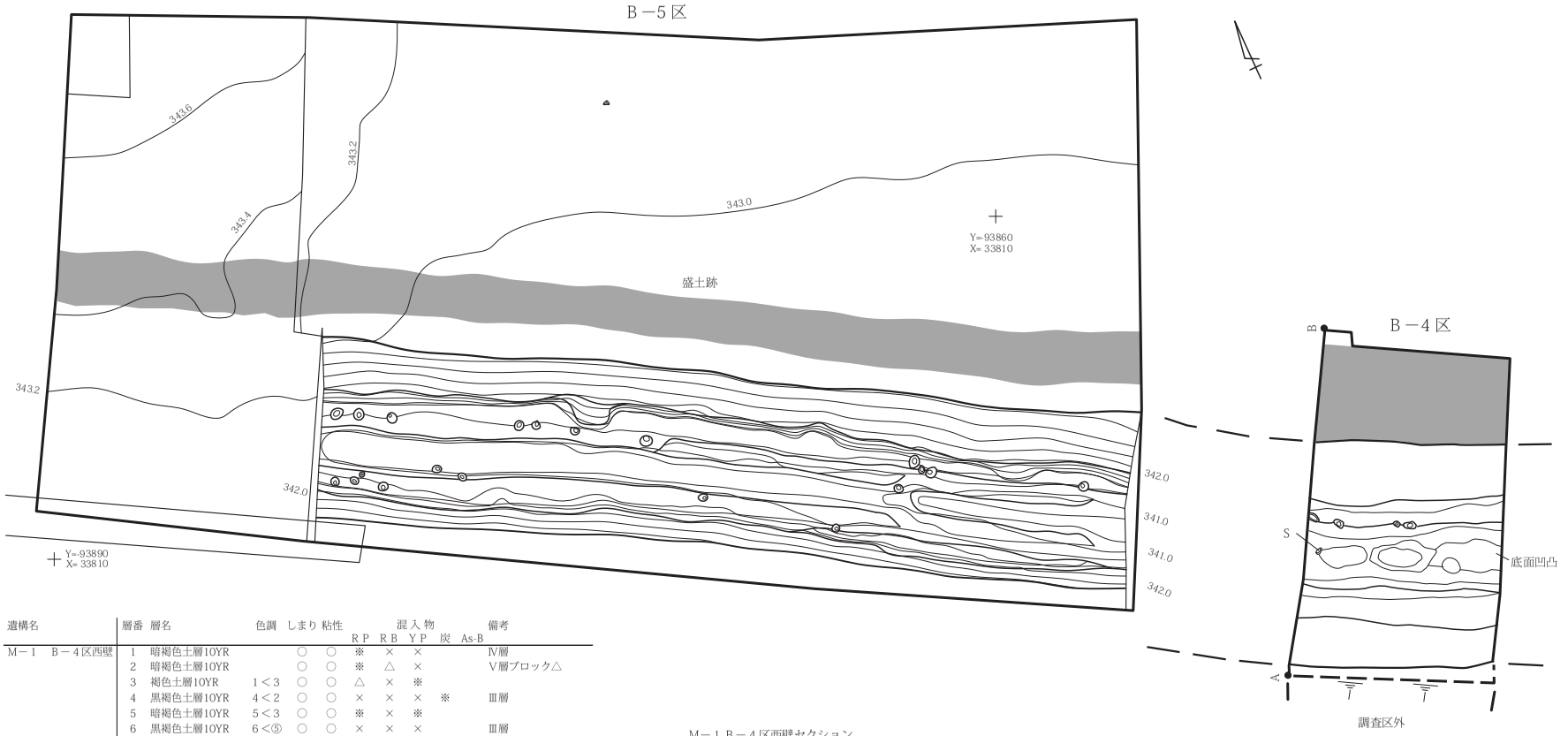


第127図　大道南横道東地区（A－3区・B－1区）　M－1号溝（3）

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物 炭	焼土	As-A	As-B	As-KK
M－１Ｂ－６区中央ﾍﾞﾙﾄ	①	黒褐色土層	10YR Ⅰa'<①	◎	△	×	×	×			○	×	
	1	暗褐色土層	10YR	○	○	※	※	※					
	2	褐色土層	10YR 1＜2	○	○	△	○	△					
	3	暗褐色土層	10YR 3＜2	○	○	※	※	※					
M－１Ｂ－６区西壁	1	黒褐色土層	10YR	○	○	※	×	△	※				
	2	黒褐色土層	10YR 2＜1	○	○	※	×	※	△				
	3	褐色土層	10YR 1＜3	○	○	△	※	△	※				
	4	暗褐色土層	10YR 4＜3	○	○	△	×	△					
	5	褐色土層	10YR 4＜5	○	○	○	×	△	※				
	6	黄褐色土層	10YR 4＜6	○	○	○	×	○					
	7	褐色土層	10YR 4＜7	○	○	○	×	※					
	8	明褐色土層	10YR 7＜8	○	◎	◎	※	○					
M－１Ｂ－６区東壁	①	黒褐色土層	10YR	○	△	×	×	×					○
	②	黒褐色土層	10YR ①<②	×	×	×	×	×					◎
	1	黒褐色土層	10YR	○	○	※	×	※					
	2	暗褐色土層	10YR 1＜2	○	○	△	×	※					
	3	暗褐色土層	10YR 3＜2	○	○	※	×	※					
	4	黒褐色土層	10YR 4＜2	○	○	※	×	×					
	5	暗褐色土層	10YR 1＜5	○	○	※	×	※					
	6	黒褐色土層	10YR 6＜5	○	○	※	×	※	※				
	7	褐色土層	10YR 6＜7	○	○	△	×	△					
	8	褐色土層	10YR 7＜6	○	○	△	×	△					
	9	暗褐色土層	10YR 9＜8	○	○	※	×	△	△	※			
	10	暗褐色土層	10YR 10＜8	○	○	※	×	※					
	11	黄褐色土層	10YR 10＜11	○	○	○	×	○					
	12	黄褐色土層	10YR 11＜12	○	◎	◎	×	※					
	13	褐色土層	10YR 9＜13	○	○	○	×	○					
	14	褐色土層	10YR 14＜13	○	○	△	×	※					
	15	黄褐色土層	10YR 14＜15	○	◎	○	×	△					
	16	黄褐色土層	10YR 13＜16	○	◎	◎	×	○					
	17	暗褐色土層	10YR	○	○	※	×	※					
	18	黒褐色土層	10YR Ⅲ＜18	○	○	※	×	×					
	19	黒褐色土層	10YR 18＜19	○	○	※	×	×					
	20	褐色土層	10YR 17＜20	◎	○	△	○	※					

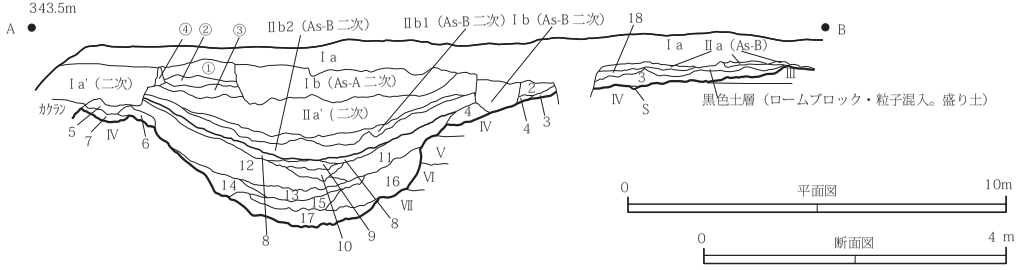


第128図　大道南横道東地区（Ｂ－６区）　Ｍ－１号溝（４）

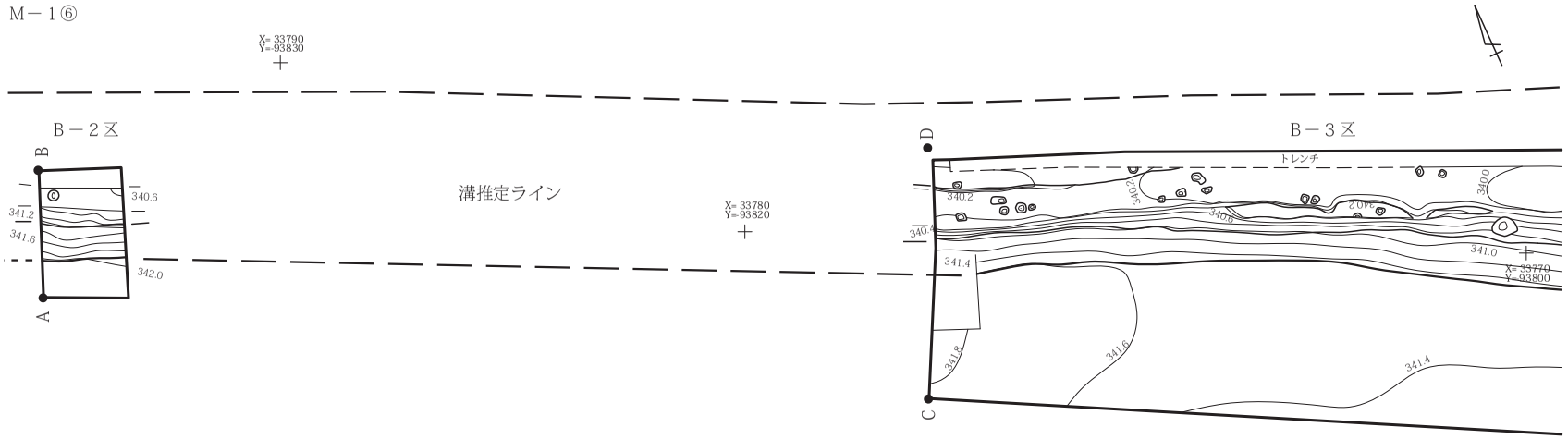


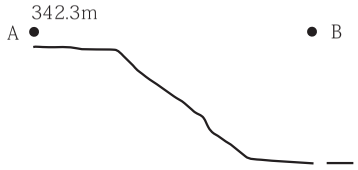
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	As-B	備考
M－1　B－4区西壁	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×			Ⅳ層
	2	暗褐色土層10YR		○	○	※	△	×			Ⅴ層ブロック△
	3	褐色土層10YR	1＜3	○	○	△	×	※			
	4	黒褐色土層10YR	4＜2	○	○	×	×	×		※	Ⅲ層
	5	暗褐色土層10YR	5＜3	○	○	※	×	※			
	6	黒褐色土層10YR	6＜⑤	○	○	×	×	×			Ⅲ層
	7	暗褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	※		※	
	8	黒褐色土層10YR	6＜8	○	○	×	×	×			Ⅲ層
	9	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※		※	
	10	黒褐色土層10YR	10＜9	○	○	※	×	※		△	
	11	暗褐色土層10YR	10＜11	○	○	△	×	※		※	
	12	褐色土層10YR	9＜12	○	○	△	×	△		※	
	13	黄褐色土層10YR	12＜13	○	○	○	※	○		※	
	14	暗褐色土層10YR	14＜13	○	○	※	×	△		※	
	15	褐色土層10YR	15＜13	○	○	△	×	△			
	16	暗褐色土層10YR	14＜16	○	○	※	×	※		※	
	17	黄褐色土層10YR	12＜17	○	○	○	※	○			
	18	明黄褐色土層10YR	17＜18	○	◎	◎	※	○			壁崩落土
	①	黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×		◎	Ⅱb層の２次⇒溝の跡
	②	黒褐色土層10YR	②＜①	△	△	×	×	×		◎	〃
	③	黒褐色土層10YR	③＜①	○	○	×	×	×		○	〃
	④	黒褐色土層10YR	④＜①	△	○	×	×	×		○	〃
	⑤	黒褐色土層10YR	④＜⑤	○	○	×	×	×		△	〃

M－1 B－4区西壁セクション



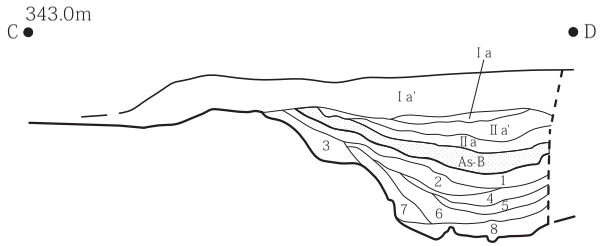
第129図　大道南横道東地区（B－4・5区）　M－1号溝（5）





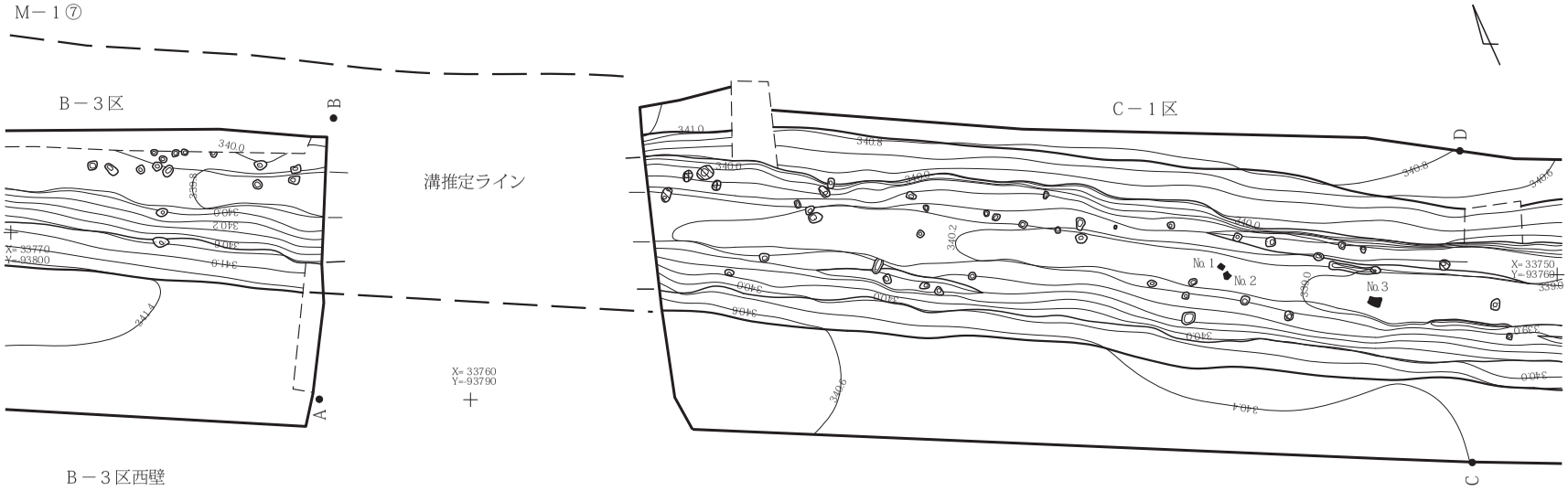
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
M－1　B－3区東壁	1	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○			※
	2	褐色土層10YR	3＜2	○	○	△		△
	3	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△		△
	4	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	◎	△	※
	5	暗褐色土層10YR	6＜5	○	○	※		△
	6	暗褐色土層10YR	6＜7	○	○	※		※
	7	褐色土層10YR	7＜8	○	○	△	※	※
	8	鈍い黄褐色土層10YR	7＜8	○	○	◎		○

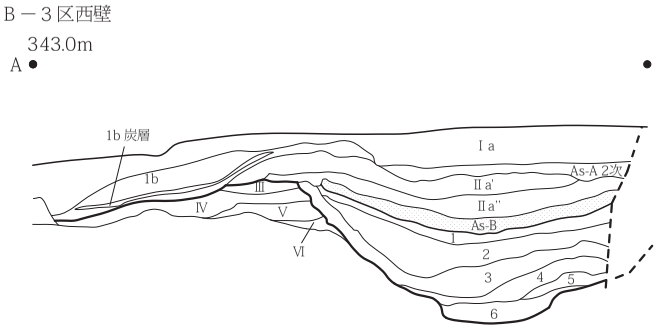
M－1 B－3区東壁

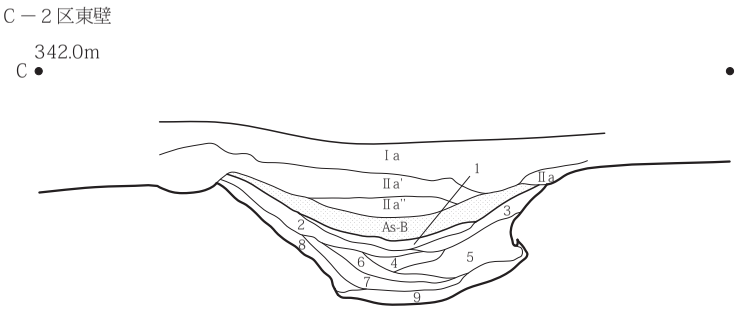


Ⅱb(As-B)

第130図　大道南横道東地区（B－2・3区）　M－1号溝（6）







遺構名		層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
M－1	B－3区 西壁	1	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○			※
		2	褐色土層10YR	3＜2	○	○	△		△
		3	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△		△
		4	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	◎	△	※
		5	鈍い黄褐色土層10YR	5＜6	○	○	◎	○	◎
		6	鈍い黄褐色土層10YR	5＜6	○	○	◎		○
M－1	C－2区 東壁	1	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○			※
		2	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○			※
		3	暗褐色土層10YR	4＜3	○	○	※		※
		4	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※		※
		5	褐色土層10YR	6＜5	○	○	△		※
		6	黒褐色土層10YR	7＜6	○	○	※		※
		7	褐色土層10YR	7＜8	○	○	△		△
		8	褐色土層10YR	8＜9	○	○	△		△
		9	鈍い黄褐色土層10YR	8＜9	○	○	◎	△	※

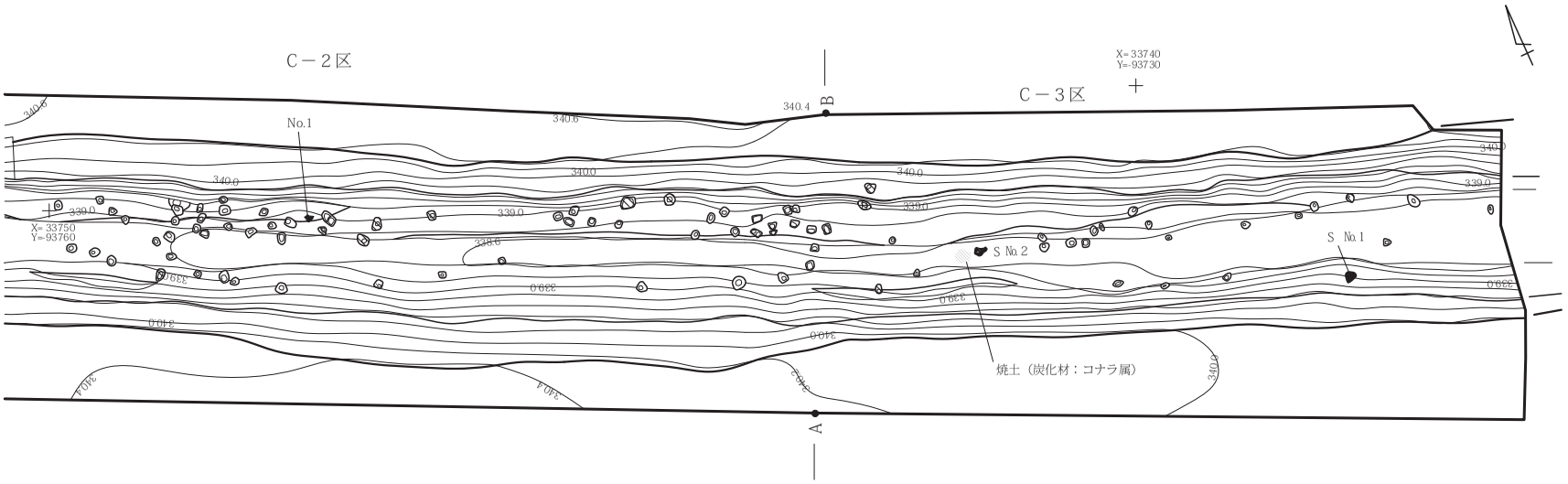
IIb(As-B)

0 平面図 10m

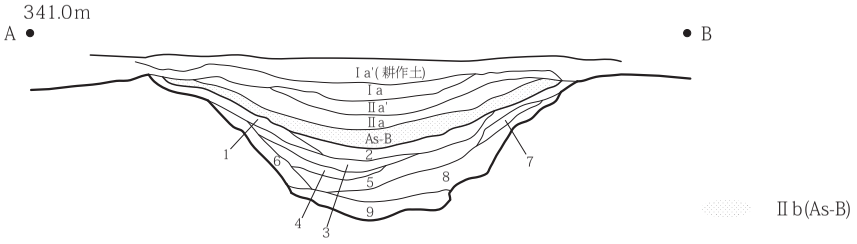
0 断面図 4m

第131図　大道南横道東地区（B－3区・C－1区）　M－1号溝（7）

M－1⑧



C－3区東壁

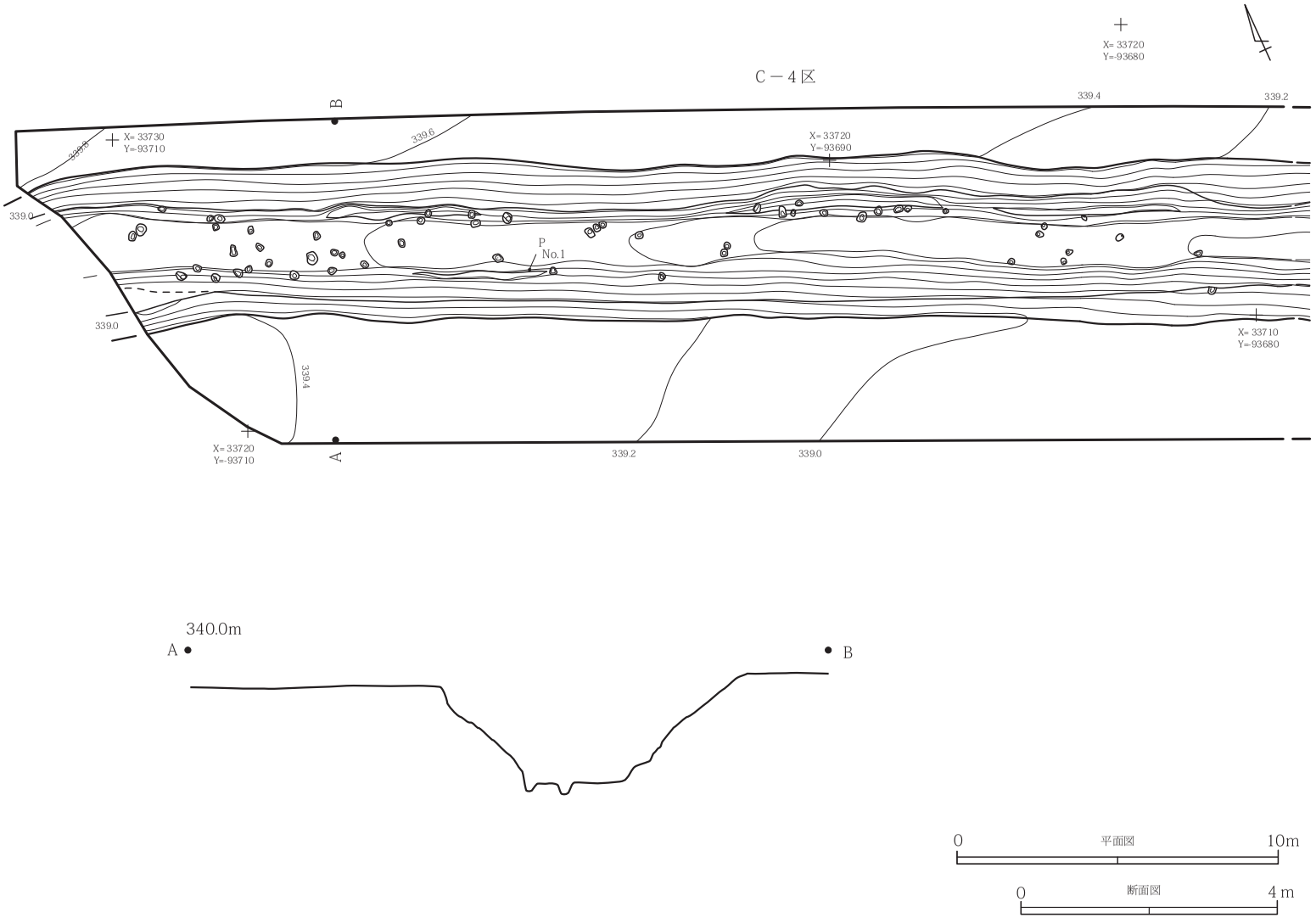


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
M－1　C－3区　東壁	1	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○			※
	2	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○			※
	3	暗褐色土層10YR	4＜3	○	○	※		※
	4	暗褐色土層10YR	5＜4	○	○	※		※
	5	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△		△
	6	褐色土層10YR	6＜7	○	○	△		△
	7	褐色土層10YR	8＜7	○	○	△		※
	8	褐色土層10YR	8＜9	○	○	△		△
	9	鈍い黄褐色土層10YR	8＜9	○	○	◎	△	※

0　平面図　10m

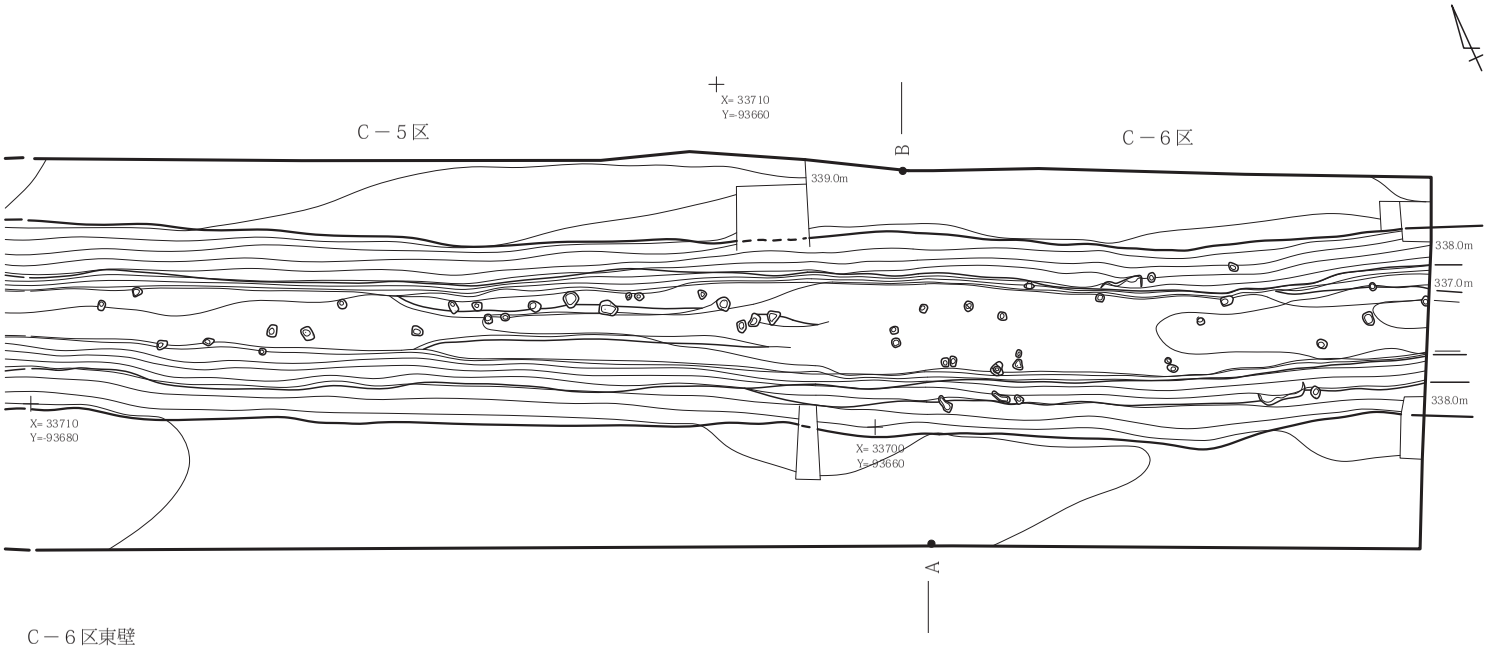
0　断面図　4m

第132図　大道南横道東地区（C－2・3区）　M－1号溝（8）

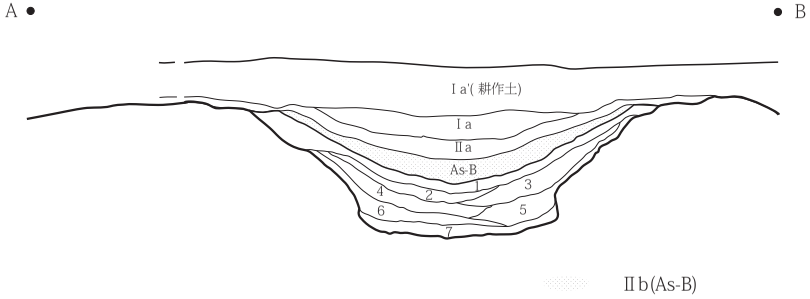


第133図　行田市子塚地区（C－4区）　M－1号溝（1）

M－1⑩



C－6区東壁
340.0m

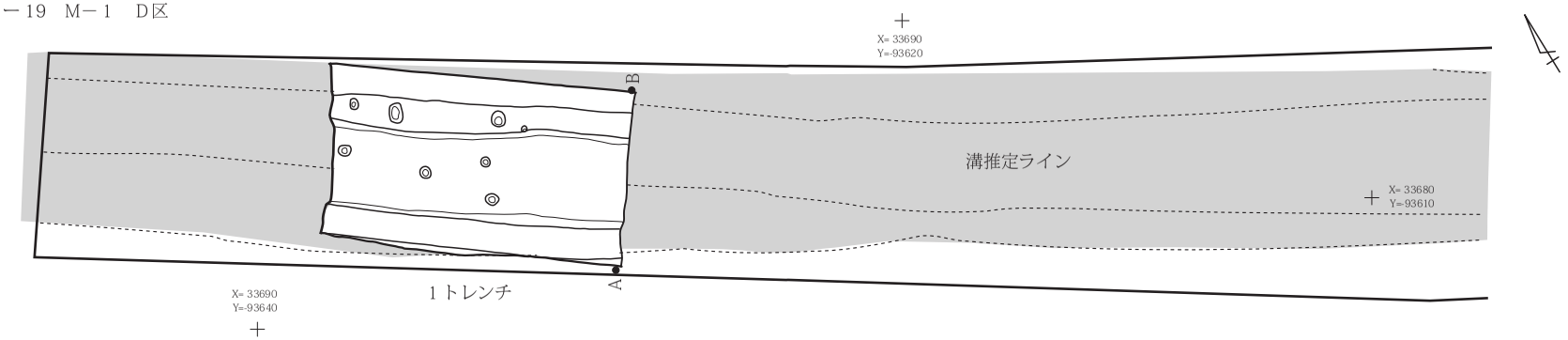


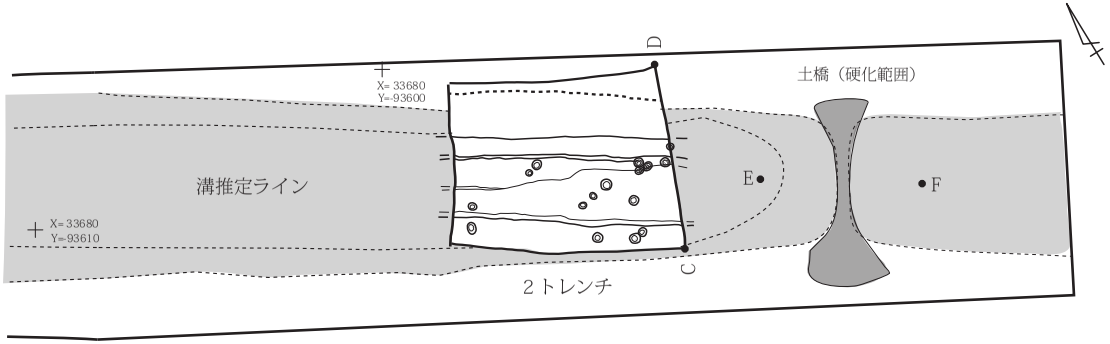
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
M－1　C－6区　東壁	1	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※		※	
	2	黒褐色土層10YR	3＜2	○	○	※		※	
	3	暗褐色土層10YR	4＜3	○	○	※		※	
	4	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△		△	
	5	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△		△	
	6	褐色土層10YR	6＜7	○	○	△		△	
	7	黄褐色土層10YR	6＜7	○	○	◎	○	◎	

0　平面図　10m

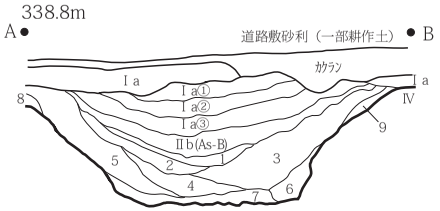
0　断面図　4 m

第134図　行田市子塚地区（C－5区）　M－1号溝（2）



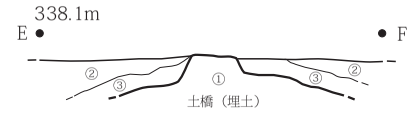


D区 1トレンチ 東壁

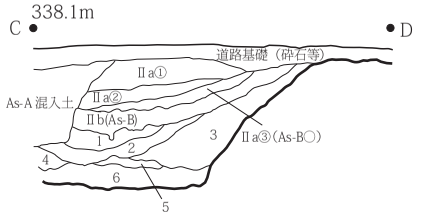


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物 炭	赤色P	焼土	As-C
M－1 D区土橋	①	暗褐色土層		◎硬化	○	※	×	×		△	※	※
	②	暗褐色土層		○	○	×	×					※
	③	暗褐色土層		○	○	※	×	×				
M－1 D区1トレンチ東壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※				
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※				
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	△				
	4	黒褐色土層10YR	4＜2	○	○	※	×	※				
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	△				
	6	褐色土層10YR	3＜6	○	○	△	×	△				
	7	黄褐色土層10YR	5＜7	◎	○	△	△	△				
	8	黒褐色土層10YR	8＜5	○	○	※	×	×				
	9	黒褐色土層10YR	Ⅲ＜9	○	○	※	×	※				
M－1 D区2トレンチ東壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※				
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	※	※			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※				
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	○	○	※	×	×				
	5	暗褐色土層10YR	2＜5	○	○	※	×	※				
	6	褐色土層10YR	3＜6	◎	○	△	※	△				

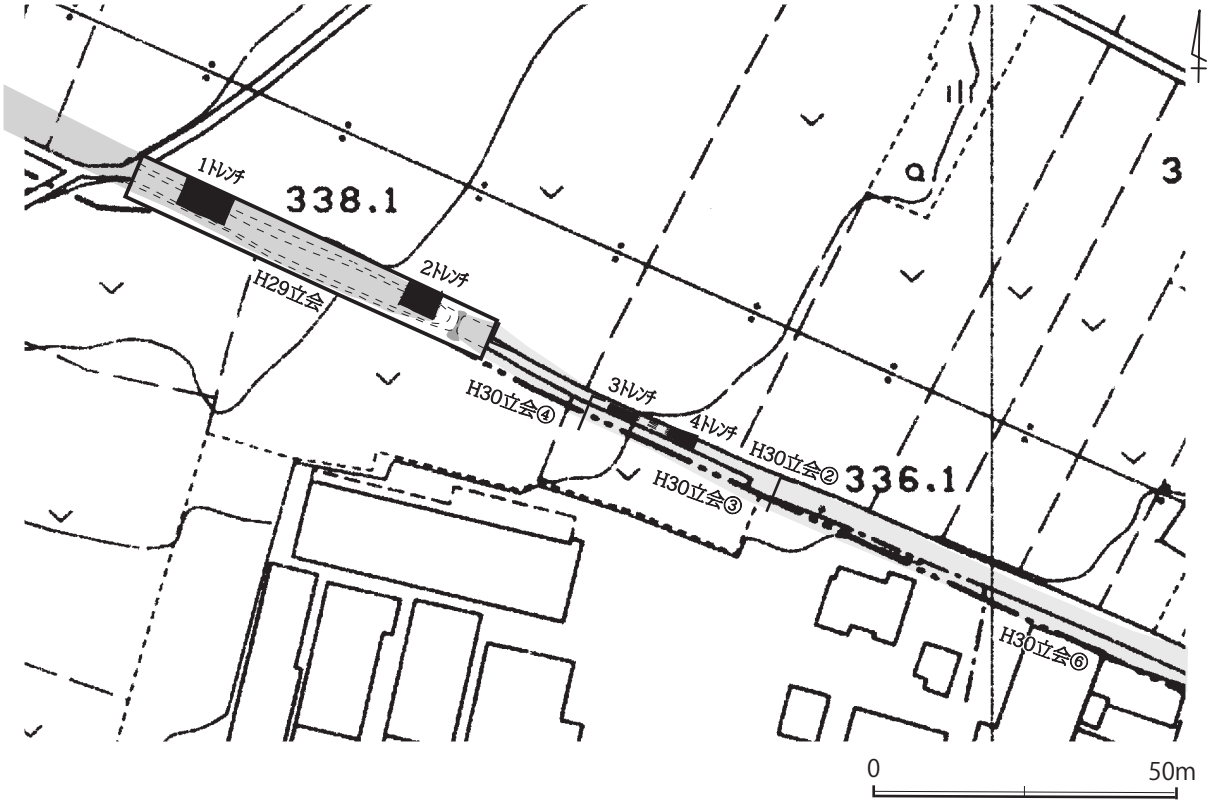
D区土橋



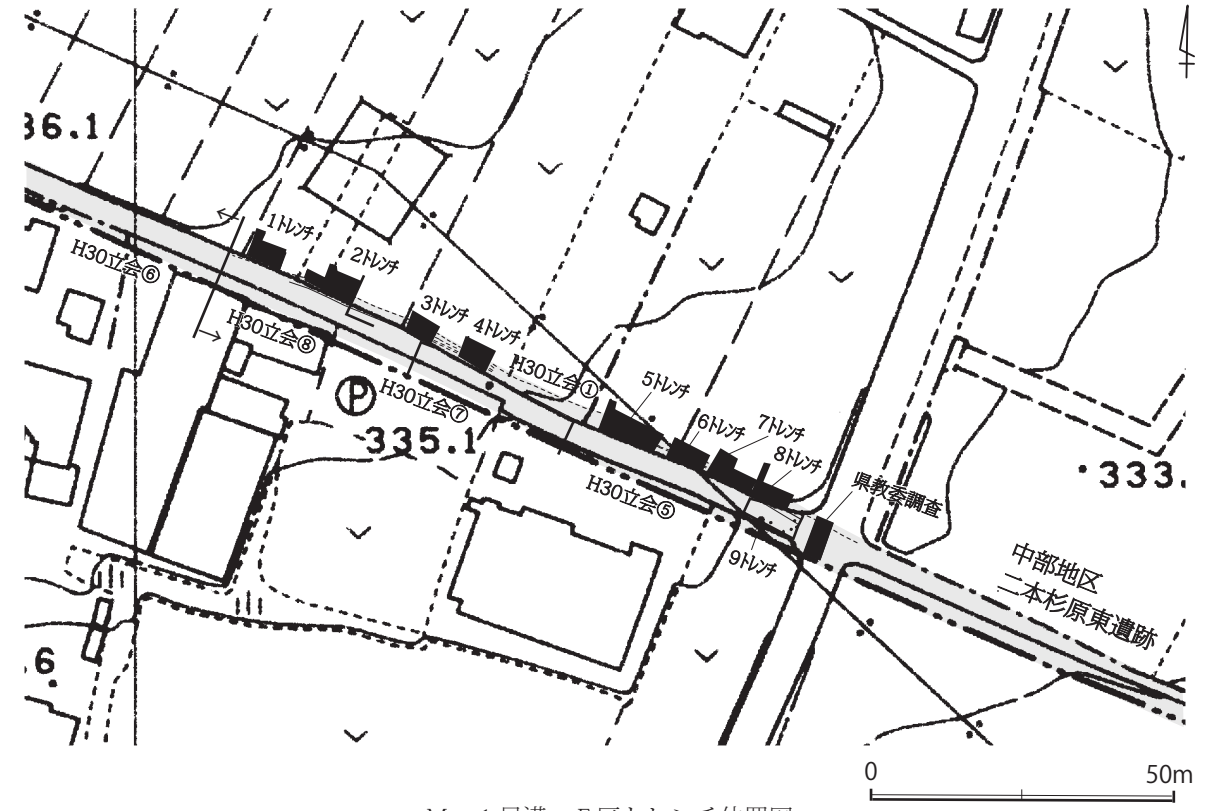
D区 2トレンチ 東壁



第135図　行田二本杉原東地区（D区）　M－1号溝



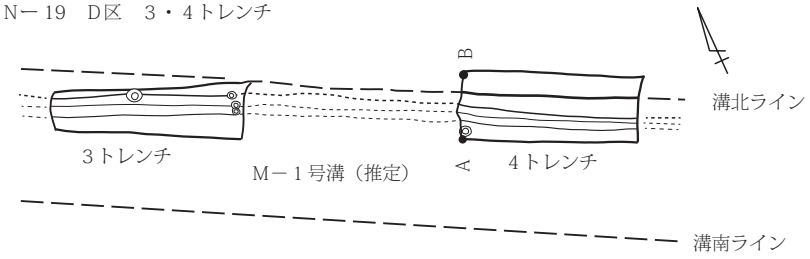
M－１号溝　D区トレンチ位置図（丸数字は工事立会地点）



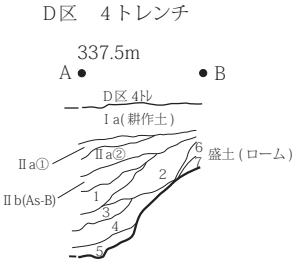
M－１号溝　E区トレンチ位置図

第136図　行田二本杉原東地区（D・E区）　M－１号溝トレンチ位置図

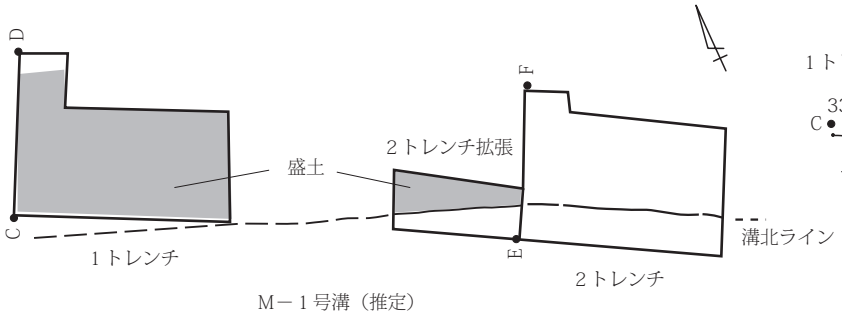
N－19　D区　3・4トレンチ



D区　4トレンチ

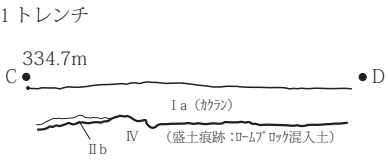


N－19　E区　1・2トレンチ



M－1号溝（推定）

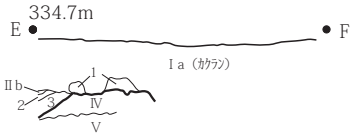
1トレンチ



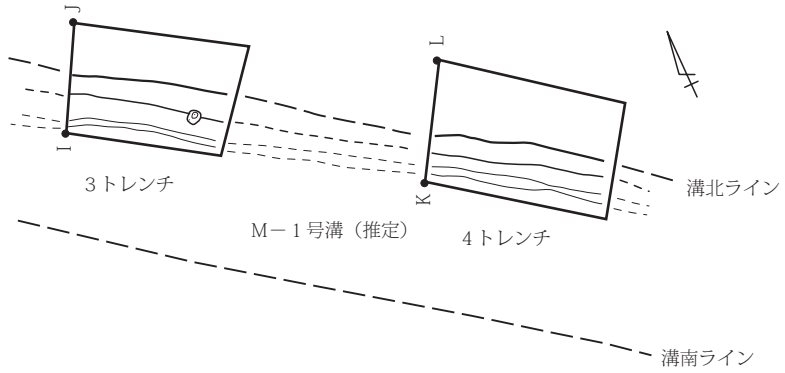
溝南ライン

：ロームブロック

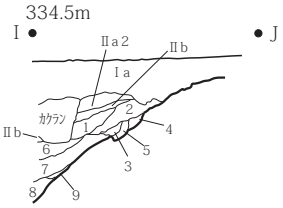
N-19　M－1　E区2トレンチ



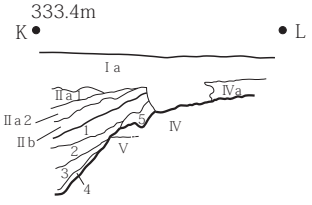
N－19　E区　3・4トレンチ

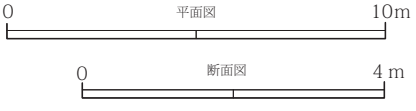


3トレンチ



4トレンチ

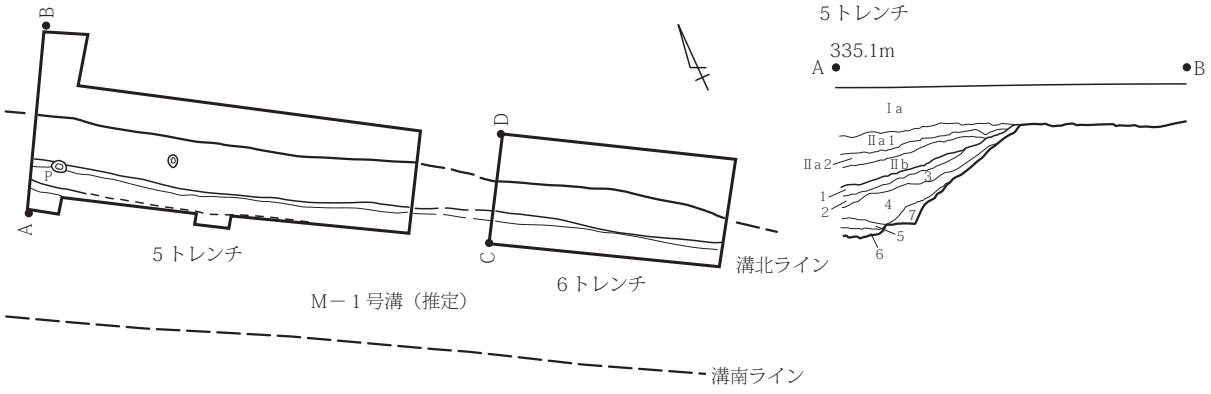




遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	炭
M－1　D区4トレンチ	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	△	※	
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	※	※	
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	△	※	
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	※	△	×	
	6	黒褐色土層10YR	－	○	○	※	×	×	×	
	7	黒褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	×	×	
M－1　E区1トレンチ	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	※	×		
M－1　E区2トレンチ	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※		
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	×	×	※		
M－1　E区3トレンチ	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	△		
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	※		
	4	暗褐色土層10YR	4＜2	○	○	※	×	×		
	5	暗褐色土層10YR	3＜5	○	○	※	×	×		
	6	暗褐色土層10YR	1＜6	○	○	※	×	※		※
	7	褐色土層10YR	6＜7	○	○	△	×	△		
	8	褐色土層10YR	7＜8	○	○	△	※	※		
	9	褐色土層10YR	9＜7	○	○	△	×	※		
M－1　E区4トレンチ	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	△		
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	※		
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	※		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※		
	5	暗褐色土層10YR	5＜1	○	○	※	×	※		

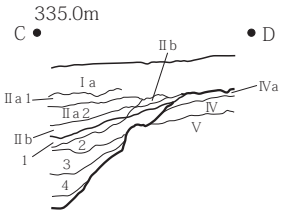
第137図　行田二本杉原東地区（D・E区）　M－1号溝

N－19　E区　5・6トレンチ

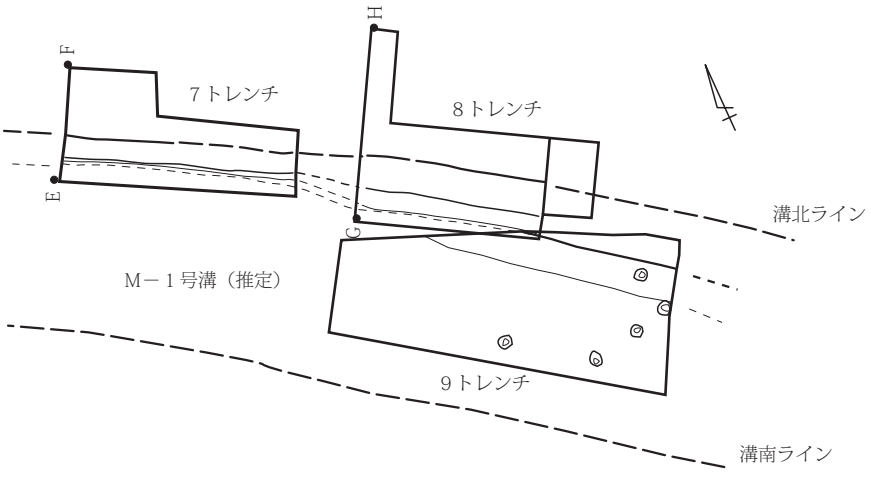


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	炭
M－1E区5トレンチ西壁	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
	2	暗褐色土層10YR 1＜2		○	○	※	×	※		
	3	暗褐色土層10YR 2＜3		○	○	※	×	※		
	4	褐色土層10YR 3＜4		○	○	※	×	△		
	5	褐色土層10YR 5＜4		○	○	△	×	※		
	6	黄褐色土層10YR 5＜6		○	○	○	※	△		
	7	褐色土層10YR 4＜7		○	○	※	×	△		※
M－1E区6トレンチ西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※		
	2	暗褐色土層10YR 1＜2		○	○	※	×	※		
	3	暗褐色土層10YR 2＜3		○	○	※	×	※	※	
	4	暗褐色土層10YR 3＜4		○	○	※	×	※		
	5	褐色土層10YR 4＜5		○	○	△	×	△		

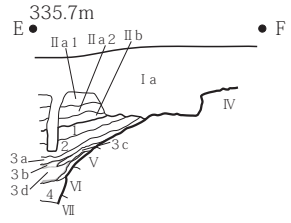
6トレンチ西壁



N－19　E区　7～9トレンチ

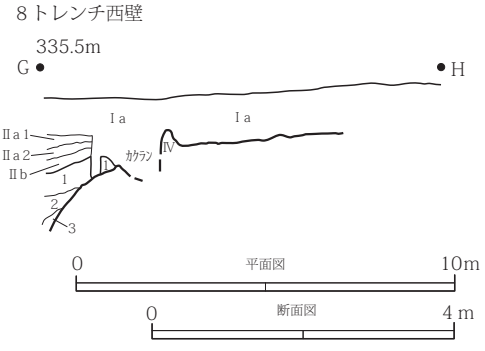


7トレンチ西壁



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	炭	白色
M－1E区7トレンチ西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×		×	
	2	暗褐色土層10YR 1＜2		○	○	※	×	※		※	
	3a～3d	暗褐色土層10YR 2＜3		◎	○	※	×	※		×	△
	4	褐色土層10YR 3＜4		○	○	△	×	△		×	
M－1E区8トレンチ西壁	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※		※	
	2	暗褐色土層10YR 2＜1		○	○	※	×	※		※	
	3	暗褐色土層10YR 2＜3		○	○	※	×	△		×	

8トレンチ西壁



第138図　行田二本杉原東地区（E区）　M－1号溝

Ⅴ　出土遺物

1　縄文時代の土器

本遺跡群からは、前期の関山式（前期前葉）、有尾・黒浜式（中葉）、諸磯ｂ・ｃ式（後葉）、十三菩提式（終末）、中期の五領ヶ台式（初頭）、阿玉台・勝坂式（前葉～中葉）、加曽利ＥⅠ～Ⅳ式期（後葉～終末）に帰属する土器が出土した。草創期・早期・晩期の土器は、確認されなかった。後期に分類される土器は少数出土した。

諸磯ｂ式は浮線文系及び沈線文系を主体としており、中段階以降に帰属する。大道南横道西遺跡では、諸磯ｃ式の集合沈線文、貝殻状・円形等の貼付文、十三菩提式の結節浮線文等を施文した土器がまとまって出土した。

中期では、加曽利Ｅ式期が、二本杉Ⅱ遺跡、大道北横道東遺跡、大道南横道西遺跡等で出土し、曽利系土器群の共伴が認められた。加曽利Ｅ式は、Ⅱ～Ⅲ式期が主体であるが、その前後（ⅠあるいはⅣ式）の時期も少数認められた。また、大道北横道東遺跡では、土坑内から中期後葉の「郷土式」の深鉢が出土した。大道南横道西遺跡では、五領ヶ台式、阿玉台・勝坂式、加曽利ＥⅠ～Ⅳ式に分類され初頭から終末に至るまでの土器が出土した。

また、加曽利ＥⅠ～Ⅱ式期の浅鉢の中には、赤色あるいは黒色の塗彩で内外面に文様を施すものが認められた。二本杉Ⅱ遺跡では、ミニチュア土器が出土した。

（1）行田二本杉原東Ⅱ遺跡の縄文土器（第139図１～８、第18表）

有尾・黒浜式、諸磯ｂ式、加曽利ＥⅢ式の土器が出土した。８は後期前葉の堀之内2式に分類したが、弥生時代中期後半の可能性がある。

（2）行田市子塚遺跡の縄文土器（第139図９～12、第19表）

加曽利ＥⅢ式の土器が少数出土した。

（3）行田大道南横道東遺跡の縄文土器（第140～143図13～96、第20表）

前期では、繊維を含むのを特徴とする羽状縄文系土器群である関山式、有尾・黒浜式を主体とする。型式では有尾式が優勢であるが、長野県南部から北関東に分布する同時期の神ノ木式の共伴が認められた。神ノ木式は胎土に繊維を含まないものがあり、口縁部に櫛歯状工具による連続刺突文や条線等を施す土器を特徴とする。中期では加曽利ＥⅢ式が少数出土した。

（4）行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡の縄文土器（第144～156図97～309、第21表）

中期では、初頭～中葉の五領ヶ台式、阿玉台・勝坂式、後葉の加曽利ＥⅡ～Ⅲ式に分類される。

五領ヶ台式はＪ－１号住居跡で出土した。Ｄ－472号土坑では、中部地方の「郷土式」の影響を受けた中期後半の深鉢（238）が出土した。ミニチュア土器（302～305）、赤色塗彩のある土器（306～309）。

（5）行田大道南横道西遺跡の縄文土器（第157～183図310～689、第22表）

住居址出土の土器（310～520）、竪穴状遺構の土器（521～523）、土坑の土器（524～639）、集石の土器（640）、埋設土器（641～644）、ピットの土器（645～649）、遺構外の土器（650～663）、赤色塗彩のある土器（664～689）である。

前期の土器は、Ａ区とＣ区で出土した。住居跡（Ｊ－９、36、37号）では、有尾・黒浜式が少数出

土した。Ｊ－36、37号住居跡では、前期前半の繊維を混入しない土器が出土した。Ｊ－11号住居跡では、諸磯ｂ式が出土した。Ａ区の包含層では、諸磯ｂ式の他、諸磯ｃ式、十三菩提式が出土した（650～655、657～663）。

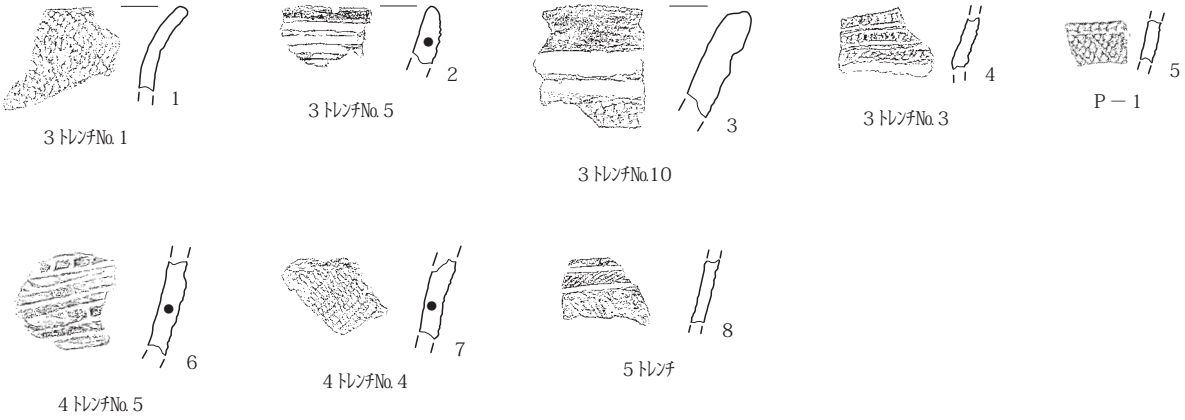
中期の土器は、Ａ・Ｂ・Ｃ区で出土した。五領ヶ台式は、住居跡（Ｊ－１号）、竪穴状遺構（Ｔ－２号）、土坑から出土した。阿玉台式・勝坂式は、住居跡（Ｊ－15、20、24、31号等）、土坑から出土した。Ｊ－20号住居跡では、焼町土器の破片が出土した。中期後半の土器は、加曽利ＥⅡ～Ⅲ式を主体とする。曽利系等の他地域の要素を持つ土器との共伴が認められるが、客体的である。中期後半の土器（664～689）において浅鉢の一部には、表裏面に赤色、黒色の彩色が観察された。また、一部で彩色と区別できないタール状の黒色付着物も観察された。

２　縄文時代の土製品

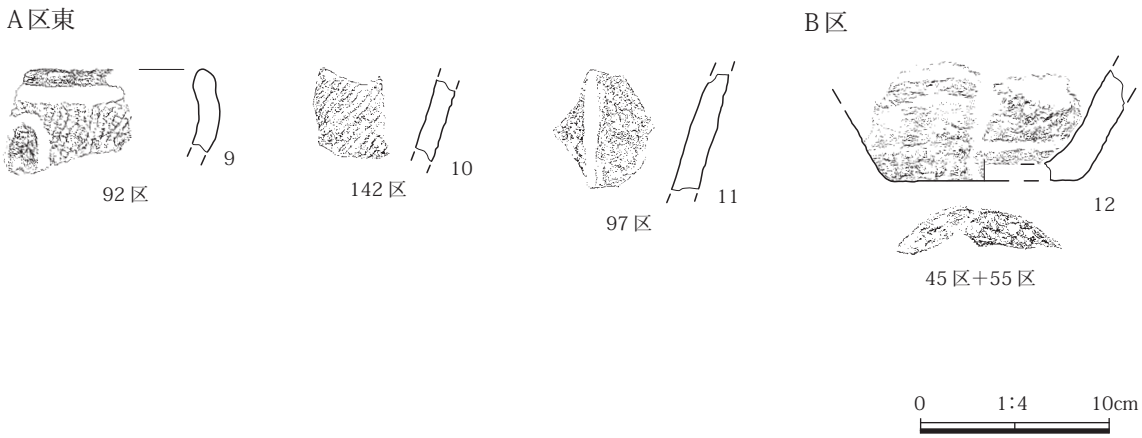
本遺跡群では、全体で10点出土した（第184図、第23表）。大道南横道東遺跡において土偶、棒状土製品、粘土塊、大道北横道西遺跡において有孔土製品、土製円板がそれぞれ出土した。土坑から出土した土偶（１）は、頭部の破片で顔の一部が残存する。粘土塊（２、３）は、土器と同様、焼成により表面が凸凹する。棒状土製品（４）は、欠損しているが、表面ナデ（一部剥落）により円柱状に整形されている。有孔土製品（５）は、表面が撫で、削りにより円柱状に整形し、孔を穿つ。５は片面に直列の凹凸、穿孔がある。６は管玉状に整形され、中心に孔が通る。土製円板（７、８）は縄文土器の破片を転用したもので、縁を調整することで円形に仕上げる。大形土製円板（９、10）は底部の破断面（接合面）の状態が摩滅していることから、土製円板として分類した。土器胴部破片を整形したもの、底部を整形したものに分類される。

出土した土製品は、土器との共伴関係により、中期後半（加曽利ＥⅢ式期）に帰属すると判断される。

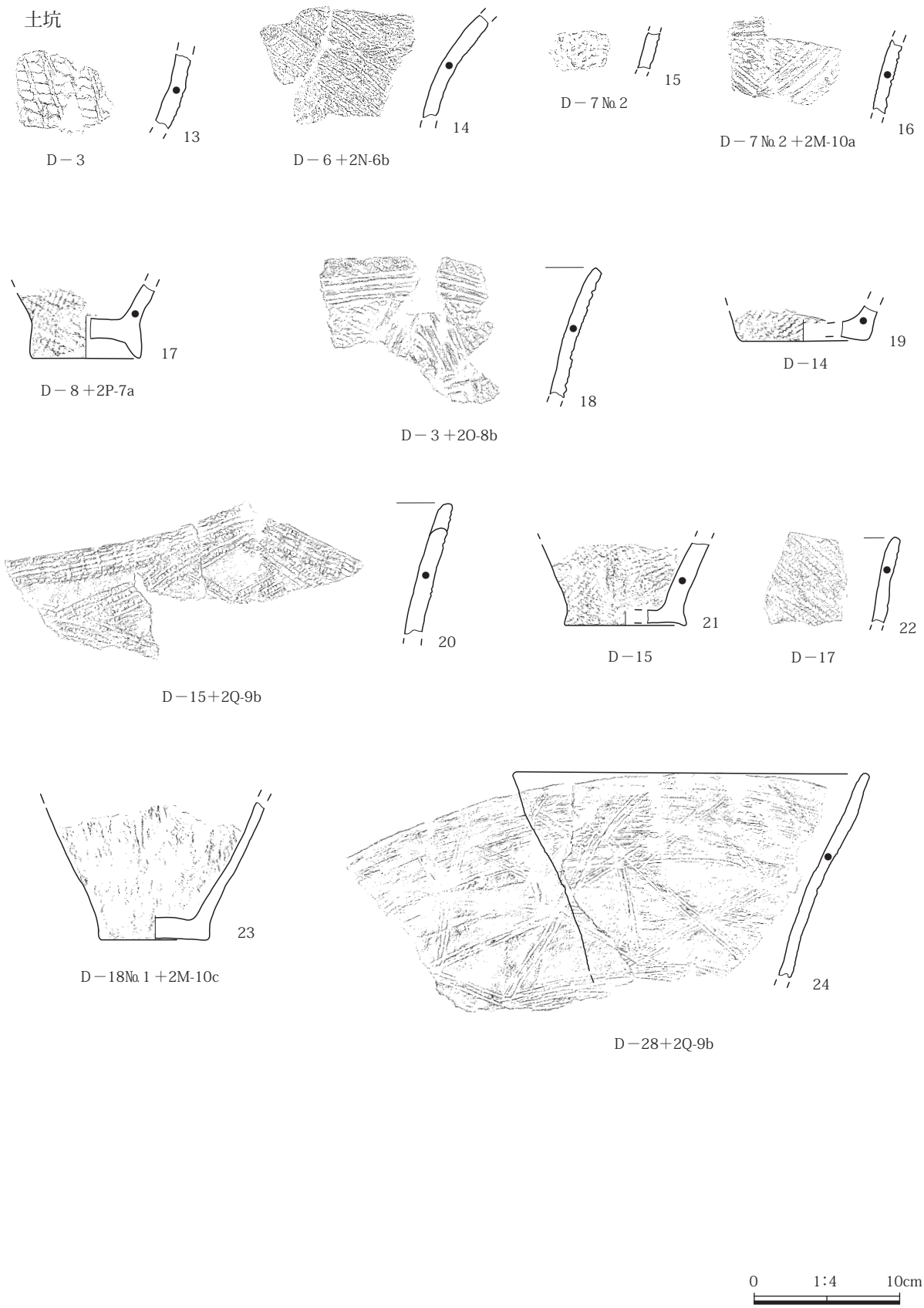
二本杉原東Ⅱ遺跡（M－1号溝E区）



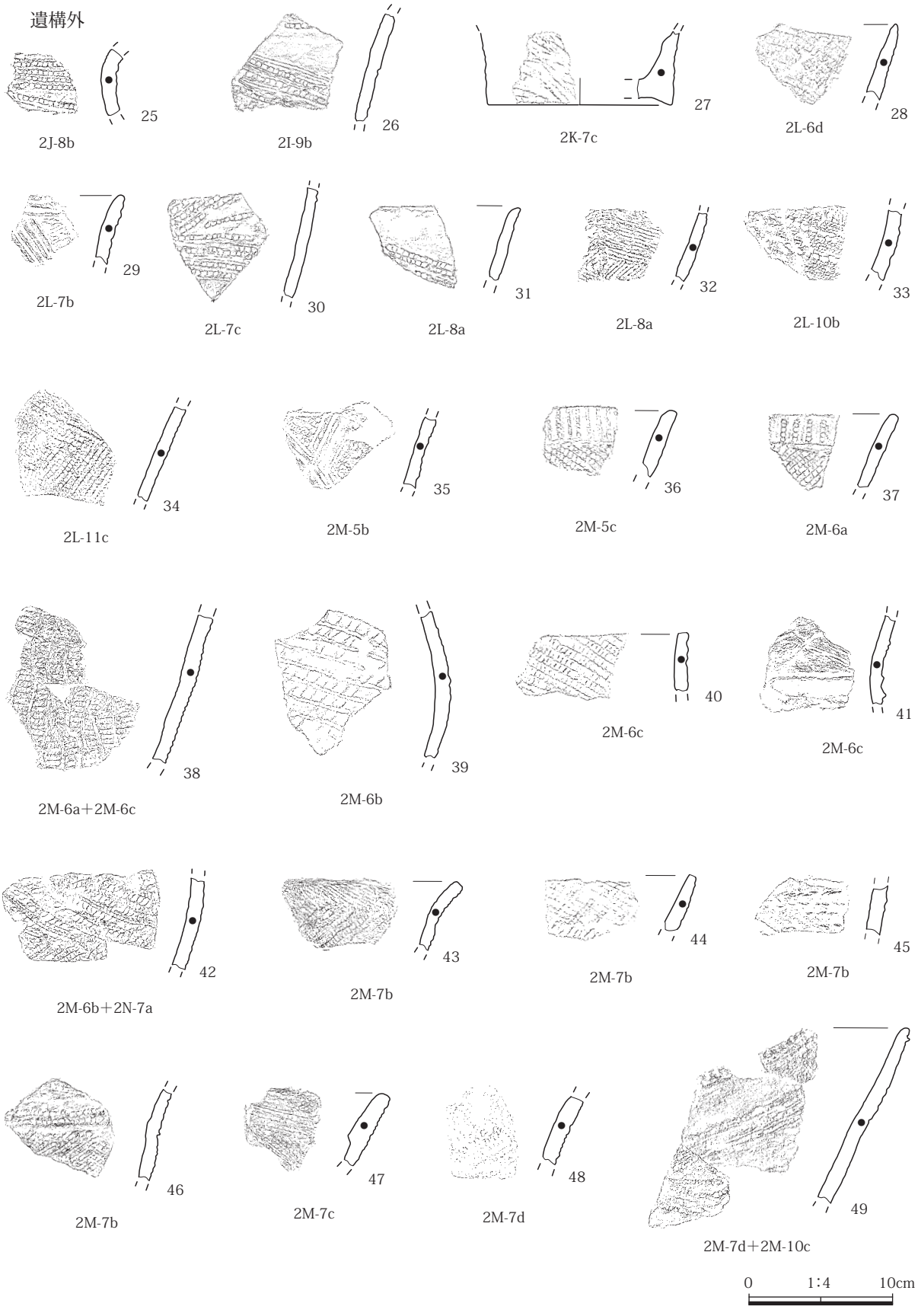
市子塚遺跡



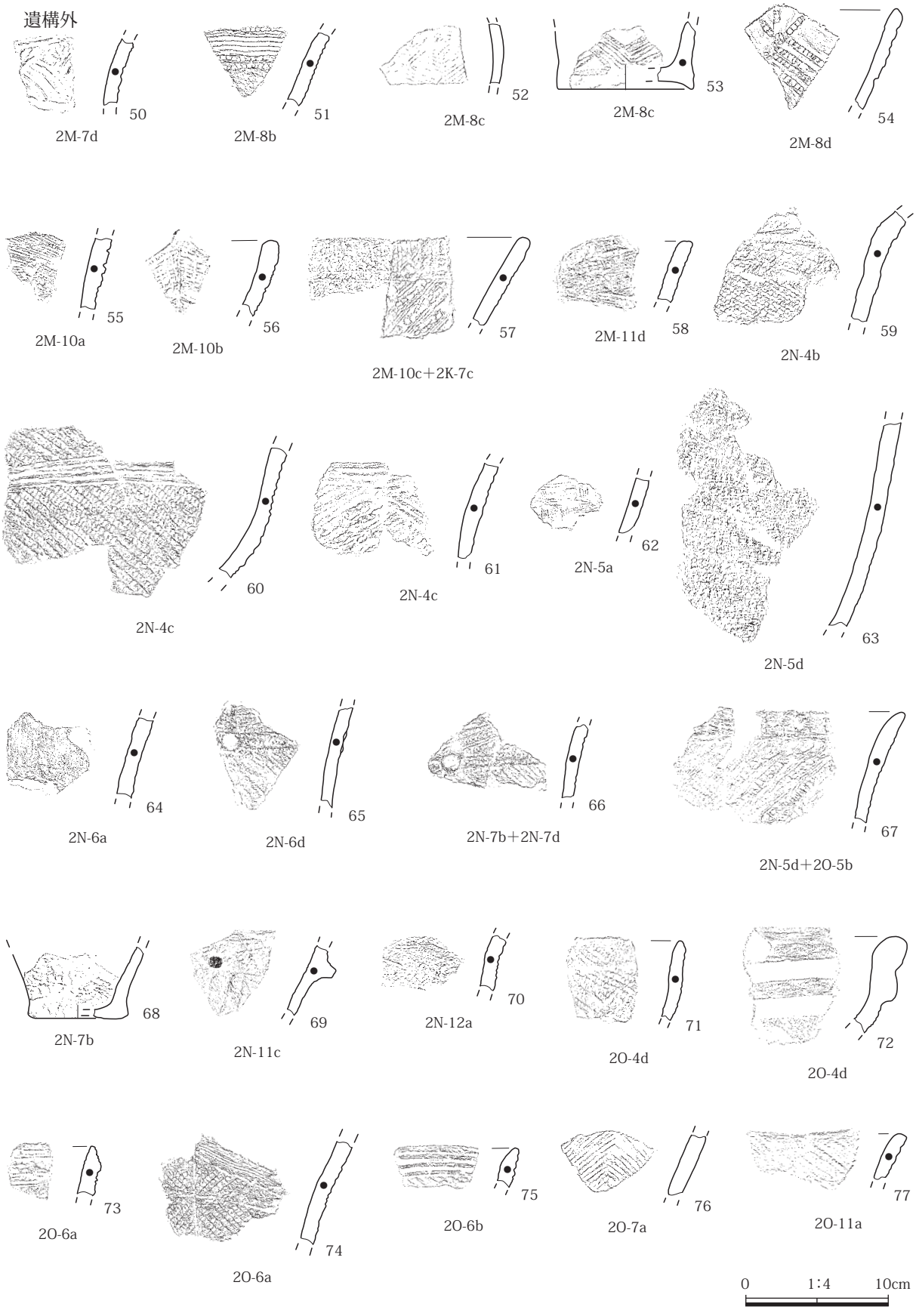
第139図　行田二本杉原東Ⅱ遺跡・行田市子塚遺跡　縄文土器



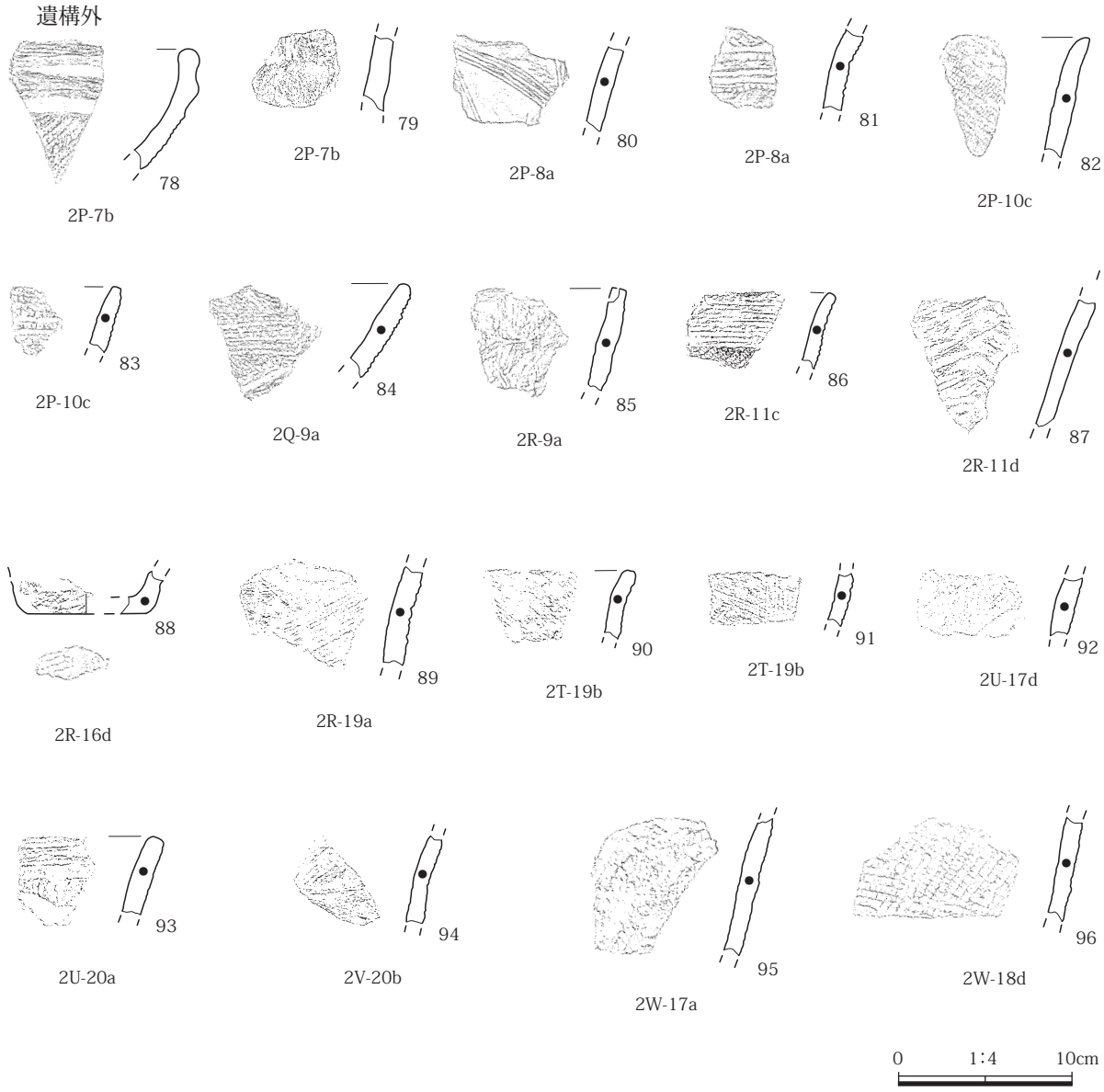
第140図　行田大道南横道東遺跡　縄文土器（1）



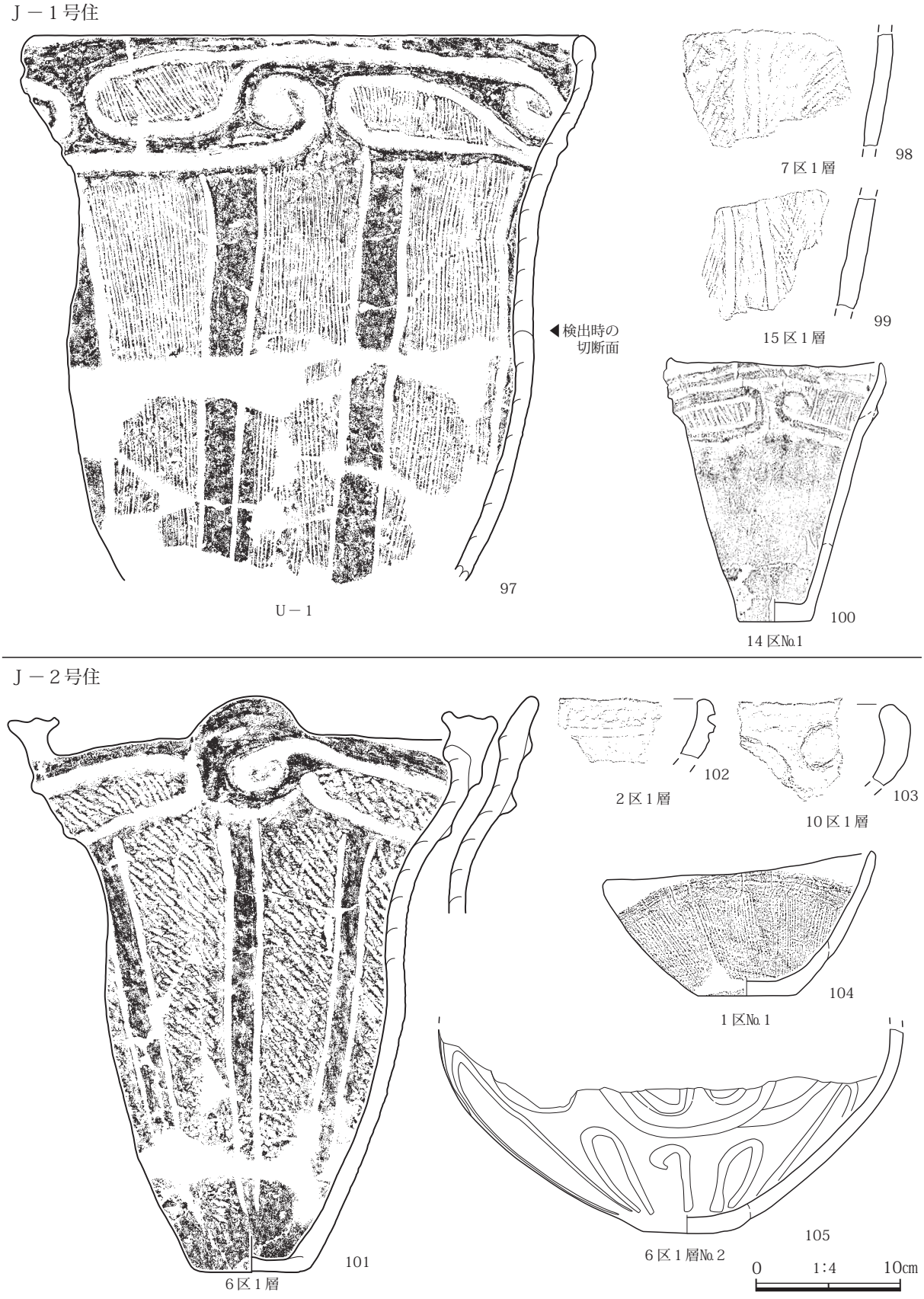
第141図　行田大道南横道東遺跡　縄文土器（２）



第142図　行田大道南横道東遺跡　縄文土器（３）

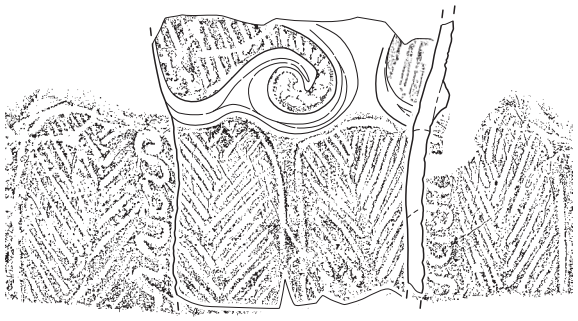


第143図　行田大道南横道東遺跡　縄文土器（４）



第144図　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器（１）

Ｊ－３号住



106

炉Ｕ－１

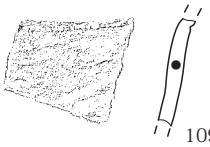
Ｊ－４号住

107

４区１層

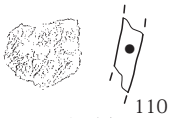
108

６区１層



109

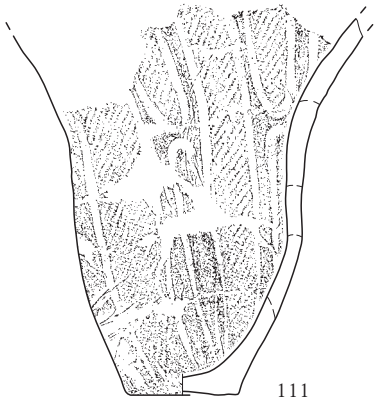
10区１層



110

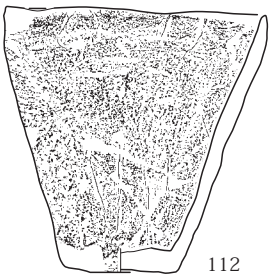
10区１層

Ｊ－５号住



111

炉Ｕ－１

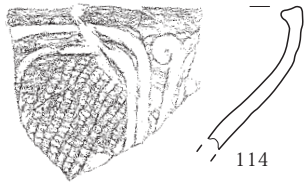


112

Ｕ－１

113

14区１層＋1H-21c＋1H-22c

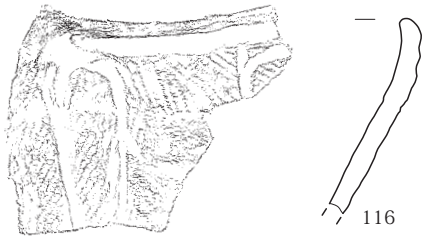


114

８区１層

115

34区１層

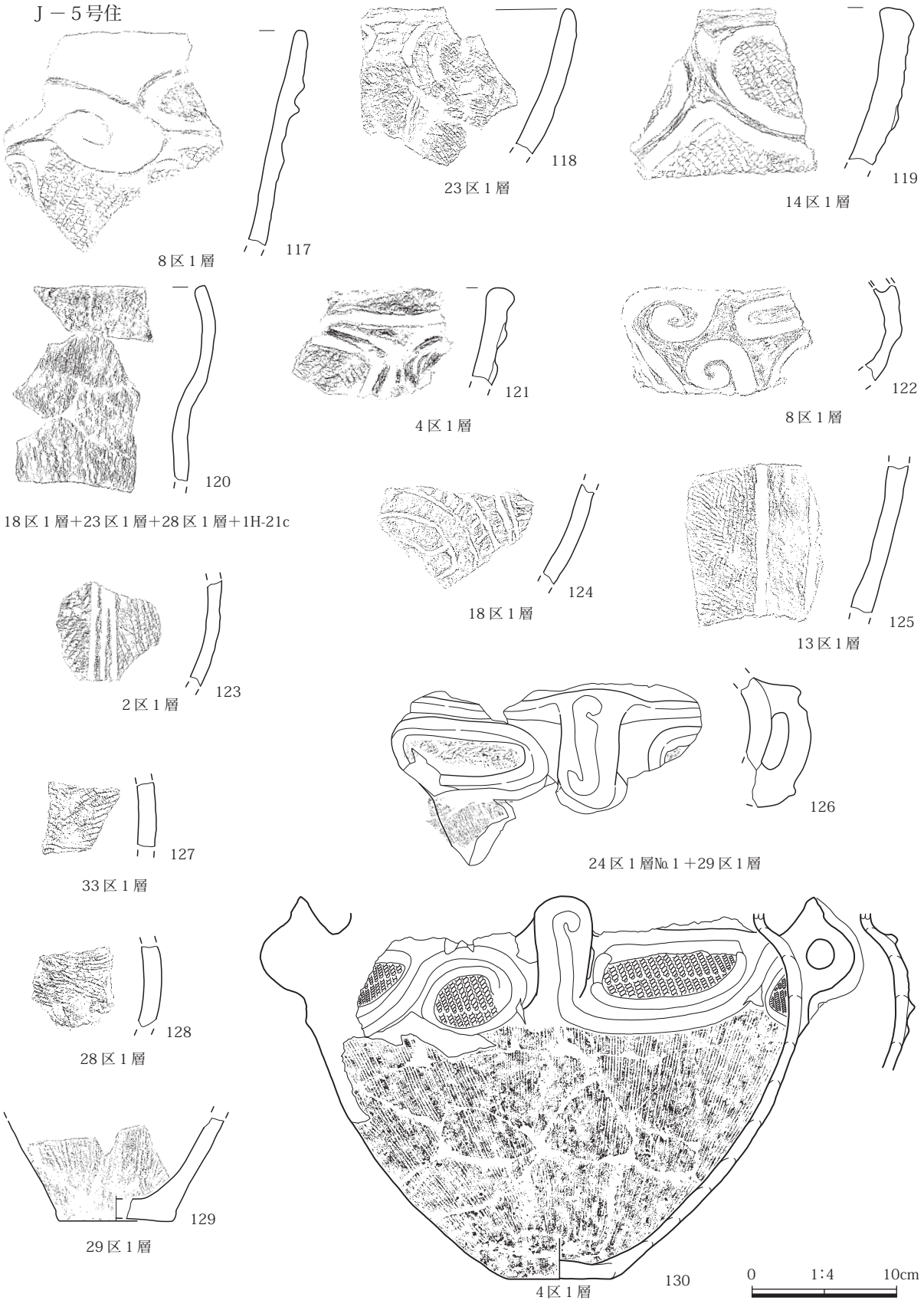


116

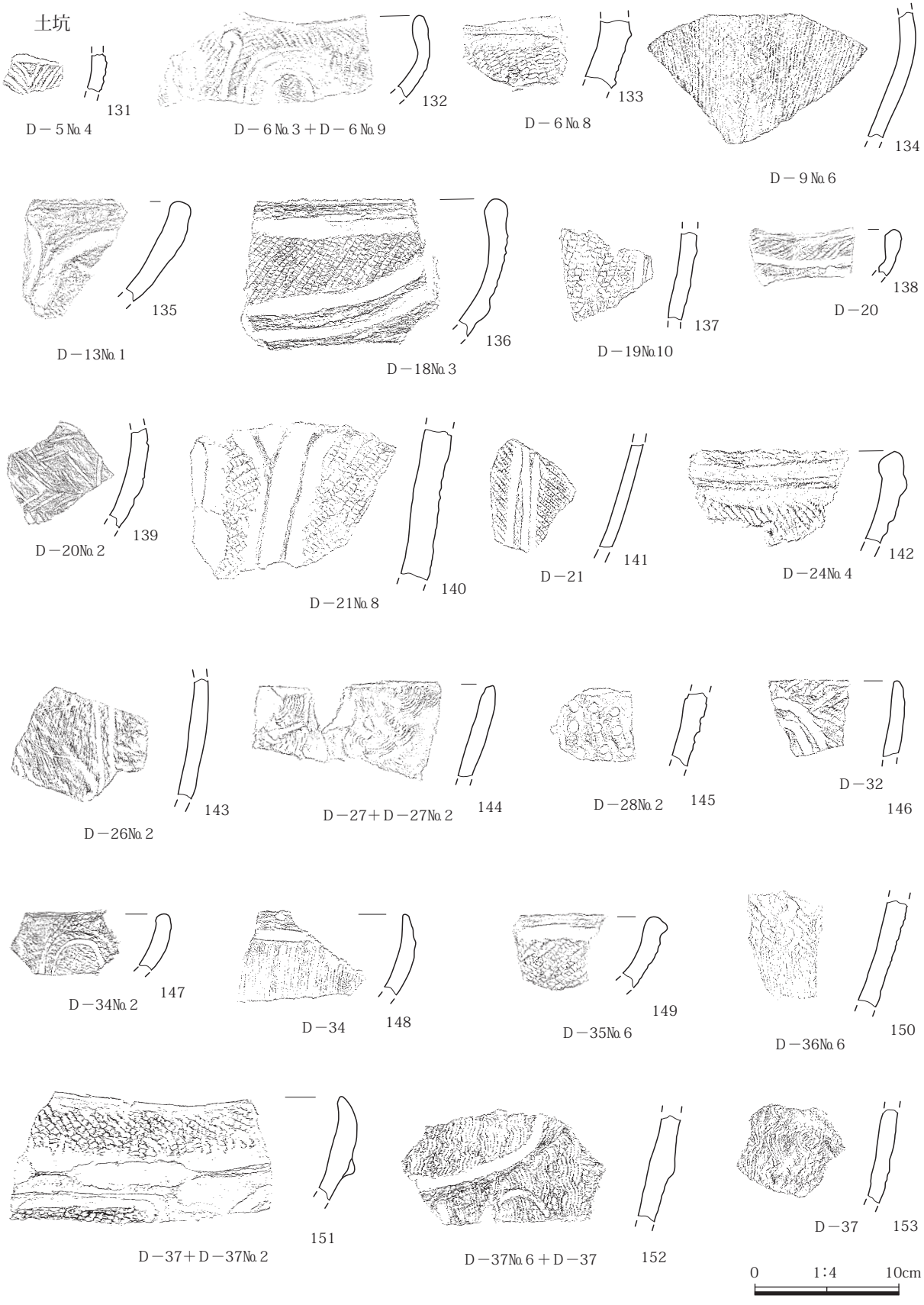
24区１層

0　1:4　10cm

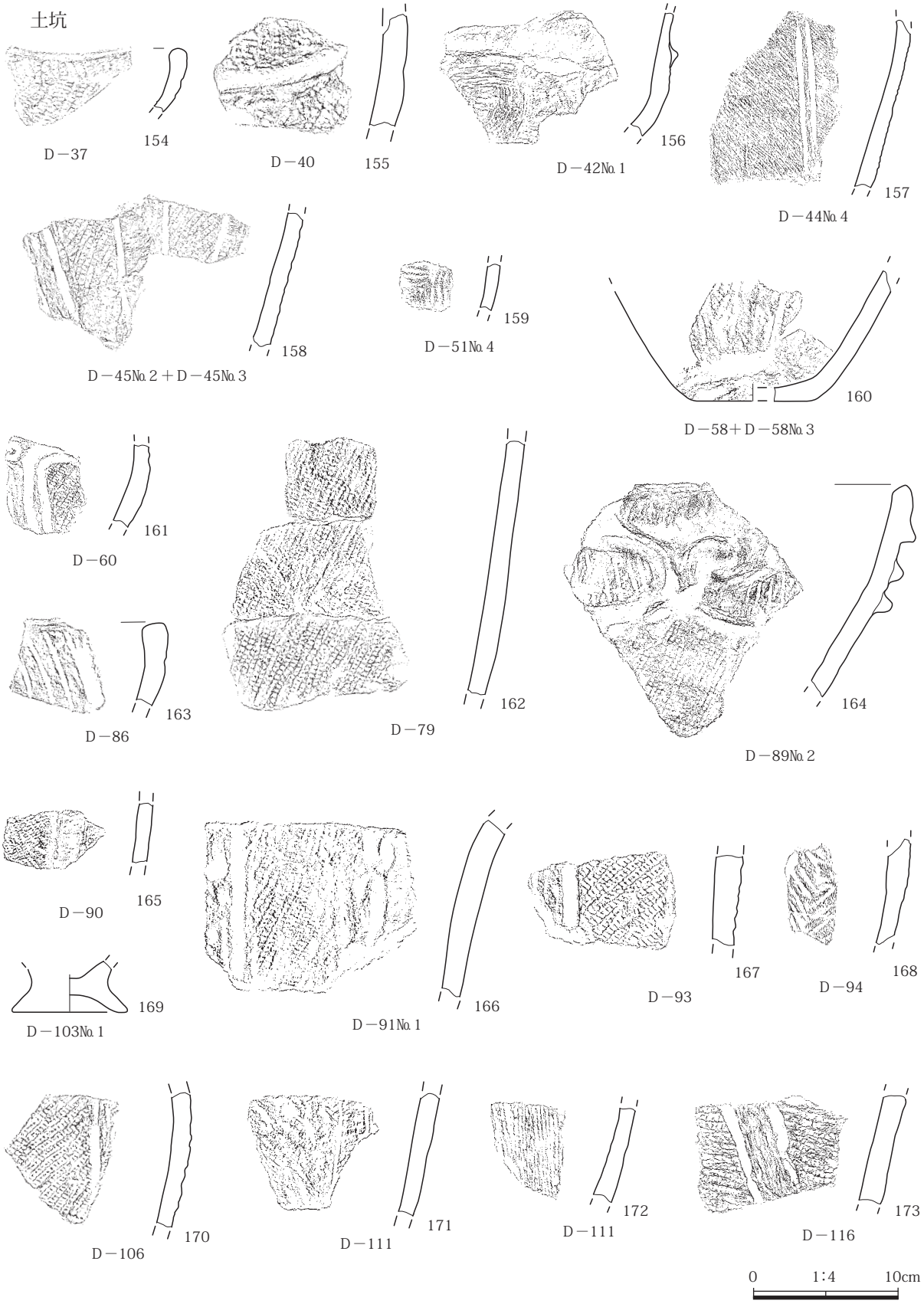
第145図　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器（２）



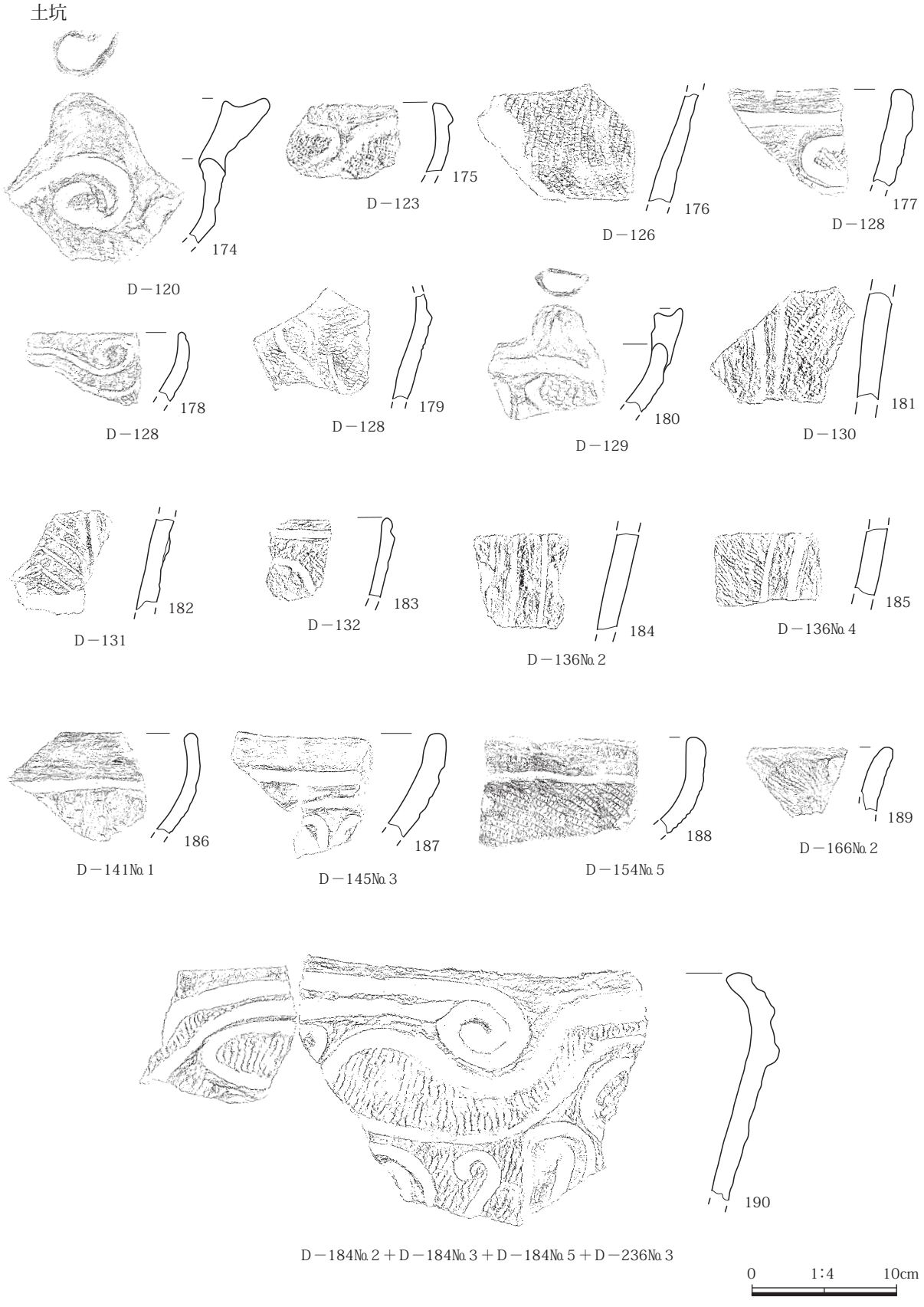
第146図　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器（3）



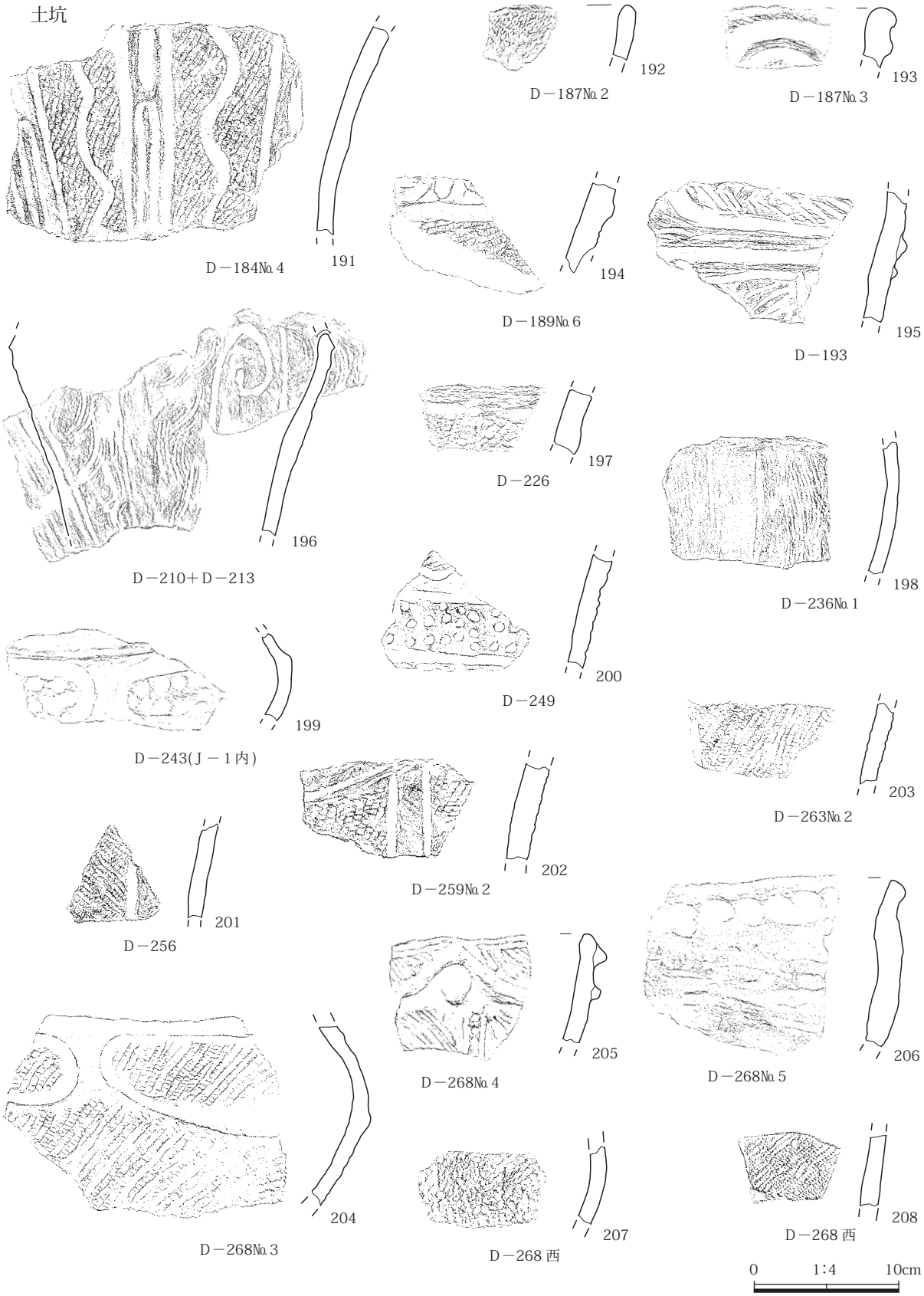
第147図　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器（４）



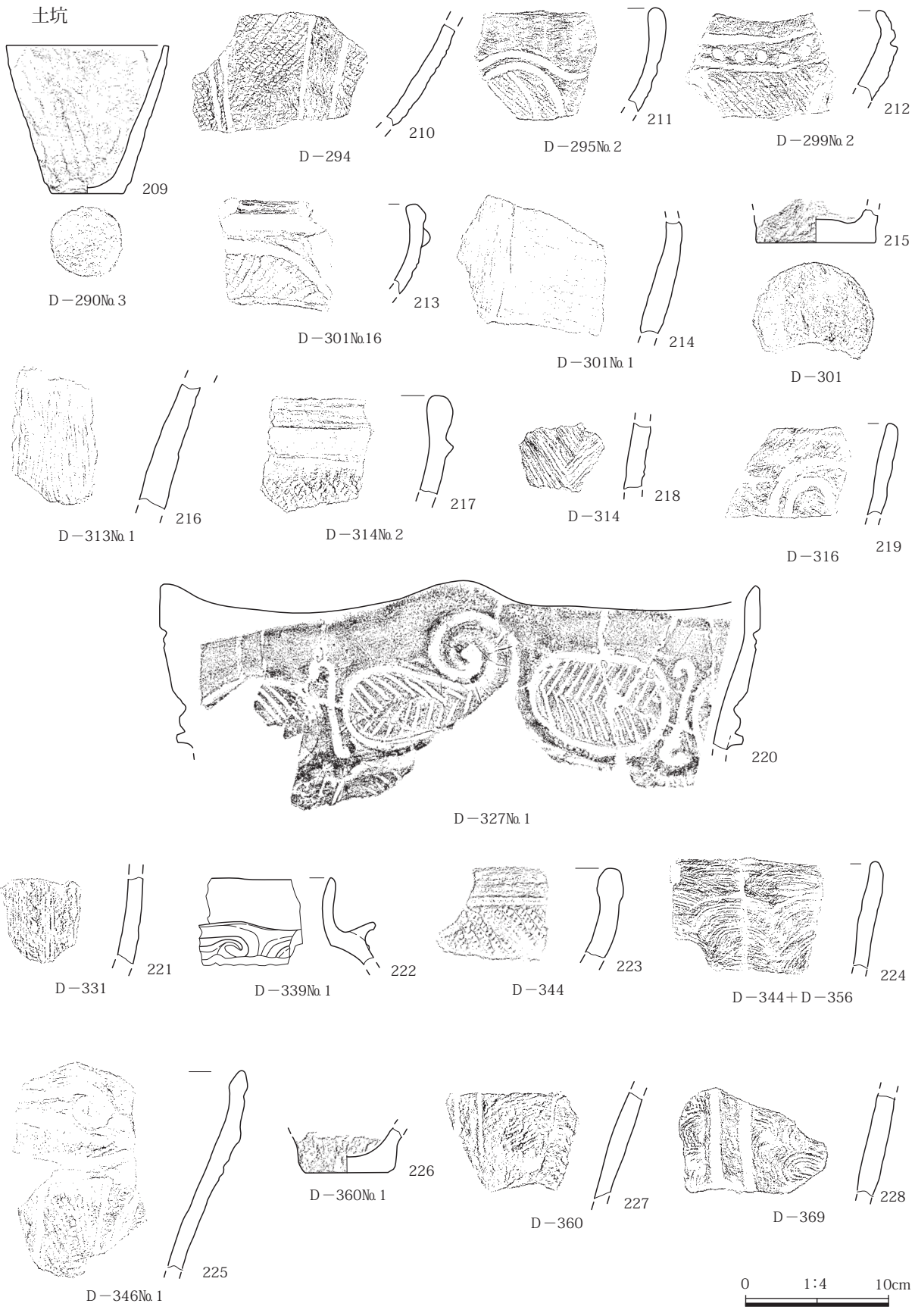
第148図　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器（５）



第149図　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器（6）

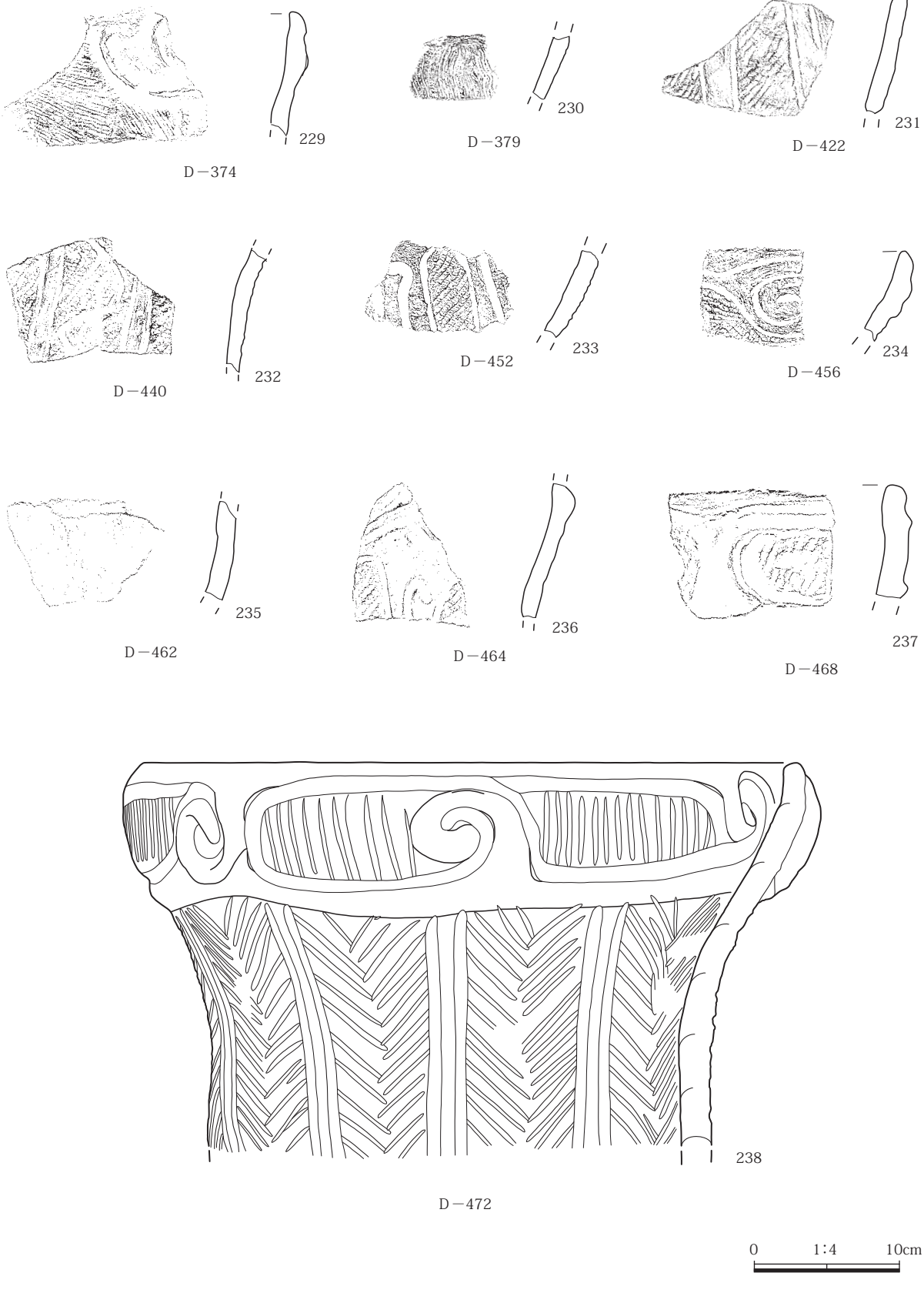


第150図　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器（7）



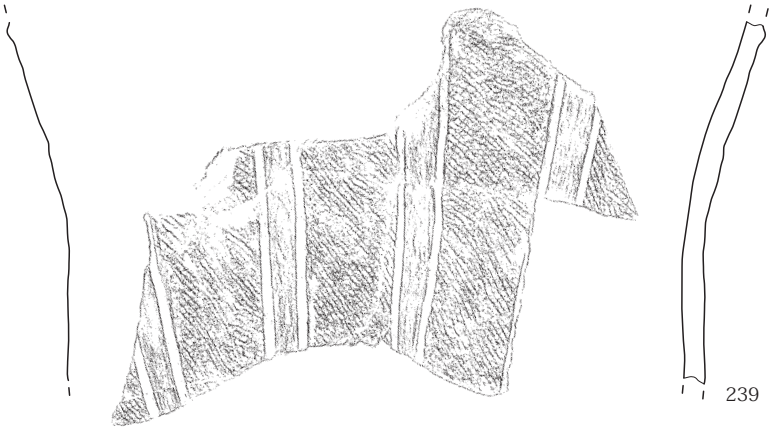
第151図　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器（8）

土坑



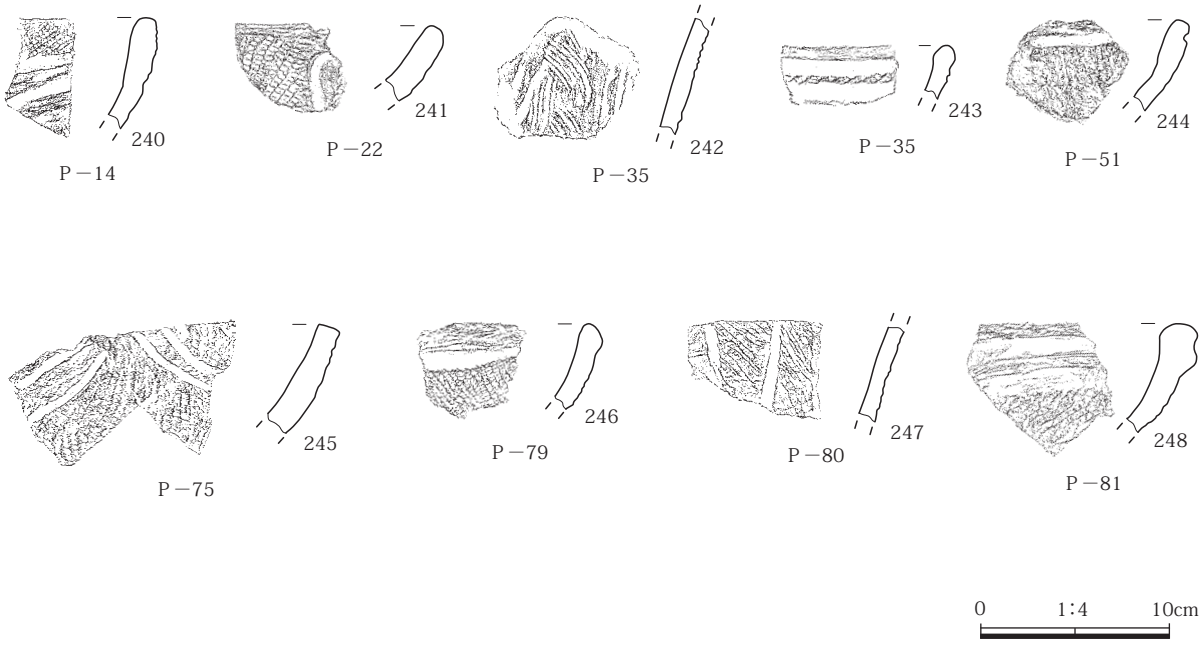
第152図　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器（9）

埋設土器



U－1

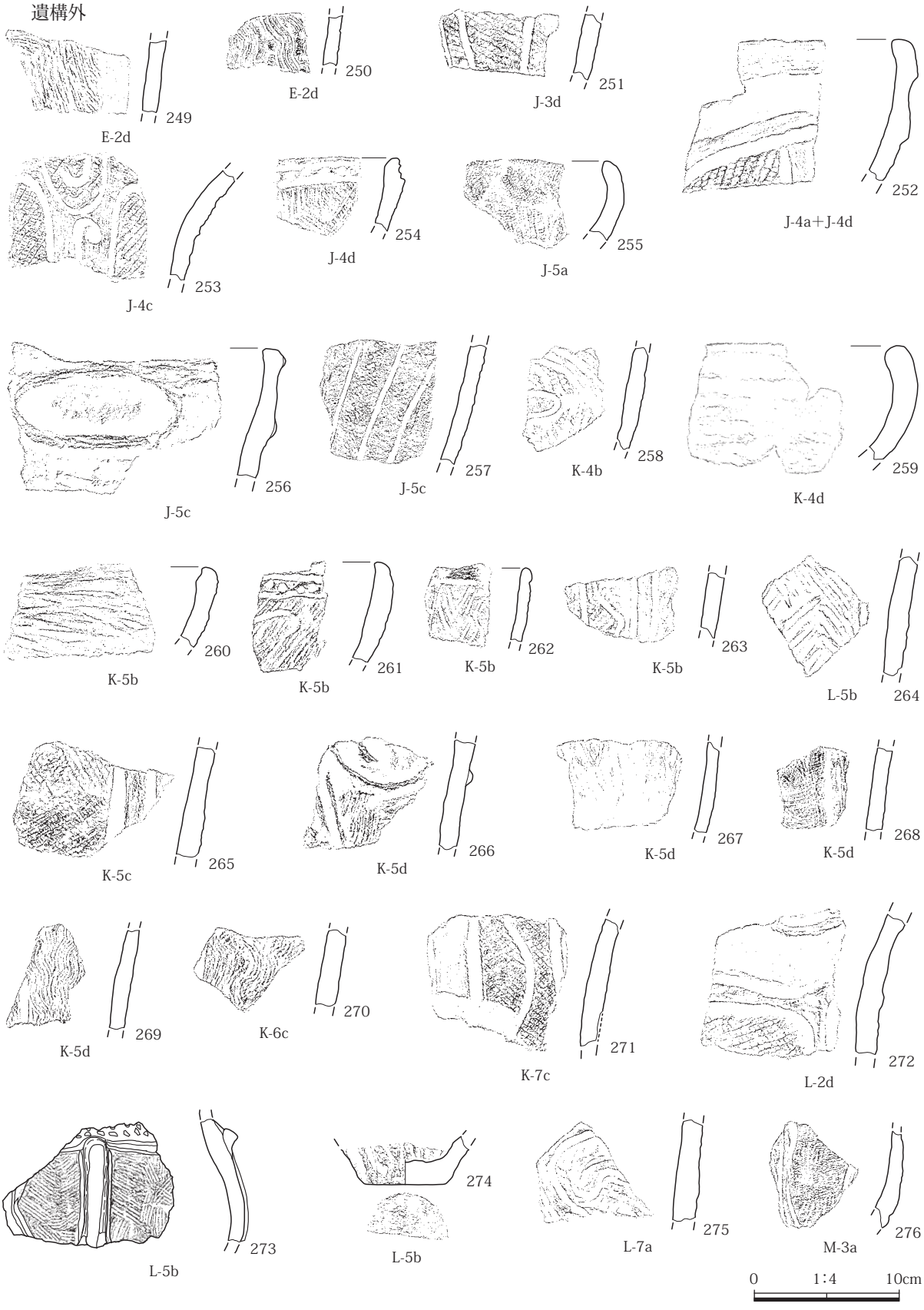
ピット



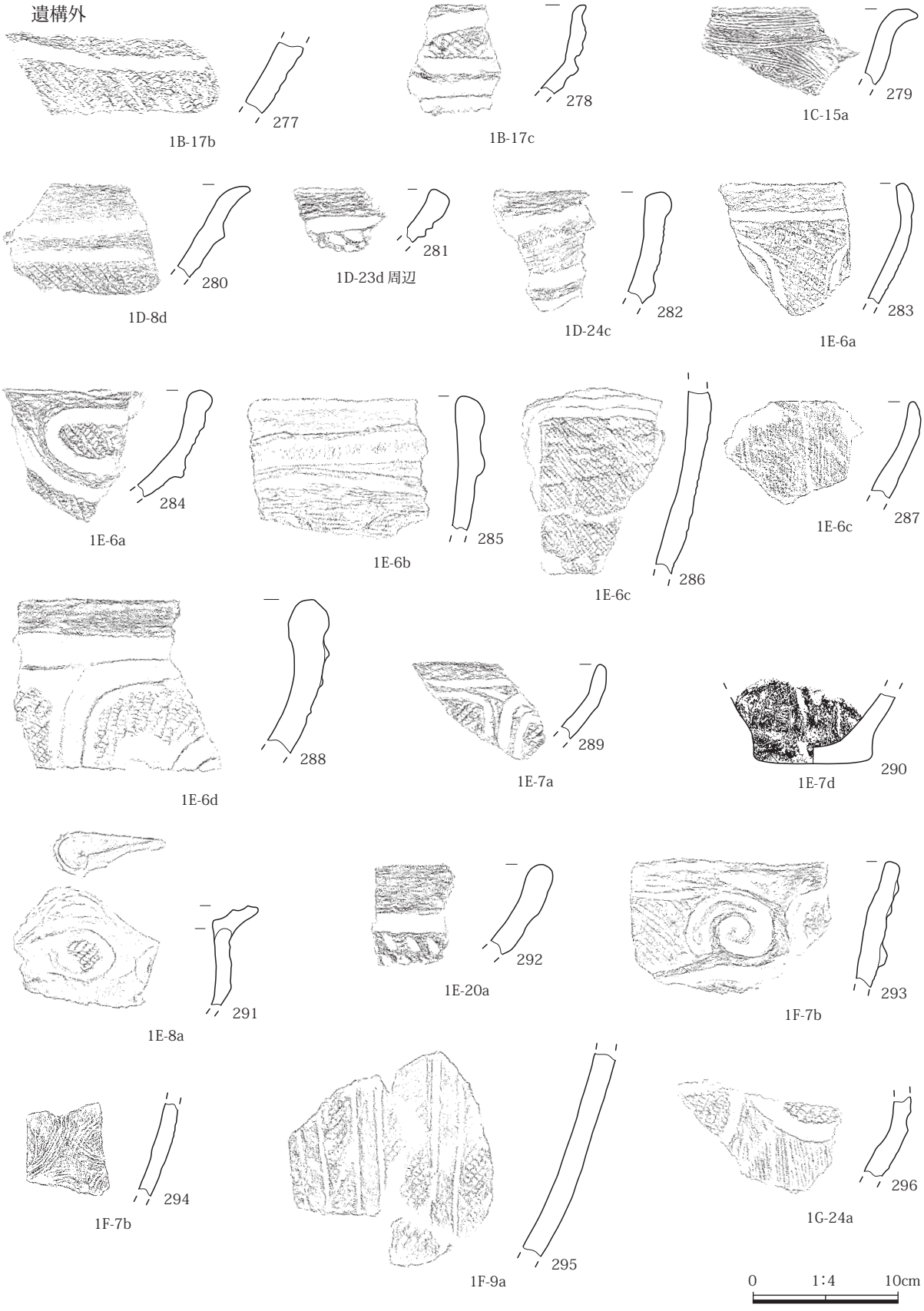
P－14　P－22　P－35　P－35　P－51

P－75　P－79　P－80　P－81

第153図　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器（10）



第154図　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器（11）

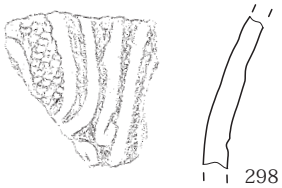


第155図　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器（12）

遺構外

297

1G-24d

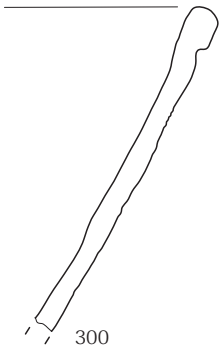


298

1G-24d

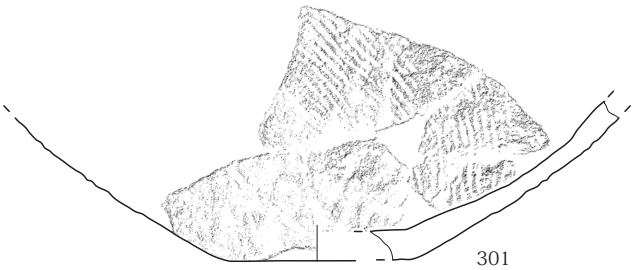
299

1G-25a



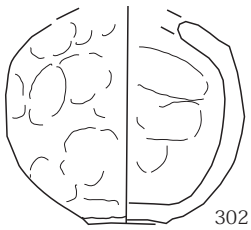
300

1H-24 周辺一括



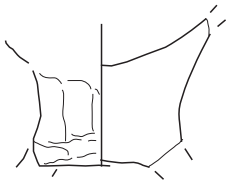
301

1H-24b＋1H-24 周辺



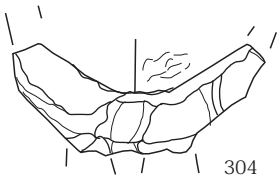
302

K-6c



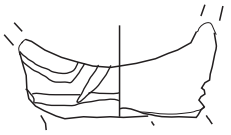
303

K-7c



304

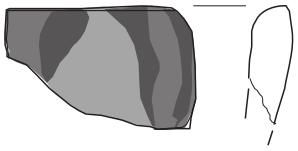
K-6d

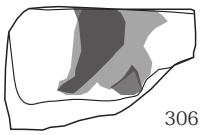


J-4c　305

0　1:2　5cm

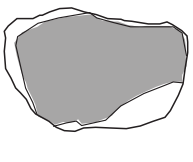
赤色塗彩のある土器

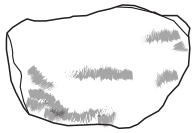




306

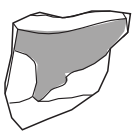
J－2住10区1層





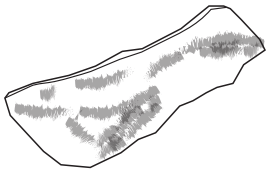
307

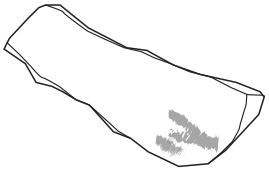
D－260№1



D－360

308





J-4c

309

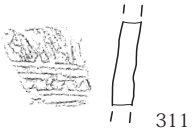
赤色塗彩
タール状付着物

0　1:4　10cm

第156図　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器（13）

Ｊ－１号住

8区１層



6区２層

Ｐ－４

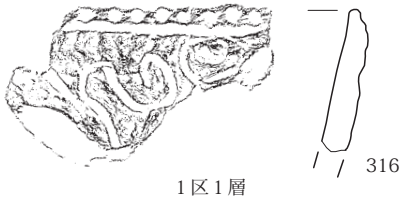
Ｊ－２号住

４区№１

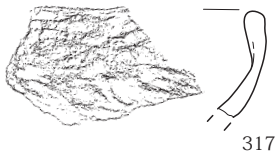
４区№２

Ｊ－3号住

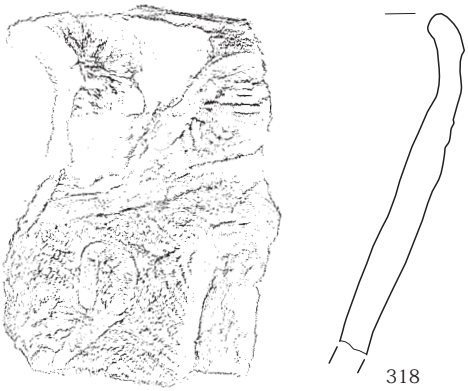
１区１層



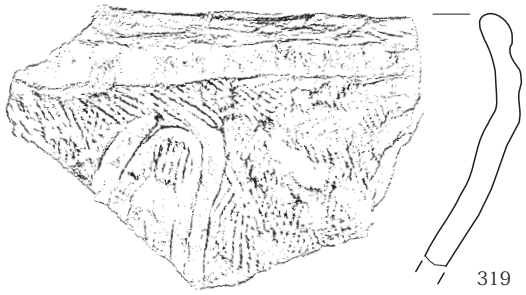
１区１層



１区１層



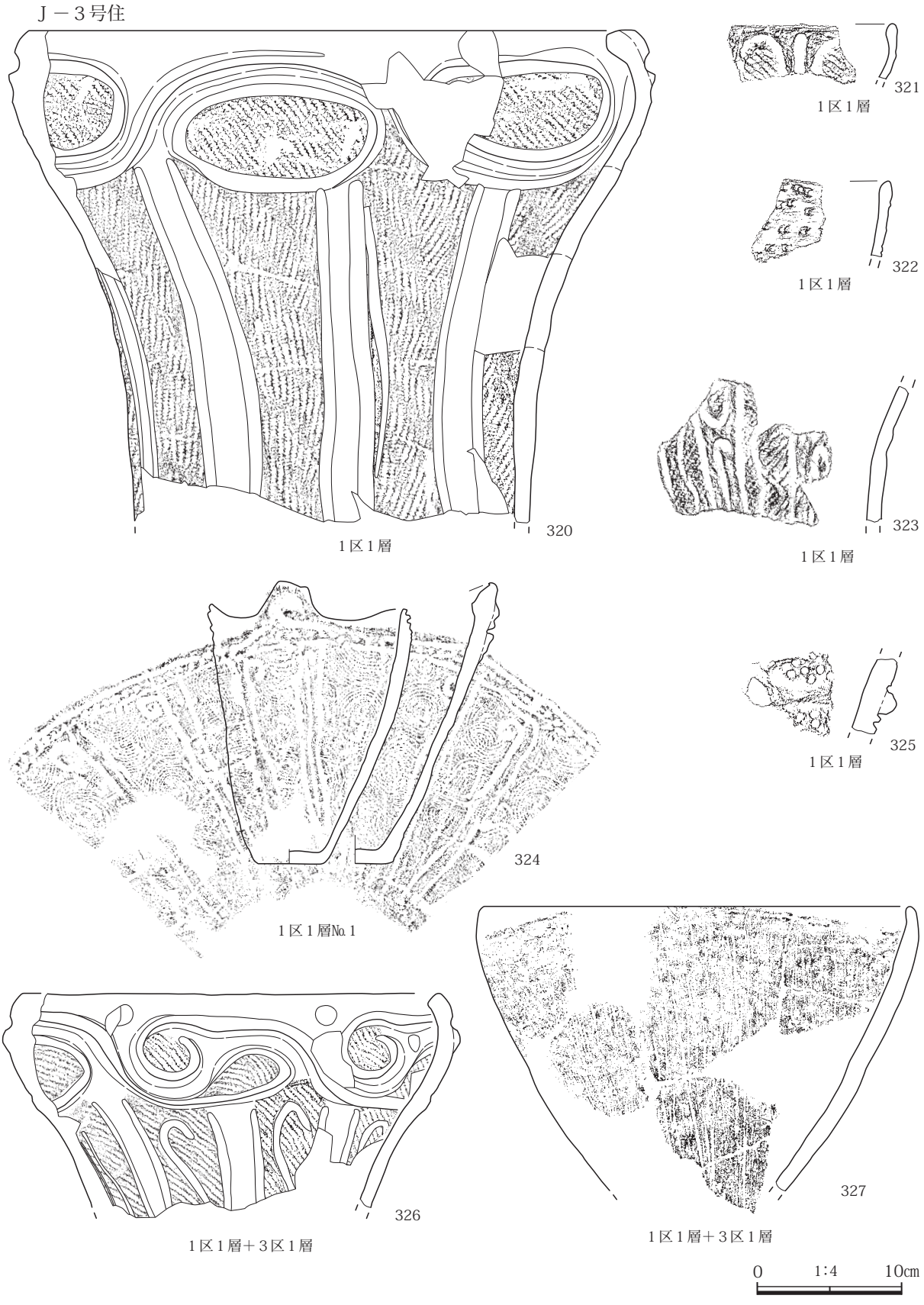
１区１層



１区１層

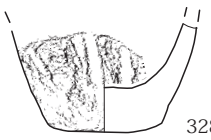
0　1:4　10cm

第157図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（１）



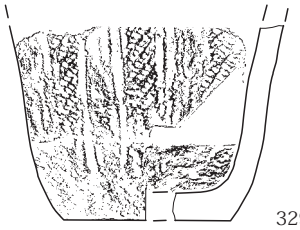
第158図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（２）

Ｊ－３号住



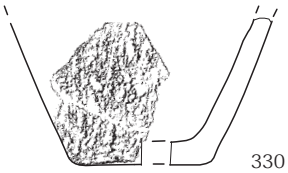
328

１区１層



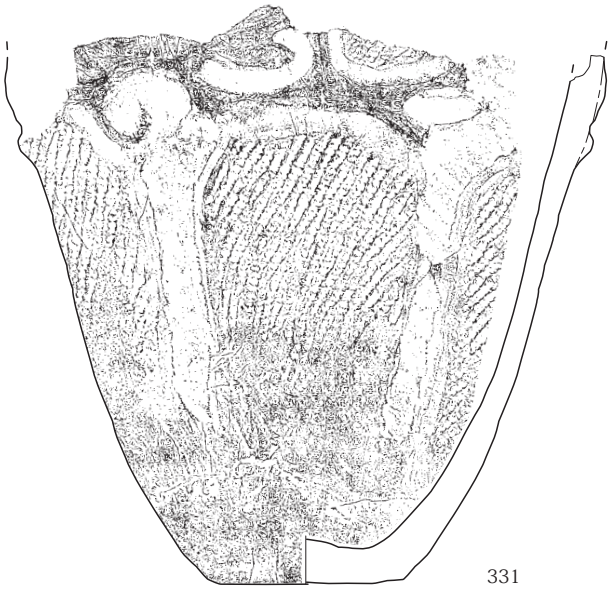
329

１区１層



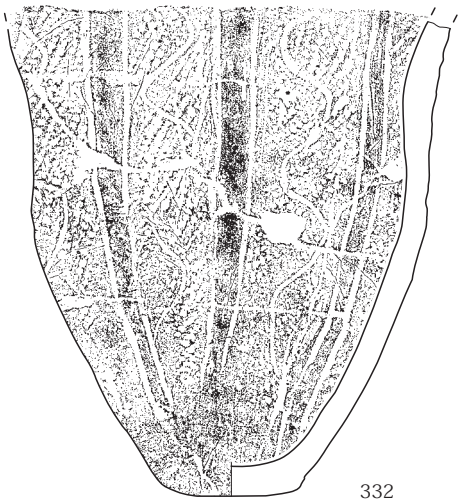
330

１区１層



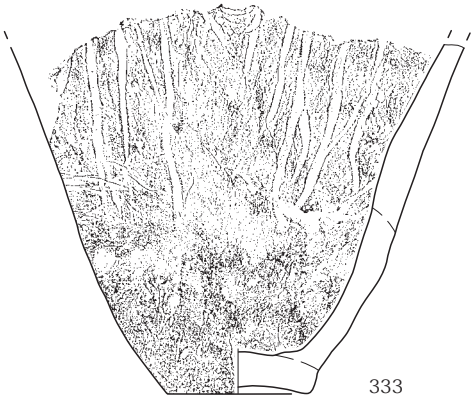
331

１区１層№２



332

１区１層＋４区１層



333

２区№１

334

３区１層

0　1:4　10cm

第159図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（３）

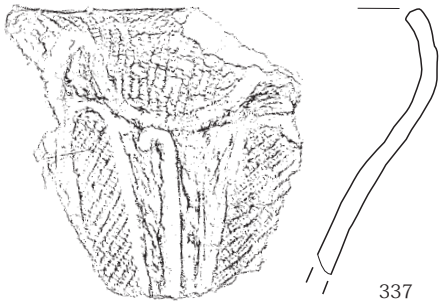
Ｊ－３号住

335

３区１層＋４区１層

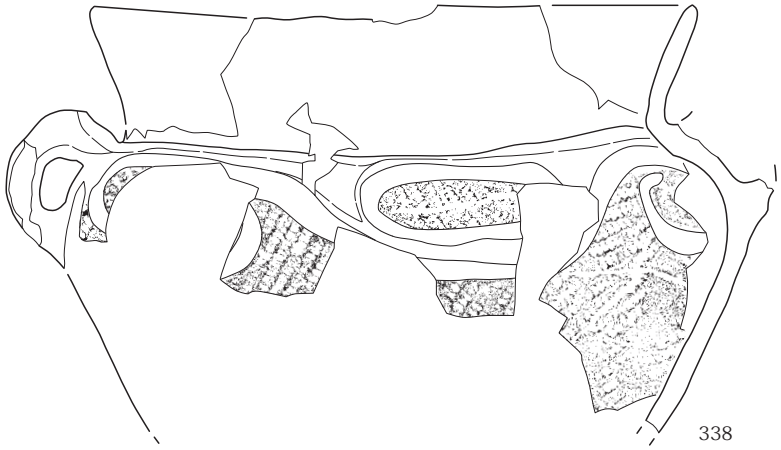
336

３区１層＋３区１層№３



337

３区１層



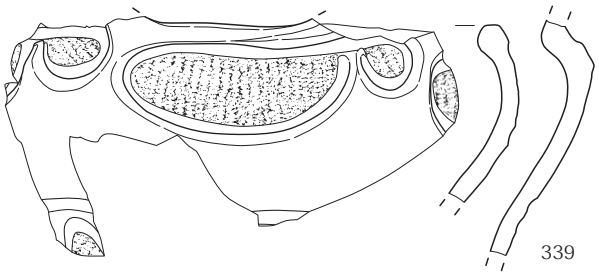
338

４区１層

0　1:4　10cm

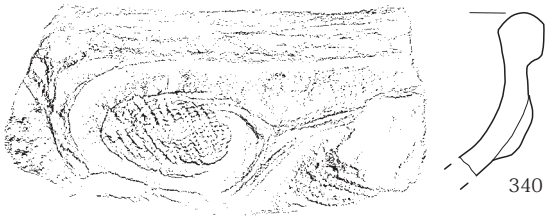
第160図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（４）

Ｊ－３号住



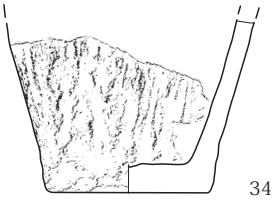
339

３区１層



340

３区１層

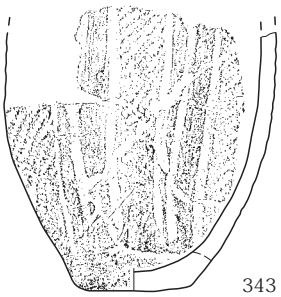


341

３区１層№３

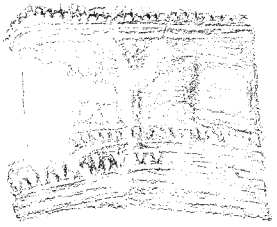
342

３区１層



343

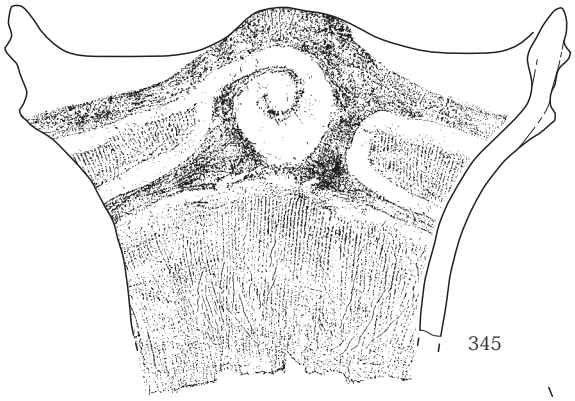
炉№６



344

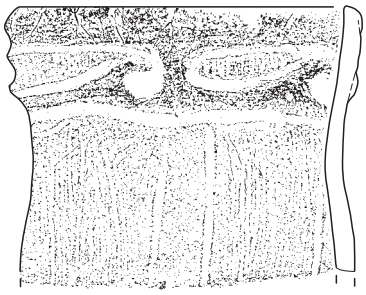
Ｐ－１

Ｊ－４号住



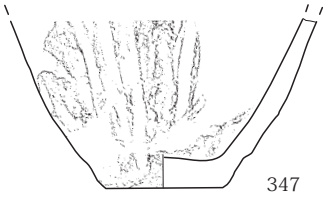
345

Ｕ－１



346

炉№１

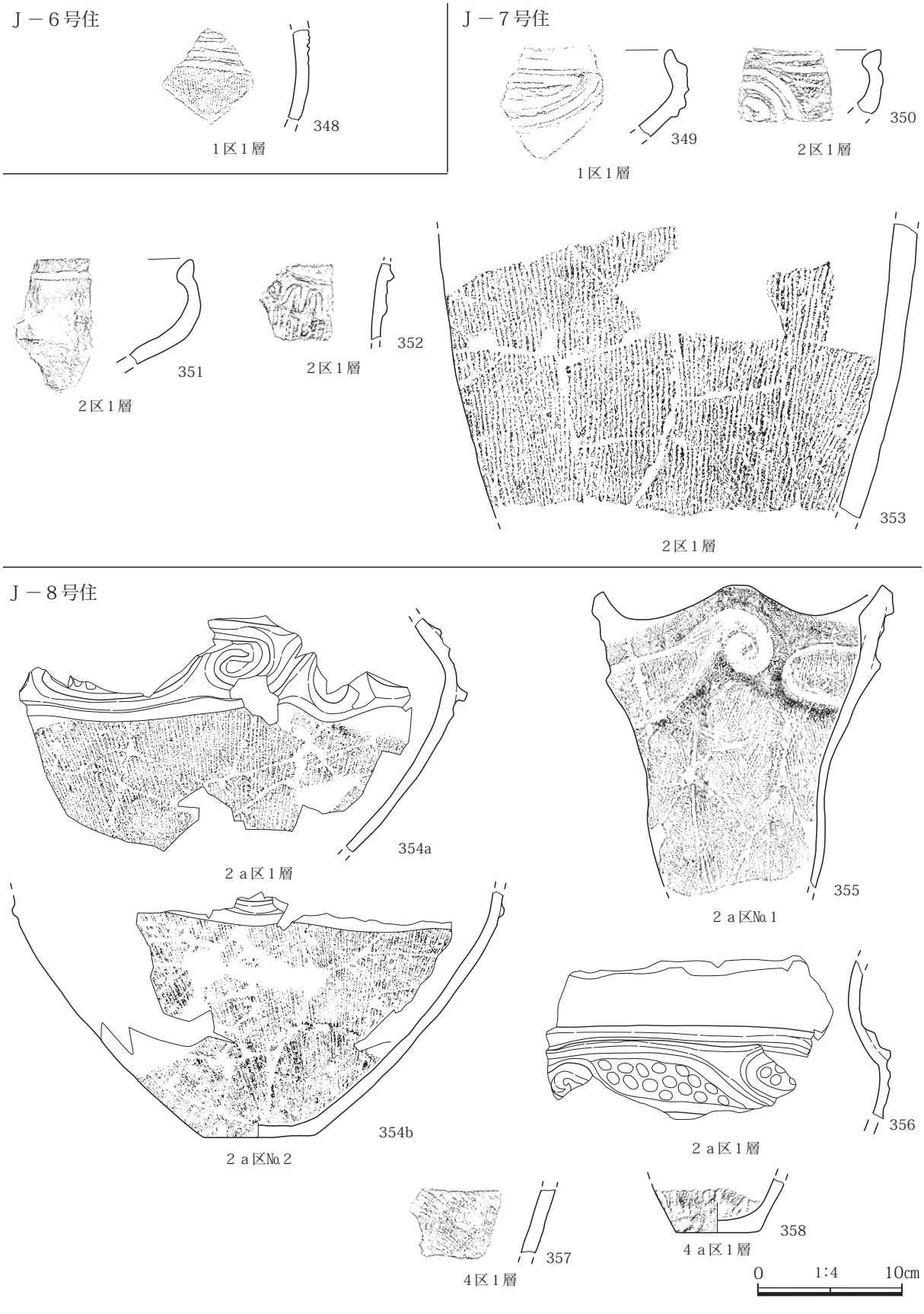


347

炉内

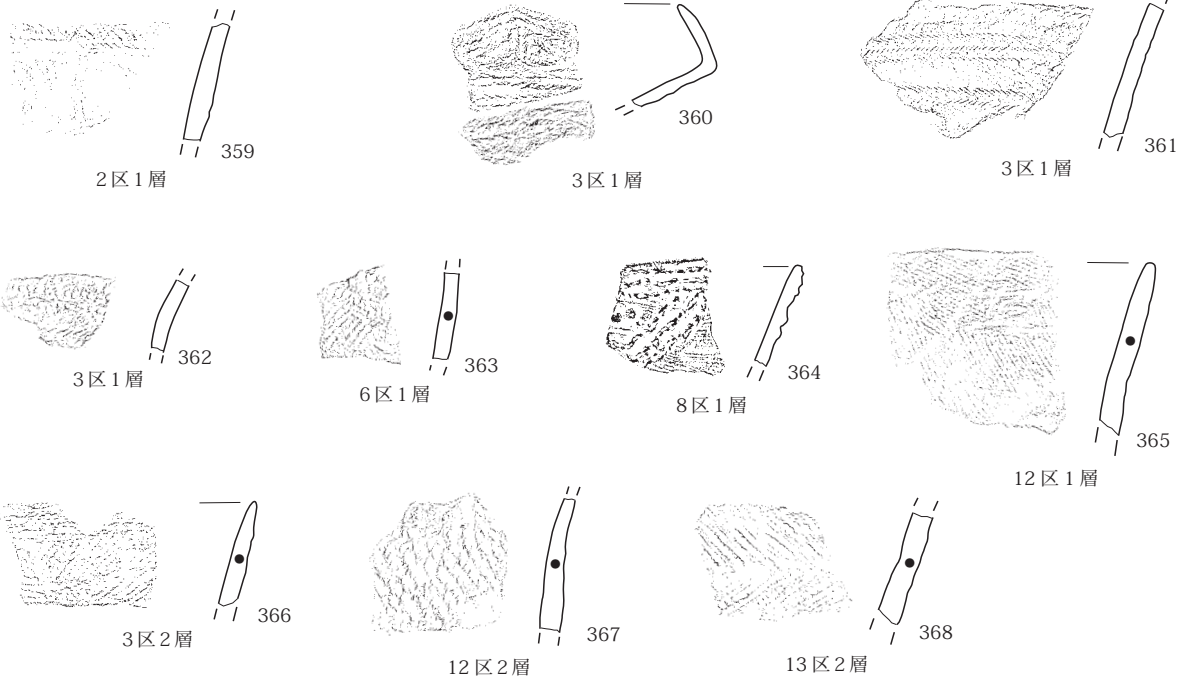
0　1:4　10cm

第161図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（５）

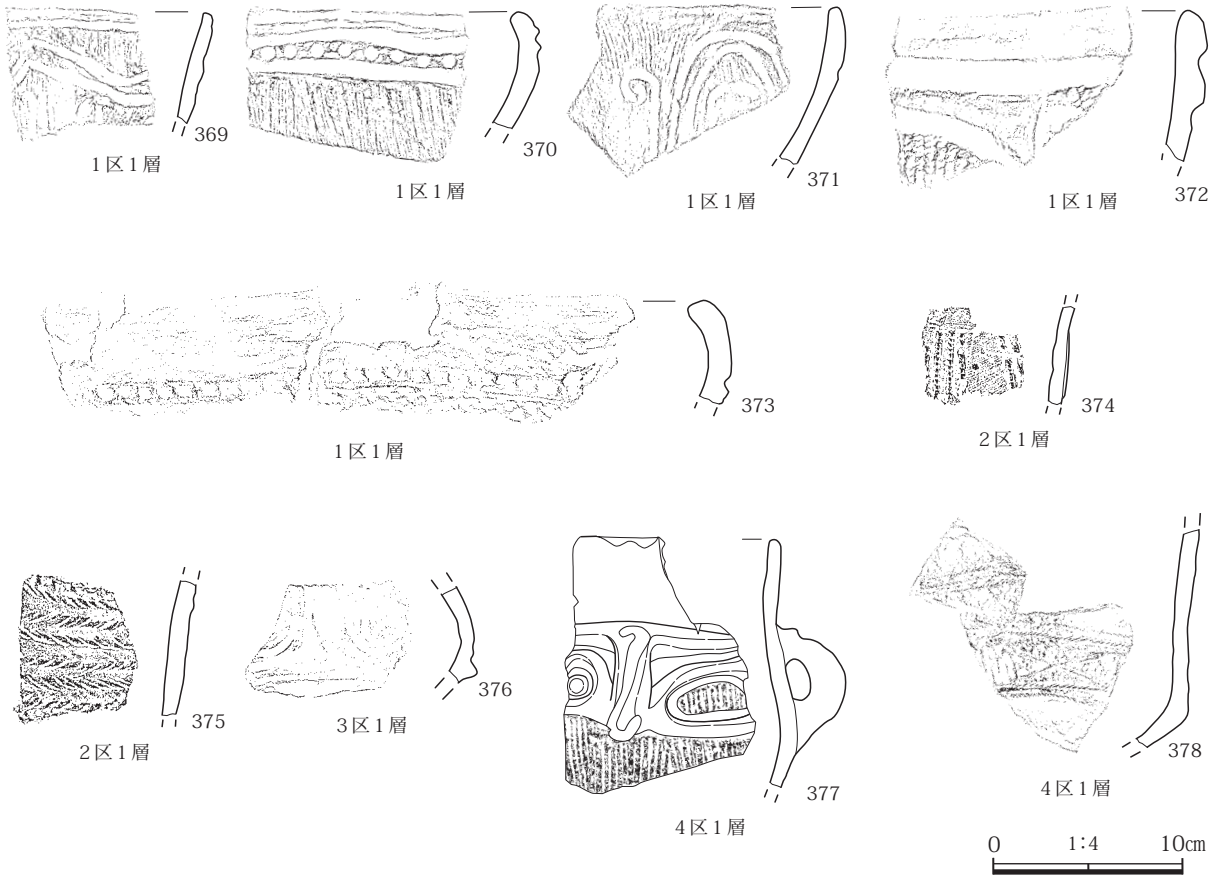


第162図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（6）

Ｊ－９号住

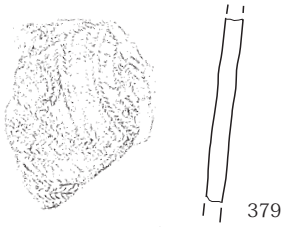


Ｊ－10号住



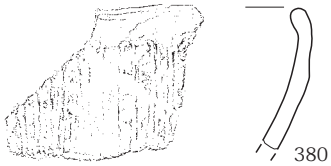
第163図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（７）

Ｊ－11号住

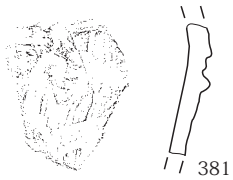


4区

Ｊ－12号住

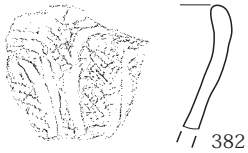


2区1層

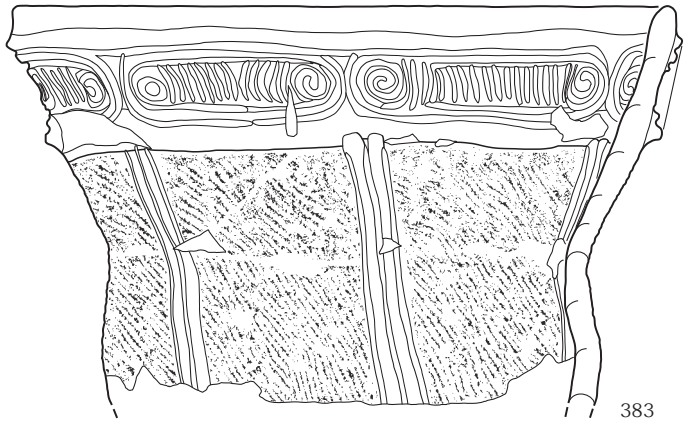


2区1層

Ｊ－13号住



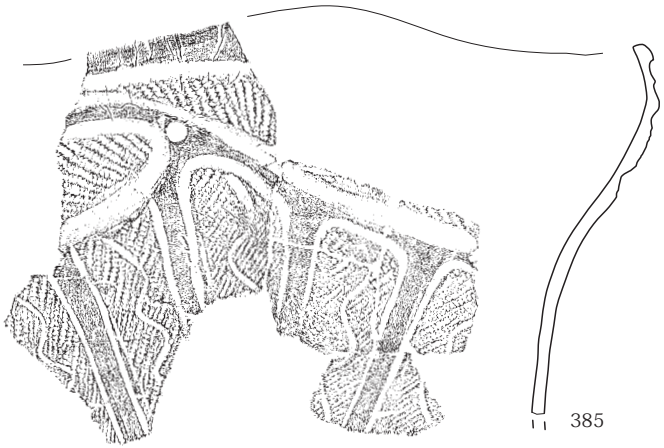
2区1層



U－1

Ｊ－14号住

1区1層



1区1層

0　1:4　10cm

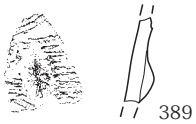
第164図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（8）

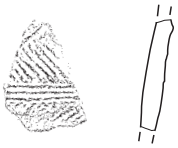
J－15号住

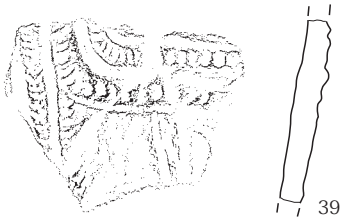
386
1区1層

387
1区1層

388
2区1層

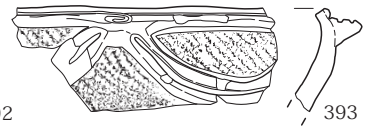

389
2区1層

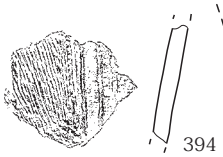

390
2区1層


391
炉№1

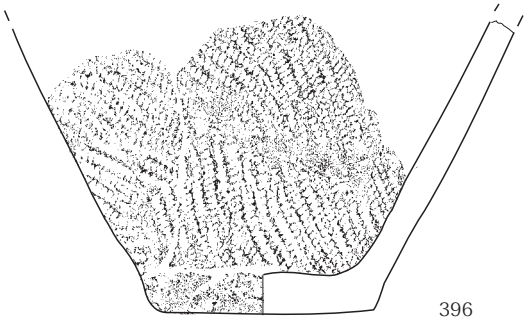
J－16号住

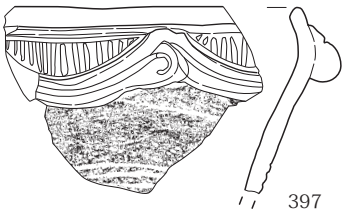
392
3区1層

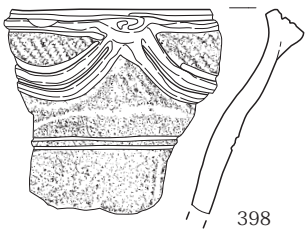

393
7区1層

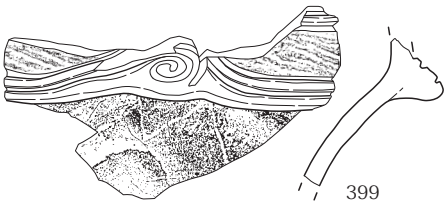

394
6区2層

395
7区2層


396
1区＋6区2層＋11区2層


397
8区2層


398
11区2層


399
11区2層

400
14区2層

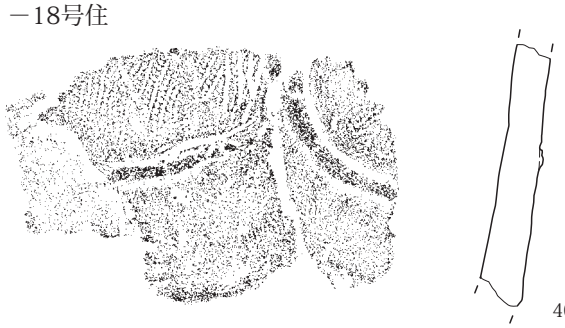
0 1:4 10cm

第165図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（9）

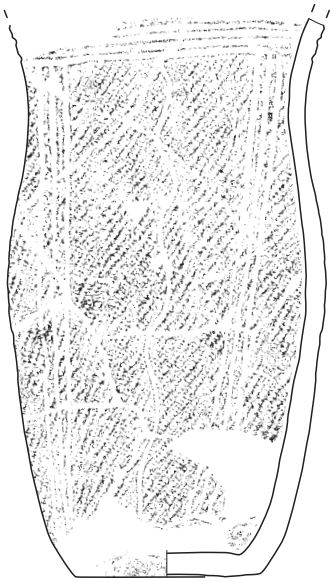
J－17号住

401
2区1層

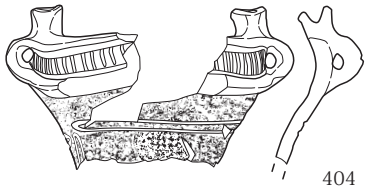
J－18号住



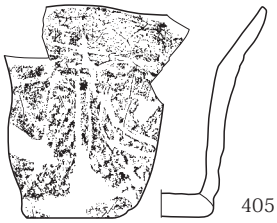
402
2区1層



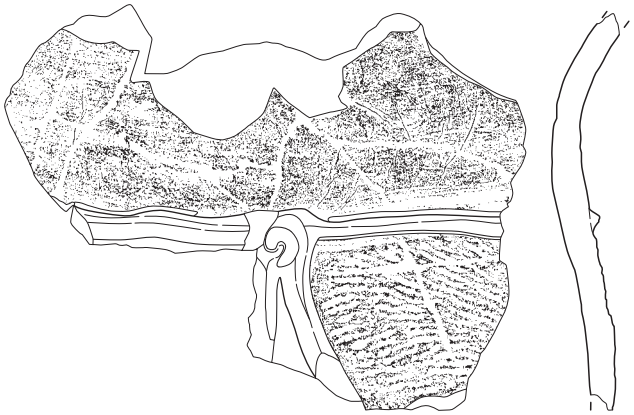
403
3区№1



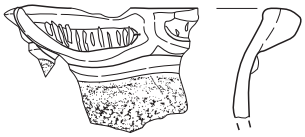
404
6区1層



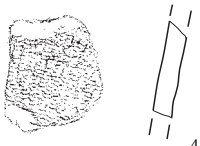
405
6区№1



406
6区№3

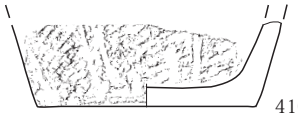


407
6区S－4

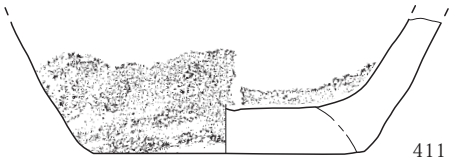


408
6区S－4

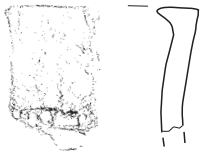
409
6区1層



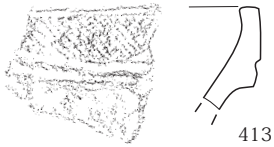
410
6区1層



411
6区№2



412
7区1層

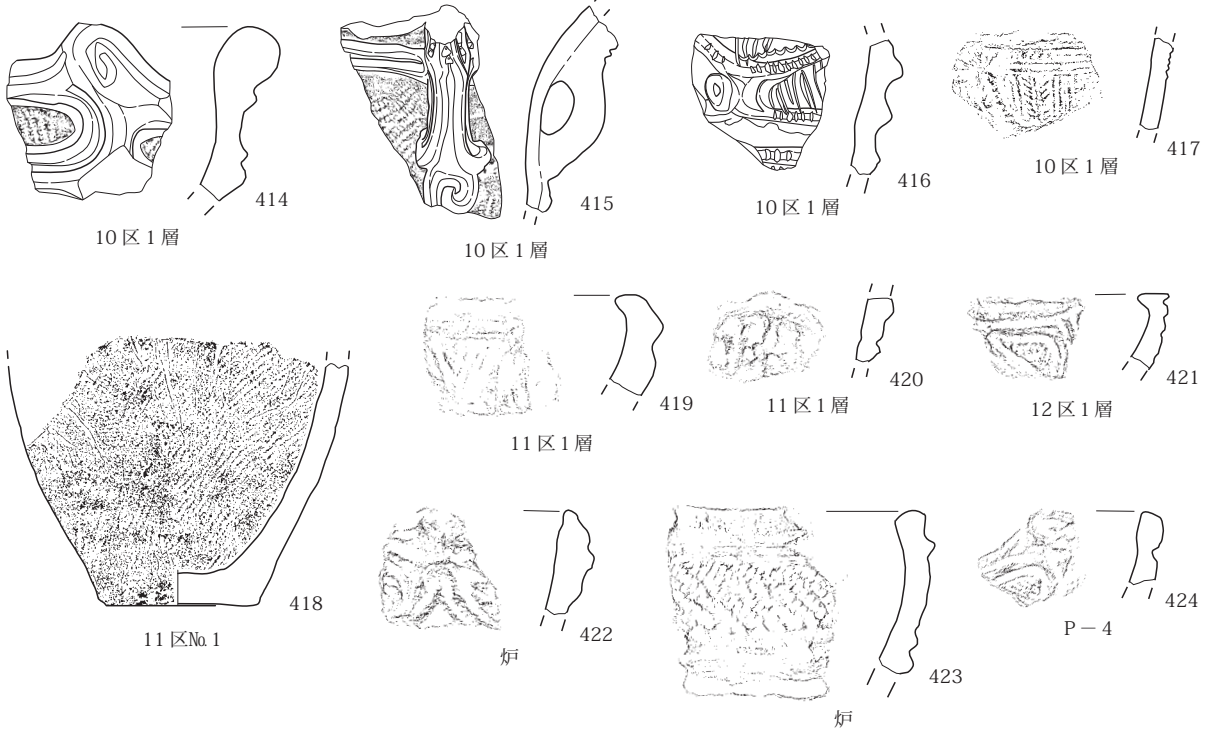


413
9区1層

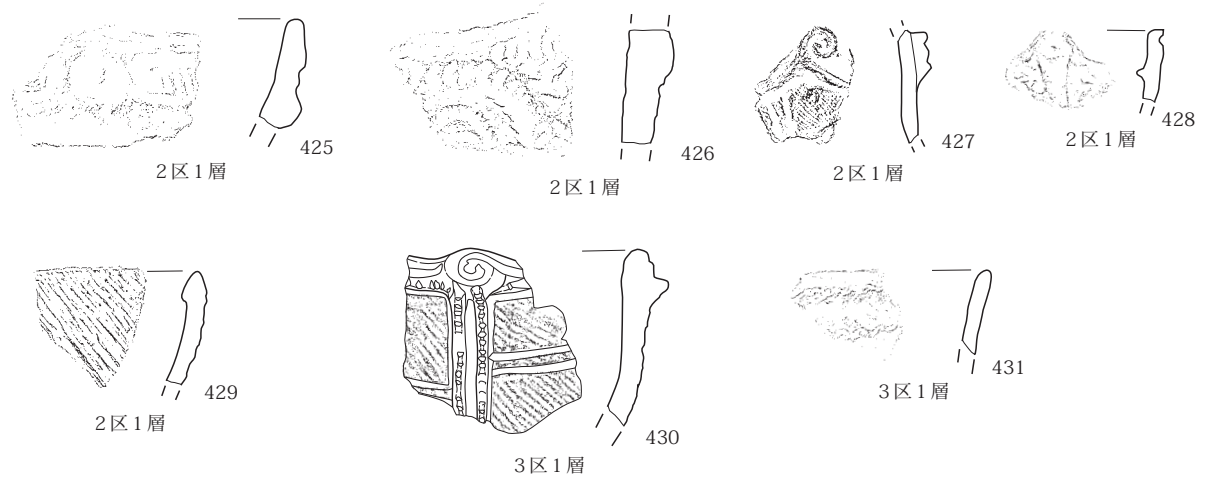
0 1:4 10cm

第166図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（10）

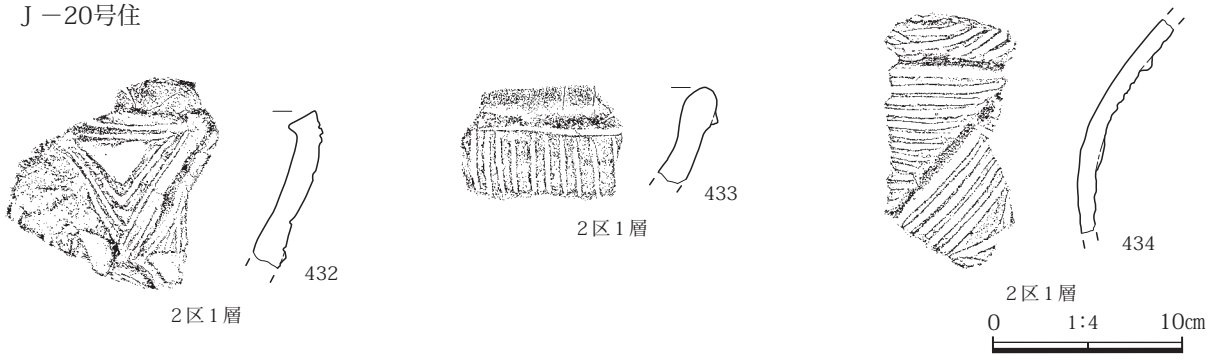
Ｊ－18号住



Ｊ－19号住

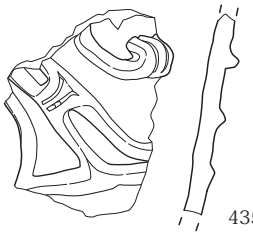


Ｊ－20号住

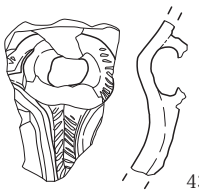


第167図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（11）

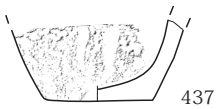
J－20号住



2区1層



2区1層



4区1層

J－21号住

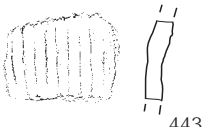
2区1層

2区1層

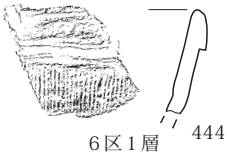
2区1層

5区1層

5区1層

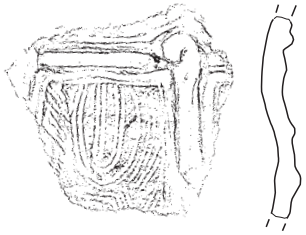


5区1層

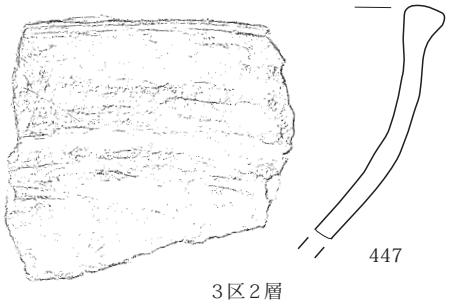


6区1層

7区1層



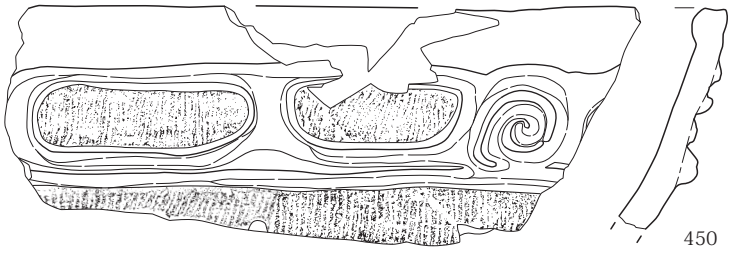
7区1層



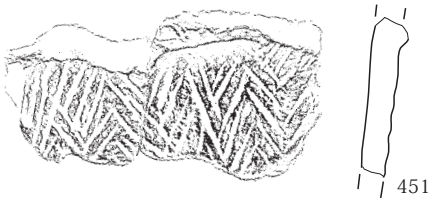
3区2層

3区2層

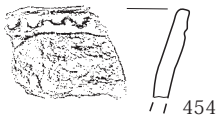
3区2層



3区2層＋7区2層＋11区2層



5区2層



7区2層

7区2層

7区2層

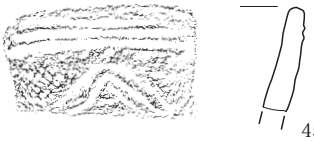
7区2層

0 1:4 10cm

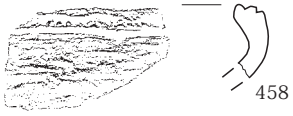
第168図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（12）

Ｊ－21号住

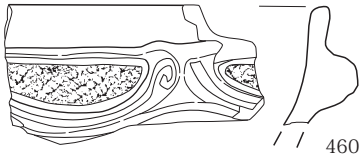
10区２層



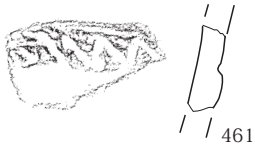
12区２層



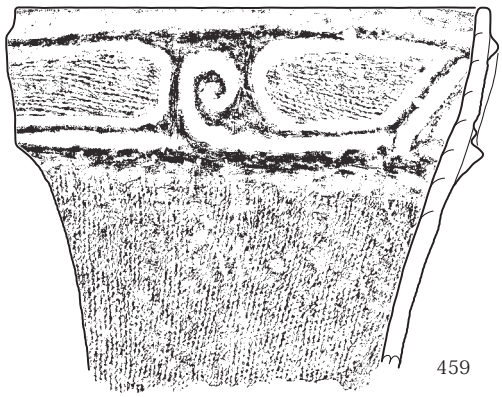
炉内



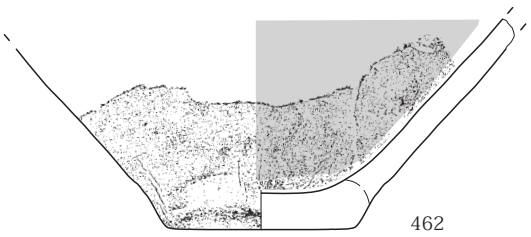
南サブトレ



南サブトレ

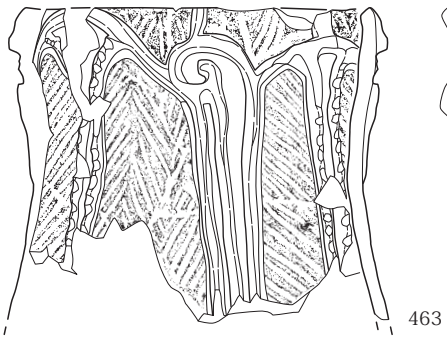


炉Ｕ－１

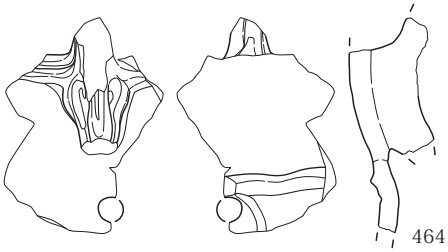


一括

Ｊ－22号住

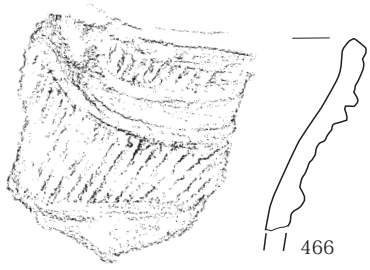


１区１層

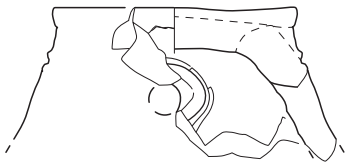


１区１層

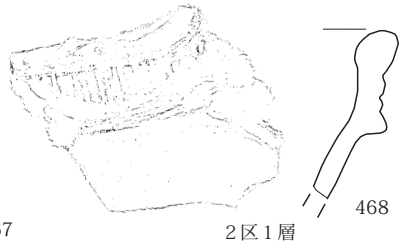
１区１層



１区１層



１区１層

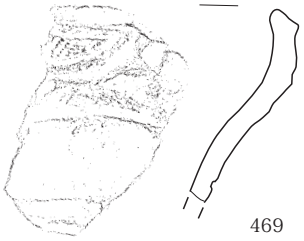


２区１層

0　1:4　10cm

第169図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（13）

J－22号住


469

3区1層

470

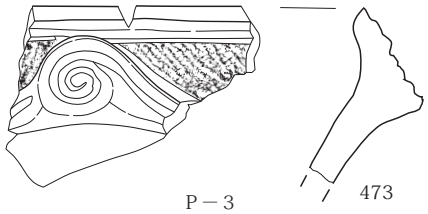
3区1層

471

4区1層

472

P－1

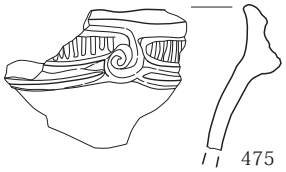

473

P－3

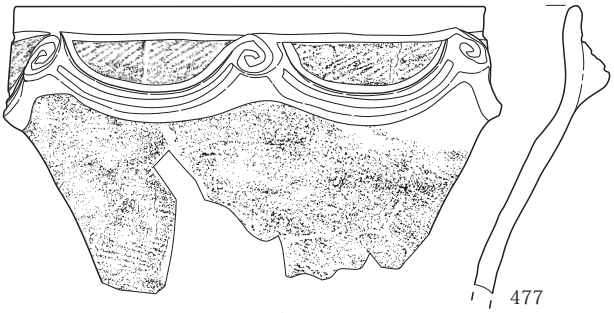
J－23号住

474

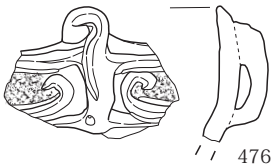
1区1層


475

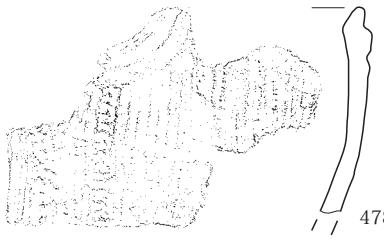
1区1層


477

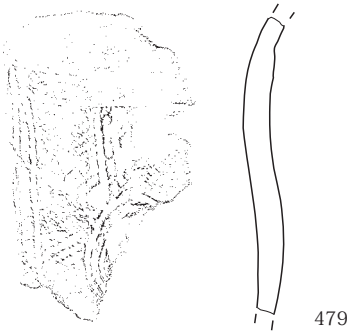
3区U－1


476

1区1層

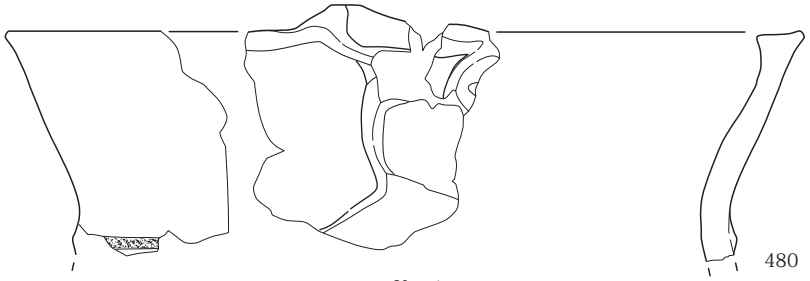

478

4区1層


479

4区1層

J－24号住

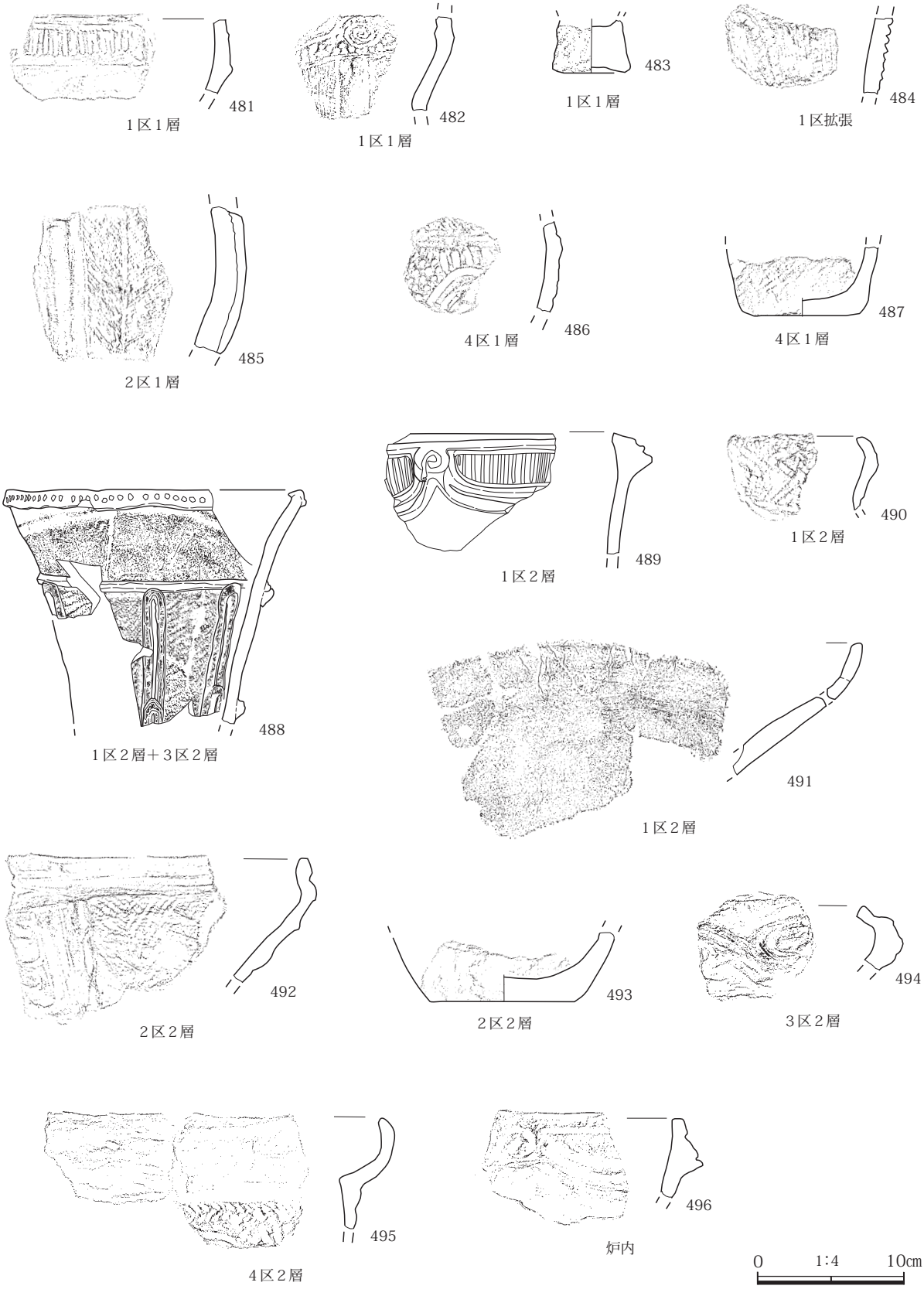

480

U－1

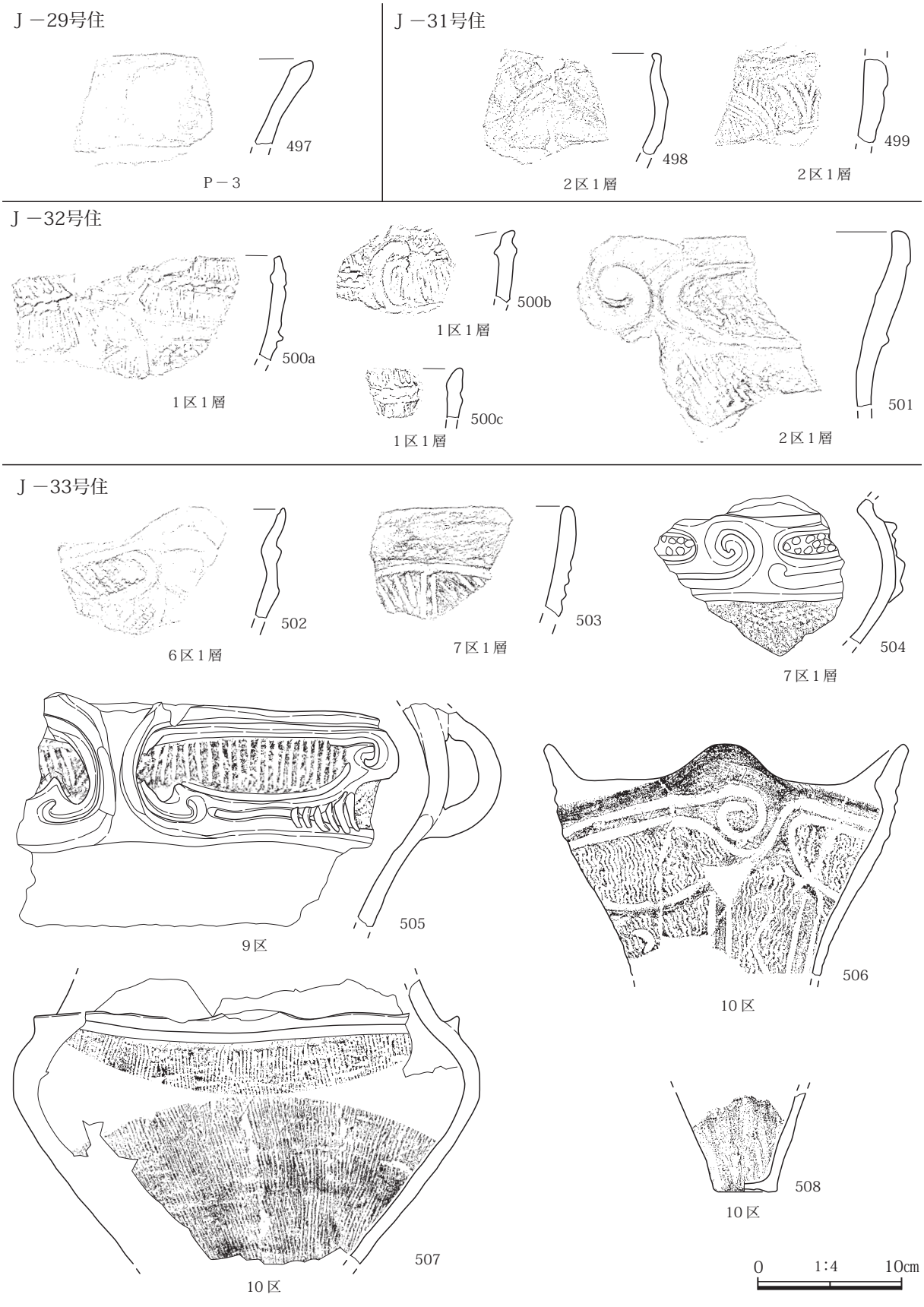
0　1:4　10cm

第170図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（14）

Ｊ－26号住



第171図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（15）



第172図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（16）

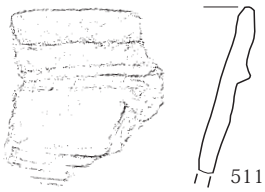
Ｊ－33号住

509

10区

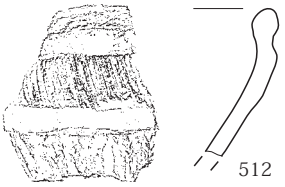
510

炉2



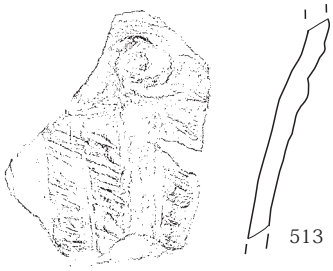
511

炉内



512

南



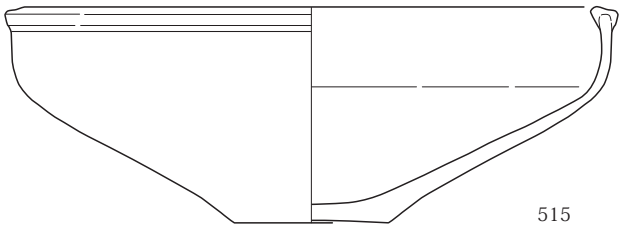
513

南

Ｊ－35号住

514

4区No.1



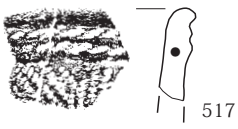
515

4区No.2

Ｊ－36号住

516

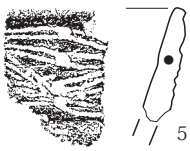
1区1層



517

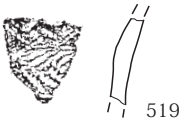
1区1層

Ｊ－37号住



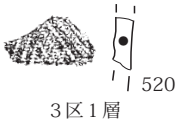
518

3区1層



519

3区1層

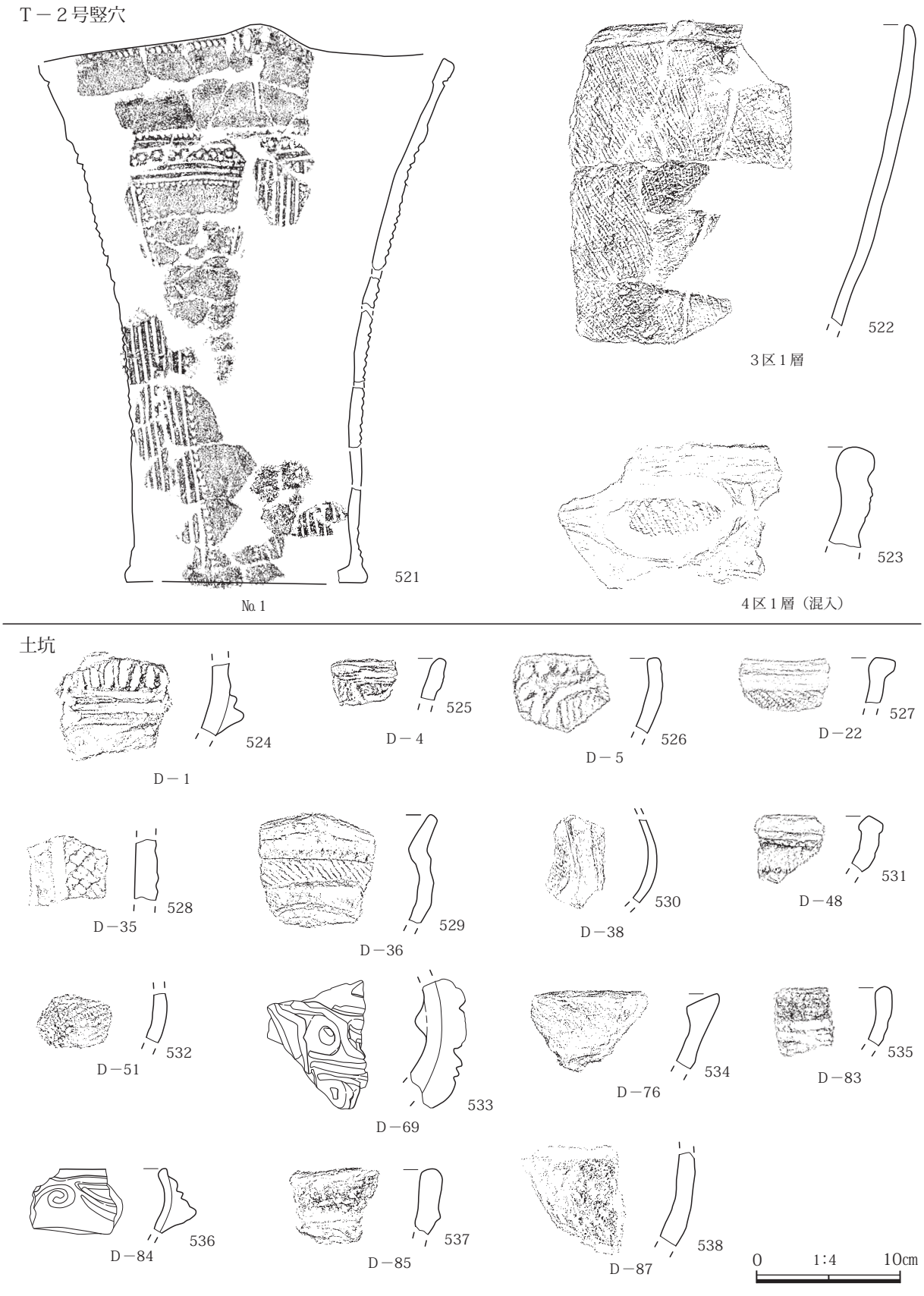


520

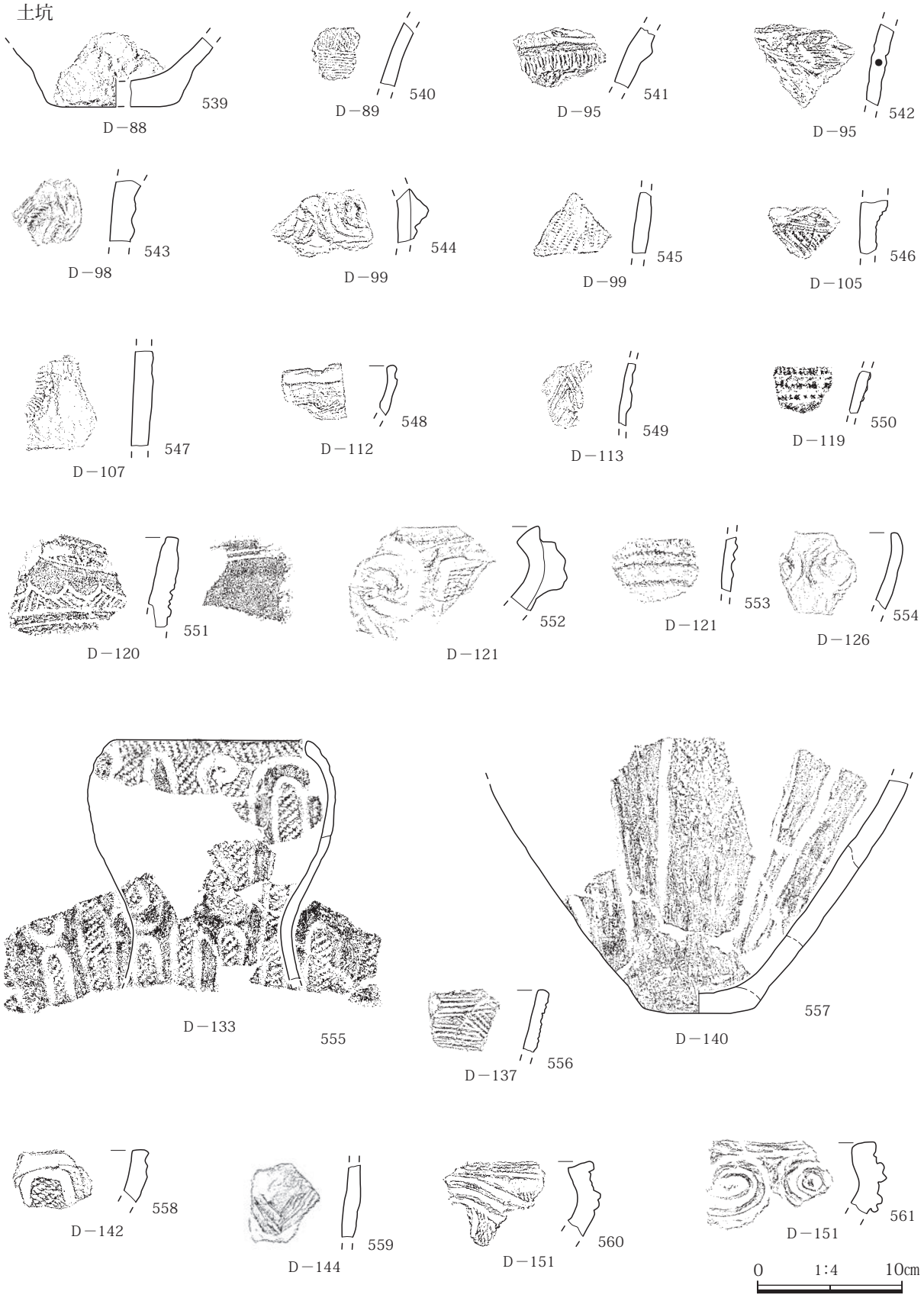
3区1層

0 1:4 10cm

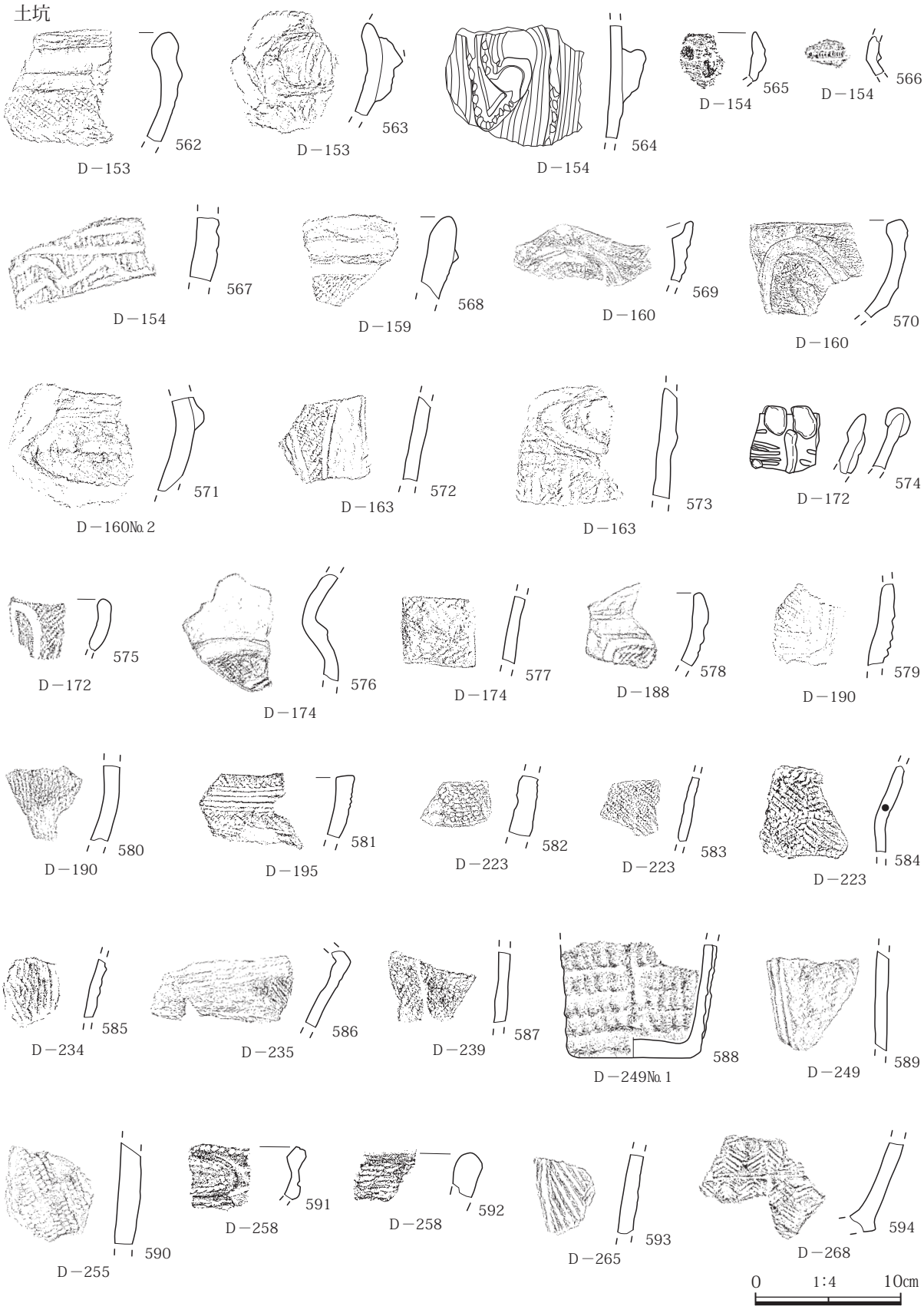
第173図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（17）



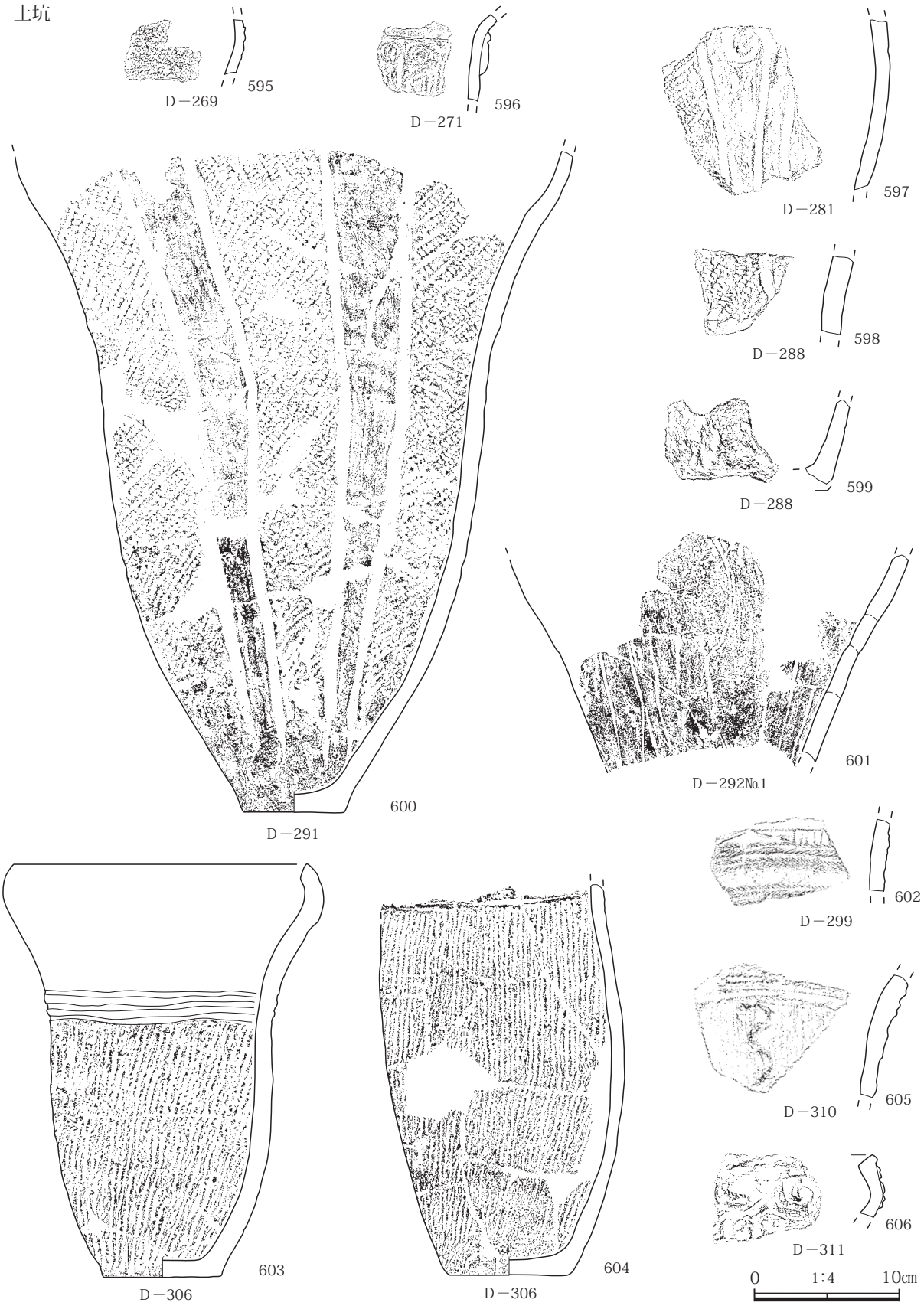
第174図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（18）



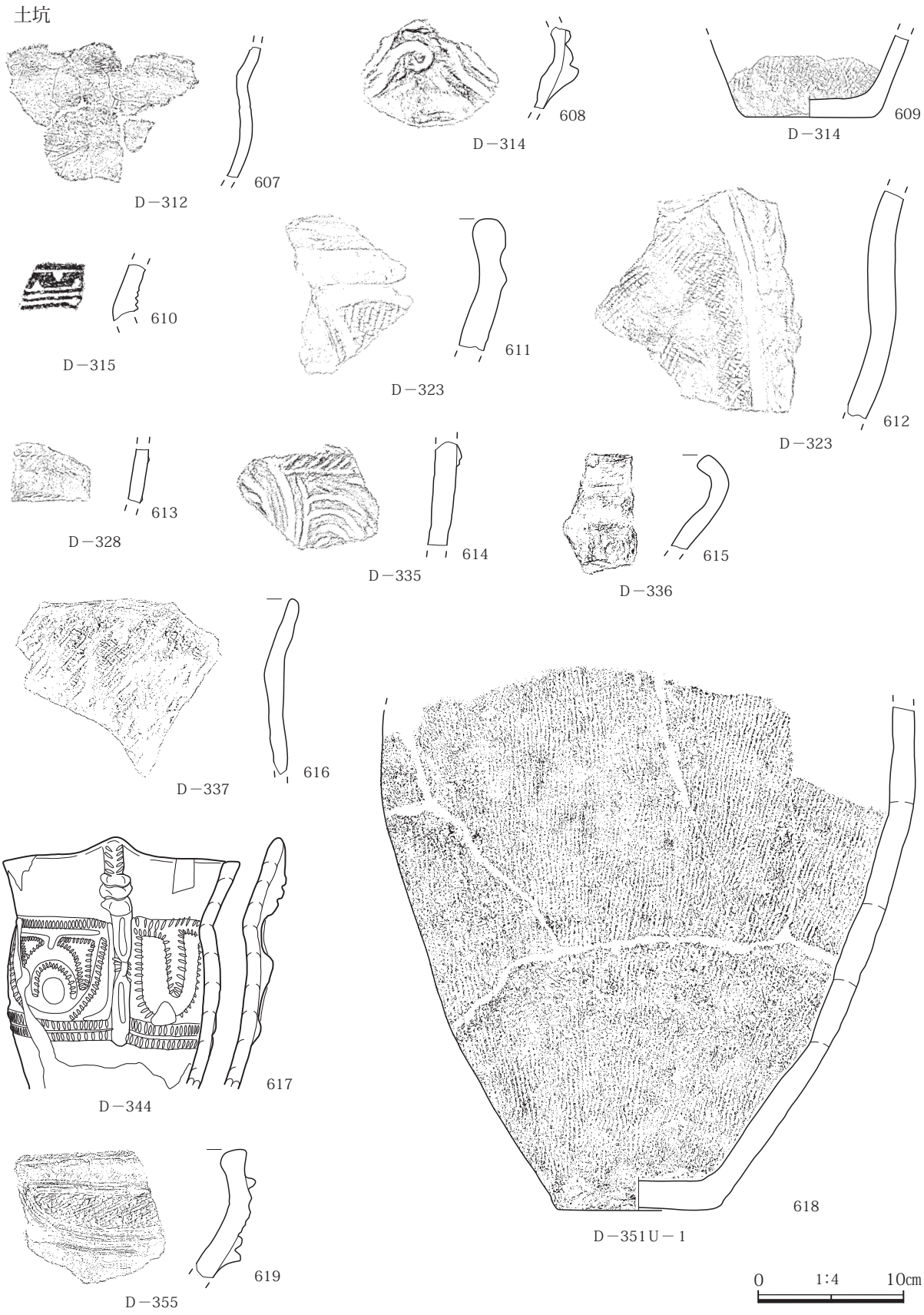
第175図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（19）



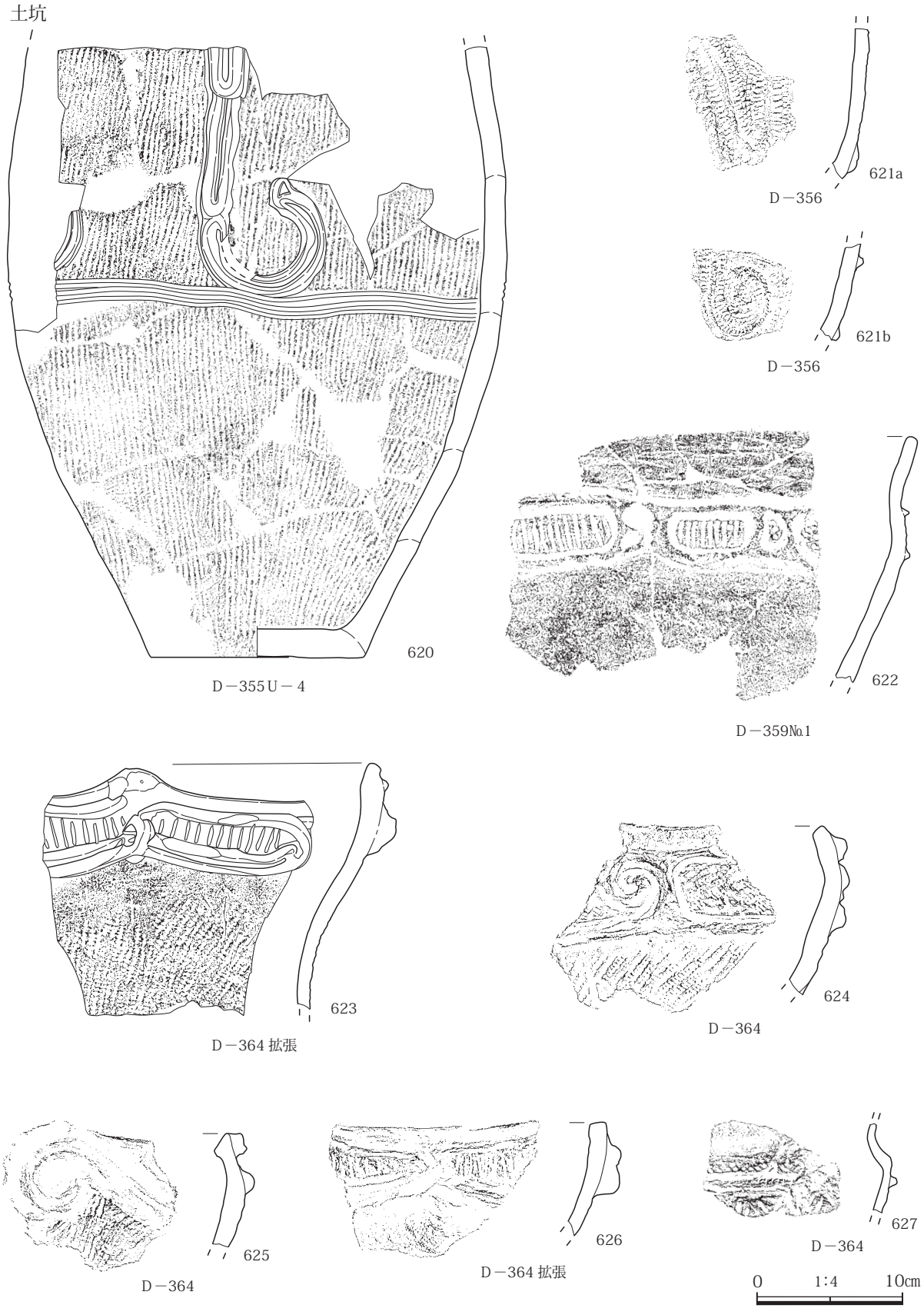
第176図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（20）



第177図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（21）

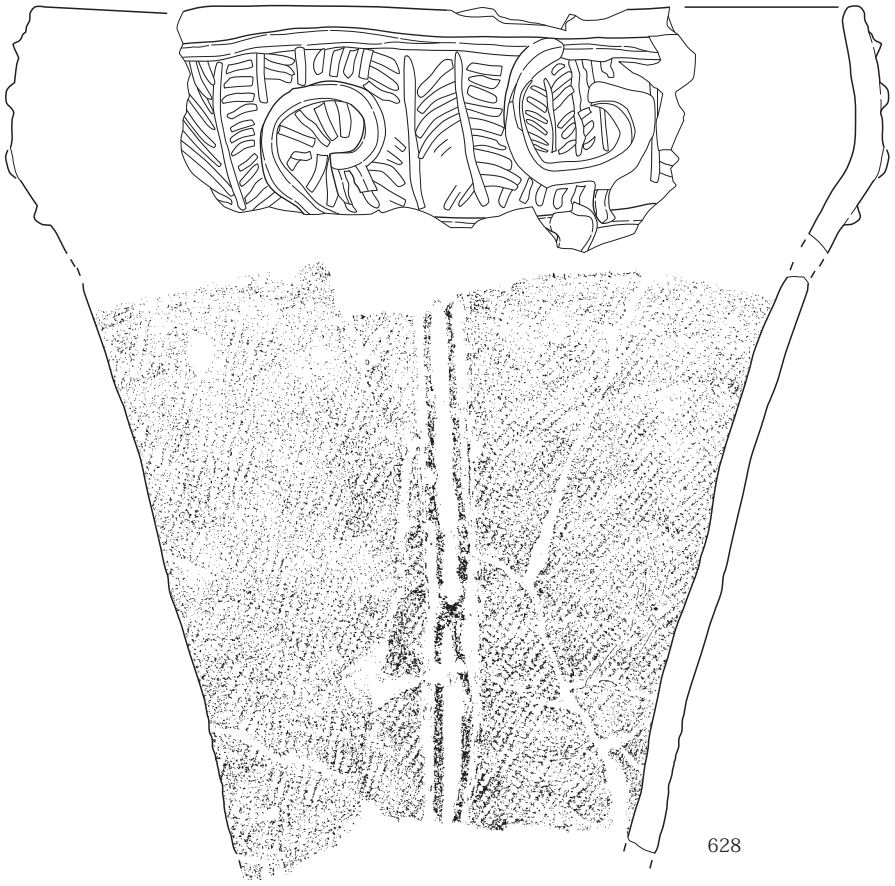


第178図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（22）



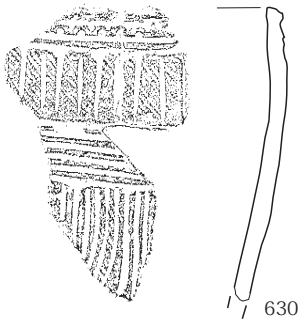
第179図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（23）

土坑



D－364 拡張

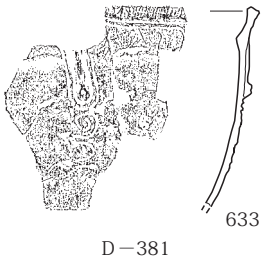
D－370№1



D－372

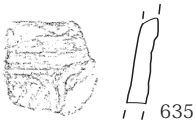
D－372

D－379№1



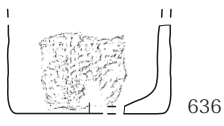
D－381

D－382

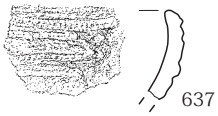


D－383

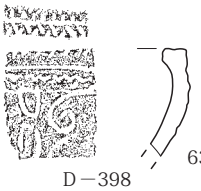
D－400



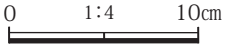
D－385



D－396



D－398



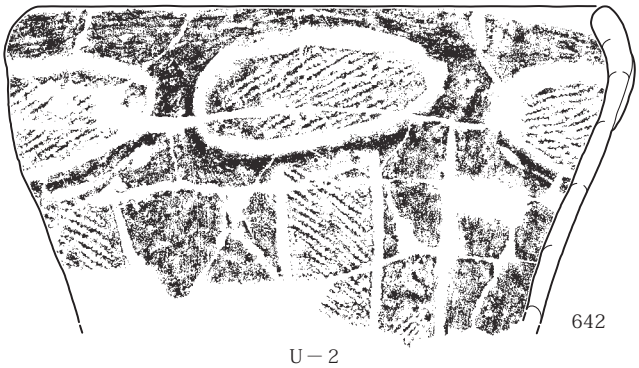
第180図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（24）

集石

640

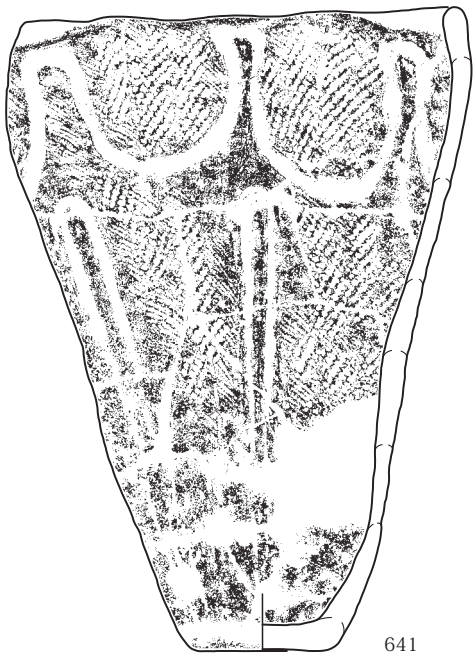
S－6

埋設土器



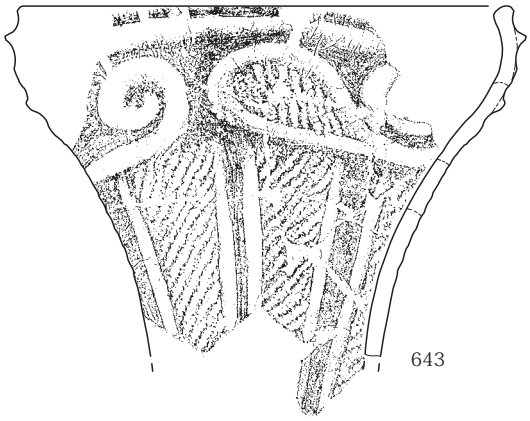
642

U－2



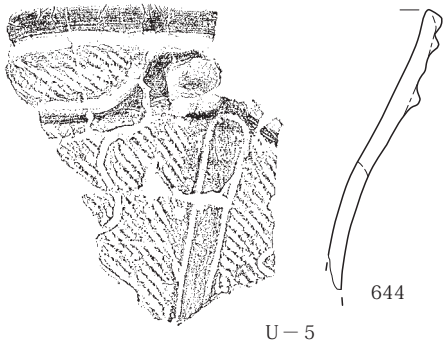
641

U－1



643

U－5



644

U－5

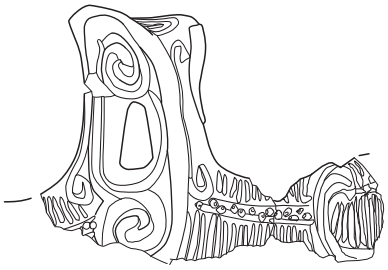
ピット

645

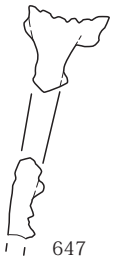
P－56

646

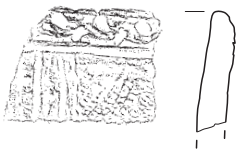
P－56



P－61

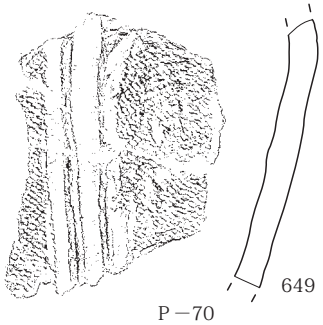


647



648

P－69



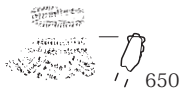
649

P－70

0　1:4　10cm

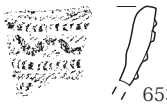
第181図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（25）

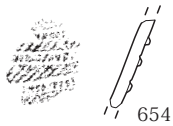
遺構外


650
2M-42

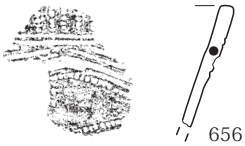
651
2M-47

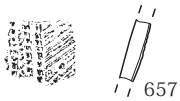
652
2Q-40


653
2X-42


654
3A-38

655
3A-43


656
3B-36


657
3D-45

658
3D-45

659
3G-44

660
3H-40

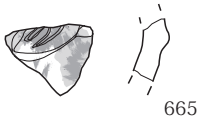
661
3H-40

662
3H-43

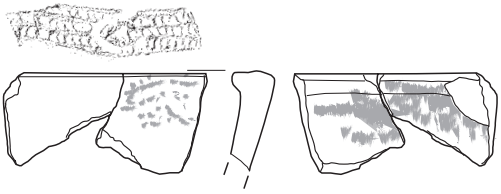
663
C－11区

赤色塗彩のある土器

664
J－7住1区1層

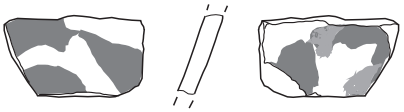

665
J－7住2区1層

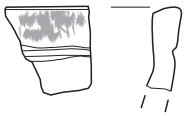
666
J－16住6区1層

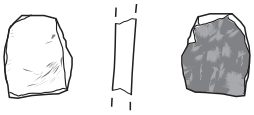

667
J－16住11区1層

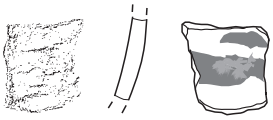
669
J－18住6区1層

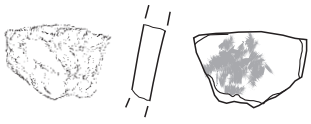
670
J－18住6区1層

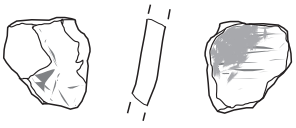

671
J－18住6区1層


668
J－18住6区S－4


672
J－18住10区1層


673
J－21住11区2層


676
J－21住11区2層

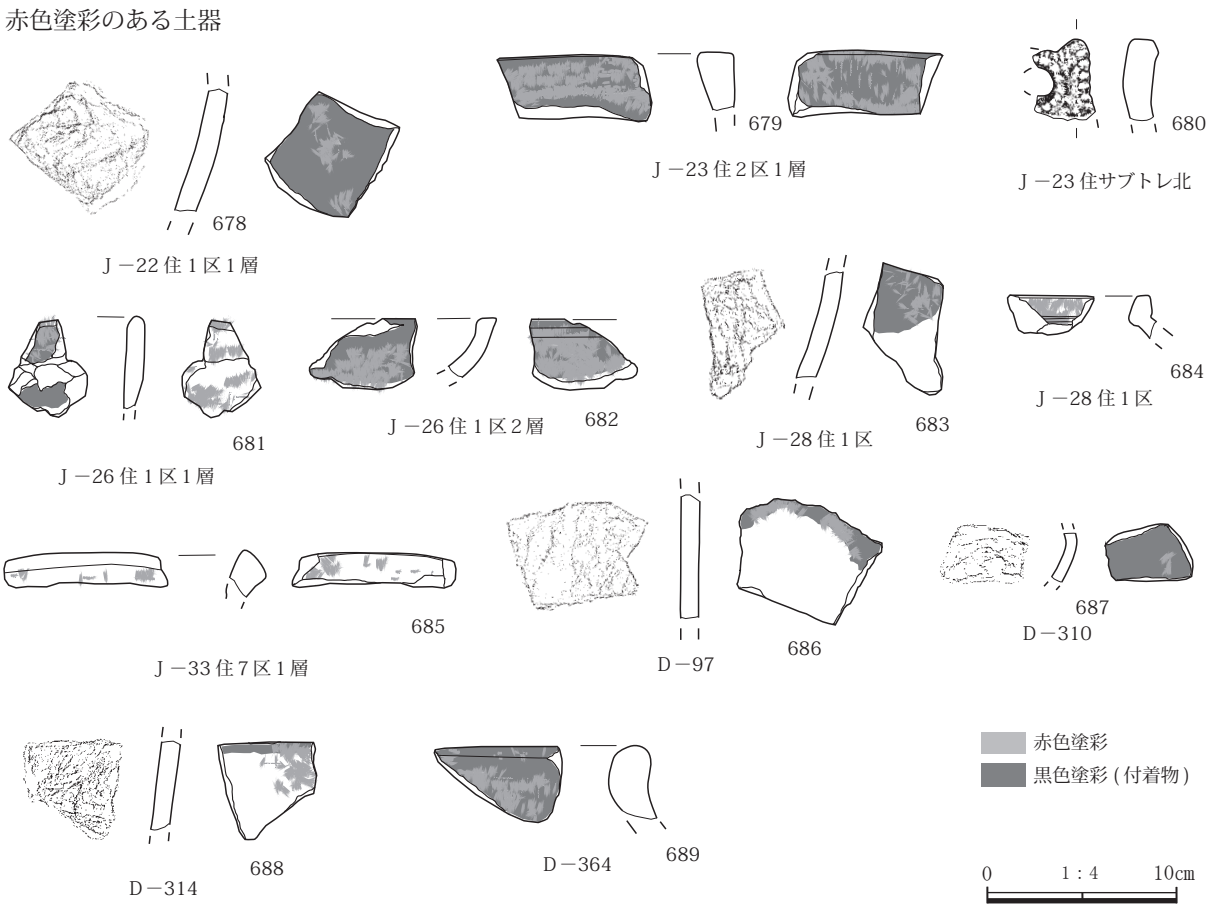

675
J－21住炉内

674
J－21住南サブトレ

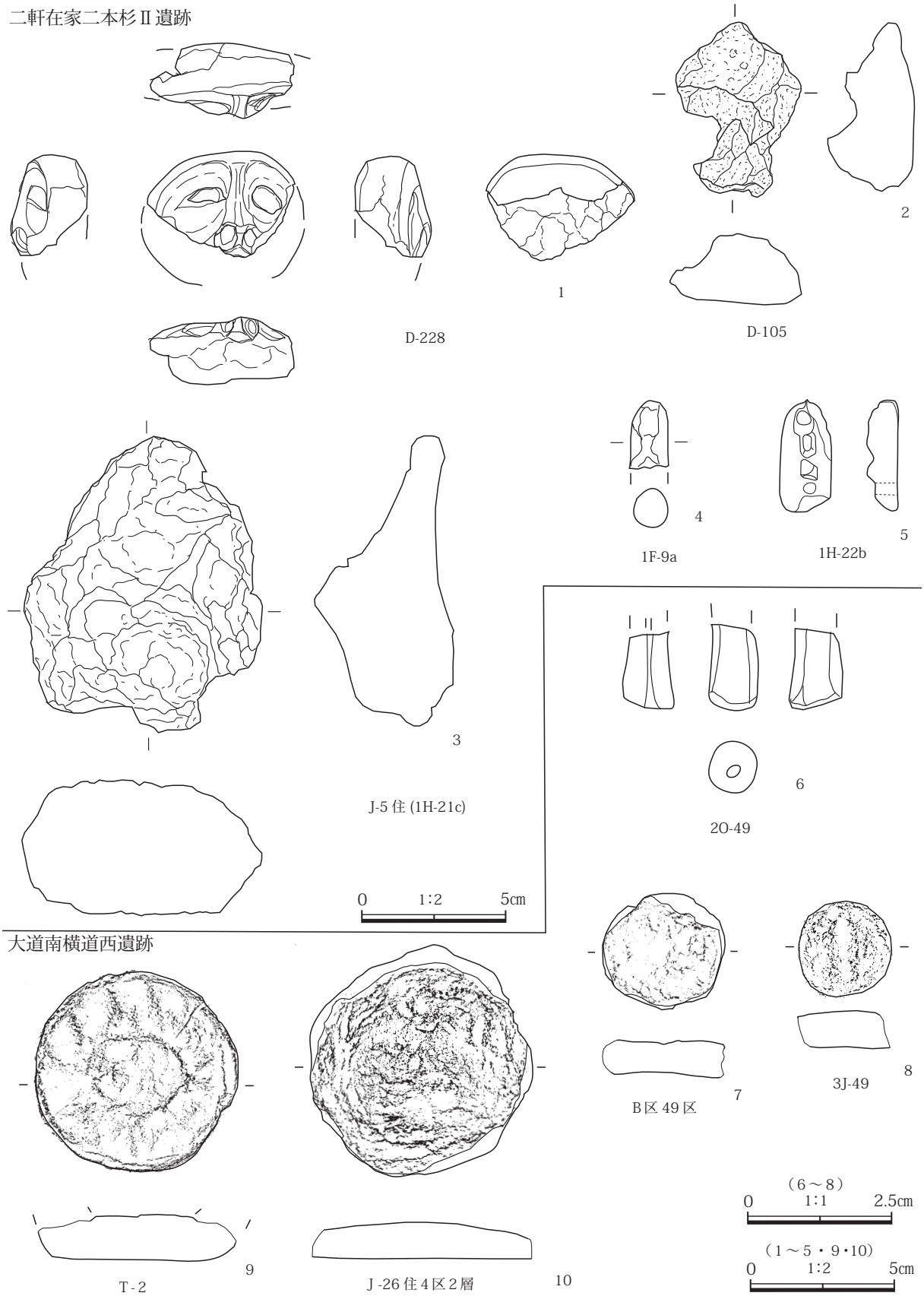
677
J－21住東サブトレ

赤色塗彩
黒色塗彩（付着物）
0　1:4　10cm

第182図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（26）



第183図　行田大道南横道西遺跡　縄文土器（27）



第184図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡・行田大道南横道西遺跡　縄文土製品

３　縄文時代の石器

（１）行田大道南横道東遺跡の石器群（第185・186図１～24、第２表）

前期前半（関山～有尾・黒浜式期）に帰属する石器群と考えられる。ただし、包含層の状況から、少数の中期後半が混入していると思われる。石器は190点出土した（うち2点は遺跡地周辺表採）。

主な器種は、石鏃４点（１、２）、石鏃未成品２点、スクレイパーＡ類１点（３）、石核Ａ類３点（４、５）、石匙Ａ類１点（６）、楔形石器１点、剥片Ａ類130点、石匙Ｂ類３点（７～９）、スクレイパーＢ類10点（10～14）、打製石斧５点（15～18）、剥片Ｂ類14点、凹石７点（20、21）、磨石２点（22）、石皿１点、砥石１点、棒状礫２点（23、24）磨製石斧１点（19）、剥片Ｅ類２点である。

器種組成では、Ａ類とＢ類とも製品を主体とし、石器製作に伴う剥片類は少ない。

前期を特徴付ける石器には、石匙（６～９）、Ｉ形態（片刃、ヘラ状）の打製石斧（15、16）があげられる。小形の磨製石斧（19）は、調査区外で表面採集されたもので中期後半に組成する形態（ノミ状）と考えられる。石材は白色の蛇紋岩である。

（２）行田大道北横道東遺跡の石器群（第187～192図25～81、第３表）

中期後半（加曽利Ｅ式期）に帰属する石器群と考えられる。石器は1354点出土した。

主な器種は、石鏃（25～38）、石錐（39、40）、小型石匙Ａ（41）、スクレイパーＡ類（42）、楔形石器（43）、原石Ａ（44）、打製石斧（45～54）、石匙Ｂ（55）、スクレイパーＢ類（56～59）、球石（60）、磨石（61～63）、凹石（64～69）、台石（70）、石棒（71、72）、棒状礫（73、74）、多孔石（75）、磨製石斧（76、77）、石製品（78～81）である。

器種組成では、黒曜石を石材とした石鏃製作に関連する遺物、打製石斧、スクレイパーＢ類等のＢ類石器が組成するが、Ｃ類石器が少ないのが特徴である。Ａ類の剥片類が組成の主体を占めている。

石鏃は凹基無茎式（25～38）が主体であるが、調整がやや粗雑である。左右非対称となる石鏃は、素材の形状（三角形）に合わせたものと考えられる。40の石錐は欠損（折れ）したもので、研磨により稜線がやや潰れた角柱状を呈する。41は、小形の黒曜石製石匙である。両面とも精緻な調整が施されている。53は製作途中で欠損した未成品と考えられる。54と55は縦長剥片を素材とし、縁辺に細かい調整を施す。端部には剝離痕と使用痕が観察される。71の石棒は、有頭式の頭部である。欠損部分には二次剝離、磨り痕が観察されることから、欠損部を再利用していた可能性が考えられる。調整は敲打により頭部を整形するが、敲打を隠すまでの研磨は施されていない。被熱により、表面の一部は剥落、ヒビが認められる。72の石棒も71と同様の製作技法によるもので、欠損部に磨り痕が観察される。石材は安中市と下仁田町の境界にある大山産の流紋岩と推定される。77は再加工された磨製石斧であり、二次研磨が施される。78～81は器種・用途不明の石製品である。78は牛伏砂岩を石材とした表面に浅い溝状の凹みがある。79は緻密な頁岩の側面に磨り痕が観察される。80、81は表面が発泡した黒色鉱物を含む軽石を石材としたもので、加工は施されていない。

（３）行田二本杉Ⅱ遺跡の石器群（第193～203図82～165、第４表）

中期後半に帰属する石器群と考えられる。石器は595点出土した。

主な器種は、石鏃（82～89）、石鏃未成品（90～101）、石槍（102、103）、石錐（104）、スクレイパーＡ類（105、106）、楔形石器（107、108）、ＲＦＡ（109、110）、原石Ａ（111）、打製石斧（11

2～120)、スクレイパーＢ類（121、122)、球石（123)、磨石（124～126)、凹石（127～133)、石皿（134、135)、砥石（136、137)、台石（138)、石棒（139)、棒状礫（140～143)、丸石（144)、多孔石（145～149)、磨製石斧（150～155)、磨製石斧未成品及び転用敲石（156～162)、石製品（163～165）である。

器種組成では、大道北横道東遺跡と同様の傾向が認められ、黒曜石を石材とした石鏃製作に関連する遺物が主体を占める。石器のＢ類・Ｃ類は少ないが、Ｄ類とＥ類の磨製石斧の未成品及び転用品の組成が少数認められた。

石鏃は凹基無茎式（第82～90）を主体とする。調整はやや粗雑で左右非対称となる形態となる。石鏃未成品は、仕上げ最終段階のもの（91～96)、石鏃素材から整形・調整が進んだもの（95～101）に分類される。102と103は黒曜石製の両面加工が施された槍状石器の欠損部である。106はスクレイパーＡ類として分類したが、球心状に調整が施されている点で石鏃未成品の可能性がある。打製石斧は、Ⅱ形態を主体とし、中央がやや括れるものが多い（112～119)。表裏面とも刃部には摩耗痕が観察される。120は大きさからみて打製石斧未成品（欠損）の可能性が考えられる。スクレイパーＢ類は、素材をそのまま利用し調整が少ない形態が主体だが、中期に組成する横刃型石器も認められる（121、122)。139の有頭石棒は、流紋岩（大山産の可能性）製の頭部部分である。敲打と研磨を併用して器面を整形し、仕上げられている。頭部側面には研磨により明確ではないものの、浅い窪みが１か所存在する。欠損面は二次的剥離痕が観察され、欠損しても使用され続けた可能性がある。143は大形棒状礫である石棒としての加工（敲打）は施されていないが、表面には磨り痕、凹み、端部には連続する剥離痕が認められる。磨製石斧は、形状をそのままにして転用されたもの（151、152、155)、磨製石斧の素材を転用（156、157)、磨製石斧を再加工して敲石等の別の器種に転用されたもの（158～162）がある。153と154は小形ノミ状で中期後半にみられる形態である。石製品は、研磨により稜を形成し、多面体となるもの（163、164)、無加工の軽石（165）がある。

（４）大道南横道西遺跡の石器群（第204～237図166～449、第５表）

前期後半～終末と中期初頭～中期後半が混在する石器群である。遺構、土器との共伴関係により、石器群の主体は中期後半に帰属すると考えられる。石器は4437点出土した。

主な器種は、石鏃（166～187)、石鏃未成品（188～209)、石錐（210～215)、石匙Ａ（216～219)、スクレイパーＡ（220～232)、石槍状石器（233、234)、楔形石器（235～242)、原石Ａ（243～253)、石核Ａ（254～257)、打製石斧（258～281)、石匙Ｂ（282～284)、スクレイパーＢ（285～301)、ＲＦＢ（302)、球石（303、304)、磨石（305～328)、凹石（329～352)、スタンプ形石器・特殊磨石（356～363)、石皿（364～370)、砥石（371～376)、敲石（377～386)、台石（387～390)、石棒（391～394)、棒状礫（395～404)、丸石（405～407)、多孔石（408～415)、磨製石斧（416～428)、磨製石斧転用品（429)、石製品（430～449）である。

器種組成では、大道北横道東遺跡・二本杉Ⅱ遺跡と同様、黒曜石を石材とした石鏃製作に関連する遺物が主体を占める。他の2遺跡と比較して異なるのは、打製石斧とスクレイパーＢ類、凹石・磨石等の組成が多く組成し、他の器種もバランス良く組成している点である。この傾向は、当地域における中期後半の集落における組成と共通している。

＜Ａ類石器＞

石鏃は凹基無茎式（166～184）が主体で、基部の抉りが弱い平基無茎式（185～187）が少数認められる。石鏃は、押圧剥離による精緻な両面調整、部分及び周辺調整を施す。左右非対称が多いことから、二等辺三角形に近い剥片を素材とする。184は、局部磨製で研磨後に調整を施す。

石鏃未成品は、仕上げの最終段階としたＡ類（188～190）、仕上げ段階に近い半成品としたＢ類（191～199、203～205）、石鏃素材から整形が進んだ段階としたＣ類（200～202、206～209）に分類される。黒曜石の原石（243～250）は、自然面に覆われたズリ状で３～６㎝程の大きさである。原石を直接あるいは両極技法による打撃によって石核（251～256）石鏃素材を作出している。本遺跡では、黒曜石を石材とした石鏃を含めた石器製作が主体であるが、黒曜石を補完する石材としてチャート等が選択されている。石器製作は、チャートの原石を荒割りすることによって石核（257）を獲得し、周辺調整を施すことにより、石鏃等を製作している。石鏃素材（未成品）は、黒曜石に比べ大形である点が異なる。

本遺跡における石鏃は以下の工程で製作されたものと考えられる。

「原石」→直接打撃による分割等→「石核」の獲得→石鏃等の石器素材剥片の剝離または石核をそのまま素材とする（剥片剝離）→二次加工（精緻な調整・粗雑な調整）→素材Ｂ（剥片の形状が石鏃に類似）→素材Ｃ（石鏃の形状に調整）→素材Ｄ（石鏃の仕上げ段階、精緻な調整）→石鏃の完成→石鏃の素材剥片を利用して他の器種を製作する（石錐、スクレイパー、楔形石器）。

石錐は、石鏃の調整方法で製作される。石匙Ａ類は、形態的に前期に帰属する可能性がある。スクレイパーＡ類は、製作によるものは少なく、素材形状をそのまま利用したものが主体である。220は、剥片端部の縁辺に剥離痕が連続し、形状から掻器の可能性がある。223は、石鏃を再加工した棒状の両面調整石器であるが用途は不明である。楔形石器は、大きさが２㎝程で両端が潰れた矩形のものが多く、形状から石鏃素材を利用したものも含まれる。石槍状石器（233、234）は、縄文時代では希少器種であるが、中期後半に組成することがある。２点とも石材は異なるものの、直接打撃による調整が施される。突出部（尖頭部）が鈍いこと、調整による厚みの除去が均一ではないことから、未成品の可能性が考えられる。

＜Ｂ類石器＞

打製石斧（258～281）は、前期・中期両時期に組成する器種のため、遺構出土あるいは遺物との共伴関係が判明しているもの以外は、時期を特定しにくい。報告では、主に中期に帰属する打製石斧を掲載した。素材は剥片素材とするもの、板状の自然礫を素材とするものに分類される。調整は直接打撃を縁辺中心に加え、薄く仕上げられている。裏面（剥離面）に対して奥部まで調整を加えるものも認められる。刃部を中心に使用痕と推定される摩耗が観察される。また、器体中央部の自然面または剥離面には、装着痕と考えられる磨り痕が観察される。形態は両側縁が平行または抉れるもので、刃部が幅広となるものが主体である。基部は尖状または直線状となる。281は、抉り部分が深い「分銅形」に分類される。石匙Ｂ類（282～284）は、282は前期のもので、他は中期と考えられる。スクレイパーＢ類（285～302）は、不定形剥片をそのまま利用し、縁辺を刃部としたものが主体であるが、打製石斧と類似する調整技法で製作された横刃形石器（285～298）がある。ＲＦＢ（303）は縁辺部に部分的な微細剥離痕が観察される。

＜C類石器＞

磨石類（303～332）、凹石類（333～355）、スタンプ形石器（356～363）、石皿（364～370）、砥石（371～376）、敲石（377～386）、台石（387～390）である。

磨石は、棒状の自然礫で端部に赤色付着物が観察されるもの（327）、稜線をもつ多面体のもの（332）がある。凹石は、凹みが浅く、磨り面をもつものについて凹石B（351～355）として区別した。スタンプ形石器は、磨石または凹石を打ち欠くことによって作出された平坦面を作業面とする。作業面及び縁辺には、磨り潰しによる敲打痕及び磨り痕が観察される。358には、凹みが認められる。石皿は、完形品は少なく、ほとんどが欠損している。364は、作業面が凹むもので、両面に多数の大小凹みが認められる。砥石は、牛伏砂岩を石材とする。敲石は縁辺に敲打による潰れが観察されるもので石材は緑色岩類あるいは結晶片岩といった硬質の石材である。

＜D類石器＞

石棒（391～394）、棒状礫（395～404）、丸石（405～407）、多孔石（408～415）である。391は結晶片岩製の有頭石棒である。欠損する。器体全面を敲打と研磨によって棒状に整形し、括れ部分には敲打痕が残る。有頭式の頂部は丁寧に磨かれている。表面の一部には被熱が観察される。本石棒は、住居跡で方形の石囲炉角に直立して検出された。392～394は大山産の流紋岩で製作された石棒または石棒状の石器である。392、393は無頭式で欠損する。394は括れがあり、敲打と研磨によって棒状に仕上げていることから有頭式の欠損品と認識した。有頭部分は欠落しているが、欠損部には磨り痕が観察される。また、本石棒は、大きさ、基部の形状から、再加工されたものと考えられる。棒状礫では、402、403は無頭式の小形石棒の可能性がある。402は、敲打と研磨によって円柱状に整形されている。両端に二次的敲打痕が観察されることから、磨石の可能性も考えられる。403は結晶片岩製で棒状の自然礫を素材とする。D－372号土坑の底面に突き刺さった状態で出土した。404は、安山岩の大形棒状礫で、礫面に凹みが1か所観察された。

＜E類石器＞

磨製石斧（416～429）は、両刃で定角式が主体である。小形でノミ状の形態（426～428）、磨製石斧の破片を再加工したもの（422、423）、欠損品あるいは磨製石斧未成品（425、430等）のなかには、敲石に転用されるものが含まれる。磨製石斧の製作は、敲打→研磨によって仕上げられる。石材は緑色岩類が主体で、蛇紋岩、頁岩も認められる。

＜F類石器＞

石製品（430～449）は、加工のあるものと無加工のものに分類される。430は、敲打及び剥離調整、研磨を併用して整形し、基部を凸状に仕上げている。整形方法は、磨製石斧と類似する。表面にはススが付着する。431、432は、面取り調整によりソロバン状及び賽子状に整形、研磨を施す。432には浅い窪みが観察される。433、434は、全面研磨を施し、タブレット状に整形している。２点とも石材は白色の凝灰岩である。435～437は、人為的に作出された凹みのある礫である。438は、２か所の凹みが残り、周辺にススが付着する。439～441は、全面滑らかな小形扁平礫である。本資料の用途は不明だが、土坑内、住居跡等の遺構出土であることに注意する必要がある。442～444は、石英の原石である。445は、剥離痕のある結晶片岩である。446～449は、軽石である。削り痕のある449以外は、加工は認められない自然礫である。

第２表　行田大道南大道東遺跡　石器集計表

種別		石材	黒曜石	ﾁｬｰﾄ	黒色安山岩	硬質頁岩	珪質頁岩	頁岩	安山岩	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	凝灰岩	牛伏砂岩	砂岩	結晶片岩	緑色岩類	蛇紋岩	碧玉	ﾒﾉｳ	鉄石英	石英	大山流紋岩	軽石	下呂石	滑石	不明	合計
Ａ類	石器類	石鏃	4																						4
		石鏃未成品	2																						2
		石槍状																							0
		石錐																							0
		石匙A類		1																					1
		ScA	1																						1
		RFA																							0
		楔形石器	1																						1
	破片類	FLA	127	2	1																				130
	石核類	石核A類	2															1							3
	原石類	原石A類																							0
Ｂ類	石器類	打製石斧						4							1										5
		石匙B類						3																	3
		ScB						6	4																10
		RFB																							0
	破片類	FLB						12	2																14
	石核類	石核B類																							0
Ｃ１類	石器類	凹石							5			2													7
		凹Ｂ																							0
		磨石						2																	2
		石皿												1											1
		球石																							0
		磨き石																							0
		ｽﾀﾝﾌﾟ																							0
Ｃ２類	石器類	敲石																							0
		台石																							0
		砥石										1													1
Ｄ類	石器類	棒状礫												2											2
		石棒																							0
		多孔石																							0
		丸石																							0
		原石D類																							0
	剥片類	剥片D類																							0
Ｅ類	石器類	磨製石斧														1									1
		磨斧未成品																							0
	原石類	原石E類																							0
	破片類	FLE													2										2
Ｆ類	石器類	石製品																							0
		不明(軽石)																							0
	剥片類	剥片F類																							0
	原石類	原石F類																							0
不明																									0
合計（点数）			137	3	1	0	0	27	11	0	0	3	0	3	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	190.0
重量（ｇ）			171.1	3.8	15.8	0.0	0.0	1,019.8	1,864.5	0.0	0.0	407.9	0.0	173.4	163.1	25.9	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

第３表　行田大道北横道東遺跡　石器集計表

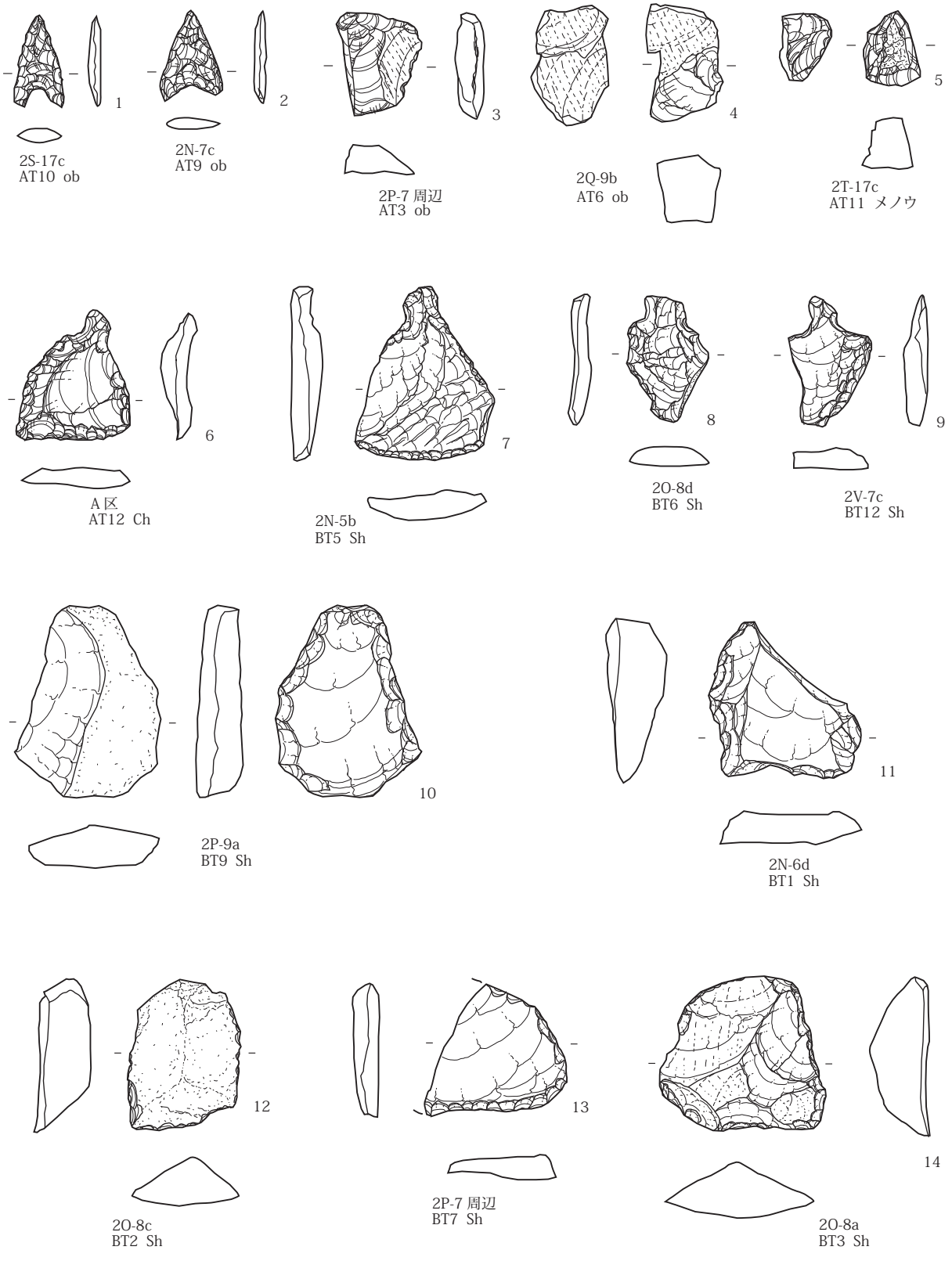
種別		石材	黒曜石	ﾁｬｰﾄ	黒色安山岩	硬質頁岩	珪質頁岩	頁岩	安山岩	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	凝灰岩	牛伏砂岩	砂岩	結晶片岩	緑色岩類	蛇紋岩	碧玉	ﾒﾉｳ	鉄石英	石英	大山流紋岩	軽石	下呂石	滑石	不明	合計
Ａ類	石器類	石鏃	22	3				1																	26
		石鏃未成品	11					1																	12
		石槍状																							0
		石錐	3					1																	4
		石匙A類	1																						1
		ScA	13		1		1																		15
		RFA	10																						10
		楔形石器	28					1																	29
	破片類	FLA	954	3	7	2	3										1	1	1	1					973
	石核類	石核A類	8	1															1						10
	原石類	原石A類																							0
Ｂ類	石器類	打製石斧						22	11			1			2										36
		石匙B類						1																	1
		ScB						21	7						3										31
		RFB						1																	1
	破片類	FLB						116	21																137
	石核類	石核B類						1																	1
Ｃ１類	石器類	凹石							10			1		1											12
		凹Ｂ																							0
		磨石							7			1													8
		石皿							2					1											3
		球石							1																1
		磨き石						1																	1
		ｽﾀﾝﾌﾟ																							0
Ｃ２類	石器類	敲石													3										3
		台石							3												1				4
		砥石										6													6
Ｄ類	石器類	棒状礫							1						4										5
		石棒							1												2				3
		多孔石							1			1													2
		丸石																							0
		原石D類																							0
	剥片類	剥片D類																							0
Ｅ類	石器類	磨製石斧						3							3										6
		磨斧未成・転用																							0
	原石類	原石E類																							0
	破片類	FLE													10										10
Ｆ類	石器類	石製品						1				1													2
		不明(軽石)																				1			1
	剥片類	剥片F類																							0
	原石類	原石F類																							0
不明																						1			1
合計（点数）			1,050	7	8	2	4	171	65	0	0	11	0	2	25	0	1	1	2	1	3	1	0	0	0	1,355
重量（ｇ）			555.4	24.2	231.1	23.9	25.3	306.3	43,908.1	0.0	0.0	14,043.3	0.0	707.2	1,261.3	0.0	4.0	1.5	24.5	4.0	42,986.3	17.2	0.0	0.0	0.0	

第４表　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　石器集計表

種別		石材	黒曜石	ﾁｬｰﾄ	黒色安山岩	硬質頁岩	珪質頁岩	頁岩	安山岩	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	凝灰岩	牛伏砂岩	砂岩	結晶片岩	緑色岩類	蛇紋岩	碧玉	ﾒﾉｳ	鉄石英	石英	大山流紋岩	軽石	下呂石	滑石	不明	合計
Ａ類	石器類	石鏃	9	1																					10
		石鏃未成品	18	1				1																	20
		石槍状	2																						2
		石錐						1																	1
		石匙A類																							0
		ScA	5	1	1																				7
		RFA		1		1																			2
		楔形石器	7					1																	8
	破片類	FLA	333	10	3																				346
	石核類	石核A類	4	1																					5
	原石類	原石A類	3	1																					4
Ｂ類	石器類	打製石斧					1	20	11	1															33
		石匙B類																							0
		ScB						15	3																18
		RFB							1																1
	破片類	FLB						29	3																32
	石核類	石核B類																							0
Ｃ１類	石器類	凹石							17			1									1				19
		凹Ｂ																							0
		磨石							8			2													10
		石皿							5					4											9
		球石							1																1
		磨き石																							0
		ｽﾀﾝﾌﾟ																							0
Ｃ２類	石器類	敲石												1	10										11
		台石							2																2
		砥石										14													14
Ｄ類	石器類	棒状礫						1				2		1							1				5
		石棒												1							3				4
		多孔石							5				1												6
		丸石							1																1
		原石D類																							0
	剥片類	剥片D類																			1				1
Ｅ類	石器類	磨製石斧													12	1									13
		磨斧未成・転用							1						2										3
	原石類	原石E類																							0
	破片類	FLE													3										3
Ｆ類	石器類	石製品													2										2
		不明品(軽石)																				1			1
	剥片類	剥片F類															1								1
	原石類	原石F類																							0
不明																									0
合計（点数）			381	16	4	1	1	68	58	1	0	19	1	7	29	1	0	1	0	0	6	1	0	0	0	595
重量（ｇ）			405.2	126.9	320.5	13.5	30.2	1,912.8	182,565.9	92.8	0.0	2,469.4	6,500.0	5,584.9	6,391.8	34.1	0.0	1.3	0.0	0.0	34,040.8	39.7	0.0	0.0	0.0	

第５表　行田大道南横道西遺跡　石器集計表

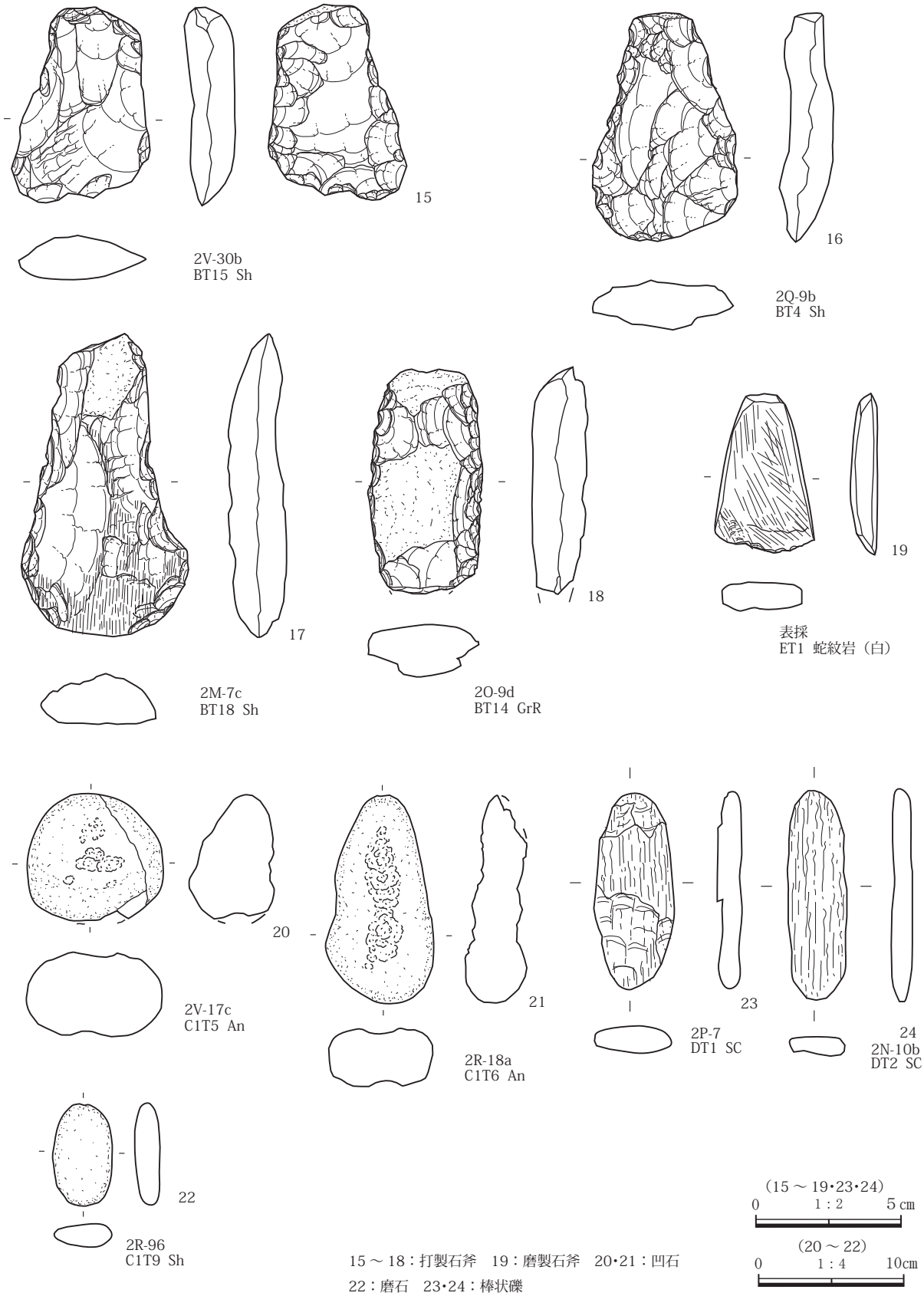
種別		石材	黒曜石	ﾁｬｰﾄ	黒色安山岩	硬質頁岩	珪質頁岩	頁岩	安山岩	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	凝灰岩	牛伏砂岩	砂岩	結晶片岩	緑色岩類	蛇紋岩	碧玉	ﾒﾉｳ	鉄石英	石英	大山流紋岩	軽石	下呂石	滑石	不明	合計
A類	石器類	石鏃	50	8	3			2																	1	64
		石鏃未成品	42	12																						54
		石槍状		1				1																		2
		石錐	11	6				3																		20
		石匙A類	1	1	2		1																			5
		ScA	29		17		2																			48
		RFA	8	1	2		1																			12
		楔形石器	24	2				2																		28
	破片類	FLA	1,778	307	65	3	4										4		1						1	2,163
	石核類	石核A類	41	8	1	1																				51
	原石類	原石A類	17																							17
B類	石器類	打製石斧					3	209	101	3	1	3		2	19											341
		石匙B類						3																		3
		ScB						129	29	3				1												162
		RFB						5	1																	6
	破片類	FLB						623	143	12																778
	石核類	石核B類						7	1																	8
C１類	石器類	凹石							82		2	1			1						1				1	88
		凹Ｂ							27																	27
		磨石						5	170			6			3						1					185
		石皿						1	38		1	8		14												62
		球石							6																	6
		磨き石																								0
		ｽﾀﾝﾌﾟ							9																	9
C２類	石器類	敲石						4	12			1		10	5						1					33
		台石							9		1															10
		砥石										35		1												36
D類	石器類	棒状礫						3	9					3	2						1					18
		石棒							7					2							4					13
		多孔石							12		1			2												15
		丸石							3																	3
		原石D類																			1					1
	剥片類	剥片D類																			36					36
E類	石器類	磨製石斧						2							30	5										37
		磨斧未成・転用													3											3
	原石類	原石E類													1											1
	破片類	FLE													35											35
F類	石器類	石製品		1				1	4		1			2	3											12
		不明(軽石)																				40				40
	剥片類	剥片F類																		1						1
	原石類	原石F類														1				2				1		4
不明																										0
合計（点数）			2,001	347	90	4	11	1,000	663	18	7	54	0	37	102	6	4	0	1	3	45	40	0	1	3	4,437
重量（ｇ）			3,504.3	2,315.5	1,875.2	50.3	241.0	34,934.5	579,821.2	580.5	5,315.4	11,186.6	0.0	27,016.5	9,344.4	330.9	24.3	0.0	2.0	266.1	16,629.8	438.6	0.0	12.8	434.1	



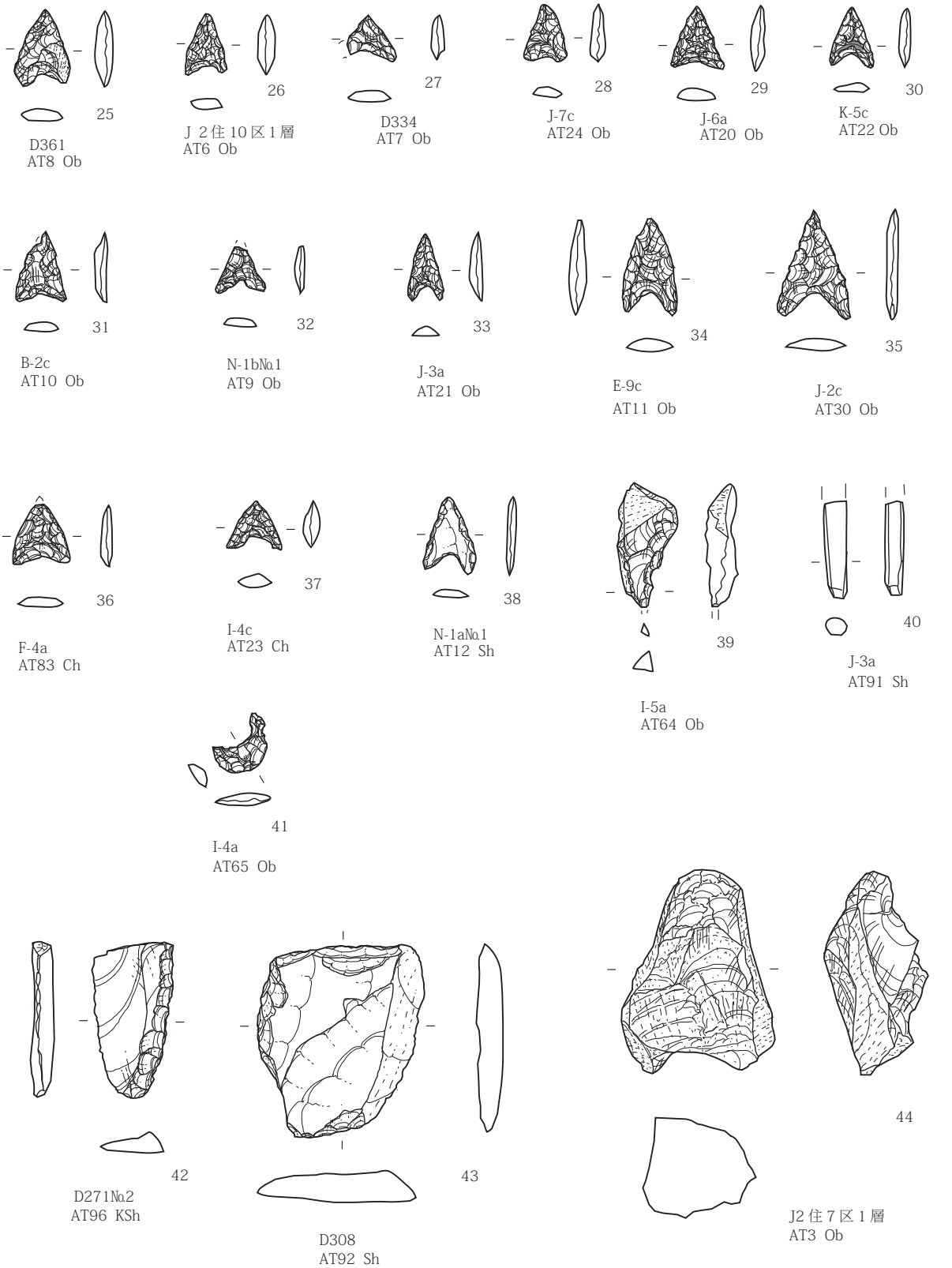
1・2：石鏃　3：ScA　4・5：石核　6：石匙A
7～9：石匙B　10～14：ScB

0　1：2　5㎝

第185図　行田大道南横道東遺跡　縄文石器（1）



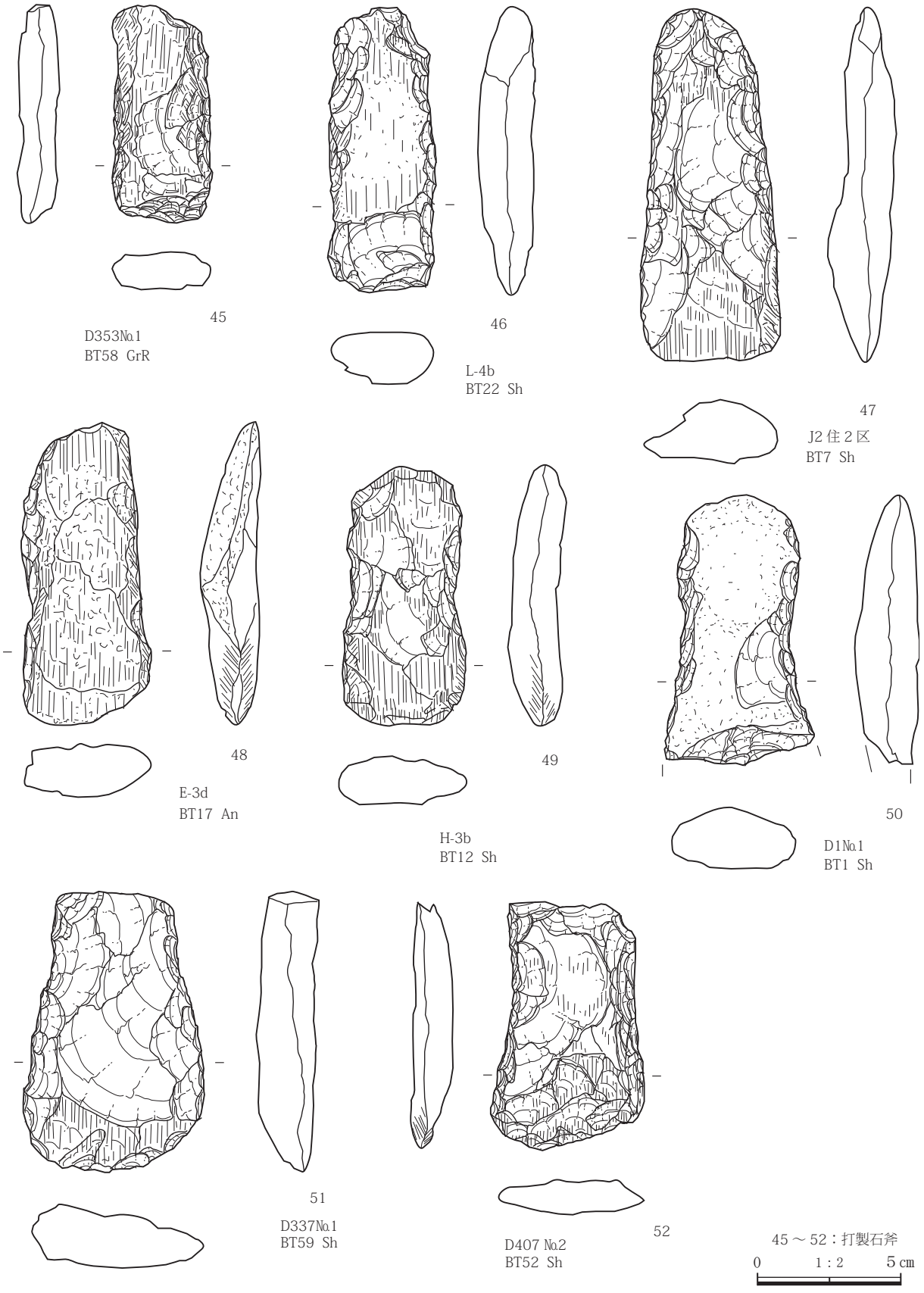
第186図　行田大道南横道東遺跡　縄文石器（２）



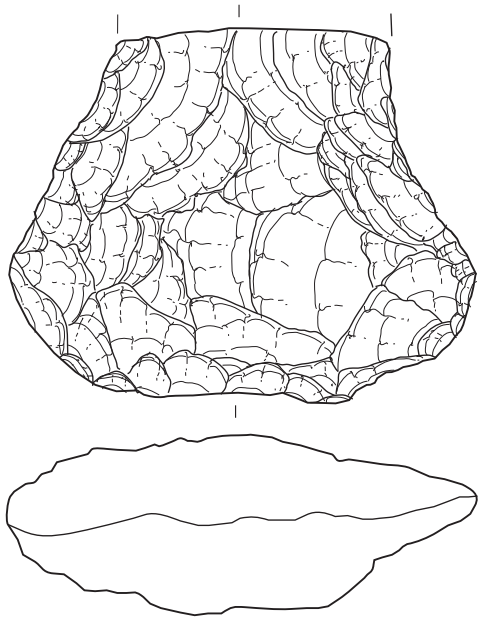
25～38：石鏃　39･40：石錐　41：石匙A（ミニ）
42：ScA　43：楔　44：原石A

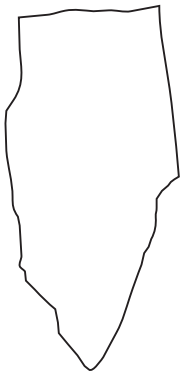
0　2:3　5cm

第187図　行田大道北横道東遺跡　縄文石器（1）



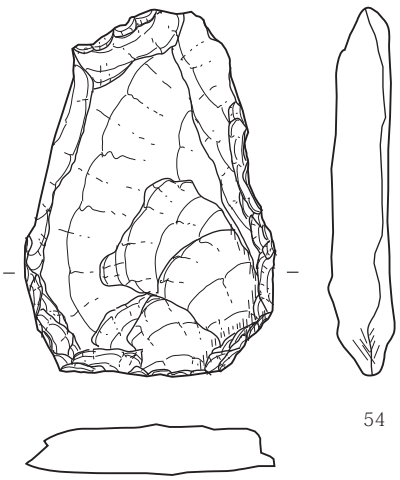
第188図　行田大道北横道東遺跡　縄文石器（2）





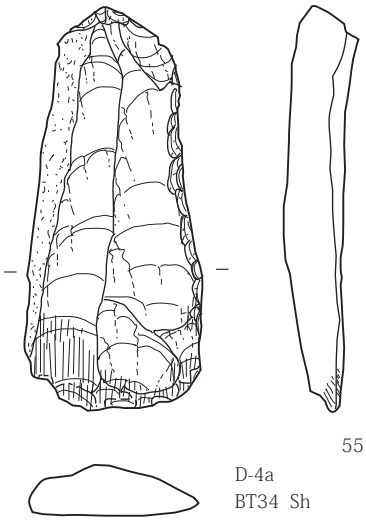
53

D407 №1
BT44 An



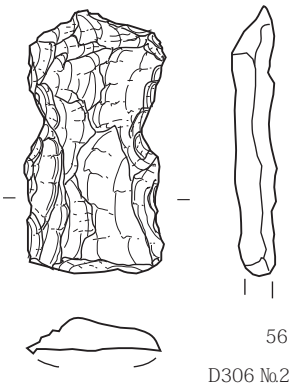
54

K-4b
BT61 Sh



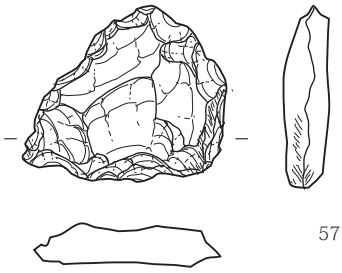
55

D-4a
BT34 Sh



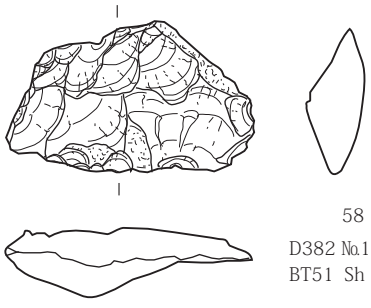
56

D306 №2
BT50 Sh



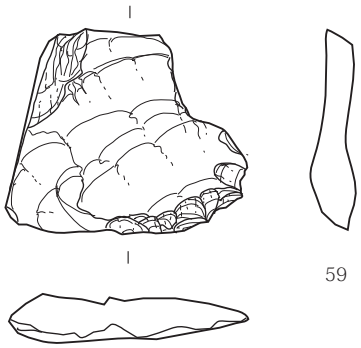
57

D316. №2
BT60 Sh



58

D382 №1
BT51 Sh



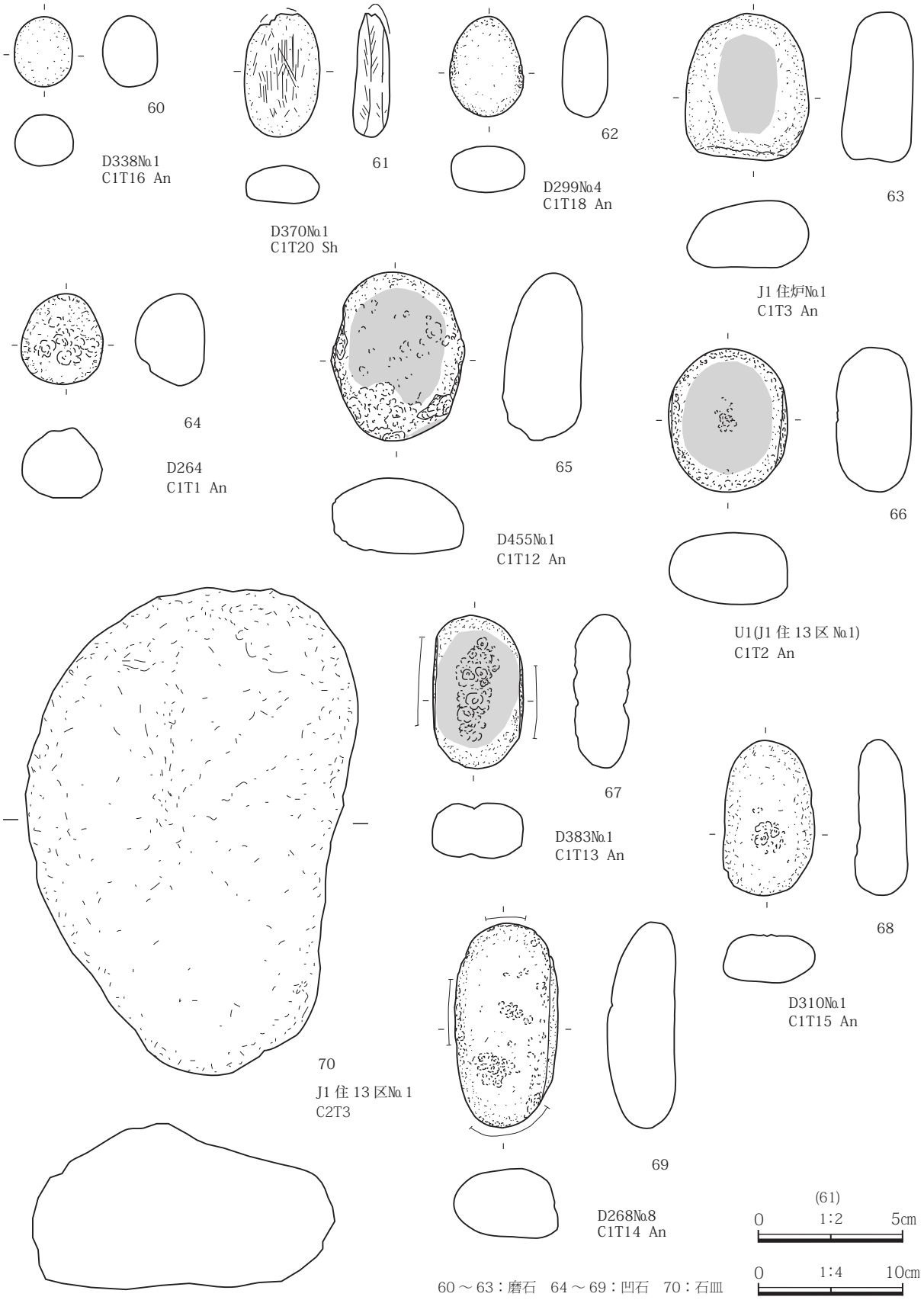
59

D381 №1
BT46 Sh

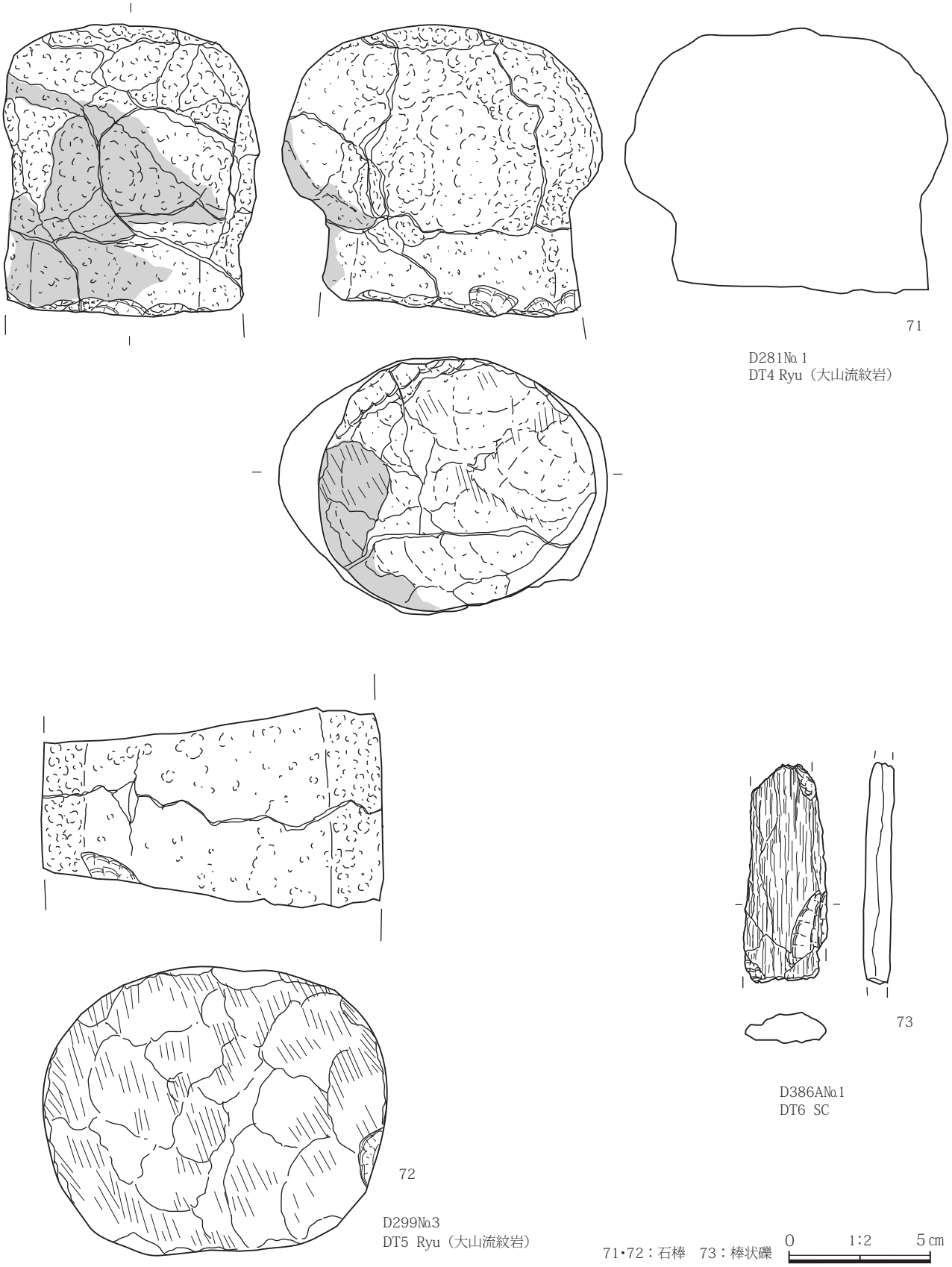
53～55：打製石斧　56：石匙 B　57～59：ScB

0　1:2　5㎝

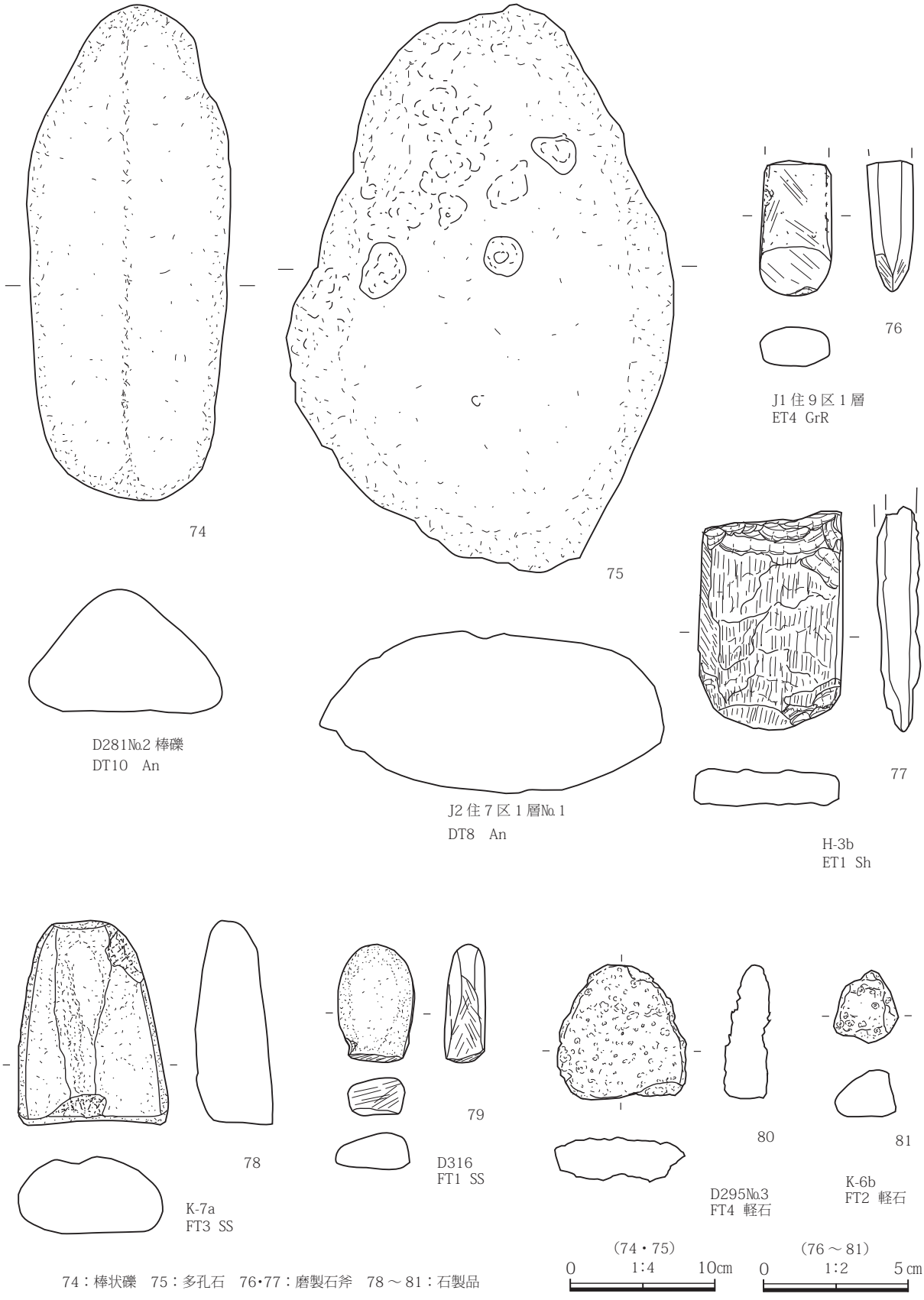
第189図　行田大道北横道東遺跡　縄文石器（3）



第190図　行田大道北横道東遺跡　縄文石器（4）

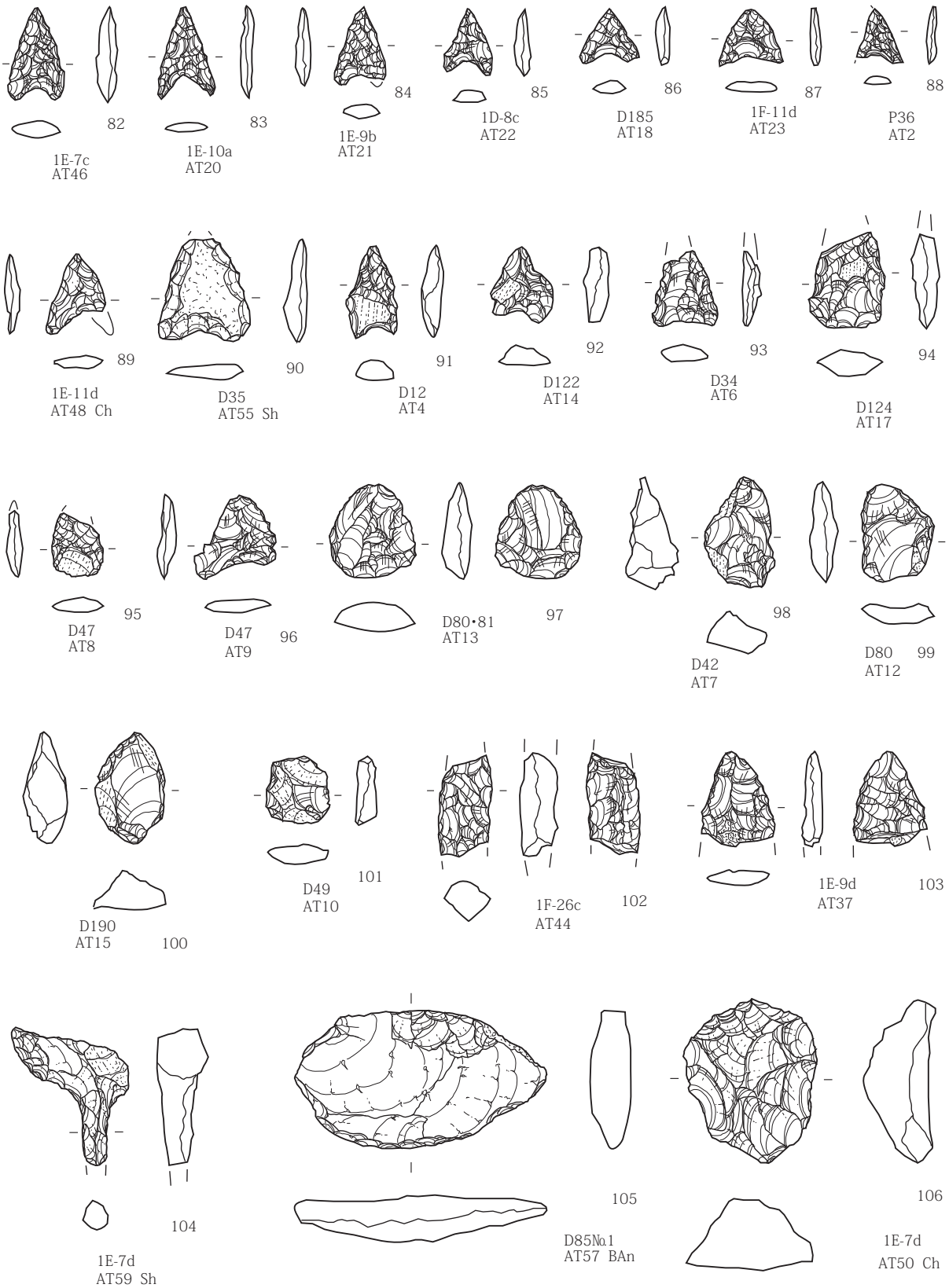


第191図　行田大道北横道東遺跡　縄文石器（5）



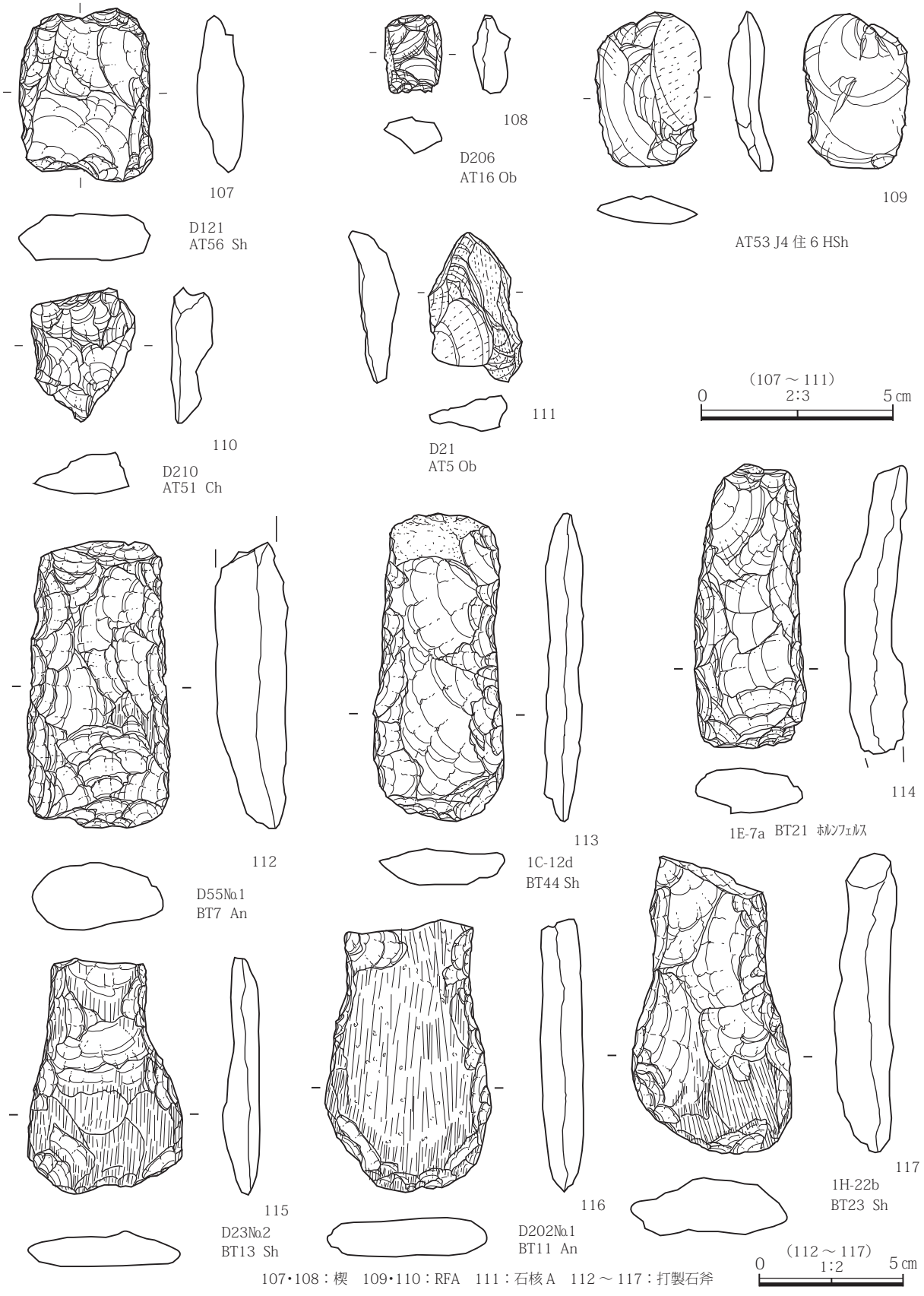
74：棒状礫　75：多孔石　76･77：磨製石斧　78～81：石製品

第192図　行田大道北横道東遺跡　縄文石器（6）



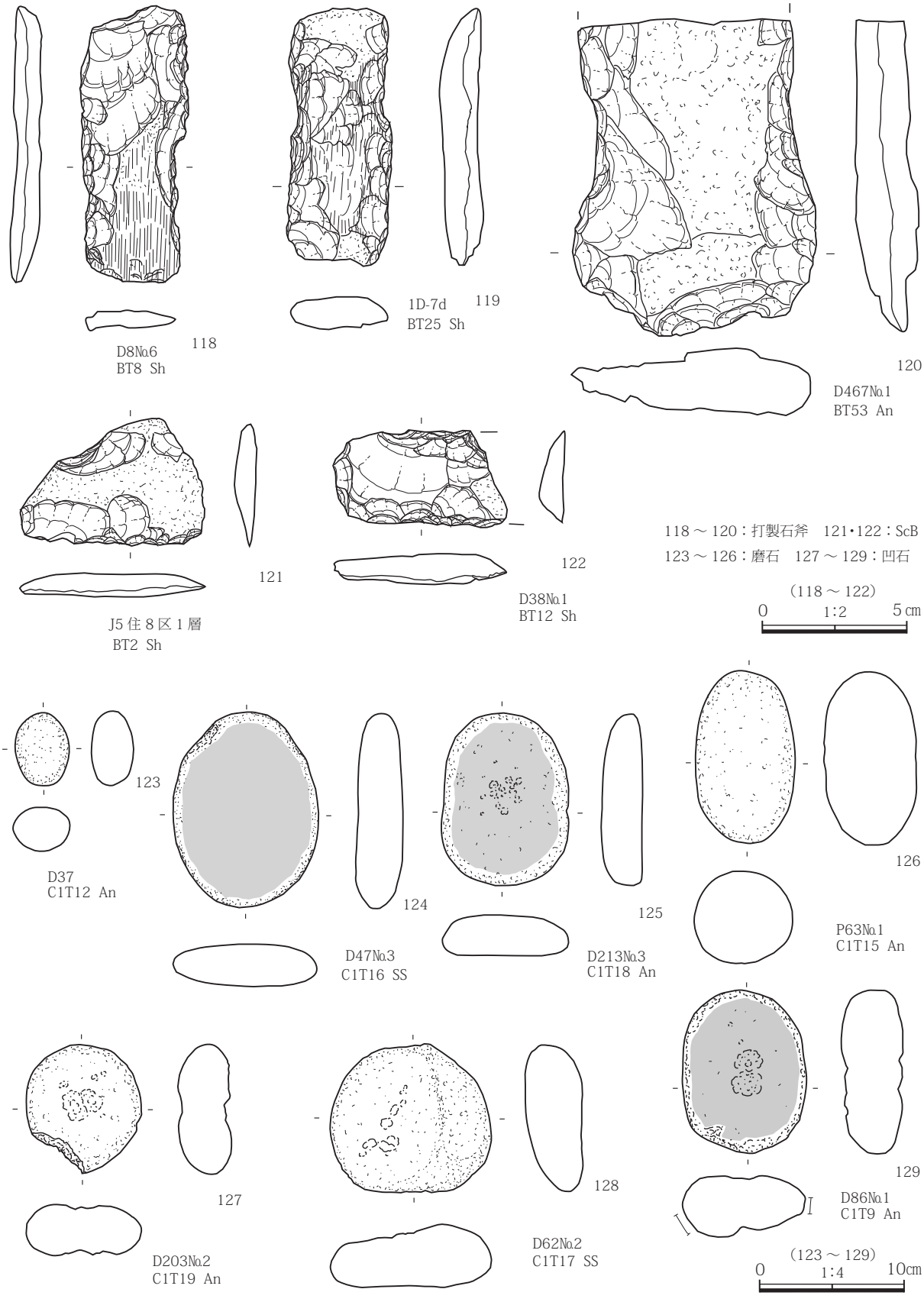
82～90：石鏃　91～101：石鏃未成品　102・103：両面石器（槍状）
104：石錐　105・106：ScA

第193図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文石器（1）

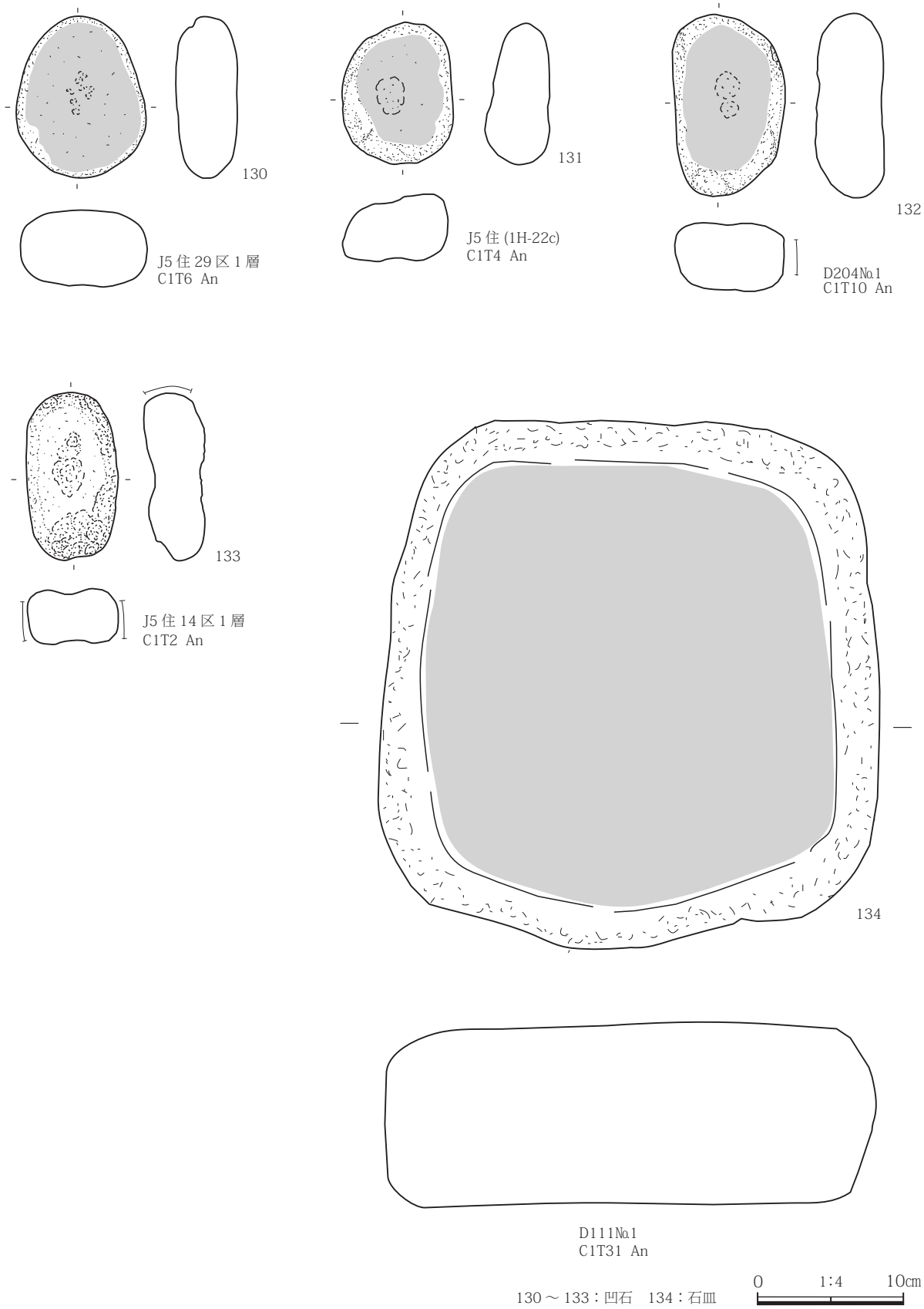


107・108：楔　109・110：RFA　111：石核A　112 ～ 117：打製石斧

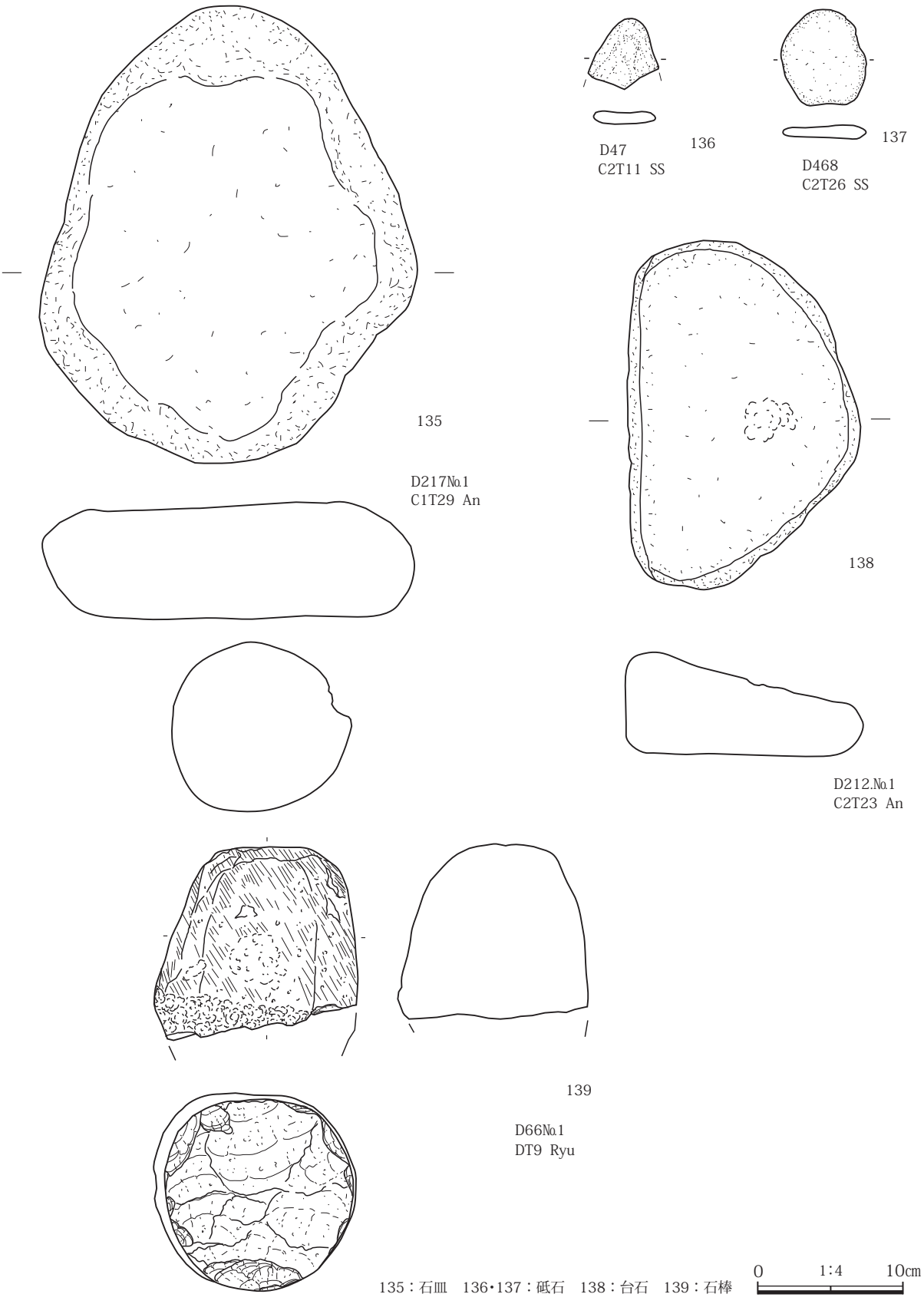
第194図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文石器（2）



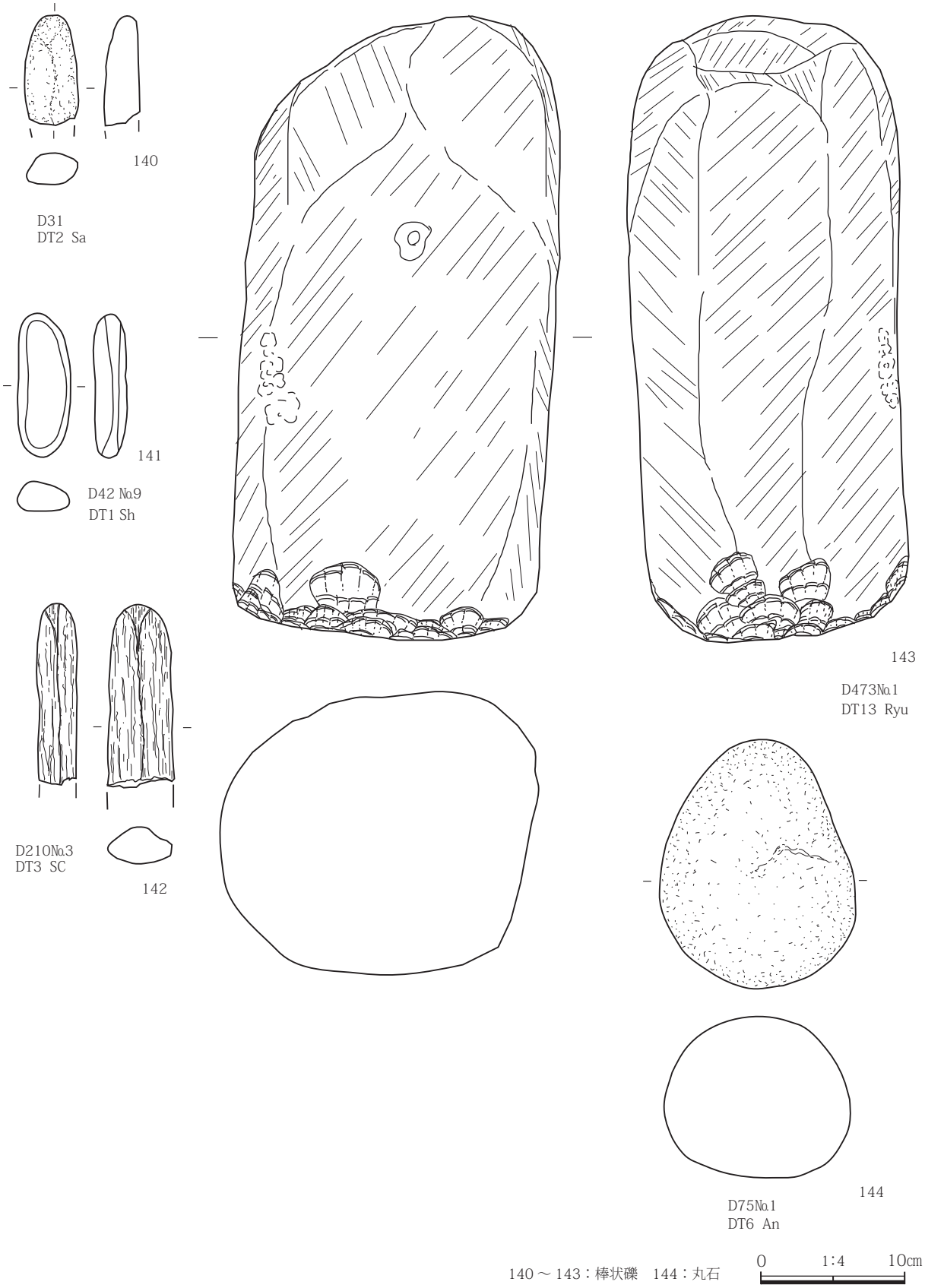
第195図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文石器（3）



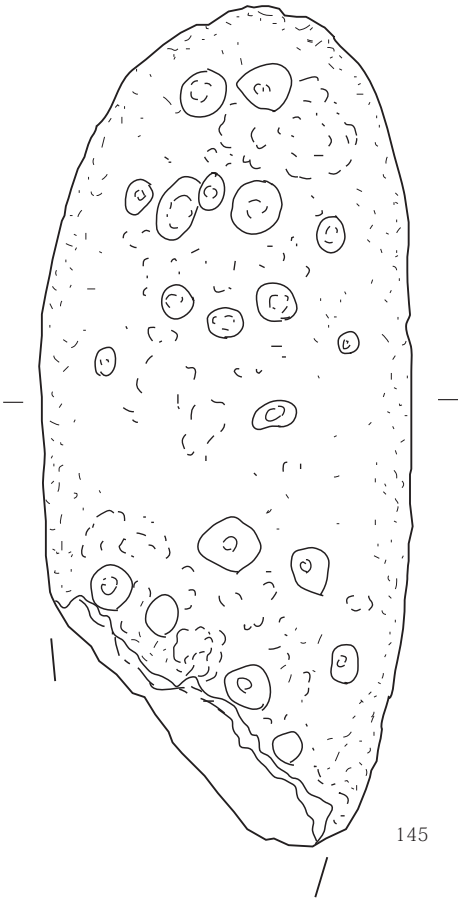
第196図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文石器（4）



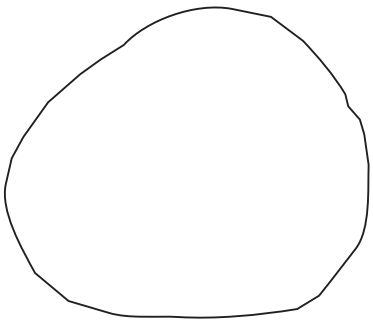
第197図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文石器（5）



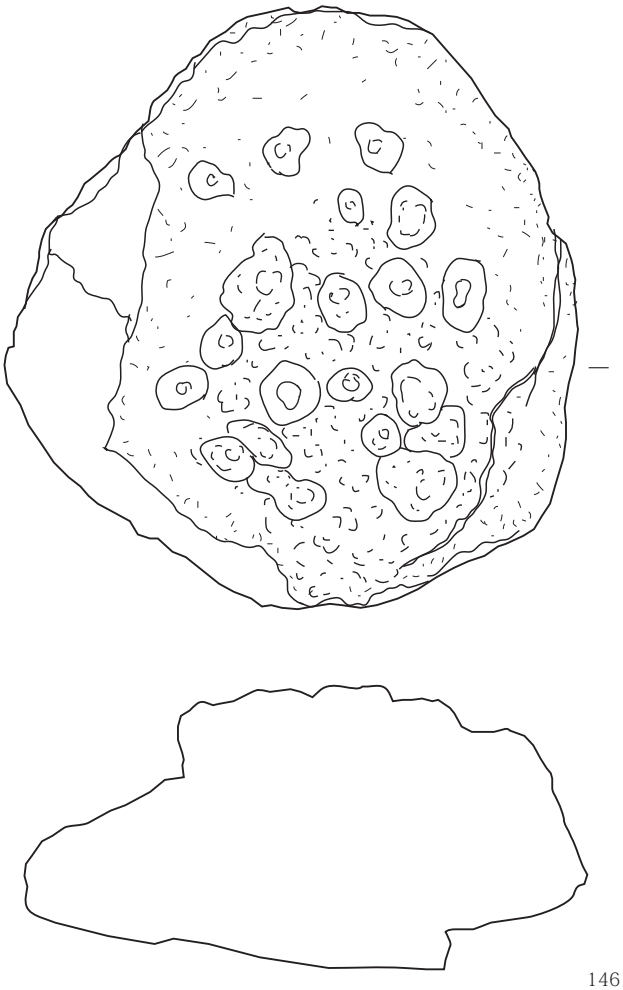
第198図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文石器（6）



145



S-1
DT16 An

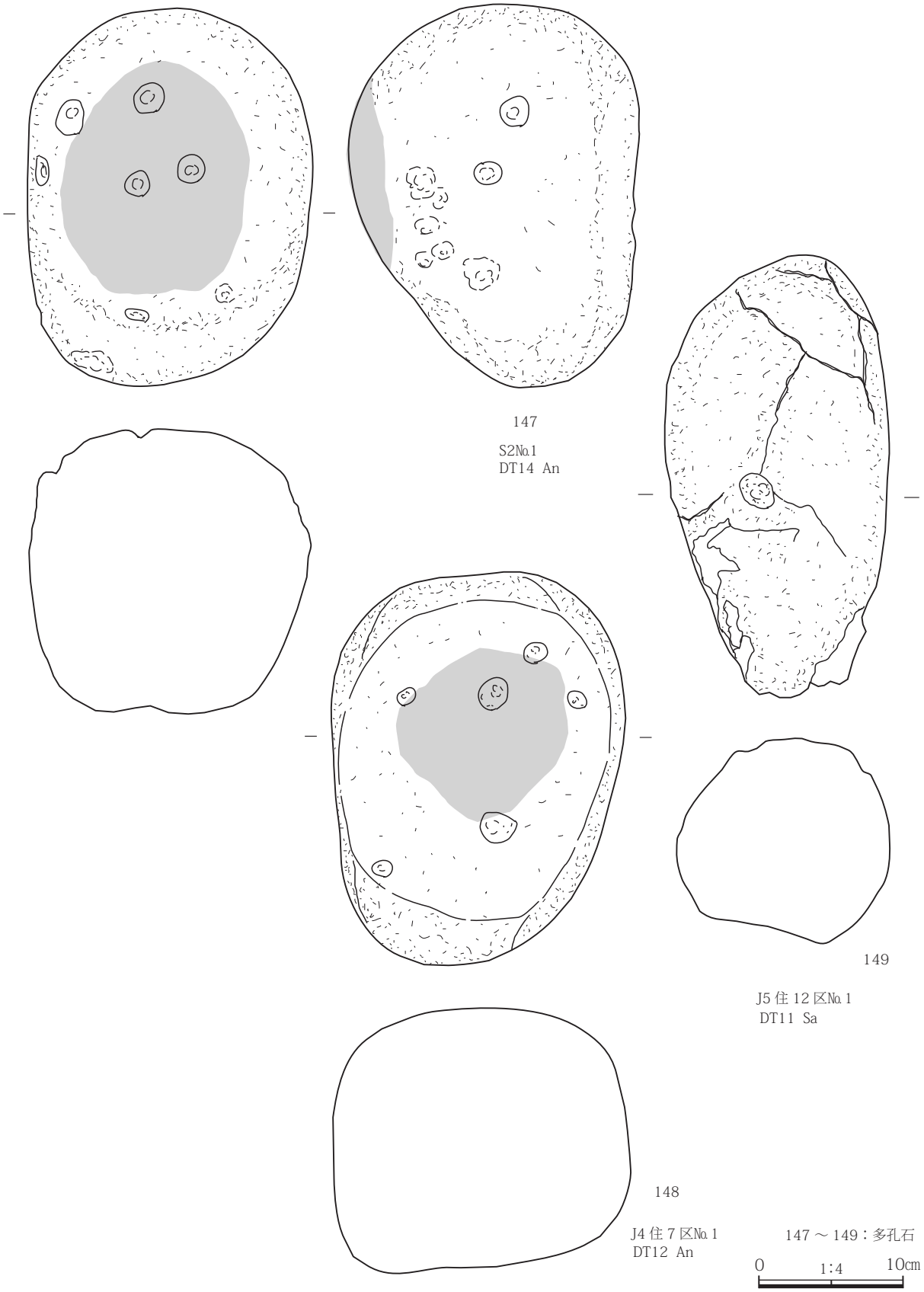


146

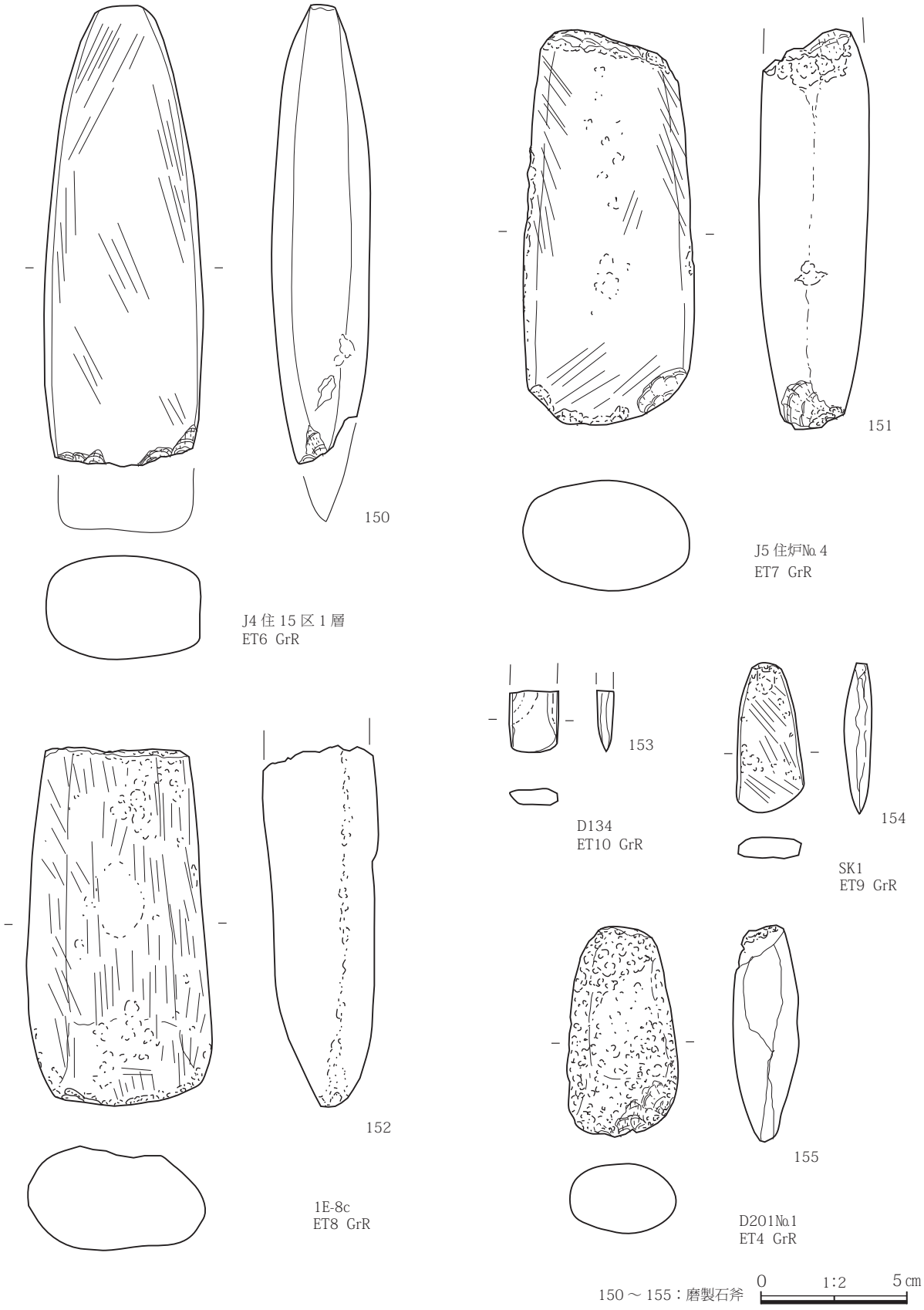
D79№1
DT10 An

145・146：多孔石　0　1:4　10㎝

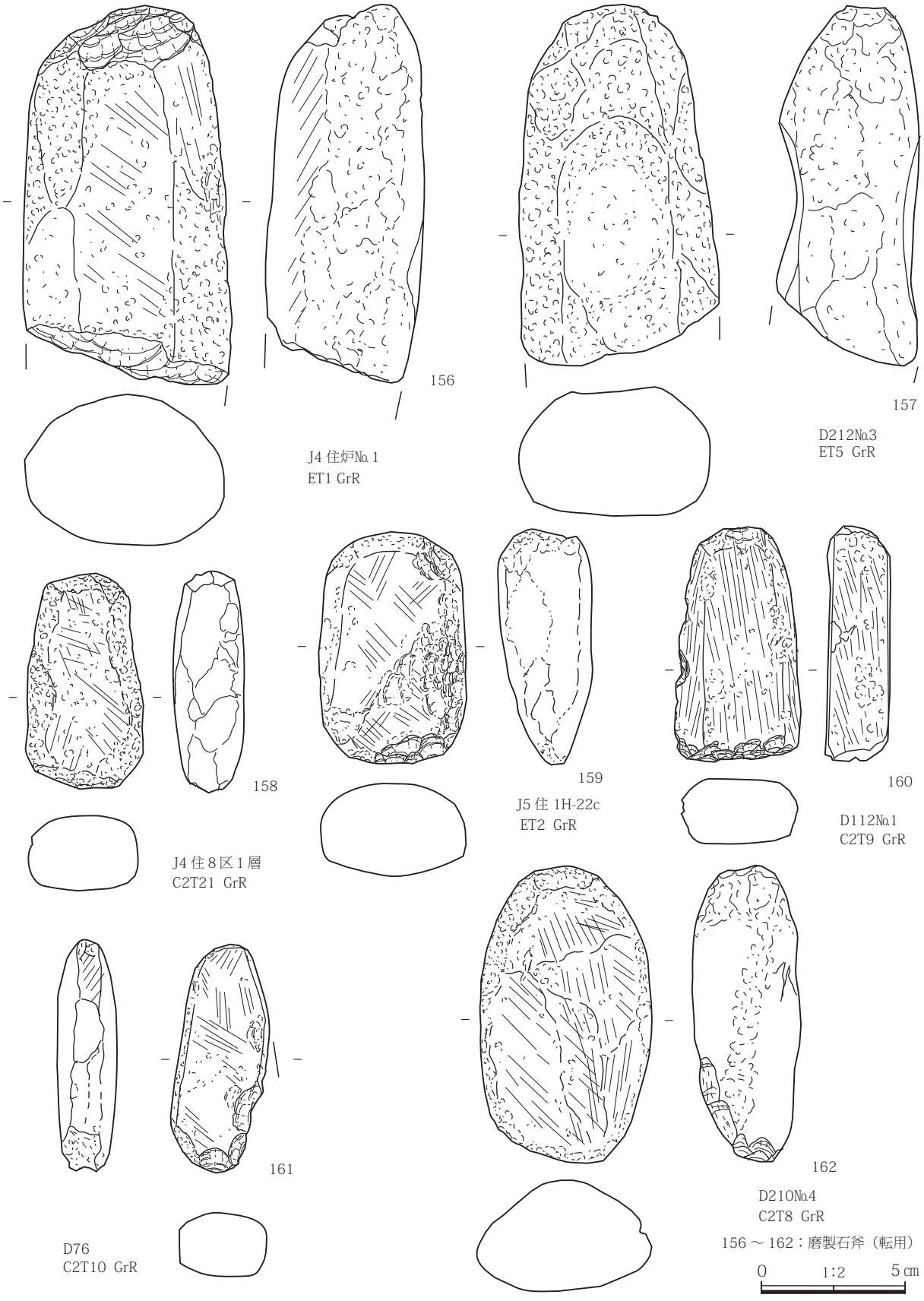
第199図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文石器（7）



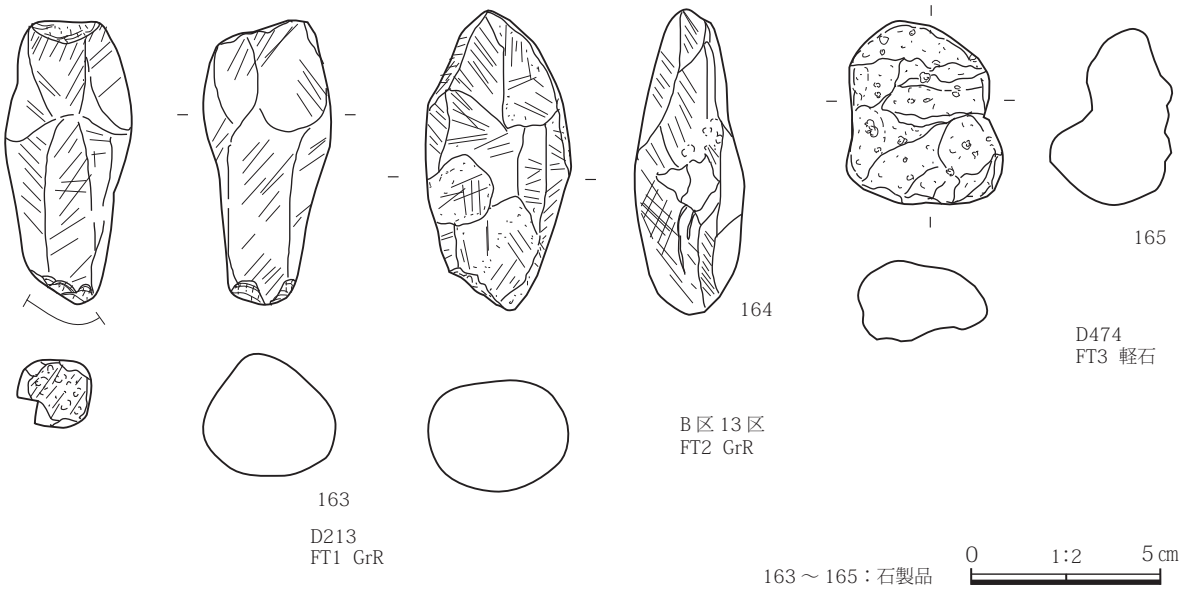
第200図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文石器（8）



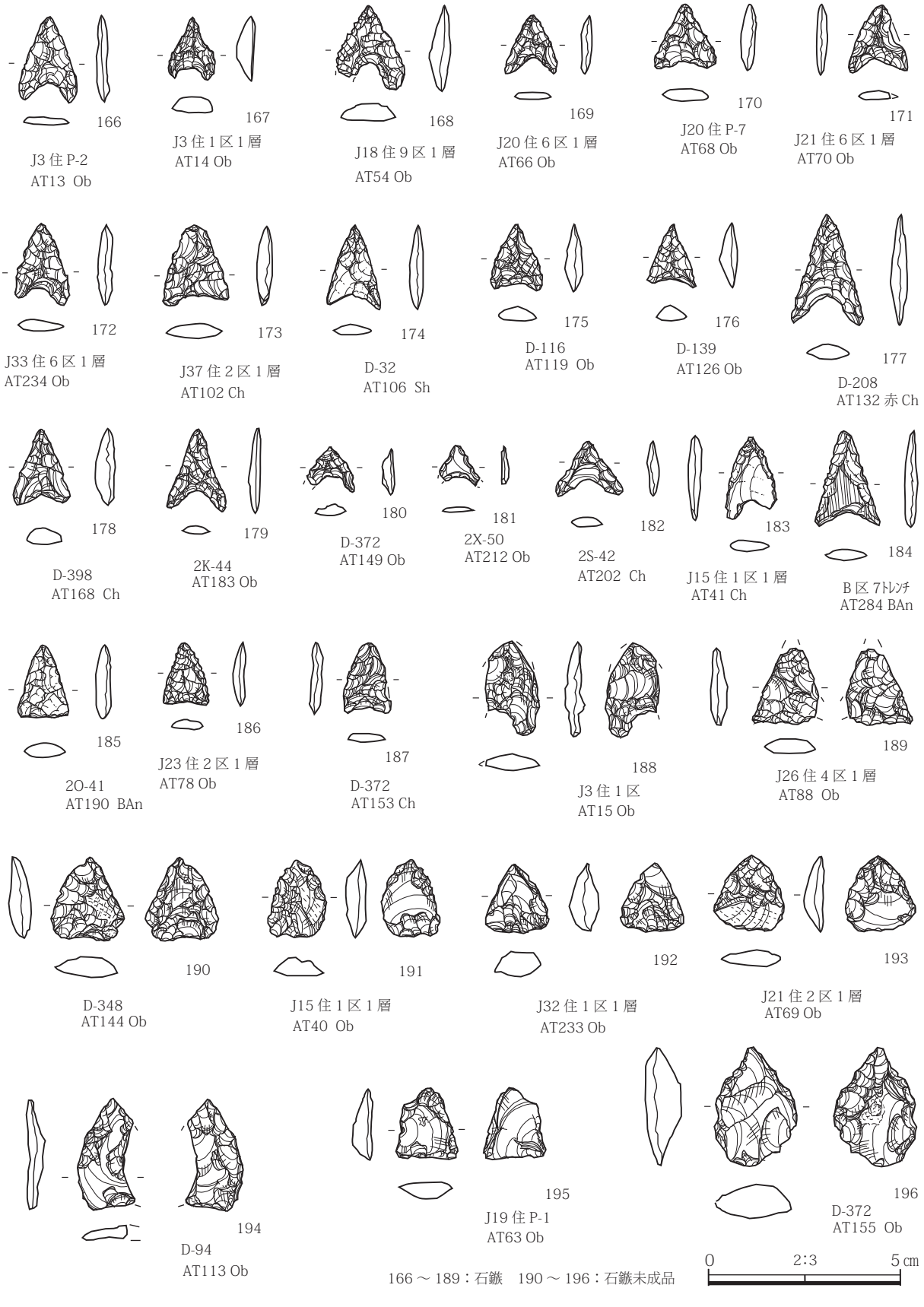
第201図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文石器（9）



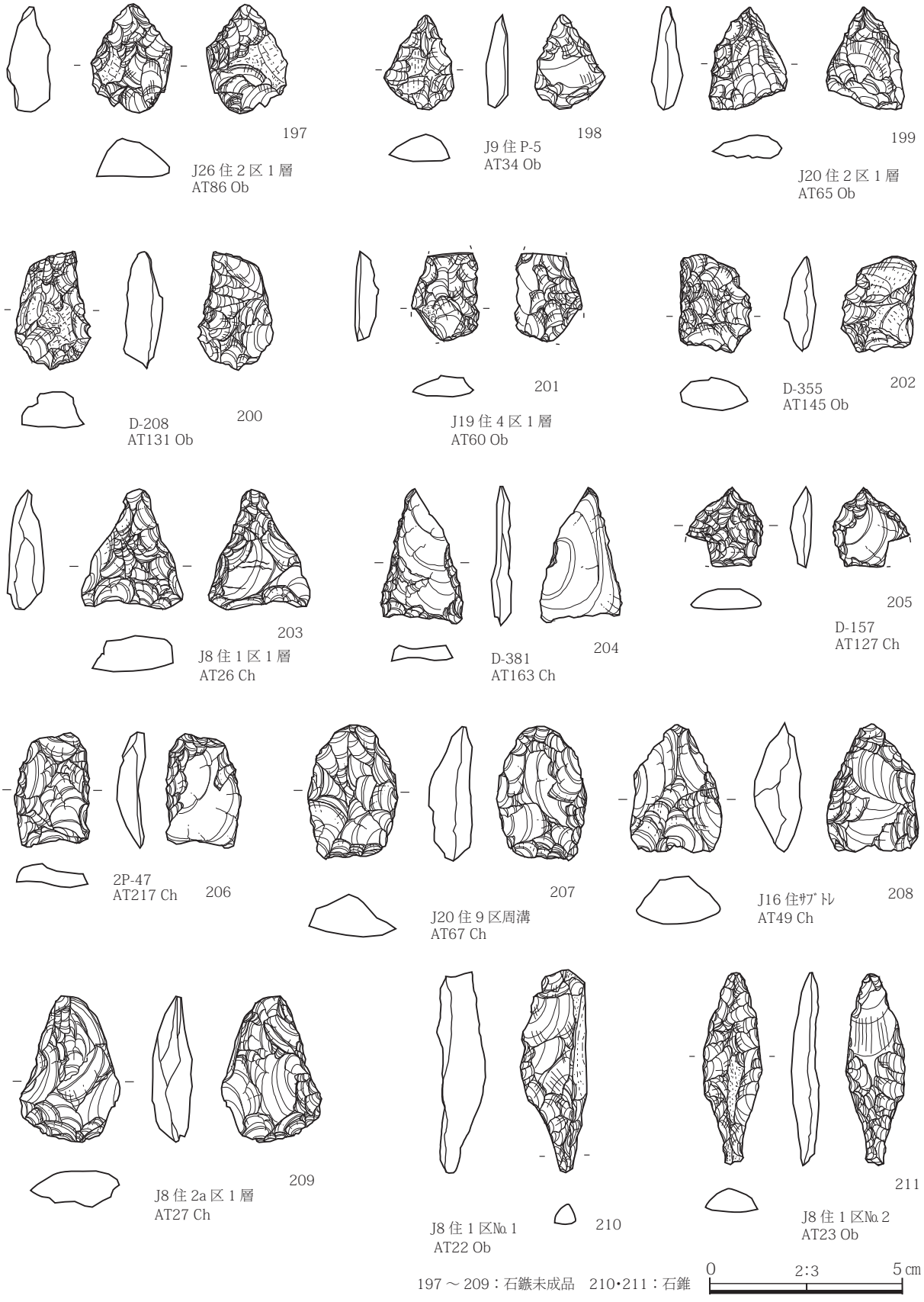
第202図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文石器（10）



第203図　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文石器（11）

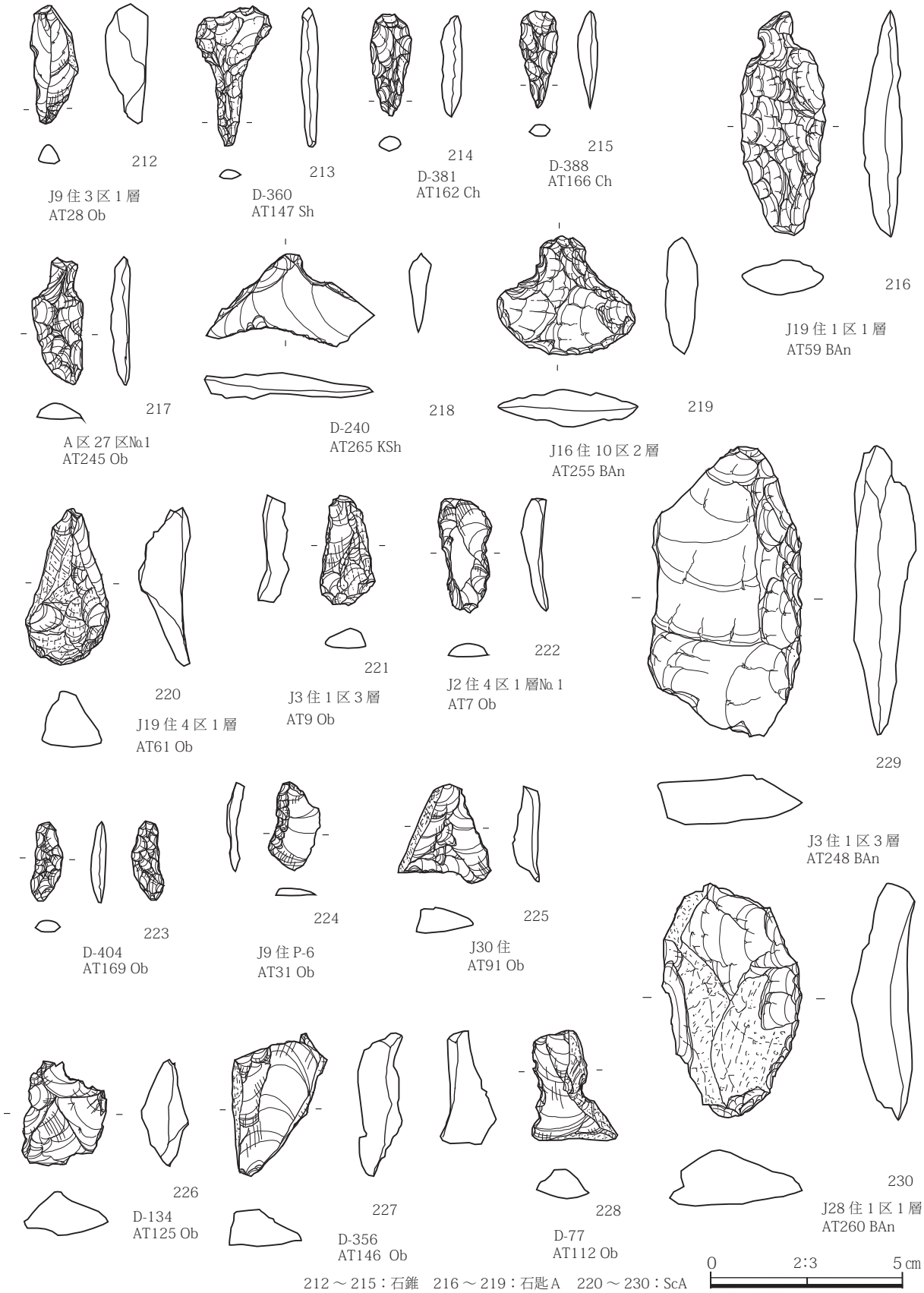


第204図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（1）

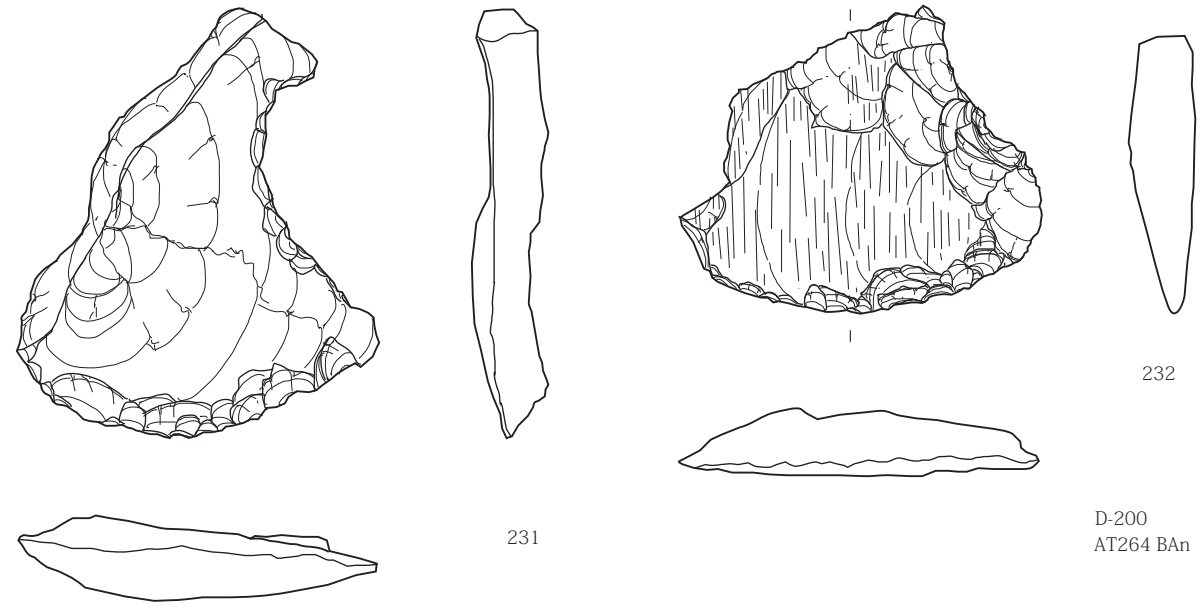


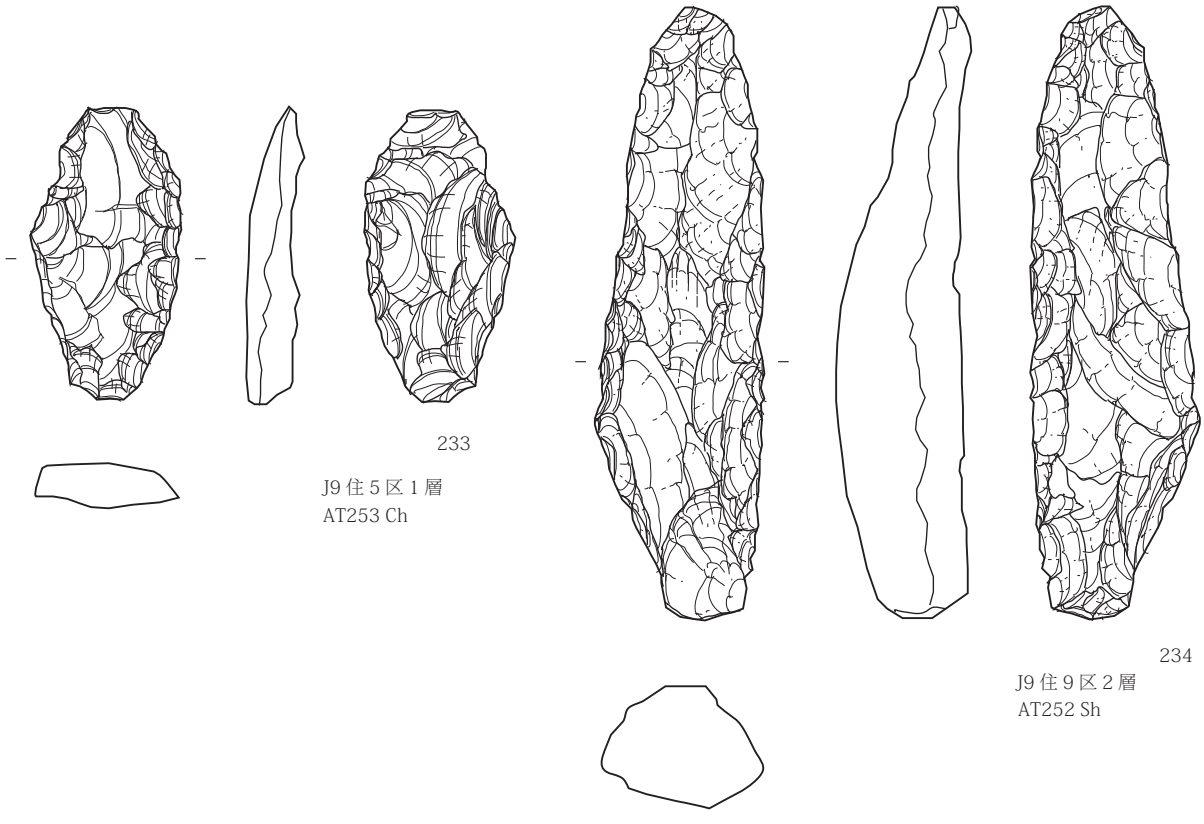
197 ～ 209：石鏃未成品　210･211：石錐

第205図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（２）

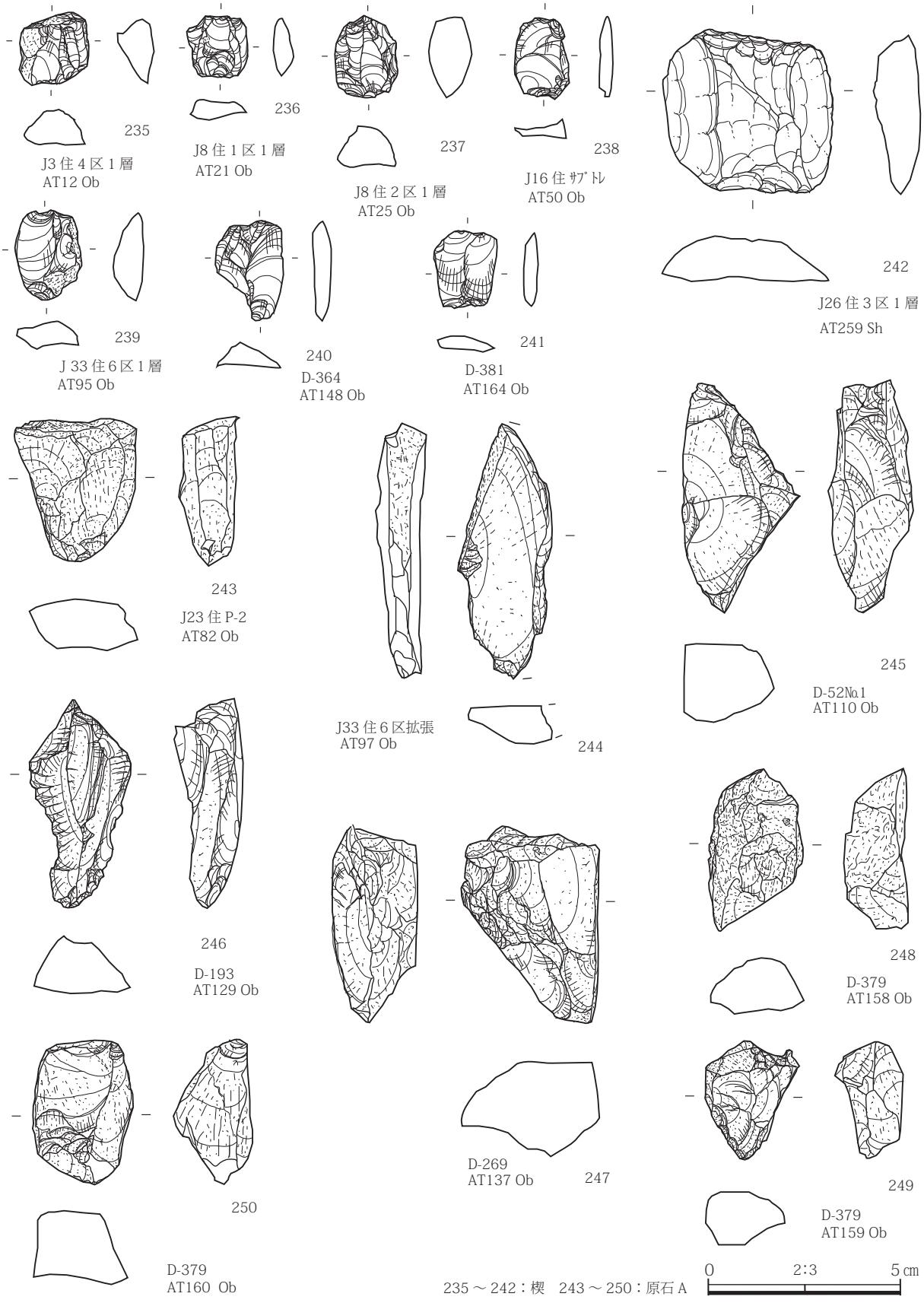


第206図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（3）

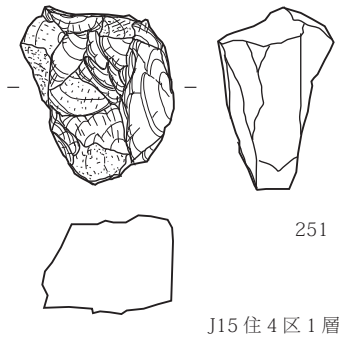




第207図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（４）

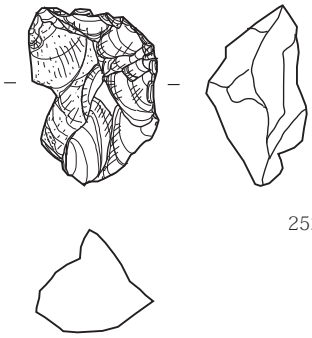


第208図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（５）



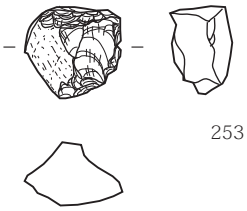
251

J15 住 4 区 1 層
AT43 Ob



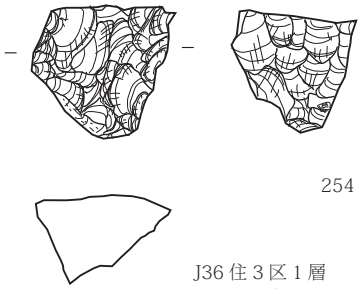
252

J18 住 2 区 1 層
AT52 Ob



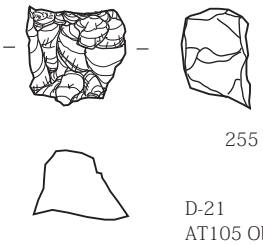
253

J23 住 2 区 1 層
AT79 Ob



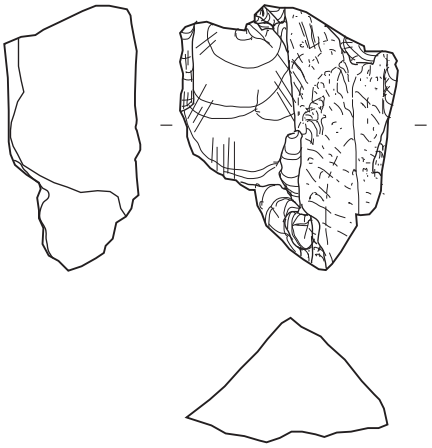
254

J36 住 3 区 1 層
AT101 Ob



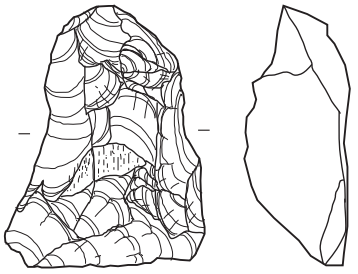
255

D-21
AT105 Ob



256

D-115№1
AT118 Ob



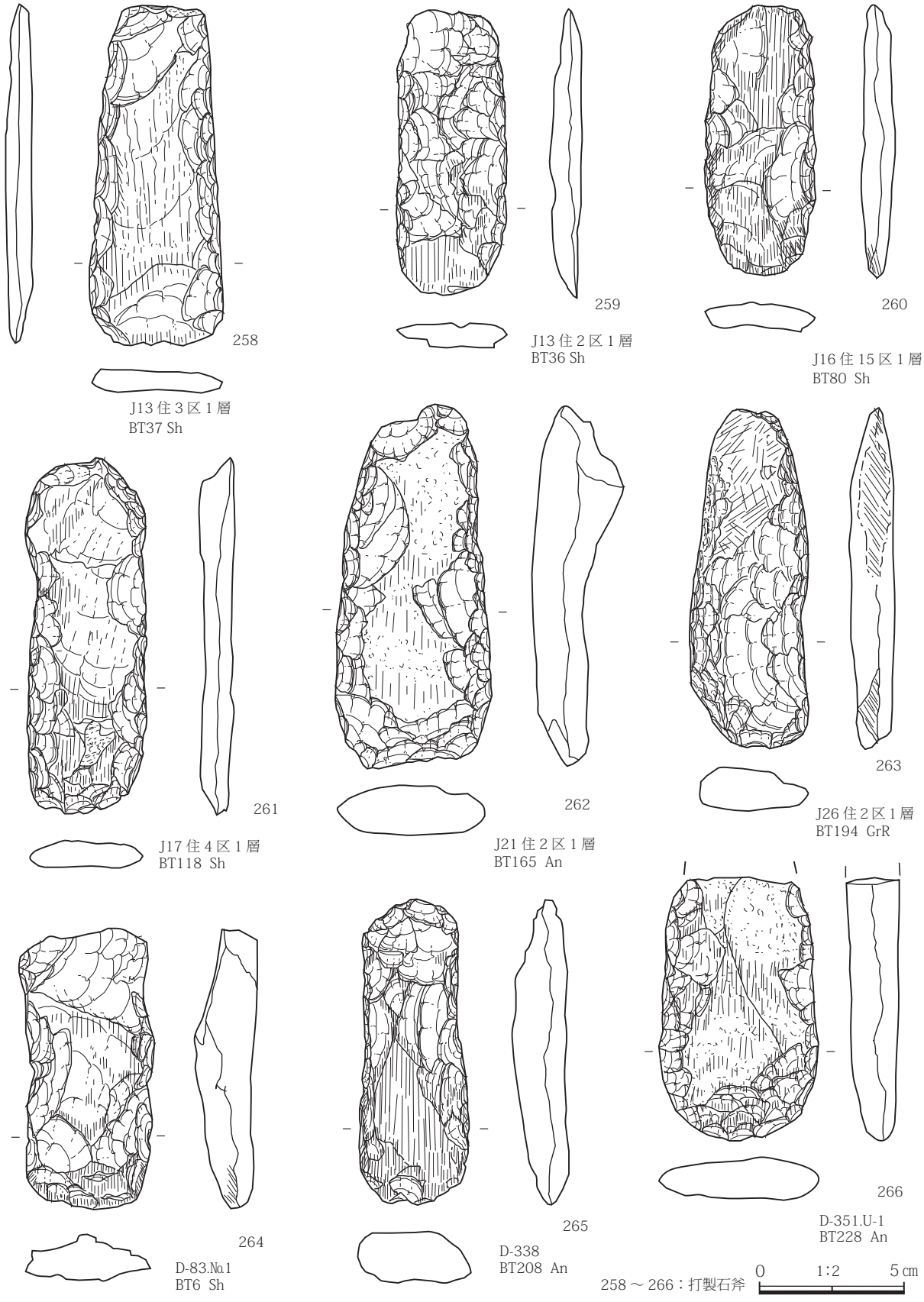
257

D-404
AT170 Ch

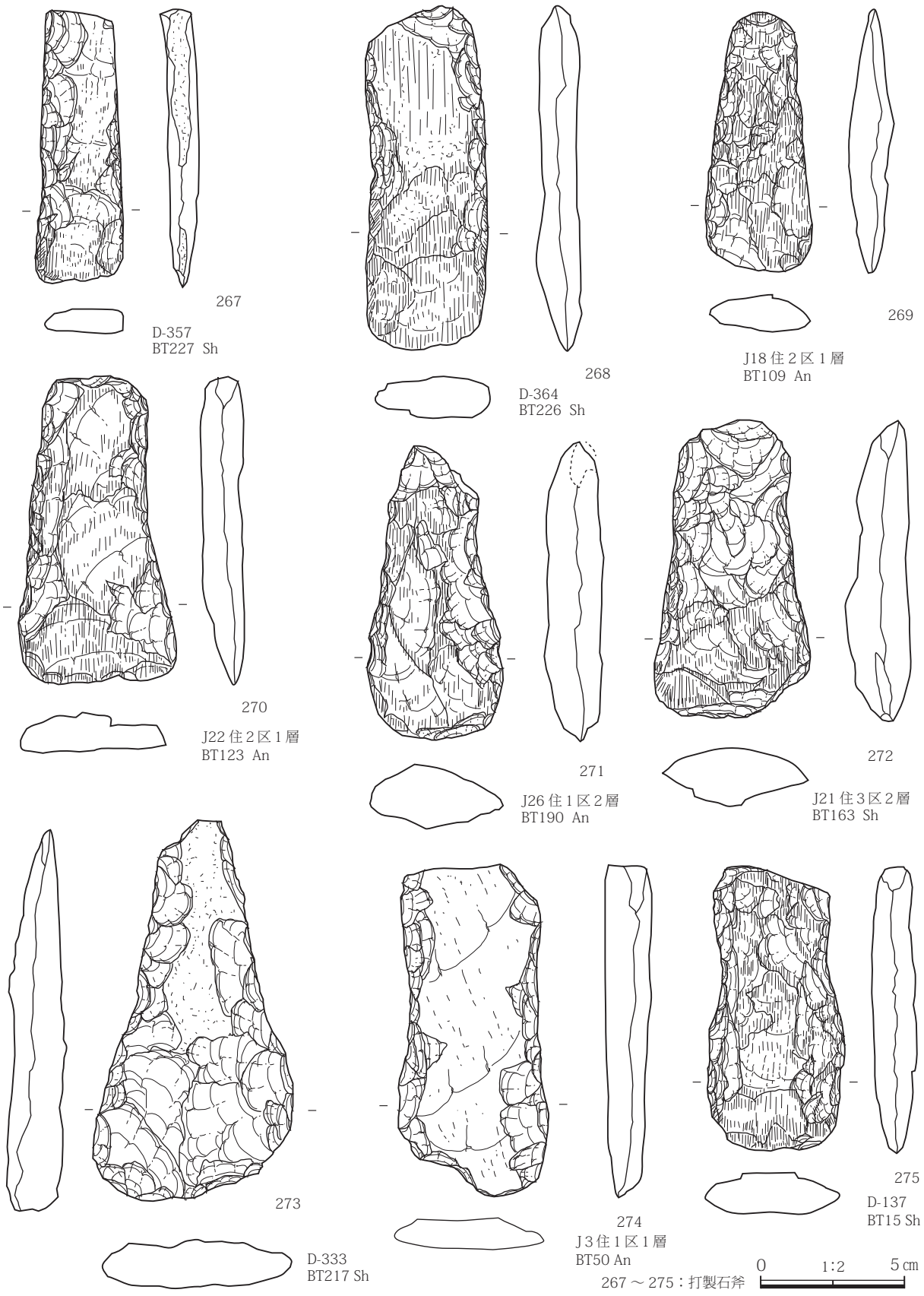
251 ～ 257：石核 A

0 2:3 5 cm

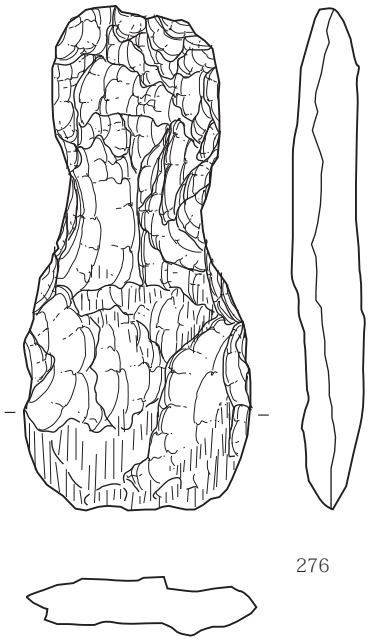
第209図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（6）



第210図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（7）

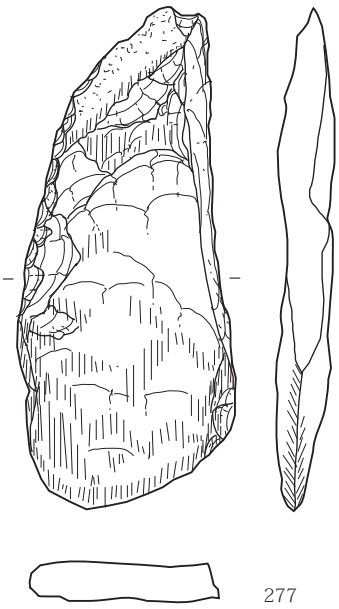


第211図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（8）



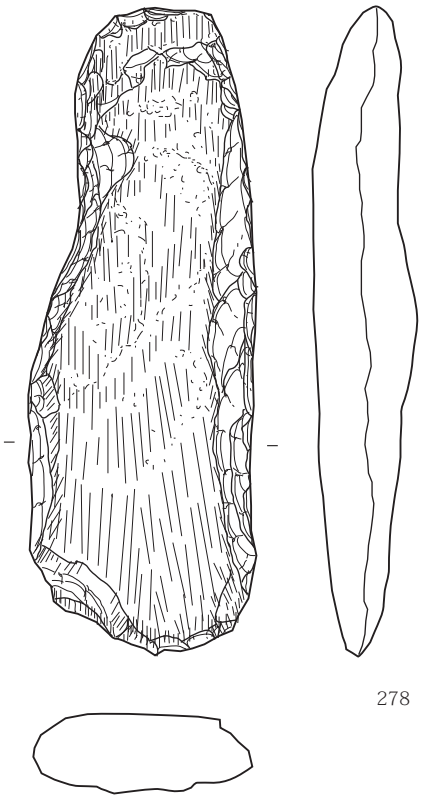
276

J33 住 1 区 1 層
BT243 Sh



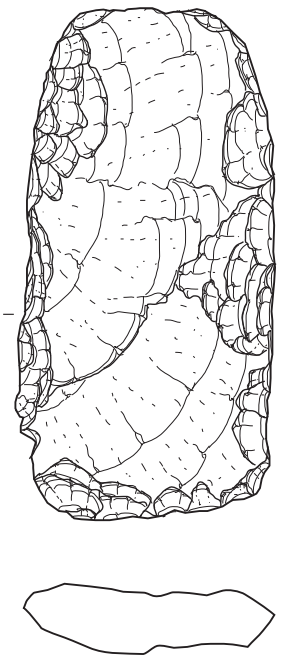
277

J5 住 4 区 2 層
BT89 Sh



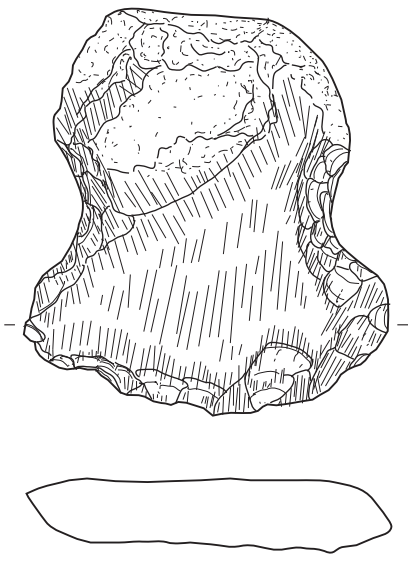
278

J16 住 8 区 2 層
BT84 An



279

J33 住炉内
BT236 An

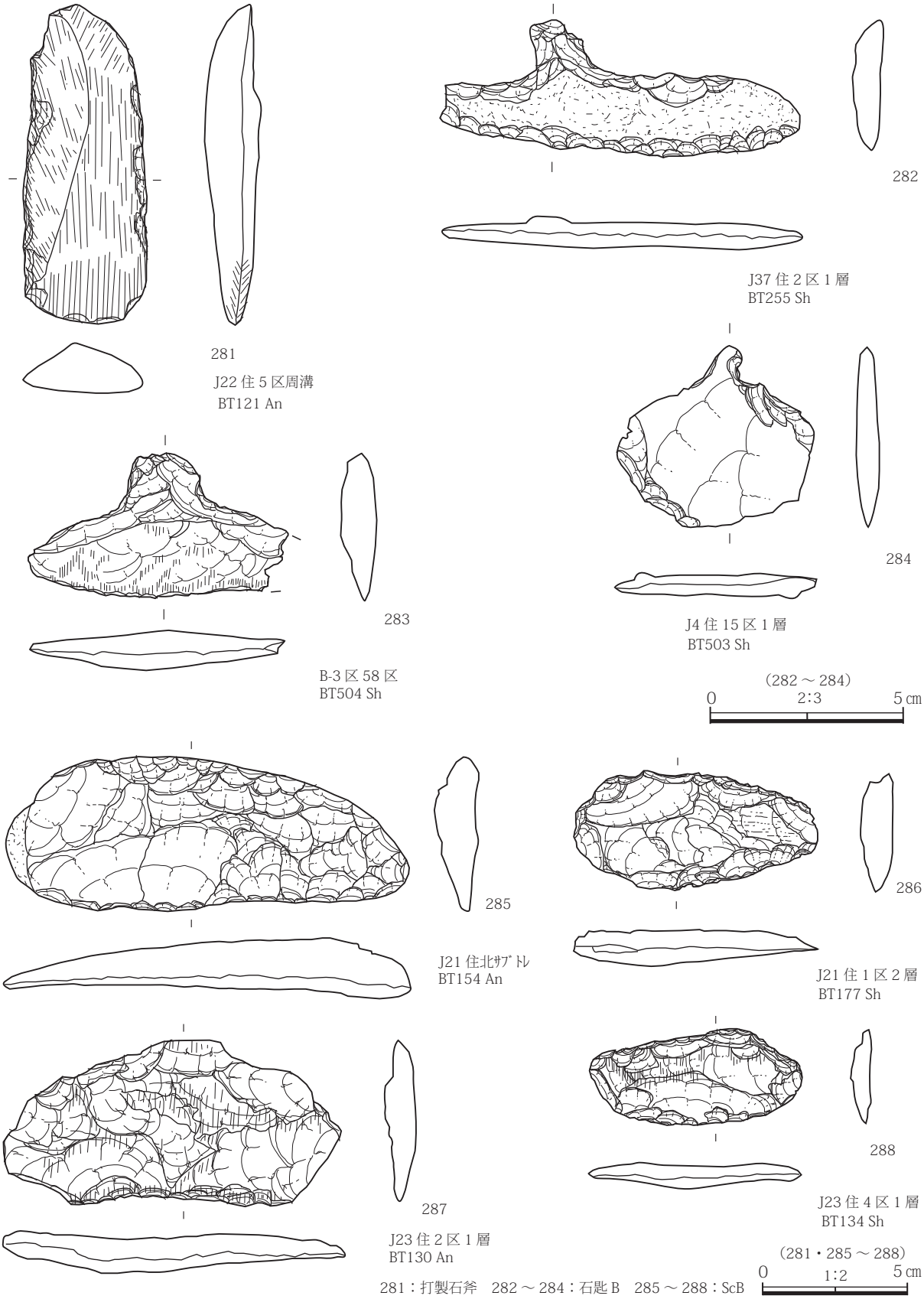


280

J21 住 2 区 2 層
BT158 Sh

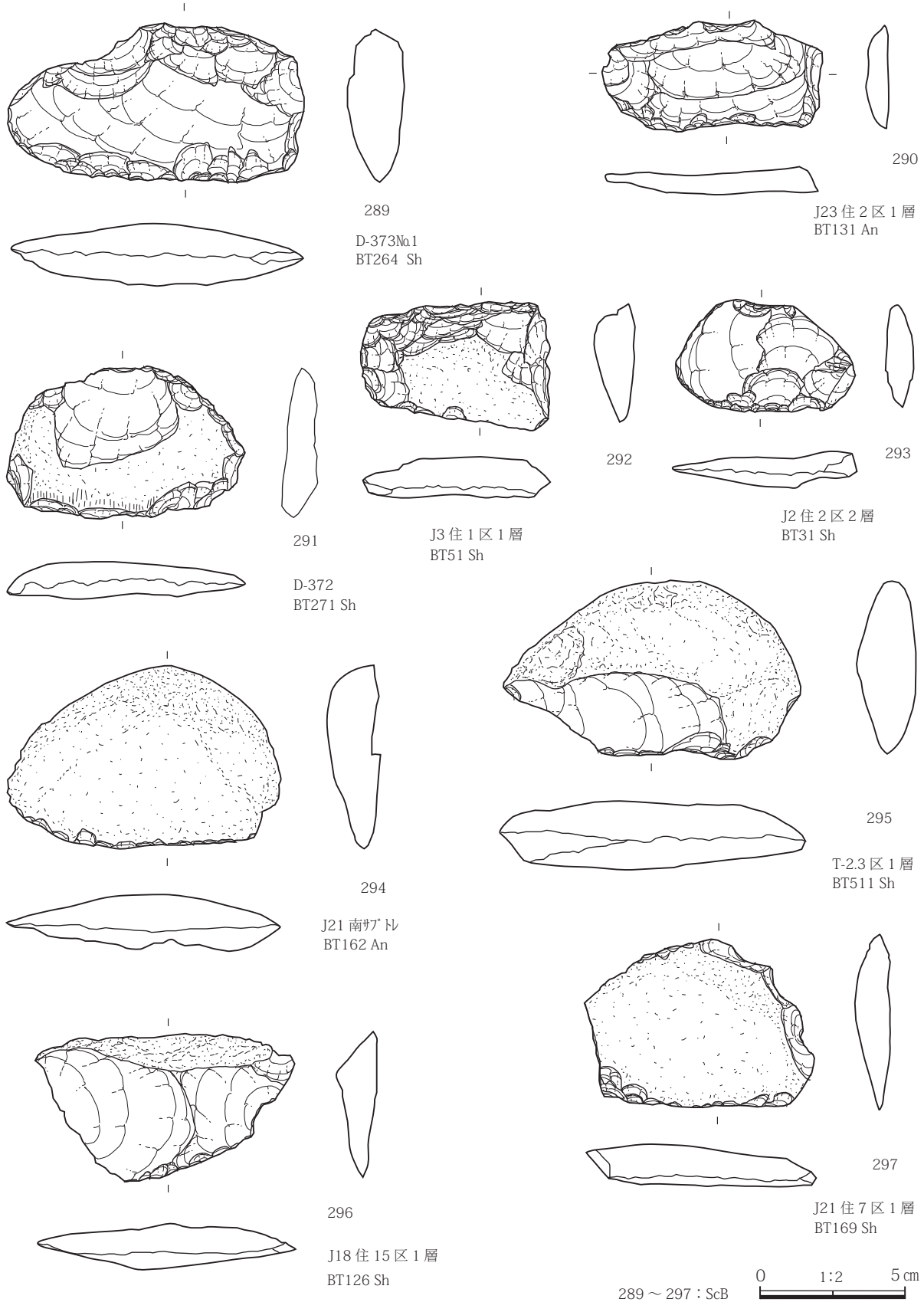
276 ～ 280：打製石斧　0　1:2　5 ㎝

第212図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（9）

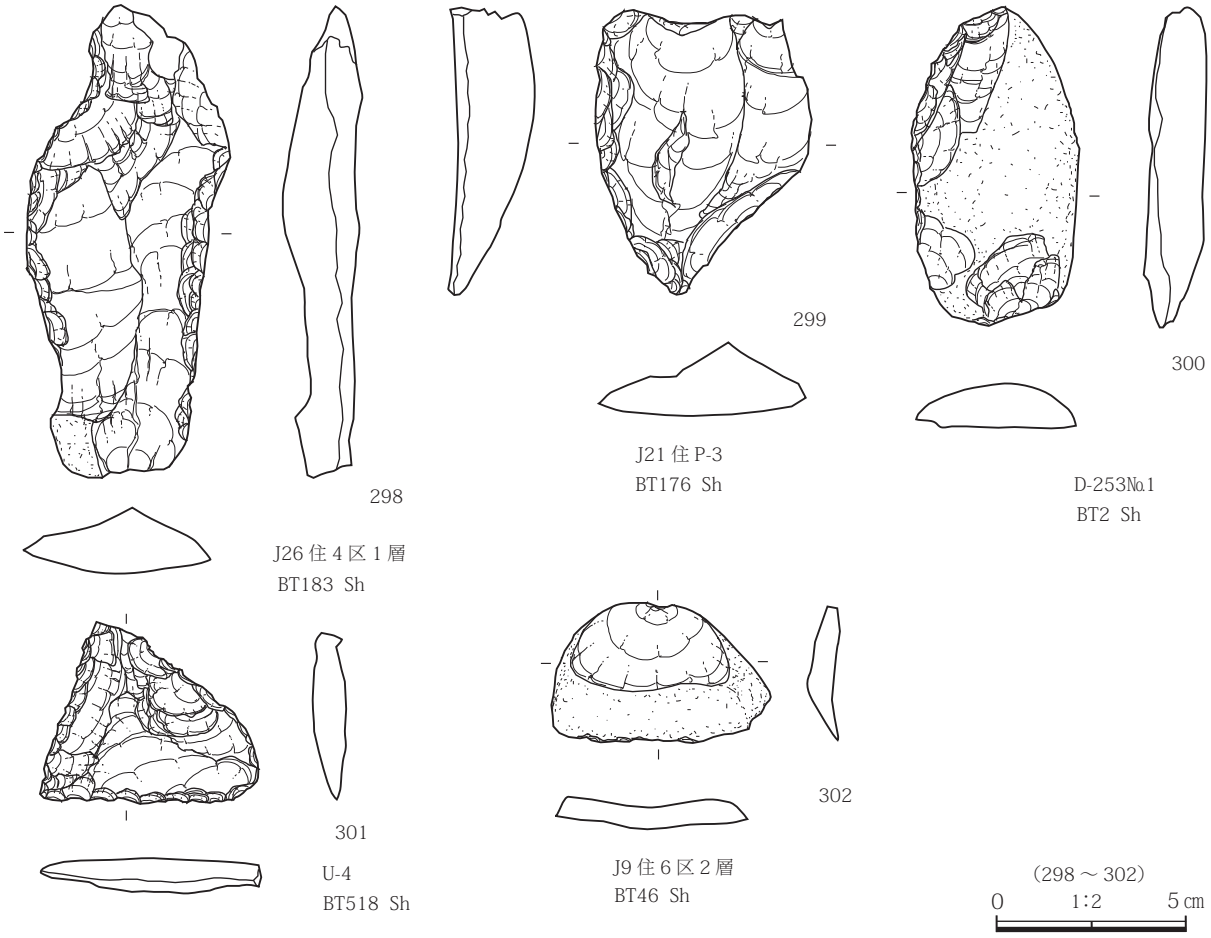


281：打製石斧　282 ～ 284：石匙 B　285 ～ 288：ScB

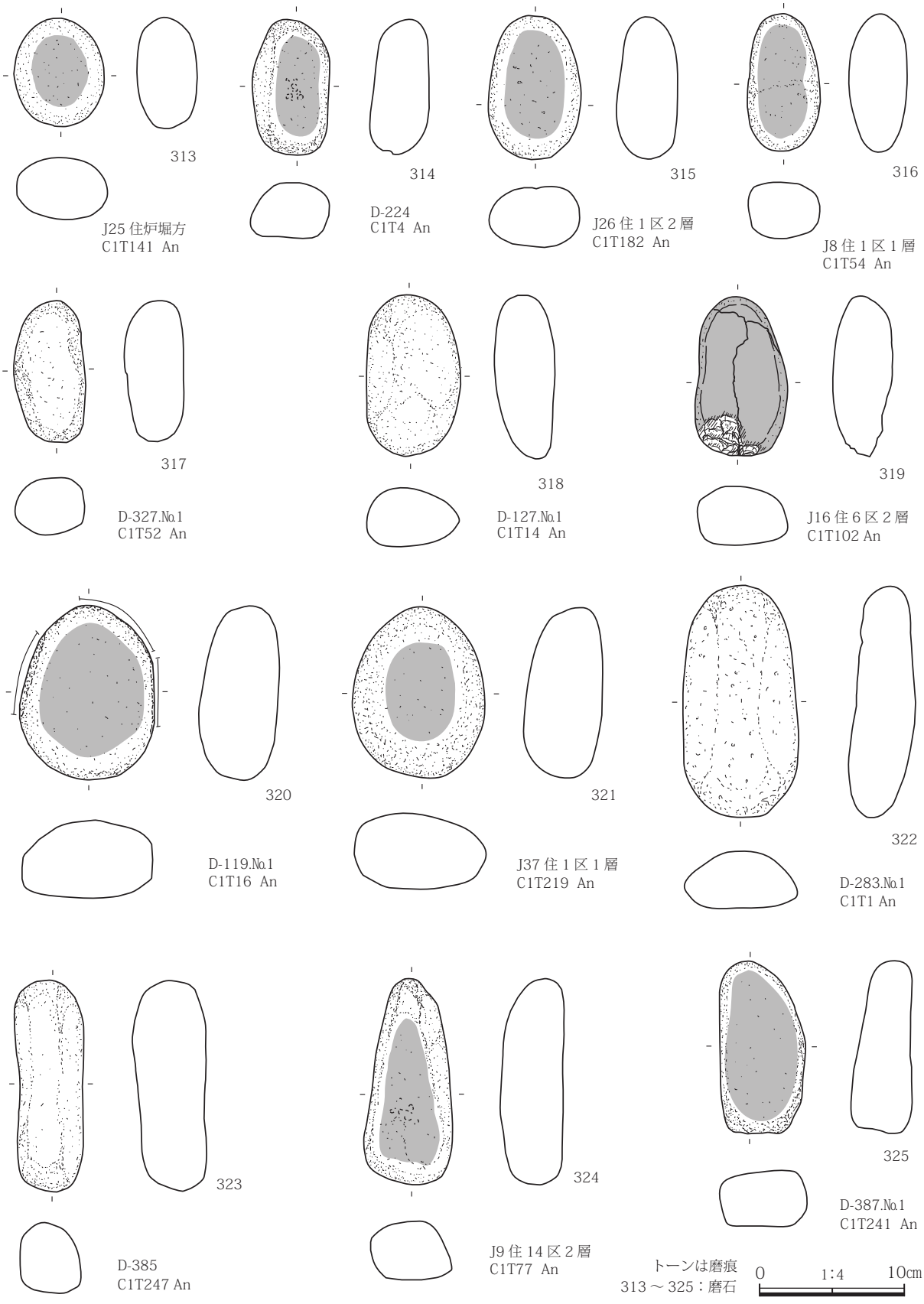
第213図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（10）



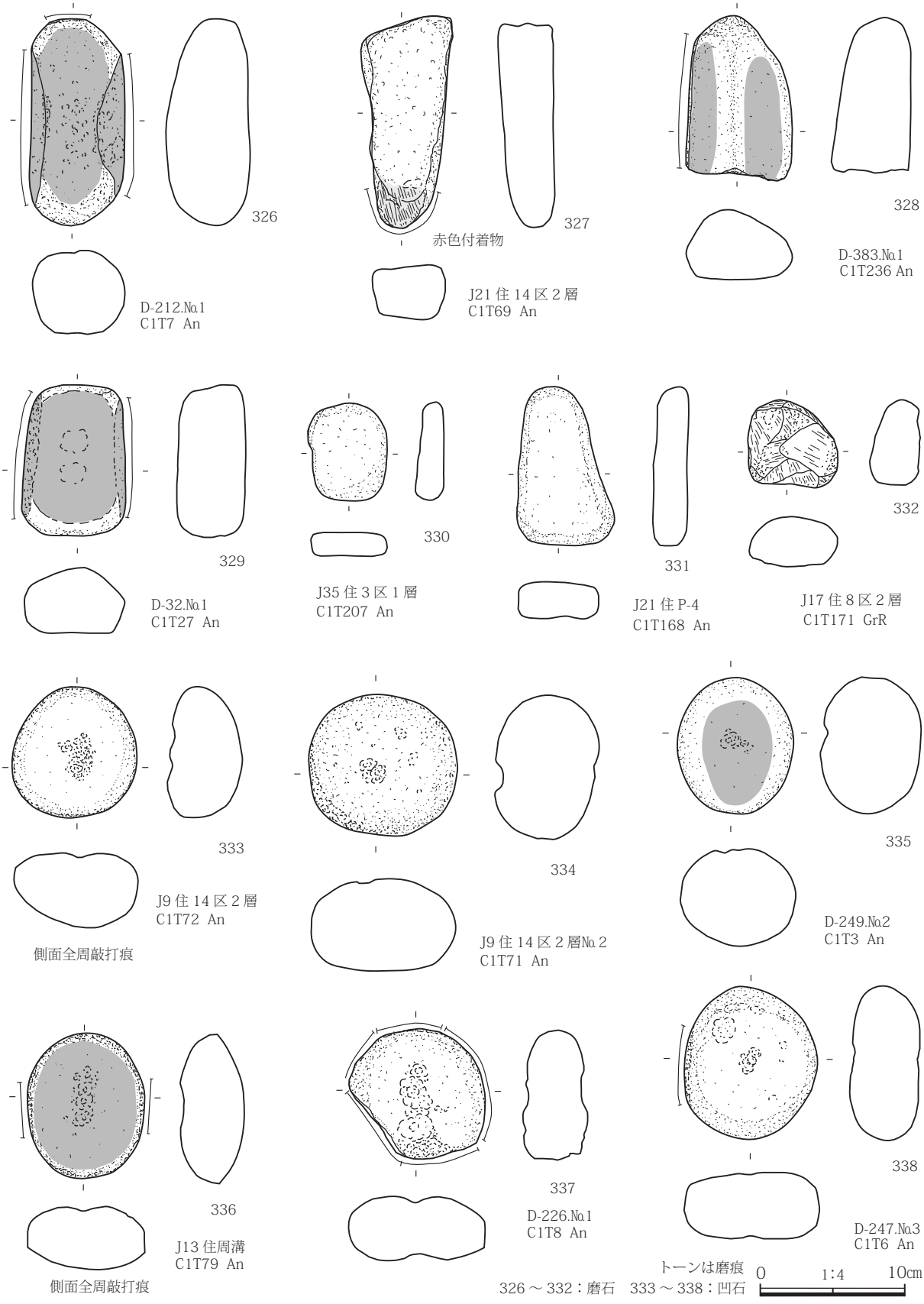
第214図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（11）



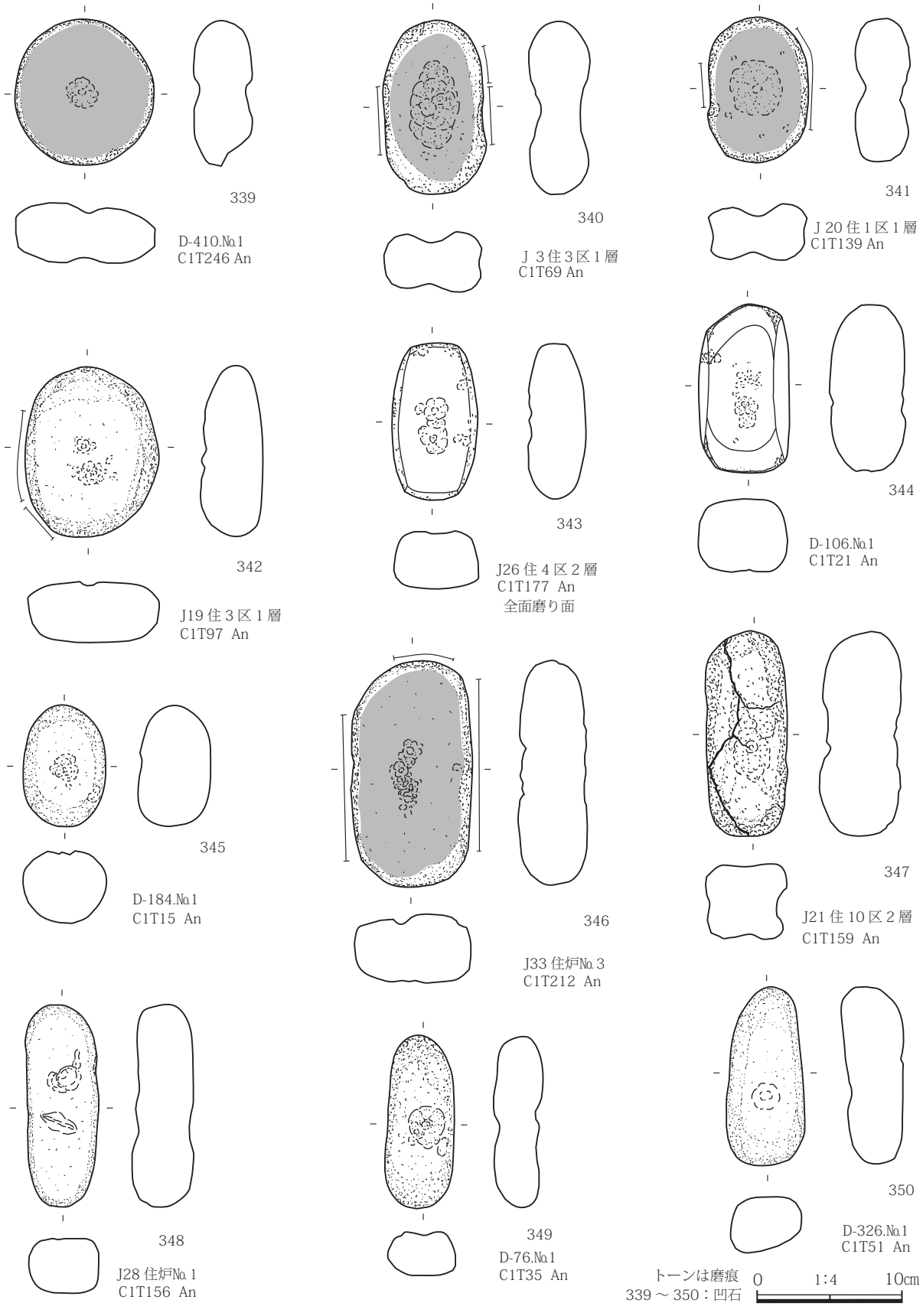
第215図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（12）



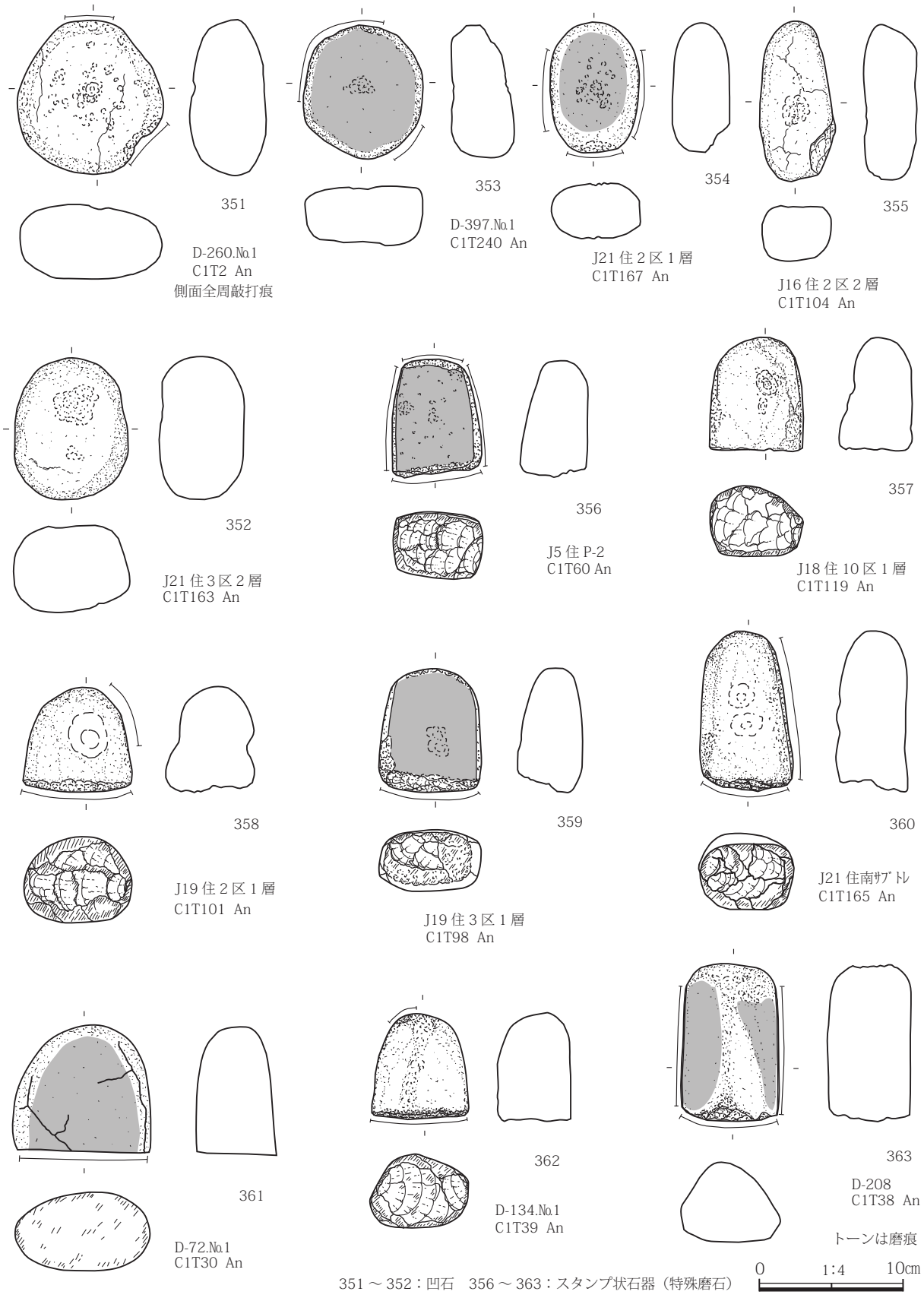
第216図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（13）



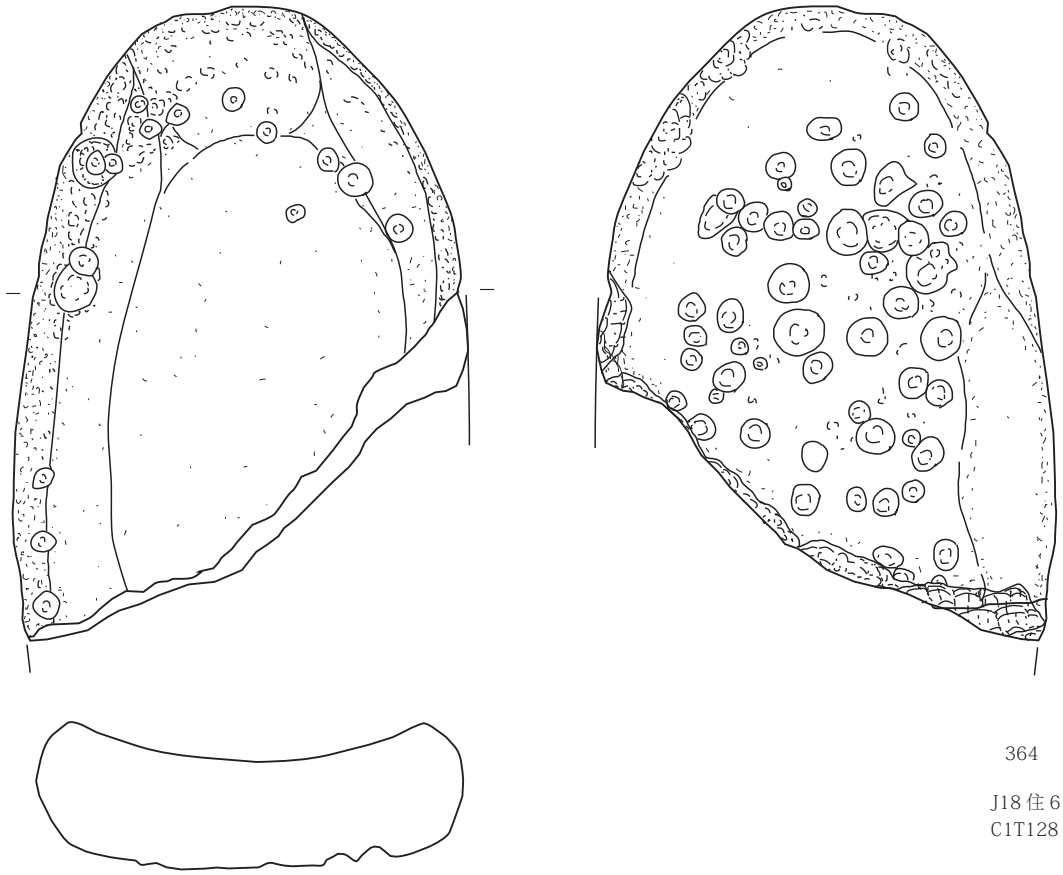
第217図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（14）



第218図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（15）

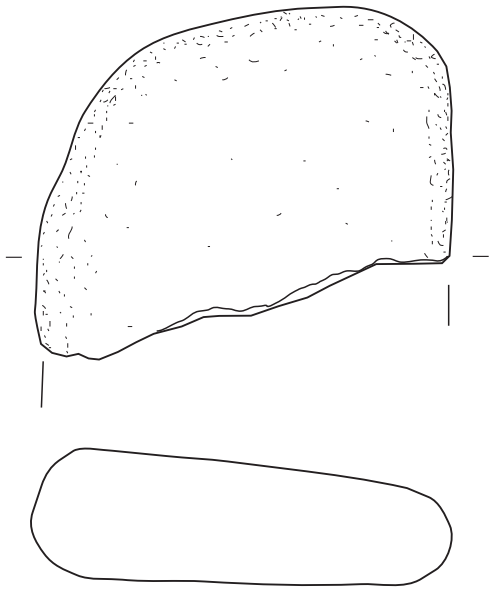


第219図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（16）



364

J18 住 6 区下部
C1T128 An



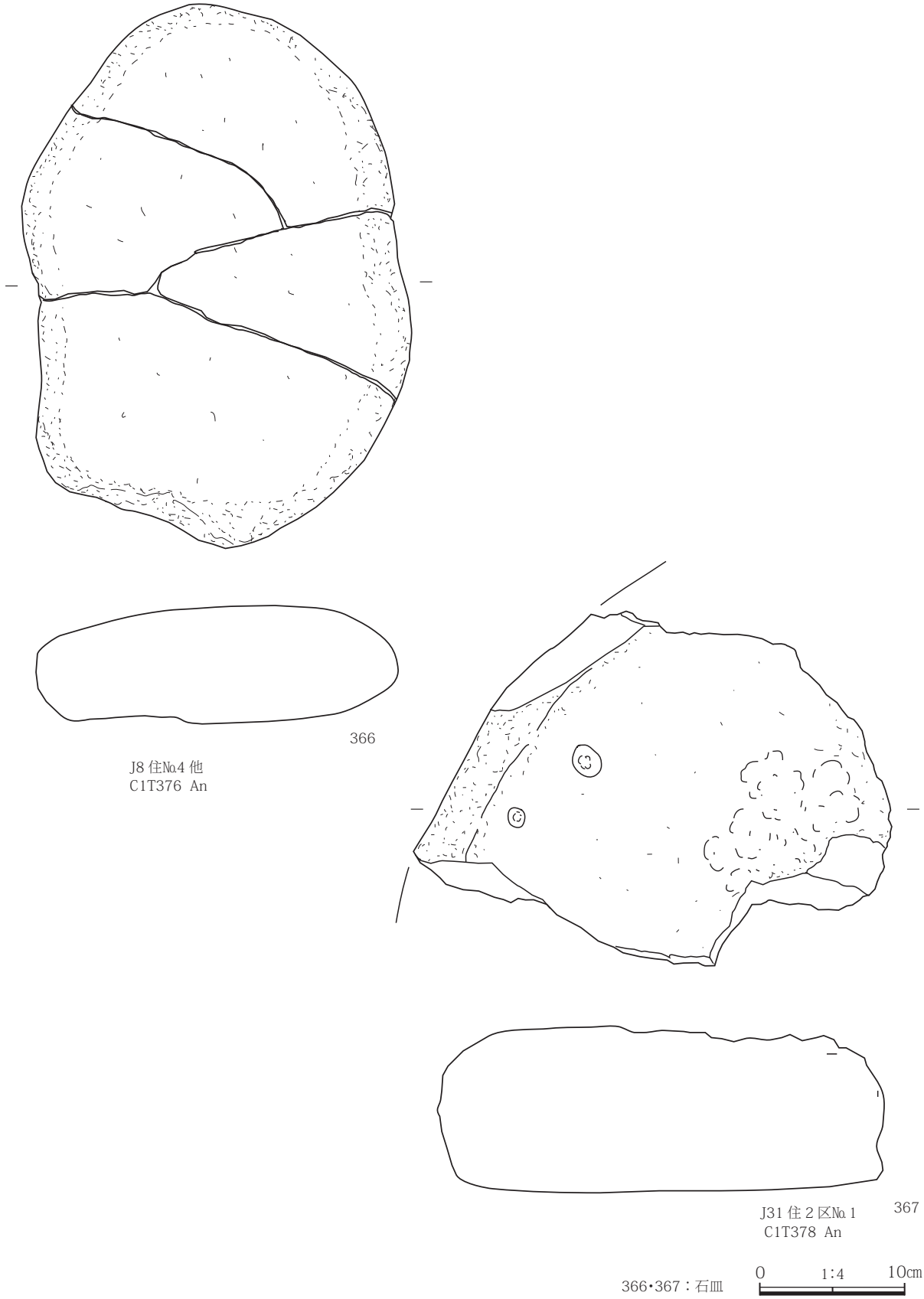
365

J4 住 5 区 1 層
C1T377 An

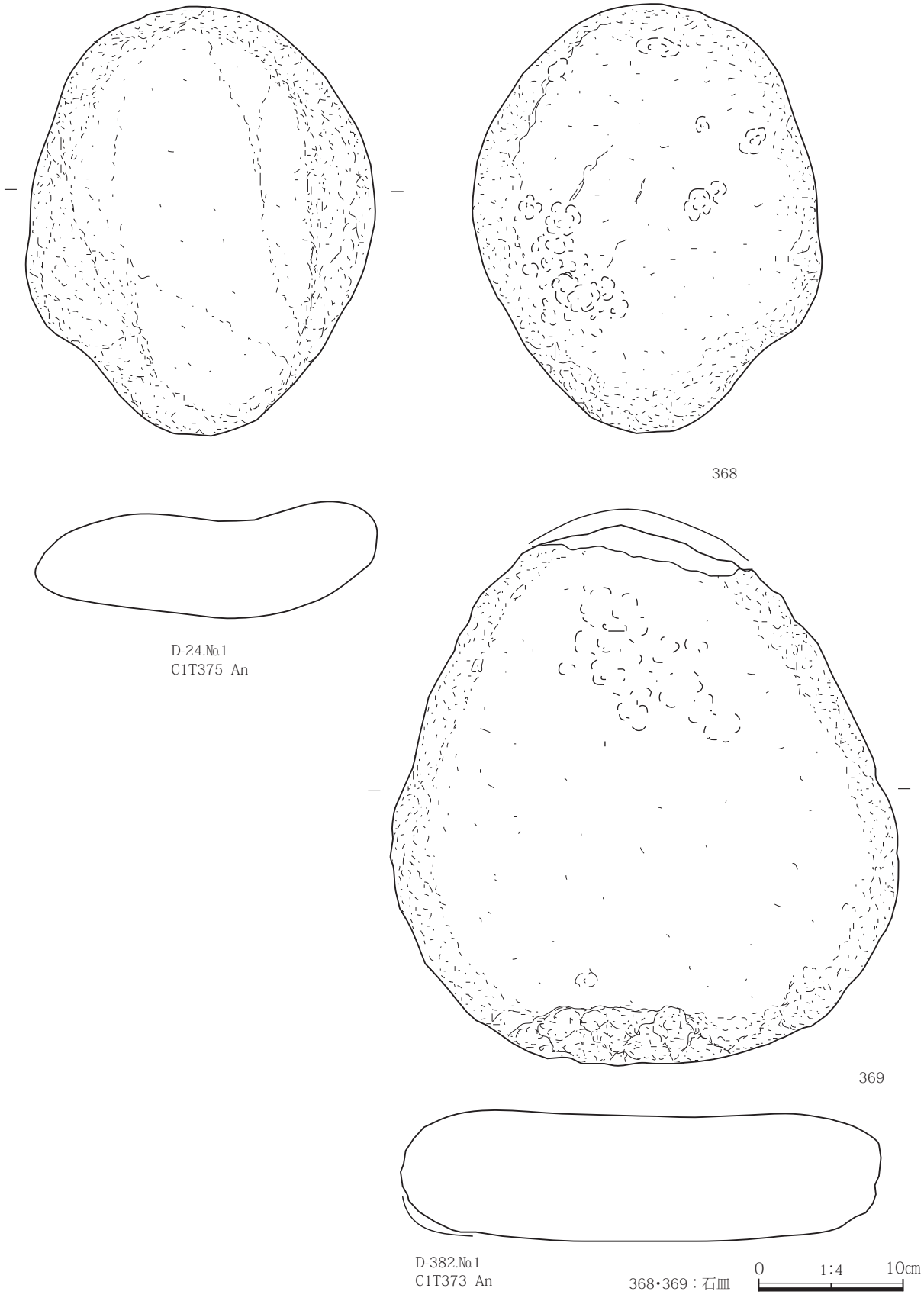
364･365：石皿

0 1:4 10cm

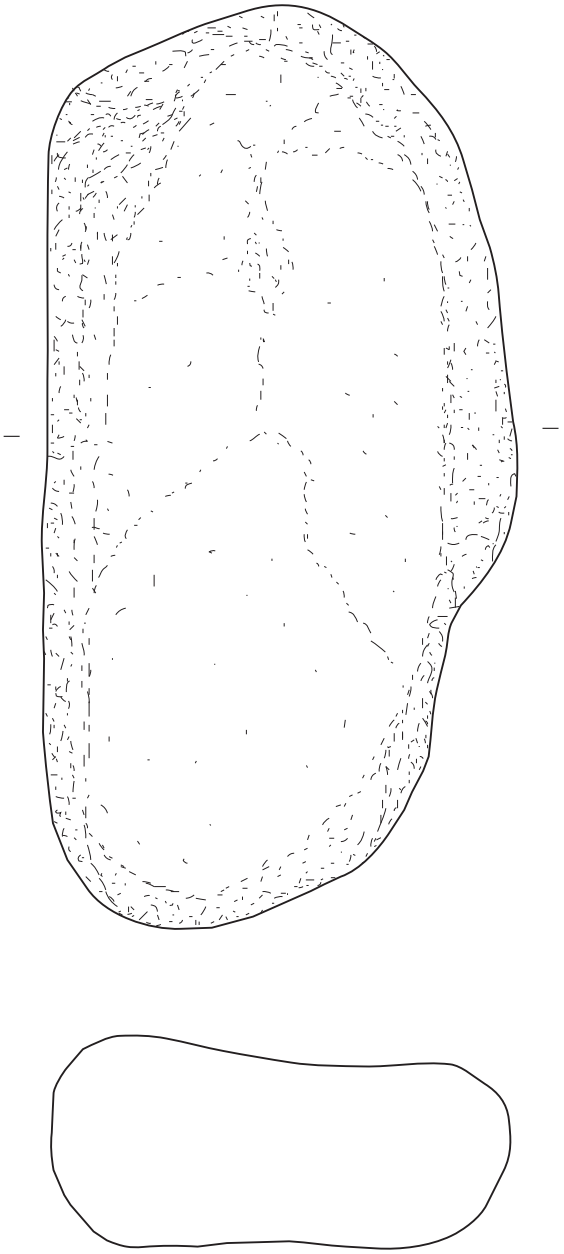
第220図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（17）



第221図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（18）



第222図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（19）



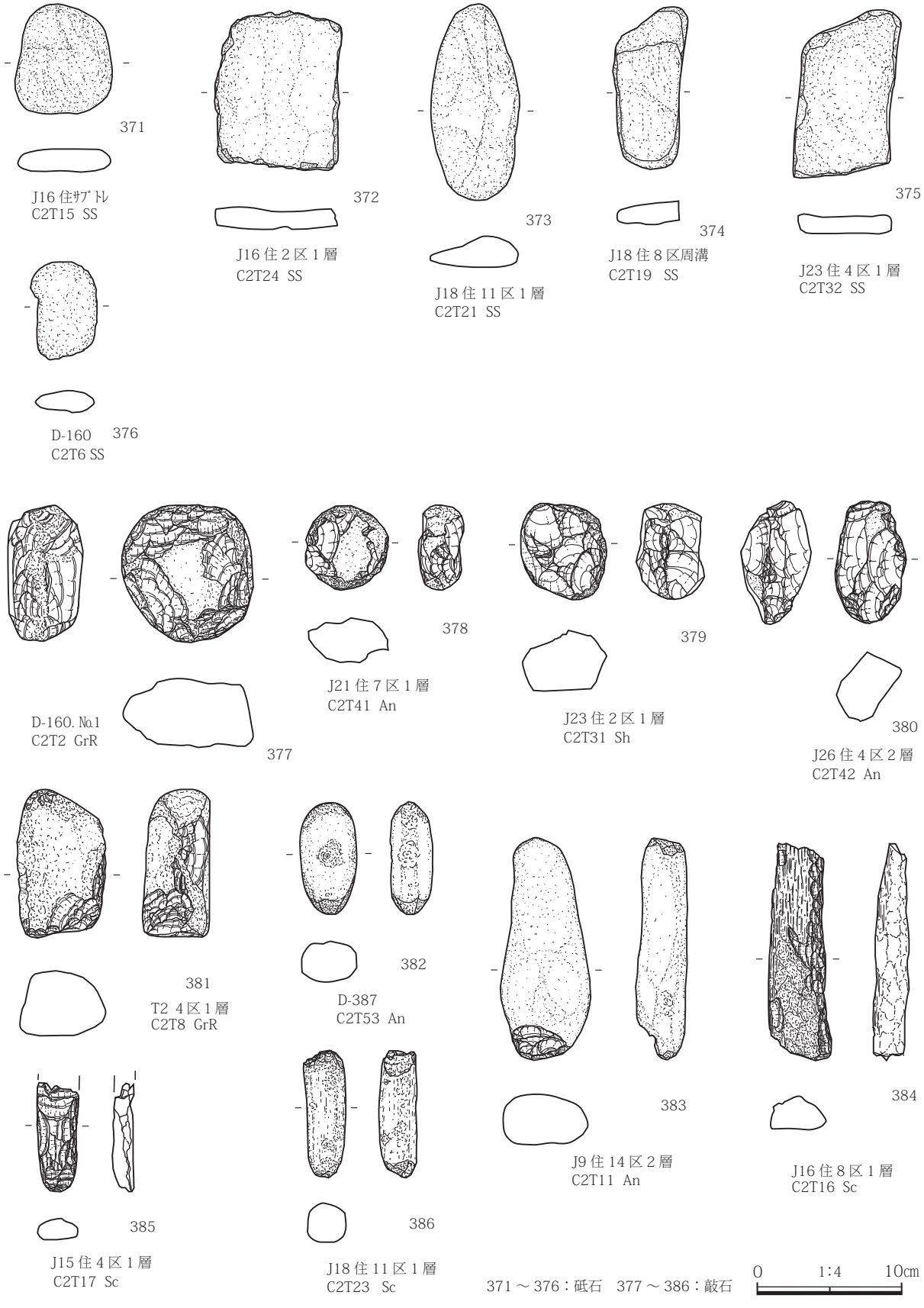
D-378.№1
C1T374 An

370

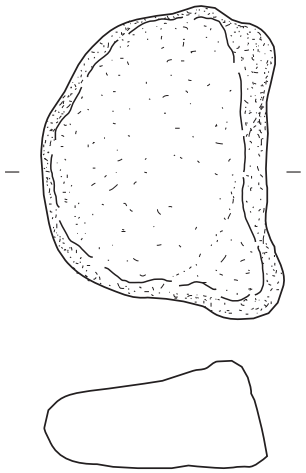
370：石皿

0 1:4 10cm

第223図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（20）

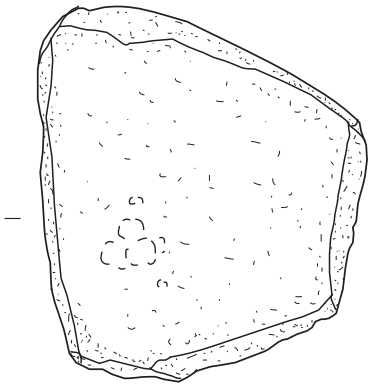


第224図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（21）



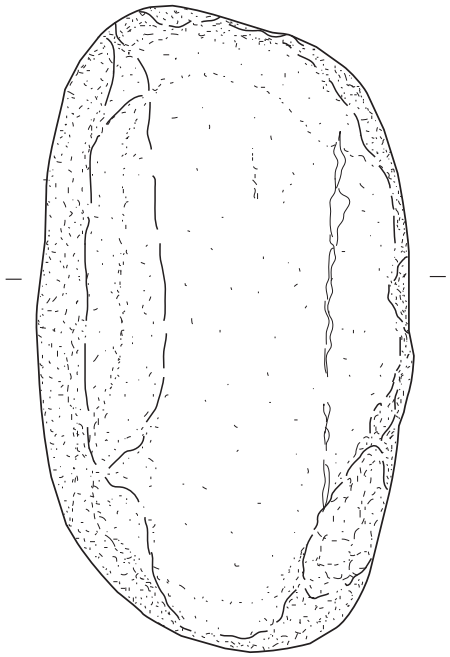
387

J1 住 4 区周溝№ 1
C2T27 An



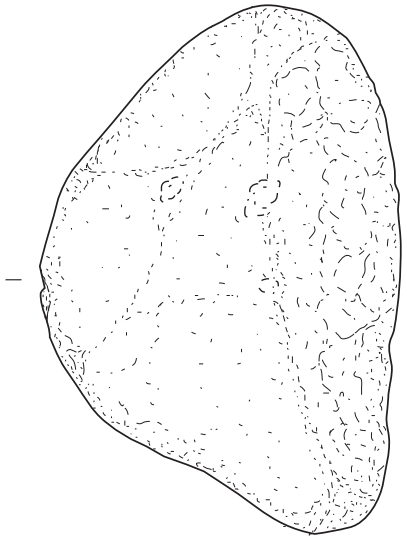
389

J37 住 4 区 1 層
C2T77 An



388

J9 住 13 区 D - 1
C2T76 An



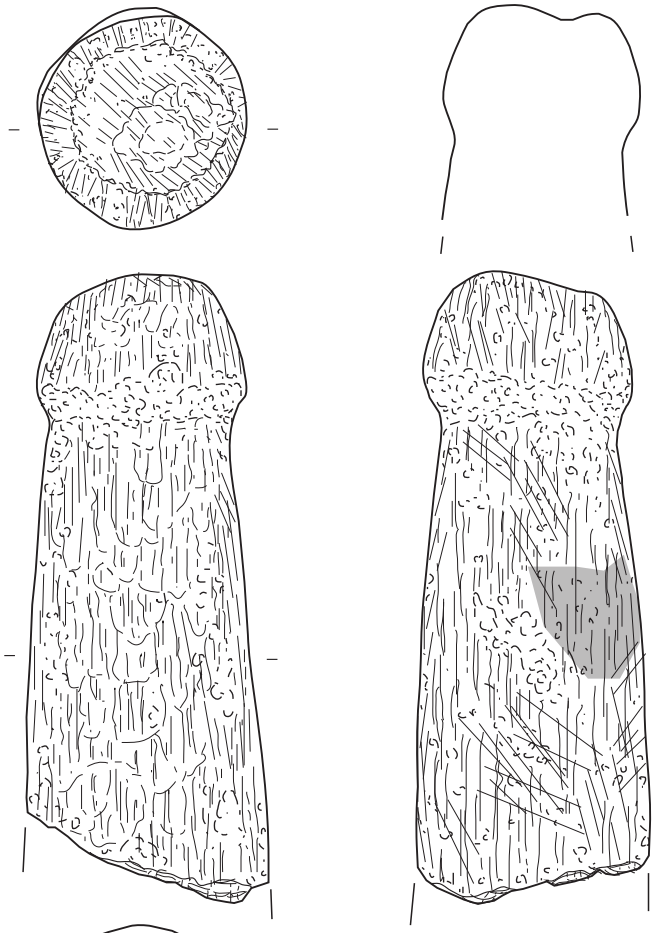
390

D-337
C2T75 An

(388)
0 1:8 20cm

(387・389・390)
387 ～ 390：台石
0 1:4 10cm

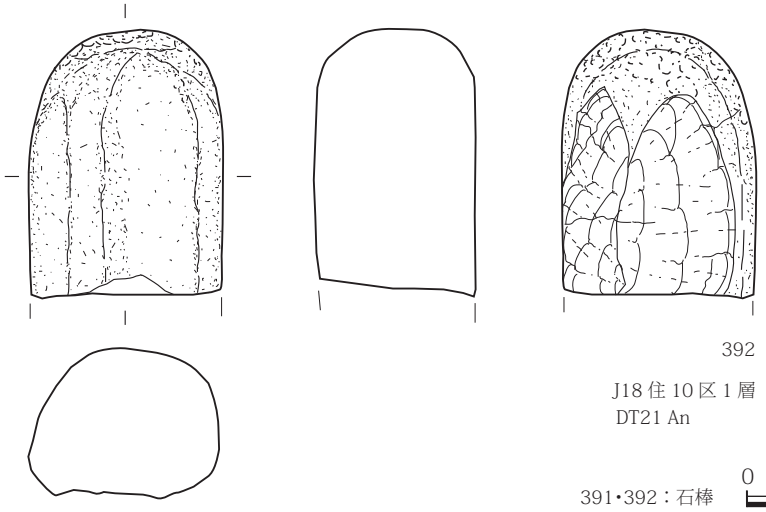
第225図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（22）



※トーンは被熱

391

J33 住炉
DT50 Sc

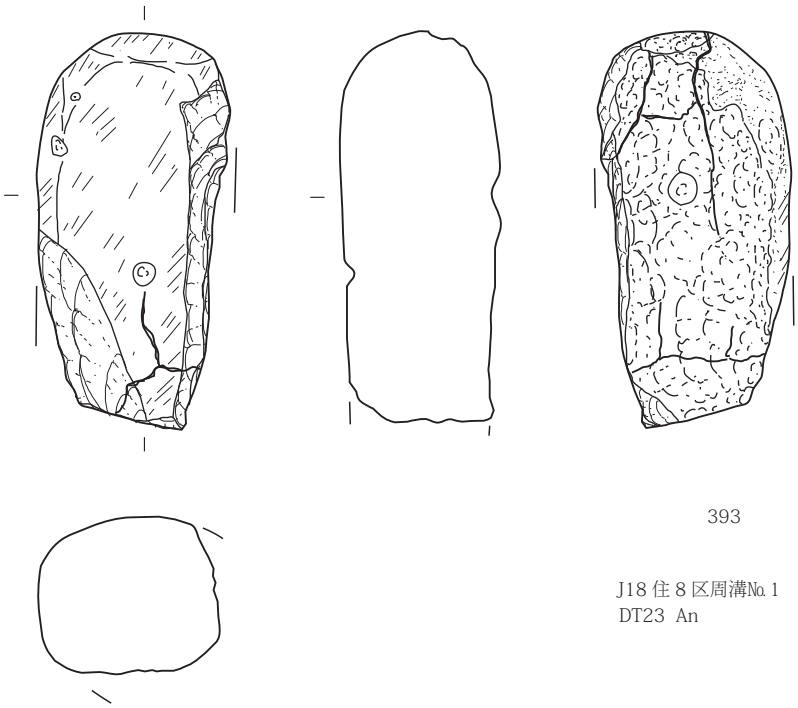


392

J18 住 10 区 1 層
DT21 An

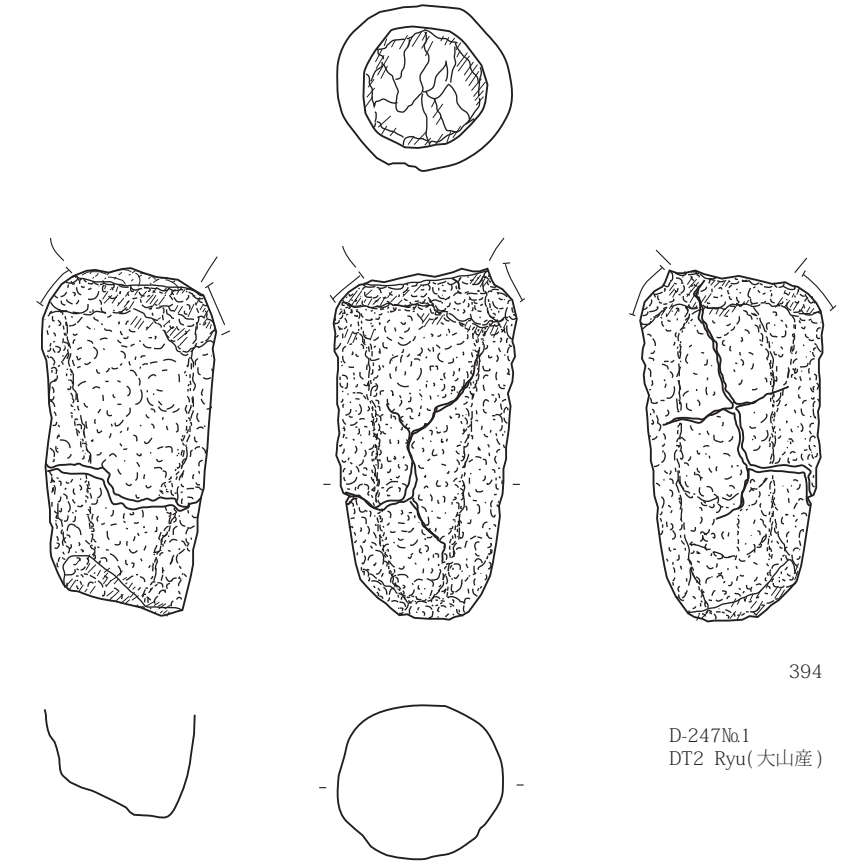
391・392：石棒　0　1:4　10cm

第226図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（23）



393

J18 住 8 区周溝№1
DT23 An

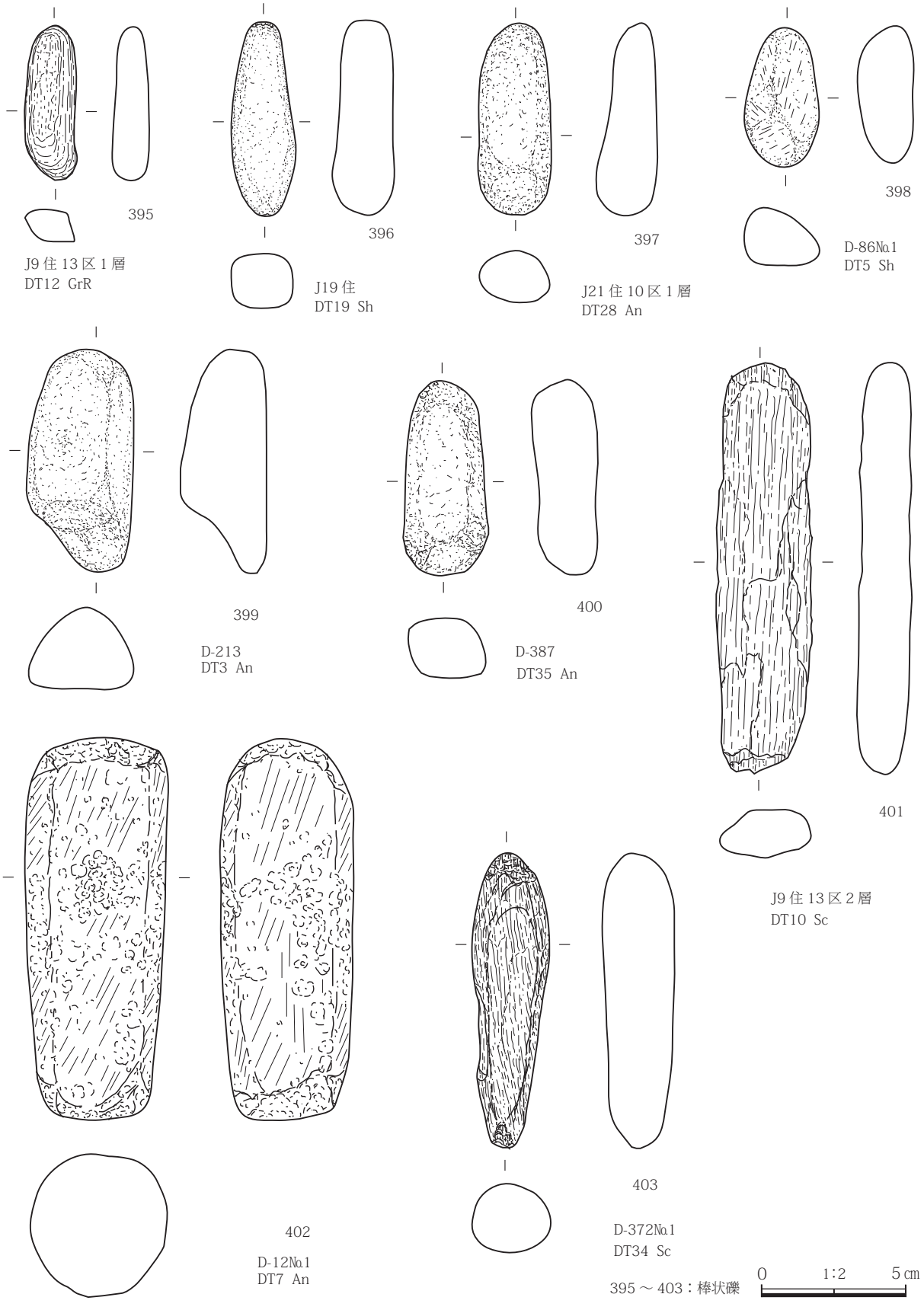


394

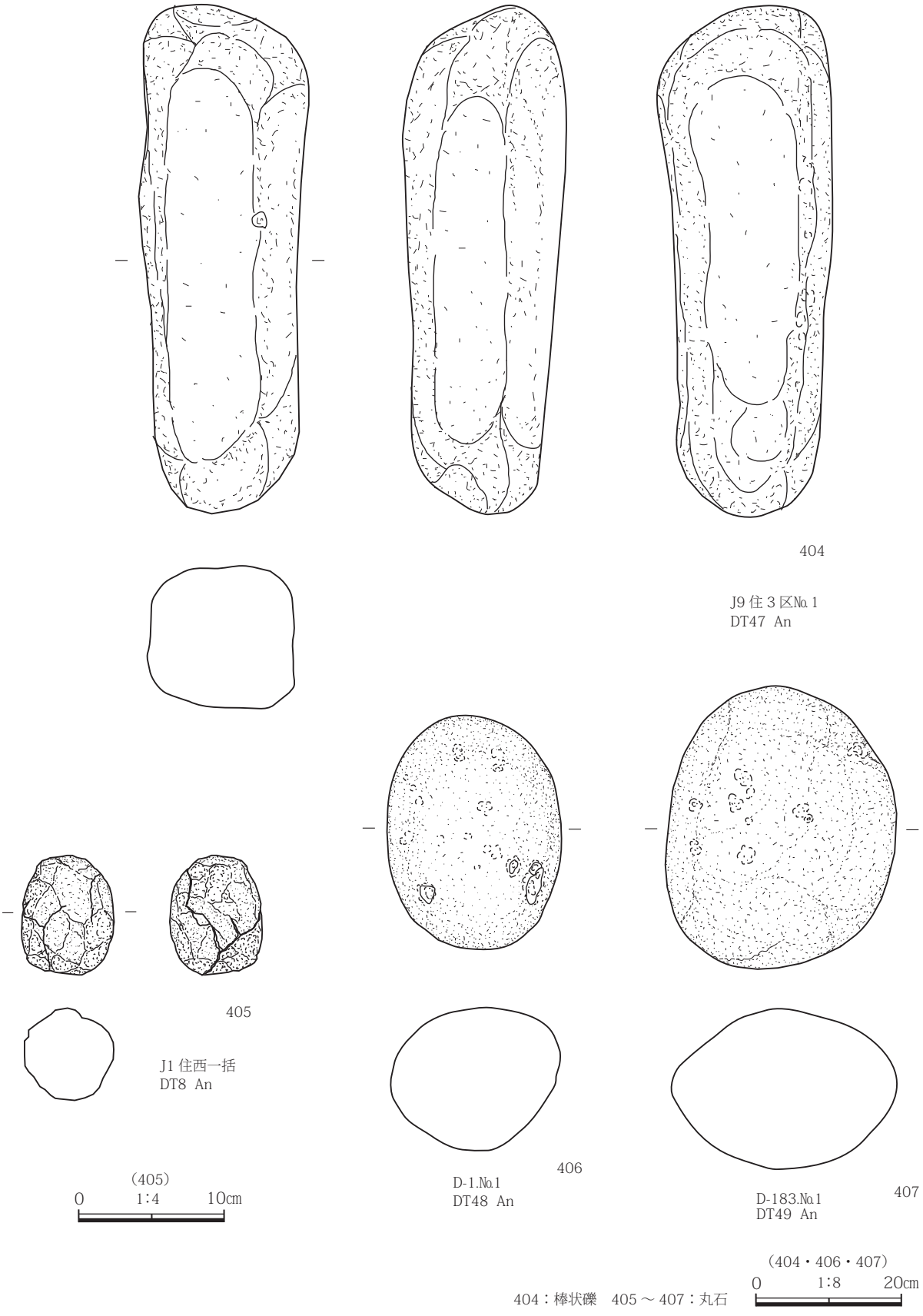
D-247№1
DT2 Ryu(大山産)

393・394：石棒　0　1:4　10cm

第227図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（24）

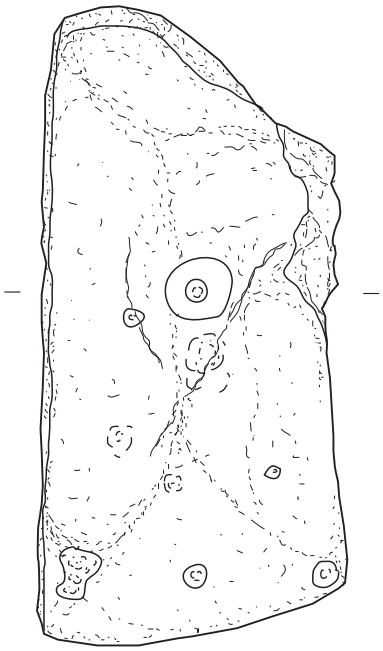


第228図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（25）

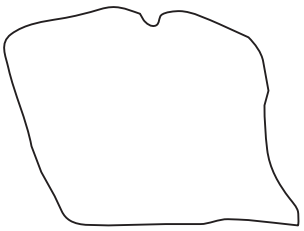


404：棒状礫　405 ～ 407：丸石

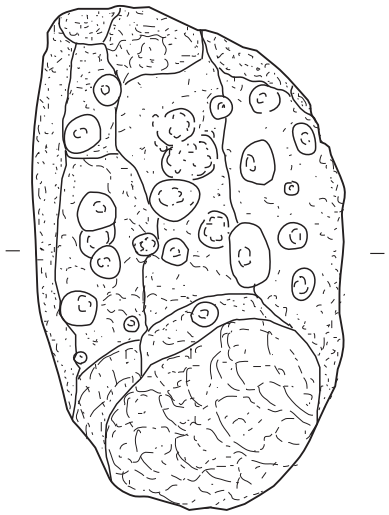
第229図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（26）



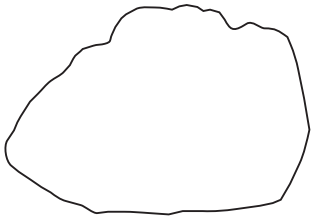
408



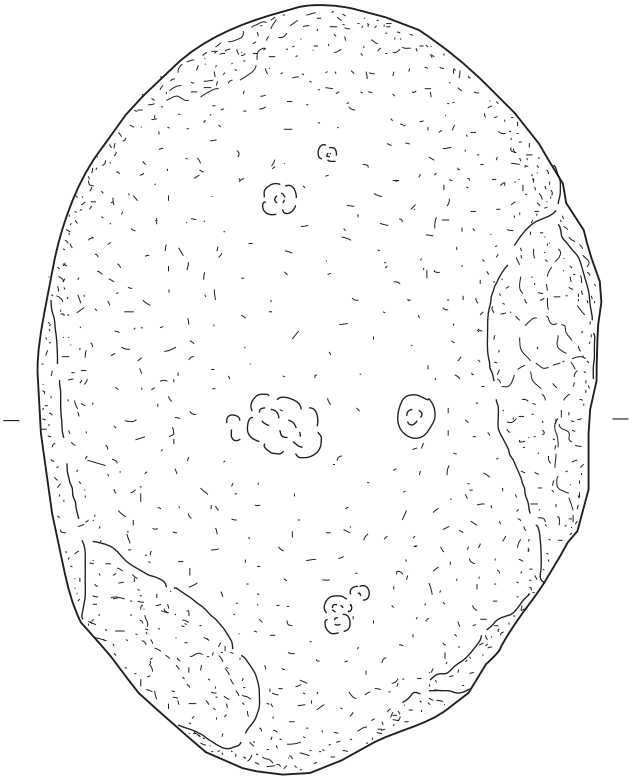
J16 住 4 区 2 層
DT44 An

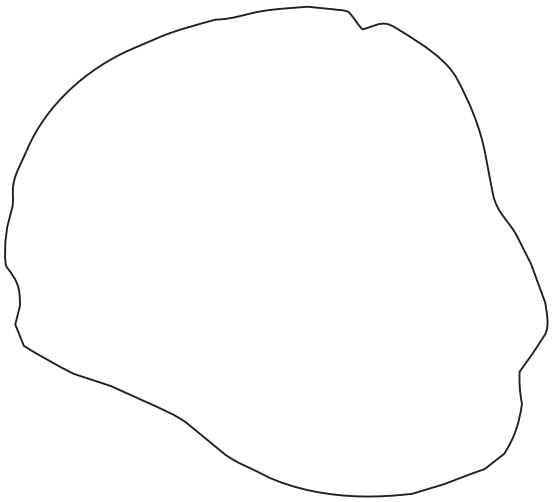


409



J33 住 P -10
DT30 An





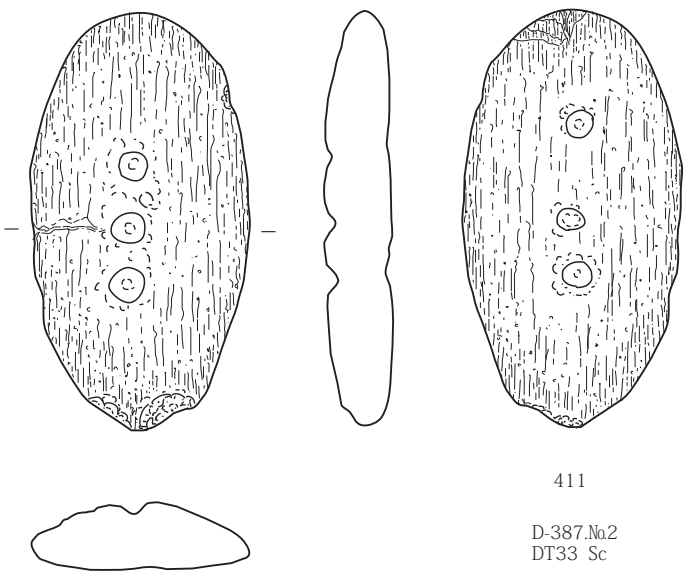
410

D-174.No.1
DT46 An

408 ～ 410：多孔石

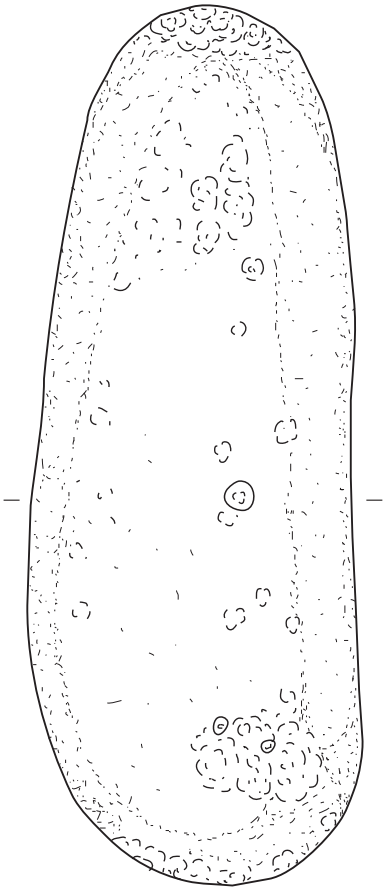
0 1:4 10cm

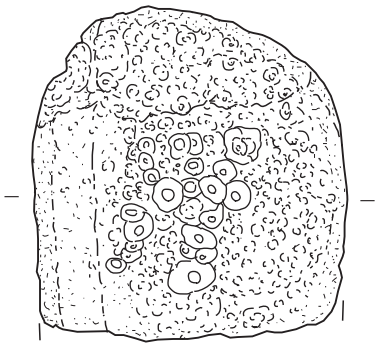
第230図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（27）



411

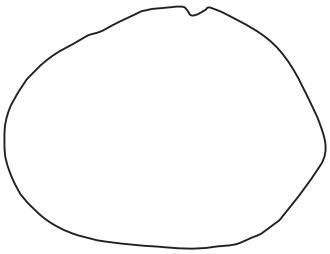
D-387.No.2
DT33 Sc





D-394 No.1
DT31 An

412

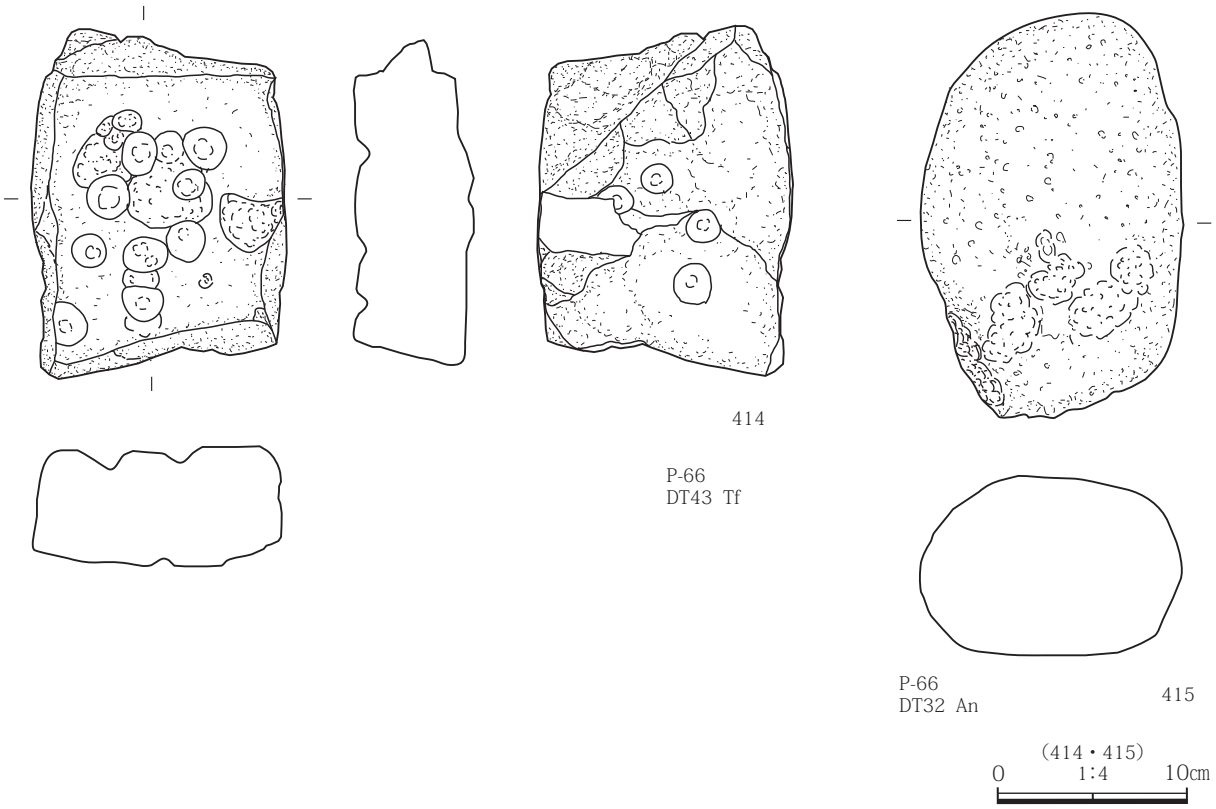


413

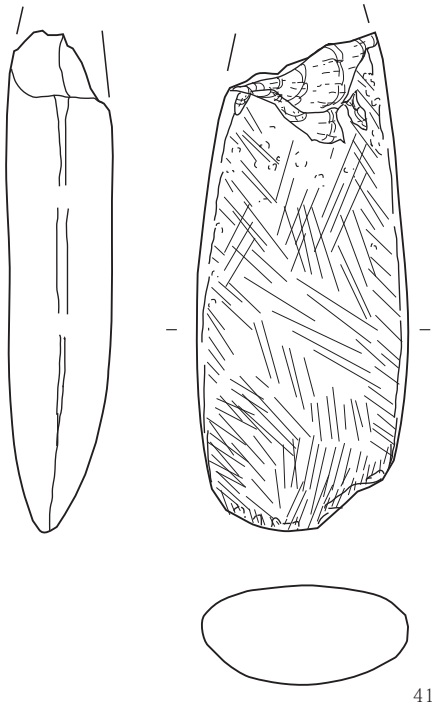
D-398.No.1
DT45 An

411～413：多孔石　0　1:4　10cm

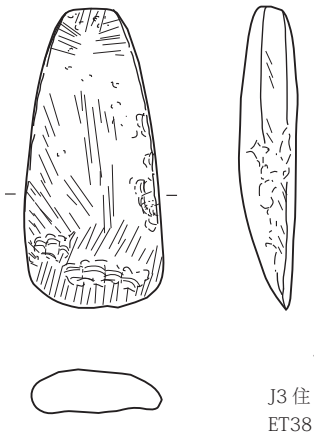
第231図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（28）



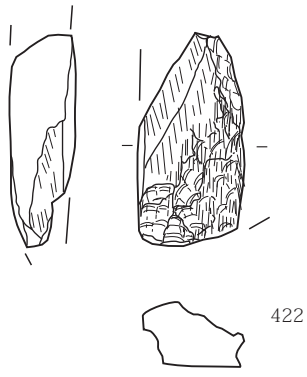
第232図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（29）



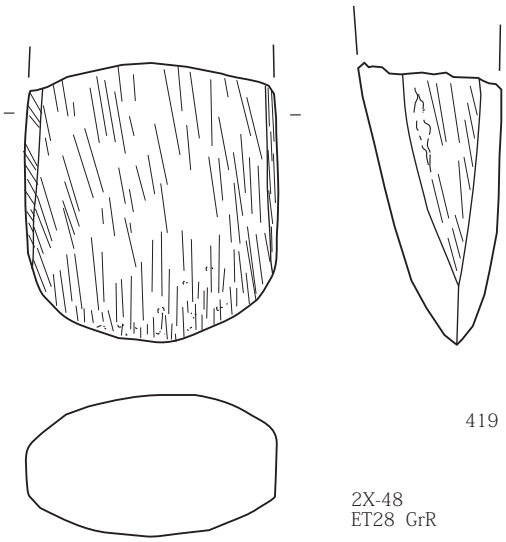
418
表採
ET6 GrR



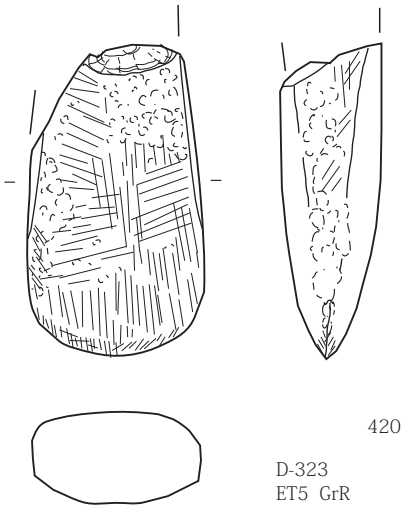
421
J3 住 6 区
ET38 GrR



422
J21 住 12 区 2 層
ET17 蛇紋岩



419
2X-48
ET28 GrR



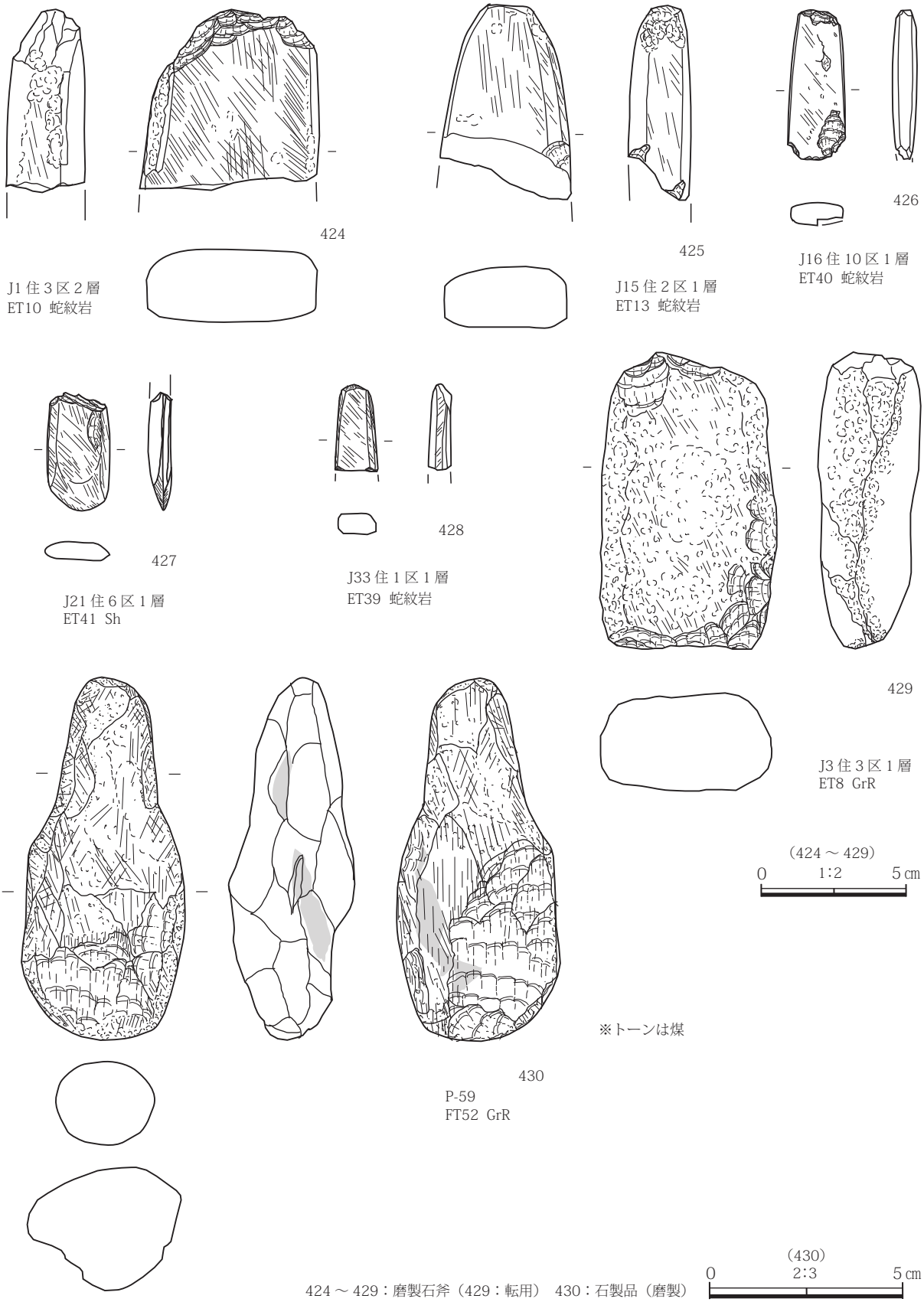
420
D-323
ET5 GrR

トーンは煤
D-364
ET20 Sh
423

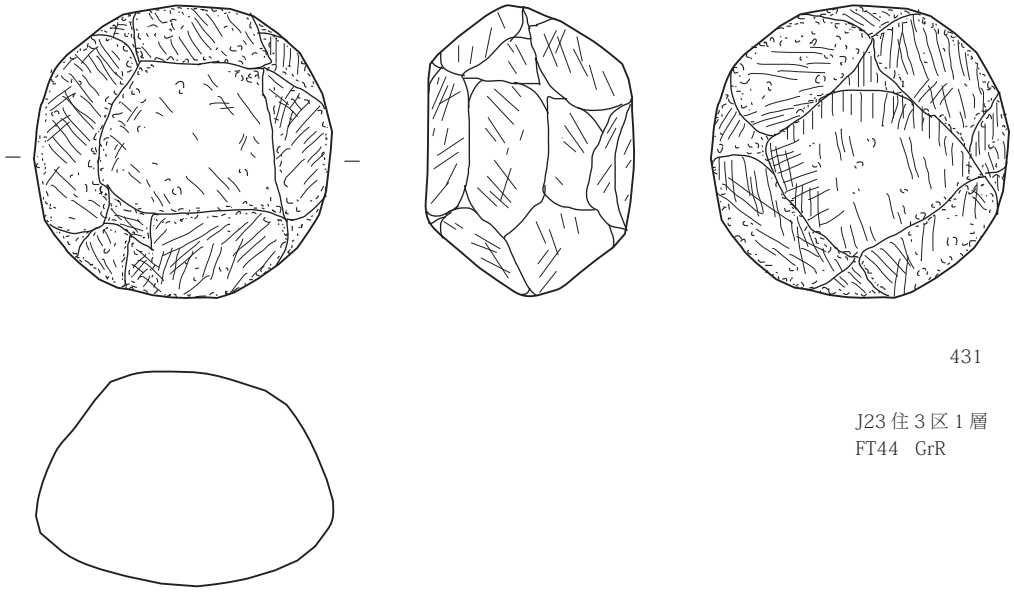
418 ～ 423：磨製石斧（422・423：転用）

0 1:2 5㎝

第233図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（30）

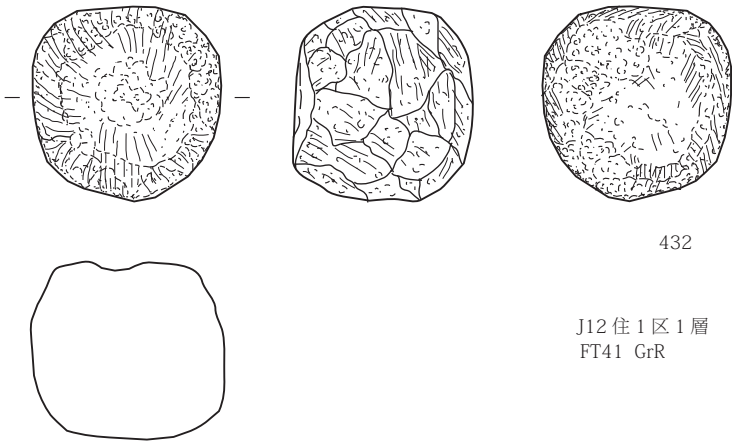


第234図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（31）



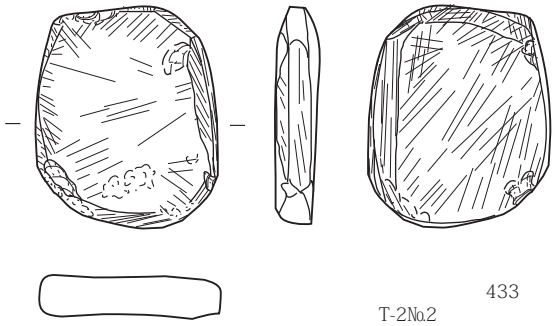
431

J23 住 3 区 1 層
FT44　GrR



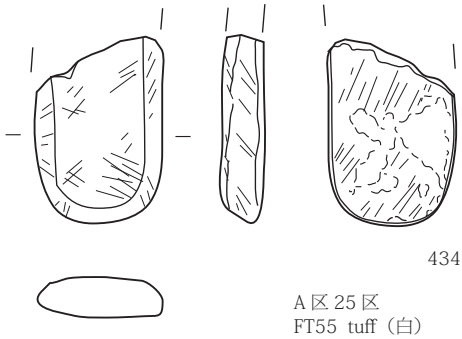
432

J12 住 1 区 1 層
FT41　GrR



433

T-2№2
FT51　tuff（白）



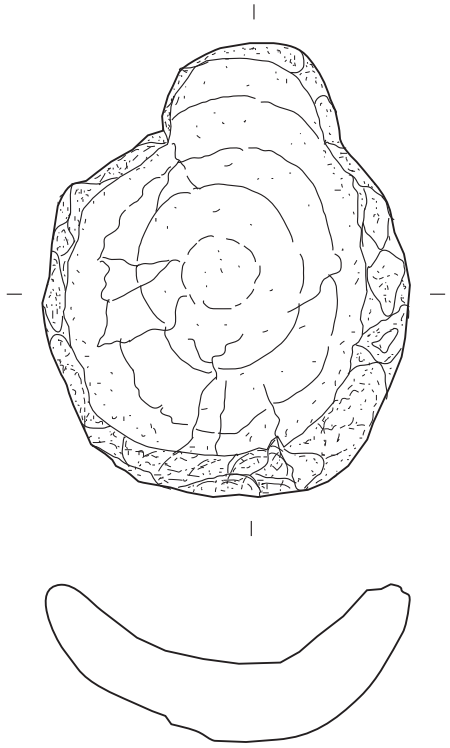
434

A 区 25 区
FT55　tuff（白）

431 ～ 434：石製品（磨製）

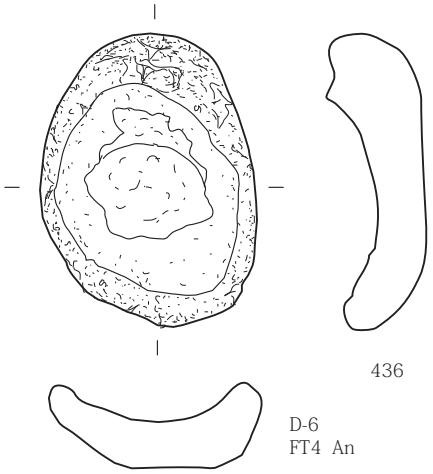
0　2:3　5 cm

第235図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（32）



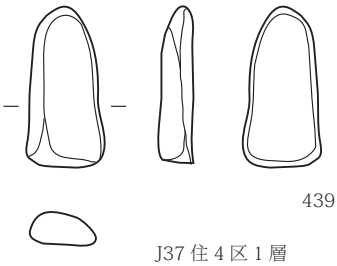
435

J21 住 7 区 2 層
FT42 An



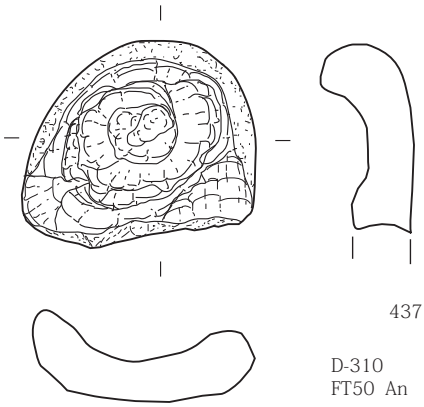
436

D-6
FT4 An



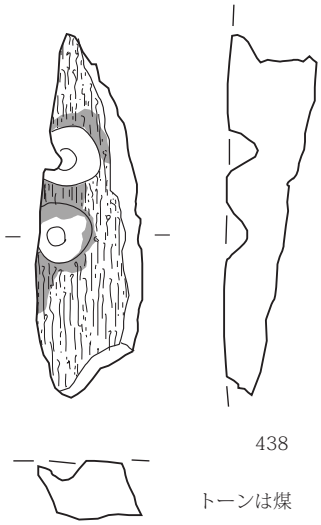
439

J37 住 4 区 1 層
FT46 Sh



437

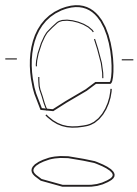
D-310
FT50 An



438

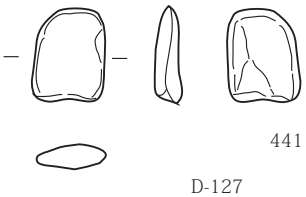
トーンは煤

J 21 住 4 区 2 層
FT45 SC



440

D-71
DT51 Ch



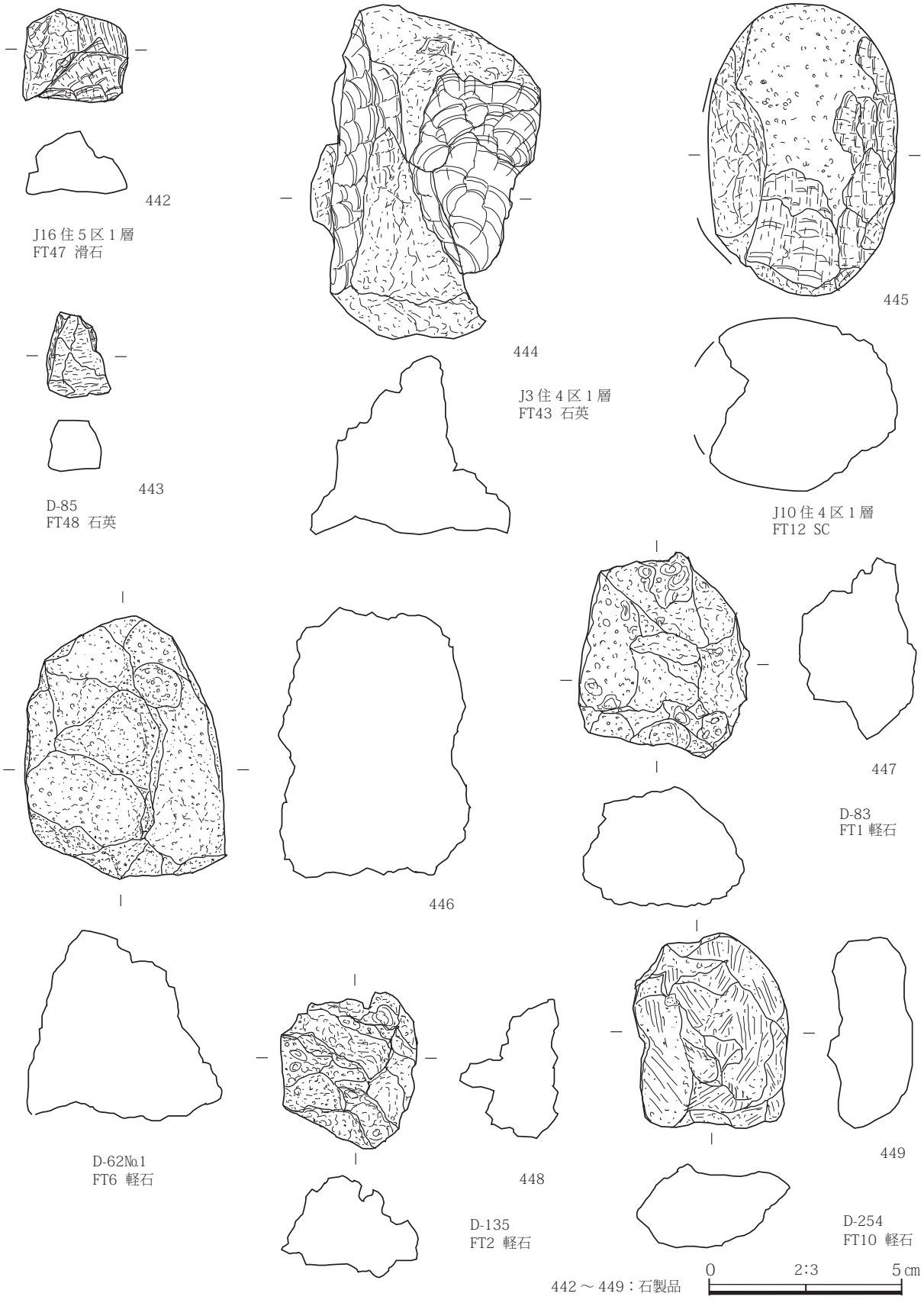
441

D-127
FT49 蛇紋岩

435 ～ 441：石製品

0 2:3 5㎝

第236図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（33）



第237図　行田大道南横道西遺跡　縄文石器（34）

2　弥生時代の遺物

遺構外から弥生時代の土器、石器が出土した（第238図１～５）。

市子塚遺跡・大道南横道東遺跡のＭ－１号溝覆土内から、条痕文系土器（甕と推定）の破片が３点出土した。１、２は、表面に浅い条痕文が施される。３は、地文が条痕文で横位の沈線が施される。

４は、大道南横道西遺跡の土坑から出土した赤色塗彩のある鉢である。中野谷原遺跡の土器群と文様が類似する。

二本杉Ⅱ遺跡では、調査区内から石鏃が１点出土した（５）。安山岩製の板状素材に対して直接打撃による両面加工が施される。刃部が欠失する。直接打撃による両面加工が施される。

出土遺物の年代は、中期前半に帰属すると考えられる。

3　古代の遺物

古代の遺物は、市子塚遺跡で須恵器の底部破片、大道南横道東遺跡のＨ－１号住居跡から土師器の小破片（器種不明）、Ｍ－１号溝の覆土内及びその周辺で遺物が少数出土した（第238図１～12）。

Ｍ－１号溝（市子塚・大道南横道東地区）の覆土中及び溝内側の地面に張り付いた状態で土師器坏、須恵器蓋・甕の破片（７～11）が出土した。また、市子塚遺跡のＢ区から須恵器甕破片（12）が出土した。全て個体が異なる小破片である。破片の状態から意図的に砕かれ、投げ込まれた、あるいは廃棄された可能性が考えられる。６の土師器坏の内面にはタール状の付着物が認められた。７の須恵器蓋の内側縁には「かえし」がある。須恵器甕（９、10）は内外面に叩き目が観察される。

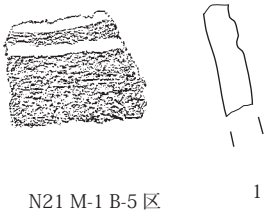
土器の年代は、全て８世紀前半に帰属するものと推定される。

4　中世以降の遺物

中世以降の遺物は、各遺跡において近現代の陶磁器（碗、甕等）の小破片、古銭等が少数出土した。

大道南横道西遺跡では、表土（Ⅰａ層）中から、土師質土器（第238図13）の破片が出土した。

弥生時代



N21 M-1 B-5 区

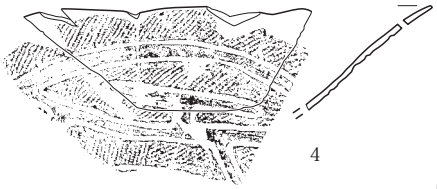
1

N20 M-1 C-5 区

2

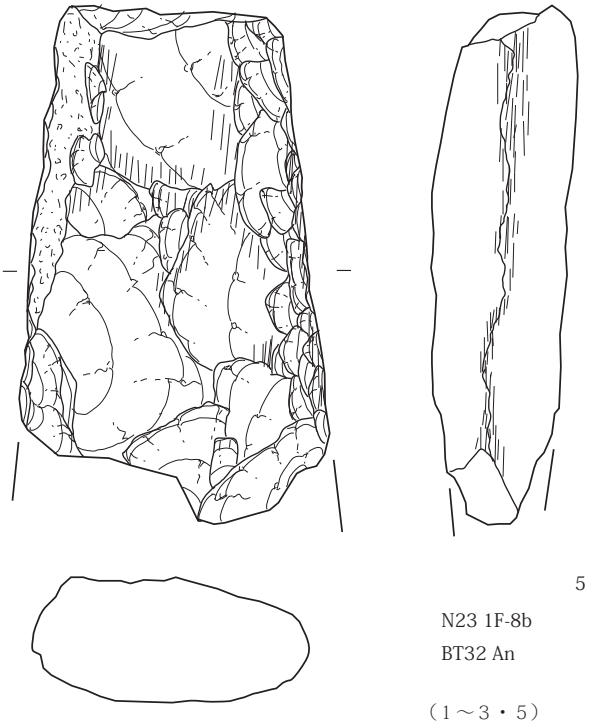
N20 M-1 C-5 区

3



N24 D－399№1

4



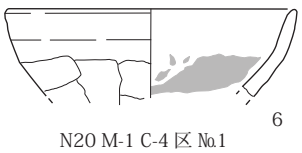
N23 1F-8b
BT32 An

5

（1～3・5）
0 1:2 5cm

（4）
0 1:4 10cm

古代



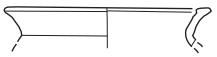
6

N20 M-1 C-4 区 №1

黒色付着物 (タール状)

7

N21 M-1 B-6 区№7

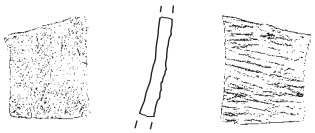


8

N21 M-1 B-6 区№4

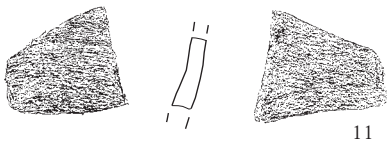
9

N21 M-1 B-6 区№8



10

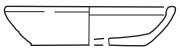
N21 M-1 C-1 区№1



11

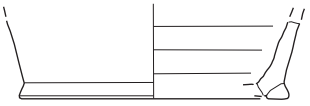
N21 M-1 C-1 区№2

中世



13

N24 2T-41



12

N20 B 区 20 区

0 1:4 10cm

第238図　西横野西部地区遺跡群　弥生時代・古代・中世の遺物

Ⅶ　成果と問題点

1　縄文時代について

西横野西部地区遺跡群の発掘調査では、前期と中期における集落跡の存在を確認した。特に中期後半では、大道北横道東・二本杉Ⅱ遺跡と大道南横道西遺跡のそれぞれ２か所で大規模集落が確認された。また、本遺跡群と谷を挟んだ南側台地に位置する富岡市調査区においても大牛下原遺跡、大牛中原遺跡で本遺跡群と同時期の集落が確認されており、西部地区一帯で遺跡群が形成されていたことが判明した。大道南横道西遺跡の集落は、多数の住居群と土坑で構成され、遺構の配置状況から環状集落の可能性が推定される。Ａ区では土坑群と住居群が帯状に並び、遺構の空白地をもって集落を形成している。一方でＢ・Ｃ区では住居群が密集しており、土坑群と重複関係が認められ、Ａ区とはやや遺構の配置状況が異なることから、二つ以上の集落が重複していた可能性が考えられ、発掘調査から得られた環状集落の範囲は、径200m以上に及ぶものと推定される。本遺跡の集落から東へ約450m離れたところにある大道北横道東・二本杉Ⅱ遺跡の集落との間には、遺構・遺物の空白地が存在する。大道南横道西遺跡の集落が、この地域における拠点的様相をもったものであるのに対し、大道北横道東・二本杉Ⅱ遺跡は、土坑墓を主体とする墓域を形成している点で、異なる集落が併存していたことが明らかとなった。西部地区周辺に存在する大牛中原遺跡の集落は、小規模であるが環状集落の可能性があり、隣接する大牛下原遺跡と共に単位集落を形成している。また、当地域における最大規模をもつ新堀東源ヶ原遺跡の環状集落、行田梅木平遺跡の小規模集落等が一定の距離をもながら、分散して存在する。こうした傾向は、西横野東部地区遺跡群の発掘調査で考察した中期後半の集落の在り方（拠点的集落が一定の距離をもって存在し、その周辺に小規模集落、祭祀・墓域等が点在する）と同様であり、横野台地全体における中期後半の集落構造の特徴を示すものとして理解される（井上2014）。

2　古代の牧について

横野台地では、これまでの30年以上にわたる発掘調査によって奈良・平安時代に存在した牧の遺構が発見された。牧の規模は、横野台地のほぼ全域に広がるもので東西約10㎞、面積500 ha以上と推定される。牧に関連する施設は、台地一帯を区画する大規模な溝群が中心であり、区画の内側は放牧地と考えられ、区画の外側には牧の建設、維持管理に関連した集落が存在し、計画的に経営された牧が横野台地に存在していたことが明らかとなった。

横野台地における牧の存在は、中野谷地区遺跡群の発掘調査を担当した大工原豊氏によって発見された大規模な溝、鍛冶工房、長屋状遺構（「馬の洗い場」か）等を牧の遺構と捉えた（大工原1994他）。高島英之氏は、発見された牧を文献史学から考察し、『延喜式』に記載されなかった牧として位置づけた（高島2000他）。その後、西横野地区を対象とした大規模発掘調査によって、牧の範囲がさらに西側へ広がっていることが判明し、横野台地南側の縁辺に沿って一直線に伸びる溝と途中で区切られる溝、小規模の区画溝等を確認し、牧の区画溝の外側で集落が点在することが明らかとなった。また、西横野西部地区遺跡群における発掘調査では、中野谷地区から延びる溝がさらに富岡市との境界あるいは地割

りに沿って一直線に妙義山麓まで続き、直交する深い谷で区画の終点（その先は山地となる）となることが明らかとなった。この区画がこの谷を境として南北に折れるかは、確認できなかったが、東西の溝の範囲をほぼ確定する手掛かりを得ることができた。

発見された牧の年代は、考古学的に７世紀後半から経営が始まり、９世紀後半には廃絶されたものと考えられる。牧の範囲は、注連引原Ⅱ遺跡の南北の溝が区画の東限と考えられ、大牛中原遺跡の溝が抜ける谷が西限となる。また、南側の東西に延びる溝は、現在も地割りとして残っているが、北側の溝は、一部を確認したが、埋没により存在は不明となっている。牧の規模は、中野谷地区、西横野地区のほぼ全域に広がり、２か所の南北区画を境として中野谷地区東部の地域（Ａ）、中野谷地区西部から人見地区の地域（Ｂ）、二軒在家地区から行田地区の地域（Ｃ）の３か所に大別される。牧はＡ地区が初期のもので、台地を横切る直線道路の存在により、さらにＢ地区からＧ地区へと拡張していったものと推定される。Ａ地区とＢ地区が放牧地と管理施設が設置され、Ｃ地区では主に放牧地として機能していたものと考えられる。

なお、横野台地における牧の性格については、拙稿で直線道路、集落等の考古学的成果及び古代碓氷郡に関連する文献史料等による歴史的背景から現段階における課題の整理と考察を行ったので参照されたい（井上2017・2019）。

＜参考文献＞

大工原　豊 1994 『中野谷地区遺跡群』安中市教育委員会

高島英之 2000 「古代上野国の牧」『古代牧と考古学　資料集』山梨県考古学協会

井上慎也 2017 「横野台地で発見された古代の牧と道路」『地域考古学』２号　地域考古学研究会

井上慎也 2019 「群馬県安中市横野台地の牧と道路」『古代交通研究会第20回大会資料集　馬がつなぐ古代社会』古代交通研究会

３　総括

平成18年度から開始された県営農地整備事業に伴う松義台地地区（東部・中部・西部地区）における発掘調査は、富岡市教育委員会の担当分を含め、令和元年度に全て終了を迎え、完結した。昭和63年度から開始された横野平地区（中野谷地区）における土地改良事業を含めると昭和から平成、令和へと約30年に及ぶ、横野台地全域を対象とした大規模発掘調査となった。今回の事業では、安中市26遺跡、富岡市14遺跡が発掘調査され、その膨大な情報量は、新たな歴史資料として蓄積され、今後の考古学、歴史学等の分野で研究、そして、市民への普及活用に利用されていくものと思われる。

最後に横野台地を対象とした発掘調査が、一つの節目を迎えたことから、本事業におけるこれまでの発掘調査の成果と課題を総括したい。

なお、紙面の都合もあり、詳細は各報告書を参照されたい。

（１）旧石器時代

東部地区の人見西向原遺跡では、横野台地では初出の後半期（群馬編年Ⅳ期後半）のブロック、礫群が確認され、槍先形尖頭器石器群（未成品、石刃、剥片類等）が確認された。

（２）縄文時代

早期では、人見東中原遺跡（東部）で早期押型文（山形文）土器、石器等が出土した。前期では、

二軒在家原田・原田Ⅱ遺跡（中部）、大牛中原遺跡（西部）等で、有尾･黒浜式期、諸磯ｂ式期の集落が確認された。中野谷地区では前期を主体とする大小規模の集落が多数分布するが、横野台地の西横野・二軒在家・行田地区においては、拠点となる集落（二軒在家原田・原田Ⅱ遺跡等）は存在するものの、集落自体は中野谷地区と比較して少数で､台地を散在するといった対照的な分布の在り方が認められた。大牛中原遺跡等では、甲信地方に分布する釈迦堂Ｚ3式の土器が出土した。中期では、加曽利Ｅ式期を主体とする大規模な集落が二軒在家原田・原田Ⅱ遺跡（中部）、中里下原・中里中原遺跡（中部）、行田大道北横道東・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡（西部）、行田大道南横道西遺跡（西部）で確認された。これらの集落を核として人見枝谷津・東向原遺跡（東部）、人見東中原・西中原遺跡（東部）等の低地を望む丘陵地形及び下高田原Ⅳ遺跡（東部）等の台地南縁辺において小規模集落が地形を単位に点在する。後期では、遺跡は減少するが、二軒在家原田・原田Ⅱ遺跡、中里下原・中里中原遺跡で配石遺構を伴う集落が確認された。後期後半以降、遺跡はさらに減少し、晩期の遺跡は確認されていない。

（3）弥生時代

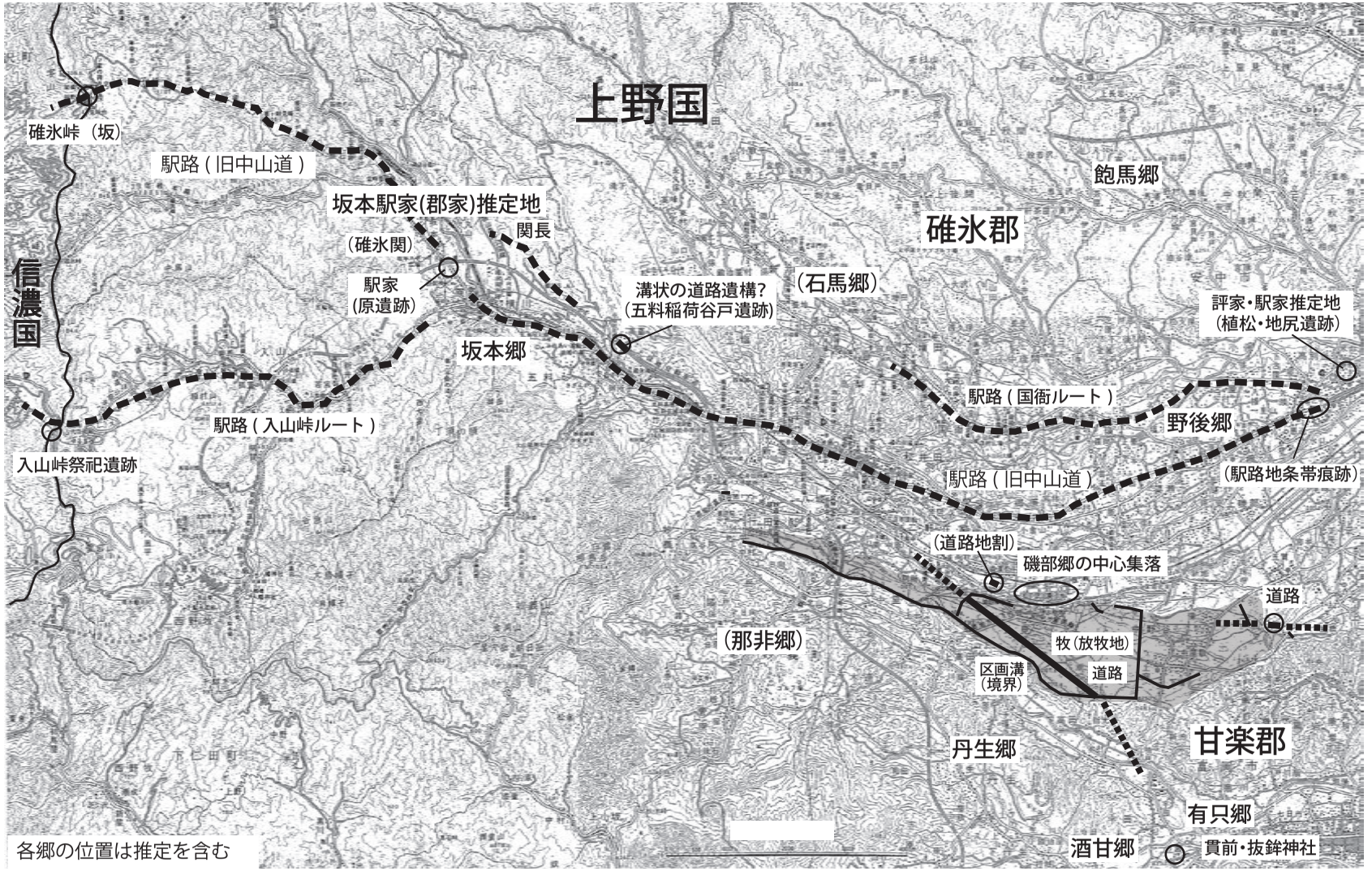
上人見遺跡（東部）、中里原遺跡（中部）等では、前期末～中期初頭の再葬墓（墓群）、二軒在家原田頭遺跡（中部）では、中期中葉～後葉の集落が確認された。横野台地では、中期前半までの遺跡が多数分布する地域として知られるが、中期後半以降、遺跡は減少する。

（4）古墳時代

弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての樽式系・吉ヶ谷系の影響をもつ土器群、前期の東海系のＳ字口縁台付甕を特徴とする土器群をそれぞれ主体とする集落が、人見枝谷津・東向原遺跡、人見西原遺跡（中部）、二軒在家原田・原田Ⅱ遺跡、大牛中原遺跡等で確認された。この時期の集落は、小規模で地形を単位として広範囲に分散している。また、人見西原遺跡では、畿内地域で分布する「布留式」の土器（甕）が出土した。中期では、前半期を主体として人見枝谷津・東向原遺跡、人見向原遺跡（東部）、人見西原遺跡等で拠点的大規模集落が確認された。これらの集落では、勾玉、剣形、臼玉等の滑石製石製模造品の製作が認められた。前半の集落は、西横野地区の東部と中部に大小の集落が遺跡群を形成していることが判明した。後半の集落は、本地域では急減に減少し、後期以降、集落の空白地となり、中野谷地区等へと集落が移動する。

（5）奈良・平安時代

西横野地区では、中野谷地区で発見された牧の続きとその経営に関わる集落、台地を斜めに横切る直線道路、牧廃絶後の小規模集落等が確認された。牧の遺構は、放牧地を区画する溝、放牧地内をさらに区画（円形、方形）する溝、鍛冶工房等が各遺跡で確認された。牧を決定づける考古学的資料は乏しいが、下高田上原遺跡（東部）では、鉄製鎖（馬具）、上高田熊野上遺跡（中部）では、漆紙文書（文字判読不明）等が出土した。人見枝谷津・東向原遺跡、人見三本松遺跡（中部）等で発見された直線道路は、両側側溝をもつ幅10ｍで官道に匹敵する規模であることから、東山道駅路から分岐した甘楽郡へと向かう「伝路（郡の道）」と推定される。牧と道路は、ほぼ同時に建設されはじめることが考古学的に確認されているが、道路はいち早く機能を失い、牧は拡張しながら存続するものの、９世紀頃から衰退する。牧が廃絶された後、集落の空白期がしばらく続き、10世紀後半～11世紀前半の小規模集落が、放牧地跡に再び形成される。これ以降、横野台地での人々の活動痕跡は、みられなくなる。



第239図　古代碓氷郡における牧と道路の分布（井上2017を一部改変）

＜参考文献＞

◎松義台地土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（完結）

井上慎也 2008 『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報１（人見東原Ⅱ遺跡・人見西下原遺跡）』 安中市教育委員会

井上慎也 2009 『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報２（人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡）』 安中市教育委員会

井上慎也 2010 『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報３（人見枝谷津遺跡）』 安中市教育委員会

井上慎也 2011 『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報４（人見枝谷津遺跡・人見向原遺跡・人見東中原遺跡）』 安中市教育委員会

井上慎也 2012 『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報５（人見西向原遺跡・人見西中原遺跡・人見本村遺跡・上人見遺跡）』 安中市教育委員会

井上慎也 2013 『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報６（人見西向原遺跡・上人見遺跡）』安中市教育委員会

井上慎也他 2014 『西横野東部地区遺跡群』安中市教育委員会

千田茂雄・石丸敦史 2010 『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報１（人見西原遺跡・人見坂ノ上遺跡）』 安中市教育委員会

壁　伸明 2011 『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報２（人見三本松遺跡）』 安中市教育委員会

菅原龍彦・壁　伸明 2012 『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報３（人見上ノ原遺跡・人見上西原遺跡・二軒在家原田遺跡）』 安中市教育委員会

菅原龍彦・壁　伸明 2013 『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報４（二軒在家原田Ⅱ遺跡）』 安中市教育委員会

菅原龍彦 2014 『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報５（二軒在家原田頭遺跡）』 安中市教育委員会

菅原龍彦 2014 『西横野中部地区遺跡群発掘調査概報６（行田二本杉原東遺跡）』 安中市教育委員会

菅原龍彦他 2017 『西横野中部地区遺跡群』安中市教育委員会

井上慎也 2016 『西横野西部地区遺跡群発掘調査概報』安中市教育委員会

永井尚寿 2011 『下高田上原遺跡・下高田原Ⅳ遺跡（松義東部地区遺跡群Ⅰ）』 富岡市教育委員会

永井尚寿 2012 『下高田上原遺跡Ⅱ・上高田筑前上遺跡（松義東部地区遺跡群Ⅱ）』 富岡市教育委員会

永井尚寿 2012 『上高田熊野上遺跡（松義中部地区遺跡群Ⅰ）』 富岡市教育委員会

永井尚寿 2014 『上高田社宮子原遺跡（縄文・弥生時代編）（松義中部地区遺跡群Ⅱ）』 富岡市教育委員会

水田雅美 2015 『上高田社宮子原遺跡Ⅱ　中里下原遺跡Ⅰ　中里中原遺跡Ⅰ（古代編）（松義中部地区遺跡群Ⅲ）』 富岡市教育委員会

清水　司 2017 『上北山遺跡　大牛下原遺跡（松義西部地区遺跡群Ⅰ）』富岡市教育委員会

清水　司 2019 『大牛中原遺跡（松義西部地区遺跡群Ⅱ）』富岡市教育委員会

群馬県教育委員会 2018 『群馬県内公共開発に伴う平成28年度県内遺跡発掘調査報告書』（安中市Ｕ185遺跡）

◎西横野西部地区遺跡群に関連する報告書

田口　修 1990 『人見北原遺跡』松井田町教育委員会（現安中市）

田口　修 1992 『二軒在家二本杉遺跡』松井田町遺跡調査会（現安中市）

上北山遺跡調査会 1999 『上北山遺跡』妙義町教育委員会（現富岡市）

長井正欣 1997 『行田二本杉遺跡』群馬県教育委員会・松井田町遺跡調査会

長井正欣 1997 『八城二本杉遺跡・行田大道北遺跡』群馬県教育委員会・松井田町遺跡調査会

Ⅷ　自然科学分析

1　大道南横道東地区Ｍ－１号溝の土層とテフラ

１．はじめに

関東地方北西部に位置する安中市域とその周辺には、浅間火山や榛名火山をはじめとする北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログなどに収録されており、考古遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには考古学的に遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

大道南横道東地区Ｍ－１号溝の発掘調査でも、層位や年代が不明な土層や遺構が認められたことから、地質調査を実施して土層やテフラ層の記載を行うことになった。調査分析の対象はＡ－２区第３ベルトにおける溝遺構覆土である。

２．溝遺構覆土の土層層序

Ａ－２区第３ベルトにおける溝遺構の覆土は、下位より黄色土ブロック混じり灰褐色土（層厚６cm）、黒褐色土（層厚６cm）、灰褐色土（層厚６cm）、暗灰褐色土（層厚６cm）、灰褐色土（層厚２cm）、暗灰褐色土（層厚３cm）、成層した暗灰色砂層（層厚12cm）、かすかに成層した暗灰褐色土（層厚４cm）、黒褐色土（層厚19cm）、成層したテフラ層（層厚27.5cm）、暗褐色土（層厚１cm）、成層したテフラ層（層厚2.6cm）、黒色土（層厚１cm）、褐色細粒軽石層（層厚２cm）、黒色土（層厚２cm）、砂混じり灰褐色土（層厚２cm）からなる。

これらのうち，下位の成層したテフラ層は、下位より黄色粗粒火山灰層（層厚0.3cm）、粗粒の暗褐色軽石層（層厚７cm，軽石の最大径32mm，石質岩片の最大径23mm）、わずかに褐色がかった灰色軽石層（層厚３cm，軽石の最大径11mm，石質岩片の最大径４mm）、灰色粗粒火山灰層（層厚0.4cm）、細粒の黄灰色軽石層（層厚３cm，軽石の最大径４mm，石質岩片の最大径２mm）、わずかに黄色がかった灰色粗粒火山灰層（層厚0.6cm）、橙色岩片混じり灰褐色軽石層（層厚２cm，軽石の最大径11mm，石質岩片の最大径４mm）、細粒の灰褐色軽石混じり橙灰色粗粒火山灰層（層厚２cm，軽石の最大径11mm，石質岩片の最大径４mm）、褐灰色細粒火山灰層（層厚0.8cm）、黒灰色粗粒火山灰層（層厚１cm）、灰褐色細粒軽石層（層厚１cm，軽石の最大径６mm，石質岩片の最大径３mm）、黒灰色粗粒火山灰層（層厚0.7cm）、細粒でわずかに黄色がかった灰色軽石層（層厚１cm，軽石の最大径２mm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚0.7cm）、褐色粗粒火山灰層（層厚２cm）、桃色砂質細粒火山灰層（層厚２cm）からなる。

一方、上位の成層したテフラ層は、下部の褐色粗粒火山灰層（層厚0.6cm）と、上部の青灰色砂質細粒火山灰層（層厚２cm）からなる。

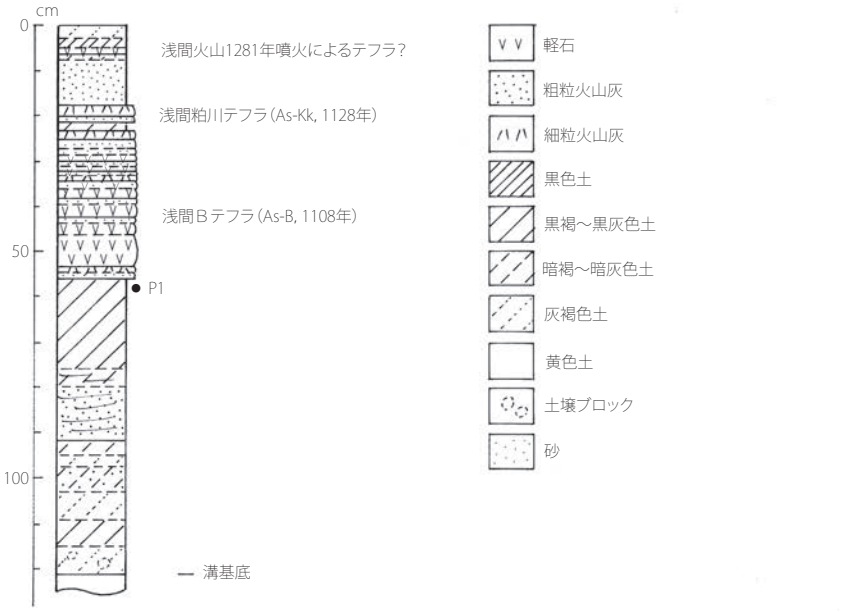


図１　大道南横道東地区 M－１号溝　A－２区第３ベルトの土層柱状図
●:植物珪酸体分析試料の層位. P数字は, 植物珪酸体分析の試料名.

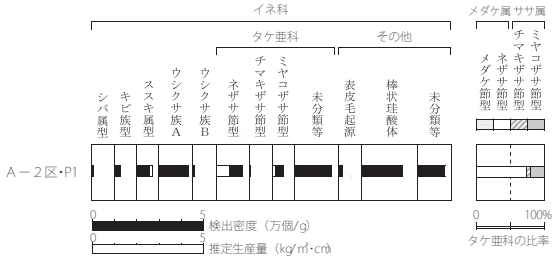


図２　M－１号溝　植物珪酸体結果

表１　M－１号溝　植物珪酸体分析結果表

検出密度（単位：×100個/g）

分類群	学名	地点・試料 P1
イネ科	Gramineae	
シバ属型	*Zoysia* type	6
キビ族型	Paniceae type	25
ススキ属型	*Miscanthus* type	57
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	133
ウシクサ族B	Andropogoneae B type	6
タケ亜科	Bambusoideae	
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa	120
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	6
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	51
未分類等	Others	164
その他のイネ科	Others	
表皮毛起源	Husk hair origin	13
棒状珪酸体	Rodshaped	177
未分類等	Others	120
植物珪酸体総数	Total	879

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡･cm）

ススキ属型	*Miscanthus* type	0.71
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa	0.58
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	0.05
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	0.15

タケ亜科の比率（%）

ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa	74
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	6
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	20
メダケ率	Medake ratio	74

３．考察

Ａ－２区第３ベルトにおける溝遺構覆土断面で認められた２層の降下テフラ層については、層相および軽石や火山灰の岩相などから、下位より順に1108（天仁元）年に浅間火山から噴出したと推定されている浅間Ｂテフラ（As-B，荒牧，1968，新井，1979）と、1128（大治３）年に浅間火山から噴出したと推定されている浅間粕川テフラ（As-Kk，早田，2004など）に同定される。さらに、より上位にある細粒の褐色軽石層については1281（弘安４）年に浅間火山から噴出したテフラの可能性がある。この時の噴火の噴出物に関する詳細な記載例はない。この軽石層についてはテフラ分析用の試料の採取を行ったことから、今後詳細な岩石記載学的分析が望まれる。また、その一方で、周辺において同層準に関する詳細な火山灰層序学的な調査と分析の実施が期待される。

４．まとめ

大道南横道東地区Ｍ－１号溝において地質調査を実施した。その結果、 Ａ－２区第３ベルトの溝遺構覆土断面に、浅間Ｂテフラ（As-B，1108年）と浅間粕川テフラ（As-Kk，1128年）の堆積を確認することができた。さらに、As-Kkの上位に、1281（弘安４）年に浅間火山から噴出したテフラの可能性がある細粒の褐色軽石層を検出できた。

文献

新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，no.53，p.41-52.

荒牧重雄（1968）浅間火山の地質．地団研専報，no.14，p.1-45.

早田　勉（2004）火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史－とくに平安時代の噴火について－．かみつけの里博物館編「1108－浅間火山－中世への胎動」，p.45-56.

２　大道南横道東地区Ｍ－１号溝における植物珪酸体分析

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO_2）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。

２．試料

分析試料は、大道南横道東地区Ｍ－１号溝内（As-B直下）から採取された土壌（P1）である。

３．分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて次の手順で行った。

1）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）。
2）試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加（0.1mgの精度で秤量）。
3）電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理。
4）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散。
5）沈底法による20μm以下の微粒子除去。
6）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成。
7）検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山，2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4．分析結果

（1）分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図2に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

シバ属型、キビ族型、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）、ウシクサ族B（大型）

〔イネ科－タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

（2）植物珪酸体の検出状況

溝内As-B直下から採取された土壌では、ススキ属型、ウシクサ族A、ネザサ節型が比較的多く検出され、シバ属型、キビ族型、ウシクサ族B、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型なども認められた。なお、イネ、ムギ類、ヒエ、アワなどのイネ科栽培植物に由来する植物珪酸体は認められなかった。おもな分類群の推定生産量によると、ススキ属型およびネザサ節型が優勢となっている。

5．植物珪酸体分析から推定される植生と環境

溝内As-B直下層の堆積当時は、ススキ属やウシクサ族（チガヤ属など）、メダケ属（おもにネザサ節）をはじめ、シバ属やキビ族なども生育する日当たりの良い草原的な環境であったと推定される。

文献
杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－．考古学と自然科学，19，p.69-84.
杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．辻　誠一郎編「考古学と植物学」．同成社，p.189-213.
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－．　考古学と自然科学，9，p.15-29.

3　大道南横道東地区Ｍ－１号溝における樹種同定

１．はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

２．試料

試料は、大道南横道東地区Ｍ－１号溝内のＣ－３区焼土から採取された炭化材（試料１）である。

３．方法

次の手順で樹種同定を行った。

１）試料を洗浄して付着した異物を除去。

２）試料を割折して、木材の基本的三断面（横断面：木口，放射断面：柾目，接線断面：板目）を作成。

３）落射顕微鏡（40～1000倍）で観察し、木材の解剖学的形質や現生標本との対比で樹種を同定。

４．結果

樹種同定の結果、コナラ属コナラ節　*Quercus* sect. *Prinus*　と同定された。以下に同定根拠となった特徴を記し、顕微鏡写真を示す。

コナラ属コナラ節　*Quercus* sect. *Prinus*　ブナ科

横断面：年輪のはじめに大型の道管が１～２列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。材は強靭で弾力に富み、建築材などに用いられる。

写真１　大道南横道東地区 Ｍ－１号溝の植物珪酸体（顕微鏡写真）

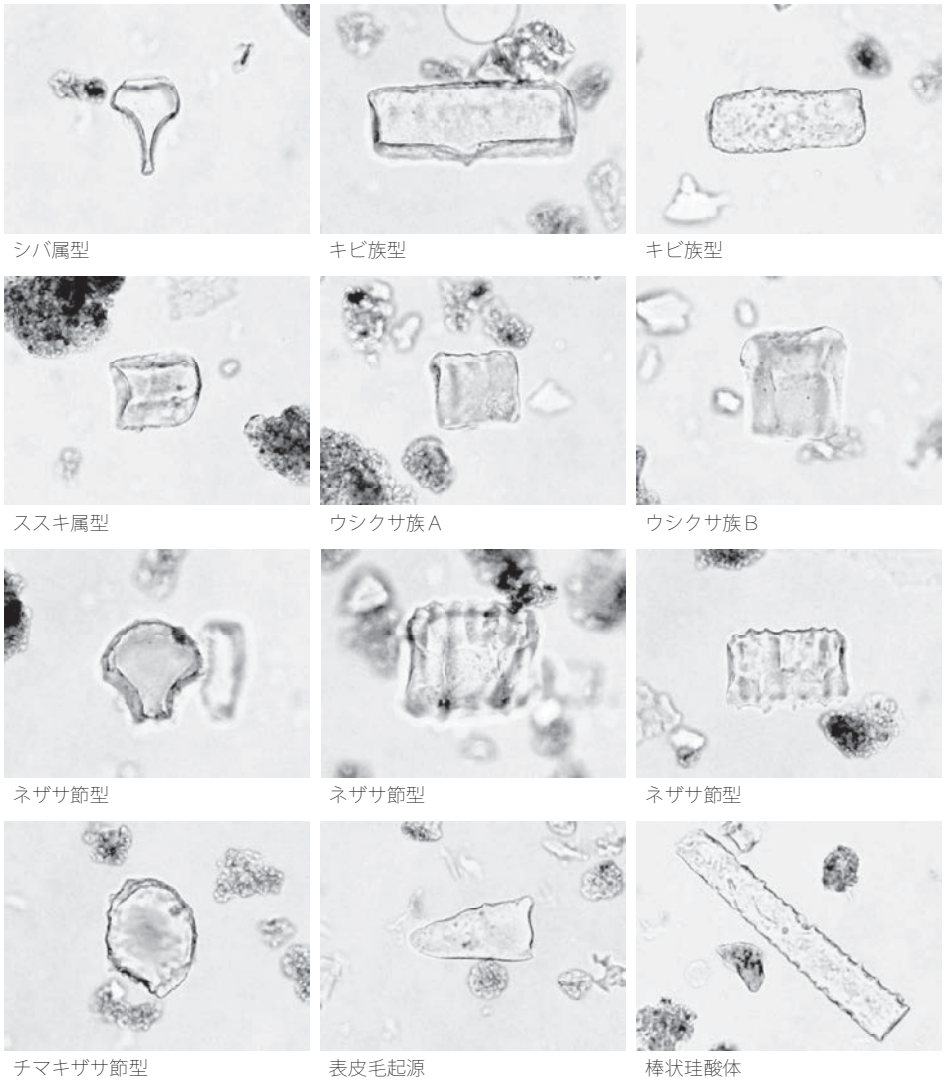
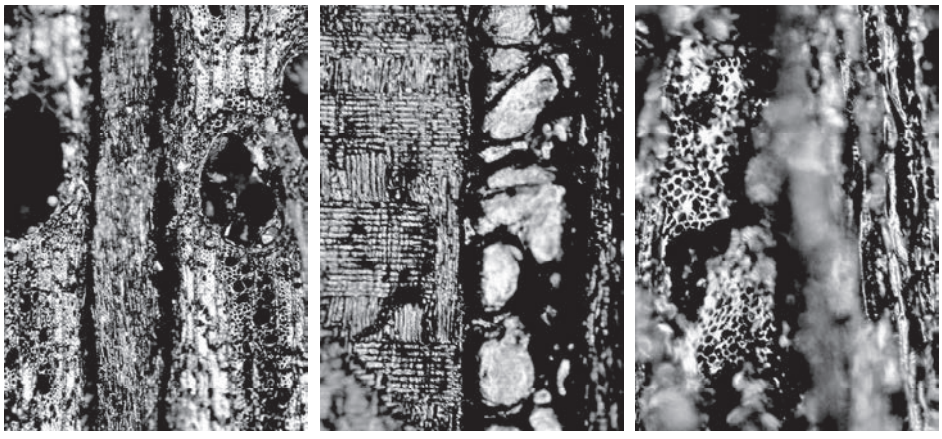


写真２　大道南横道東地区　Ｍ－１号溝の炭化材



横断面 ：0.4mm　放射断面：0.4mm　接線断面：0.2mm
Ｃ区３焼土層　炭化材　コナラ属コナラ節

５．考察

樹種同定の結果、溝遺構内Ｃ－３区の焼土から採取された炭化材はコナラ属コナラ節と同定された。コナラ属コナラ節は、温帯を中心に広く分布する落葉広葉樹で、日当たりの良い山野に生育する。ミズナラなどの冷温帯落葉広葉樹林の主要構成要素や、暖温帯性のナラガシワ、二次林要素でもあるコナラなどが含まれる。

文献

島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）「木材の構造」. 文永堂出版，290p.

島地 謙・伊東隆夫（1988）「日本の遺跡出土木製品総覧」. 雄山閣，296p.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史. 植生史研究特別１号. 植生史研究会，242p.

４　行田大道南横道西遺跡のローム層分析

１．はじめに

関東地方北西部に位置する安中市域とその周辺には、浅間や榛名など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ（町田・新井，1992，2003，2011）などに収録されており、考古遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには考古学的に遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

大道南横道西遺跡における発掘調査でも、層位や年代が不明な土層が検出されたことから、地質調査を実施して土層の層序やテフラ層の記載を行うとともに、高純度で分析試料を採取し、実験室内でテフラ分析（テフラ検出分析・屈折率測定）を実施して、すでに年代が明らかにされている指標テフラとの層位関係の把握を行った。調査分析の対象はＣ区深掘トレンチである。

２．調査地点の地質層序

Ｃ区深堀トレンチでは、ローム層と呼ばれる褐色系の色調をもつ火山灰土の中の多くの層準にテフラ層やテフラ粒子を認めることができた（図１）。それらは、層相から、これまで知られているテフラに次のように同定・対比できると考えられる。ここでは、関東地方北西部における後期旧石器時代の指標テフラである浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group，新井，1956，1962，町田・新井，1992，早田，1995，竹本・久保，1995，早川，2010，関口ほか，2011など）の細分について、最近の早田（2016）の区分（下位より室田軽石および松井田１～11テフラ）を使用する。

なお、軽石層記載のための軽石の粒径区分の境界には、便宜上32mmと16mmを用い、粗い順に粗粒（>32mm）、中粒（32-16mm）、細粒（<16mm）とする。

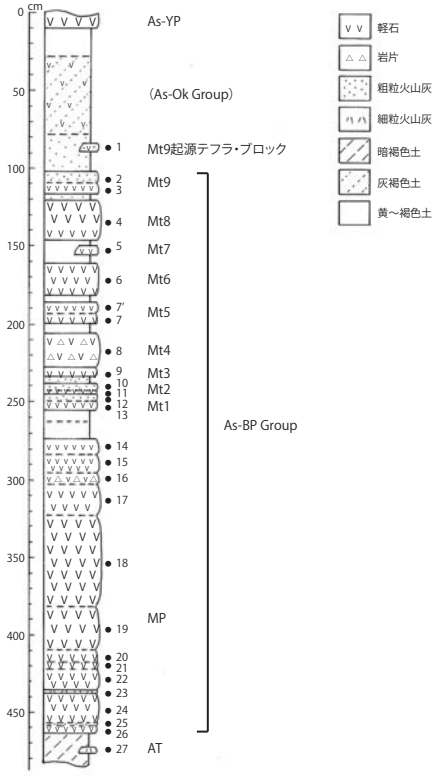


図１　大道南横道西遺跡C区深掘トレンチの土層柱状図
●:テフラ分析試料の層位.
数字:テフラ分析の試料番号.

表１　行田大道南横道西遺跡におけるテフラ検出分析結果

地点	試料	試料の種類	火山ガラス			重鉱物	その他
			量	形態	色調	(不透明鉱物以外)	
C区深掘トレンチ	1	テフラ層	*	pm (sp) >md	白～黄白，灰	opx，cpx	
	3	テフラ層	*	pm (sp) >md	白～黄白，灰	opx，cpx	
	4	軽石	(*)	pm (sp)	黄	opx，cpx	
	5	テフラ層	*	pm (sp)	黄～白	opx，cpx	微晶に富む.
	6	軽石	(*)	pm (sp)	褐灰	opx，cpx	清澄なopx.
	7	軽石				opx，cpx	やや清澄なopx.
	9	軽石				opx，cpx	清澄なopx.
	11	テフラ層	(*)	pm (sp)	黄～白	opx，cpx	
	13	テフラ層	**	pm (sp)	灰白～灰	opx，cpx	

****：とくに多い，***：多い，**：中程度，*：少ない，(*)：非常に少ない．bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，sp：スポンジ状，fb：繊維束状．ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，am：角閃石．

表２　屈折率測定結果

試料・テフラ(噴出年代)・試料		火山ガラス		斜方輝石		文献
		屈折率(n)	測定点数	屈折率(γ)	測定点数	
安中市行田大道南横道西遺跡						
C区深掘トレンチ・試料1		1.508–1.511	32	1.705–1.710	31	本報告
C区深掘トレンチ・試料3		1.508–1.516	30	1.703–1.710	31	本報告
		(1.508)	(2)			
		(1.514–1.516)	(28)			
C区深掘トレンチ・試料4				1.702–1.710	33	本報告
C区深掘トレンチ・試料5				1.701–1.713	31	本報告
C区深掘トレンチ・試料6				1.702–1.713	32	本報告
C区深掘トレンチ・試料7				1.701–1.711	31	本報告
C区深掘トレンチ・試料9				1.702–1.712	30	本報告
C区深掘トレンチ・試料13		1.513–1.522	38	1.703–1.707	30	本報告
<関東地方北西部のおもな後期旧石器時代～縄文時代草創期の指標テフラ>						
浅間総社(As–Sj，約1.2万年前)		1.501–1.518		1.706–1.711		1)
浅間小諸2(As–Km2)		1.501–1.503		1.708–1.711		2)
浅間草津(As–K)		1.501–1.503		1.707–1.712		2)
浅間小諸1(As–Km1)		1.501–1.503		1.708–1.713		2)
浅間板鼻黄色(As–YP，約1.5～1.65万年前)		1.501–1.503		1.707–1.712		2)
浅間大窪沢2(As–Ok2，約2万年前)		1.502–1.504		1.704–1.709		2)
浅間大窪沢1(As–Ok1，約2万年前)		1.500–1.502		1.704–1.709		2)
浅間白糸(As–Sr，約2.2万年前)		1.506–1.510		1.702–1.708		2)
浅間萩生(As–Hg，約2.2万年前)				1.703–1.709		3)
浅間板鼻褐色(群)	上部	1.505–1.520		1.707–1.714		2)
(As–BP Group，約2.4～2.9万年前)	中部	1.508–1.511		1.700–1.709		2)
姶良Tn(AT，約2.8～3万年前)	下部	1.505–1.515		1.710–1.725		2)
		1.499–1.500				2)
榛名箱田(Hr–HA，約3.4万年前)				1.709–1.712		3)

1):早田(2016)，2):町田・新井(2011)，3):早田(1996)．年代:早田(2016)．
本報告・1):温度変化型屈折率測定法(壇原，1993)．2)・3):温度一定型屈折率測定法(新井，1972，1993)．

姶良Tn火山灰（AT）：約３万年前に南九州地方の姶良カルデラから噴出した広域テフラである（町田・新井，1976，2011，早田，2016など）。Ｃ区深堀トレンチ最下部の暗褐色土中に、レンズ状に認められるガラス質の白色細粒火山灰層（最大層厚２cm）である。

室田軽石（MP）：約2.4～2.9万年前に浅間火山から噴出したAs-BP Groupの最下部を構成する軽石層である。Ｃ区深堀トレンチでは成層した厚い軽石層として認められ、下位より黄色細粒軽石層（層厚５cm，軽石の最大径13mm，岩片の最大径４mm）、黄色粗粒火山灰層（層厚0.7cm）、黄色中粒軽石層（層厚18cm，軽石の最大径23mm，岩片の最大径15mm）、風化した褐色細粒火山灰層（層厚１cm）、黄色中粒軽石層（層厚14cm，軽石の最大径28mm，岩片の最大径28mm）、中粒の軽石を含む黄色細粒軽石層（層厚５cm，軽石の最大径18mm，岩片の最大径８mm）、中粒の軽石を含む黄白色細粒軽石層（層厚７cm，軽石の最大径28mm，岩片の最大径25mm）、橙色粗粒軽石層（層厚31cm，軽石の最大径35mm，岩片の最大径21mm）、とくに粗粒で逆級化構造をもつ橙色軽石層（層厚48cm，軽石の最大径42mm，岩片の最大径21mm）、黄色軽石を多く含む橙色中粒軽石層（層厚20cm，軽石の最大径30mm，岩片の最大径22mm）、灰色岩片を多く含む黄色軽石層（層厚７cm，軽石の最大径７mm，岩片の最大径２mm）、中粒の橙色軽石を多く含む褐灰色細粒軽石層（層厚12cm，軽石の最大径18mm，岩片の最大径８mm）、黄色や灰色軽石を含む黄灰色細粒軽石層（層厚10cm，軽石の最大径11mm，岩片の最大径７mm）からなる。

松井田１テフラ（Mt1）：下位より青灰色細粒軽石層（層厚５cm，軽石の最大径13mm，岩片の最大径３mm）と、青灰色粗粒火山灰層（層厚４cm）からなる。

松井田２テフラ（Mt2）：下位より橙色中粒軽石層（層厚２cm，軽石の最大径19mm）と、青灰色粗粒火山灰層（層厚５cm）からなる。

松井田３テフラ（Mt3）：橙色中粒軽石層（層厚７cm，軽石の最大径28mm，岩片の最大径８mm）。

松井田４テフラ（Mt4）：暗い青灰色岩片を多く含む橙色中粒軽石層（層厚21cm，軽石の最大径23mm，岩片の最大径８mm）。

松井田５テフラ（Mt5）：下部の橙色中粒軽石層（層厚７cm，軽石の最大径18mm，岩片の最大径７mm）と、上部の橙色細粒軽石層（層厚７cm，軽石の最大径７mm，岩片の最大径２mm）からなる。

松井田６テフラ（Mt6）：橙色粗粒軽石層（層厚21cm，軽石の最大径32mm，岩片の最大径８mm）。

松井田７テフラ（Mt7）：レンズ状に残る橙色細粒軽石層（層厚５cm，軽石の最大径13mm，岩片の最大径４mm）。

松井田８テフラ（Mt8）：逆級化構造をもつ、とくに粗粒の橙色軽石層（層厚25cm，軽石の最大径43mm，岩片の最大径13mm）。

松井田９テフラ（Mt9）：下部の正の級化構造をもつ橙色細粒軽石層（層厚7cm，軽石の最大径13m，岩片の最大径２mm）と、上部の粒径が揃った暗灰色粗粒火山灰層（層厚８cm）。

松井田10テフラ（Mt10）：レンズ状に残る非常に細粒の橙色軽石を含む橙灰色粗粒火山灰層（層厚５cm，軽石の最大径２mm）。このテフラ層に関しては、松井田11テフラ（Mt11）の可能性もある。

浅間大窪沢軽石群（As-Ok Group）：約２万年前に浅間火山から噴出した軽石群である（中沢ほか，1985，町田・新井，1991，早田，1996，2016など）。Ｃ区深掘トレンチでは、黄色砂質土中に散在する黄白色軽石（最大径12mm）として認められる。この軽石群は、下位の大窪沢第１軽石（As-Ok1）と上位の大窪沢第２軽石（As-Ok1）からなるが、テフラ粒子が拡散しているＣ区深掘トレンチでの識別

は難しい。

浅間板鼻黄色軽石（As-YP）：約1.5～1.65万年前に浅間火山から噴出したテフラ層で、下部のとくに粗粒の黄色軽石層（層厚22cm，軽石の最大径72mm，岩片の最大径22mm）と、上部の成層した比較的細粒のテフラ層からなる。上部は、下位よりかすかに成層した褐橙色細粒軽石層（層厚17cm，軽石の最大径24mm，岩片の最大径４mm）、かすかに成層した黄色細粒軽石層（層厚11cm，軽石の最大径16mm，岩片の最大径４mm）。桃色砂質細粒火山灰層（層厚２cm）、成層した黄色砂質細粒火山灰層（層厚11cm）から構成されている。

３．テフラ検出分析

（１）分析試料と分析方法

鉱物組成にさほど特徴がない浅間系テフラのうち、As-BP Groupを構成するテフラ層の多くは、とくに層相も似ている。そのために、これまでMPをのぞき個々のテフラの識別同定に関する調査分析は、野外での層序記載をもとに区分したいくつかの例をのぞいてほとんど行われていない。その中で、町田・新井（1992，2003，2011）は、火山ガラスや斜方輝石の屈折率特性をもとに、下部・中部・上部に３区分しているが（町田・新井，1992，2003，2011）、試料の採取層準の記録は失われているらしく（故新井房夫群馬大学名誉教授個人談話）、そのデータの詳細は不明である。

このような状況のもと、安中市内をはじめとする北関東地方、ひいては関東地方全体での後期旧石器時代文化の詳細な編年研究のためには、As-BP Groupの層序の解明はもちろん、それを構成する個々のテフラ層の岩石記載的特徴を把握する必要がある。そこで、最初にテフラ検出分析を行って、テフラ層やそれらに含まれる軽石の特徴を定性的に把握することになった。分析対象は、C区深掘トレンチにおいて降下ユニット（fall-unit）ごとに採取されたAs-BP Groupの試料のうちの９試料である。テフラ検出分析の手順は次のとおりである。

１）とくに軽石が粗粒な試料については軽石、またそれ以外については全試料から８gを秤量。
２）乳鉢を用いて軽く粉砕。
３）超音波洗浄装置により泥分を除去。
４）80℃で恒温乾燥。
５）実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

（２）分析結果

テフラ検出分析の結果を表１に示す。いずれの試料においても、磁鉄鉱など不透明鉱物を除く重鉱物には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料13（Mt1，テフラ層全体）には、灰白～灰色のスポンジ状軽石型ガラスが比較的多く含まれている。同じくテフラ層全体から採取された試料11（Mt2）には、黄～白色のスポンジ状軽石型ガラスがわずかに含まれている。

試料９（Mt3，軽石）および試料７（Mt5，軽石）からは、風化のために火山ガラスは検出されなかった。また、試料６（Mt6，軽石）では、褐灰色のスポンジ状軽石型ガラスがごく少量認められた。試料９、試料７、試料６には清澄な斜方輝石が比較的多く含まれる傾向にある。テフラ層全体から採取された試料５（Mt7）には、黄～白色のスポンジ状軽石型ガラスが少量認められた。このガラスには微晶（micro-

phenocryst）が多く含まれている。

試料４（Mt8，軽石）には、黄色のスポンジ状軽石型ガラスがごくわずかに含まれている。試料３（Mt9）および試料１（Mt10あるいはMt119）には、白～黄白色のスポンジ状軽石型ガラスや灰色の中間型ガラスが少量含まれている。

４．屈折率測定（火山ガラス・鉱物）

（１）測定試料と測定方法

テフラ検出分析の結果、火山ガラスの屈折率特性把握が可能と判断された試料13、試料５、試料３、試料１について火山ガラスの屈折測定を行った。また、試料13、試料９、試料７、試料６、試料５、試料４、試料３、試料１の８試料に含まれる斜方輝石の屈折率測定を実施した。測定方法は温度変化型屈折率測定法（壇原，1993）である。測定対象は、テフラ検出分析後に分析篩による篩別で得られた1/8～1/16mm粒子中の火山ガラスと、実体顕微鏡を用いてピッキングして得た斜方輝石（>1/4mm，30粒子以上）を軽く粉砕したものである。

（２）測定結果

屈折率の測定結果を表２に示す。この表には、関東平野北西部に降灰する後期旧石器時代～縄文時代草創期の代表的な指標テフラの火山ガラスの屈折率特性も示した。

試料13に含まれる火山ガラス（38粒子）と斜方輝石（30粒子）の屈折率（n, γ）は、それぞれ1.513-1,522と1.703-1.707である。試料９と、それより上位の、試料７、試料６、試料５、試料４、試料３、試料１に含まれる斜方輝石の屈折率（γ）はよく似ており、1.701～1.703のrangeに入る。

試料３に含まれる火山ガラス（30粒子）の屈折率（n）は1.508-1.516であるが、実際にはbimodal組成となっており、1.508（２粒子）と1.514-1.516（28粒子）からなる。また、この試料の斜方輝石（31粒子）の屈折率（γ）は、1.703-1.710である。最上位の試料１に含まれる火山ガラス（32粒子）と斜方輝石（31粒子）の屈折率（n，γ）は、それぞれ1.508-1.511と1.705-1.710である。このように、試料９以上に含まれる斜方輝石の中では、わずかではあるが、試料３と試料１に含まれるそれらはやや高め傾向にある。

５．考察

断面観察による同定成果について、テフラ分析の結果から検証を行う。なお、従来の分析測定の多くは、粗粒のテフラ粒子が堆積している地域にあることから、分析試料によるばらつきが大きいように思われる。したがって、ある程度の測定値のばらつきが認められる。この問題は、今後測定を多く実施することで解決できるものと期待する。ここでは、町田・新井（2011）のAs-BP Groupの３区分の境界を、早田（2016）および早田ほか（2016）にしたがって、順にMP中と、Mt9・Mt10間におく。

Ｃ区深掘トレンチの試料13が採取されたテフラ層は、火山ガラスの屈折率が高めでAs-BP下部、斜方輝石の屈折率はやや低めでAs-BP Group中部の値に似る。斜方輝石の屈折率特性は、高崎市中里見原遺跡におけるMt1に対比される可能性が高いNh-4の傾向（古環境研究所，2008）に比較的似ており、試料13が採取されたテフラ層の層相によるMt1への同定を支持するものと考える。

試料９、試料７、試料６、試料５、試料４、試料３、試料１が採取されたテフラ層に含まれる斜方輝石の屈折率特性は、いずれも似た傾向にあり、As-BP Group中部に属する可能性が高い。これらのうち、試料３と試料１に含まれる火山ガラスも互いに似ており、それらはAs-BP Group中部の特性に類似している。したがって、試料３が採取されたテフラ層がAs-BP Group中部のMt9に同定されることにさほど問題はないものの、試料１が採取されたテフラ層がMt10かMt11に同定される可能性は高くない。

このことについては、試料１の分析が粒径の関係から軽石粒子ではなくテフラ層全体を対象としていることに起因するのかも知れない。しかしながら、テフラ検出分析の分析結果では、試料３と試料１に含まれるテフラ粒子はよく似ている。したがって、ここでは、テフラ層のようにみえる試料１が採取された部分は、何らかの作用による攪乱を受けたMt９の一部と考える。

６．まとめ

行田大道南横道西遺跡のＣ区深堀トレンチにおいて、地質調査を実施して地質層序を記載するとともに、採取した試料を対象にテフラ分析（テフラ検出分析・火山ガラスおよび斜方輝石の屈折率測定）を行って、本遺跡に堆積している後期旧石器時代のテフラ層序を明らかにした。本地点で認められるテフラは、下位より姶良Tn火山灰（AT，約2.8～３万年前）、浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group，約2.4～2.9万年前）を構成するテフラ層のうちの10層、浅間大窪沢軽石群（As-Ok Group，約２万年前）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP，約1.5～1.65万年前の13層にも及ぶ。後期旧石器時代において、このように多数のテフラが堆積する地域は火山が多く分布する日本列島でもまれなことから、今後さらにテフラの層序、岩石記載的特徴、分布の解明を実施して、詳細な後期旧石器文化編年に活かす必要がある。

文献

新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79.

新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究，11，p.254-269.

新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀試料分析法２」，東京大学出版会，p.138-149.

壇原　徹（1993）温度変化型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀試料分析法２」，東京大学出版会，p.149-158.

早川由紀夫（2010）浅間山の風景に書き込まれた歴史を読み解く．群馬大学教育学紀要，自然科学編，58，p.65-81.

古環境研究所（2008）中里見遺跡群の地質とテフラ．群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団・日本鉄道建設公団編「中里見遺跡群」，p.270-280.

町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義．科学，46，p.339-347.

町田　洋・新井房夫（1992）「火山灰アトラス－日本列島とその周辺」，東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫（2003）「新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺」，東京大学出版会，336p.

町田　洋・新井房夫（2011）「新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺（第２刷）」，東京大学出版会，

336p.
森山昭雄（1971）榛名火山東・南山麓の地形－とくに軽石流の地形について－．地理学報告，No.36・37，p.107-116.
中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦（1984）浅間火山，黒斑～前掛期のテフラ層序．日本第四紀学会講演要旨集，no.14，p.69-70.
関口博幸・下岡順直・早田　勉（2011）群馬の旧石器編年のための基礎的研究－関東地方北西部における石器群の出土層位、テフラ層序、数値年代の整理と検討－．(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要，no.29，p.1-20.
下岡順直（2016）浅間板鼻褐色軽石群と前橋泥流の年代観．平成28年度岩宿フォーラム講演要旨集．
早田　勉（1990）群馬県の自然と風土．群馬県史編さん委員会編「群馬県史通史編 1 原始古代 1 」，p.37-129.
早田　勉（1995）テフラからさぐる浅間山の活動史．御代田町誌編纂委員会編「御代田町誌自然編」，p.22-43.
早田　勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴－とくに御岳第 1 テフラより上位のテフラについて－．名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，no.7，p.256-267.
早田　勉（2011）榛名町域の自然環境とその歴史．榛名町誌編さん委員会編「榛名町誌通史編上巻　原始古代・中世」，p.7-56.
早田　勉（2014）渋川市有馬寺畑遺跡におけるテフラ分析．渋川市教育委員会編「有馬寺畑遺跡」，p.197-211.
早田　勉（2016）浅間板鼻褐色軽石群（As-BP　Group）の層序と前橋泥流堆積物の層位．平成28年度岩宿フォーラム講演要旨集．p.6-14.
早田　勉・下岡順直・若井明彦（2016）浅間板鼻褐色軽石群（As-BP　Group）に含まれる火山ガラスと斜方輝石の屈折率特性に関する新資料．平成28年度岩宿フォーラム講演要旨集．p.15-19.
竹本弘幸・久保誠二（1995）「群馬の火山灰」，みやま文庫，180p.

写真１　大道南横道西遺跡　テフラ写真

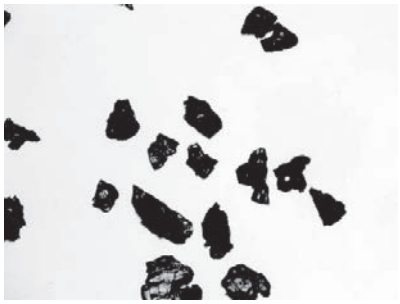


写真１　　試料１（透過光）

中央下・中央右：スポンジ状軽石型ガラス.

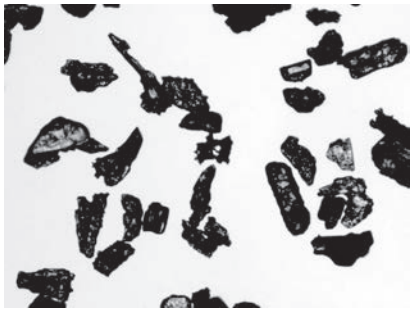


写真４　試料５（透過光）

中央：スポンジ状軽石型ガラス．中央右下など（有色鉱物）：斜方輝石．中央上など（有色鉱物）：単斜輝石.

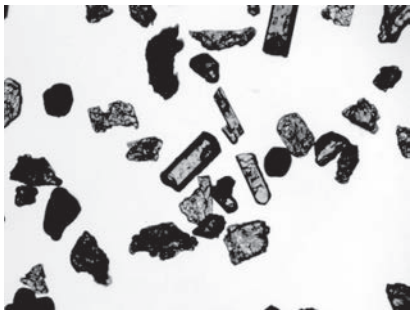


写真７　　試料９（透過光）

中央周辺（長柱状有色鉱物：斜方輝石．中央右（有色鉱物）：単斜輝石.

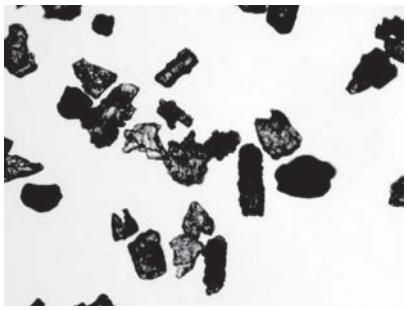


写真２　　試料３（透過光）

中央・右上：スポンジ状軽石型ガラス．中央右下（長柱状有色鉱物）：斜方輝石.

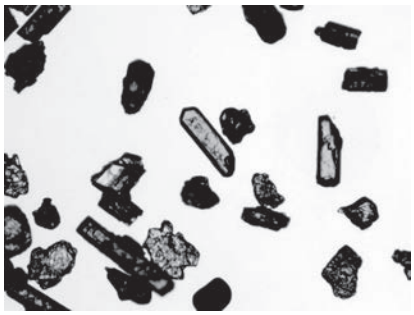


写真５　試料６（透過光）

中央など（有色鉱物）：斜方輝石．中央右上など（有色鉱物）：単斜輝石.

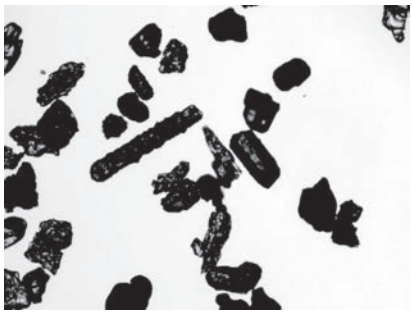


写真８　　試料　11（透過光）

中央右・中央左（有色鉱物）：斜方輝石．中央右上（有色鉱物）：単斜輝石.

写真３　　試料４（透過光）

中央　左下：スポンジ状軽石型ガラス．中央上など（有色鉱物）：斜方輝石・中央下（有色鉱物）：単斜輝石.

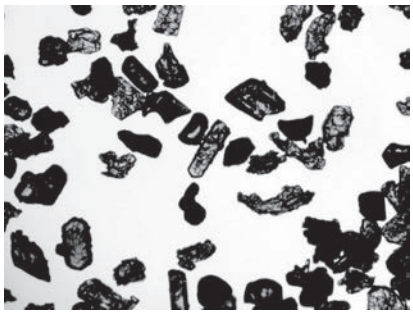


写真６　試料７（透過光）

中央など（有色鉱物）：斜方輝石．中央右上など（有色鉱物）：単斜輝石.

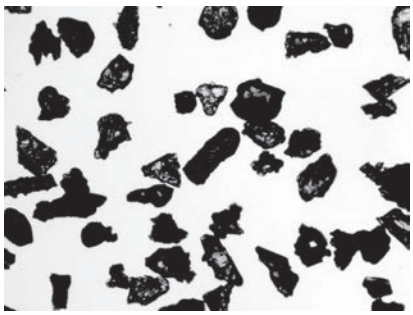


写真９　　試料　13（透過光）

中央右など：スポンジ状軽石型ガラス．中央など（有色鉱物）：斜方輝石．中央右上など（有色鉱物）：単斜輝石.

0.2mm

第６表　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文時代住居観察表　（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向(Nから)	主柱穴	炉址		形態	拡張	時期	所見
		長軸	短軸	深さ				位置	構造				
Ｊ－１	円形	5.10	<5.00>	0.26	ほぼ全周	1°－E	5	炉1中央炉2中央南寄	炉1:石囲(抜取)の可能性炉2:地床炉	Ａ１	1	中期前半	住居内(1～4区)に多数の礫が廃棄。南西床面に倒置深鉢（上半部）、内部に礫。土器脇に凹石。13区周溝内に大形土器破片が埋設。
Ｊ－２	円形	4.06	3.58	0.27	×	19°－E	5	中央西寄り	地床炉	Ａ２	無	中期後半	炉周辺で深鉢、浅鉢が出土。覆土から黒曜石原石出土。
Ｊ－３	円形	柱間4.0	－	－	×	22°－E	6	中央南寄り	地床炉+枕石+土器埋設	Ｂ１		中期後半	外側に柱穴が並ぶ(拡張)。平地。
Ｊ－４	楕円形	<5.90>	<4.90>	0.21	×	48°－W	(4)	中央	石囲炉(五角形)	Ａ２	無	中期後半	半分調査区外。
Ｊ－５	不明	－	－	－	×	不明	5～6	中央南寄り	石囲炉(抜取)+土器埋設	Ｂ１	1以上	中期後半	掘り込みが浅く、明瞭ではない。遺物の出土範囲がまとまる（住居覆土出土の根拠）。
Ｊ－６	不明	－	－	－	×	不明	不明	不明	地床炉	平地式	－	中期後半	炉のみ検出。周辺にある小ピットが柱穴の可能性。

第７表　行田大道西横道東遺跡　縄文時代住居観察表　（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向(Nから)	主柱穴	炉址		形態	拡張	時期	所見
		長軸	短軸	深さ				位置	構造				
Ｊ－１	円形	7.78	<4.28>	0.6	×	22°－E	(4)	中央南寄り	地床炉か	Ａ２	1	中期前半	東側が張り出す。
Ｊ－２	円形	4.23	3.96	0.4	×	不明	無し	中央北寄り	浅い地床炉	Ｂ２	無し	中期後半	壁際に小ピットが並ぶ。覆土に大量の土器と大形礫廃棄。
Ｊ－３	円形	4.49	4.18	0.32	全周	12°－W	4	中央	石囲炉(抜取)+土器埋設(破片・廃棄)	Ａ１	無し	中期後半	南壁際に入口(小ピット)。覆土に大量の土器廃棄。
Ｊ－４	楕円形	6.68	5.86	0.22	全周	29°－W	5	中央北寄り	地床炉+土器埋設	Ａ１	無し	中期後半	南東柱穴間に入口施設(小ピット２)、倒置深鉢。
Ｊ－５	楕円形	4.98	4.03	0.32	×	56°－E	無し	無し		Ｂ２	無し	中期後半	
Ｊ－６	円形	5.03	4.98	0.24	×	不明	4～5	無し		Ｂ２	無し	中期後半	
Ｊ－７	円形	3.15	3.04	0.22	×	20°－E	4	無し		Ｂ１	無し	中期後半	
Ｊ－８	円形	4.77	<4.50>	0.33	全周	29°－W	4	中央北寄り	石囲炉(抜取)	Ａ１	無し	中期後半	東側の張り出しは掘りすぎ。南周溝に重なる入口施設(小ピット。張り出し)。床面に炉石散乱。
Ｊ－９	台形	7.34	短辺2.40長辺2.75	0.65	全周	22°－W	4+2	中央北寄り2ヶ所	2基とも浅い地床炉。土器破片を組み込む(炉2)	Ａ１	無し	前期前半	南壁際に入口施設(溝)。3区床直で大形棒礫。複数の土坑と重複(13区に大礫･黒曜石片を伴う前期土坑。11～16区の覆土内に土坑が集中)。
Ｊ－10	円形	5.22	5.04	0.17	×	41°－W	5	中央東寄り	石囲炉(抜取)	Ｂ１	柱差替	中期後半	J-11号住と重複。
Ｊ－11	円形	3.66	3.60	0.27	×	不明	無し	無し		Ｂ２	無し	前期	J-10号住と重複。
Ｊ－12	円形	4.14	4.12	0.10	×	7°－W	不明	北寄り	地床炉	Ｂ２	無し	中期後半	
Ｊ－13	円形	4.94	4.82	0.22	×	不明	4	無し		Ｂ１	無し	中期後半	9区付近に倒置深鉢(上半部)。
Ｊ－14	楕円形	4.31	4.00	0.40	×	26°－E	4	中央北寄り	石囲炉	Ａ２	無し	中期後半	
Ｊ－15	円形	3.34	3.40	0.19	全周	20°－W	4	中央	地床炉+礫	Ａ１	1回	中期前半	南側柱穴差し替え。
Ｊ－16	外側不整形･内側楕円形	5.66	5.98	0.32	全周	3°－E	6	中央北寄り	石囲炉(抜取)	Ａ１	無し	中期後半	中央柱穴に接続する溝。住居と土坑重複。南西に風倒木痕。覆土内に集石(S-4)。土坑(D-306)を壊す。
Ｊ－17	楕円形	4.14	-3.92	0.18	全周	22°－W	4	中央	地床炉(遺物廃棄)	Ａ１	無し	中期後半	東側は撹乱。南側周溝に土器と礫を埋設。
Ｊ－18	楕円形	5.94	5.22	0.22	全周	5°－W	6+1	中央	石囲炉(抜取)	Ａ１	無し	中期後半	J-24号住(古)と重複。6･7区覆土に集石(S-5)。8区周溝内に石棒。南側入口施設(溝、ﾋﾟｯﾄ)。
Ｊ－19A	円形	<2.60>	<2.50>	0.14	×	17°－W	無し	中央	石囲炉(五角形)	Ｂ２	無し	中期後半	J-24(古)と重複。
Ｊ－19 B～E	円形･楕円形	－	－	－	有り	不明	－	不明		Ａ１	4回以上	中期後半	一部確認のみ。
Ｊ－20	円形	4.45	3.98	0.15	×	不明	4	中央	地床炉+礫	Ｂ２	無し	中期後半	
Ｊ－21	円形	5.72	5.68	0.47	全周(西に別溝)	15°－W	6	中央北寄り	石囲炉(抜取)+土器埋設(炉中央上半部・遺物廃棄)	Ａ１	無し	中期後半	J-22号住(古)と重複。南壁際に入口施設(溝)。炉南側床面が被熱。
Ｊ－22	楕円形	5.21	<4.20>	0.40	ほぼ全周	6°－W	6	中央北寄り	石囲炉(長方形)	Ａ１	無し	中期後半	J-21号住(新)と重複。南壁際に入口施設(溝)。

J－23	楕円形	5.06	4.84	0.33	全周	4°－E	6	中央北寄り	石囲炉(長方形)	A 1	無し	中期後半	J-30号住(古)と重複。5区壁際に倒置深鉢(上半部)。4区覆土内に集石(S-5)。南側入口施設(ﾋﾟｯﾄ)。
J－24	楕円形	(3.38)	(2.70)	0.20	ほぼ全周(南側途切れる)	真北	4	中央	土器埋設(浅鉢上半部)	A 1	無し	中期前半	J-18･19A号住(新)と重複。
J－25	円形	－	－	－	×	不明	ﾋﾟｯﾄ外周	中央	石囲炉(抜取・土坑状)	B 1	無し	中期後半	平地式。
J－26	(楕円形)	<2.90>	4.24	0.54	全周	25°－E	－	中央	石囲炉(長方形)	A 1	1回以上	中期後半	北側は調査区外。南東に別住居が重複(ﾋﾟｯﾄ群)。
J－27	(円形)	<4.50>	<2.00>	－	全周	不明	不明	不明		A 1	1回以上	中期後半	西側調査区外。
J－28	楕円形	<3.74>	<3.50>	－	全周	55°－E	4	中央	石囲炉(抜取)	A 1	無し	中期後半	東側調査区外。
J－29	不明	一部	一部	0.36	×	不明	有り	不明		B 1	不明	中期後半	西側調査区外。
J－30	円形	4.50	<3.40>	0.14	×	不明	無し	無し		B 2	無し	中期後半	J-23号住(新)と重複。
J－31	円形	<3.94>	<3.60>	0.20	×	33°－W	4	中央	石囲炉(五角形)	B 1	無し	中期後半	J-23号住(新)と重複。西側掘りすぎ。
J－32	－	－	－	－	×	－	－	－		－	－	中期	断面による確認。南側調査区外。
J－33	円形	<3.20>	<7.00>	－	ほぼ全周	18°－E	6	中央に2基	炉1(新):石囲炉(抜取)+石棒(角)　炉2(古):石囲炉(抜取)	A 1	3回以上	中期後半	南側調査区外。J-35号住(古)と重複。西側位へ拡張、最初の住居は炉、床面埋め戻し。炉2の石棒は直立。
J－34	円形	柱間4.90		－	×	34°－E	6+1	中央北寄り	石囲炉(抜取)	B 1	無し	中期後半	平地式。J-33号住(新)が隣接。
J－35	楕円形	柱間3.30		－	部分	20°－W	6	無し		A 1	無し	中期前半	J-33･38号住(新)と重複。北側調査区外。
J－36	長楕円形(隅丸)	(5.00)	(4.20)	0.30	×	42°－W	4	中央	地床炉+枕石	B 1	無し	前期前半	調査後の検討により、平面形を補正する。覆土内にチャート片が集中して廃棄。
J－37	長楕円形	5.08	4.32	0.32	×	8°－W	無し	中央	地床炉(P-1)	B 2	無し	前期前半	覆土にチャート片が集中して廃棄（石鏃製作関連遺物）。
J－38	(円形)	－	－	－	有り	29°－E	有り	中央か	石囲炉	A 1	不明	中期後半	一部確認のみ(1/4)。

計測値の（ ）は推定値、＜ ＞は残存値。

第　表　行田大道南横道東遺跡　古代住居観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	竈	時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵			位置		
H－1	小形長方形	3.64	2.87	0.02	×	ほぼ真東	無し	無し	土師※	東中央	平安	掘り込みが浅い。

計測値の（ ）は推定値、＜ ＞は残存値。

第９表　行田大道南横道東遺跡　他遺構観察表

（単位：m）

遺構番号	遺構名	形態	長さ	幅	深さ	主軸(Nから)	時期	遺物	所見
－	集石	掘り込み不明	1.5	1.0	－	－	縄文	礫	Ａ－1区のⅣ層中で検出。周辺には遺構、遺物は無い。拳大ほどの礫（17点）が1.5m×1.0mの範囲に分布する。

第10表　行田大道北横道東遺跡　他遺構観察表

（単位：m）

遺構番号	遺構名	形態	長さ	幅	深さ	主軸(Nから)	時期	遺物	所見
Ｍ－1	溝	鍋底形	<41.0>	1.7	0.42	88°－E	中世	なし	覆土に大量の浅間Ｂ軽石が混入。東西方向に延び、東側の終点を確認。
Ｍ－2	溝	底面のみ	<70.0>	0.2～0.3	－	4°－W	近世	なし	底面硬化(水成作用により鉄分硬化)。道路側溝の可能性有り(M-3と構成)。
Ｍ－3	溝	底面のみ	<30.0>	0.2～0.3	－	4°－W	近世	なし	底面硬化(水成作用により鉄分硬化)。道路側溝の可能性有り(M-2と構成)。

第11表　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　他遺構観察表

（単位：m）

遺構番号	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸(Nから)	時期	遺物	所見
Ｕ－1	埋設土器	Ⅱ	<0.9>	0.8	<0.1>	不明	縄文中期後半	－	土坑状の掘り方、覆土中央に埋設。土器は正位。上部が欠損。J-5号住の付属施設か。
Ｓ－1	立石	単独	－	－	－	－	縄文中期	なし	遺構の空白部分で横倒しの状態で検出。地面を浅く掘り込み、棒状礫を立たせたと推定。
ＳＫ－1	炭焼窯	溝状	<5.0>	<1.8>	0.24	85°－E	中世以降	縄文遺物混入	浅く細長い構造。底面に際立った被熱痕はなし。覆土には浅間B軽石が混入。一部調査区外。炭化材小破片が底面付近まで堆積。

第12表　行田大道南横道西遺跡　他遺構観察表

（単位：m）

遺構番号	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸(Nから)	時期	遺物	所見
Ｕ－1	埋設	Ⅰ	0.48	0.48	0.27		中期後半		完形深鉢を正位に埋設。掘り方・土器内の覆土は自然埋土(混入物無し)。底部はⅣ層上面。
Ｕ－2	埋設	Ⅰ	0.47	0.47	0.21		中期後半	FLA1、FLB1、礫1	土坑(D-289)の覆土内に深鉢(上半部)を逆位にして設置。内側に少量の炭化物混入。土坑との関連は不明(周辺の大礫は関連遺物か)。
Ｕ－3									欠番。
Ｕ－4	埋設	Ⅰ	0.71	0.48	0.25		中期後半	ScB1、礫2	土坑状の掘り方。土坑内に露出して設置したものと推定(土坑内で土器外側に破片が散布した状態で埋没する）。
Ｕ－5	埋設	不明					中期後半	FLA1	包含層調査で深鉢の一部が正位で出土。土器下の脇に礫。
Ｔ－1	竪穴状	不整形	3.02	2.98	0.25		中期後半	縄文土器　FLA20	土坑状。底面に複数のピット(7基)。覆土に土器、石器、礫混入。
Ｔ－2	竪穴状	円形	3.12	2.88	0.24		中期前半	縄文土器(深鉢№1等) 台石　石製品　礫	底面にピット(柱穴状)。住居の可能性有。1層から横倒しの深鉢、台石出土。覆土内に多数の礫混入。
Ｔ－3	土坑状	楕円形	2.44	2.12	0.22		中期後半	縄文土器　礫	底面に大礫。
Ｔ－4	竪穴状	長楕円形	4.12	2.66	0.21		中期後半	縄文土器　礫	土坑(D-340)と重複。底面にピット(柱穴状)。
Ｓ－1	集石	円形土坑	1.11	0.84	0.16		中期後半	礫(安山岩)	掘り方をもち、径0.4mの集石。土坑(D-106)と重複(古)。被熱礫は少ない。
Ｓ－2	集石	円形土坑	1.88	1.87	0.30		中期後半	礫(安山岩)	掘り方をもち、径0.9mの集石。被熱した礫は少ない。礫は破砕。
Ｓ－3	集石	円形土坑	1.18	1.12	0.13		中期後半	礫(安山岩)　石器混入	掘り方をもち、径1.1mの集石。被熱した礫は少ない。石器も集石の素材。
Ｓ－4	集石	不明	－	－	－		中期後半	礫(安山岩)	J-16号住7区1層内で確認(0.6m×0.3m)。掘り方をもつと推定。
Ｓ－5	集石	円形	－	－	－		中期後半	礫(安山岩)　石器混入	J-18号住6･7区1層内で確認(0.7m×0.6m)。掘り方をもつと推定。
Ｓ－6	集石	円形	－	－	－		中期後半	礫(安山岩)　石器混入	J-23号住7区1層内で確認(径0.3m)。掘り方をもつと推定。
ＳＫ－1	炭焼窯	浅い溝状	<3.84>	1.36	0.04	98°－E	中世以降	縄文土器混入	底面近くまで炭化材小破片堆積。覆土に浅間B軽石混入。

計測値の（ ）は推定値、＜ ＞は残存値。

第13表　行田大道南横道東遺跡　土坑観察表

（単位：㎝）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器（重量）	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－1	68	71	50	58	12	D	2	Ⅰ					Ｂ区（風倒木痕）
Ｄ－2	98	110	86	94	31	A	1	Ⅰ	縄文※		小1	前期	
Ｄ－3	122	134	90	118	34	A	2	Ⅰ	縄文△	FLA 1	小4　中1	前期前半	
Ｄ－4	138	110	116	92	23	A	1	Ⅰ	縄文※			前期	
Ｄ－5	84	72	64	58	14	A	2	Ⅰ					
Ｄ－6	126	106	98	80	32	B	1	Ⅰ	縄文△	FLA 2		前期前半	
Ｄ－7	220	204	190	174	26	A	2	Ⅱ	縄文△	FLA 1	中3	前期前半	
Ｄ－8	106	100	84	78	21	A	2	Ⅰ	縄文△			前期前半	
Ｄ－9	128	126	94	86	26	A	1	Ⅰ	縄文△		中1	前期	
Ｄ－10	98	(120)	90	(100)	10	A	2	Ⅰ	縄文※			前期	
Ｄ－11	140	134	125	102	14	A	2	Ⅰ	縄文※			前期	
Ｄ－12	80	85	64	78	21	A	2	Ⅰ	縄文※		小1	前期	
Ｄ－13	170	138	144	100	25	B	2	Ⅰ	縄文△			前期	ピット有り。
Ｄ－14	98	88	72	74	23	A	2	Ⅰ	縄文※			前期前半	
Ｄ－15	162	196	144	172	23	A	2	Ⅱ	縄文○	FLA 3	小17　中3	前期前半	覆土内に大量の遺物廃棄。
Ｄ－16	214	174	150	110	32	C	2	Ⅰ	縄文※		小8	前期	
Ｄ－17	200	180	184	156	26	C	2	Ⅰ	縄文△	FLA 3	小4	前期前半	覆土内に大量の遺物廃棄。
Ｄ－18	148	148	126	130	23	A	2	Ⅰ	縄文△	FLA 1		中期後半	
Ｄ－19	86	100	64	74	15	B	2	Ⅰ	縄文※		小3	前期	
Ｄ－20	64	72	48	54	18	A	2	Ⅰ			小2		旧Ｄ－100
Ｄ－21	95	98	82	70	22	A	2	Ⅰ	縄文※			前期	旧Ｄ－101
Ｄ－22	110	112	92	70	12	A	2	Ⅰ	縄文※	FLA 1		前期	旧Ｄ－102
Ｄ－23	65	108	50	100	25	A	1	Ⅰ	縄文※			前期	旧Ｄ－105
Ｄ－24	148	96	128	74	20	B	2	Ⅰ	縄文※	FLA 1	小2	前期	旧Ｄ－106
Ｄ－25	120	120	85	80	22	A	2	Ⅰ	縄文※			前期	旧Ｄ－107
Ｄ－26	120	114	102	82	3	B	2	Ⅰ	縄文※			前期	旧Ｄ－108
Ｄ－27	78	80	60	64	13	A	2	Ⅰ			小1		旧Ｄ－109
Ｄ－28	90	86	70	67	24	A	2	Ⅰ	縄文○	FLA 1		前期前半	旧Ｄ－110

計測値の（　）は推定値、＜　＞は残存値。

第14表　行田大道北横道東遺跡　土坑観察表

（単位：㎝）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－1	68	71	50	58	12	A	2	Ⅰ		打斧 1		中期	平成27年度調査。
Ｄ－243												中期後半	Ｊ－1 住内。欠番。
Ｄ－244	100	62	60	36	31	A	1	Ⅰ			中1		複合。
Ｄ－245	75	74	20	18	37	A	1	Ⅰ	縄文※		中1	中期	ピット状。
Ｄ－246	70	70	20	32	24	A	1	Ⅰ	縄文※			中期	ピット有り。
Ｄ－247	85	72	70	55	31				縄文△			中期	
Ｄ－248	102	105	92	78	25	A	1	Ⅰ		楔 1　FLB 1			
Ｄ－249	122	126	92	100	25	A	1	Ⅰ	縄文△			中期後半	
Ｄ－250	85	75	52	42	33	A	1	Ⅰ	縄文※		小2	中期	
Ｄ－251	96	82	70	60	34	B	2	Ⅰ	縄文※	FLB 1	小1	中期	
Ｄ－252	75	70	60	54	27	A	1	Ⅰ	縄文※		小1	中期	
Ｄ－253	82	92	54	46	57	A	1	Ⅰ	縄文△		小1　中2	中期	
Ｄ－254	118	100	102	78	37	A	1	Ⅰ	縄文△		小4	中期	外側に浅いピットが接する。
Ｄ－255	90	102	67	(85)	42	A	2	Ⅰ	縄文※	SCB 1	小1	中期	
Ｄ－256	80	80	70	68	56	A	1	Ⅰ	縄文△		小3	中期後半	
Ｄ－257	90	88	70	60	20	A	2	Ⅰ	縄文△			中期	
Ｄ－258	88	85	75	70	21	A	1	Ⅰ			大1		
Ｄ－259	98	90	62	68	22	A	1	Ⅰ	縄文△	FLA 2	小3	中期後半	
Ｄ－260	90	106	45	56	47	A	1	Ⅰ	縄文△	FLA 3　打斧 1	小2　中1	中期	
Ｄ－261	74	65	55	42	24	A	1	Ⅰ		FLB 1	小1		
Ｄ－262	58	78	25	60	32	B	1	Ⅰ	縄文※	FLA 2　FLB 2		中期	
Ｄ－263	116	105	78	75	34	A	1	Ⅰ	縄文△	ScA 1　FLA 2	小3	中期後半	
Ｄ－264	160	184	124	122	23	A	2	Ⅰ	縄文※	FLA 2　打斧 1　FLB 1 凹 1	小3　中1	中期	底面に浅い窪み（土坑跡）。
Ｄ－265	72	<78>	40	<64>	16	B	2	Ⅰ	縄文△	FLB 1	中1	中期	
Ｄ－266	69	85	35	50	22	A	2	Ⅰ	縄文※			中期	
Ｄ－267	74	58	50	49	26	A	1	Ⅰ	縄文※	FLB 1	小2	中期	
Ｄ－268	(142)	250	112	235	20	B	1	Ⅰ	縄文◎	FLA 1　FLB 1　凹 1	小2　中1	中期後半	
Ｄ－269	94	96	58	58	35	A	1	Ⅰ	縄文△	FLA 1　打斧 1　FLB 4	小1　中2	中期	

D－270	98	102	85	74	41	A	1	I	縄文※		小1	中期	
D－271	120	104	88	72	43	A	1	I	縄文△	ScA1　敲1		中期	
D－272	68	80	45	65	31	A	1	I	縄文※		小2	中期	
D－273	68	<78>	38	52	26	B	1	I	縄文※		小2	中期	
D－274	80	91	54	58	35	A	1	I	縄文※			中期	
D－275	120	124	94	102	21	A	2	I	縄文※	FLA4	小1	中期	
D－276	92	100	66	74	26	A	1	I	縄文※			中期	
D－277	110	110	92	90	26	A	2	I	縄文△	FLA1	小1	中期	
D－278	94	98	84	90	15	A	2	I	縄文△	FLA2　台1　多孔1	小1	中期	覆土中位に多孔石、台石。
D－279	100	88	66	76	28	A	1	I	縄文※		小1	中期	
D－280	<88>	180	<78>	154	18	A	2	I	縄文○	FLA8　FLB3	小5　中1	中期	
D－281	130	128	104	104	27	A	2	I	縄文※	棒1	中1　大1	中期	土坑覆土中央に石棒。
D－282	85	90	56	64	17	A	2	I	縄文※	FLB1	小1	中期	
D－283	104	85	85	70	25	A	1	I	縄文※			中期	
D－284	84	90	58	75	27	A	1	I	縄文※		小3	中期	
D－285	85	84	62	54	27	A	1	I	縄文※	FLB2		中期	
D－286	82	72	70	54	25	A	1	I					
D－287	112	112	97	102	29	A	1	I	縄文△	楔1　FLA1	小2	中期	
D－288	108	110	85	88	15	A	1	I	縄文△	FLA1	中3	中期	
D－289	120	138	100	116	23	B	1	I	縄文※	FLA1　FLB2	小1	中期	
D－290	125	142	98	124	17	C	2	I	縄文○		小7　中1	中期後半	
D－291	90	85	70	68	11	A	2	I	縄文※	FLA3		中期	
D－292	90	100	60	78	29	B	2	I	縄文△	FLA1	小1	中期	
D－293	76	(114)	54	(84)	15	B	2	I	縄文※	FLA3	中1	中期	
D－294	<58>	(94)	<52>	(78)	5	A	2	I	縄文△		小3	中期後半	
D－295	(115)	<94>	80	64	11	A	2	I	縄文△	FLB2　SCB1　石製1	小3　中1	中期後半	軽石出土。
D－296	<78>	<92>	<70>	<85>	15	A	2	I	縄文△		小1	中期	
D－297	80	94	58	80	17	A	2	I	縄文※		小1	中期	
D－298	<76>	<68>	<65>	<64>	20	A	1	I	縄文△	FLA1	小1　中1	中期	
D－299	<80>	<70>	<72>	<60>	23	A	1	I	縄文△	磨1　敲1　棒1		中期後半	覆土上部に石棒。
D－300	92	80	64	49	39	A	1	I	縄文△		小4	中期	
D－301	135	164	104	140	22	C	2	I	縄文◎	FLA5	小10　中8	中期後半	
D－302	<95>	98	<85>	80	10	B	2	I	縄文△			中期後半	
D－303	110	(110)	92	(94)	14	A	2	I	縄文※	FLA3		中期	
D－304	70	86	54	70	15	B	2	I	縄文※			中期	
D－305	92	96	70	86	21	A	2	I			小1		
D－306	182	174	162	154	19	A	2	I	縄文△	楔1　FLA2　SCB1　打斧1	小6　中1	中期後半	
D－307	90	80	76	58	28	A	1	I	縄文※	FLA4		中期	
D－308	140	<120>	128	<102>	38	A	1	I	縄文△	楔1	小1　大1	中期	
D－309	88	88	68	64	21	A	1	I	縄文※			中期	
D－310	95	78	79	55	25	B	1	I	縄文※	凹1		中期	
D－311	<98>	80	71	60	26	A	1	I	縄文※			中期	
D－312	85	118	72	94	22	B	1	I	縄文※	楔1	小2	中期	
D－313	<80>	140	<74>	126	21	A	2	I			小2	中期後半	
D－314						A	2	I	縄文△	FLB1	小2	中期	範囲のみ。
D－315	110	118	100	90	28	A	1	I	縄文△		小1	中期後半	
D－316	130	154	118	144	19	B	2	I	縄文△	FLA3　SCB1　石製1	小1	中期後半	
D－317	90	100	64	65	32	A	1	I	縄文※	FLA1		中期後半	ピット重複。
D－318	136	78	65	50	25	B	1	I	縄文※			中期後半	ピット重複。
D－319	80	91	49	60	23	B	2	I	縄文※	FLB1		中期	脇にピット。
D－320	75	90	60	74	17	A	2	I			小1		
D－321	106	108	90	88	26	A	2	I	縄文※		小1	中期後半	
D－322	104	114	75	76	17	A	1	I	縄文※	FLA1	小2	中期	
D－323	(70)	68	55	48	18	A	2	I	縄文※	FLA1		中期	
D－324	115	90	95	70	10	C	2	I	縄文※	FLA2	中1	中期	
D－325	118	132	74	108	37	C	1	I	縄文※		小2　大1	中期	ピットが接する。
D－326	110	120	86	98	24	A	2	I	縄文※	FLA1	小2	中期	
D－327	86	90	78	74	17	A	1	I	縄文◎	打斧1	中1	中期後半	土坑に接してピット。土器1個体分の破片集中。
D－328	138	108	95	55	38	B	1	I	縄文※			中期	土坑複合。
D－329	172	215	125	184	41	B	2	I	縄文△	FLA1	小3　中2	中期	
D－330	94	70	65	50	21	B	2	I	縄文△	鏃1	小1　中1	中期後半	
D－331	100	<80>	72	<72>	26	A	1	I	縄文△			中期後半	ピット重複。
D－332	100	122	70	94	17	A	2	I	縄文△		小1　中1	中期後半	
D－333	92	70	66	50	21	B	2	I	縄文※	球1	小3　中3	中期後半	

D－334	112	178	96	58	20	B	2	I	縄文※	鏃1　FLB1		中期後半	
D－335	<74>	<148>	<67>	122	18	B	2	I	縄文△	FLA2	小3	中期後半	
D－336	128	100	96	66	25	B	1	I	縄文△	FLB1	小1	中期後半	土坑脇にピットが接する。
D－337	102	86	75	65	30	A	1	I	縄文※	FLA3　打斧1		中期	
D－338	146	130	124	98	31	A	2	I					
D－339	(98)	114	78	92	31	A	1	I	縄文△		中2	中期後半	土坑脇にピットが接する。
D－340	110	90	100	74	22	A	1	I	縄文△			中期後半	
D－341	198	170	180	124	51	B	1	I	縄文△	FLA4　磨1	小4　中2	中期	土坑脇にピットが接する。
D－342	<85>	104	<77>	76	26	A	1	I	縄文△	FLA1		中期	土坑脇にピットが接する。
D－343	100	110	65	76	31	A	1	I	縄文※	FLB1	小1	中期後半	土坑脇にピットが接する。
D－344	140	147	105	112	23	A	2	I	縄文△		小2　中1	中期後半	
D－345	104	112	45	78	27				縄文△			中期	
D－346	120	110	94	85	28	A	1	I	縄文△	FLA1	小1　中2	中期後半	
D－347	<94>	115	<80>	94	18	A	1	I	縄文△			中期後半	
D－348	86	114	60	68	38	A	2	I	縄文△	台1	小1	中期	
D－349	104	104	88	78	34	A	1	I	縄文※		小2　中1	中期	
D－350	98	85	74	68	39	A	1	I	縄文※			中期	
D－351	110	108	70	70	33	A	1	I	縄文※			中期	土坑脇にピットが接する。
D－352	<50>	80	<40>	64	23	A	2	I	縄文※		小1　中1　大1	中期後半	
D－353	(110)	114	(98)	80	30	B	1	I	縄文△	FLA2　打斧1　FLB1	小1	中期	
D－354	108	105	80	88	31	A	2	I	縄文※		小2　中1	中期	ピット有り。
D－355	110	78	88	49	14	B	2	I	縄文※		小1　中1	中期	土坑脇にピットが接する。
D－356	<86>	<70>	78	48	23	D	1	I	縄文△	棒礫1		中期	
D－357	104	82	84	66	25	B	1	I	縄文※	FLA2		中期	
D－358	105	95	85	65	32	A	1	I	縄文※		中2	中期後半	
D－359	104	110	86	82	26	A	1	I	縄文※		小1　中1	中期後半	
D－360	154	178	139	158	30	B	2	I	縄文○	FLA1		中期後半	ピット重複。
D－361	<170>	<138>	<152>	<112>	27	B	1	I	縄文△	鏃1	小3	中期後半	
D－362	<160>	130	92	94	44	B	1	I	縄文※	ScA1　FLA1		中期後半	
D－363	85	<72>	64	<60>	38	B	1	I	縄文※		大1	中期	覆土上部に大礫。
D－364	246	128	212	105	26	B	2	I	縄文△	FLA4	小3　中2	中期後半	
D－365	124	<90>	105	48	34	A	1	I	縄文※		中1	中期	ピット重複。
D－366	84	<124>	64	<92>	25	B	1	I	縄文※	FLA1		中期	
D－367	94	98	74	82	31	A	1	I	縄文※	FLA2	中2	中期	
D－368	122	<80>	94	<62>	40	A	1	I	縄文※	SCB1		中期後半	土坑脇にピットが接する。
D－369	105	108	52	74	40	A	1	I	縄文△		小3	中期後半	
D－370	84	122	61	96	25	A	1	I		ﾐｶﾞｷ石1			ピット重複。
D－371	132	122	108	98	29	B	1	I	縄文△		小4	中期	土坑脇D-429はピットの可能性。
D－372	146	132	122	118	46	A	1	I	縄文※		小2　中4	中期	底面の中央にピット。
D－373	(100)	124	(84)	112	28	B	2	I	縄文△			中期	
D－374	90	100	70	90	15	A	2	I	縄文△		中2	中期後半	
D－375	106	112	60	75	41	A	1	I	縄文※		小3	中期後半	
D－376	<104>	112	60	58	75	A	1	I	縄文※		大1	中期後半	
D－377	158	195	122	168	45	B	1	I					
D－378	135	190	104	158	25	D	2	I	縄文△	FLA1　砥1	中1	中期	土坑脇にピットが接する。底面にピット。
D－379	89	95	50	54	34	A	2	I	縄文※		小1	中期後半	
D－380	<170>	146	135	98	31	B	1	I	縄文△	錐1　FLA2　FLB1	小2	中期	
D－381	<194>	160	<184>	150	35	B	1	I	縄文※	RFB1　FLA1　SCB1　皿1	小3　中4	中期後半	ピット重複。
D－382	110	<110>	68	62	33	A	1	I	縄文※	FLA1　SCB1　FLB1		中期	
D－383	150	<104>	75	80	74	A	1	I		FLB1　凹1	小1		底面の中央にピット。
D－384	120	148	90	124	38	B	1	I	縄文※	SCB1		中期	
D－385	88	92	68	68	36	A	1	I	縄文※			中期後半	
D－386	106	86	50	46	42	A	1	I		棒礫1	中1		
D－387	90	82	56	56	30	A	1	I	縄文※			中期	
D－388	150	<126>	118	<112>	37	A	1	I	縄文○	凹1	小1　中2	中期後半	ピット重複。
D－389	150	119	120	135	39	A	2	I	縄文△		中1	中期後半	ピット重複。
D－390	128	94	78	46	48	A	1	I	縄文※			中期	
D－391	<74>	102	<56>	62	31	A	1	I					
D－392	118	166	84	126	44	B	1	I	縄文△			中期	
D－393	94	165	58	98	30	B	1	I					ピット重複。
D－394	66	52	44	35	47	A	1	I	縄文※			中期	土坑上部に大礫。
D－395	175	<156>	148	<180>	44	B	1	I	縄文△	FLB1	小1　大1	中期後半	土坑重複。
D－396	172	<185>	150	150	82	B	1	I	縄文△		小2　中6	中期後半	小ピット重複。風倒木痕。

D－397	<42>	80	<28>	45	24	B	2	Ⅰ					
D－398	<115>	130	98	100	37	A	1	Ⅰ	縄文※		小1　中1	中期後半	土坑脇にピットが重複。
D－399	80	70	58	50	18	A	1	Ⅰ	縄文※			中期	
D－400	70	84	50	56	21	C	1	Ⅰ			中1		
D－401	112	80	60	54	26	A	1	Ⅰ	縄文※		小1	中期	
D－402	83	(54)	61	(36)	18	A	2	Ⅰ	縄文※		小1　中1	中期	
D－403	112	106	88	84	21	A	2	Ⅰ	縄文※		小1	中期後半	
D－404	90	80	70	64	23	A	1	Ⅰ	縄文△			中期後半	
D－405	141	116	122	97	25	C	1	Ⅰ	縄文△		中2	中期後半	
D－406	<102>	<64>	<94>	<56>	13	A	1	Ⅰ	縄文※	凹1	中1	中期	
D－407	219	195	138	148	49	D	1	Ⅱ	縄文○	打斧1　SCB1	小3	中期後半	ピット重複。掘り返し。
D－408	<54>	79	<39>	50	16	A	2	Ⅰ	縄文△			中期後半	
D－409	148	108	126	92	23	B	1	Ⅰ		FLB 1	小1	中期	
D－410	104	79	62	50	40	B	1	Ⅰ	縄文※		小1	中期	
D－411	128	96	94	66	24	B	1	Ⅰ					
D－412	<120>	<80>	72	44	45	B	1	Ⅰ			中1		
D－413	<104>	116	80	76	37	A	1	Ⅰ	縄文※		小2　中1	中期	土坑脇にピットが接する。
D－414	62	96	20	28	45	A	1	Ⅰ	縄文※			中期後半	
D－415	162	154	96	104	39	A	1	Ⅰ	縄文※		小2	中期後半	土坑脇にピットが接する。
D－416	85	92	58	60	24	A	1	Ⅰ			小2		
D－417	124	128	90	85	23	B	1	Ⅰ	縄文※		小1	中期	ピット重複。
D－418	108	120	65	80	30	A	1	Ⅰ	縄文※			中期	
D－419	101	95	48	50	27	A	2	Ⅰ	縄文※			中期	
D－420	84	98	49	36	29	B	1	Ⅰ			中1		土坑脇にピットが接する。
D－421	(86)	88	56	56	36	A	1	Ⅰ	縄文※		小1	中期	
D－422	<122>	<108>	80	70	30	A	1	Ⅰ	縄文△		小1　中1	中期後半	土坑脇にピットが接する。
D－423	114	148	64	110	31	B	1	Ⅰ	縄文※		小4	中期	
D－424	112	<102>	64	82	29	A	1	Ⅰ			中2		土坑脇にピットが接する。
D－425	73	78	34	37	32	A	1	Ⅰ	縄文※			中期	土坑脇にピットが接する。
D－426	94	112	56	74	41	A	1	Ⅰ	縄文※			中期後半	
D－427	132	98	78	52	40	B	1	Ⅰ			小2		土坑脇にピットが接する。
D－428	153	104	126	86	30	B	2	Ⅰ	縄文△		小1	中期後半	土坑脇にピットが接する。
D－429	64	60	48	35	21	A	2	Ⅰ	縄文※		小1	中期	
D－430	74	80	46	40	29	A	1	Ⅰ	縄文※			中期	
D－431	75	<68>	35	<38>	39	A	1	Ⅰ					
D－432	58	58	28	25	42	B	1	Ⅰ	縄文※	FLA 1	小1	中期	
D－433	120	<68>	62	<48>	34	A	1	Ⅰ	縄文※	FLB 1	小3	中期後半	
D－434	114	85	54	42	37	B	1	Ⅰ	縄文※		小1	中期	土坑脇にピットが接する。
D－435	<72>	108	<60>	89	19	B	1	Ⅰ	縄文※		中1	中期	ピット重複。
D－436	<80>	<96>	66	66	55	A	1	Ⅰ			小1		
D－437	130	95	49	42	71	A	1	Ⅰ	縄文※			中期後半	
D－438	100	89	74	70	34	A	1	Ⅰ	縄文※		小1	中期	底面中央にピット。
D－439	190	270	138	212	69	B	1	Ⅰ	縄文△	FLA 1　SCB1	小5　中5	中期後半	
D－440	100	128	62	88	51	B	1	Ⅰ	縄文△			中期後半	
D－441	172	160	124	126	66	A	1	Ⅰ			小6　中3　大1		ピット重複。
D－442	<88>	162	<65>	108	38	B	1	Ⅰ	縄文※	ScA 1	中2	中期後半	ピット重複。
D－443										打斧1			欠番。遺物のみ。
D－444	65	64	30	32	37				縄文△	FLB 1	小2	中期後半	
D－445	79	92	38	45	50	A	1	Ⅰ	縄文※		中1	中期	
D－446	78	78	46	64	36	A	1	Ⅰ	縄文※			中期	
D－447	82	118	48	96	43	B	1	Ⅰ					
D－448	102	118	68	46	51	B	1	Ⅰ					
D－449	90	84	66	60	34	A	1	Ⅰ	縄文※			中期	
D－450	98	90	68	65	34	A	1	Ⅰ			小1　中1		
D－451	180	146	154	124	47	B	1	Ⅰ	縄文※		小3	中期後半	
D－452	140	112	108	78	51	A	1	Ⅰ	縄文△		小1	中期後半	
D－453	<90>	100	<70>	54	41	A	1	Ⅰ	縄文※	ScA 1　FLA 1		中期	
D－454	125	126	95	92	45	A	1	Ⅰ	縄文※		小1	中期後半	ピット重複。
D－455	118	<95>	70	70	38	A	1	Ⅰ	縄文※	FLA 1　磨1	小1　中1	中期	
D－456	150	120	112	78	30	D	1	Ⅰ	縄文△		小1	中期後半	
D－457	88	78	68	52	30	A	1	Ⅰ	縄文※			中期	
D－458	108	98	45	40	46	A	1	Ⅰ	縄文※		小2	中期	土坑脇にピットが接する。
D－459	<64>	118	<49>	98	27	B	1	Ⅰ	縄文△		中1	中期	
D－460	(79)	118	64	81	37	B	1	Ⅰ					
D－461	<125>	68	<110>	38	25	D	2	Ⅰ	縄文※			中期後半	ピット重複。

計測値の（ ）は推定値、＜ ＞は残存値。

第15表　二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　土坑観察表

（単位：㎝）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器（重量）	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－3	74	60	65	38	21	B	2	I				中期後半	
Ｄ－4	<33>	71	<23>	50	20	A	1	I	縄文△			中期後半	
Ｄ－5	84	76	49	47	29	A	1	I	縄文※		小1	中期後半	
Ｄ－6	99	129	70	97	34	B	2	I	縄文○		小2	中期後半	
Ｄ－7	138	106	119	65	31	C	2	I	縄文△		小2	中期後半	
Ｄ－8	<185>	169	<68>	136	35	B	2	I	縄文△	ScB 1	小1　中1	中期後半	
Ｄ－9	(133)	157	114	133	30	A	2	I	縄文△		小1　中2	中期後半	ピット重複。
Ｄ－10	117	128	93	106	26	A	2	I	縄文△		小1　中2	中期後半	土坑脇にピットが接する。
Ｄ－11													欠番。
Ｄ－12	133	205	111	173	31	B	2	I	縄文△	鏃未1　FLA3	小4　中1　大1	中期後半	
Ｄ－13	120	142	100	118	26	A	2	I	縄文△			中期後半	ピット重複。
Ｄ－14													欠番。
Ｄ－15	<120>	93	<110>	72	30	B	1	I	縄文△		小3　中1　大1	中期後半	上部に大礫。
Ｄ－16	98	76	90	64	33	A	1	Ⅱ	縄文△	FLA 1	小2	中期後半	
Ｄ－17													欠番。
Ｄ－18	89	90	70	65	33	A	1	I	縄文△		小4　中2	中期後半	
Ｄ－19	140	109	108	86	28	B	1	I	縄文○	FLA 1	小2　中1	中期後半	
Ｄ－20	171	230	133	124	32	D	2	I	縄文○		小2　大2	中期後半	
Ｄ－21	(110)	(122)	84	90	21	A	2	I	縄文○	原Ａ 1	小3　中2	中期後半	土坑脇にピット。
Ｄ－22	238	132	<56>	82	36	B	1	I	縄文△		小1　中1	中期後半	上部に石皿片。
Ｄ－23	148	158	134	124	30	A	2	I	縄文※	打斧1	小1		底面にピット。
Ｄ－24	(80)	68	(60)	94	29	C	2	I	縄文△		中1	中期後半	ピット重複。
Ｄ－25	120	(96)	94	64	19	B	2	I	縄文△		小1　中2	中期後半	
Ｄ－26	<73>	(99)	<62>	(65)	14	B	2	I	縄文△	凹1　FLA 1　FLB 1	小2　中1	中期後半	
Ｄ－27	(84)	154	(58)	114	27	B	1	I	縄文○	打斧1　FLA 1	小2　中1	中期後半	底面にピット。
Ｄ－28	72	98	50	44	36	A	1	I	縄文○	RFB 1　FLA 2	中4	中期後半	ピット状。
Ｄ－29	<119>	180	<107>	156	27	A	2	I	縄文○	FLB 1	小5　中2	中期後半	
Ｄ－30	<83>	<63>	<70>	<42>	29	A	1	I	縄文△	磨1	小3	中期後半	
Ｄ－31	210	(152)	(187)	130	33	B	2	I	縄文○	打斧1　棒礫1	小18　中2　大2		覆土中位に大形礫。
Ｄ－32	110	87	70	57	41	A	1	Ⅱ	縄文△	ScB 1　皿1	中1	中期後半	大形柱穴か。
Ｄ－33	(108)	134	93	108	26	D	2	1	縄文△		小1	中期後半	
Ｄ－34	212	<112>	180	<100>	40	B	2	I	縄文○	鏃未1	小2　中2	中期後半	ピット重複。
Ｄ－35	100	92	72	68	33	A	1	I	縄文△	鏃未1　FLA 4	小5　中2　大1	中期後半	覆土中位に大形礫。
Ｄ－36	84	(90)	60	69	36	C	1	I	縄文○		小2	中期後半	
Ｄ－37	(115)	112	(90)	88	30	A	1	I	縄文◎	球1	小6　中4	中期後半	
Ｄ－38	82	(90)	56	68	22	A	1	I	縄文※	ScB 1		中期後半	
Ｄ－39	118	123	87	94	20	A	2	I	縄文※		小2	中期後半	
Ｄ－40	124	122	96	91	29	A	2	I	縄文○	FLA 3	中4	中期後半	土坑脇にピットが接する。
Ｄ－41	<78>	83	50	55	27	A	2	I	縄文△		中1	中期後半	底面にピット。
Ｄ－42	111	121	90	93	36	A	1	I	縄文○	鏃未1　棒礫1　FLA 2	小5　中1	中期後半	底面浅い窪み。底面で棒状礫出土。土坑脇にピットが接する。
Ｄ－43	77	<78>	50	<67>	27	B	1	I	縄文※		小1	中期後半	
Ｄ－44	<60>	126	<46>	95	24	A	1	I	縄文△		小1　中1	中期後半	底面にピット。
Ｄ－45	<74>	73	<61>	46	16	B	2	I	縄文△		小1	中期後半	底面にピット。
Ｄ－46	<79>	106	<64>	72	20	A	2	I	縄文△	FLA 5	小2	中期後半	底面にピット。
Ｄ－47	222	177	194	157	29	A	1	I	縄文△	鏃未2　磨1　砥2	小3　中5	中期後半	底面にピット。土坑脇にピットが接する。
Ｄ－48	120	(190)	98	172	19	B	1	I	縄文△	FLA 1	小2　中2	中期後半	底面にピット。
Ｄ－49	<110>	132	<90>	(94)	19	B	1	I	縄文△	鏃未1	小1	中期後半	底面にピット。
Ｄ－50	134	144	(112)	122	20	A	1	I	縄文△	FLA 1	中2	中期後半	底面にピット。
Ｄ－51	(120)	98	(100)	72	32	A	2	I	縄文△	皿1	小2	中期後半	底面にピット。上部に石皿片。
Ｄ－52	100	(158)	67	(125)	34	B	2	I	縄文△		小1　中4　大2		底面にピット。多数の礫。
Ｄ－53	100	108	76	76	23	A	2	I			小2　中1		
Ｄ－54	(120)	(104)	33	54	38	A	2	I					底面にピット。
Ｄ－55	118	226	97	(200)	24	B	2	I	縄文※	打斧1	小7	中期後半	底面にピット。
Ｄ－56	175	107	90	73	40	A	1	I	縄文△	FLA 1	小4	中期後半	底面にピット。
Ｄ－57	146	(160)	119	(150)	28	A	1	I			小2		
Ｄ－58	134	136	109	(108)	18	A	1	I	縄文△		小10　大2	中期後半	ピット重複。底面に大形礫。
Ｄ－59	84	96	34	34	55	A	1	I			大2		ピット状。土坑内に大形礫。
Ｄ－60	(114)	不明	(94)	不明	19	A	2	I	縄文※		小1　中2	中期後半	
Ｄ－61	(112)	104	(85)	80	27	A	1	I			大1		底面にピット。

D－62	(146)	124	72	67	32	A	2	Ⅰ	縄文※	凹2	小3	中期	底面にピット。
D－63	121	(143)	88	112	17	A	1	Ⅱ	縄文※	FLB 1	中1	中期後半	
D－64	135	<76>	34	53	36	A	1	Ⅰ					
D－65	110	(134)	30	(33)	32	A	1	Ⅰ	縄文※			中期	
D－66	110	166	41	73	36	A	1	Ⅰ		棒1			覆土内に石棒。
D－67	117	193	78	139	36	B	2	Ⅰ	縄文△	FLA 1	中1	中期後半	
D－68	121	135	87	107	28	A	1	Ⅰ	縄文△	FLB 1	小1	中期後半	
D－69	82	107	58	88	24	B	2	Ⅰ	縄文※		小2　中1	中期	
D－70	83	92	59	71	25	A	2	Ⅰ	縄文※	棒1　FLA 1			上部に石棒。
D－71										FLA 1			欠番。遺物のみ。
D－72	(130)	124	(103)	103	28	A	2	Ⅰ	縄文※		小8	中期後半	
D－73	100	76	74	52	29	B	1	Ⅰ	縄文※	敲1	小1	中期後半	
D－74	100	55	68	33	21	B	2	Ⅰ	縄文※			中期後半	
D－75	<90>	108	<62>	56	46	A	2	Ⅰ		凹1　棒礫1　丸1	小2中1		土坑中央に丸石。
D－76	167	200	122	156	45	D	2	Ⅰ	縄文※	敲1		中期後半	
D－77	90	83	62	54	46	A	1	Ⅰ	縄文△	ScA 1	小1　中1	中期後半	
D－78	80	110	60	85	29	B	1	Ⅰ	縄文※		中1	中期	
D－79	200	<134>	103	67	55	B	1	Ⅱ	縄文◎	多孔1	小1　中1　大2	中期後半	土坑中央に多孔石、底面に礫。
D－80	(118)	(86)	89	53	62	B	1	Ⅱ	縄文○	鏃未1　打斧1　ScB 2 凹1　FLA 5	小1　中2　大2	中期後半	
D－81	(146)	193	(70)	98	32	A	1	Ⅰ	縄文※	鏃未1			
D－82	157	116	115	85	23	B	2	Ⅰ	縄文△		中1	中期	底面にピット。
D－83	218	197	190	170	29	D	1	Ⅰ	縄文△	敲1　FLA 2	小3	中期後半	底面にピット。
D－84	(114)	(134)	46	43	42	A	2	Ⅰ	縄文△			中期後半	
D－85	145	196	95	(155)	25	B	2	Ⅰ	縄文△	ScA 1　砥1	小1	中期後半	底面にピット。
D－86	146	<160>	110	126	34	C	2	Ⅰ	縄文△	打斧1　凹1		中期後半	
D－87	113	<88>	68	57	38	A	2	Ⅰ	縄文△		小2	中期後半	底面にピット。
D－88	<84>	146	36	86	44	B	1	Ⅰ	縄文△			中期後半	
D－89	103	96	71	67	37	A	2	Ⅰ	縄文△		小2	中期後半	
D－90	<77>	<90>	<60>	<75>	35	A	2	Ⅰ	縄文△		小2　中1	中期後半	底面にピット。
D－91	<136>	276	108	72	44	D	2	Ⅰ	縄文◎	FLA 1	小3　中2	中期後半	
D－92	160	<104>	(87)	73	32	A	2	Ⅰ	縄文△		小1	中期後半	底面にピット。
D－93	86	(75)	18	15	51	A	1	Ⅰ	縄文△		小1	中期後半	
D－94	93	116	76	73	36	A	2	Ⅰ	縄文△	FLB 1	小2　中2	中期後半	
D－95	(82)	68	52	40	45	A	1	Ⅰ	縄文△				
D－96	117	80	93	63	26	B	1	Ⅰ	縄文△	打斧1　FLA 1	小1	中期後半	
D－97	84	80	39	41	36	A	1	Ⅰ	縄文※			中期	
D－98	90	113	60	84	29	B	2	Ⅰ	縄文※		中1	中期後半	
D－99	87	85	56	58	44	A	1	Ⅰ	縄文※		小1	中期後半	土坑脇にピットが接する。
D－100	80	90	36	46	42	A	1	Ⅰ	縄文※		小1	中期後半	
D－101	<102>	180	<68>	117	34	A	2	Ⅰ	縄文△	FLA 1	中1	中期後半	
D－102	113	138	88	106	34	B	2	Ⅰ	縄文△	FLA 1	小1	中期後半	底面にピット。
D－103	136	136	100	101	31	A	2	Ⅰ	縄文△	FLA 2		中期後半	
D－104	57	59	23	23	34	A	1	Ⅰ	縄文※			中期後半	ピット状。
D－105	<62>	108	<33>	50	22	D	2	Ⅰ	縄文※				
D－106	<79>	111	<60>	76	32	B	2	Ⅰ	縄文△			中期後半	
D－107	<157>	97	<144>	56	39	B	1	Ⅰ	縄文△	打斧1	小3　中1	中期後半	
D－108	123	170	63	84	32	B	1	Ⅰ	縄文△		小2	中期後半	底面にピット。
D－109	121	83	91	54	36	B	1	Ⅰ			大1		底面にピット。
D－110	95	90	74	63	33	A	2	Ⅰ					
D－111	(320)	204	(310)	178	31	A	1	Ⅰ	縄文○	皿1　FLA 4	小3	中期後半	石皿が直立した状態で出土。
D－112	117	<70>	67	<43>	25	A	2	Ⅰ	縄文※	敲1	小1	中期後半	
D－113	163	(106)	132	70	37	B	1	Ⅰ	縄文※			中期後半	
D－114	58	(58)	37	36	29	A	1	Ⅰ	縄文※			中期後半	
D－115	(81)	(86)	46	(38)	29	B	1	Ⅰ	縄文△	FLA 2		中期後半	
D－116	117	157	89	117	27	B	2	Ⅰ	縄文△			中期後半	
D－117	120	(117)	88	84	23	A	2	Ⅰ	縄文△		小2	中期後半	
D－118	156	118	133	83	30	B	2	Ⅰ	縄文△		小3　中1	中期後半	
D－119	106	123	80	(90)	26	B	2	Ⅰ	縄文△		小4　中1	中期後半	底面にピット。
D－120	94	(156)	50	96	22	B	1	Ⅰ	縄文○	FLA 1	小4　中1	中期後半	ピット重複。
D－121	88	76	63	50	46	A	1	Ⅰ	縄文○	楔1　FLA 2	小6　中2	中期後半	
D－122	120	161	72	128	24	B	2	Ⅰ	縄文△	鏃未1	小3　中1	中期後半	
D－123	(94)	114	(54)	58	28	B	2	Ⅰ	縄文△		小2　中1	中期後半	
D－124	151	<108>	85	<57>	65	B	1	Ⅰ	縄文※		小1	中期後半	
D－125	133	157	60	<40>	25	B	2	Ⅰ	縄文※	FLA 1		中期	底面にピット。

D－126	80	(90)	50	62	23	A	2	I	縄文△		小1	中期後半	
D－127	124	<102>	80	<88>	34	B	1	I	縄文△	FLB1		中期後半	底面にピット。
D－128	88	104	46	52	46	B	1	I	縄文○		小1	中期後半	
D－129	(113)	185	(82)	116	44	B	2	I	縄文◎		小6　中1	中期後半	
D－130	100	126	63	68	45	A	1	I	縄文○	砥1　FLA3	中2　大1	中期後半	覆土上部に礫。
D－133	80	96	52	61	55				縄文△		小1	中期後半	
D－134	92	90	61	62	38	A	1	I	縄文※	磨斧1	中3		
D－135	158	216	106	180	28	B	2	I	縄文△		小3　中1	中期後半	
D－136	220	180	178	130	36	A	2	I	縄文○	FLA1	小2	中期後半	
D－137	92	(107)	59	(68)	20	A	2	I	縄文※			中期後半	
D－138	96	105	70	72	27	A	1	I	縄文※			中期後半	土坑脇にピットが接する。
D－139	177	136	116	76	46	B	2	I	縄文※		中2		土坑脇にピットが接する。
D－140	194	123	120	40	37	B	1	I	縄文△			中期後半	底面にピット。
D－141	197	156	159	116	38	B	2	I	縄文△	FLA1	中2	中期後半	
D－142	136	142	74	85	37	A	2	I	縄文△				
D－143	118	105	77	66	39	A	1	I	縄文※		小4　中2　大1	中期後半	
D－144	153	<160>	100	<135>	46	B	1	I	縄文※		小1	中期	
D－145	173	167	133	132	42	A	1	I	縄文△		大1	中期後半	上部に礫。
D－146	118	176	97	118	31	B	2	I	縄文△		小1	中期後半	
D－147	116	111	75	82	11	A	2	I	縄文※		小1　中2　大2	中期後半	集石状。
D－148	112	90	86	67	11	A	2	I			大1		上部に礫。
D－149	149	199	106	152	39	B	1	I	縄文△		小1	中期後半	
D－150	(124)	103	(92)	67	37	A	2	I	縄文△			中期後半	
D－151	108	92	66	57	31	A	1	I	縄文※			中期後半	
D－152	136	84	59	66	24	A	1	I					
D－153	104	106	60	67	23	A	2	I					
D－154	174	93	150	62	21	B	2	I	縄文△			中期後半	
D－155	140	(122)	102	86	32	A	2	I					底面にピット。
D－156	83	108	57	82	25	B	2	I			小1		
D－157	210	127	180	96	94	D	2	I					底面に窪み。
D－158	78	90	57	66	22	A	2	I	縄文※			中期後半	
D－159	113	104	65	65	22	A	1	I	縄文※			中期	
D－160	<55>	80	<48>	56	24	A	1	I					
D－161	90	80	53	44	26	A	1	I					
D－162	152	112	108	71	29	B	2	I	縄文※			中期後半	
D－163	118	126	83	96	28	A	1	I					
D－164	70	103	46	71	29	B	1	I	縄文※	FLA2		中期後半	
D－165	92	90	60	57	25	A	1	I	縄文△			中期後半	
D－166	116	185	90	144	36	D	1	I	縄文※			中期後半	
D－167	92	102	54	64	24	A	2	I	縄文※		小2	中期後半	
D－168	97	77	66	44	19	A	2	I	縄文※			中期後半	
D－169	72	84	44	55	25	A	1	I	縄文※			中期後半	
D－170	101	78	70	43	26	A	1	I					
D－171	106	100	76	68	16	A	2	I					
D－172	80	86	38	36	29	A	1	I					
D－173	93	79	69	54	16	A	2	I	縄文※			中期後半	
D－174	107	89	60	50	3	A	1	I	縄文※			中期後半	
D－175	82	81	42	44	42	A	1	I	縄文※	FLA1	小3　中1	中期後半	
D－176	100	114	67	82	33	A	1	I	縄文※			中期後半	
D－177	90	104	45	71	37	A	1	I	縄文※	FLA1		中期後半	
D－178	74	74	47	46	34	A	1	I	縄文※			中期後半	
D－179	88	75	51	32	26	A	2	I	縄文※			中期後半	
D－180	95	98	50	54	28	A	1	I					
D－181	98	<60>	52	<45>	27	A	1	I					
D－182	120	115	89	84	24	A	1	I					覆土内で有機物(不明)検出。
D－183	128	100	97	68	31	B	1	I	縄文※		中1	中期後半	
D－184	156	222	81	178	45	B	2	I	縄文○	皿1	小3	中期後半	底面にピット。
D－185	90	123	60	103	28	B	2	I	縄文△	鏃1	中2	中期後半	
D－186	152	117	130	85	31	B	2	I	縄文△	FLA1	小4　中2	中期後半	
D－187	141	120	108	76	40	B	1	I	縄文△		中2	中期後半	
D－188	95	150	72	116	26	B	1	I	縄文※			中期後半	
D－189	<140>	<102>	<122>	<89>	21				縄文△		中1	中期後半	
D－190	246	142	224	116	37	B	2	I	縄文△	鏃未1　FLA1	小3　中1	中期後半	底面にピット。
D－191	73	91	53	78	13	B	2	I	縄文※		中1	中期後半	
D－192	<68>	<83>	<50>	<75>	14				縄文※			中期後半	形態不明。
D－193	72	<60>	46	<54>	15	C	2	I	縄文○		小1　中4	中期後半	

D－194	120	(100)	70	(63)	17	B	2	I	縄文△			中期後半	底面にピット。
D－195	110	81	84	56	33	B	1	I	縄文△		大1	中期後半	上部に礫。
D－196	106	168	73	146	28	B	2	I	縄文△	FLA1	小1　中1	中期後半	
D－197	(85)	83	(70)	67	12	B	2	I	縄文※	FLA1			底面にピット。
D－198	93	94	69	77	17	A	2	I	縄文※			中期後半	
D－199	80	80	60	59	19	A	2	I	縄文※		小1　中1	中期後半	
D－200	80	<52>	60	<36>	13	B	2	I			中1		
D－201	83	111	70	89	19	A	2	I	縄文△	磨斧1		中期後半	
D－202	(113)	120	(85)	86	29	A	2	I		打斧1	中1		土坑脇にピットが接する。
D－203	96	84	50	59	25	A	2	I		凹1	中2		底面にピット。
D－204	62	107	50	93	21	B	2	I		凹1	中2		
D－205	210	162	112	93	49	A	1	I	縄文△	砥1　敲1	小1　中1　大1	中期後半	
D－206	90	<65>	66	<56>	39	A	2	I	縄文※	楔1		中期後半	
D－207	67	<75>	45	<64>	47	B	1	I	縄文※		小1　中1	中期後半	
D－208	(105)	129	83	(102)	34	B	1	I	縄文※		小3	中期後半	底面にピット。
D－209									縄文※				欠番。遺物のみ。
D－210	82	<100>	37	<70>	34	D	2	I	縄文○	FA1　打斧1　敲1　棒礫	小3　中4　大2	中期後半	
D－211	196	<100>	176	<60>	21	B	2	I	縄文※		小1	中期	
D－212	不明	不明	不明	不明	14					台1　磨斧未1	中1　大2		
D－213	不明	(190)	不明	(172)	34	B	2	I	縄文○	磨1　石製1	小1　中9　大5	中期後半	
D－214	76	68	43	32	47	A	1	I	縄文※		小1　中1	中期後半	
D－215	<95>	<146>	<82>	110	40	D	2	I	縄文※			中期後半	
D－216	(190)	124	(70)	86	42	B	2	I	縄文※		小2	中期後半	
D－217	98	83	68	53	24	A	2	I		皿1			底面付近に石皿。
D－218	103	83	78	58	123	B	2	I			中1		
D－219	(113)	148	74	132	29	C	2	I	縄文※		小2	中期後半	
D－220	110	74	(80)	46	38	B	1	I	縄文※			中期	底面にピット。
D－221	<78>	129	<60>	95	31	A	2	I					
D－222	87	76	44	46	49	A	1	I	縄文※			中期	底面にピット。
D－223	108	<50>	(45)	24	36	B	1	I	縄文※			中期後半	底面にピット。
D－224	83	(76)	(56)	32	32	B	1	I	縄文※			中期	底面にピット。
D－225	(124)	(113)	124	97	21	D	2	I	縄文○	FLA1	小1　中1	中期後半	
D－226	105	94	76	68	19	A	2	I	縄文△			中期後半	底面にピット。
D－227	不明	不明	不明	不明	23				縄文△			中期後半	形態不明。遺物のみ。
D－228	220	192	188	63	67	B	1	I	縄文◎		中1	中期後半	底面にピット。
D－229	136	<94>	98	<76>	40	A	2	I	縄文△		小1　中1	中期後半	
D－230	不明	不明	不明	不明	29				縄文△		中2	中期後半	形態不明。遺物のみ。
D－231												中期	欠番。遺物のみ。
D－232	178	(128)	154	(90)	31				縄文△			中期後半	
D－233												中期後半	欠番。遺物のみ。
D－234	140	100	98	66	32	B	1	I	縄文※		中1	中期	
D－235	(106)	106	24	36	30	A	2	I	縄文※				
D－236	78	106	40	45	45	A	1	I	縄文△		小1	中期後半	
D－237	122	<57>	82	<44>	57	A	1	I	縄文※			中期後半	
D－238	98	85	46	44	48	A	1	I	縄文※			中期	
D－239	102	72	71	42	23	B	1	I	縄文※			中期	
D－240	150	74	122	52	29	B	2	I	縄文※			中期後半	
D－241	82	90	47	58	17	A	2	I					
D－242	90	127	(56)	94	41	B	1	I	縄文※			中期後半	底面にピット。
D－462	88	108	54	70	11	B	2	I	縄文△		小1	中期後半	
D－463	112	100	72	60	34	A	1	I			小1　中1		中央に礫。
D－464	88	94	70	80	14	A	2	I	縄文△		小1　中3	中期後半	
D－465	100	80	82	59	15	B	2	I			中2		
D－466	76	(97)	40	(60)	11	B	2	I	縄文※		小2		
D－467	181	153	156	126	28	B	2	I	縄文△	打斧1　皿1	小5　中4		D-468・469と重複。
D－468	(165)	128	122	102	13	B	2	I	縄文△	砥1　磨斧1	小1　中7　大3　特大1	中期後半	D-467・469と重複。底面中央にピット。
D－469	<74>	112	<60>	83	13	A	2	I			大1		D-467・468と重複。
D－470	<82>	108	<74>	84	11	A	2	I			中1		
D－471	63	69	46	56	17	A	2	I		皿1			底面にピット。
D－472	88	87	77	68	24	A	2	I	縄文◎			中期後半	深鉢（曽利系）上半部を逆位に埋設。
D－473	117	126	99	99	24	A	2	I		棒1			土坑内に石棒。
D－474	100	118	88	103	16	B	2	I	縄文※				

計測値の（ ）は推定値、＜ ＞は残存値。

第16表　行田大道南横道西遺跡　土坑観察表

（単位：㎝）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土	(重量)				
Ｄ－1	142	131	106	93	23	A	2	I	縄文△	磨１　丸１	小５ 中１ 特大１	中期後半	底面付近中央に丸石。
Ｄ－2	132	117	75	71	30	A	1	I	縄文△		小１　中３	中期	
Ｄ－3	130	124	107	102	23	A	1	I	縄文△		小９　中１　大１	中期後半	底面付近中央に大形礫。
Ｄ－4	104	102	74	84	30	A	1	I	縄文※	FLA10　FLB３		不明	
Ｄ－5	125	143	90	71	36	B	2	I	縄文△	FLB１	小８　中２　大１	中期後半	
Ｄ－6	135	120	109	94	23	B	2	I	縄文△	石製１	小１　中２	中期	
Ｄ－7	83	106	42	50	23	B	2	I			小１　中１		
Ｄ－8	96	123	75	100	25	B	1	I	縄文△	FLA３			
Ｄ－9	123	109	102	93	26	A	1	I	縄文※	FLD１	小１		
Ｄ－10	123	(123)	91	87	31	A	2	I	縄文△	FLA１	小１	中期	
Ｄ－11	125	122	107	108	23	B	1	I	縄文※	FLA３	大１		底面付近中央に大形礫。
Ｄ－12	96	90	83	75	24	A	1	I		棒１	中２		小型石棒出土。
Ｄ－13	95	100	80	82	19	A	1	I		磨１	中１		
Ｄ－14	91	81	76	60	23	A	1	I	縄文※		小１		
Ｄ－15	106	101	86	80	26	A	1	I	縄文※		小１		
Ｄ－16	(112)	129	(83)	103	34	A	1	I			小１	前期	
Ｄ－17	107	119	76	90	25	A	2	I	縄文※		小４		
Ｄ－18	78	96	64	80	24	B	1	I		FLB１			
Ｄ－19	143	123	122	96	17	B	2	I	縄文△	FLA２	小２		
Ｄ－20	140	145	118	120	24	A	2	I	縄文△		小１		
Ｄ－21	94	93	71	71	22	A	1	I	縄文※	CoA１	小１　中１		
Ｄ－22	239	222	218	197	21	A	2	I	縄文◎	LA６　打斧１　FLB１　磨１	小１	中期後半	
Ｄ－23	182	173	165	161	25	A	2	I	縄文△		小２　中１		
Ｄ－24	<55>	103	<45>	82	20	B	2	I		皿１	中２　大１		
Ｄ－25	<90>	108	<83>	74	32	A	2	I			特大１		底面付近に大形礫。
Ｄ－26	97	99	68	64	24	A	1	I	縄文※	打斧１			
Ｄ－27	(150)	166	(125)	141	26	A	2	I	縄文△	軽石１	小８	中期後半	
Ｄ－28	99	112	71	79	30	A	1	I	縄文※				
Ｄ－29	(213)	243	(179)	209	29	A	2	I	縄文△	FLA１　磨１	小12　中18		
Ｄ－30	97	(100)	80	(84)	22	A	2	I	縄文※				
Ｄ－31	175	136	144	120	24	A	1	I	縄文※		小１　中２	中期後半	
Ｄ－32	90	99	44	73	31	A	1	I	縄文※	FLA１　鏃１　FLB１	小１　中１		
Ｄ－33	84	89	52	54	19	A	2	I	縄文※			前期後半	
Ｄ－34	99	103	68	76	37	A	1	I	縄文※		中１		
Ｄ－35	136	111	108	65	34	A	1	I	縄文△			中期後半	別土坑と重複。
Ｄ－36	(94)	100	(80)	81	21	B	2	I	縄文△			中期後半	
Ｄ－37	91	78	72	59	22	A	2	I	縄文※		小２	中期前半	
Ｄ－38	<119>	(234)	<104>	(206)	14	D	2	I		棒１	小２	中期後半	
Ｄ－39	110	110	63	61	31	A	1	I	縄文※				
Ｄ－40	(92)	124	82	100	17	B	1	I	縄文※		中１		
Ｄ－41	100	(119)	73	(90)	28	A	1	I	縄文※				土坑脇にピットが接する。
Ｄ－42	(70)	80	(50)	43	22	A	1	I	縄文※	磨１			ピット状。
Ｄ－43	119	112	(90)	81	16	A	1	I	縄文※	FLB１	小１		土坑脇にピットが接する。
Ｄ－44									縄文※	鏃１	中１		欠番。
Ｄ－45													欠番。
Ｄ－46	94	102	69	83	24	A	1	I	縄文※	FLA１　凹B１			
Ｄ－47	181	158	157	133	26	A	1	I	縄文△		小２　中１　大１		底面中央に大形礫。
Ｄ－48	204	217	179	190	26	A	2	I	縄文△	鏃２　FLB２	小５	中期初頭	
Ｄ－49	139	135	92	93	30	A	2	I	縄文△		小１		
Ｄ－50	112	113	82	76	28	A	1	I	縄文※		小１　中１		
Ｄ－51	190	193	158	165	31	A	2	I	縄文△		小２	中期後半	
Ｄ－52	143	112	70	77	23	A	1	I	縄文※	原A１			別土坑が重複。
Ｄ－53	110	98	84	80	28	A	1	I	縄文※	凹B１			
Ｄ－54	144	142	108	112	26	A	2	I	縄文※		小５　中１		
Ｄ－55	78	72	63	51	26	A	1	I	縄文※				
Ｄ－56	104	105	95	90	24	A	1	I	縄文※		大１		
Ｄ－57	141	122	108	76	28	A	2	I	縄文△		小４		
Ｄ－58	124	117	107	91	27	A	1	I	縄文※	凹１	中２		
Ｄ－59	113	(100)	80	(60)	28	D	1	I	縄文※	FLA２	小４　中１		ピットが重複。
Ｄ－60	109	111	90	82	26				縄文※	FLB２			
Ｄ－61	206	200	180	169	28	A	2	I	縄文△	FLA２　CoB１　凹１　砥１	中２		

D－62	97	<97>	68	<77>	24	B	1	I	縄文※	軽石１			軽石出土。
D－63	100	(118)	59	70	25	A	2	I	縄文※		小２　中１		
D－64	73	77	58	68	18	A	1	I	縄文※	FLB１			
D－65	96	127	56	75	30	B	2	I	縄文※		小１		
D－66	108	104	84	73	18	A	2	I	縄文△		小１　大１	中期	
D－67	194	200	153	155	29	A	2	I	縄文△	FLA２　FLB１	小４		
D－68	(227)	218	(198)	194	26	A	2	I	縄文△	FLA２　打斧１　FLB１	小４　中１	中期前半	焼町土器出土。
D－69	132	126	106	96	22	A	2	I	縄文△	FLA５		中期前半	焼町土器出土。
D－70	119	108	95	74	23	B	2	I	縄文△		小３		
D－71	182	190	167	174	27	A	2	I	縄文△	FLA１　原A１	中３	中期初頭	底面付近に大形礫。
D－72	122	116	85	90	31	A	1	I	縄文△	FLA２　磨１　FLB１	小３　中３		
D－73	146	137	113	102	23	A	2	I	縄文△	FLA２	小２	中期後半	
D－74	106	122	80	96	24	A	2	I	縄文△			中期後半	
D－75	117	126	94	97	19	A	2	I	縄文※	FLB１	中１		
D－76	(146)	152	100	116	27	A	2	I	縄文○	凹１	小２　中１　大１	中期前半	
D－77	182	180	140	140	26	A	2	I	縄文△	FLA４　ScA１　FLB２　№１？	小11　中４		
D－78	77	80	50	57	23	A	1	I					
D－79	167	118	136	95	32	C	2	I	縄文※	FLA２　FLB１	小１　中１		
D－80	206	201	158	156	27	A	2	I	縄文△	SCB１　皿１		中期前半	
D－81	149	159	118	126	30	A	2	I	縄文△	FLB２　磨１	小２		
D－82	96	99	82	86	22	A	1	I	縄文※	FLA１　凹B１		前期後半	
D－83	<110>	(180)	<97>	(154)	14	B	2	I	縄文△	打斧１　軽石１	小１　中１	中期後半	
D－84	(202)	176	(180)	153	17	A	2	I	縄文△	FLA２　皿１	小２　中１	中期後半	
D－85	240	(220)	(218)	200	16	D	2	I	縄文△	磨１　原F１	小２	中期後半	
D－86	224	(194)	205	(170)	12	D	2	I	縄文○	FLA１　棒１	小８　中３	中期前半	棒状礫出土。
D－87	98	117	81	95	23	B	1	I	縄文△			中期	
D－88	155	184	137	164	31	C	2	I	縄文◎	FLB１　原B１	小７　中３	中期前半	焼町土器出土。
D－89	109	(106)	90	(90)	5	A	2	I	縄文△	皿１		前期	
D－90	136	148	112	122	27	A	1	I	縄文△	FLA３　鏃未１	中１		
D－91	208	189	167	157	31	A	1	I	縄文△	FLA２	小８　中４		
D－92	105	105	82	85	29	A	1	I			小１　中２		
D－93	283	228	240	186	26	B	2	I	縄文△	FLB１　磨１	小２　中３	中期前半	
D－94	<66>	<99>	<49>	<90>	36	－	1	I	縄文△	FLA４　FLB２		前期後半	
D－95	205	(204)	170	172	41	A	1	I	縄文○	FLA６	小11	中期前半	焼町土器出土。
D－96	104	100	88	72	20	A	1	I	縄文※				
D－97	99	94	69	66	18	A	2	I	縄文※				
D－98	277	<140>	261	<131>	40	B	1	I	縄文◎	FLA４　原A１　FLB１　敲１	小５　中１	中期前半	
D－99	(230)	<259>	(206)	<250>	35	B	2	I	縄文△	FLA２　打斧１　SCB１	小３	中期初頭	
D－100	88	149	65	123	19	B	2	I	縄文※		小１		
D－101	142	<86>	130	<75>	28	B	1	I	縄文※		中１		
D－102	127	<97>	99	<84>	28	A	1	I	縄文※	FLA３　磨１	小２　中１		
D－103	109	100	82	80	24	A	1	I	縄文△	FLB３　FLD１	中１		
D－104	132	<123>	100	<103>	27	A	1	I	縄文△	FLA２		中期前半	
D－105	130	112	100	92	27	A	1	I	縄文※	FLA１		中期初頭	
D－106	96	98	82	78	18	A	2	I	縄文※	凹１　棒１	中１		S－1より古い。
D－107	120	106	92	77	24	A	1	I	縄文△		中１	中期前半	
D－108	180	147	155	128	26	C	2	I	縄文△	FLA１　軽石１	小８　中３		
D－109	124	108	65	60	55	A	1	I	縄文※		小１		
D－110	160	180	140	163	16	A	2	I	縄文△	FLA１　鏃未１　FLB１	小８　中４		
D－111	<63>	100	<43>	70	32	A	1	I	縄文※	FLA４			
D－112	<32>	<21>	102	70	22	A	1	I	縄文※	FLA１		中期	
D－113	106	98	80	69	22	A	1	I	縄文※	FLA４		前期後半	
D－114	148	150	128	131	25	A	2	I	縄文※	FLA１　CoA１			
D－115	282	255	257	231	22	A	2	I	縄文○	FLA15　鏃１　CoA１　SCB１	小５		
D－116	160	153	150	150	23	A	2	I	縄文△	鏃１　磨１			
D－117	203	179	175	151	25	A	2	I	縄文△	FLA３　鏃１　FLB１	小６　中１	中期	
D－118	91	95	74	78	23	A	1	I	縄文※	楔１		前期後半	
D－119	230	220	186	176	36	A	2	I	縄文※	磨１	小３　中１	中期初頭	
D－120	141	138	110	98	20	A	2	I	縄文△	FLA４　鏃１か　FLB１	小３	中期初頭	
D－121	(226)	230	192	206	33	A	1	I	縄文○	FLA１　CoA１　FLB１	小６	中期後半	底面にピット。
D－122	123	126	95	108	24	A	2	I	縄文※	FLA１	小１		
D－123	146	127	109	102	30	A	1	I	縄文△		小４　中１		
D－124	237	208	191	162	35	A	2	I	縄文△	打斧１　SCB１	小１　中３		
D－125	138	125	104	99	27	B	1	I	縄文△		小２		
D－126	122	117	91	84	29	A	1	I	縄文△		小１	中期後半	
D－127	246	255	215	229	22	A	2	I	縄文△	FLA８　鏃１　SCB１　FLB１ 磨１　原F１	小８　中２		

D－128	146	150	118	126	26	A	2	I	縄文※	FLA２	小２ 中１ 特大１		底面付近の中央に大形礫。
D－129	220	203	182	168	32	A	2	I	縄文△	FLA４ FLB１	小４		
D－130	133	134	126	116	22	A	2	I	縄文※	FLA２	小１		底面にピット。
D－131	72	68	60	56	25	A	1	I	縄文※				
D－132	91	94	68	73	20	A	2	I			小１		
D－133	216	304	190	271	30	B	2	I	縄文※	打斧１ FLB３ 磨１	小６ 中４		大形土器破片出土。
D－134	146	138	107	107	30	A	2	I	縄文△	錐１ 鏃未１ 磨１ ｽﾀﾝﾌﾟ１	小３		スタンプ形石器出土。
D－135	108	87	90	61	24	B	1	I	縄文※	FLA２ 軽石１	小２		底面にピット。
D－136	233	279	192	230	37	B	2	I	縄文◎	FLA３ FLE１	小５ 中８ 大１		底面付近中央に大形礫。
D－137	90	92	72	68	21	A	2	I	縄文△	FLA１ 打斧１		中期初頭	
D－138	113	98	90	70	25	A	2	I	縄文△				
D－139	211	(294)	188	(274)	31	B	1	I	縄文○	FLA４ 鏃１ FLB２ 皿１ 軽石１	小13 中３		
D－140	115	136	80	106	35	B	1	I	縄文◎	FLA４	小１ 中１	中期後半	底面中央付近に土器破片。
D－141	90	86	58	63	28	A	1	I	縄文※	FLA１ FLB１	小１ 中１		
D－142	84	(82)	60	52	18	A	1	I	縄文※	FLA３		中期後半	
D－143	241	229	211	203	27	A	2	I	縄文△	FLA１ FLB１	小15 中２		
D－144	156	157	134	134	21	A	2	I	縄文※		小２ 中１	中期前半	
D－145	130	136	109	106	24	A	2	I	縄文※	FLA１	小５		
D－146	223	<90>	203	<82>	26	C	1	I	縄文○	FLA１	小４ 中１		底面に磨石。
D－147	101	110	76	82	30	A	1	I	縄文△				
D－148	141	<122>	115	<110>	31	B	1	I	縄文※	FLA２	小２		土坑脇にピットが接する。
D－149	102	117	60	78	78	B	1	Ⅱ	縄文△	FLD１	小１ 中１		
D－150	176	(112)	(130)	53	48	B	1	I			小１		
D－151	210	<130>	178	<117>	66	A	1	Ⅱ	縄文◎		小１ 中１	中期後半	
D－152	102	103	62	70	27	A	2	I	縄文△		小１ 中２		土坑脇にピットが接する。
D－153	250	(180)	223	156	65	B	2	I	縄文◎	FLA４ 打斧１ FLB２ 凹１	小13 中４ 大２	中期後半	
D－154	(197)	<120>	(170)	<120>	59	D	1	I	縄文◎	軽石１	小10 中６	中期前半	焼町土器出土。
D－155									縄文△		中１		欠番。遺物のみ。
D－156	<136>	107	<98>	68	76	D	1	I	縄文○	FLB１ 球１	小２ 中４	中期前半	
D－157	(120)	不明	(96)	不明	43	D	1	I	縄文○	鏃未１ 楔１	小１ 中４		
D－158	102	<57>	68	<46>	77	A	－	I					
D－159	206	189	178	158	32	A	2	I	縄文△			中期後半	
D－160	243	(224)	220	(186)	27	B	2	I	縄文◎	FLA９ FLB１ 砥１ 敲１ FLE１	小12 中８	中期後半	
D－161	100	97	80	79	23	A	2	I	縄文※				
D－162	126	133	92	104	29	A	2	I	縄文※		中２		
D－163	157	<97>	131	<85>	23	A	2	I	縄文△			中期後半	
D－164	187	162	160	134	24	B	2	I	縄文※		小３ 中２		
D－165	225	212	206	182	23	A	2	I	縄文※		小１ 中１		
D－166	129	123	115	103	20	A	2	I	縄文※		中１		
D－167	150	164	138	153	19	A	2	I	縄文△	SCB１ 凹B１	小３ 中３ 大1		底面に大形礫、ピット。
D－168	175	226	160	210	19	C	2	I	縄文※	FLB１	中２		
D－169	187	173	156	142	32				縄文△	砥１			
D－170	112	89	88	53	28	B	1	I	縄文※				
D－171	127	<91>	107	<79>	30	A	1	I	縄文※		小２ 中１		
D－172	160	<83>	146	<74>	38	A	2	I	縄文◎	FLA３ 打斧１ FLB２ 皿１ 凹１	小２ 中２	中期後半	
D－173	152	(130)	123	(105)	28	A	1	I	縄文△		大1		底面付近中央に大形礫。
D－174	256	<187>	244	<169>	38	A	2	I	縄文△	FLA１ 多孔１	小３ 中５	中期後半	底面に多孔石。ピットが接する。
D－175	120	130	110	117	26	A	2	I	縄文※		中１ 大１		
D－176	194	222	68	203	36	B	2	I	縄文※	皿１	小１ 中３		
D－177	106	120	84	102	28	B	1	I	縄文※	FLA１	小５ 中７		
D－178	109	112	88	94	24	A	2	I					
D－179	110	122	89	99	26	A	2	I	縄文※			中期初頭	
D－180	152	144	134	123	22	A	2	I	縄文※	FLB１	小２ 大１		
D－181	139	150	118	125	18	A	2	I			小１		
D－182	135	183	102	129	48	A	2	I		磨１	中２		
D－183	220	207	185	174	43	A	1	I	縄文△	丸１	小２ 中２		底面壁際付近に丸石。
D－184	118	115	103	97	20	A	2	I	縄文△	凹１	小４		土坑脇にピットが接する。
D－185	147	126	114	96	28	B	2	I	縄文※	打斧１	小１		
D－186	136	130	115	106	28	A	2	I	縄文※				
D－187	111	106	92	88	17	A	2	I			中１		
D－188	220	202	188	174	34	A	2	I	縄文△	FLB１	小４ 中１	中期後半	
D－189	107	121	72	74	46	A	1	I		FLA２			
D－190	103	94	70	66	39	A	1	I	縄文△	FLA２	小５ 中４	中期後半	底面にピット。
D－191	198	186	173	158	39	A	2	I	縄文△	FLB２	小２		土坑が重複。

D－192	206	202	173	165	33	A	2	I	縄文○		小5　中1		
D－193	209	<152>	190	<136>	28	A	2	I	縄文※	FLA3　原A1　砥1	小2		
D－194	192	(179)	157	(144)	25	A	2	I	縄文△	FLA7　FLB1	小3		土坑が重複。
D－195	90	92	75	76	18	A	2	I	縄文※			前期後半	
D－196	154	176	116	136	33	B	2	I	縄文△	FLA3	小3　中1		
D－197	255	(230)	226	(200)	25	A	2	I	縄文△	FLA2　打斧1　FLB1	小12		
D－198	132	123	99	98	21	A	2	I	縄文※	FLB1	中1		
D－199	147	150	114	125	24	A	2	I	縄文※	FLB1	小2		
D－200	127	127	96	104	13	A	2	I	縄文△	FLA1　ScA1	小1		
D－201	170	166	147	149	24	A	2	I	縄文△	CoA1	小2　中1		
D－202	133	130	88	80	28	A	1	I	縄文△	FLA2	小1　中1		
D－203	91	86	70	69	17	A	2	I			中1		
D－204	224	184	181	141	72	B	1	I	縄文△	FLA2	小2　大1		底面に土坑重複。
D－205	122	118	88	84	26	A	1	I			小1　中1		
D－206	97	103	58	61	25	A	1	I	縄文※		小4		
D－207	169	153	143	112	24	A	2	I	縄文△	FLA1　CoA1　FLB1	小2　中2		
D－208	173	171	78	89	61	A	1	II	縄文△	FLA5　鏃1　鏃未1　CoA1　磨1　ｽﾀﾝﾌﾟ1	小4　中2		
D－209	215	136	60	67	34	D	2	I	縄文△	FLB2	小3　中1		底面に土坑重複。
D－210	118	136	93	104	25	A	2	I	縄文※		小1　中1		
D－211	101	101	63	69	21	A	2	I	縄文※		中1		
D－212	147	147	128	129	19	A	2	I	縄文※	磨1　凹1			
D－213	148	154	134	141	21	A	2	I	縄文※	FLA2　棒礫1			
D－214	68	73	47	56	14	A	2	I	縄文※	FLA1	中1		
D－215	166	170	78	86	50	A	1	I	縄文※				
D－216	94	108	66	83	31	B	1	I	縄文※	鏃1	中1		
D－217	102	106	72	84	28	A	1	I			中1		底面にピット。
D－218	99	101	78	77	22	A	2	I	縄文※				
D－219	96	85	70	61	18	A	2	I	縄文※				
D－220	<94>	180	<74>	150	21	A	2	I	縄文△				
D－221	104	118	73	82	19	A	2	I	縄文※				
D－222	174	153	157	133	19	B	2	I	縄文※	磨1	小1　中1		
D－223	120	140	102	125	17	B	2	I	縄文△	RFA1	小1　中1		
D－224	90	90	62	60	31	A	1	I	縄文※		小1　中3		
D－225	115	110	96	86	23	A	1	I	縄文※	FLA3	小1　中1		
D－226	169	167	140	138	29	A	2	I	縄文△	FLA4　凹1	小2		
D－227	123	140	100	117	32	B	2	I	縄文△			中期後半	
D－228	104	104	95	88	22	A	2	I	縄文※		中2		
D－229	(160)	139	(134)	116	27	B	2	I	縄文※				
D－230	110	132	80	101	22	B	2	I					
D－231	120	143	75	107	40	D	1	I	縄文※	FLB1			
D－232	79	86	77	65	32	A	1	I	縄文※				
D－233	94	92	76	72	21	A	2	I	縄文※	RFA1	大1	前期前半	
D－234	117	132	112	115	25	A	2	I	縄文△	FLA2	小3　中4	中期前半	焼町土器出土。
D－235	165	198	84	142	55	B	1	I	縄文△		小5　中3	前期後半	
D－236	126	118	89	83	32	A	1	I			中1　大2		底面中央付近に礫3点。
D－237	117	115	72	60	34	A	1	I	縄文※		中1		
D－238	109	116	81	79	29	A	1	I	縄文※		中1　特大1		底面中央付近に大形礫。
D－239	157	143	143	122	27	A	2	I	縄文※	FLA2　打斧1　磨1	小1　中1	中期初頭	
D－240	162	177	141	153	27	A	2	I	縄文△	FLA1　匙A1　SCB1			
D－241	132	165	93	133	27	B	2	I			小1　中3		
D－242	(308)	190	(250)	98	65	B	2	I	縄文○	SCB1　棒未1　軽石1	小12　中4　大1		底面に土坑重複。
D－243	140	122	108	90	17	A	2	I			中1		
D－244	120	140	107	120	12	A	2	I		磨1			
D－245													欠番。
D－246	176	(168)	164	(156)	23	A	2	I	縄文△	FLA3　FLB2	中1	中期	
D－247	153	(140)	138	(123)	23	A	2	I	縄文○	FLA3　FLB1　凹1　棒1　棒未1　多孔1	小2　中4　大1		底面付近に石棒出土。
D－248	125	130	101	104	31	A	1	I	縄文△	FLA15　FLD2			
D－249	131	(136)	95	94	38	A	1	I	縄文○	FLA12 鏃未1 FLB1 凹1	小5	中期初頭	
D－250	182	206	124	162	53	B	1	I	縄文△		小2　中1		
D－251	118	136	87	106	29	B	2	I	縄文△	FLB1	小1		
D－252	145	120	124	97	26	B	2	I	縄文△	打斧1	小1　中1		
D－253	117	129	93	107	25	B	2	I	縄文△				
D－254	122	124	102	100	31	A	1	I	縄文※	軽石1	中1		
D－255	210	152	161	98	45	C	2	I	縄文※		中1　大1	中期後半	

D－256	140	154	113	126	28	A	1	I	縄文※		中３　大２		
D－257	102	98	76	69	29	A	1	I	縄文※	FLA３	中１		
D－258	87	80	58	57	17	A	2	I	縄文※		小１	中期後半	
D－259	128	127	107	104	28	A	2	I	縄文※				
D－260	(87)	83	56	57	34	A	1	I		凹B１			
D－261	(93)	102	(65)	77	33	A	1	I	縄文※		小１		
D－262	150	<66>	119	<53>	33	A	1	I	縄文△	FLA２	小２　中１		
D－263	102	107	80	84	22	A	2	I	縄文※		小３　中１	前期前半	
D－264	98	89	81	76	22	A	2	I	縄文△		小１		
D－265	134	143	120	127	20	A	2	I	縄文※			中期前半	底面にピット。
D－266	155	143	101	104	61	A	1	I	縄文※				
D－267	(140)	<118>	(114)	<53>	30	B	1	I	縄文△		小６　中１　大１		
D－268									縄文△	FLA１　FLB２	小３　中３	前期後半	Ｊ－９住に変更（欠番）。
D－269									縄文△	FLA５ 原A１ CoA１ FLB１	小８　中２　大１	中期	Ｊ－９住に変更（欠番）。
D－270	115	118	89	93	31	A	1	I			小１　中２		
D－271	110	133	80	100	31	B	1	I	縄文△	FLA１　FLB１		中期前半	焼町土器出土。
D－272	106	111	92	92	24	A	2	I	縄文※	FLA１	小１　中１		
D－273									縄文△	FLA１　SCB１　棒礫１ FLD１	小２		欠番。遺物のみ。
D－274	108	105	90	80	24	A	2	I	縄文※		中１		
D－275	125	123	94	89	24	A	2	I	縄文※		中２		
D－276	112	106	87	83	26	A	1	I	縄文※	FLA１			
D－277	132	139	98	100	29	A	1	I	縄文※		中１		
D－278	154	145	145	125	30	B	2	I			小１		
D－279									縄文※		中１		欠番。遺物のみ。
D－280	170	154	155	133	17	A	2	I	縄文△		小１　中１		底面にピット。
D－281	92	93	64	64	27	A	1	I	縄文△			中期後半	
D－282	151	123	138	102	21	B	2	I	縄文△	磨斧１			底面にピット。
D－283	147	146	126	107	33	A	1	I	縄文△	FLA１　FLB１　磨１　球１	小３		
D－284	140	143	113	122	30	A	2	I	縄文※		小１　中１		
D－285	173	188	120	148	63	A	1	I	縄文△	FLB１	小２　中１		
D－286	105	170	74	145	47	D	1	I	縄文△	FLA１　FLB１　磨１　凹１			
D－287	97	(103)	84	84	21	A	2	I	縄文※				底面にピット。
D－288	162	158	144	140	27	A	2	I	縄文○	FLA１	小８　中１　大１	中期後半	土坑中央に石皿。
D－289	192	110	171	90	30	D	2	Ⅱ	縄文△	CoA１　打斧１　皿１	小３　中３　大２		複数の土坑が重複。土器を埋設する(U－２)。
D－290	145	<100>	122	<90>	24	A	2	I	縄文△		中１　大１		土坑中央に礫。
D－291	102	98	83	82	22	A	2	I	縄文◎		小１		覆土下位に土器(埋設状態)。
D－292	104	94	83	76	17	A	2	I	縄文◎	打斧１　FLB２	小１　中２		大形土器破片が埋設。
D－293	153	165	143	154	19	A	2	I	縄文△				底面に土器片集中。
D－294	126	130	112	116	17	A	2	I	縄文※	SCB１	小４		
D－295	92	96	70	74	19	A	2	I	縄文※	磨斧１	小１		
D－296	(110)	148	85	123	26	B	2	I	縄文※		小１		
D－297	<55>	(95)	<24>	(74)	59	D	1	I					
D－298	103	123	84	99	31	B	1	I	縄文※			前期後半	底面にピット。
D－299	208	(120)	183	(40)	36	D	1	I	縄文△		中１	前期後半	複数の土坑が重複。
D－300	83	94	76	33	35	A	2	I					
D－301													風倒木痕。
D－302	118	219	138	195	36	B	2	I	縄文※		小13　中17	前期前半	
D－303	105	110	73	76	26	A	2	I	縄文※		小１		
D－304	(114)	100	(98)	87	17	A	2	I	縄文※	FLB１			
D－305	224	124	160	74	34	D	1	I					風倒木痕。
D－306	127	<94>	96	<77>	34	A	2	I	縄文◎	FLB１	小６　中３	中期後半	J-16住より新しい。土器が横倒し状態(埋納状態)。
D－307	96	105	84	82	23	A	1	I	縄文※	FLB１			
D－308	151	107	134	88	49	D	1	I	縄文△	打斧１			
D－309	108	110	77	54	33	A	1	I	縄文※	打斧１			
D－310	98	106	74	84	41	A	1	I	縄文○	FLA３　打斧１　FLB２　磨１ 皿１　FLD１　磨斧１　石製１ 軽石１	小７　中４	中期後半	曽利系土器出土。
D－311									縄文※		大１		風倒木痕。
D－312	110	107	91	88	43	A	1	I	縄文○	FLA１　FLB１		中期前半	
D－313	<150>	223	93	(95)	37	D	2	I		SCB１			
D－314	90	90	80	76	60	A	1	Ⅱ	縄文◎	FLA５　FLB１	小４　中１	中期後半	炉が新しい。
D－315	112	110	97	89	18	A	2	I	縄文※			中期初頭	
D－316	114	108	78	71	24	A	2	I	縄文※				
D－317	114	118	100	99	16	A	2	I	縄文※	FLA１	中１		
D－318	104	104	86	83	31	A	2	I			小１　中１		

D－319	123	100	100	77	20	B	2	I	縄文※				
D－320	72	93	57	75	12	B	2	I	縄文※				
D－321	130	106	(115)	83	11	B	2	I			小3		
D－322	<120>	(127)	<110>	(107)	24	B	2	I	縄文◎		小5　中3		
D－323	不明	不明	不明	不明	26	A	2	I	縄文◎	FLB2　磨斧1	小32　中23　大2	中期後半	形態不明。
D－324	(74)	114	(55)	96	43	D	2	I					
D－325	113	82	90	56	55	C	1	I					
D－326	(230)	(240)	(200)	(200)	34	D	－	－	縄文◎	原A1　SCB2　凹1	小9　中9　大1		
D－327	(194)	<176>	(163)	99	38	A	2	I	縄文△	磨1	特大1		底面にピット。土坑が重複。大礫出土。
D－328	78	84	58	72	25	B	1	I	縄文※		中1	前期後半	
D－329	109	63	48	28	44	B	1	I	縄文※	FLA1			
D－330	80	<67>	67	59	11	A	2	I	縄文※				
D－331	119	76	95	42	59	D	1	I	縄文※	FLA2　楔1　打斧1	小8　中1		
D－332	108	104	77	76	21	A	2	I	縄文△	FLA1　鏃未1　皿1	小2　中2		
D－333	127	<120>	110	<110>	23	B	2	I	縄文△	打斧1	小4 中1 特大1		底面に大礫。
D－334	<70>	91	<55>	72	28	A	1	I	縄文△	打斧1	小2　中1		
D－335	<126>	<76>	<108>	<57>	33	B	1	I	縄文◎	打斧1		中期前半	
D－336	<50>	(83)	<46>	(73)	15	A	2	I	縄文△	FLA1　凹B1	小2	中期後半	
D－337	145	146	123	120	29	A	2	I	縄文◎	FLA2　打斧1　FLB4　台1 FLD1	小5　中6	中期	底面付近に台石。
D－338	142	136	102	112	51	A	1	I	縄文○	打斧2　SCB1　FLB1	小15　中2		
D－339	108	104	92	88	25				縄文△	FLA5	小2　中1		
D－340	150	100	126	(80)	37	B	2	I	縄文※	FLB1	小4　中8　大2		
D－341	99	100	79	80	22	A	2	I	縄文※				
D－342	136	131	113	113	29	A	2	I	縄文※	FLB1			
D－343	90	(104)	65	43	34	A	1	I	縄文※	楔1			
D－344	120	143	104	130	20	B	2	I	縄文◎	磨1　多孔1	小4		底面にピット。
D－345	93	92	80	79	21	A	2	I		FLA1			
D－346	78	42	61	30	30	B	2	I	縄文※				ピット状。
D－347	102	<78>	90	<73>	21	A	2	I					
D－348	104	90	86	75	24	B	2	I	縄文※	鏃未1			
D－349	88	不明	69	<50>	19	B	2	I					土坑脇にピットが接する。
D－350	98	105	45	46	80	A	1	I					底部中央に深くピット。
D－351	<40>	120	<31>	102	51	B	1	Ⅱ	縄文◎	打斧1　FLB2　凹1	小1		土器を埋設(U-1)。
D－352	172	131	157	113	39	D	1	I	縄文△		大1		底面に礫。
D－353	(76)	82	(62)	68	24	A	1	I		凹1	中2		底面に凹石。
D－354	(36)	36	27	26	20	A	1	I	縄文※				ピット状。
D－355	(126)	126	(106)	102	50	A	1	I	縄文※	FLA1　鏃未1　磨斧1	小1	中期後半	覆土上部に大礫。
D－356	88	78	74	68	24	A	1	I	縄文○	FLA1　ScA1		中期前半	
D－357	106	106	90	92	34	A	1	I	縄文※	打斧1　FLB1	小2		底面中央に浅いピット。
D－358									縄文△	FLB1	小1		欠番。遺物のみ。
D－359	76	70	64	59	23	A	1	I	縄文○				
D－360	77	70	64	59	20	A	1	I		錐1			
D－361	87	82	73	70	28	C	1	I					底面に住居柱穴。
D－362	<70>	130	<66>	120	20	A	2	I					土坑脇にピットが接する。
D－363	44	68	34	55	72	B	1	I	縄文※	FLA4　FLB2	中1		大形柱穴状。
D－364	<27>	110	<15>	38	58	B	1	I	縄文◎	FLA5　楔1　打斧7　SCB1 FLB4　皿1　磨斧2	小26　中5	中期後半	ピットが重複。
D－365	103	(106)	98	(94)	44	A	1	I	縄文※	FLB1			土坑脇にピットが接する。
D－366	(90)	92	(74)	78	25	A	1	I	縄文○	砥1			
D－367	<57>	<102>	<46>	<87>	13	B	2	I					土坑脇にピットが接する。
D－368	92	(80)	75	68	15	A	2	I		皿1			
D－369	(138)	不明	(118)	<80>	11	A	2	I	縄文※				
D－370	97	94	80	74	19	A	2	I	縄文○				
D－371	146	166	106	128	36	B	2	I	縄文△		大1		
D－372	254	228	234	206	39	A	1	I	縄文◎	FLA29　鏃6　鏃未1　SCB1 FLB3　棒礫1	小1　中1		土坑内にD-387、ピット。棒状礫が床に刺さった状態で出土。
D－373	209	(163)	186	(140)	33	B	2	I	縄文△	FLA9　錐1　CoA1　SCB2 FLB2	小5　中1		中央にD-385。
D－374	258	228	237	201	32	A	2	I	縄文△	SCB1　磨1　凹1	小1		竪穴状。底面に柱穴状ピット。
D－375	128	150	99	120	37	B	1	I	縄文※	打斧1　SCBB1　磨斧1			打斧と磨斧が共伴。
D－376	104	120	82	104	29	B	1	I	縄文※	FLA2	小1 中1 大1		土坑中央に礫。
D－377	150	(98)	127	(64)	25	B	2	I	縄文※	FLA1　FLB1	小48　中16		小礫が集中(集石状）。
D－378	109	100	86	82	24	A	1	I		皿1			中央に石皿。
D－379	206	(216)	185	(203)	33	A	1	I	縄文○	FLA6　原A3　FLB6　磨1	小1　中1		土坑内に２基の土坑重複。
D－380	169	<110>	152	<98>	27	A	2	I	縄文○			中期初頭	

D－381	158	159	108	113	61	A	1	I	縄文△	FLA11 鏃未1 錐2 楔1 FLB3	小1		
D－382	<63>	146	<54>	114	24	B	2	I	縄文△	FLA7 打斧1 FLB1 皿1	小2 中1	中期初頭	底面に石皿。
D－383	139	145	110	106	48	A	1	I	縄文△	SCB1 FLB3 磨1	中1	中期初頭	D-382が新しい。
D－384	140	117	100	68	55						小1 中1		
D－385	92	90	66	72	40	C	1	I	縄文※	FLA3 ScA1 打斧1 FLB3 磨2	小1	中期初頭	底面からやや浮いて大形礫。
D－386	146	143	105	108	40	A	1	I	縄文※	磨1	中4		
D－387	111	106	96	96	58	A	1	I		磨1 敲1 棒礫1 多孔1			D-372より新しい。多孔石、棒状礫等出土。
D－388	116	86	80	58	34	B	1	I	縄文※	錐1 打斧1 FLB1			底面にピット。
D－389	80	90	63	72	58	A	1	I	縄文※	凹B1 皿1			覆土中位に土器。
D－390	108	150	81	128	33	B	1	I	縄文△	CoA1 SCB1	中1 大1		
D－391	104	102	90	56	37	B	2	I	縄文※		小2 中1		底面に深いピット。
D－392	83	(80)	68	(70)	41	A	2	I					
D－393	89	<72>	71	<66>	43	B	1	I		磨1	大1		D-389が新しい。
D－394	153	<116>	129	<100>	34	B	1	I	縄文△	FLA6 鏃1 打斧1 皿1			D-388が新しい。
D－395	98	87	71	50	33	B	1	I	縄文※		小1		底面壁際に棒状の磨石。
D－396	104	96	71	56	24	B	1	I	縄文※	磨1	小1 中1	中期初頭	
D－397	140	112	124	98	30	B	2	I		FLA1 多孔1	中1		
D－398	123	112	94	86	44	A	1	I	縄文△	FLA2 鏃1 FLB1 磨1	小1 中1	中期初頭	底面に多孔石。
D－399	77	86	63	66	28	A	1	I	縄文※			後期前半	
D－400	136	153	104	126	57	A	1	I	縄文○	FLA7 打斧1 SCB1 FLB3 皿1	小3	中期初頭	底面中央に石皿。
D－401	98	104	64	75	30	A	1	I	縄文※	磨1 軽石1	中1		
D－402	107	100	86	80	22	A	2	I	縄文※	FLA2	小1		
D－403	144	96	73	66	37	A	1	I	縄文※	FLA11	小1		浅い土坑が重複。
D－404	<186>	190	(170)	135	38	B	2	I	縄文△	FLA12 CoA1 他A1 SCB1	小7 中3		
D－405	不明	162	不明	112	37	D	2	I			中1		底面に浅いピット。扁平礫が出土。
D－406	(118)	148	(73)	100	40	B	1	I			中1		
D－407	175	124	159	106	29	D	2	I	縄文△	FLA1			土器片集中。
D－408	103	108	77	(74)	38	A	1	I	縄文※		小1		
D－409	137	134	118	107	29	A	2	I	縄文※				
D－410	68	72	52	50	32	A	1	I		磨1 凹1			ピット状。

計測値の（ ）は推定値、＜ ＞は残存値。

＜凡　例＞

土器重量　※　100ｇ未満
△　100ｇ以上
○　500ｇ以上
◎　1kg以上

礫　小　100ｇ未満
中　100ｇ以上
大　1kg以上
特大　10kg以上

平面形態　A　円形
B　楕円形
C　方形
D　不整形

断面形態　1　逆台形
2　碗・皿状
3　袋状

覆土　Ⅰ：自然層ベース
Ⅱ：人為的
Ⅲ：浅間B軽石混入土

第17表　古代大溝（M－1号溝）観察表　　（単位：m）

遺構名	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
大道南横道東地区（A～C区）	A－2	A	41	5.5～7.8	1.4～2.2	N-73°-W	－	A→B	B
		所見	斜面に直行して崖で抜ける。溝北側壁にピットが少数。底面平坦。本溝の谷を挟んだ西側延長線上に続く（富岡市調査区）。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	A－3	A	8	5.7	1.4	N-70°-W	礫	A→B	B
		所見	部分的調査。覆土内に礫。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	B－1	A2	13	－	1.7	N-70°-W	－	A→B	A
		所見	溝南側のラインを確認。北側は調査区外。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	B－2	－	2.5	－	1.5	N-66°-W	－	－	－
		所見	溝北側は調査区外。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	B－3	－	26	－	1.7	N-66°-W	－	－	－
		所見	溝北側は調査区外。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	B－4	－	6	7	1.9	N-61°-W	－	B	A
		所見	溝北地面に盛土の痕跡（ロームブロック混入土貼付）。溝底面の北で大礫を検出。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	B－5	－	25	6	1.9～2.0	N-61°-W		B	A
		所見	溝北側法面、地山掘り残し部分（凸状）あり（1ヶ所）。溝に沿って北側に盛土痕跡が延びる。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	B－6	－	27	5.5～6.0	2	N-65°-W	土器△	B	A
		所見	溝北側法面、地山掘り残し部分（凸状）あり（2ヶ所）。溝内側(北)の地面に盛土痕跡（ロームブロック混入土貼付）。盛土下より古代の土器破片分布（掘削段階時の土器）。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	C－1～3	－	68	4.8～5.8	1.3～1.9	N-67°-W	土器※ 炭化材	B	A
		所見	1区の溝底付近で土器出土。3区の溝底付近で焼土痕と炭化材検出（分析によりコナラ属と判明）、底面付近に礫（№1、2）。溝北側法面に多数のピット。						
遺構名	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
市子塚地区（C区）	C－4～6	－	76	5.0～5.3	1.6	N-66°-W	土器※	B	A
		所見	内側が高く、外側が低い。底面に多数のピット。						
遺構名	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
二本杉原東地区（D・E区）	D区	－				N-58～62°-W		A+B	A
		所見	1～4トレンチ。H29立会調査では、土橋（硬化面）を確認。2トレンチと3トレンチの間で屈曲する（地割りのまま）。H30立会調査で溝の位置確認。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	E区					N-58°-W		A+B	A
		所見	1～9トレンチ。溝の遺構確認調査。1、2トレンチの溝北側で盛土（ローム混入土）の痕跡を確認。県道部分は県教委が調査。中部地区で確認された溝と同一遺構で接続することを確認。H30立会調査で溝の位置確認。						

※計測値は遺構確認面からの距離。

＜凡　例＞

大溝の断面形態　A：両側の法面が途中で屈曲して外に開き、底面までほぼ垂直になる（断面対象）。
B：断面がU字状。
C：片側の法面が途中で屈曲し、断面が非対称となる。

大溝の覆土形態　A：底面付近にローム混入土が堆積する（人為的）。
B：自然堆積（流れ込み）、壁崩落土の堆積。

大溝の底面　A：底面の中央に一段下がった浅い溝。
B：底面が平坦。

第18表　行田二本杉原東Ⅱ遺跡　縄文土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期/型式
			①焼成	③胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	M-1E区 3ﾄﾚﾝﾁ №1	深鉢	良好	砂粒・白色粒・黒色鉱物含	口縁部破片	平縁口縁。単節ＲＬ縄文を横位施文する。	中期後半
2	M-1E区 3ﾄﾚﾝﾁ №5	深鉢	普通	砂粒・繊維含	口縁部破片	平縁口縁。浅い平行沈線を口縁に沿って横位に施す。	前期中葉
3	M-1E区 3ﾄﾚﾝﾁ №10	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色鉱物含	口縁部破片	平縁口縁。外面口唇部を肥厚する。口縁部に無文帯を設け、下位に太さ10mm前後の沈線を横位に施す。沈線下に横位の撫でを施すことにより、沈線と撫での間が微隆起状を呈する。単節ＲＬ縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅢ式
4	M-1E区 3ﾄﾚﾝﾁ №3	深鉢	普通	砂粒・石英片含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を横位に施し、平行沈線内に平行沈線の施文具よりも小さい半截竹管状工具による爪形文を配す。	諸磯ｂ式
5	M-1E区 P-1	浅鉢	良好	砂粒・白色粒含	体部破片	単節ＲＬ縄文を横位施文後、半截竹管状工具による平行沈線を横位に施し、平行沈線間に爪形文を配す。爪形文は押し引き状を呈する。	諸磯ｂ式
6	M-1E区 4ﾄﾚﾝﾁ №5	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色鉱物・繊維含	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施し、平行沈線間に数段おきに同工具による爪形文を配す。	前期中葉
7	M-1E区 4ﾄﾚﾝﾁ №4	深鉢	普通	砂粒・白色粒・石英片・黒色鉱物・繊維含	胴部破片	単節ＲＬ縄文と単節ＬＲ縄文との結束羽状縄文を施す。	前期後葉
8	M-1E区 5ﾄﾚﾝﾁ	深鉢	良好	砂粒・白色粒・黒色鉱物含	胴部破片	丸棒状工具による並行沈線を横位に施し、沈線間に細い単節ＬＲ縄文を横位施文する。外面には縦位・斜位の磨きを施す。	堀之内２式

第19表　行田市子塚遺跡　縄文土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期/型式
			①焼成	③胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
9	Ａ区東92区	深鉢	普通	砂粒・白色粒多・黒色鉱物多・ﾁｬｰﾄ・小礫含	口縁部破片	平縁口縁。幅狭の口縁部無文帯を区画する太さ8mmの沈線を横位に巡らし、太さ5mmの沈線により逆Ｕ字状の区画を施す。区画内は磨り消し。単節ＲＬ縄文を斜位施文する。	加曽利ＥⅢ式
10	Ａ区東142区	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色鉱物含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
11	Ａ区東97区	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色鉱物含	胴部破片	太さ6mmの沈線を垂下して縦位区画する。	加曽利ＥⅢ式
12	Ｂ区45区+55区	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒多・石英片・黒色鉱物・小礫含	底部破片	平底。遺存部においては無文。	中期後半

第20表　行田大道南横道東遺跡　縄文土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期/型式
			①焼成	③胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
13	D-3	深鉢	やや不良	砂粒・繊維含	胴部破片	無節Ｌ縄文を横位施文後、平行沈線を斜位に施す。無節縄文の条と平行沈線の向きを逆に施文することにより、斜位の格子目状を呈する。	前期前半
14	D-6 2N-6b	深鉢	普通	砂粒・繊維含	胴部破片	付加状縄文と無節Ｌ縄文で羽状縄文を構成する。	前期前半
15	D-7№2	深鉢	普通	砂粒・白色粒含	胴部破片	楕円形押形文。	早期
16	D-7№2 2M-10a	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を横位施文後、半截竹管状工具による平行沈線を横位・山形に施す。同工具による爪形文を縄文施文部に配す。	前期前半
17	D-8 2P-7a	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	底部の1/5	上げ底を呈し、高台状に外に開く。複節ＲＬＲ縄文を横位施文する。	前期前半
18	D-13 2O-8b	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	口縁部破片	平縁口縁。単節ＲＬ縄文を横位施文後、半截竹管状工具による平行沈線を口縁に沿って３条巡らす。口縁部には３条一組の平行沈線を山形に施す。同工具による爪形文を縄文施文部に配す。	前期前半
19	D-14	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	底部の1/4	単節ＲＬ縄文と単節ＬＲ縄文を横位施文し羽状縄文を構成する。	前期前半

20	D-15 2Q-9b	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	口縁部破片	波状口縁を呈する。口縁部文様帯は櫛歯状工具による平行沈線を口縁に沿って施文後、同工具による列点状刺突文を縦位に施す。櫛歯状工具による平行沈線と平行沈線間の列点状刺突文で波頂部下に菱形文を配し、同施文方法で三角形を基調とした文様を施すと想定される。	前期前半
21	D-15	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	底部の1/3	上げ底を呈する。単節ＬＲを横位施文する。	前期前半
22	D-17	深鉢	普通	砂粒・繊維含	口縁部破片	波状口縁を呈する。付加状縄文を施文する。	前期前半
23	D-18№1 2M-10c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部破片	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	中期
24	D-28 2Q-9b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線を口縁下と頸部には横位に巡し、全面には斜位・Ｘ字状に施す。	前期前半
25	2J-8b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・石英・小石・繊維含	胴部破片	櫛歯状工具による平行沈線と列点状刺突文を横位・斜位に施す。	前期前半
26	2I-9b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	櫛歯状工具による平行沈線と列点状刺突文を横位・斜位に施す。	前期前半 神之木式
27	2K-7c	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	底部破片	上げ底状を呈する。単節ＲＬ縄文を横位施文する。	前期前半
28	2L-6d	深鉢	やや不良	砂粒・赤色粒・小石・繊維含	口縁部破片	口縁部に小突起を有する。単節ＬＲ縄文を縦位・斜位施文する。	前期前半
29	2L-7b	深鉢	やや不良	砂粒・赤色粒・繊維含	口縁部破片	縄文施文後、半截竹管状工具による平行沈線を口縁に沿ってと、斜位に施す。地文の縄文原体不明。	前期前半
30	2L-7c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒含	胴部破片	櫛歯状工具による平行沈線と列点状刺突文を斜位に施す。傾きを変えて斜位に施したことによりできた三角形の無文部には列点状刺突文を横位に配す。	前期前半 神之木式
31	2L-8a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒含	口縁部破片	櫛歯状工具による平行沈線と列点状刺突文を斜位に施す。	前期前半 神之木式
32	2L-8a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	無節Ｒ縄文と無節Ｌ縄文で羽状縄文を構成する。	前期後半
33	2L-10b	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒・繊維含	胴部破片	付加状縄文を施文する。	前期前半
34	2L-11c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	単節ＲＬ縄文と単節ＬＲ縄文で羽状縄文を構成する。	前期前半
35	2M-5b	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を横位施文後、半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施す。同工具による爪形文を縄文施文部に配す。	前期前半
36	2M-5c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	口縁部破片	７本一単位の列点状刺突文を縦位に施し、微隆起線文を横位に巡らす。微隆起線文下位には複節ＲＬＲ縄文を横位施文する。	前期前半
37	2M-6a	深鉢	普通	砂粒・赤色粒・小石・繊維含	口縁部破片	５本一単位の列点状刺突文を縦位に施し、微隆起線文を横位に巡らす。微隆起線文下位には単節ＬＲ縄文を横位施文する。	前期前半
38	2M-6a 2M-6c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	付加状縄文を施文する。	前期前半
39	2M-6b	深鉢	やや不良	砂粒・繊維含	胴部破片	無節Ｌ縄文を横位施文後、平行沈線を斜位に施す。無節縄文の条と平行沈線の向きを逆に施文することにより、斜位の格子目状を呈する。	前期前半
40	2M-6c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	口縁部破片	波状口縁を呈する。単節ＲＬ縄文を横位施文する。	前期前半
41	2M-6c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	２条の微隆起線を巡らす。微隆起線上位には縄文施文するが、遺存部が少なく縄文原体不明。微隆起線下位には半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施し、Ｘ字状を呈する。	前期前半
42	2M-6b 2N-7a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・繊維含	胴部破片	付加状縄文と無節Ｌ縄文で羽状縄文を構成する。	前期前半
43	2M-7b	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	口縁部破片	無節Ｌ縄文と単節ＬＲ縄文で羽状縄文を構成する。	前期前半
44	2M-7b	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒・繊維含	口縁部破片	単節ＲＬ縄文と単節ＬＲ縄文で羽状縄文を構成する。	前期前半
45	2M-7b	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を横位施文後、刻みの施された浮線文を横位に施す。内面に黒色付着物あり。	諸磯ｂ式
46	2M-7b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	櫛歯状工具による列点状刺突文を横位に２条施すことにより、口縁部文様帯と胴部文様帯を区画する。口縁部には同工具による列点状刺突文を斜位に施す。胴部には無節Ｒ縄文と無節Ｌ縄文で羽状縄文を構成する。	前期前半 神之木式

47	2M-7c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	口縁部破片	波状口縁を呈する。櫛歯状工具による平行沈線を口縁に沿って施文後、同工具による列点状刺突文を縦位に施す。口縁部には平行沈線と列点状刺突文を斜位に施す。	前期前半
48	2M-7d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・繊維含	胴部破片	複節ＲＬＲ縄文と複節ＬＲＬ縄文で羽状縄文を構成する。	前期前半
49	2M-7d 2M-10ｃ	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	口縁部破片	大波状口縁を呈する。両脇に櫛歯状工具による列点状刺突文を伴う微隆起線文を口縁に沿って巡らす。微隆起線文上位から口唇部に列点状刺突文を口縁に直角に施す。微隆起線文下位には列点状刺突文を斜位・横位に配す。	前期前半
50	2M-7d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・繊維含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を横位･幾何学文状に施す。地文に組紐を施す。	前期前半
51	2M-8b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・小石・繊維含	胴部破片	櫛歯状工具による平行沈線と列点状刺突文を横位に施す。	前期前半
52	2M-8c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	無節Ｒ縄文と無節Ｌ縄文で羽状縄文を構成する。	前期前半 神之木式
53	2M-8c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	底部の1/6	上げ底状を呈する。櫛歯状工具による平行沈線と列点状刺突文を鋸歯状に施す。	前期前半
54	2M-8d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁を呈する。波頂部下に櫛歯状工具による５～６本を一単位とする列点状刺突文を縦位・斜位に施す。口縁部には同工具による平行沈線と列点状刺突文を山形に施す。	前期前半 神之木式
55	2M-10a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	櫛歯状工具による平行沈線と列点状刺突文を斜位に施す。	前期前半
56	2M-10b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	口縁部破片	波状口縁を呈する。櫛歯状工具による平行沈線を口縁に沿って施文後、同工具による列点状刺突文を縦位に施す。波頂部下には列点状刺突文を縦位に垂下する。	前期前半
57	2M-10c 2K-7c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・小石・繊維含	口縁部破片	付加状縄文（直前段合撚？）を施文後、櫛歯状工具による列点状刺突文を縦位に施し、下位に２条横位に施す。	前期前半
58	2M-11d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・小石・繊維含	口縁部破片	波状口縁を呈する。櫛歯状工具による列点状刺突文を口縁直下に縦位に施す。列点状刺突文下端に、斜位の列点状刺突文を施す。口縁部には同工具による平行沈線を斜位に施し、列点状刺突文を重ねて配す。	前期前半
59	2N-4b	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	両脇に刺突を伴う微隆起線文を横位に施す。単節ＲＬ縄文と単節ＬＲ縄文で羽状縄文を構成する。	前期前半
60	2N-4c	深鉢	普通	砂粒･白色粒・繊維含	胴部破片	若干すぼまる頸部に半截竹管状工具による平行沈線を３条横位に施す。地文には単節ＲＬ縄文を横位施文する。	前期前半
61	2N-4c	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を横位･斜位に施す。地文に付加状縄文を施文する。	前期前半
62	2N-5a	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	胴部破片	付加状縄文を施文する。	前期前半
63	2N-5d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	付加状縄文を施文する。	前期前半
64	2N-6a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・繊維含	胴部破片	撚糸文を縦位に施す。	前期前半
65	2N-6ｄ	深鉢	やや不良	砂粒･白色粒・繊維含	胴部破片	両脇に櫛歯状工具による列点状刺突文を伴う微隆起線を縦位・横位に施す。縦位・横位微隆起線の交点には中央の凹む径１５㎜程の円形貼付文を配す。横位微隆起線より上位には櫛歯状工具による列点状刺突文と、平行沈線を斜位に施す。横位微隆起線より下位には縄文施文するが、摩滅により縄文原体不明。	前期前半
66	2N-7b 2N-7d	深鉢	やや不良	砂粒･白色粒・繊維含	胴部破片	両脇に櫛歯状工具による列点状刺突文を伴う微隆起線を縦位・横位に施す。縦位・横位微隆起線の交点には中央の凹む径１６㎜程の円形貼付文を配す。横位微隆起線より上位には櫛歯状工具による列点状刺突文と、平行沈線を斜位に施す。横位微隆起線より下位には縄文施文するが、摩滅により縄文原体不明。	前期前半
67	2N-5d 2O-5b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒・繊維含	口縁部破片	７本一単位の列点状刺突文を縦位に施し、微隆起線文を横位に巡らす。微隆起線文下位には付加状縄文を施文する。	前期前半
68	2N-7b	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒・小石含	底部の1/3	底部端が外に張り出し、開いて立ち上がる器形。縄文施文するが、摩滅により縄文原体不明。	前期後半
69	2N-11c	深鉢	普通	砂粒・繊維含	口縁部破片	細い沈線を傾きを変えて斜位に施文することにより、斜格子状を呈する。瘤状貼付文を配す。	諸磯ｃ式
70	2N-12a	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	櫛歯状工具による列点状刺突文を横位・鋸歯状に施す。地文は単節ＲＬ縄文と単節ＬＲ縄文で羽状縄文を構成する。	前期前半
71	2O-4d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・小石・繊維含	口縁部破片	単節ＲＬ縄文を横位施文する。	前期前半
72	2O-4d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する隆帯を巡らす。横位隆帯の上辺縁には沈線を、下辺縁には撫でを施す。単節ＲＬ縄文を横位施文する。	中期後半
73	2O-6a	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒・繊維含	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線を横位に施し、同工具による刺突を施した隆帯を巡らす。	前期前半

74	2O-6a	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒・繊維含	胴部破片	櫛歯状工具による平行沈線を斜位に施す。斜位平行沈線下位には単節ＲＬ縄文と単節ＬＲ縄文で羽状縄文を構成し、櫛歯状工具による列点状刺突文を斜位・十字に施す。	前期前半
75	2O-6b	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒・繊維含	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線を口縁に沿って３条巡らす。地文には単節ＲＬ縄文を横位施文する。	前期前半
76	2O-7a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒含	胴部破片	無節Ｒ縄文と無節Ｌ縄文で羽状縄文を構成する。	中期
77	2O-11a	深鉢	やや不良	砂粒・赤色粒・小石・繊維含	口縁部破片	波状口縁を呈する。単節ＲＬ縄文を横位施文する。	前期前半
78	2P-7b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する隆帯を巡らす。隆帯脇には撫でを施す。単節ＲＬ縄文を横位施文する。	中期後半
79	2P-7b	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒含	胴部破片	底部に近い胴部下位と想定される。太い沈線と細い沈線を垂下する。	中期後半
80	2P-8a	深鉢	普通	砂粒・小石・繊維含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施す。	前期前半
81	2P-8a	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・小石・繊維含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を横位に施し、同工具による列点状刺突文を横位に重ねて配す。	前期前半
82	2P-10c	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	口縁部破片	単節ＲＬ縄文を横位施文する。	前期前半
83	2P-10c	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	口縁部破片	波状口縁を呈する。櫛歯状工具による平行沈線を口縁に沿って巡らし、同工具による列点状刺突文を重ねて配す。下位には列点状刺突文を斜位に施す。	前期前半
84	2Q-9a	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	口縁部破片	小突起を有する。遺存部においては一つであるが、遺存している小突起下から櫛歯状工具による列点状刺突文が左に向かって縦位に施されているため、もう一つ以上付されていた可能性がある。口縁部には同工具による平行沈線を横位・斜位に施し、平行沈線の両端に列点状刺突文を重ねて配す。地文に縄文施文するが、縄文原体不明。	前期前半
85	2R-9a	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・小石・繊維含	口縁部破片	小型の土器。半截竹管状工具による平行沈線を口縁に沿ってと、縦位・斜位に施文後、細かい円形刺突文を全面に配す。	前期前半
86	2R-11c	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・小石・繊維含	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線を口縁に沿って巡らす。地文には単節ＬＲ縄文を横位施文する。	前期前半
87	2R-11d	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・小石・繊維含	胴部破片	付加状縄文を施文する。	前期前半
88	2R-16d	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・小石・繊維含	底部の1/4	胴部に縄文施文するが、縄文原体不明。底面には単節ＲＬ縄文をランダムに施文する。	前期前半
89	2R-19a	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	櫛歯状工具による列点状刺突文を縦位・斜位に施す。同工具による平行沈線を斜位に施文後、列点状刺突文を重ねて配す。	前期前半
90	2T-19b	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	口縁部破片	付加状縄文を施文する。	前期前半
91	2T-19b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・小石・繊維含	胴部破片	撚糸の側面圧痕文（間隔を開けて巻いた撚糸文）を縦位・斜位に施す。	前期前半
92	2U-17d	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・繊維含	胴部破片	付加状縄文を施文する。	前期前半
93	2U-20a	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・小石・繊維含	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線を口縁に沿って巡らす。地文には縄文施文するが、縄文原体不明。	前期前半
94	2V-20b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・小石・繊維含	胴部破片	櫛歯状工具による列点状刺突文を横位・斜位に施す。	前期前半
95	2W-17a	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・小石・繊維含	胴部破片	前々段反撚を施文する。内面に黒色付着物あり。	前期前半
96	2W-18d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・小石・繊維含	胴部破片	単節ＲＬ縄文と単節ＬＲ縄文で羽状縄文を構成する。	前期前半

第21表　行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　縄文土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期/型式
			①焼成	③胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
97	J-1住U-1	深鉢	良好	白色粒・砂礫含	口縁部～胴部下位4/5	キャリパー形を呈する。口縁部６単位、胴部10単位の文様。地文として櫛歯状工具による縦位の条線。口縁部、隆帯と渦巻文による枠状の区画。胴部、縦位沈線により条線施文域と無文域を峻別。内面、横位ないし斜位のナデ。	加曽利ＥⅢ式

98	J-1住7区1層	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節縄文（摩滅により縄文原体不明）施文後、蛇行沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
99	J-1住15区1層	深鉢	良好	砂粒・白色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には櫛歯状工具による条線を綾杉状に施す。	加曽利ＥⅢ式
100	J-1住14区№1	深鉢	良好	砂粒・白色粒・小石含	完形	底部から直線的に開く器形。口縁部文様帯は隆帯で楕円形に区画し、隆帯による渦巻文と楕円形を連結した区画、円形の区画など多様に区画する。区画内には丸棒状工具による沈線を縦位に施文後、隆帯に沿って沈線を施す。胴部は無文。口縁部文様帯の隆帯の剥落が著しい。外面口唇部～口縁にかけて黒色付着物あり。	加曽利ＥⅢ式
101	J-2住6区1層	深鉢	良好	白色粒・砂礫含	口縁部～底部の4/5	キャリパー形を呈する。把手・口縁部４単位、胴部10単位の文様。無節縄文Ｌ．口縁部、隆帯と渦巻文による枠状の区画。胴部、２条一組の縦位沈線間に縄文。内面、横位ないし斜位のナデ。	加曽利ＥⅢ式
102	J-2住2区1層	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に円形の刺突文を横位に配す。下位には沈線を巡らし、単節ＲＬ縄文を斜位施文する。	加曽利ＥⅢ式
103	J-2住10区1層	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	外面口縁部を肥厚させ、沈線による区画と円形押圧を施す。	加曽利ＥⅣ式
104	J-2住1区№1	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	完形	口縁部直下に横撫でを施し、無文とする。下位には櫛歯状工具による条線を縦位施文する。外面口縁部の無文部および内面口縁部に赤色塗彩の痕跡あり。	加曽利ＥⅣ式
105	J-2住6区1層№2	浅鉢	良好	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部中位～底部の1/2	胴部中位には沈線を波状に重ねて横位に施し、胴部下位には沈線を逆Ｕ字状・蕨手状に施す。	加曽利Ｅ併行
106	J-3住炉U-1	深鉢	不良	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部上位～胴部中位	口縁部文様帯は隆帯で楕円形もしくは半月状に区画し、渦巻文と連結させる。区画内には沈線を縦位施文し、隆帯に沿って沈線を施す。胴部には口縁部文様帯の渦巻文下にアーチ状区画文の縦位沈線が垂下するように配すため、渦巻文下に２条の沈線が垂下する。区画内には口縁部文様帯の渦巻文と渦巻文の中間下に、端部が渦巻を呈する蛇行沈線を配す。蛇行沈線の両脇には綾杉状沈線を施す。被熱のため、脆くなっている。	加曽利Ｅ併行（曽利系）
107	J-4住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
108	J-4住6区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部破片	下辺縁に撫での施された隆帯を横位に施し、下位には櫛歯状工具による条線を縦位に施す。	加曽利ＥⅢ式
109	J-4住10区1層	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・小石・繊維含	胴部破片	櫛歯状工具による列点状刺突文を横位に施す。	前期前半
110	J-4住10区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・小石・繊維含	胴部破片	付加状縄文を施文する。	前期前半
111	J-5住炉U-1	深鉢	不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部中位～底部	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。縦位沈線間には沈線でＵ字状に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。Ｕ字状区画下には蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
112	J-5住U-1	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	完形	底部から直線的に開き、口縁部で緩やかに内湾する小型の土器。無文。	中期後半
113	J-5住14区1層 1H-21c 1H-22c	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部中位	口縁部文様帯は隆帯を連弧状に施すことにより半月状に区画する。区画内は無文。胴部は２条一組の沈線を逆Ｕ字状に施す。	加曽利ＥⅢ式
114	J-5住8区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	口縁部破片	口縁部が角頭状を呈する。２条一組の沈線でΠ状に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、沈線で文様を描くが、遺存部少なく文様構成不明。Π状区画文とΠ状区画文の間には蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
115	J-5住34区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	２条一組の沈線を逆Ｕ字状に施し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。沈線間は無文。	加曽利ＥⅢ式
116	J-5住24区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	把手が付くと想定される。口縁直下に幅狭の無文帯を設け、沈線を巡らす。０段多条ＲＬ縄文を縦位施文後、沈線を逆Ｕ字状に施す。横位沈線直下のみ、０段多条ＲＬ縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅢ式
117	J-5住8区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に無文帯を設ける。口縁部文様帯は隆帯による渦巻文と連結する区画文を施す。区画内は無文。胴部は単節ＲＬ縄文を縦位施文し、沈線で文様を描くが、遺存部少なく文様構成不明。	加曽利ＥⅢ式
118	J-5住23区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	把手が付くと想定される。単節ＬＲ縄文を縦位施文後、口縁部には２条一組の沈線で円形を基調とした文様を施す。胴部には沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
119	J-5住14区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯で楕円形に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。頸部にも単節ＲＬ縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅢ式
120	J-5住18区1層 J-5住23区1層 J-5住28区1層 1H-21c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	キャリパー形を呈する。櫛歯状工具による条線を縦位に施す。	加曽利ＥⅢ式
121	J-5住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に隆帯を巡らす。隆帯で方形に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文し、隆帯に沿って沈線を施す。円形基調の文様を施すが、文様構成不明。粗雑な作り。	加曽利ＥⅢ式

122	J-5住8区1層	浅鉢(壺)	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	体部破片	隆帯で渦巻文を施し、楕円形に区画する。区画内は無文。橋状把手が付されていた可能性あり。	加曽利ＥⅢ式
123	J-5住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部破片	３条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位・横位施文する。	加曽利ＥⅢ式
124	J-5住18区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	２条一組の沈線で渦巻文を施す。一部の沈線間には短沈線を充填する。	加曽利ＥⅢ式
125	J-5住13区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には無節Ｌ縄文を縦位・斜位施文する。	加曽利ＥⅢ式
126	J-5住24区1層No.1 J-5住29区1層	両耳壺	不良	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	体部破片	橋状把手を有す。肩部は隆帯で楕円形に区画し、区画内には単節ＬＲ縄文を縦位・横位施文する。胴部は櫛歯状工具による条線を縦位に施す。橋状把手には沈線をＳ字状に配す。非常に脆い。	加曽利ＥⅢ式
127	J-5住33区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を縦位・横位に施す。	中期後半
128	J-5住28区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＬＲ縄文を縦位・斜位に施す。	中期後半
129	J-5住29区1層	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	底部の1/3	櫛歯状工具による条線を縦位に施す。No.29+38と同一個体か？	加曽利ＥⅢ式
130	J-5住4区1層	鉢	良好	白色粒・砂礫含	胴部上位～底部の3/4	口縁部３単位の文様。渦巻文を伴う把手。口縁部、枠状の区画。区画内に単節縄文ＲＬ。胴部の地文として櫛歯状工具による縦位の条線。内面、横位ないし斜位のナデ。	加曽利ＥⅢ式
131	D-5No.4	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を横位に施し、下位には綾杉状沈線を配す。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
132	D-6No.3 D-6No.9	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	内湾する平縁口縁。幅広の撫でを逆Ｕ字状に施す。逆Ｕ字状の撫でと撫での間には蕨手状沈線を垂下する。単節ＲＬ縄文を縦位施文するが、口縁部直下のみ横位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
133	D-6No.8	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	幅広の撫でを伴う微隆起線を横位に施し、単節ＲＬ縄文を横位施文する。遺存部最下位に隆帯を斜位に施すが、遺存部少なく文様構成不明。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
134	D-9No.6	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	櫛歯状工具による条線を縦位に施す。	加曽利Ｅ式
135	D-13No.1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	隆帯と沈線で区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位・斜位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
136	D-18No.3	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は口縁直下に浅い沈線を巡らし、隆帯で楕円形に区画する。区画内には単節ＬＲ縄文を横位施文後、隆帯に沿って撫でを施す。	加曽利ＥⅢ式
137	D-19No.10	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部破片	遺存部においては２条の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には複節ＲＬＲ縄文を施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
138	D-20	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁を呈する。単節ＬＲ縄文を横位施文後、口縁に沿って沈線を巡らす。遺存部最下位に沈線により文様施文するが、遺存部少なく文様構成不明。	加曽利ＥⅣ式
139	D-20No.2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部破片	箆状工具による彫りの深い沈線を縦位・綾杉状・矢羽根状に施す。	加曽利Ｅ式併行
140	D-21No.8	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	幅広の撫でを伴う２条一組の微隆起線を縦位を基調に施文し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
141	D-21	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	３条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
142	D-24No.4	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する両脇に撫でを伴う隆帯を巡らす。下位には単節ＬＲ縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅣ式
143	D-26No.2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には櫛歯状工具による条線を縦位・斜位施文後、蛇行沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
144	D-40	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	遺存部上位は口縁部文様帯と想定される。口縁部文様帯は隆帯で区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、隆帯に沿って撫でを施す。胴部は単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
145	D-27 D-27No.2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	櫛歯状工具による条線で渦巻文を施し、沈線を垂下する。	加曽利ＥⅣ式

146	D-28No.2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部破片	沈線を横位に施し、下位には円形刺突文を配す。	加曽利ＥⅣ式
147	D-32	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	遺存部においては２条一組の沈線を逆Ｕ字状に施文後、０段多条ＬＲ縄文を縦位施文する。口縁直下のみ、０段多条ＬＲ縄文を横位施文する。沈線間は無文。	加曽利ＥⅣ式
148	D-34No.2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	２条一組の沈線を逆Ｕ字状に施文後、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。口縁直下のみ、単節ＲＬ縄文を横位施文する。沈線間は無文。一部単節ＲＬ縄文を側面圧痕している可能性あり。	加曽利ＥⅣ式
149	D-34	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	幅狭の口縁部無文帯を区画する沈線を巡らし、沈線下位には櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式
150	D-35No.6	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口唇部を肥厚させ隆帯状にし口縁部文様帯を区画するか？区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
151	D-36No.6	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	無節Ｌ縄文を縦位施文後、強めの撫でによる蛇行沈線を垂下する。下位には櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
152	D-37 D-37No.2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部縄文帯を区画する両脇に幅広の撫でを伴う隆帯を巡らす。口縁部縄文帯には複節ＲＬＲ縄文を口縁直下には横位に施し、下位には斜位に施す。横位隆帯下位には沈線で方形・曲線状に区画する。方形区画内には複節ＲＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
153	D-37 D-37No.6	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	口縁部文様帯と想定される隆帯を楕円形に区画し、区画内には櫛歯状工具による波状条線を縦位施文後、隆帯に沿って撫でを施す。胴部は波状条線を縦位施文後、沈線を逆Ｕ字状に施す。	加曽利ＥⅣ式
154	D-37	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部破片	櫛歯状工具による波状条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式
155	D-37	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁を呈する。単節ＲＬ縄文を口縁直下には横位施文し、下位には縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式
156	D-42No.1	鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	両耳壺か？橋状把手が付されていたと想定される。口縁部無文帯を区画する隆帯が巡る。胴部には櫛歯状工具による条線で曲線文を施す。	加曽利ＥⅣ式
157	D-44No.4	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には細かい単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
158	D-45No.2 D-45No.3	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
159	D-51No.4	深鉢	不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線？を斜位に施す。摩滅が著しい。	時期不明
160	D-58 D-58No.3	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部下位～底部の1/3	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
161	D-60	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線でΠ状に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅣ式
162	D-79	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文縦位施文する。	中期
163	D-86	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	篦状工具による沈線を斜位施文する。	加曽利Ｅ併行
164	D-89No.2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	口縁部に無文帯を有する。口縁部文様帯は隆帯で渦巻文と連結した楕円形に区画する。区画内には隆帯に沿って沈線施文後、縦位沈線を充填する。胴部は単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
165	D-90	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	撫でを伴う隆帯を垂下して縦位区画し、単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
166	D-91No.1	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。沈線間には蕨手状沈線を上下に配す。	加曽利ＥⅢ式
167	D-93	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
168	D-94	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を縦位に施し、綾杉状沈線を配す。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
169	D-103No.1	深鉢(台付)	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	高台部	無文。	中期

170	D-106	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
171	D-111	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を疎らに横位施文する。	加曽利ＥⅢ式
172	D-111	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
173	D-116	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
174	D-120	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	舌状把手を有する。把手上端部は凹み、口唇部に沈線として延びる。口縁部文様帯は把手下に隆帯と沈線で渦巻文を配す。渦巻文内、胴部に単節ＲＬ縄文を斜位施文する。	加曽利ＥⅢ式
175	D-123	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯で区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文後、隆帯に沿って撫でを施す。	加曽利ＥⅢ式
176	D-126	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を横位・斜位に施す。	中期
177	D-128	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する沈線を巡らす。口縁部文様帯は隆帯により楕円形に区画すると想定される。区画内には隆帯に沿って撫でを施し、単節ＲＬ縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
178	D-128	深鉢	不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	２条一組の沈線を横位蕨手状に施す。沈線間は無文。地文に縄文施文するが、摩滅が著しく縄文原体不明。	加曽利ＥⅣ式
179	D-128	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部破片	遺存部最上位は隆帯で横位弧状に区画され、口縁部文様帯の一部と想定される。胴部は沈線を縦位弧状に施し、蕨手状沈線を垂下する。単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式
180	D-129	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	舌状把手を有する。把手上端部は凹み、口唇部に沈線として延びる。口縁部文様帯は把手下に沈線で渦巻文を配す。渦巻文内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。渦巻文は隆帯を伴い横の区画文と連結する。	加曽利ＥⅢ式
181	D-130	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
182	D-131	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	断面三角形の隆帯を垂下して縦位区画し、区画内には沈線を綾杉状に施す。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
183	D-132	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に沈線を巡らす。沈線で逆Ｕ字状に区画し、区画内を無文とする。単節ＬＲ縄文を縦位・横位施文する。	加曽利ＥⅣ式
184	D-136№2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を垂下して縦位区画する。	加曽利ＥⅢ式
185	D-136№4	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条もしくは３条の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には無節Ｌ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
186	D-141№1	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する沈線を巡らす。下位には櫛歯状工具による波状条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
187	D-145№3	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する沈線を巡らす。下位には沈線で区画し、区画内には無節Ｌ縄文を斜位施文する。区画文は横位に二つ並び、上部に横位弧状沈線が施される。	加曽利ＥⅣ式
188	D-154№5	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する沈線を巡らす。下位には単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式
189	D-166№2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	曲線的な沈線を施し、単節ＲＬ縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅣ式
190	D-184№2 D-184№3 D-184№5 D-236№3	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部上位	№91と同一個体か？キャリパー形を呈する平縁口縁。口縁部文様帯は隆帯で楕円形・入り組み状に区画し、渦巻文を配す。区画内には単節ＲＬ縄文を斜位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。胴部は単節ＲＬ縄文を縦位・斜位施文し、２条一組の沈線を逆Ｕ字状に施す。逆Ｕ字状区画と逆Ｕ字状区画の間には蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
191	D-184№4	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	№89+90+100と同一個体か？２条一組の沈線を垂下して縦位区画する。区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、蛇行沈線を垂下する。縦位の沈線間には１条の沈線と逆Ｕ字状沈線を配す。	加曽利ＥⅢ式
192	D-187№2	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下にのみ単節ＲＬ縄文を横位施文する。	中期

193	D-187№3	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口端部を肥厚させ単節ＲＬ縄文を横位施文する。隆帯で横位弧状に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅣ式
194	D-189№6	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	口縁部文様帯を区画すると想定される撫でを伴う隆帯を横位に施す。口縁部文様帯は隆帯で区画し、区画内には単節ＬＲ縄文を斜位施文する。横位隆帯の下位には単節ＬＲ縄文を斜位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
195	D-193	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	口縁部文様帯の一部と胴部上位の破片と想定される。口縁部文様帯は隆帯で区画し、区画内には隆帯に沿って沈線施文後、矢羽根状沈線を充填する。胴部は沈線を垂下して縦位区画し、区画内には綾杉状沈線を施す。	加曽利ＥⅢ式
196	D-210 D-213	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組を基本とする沈線を垂下して縦位区画する。一部の沈線の上端は蕨手状を呈する。縦位区画内には櫛歯状工具による条線を縦位弧状に施文する部分と、弧部分を左右交互に配する部分と、縦位弧状条線を重ねて施す部分とがある。	加曽利Ｅ併行
197	D-226	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	隆帯を横位に施し、複節ＲＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
198	D-236№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
199	D-243（J-1内）	鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	口縁部と胴部を区画する隆帯を横位に施す。肩部文様帯には横位隆帯と沈線により楕円形に区画し、区画内には円形押圧を充填する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
200	D-249	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を逆Ｕ字状に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。２条の横位沈線を巡らし、沈線間に円形押圧を充填する。下位には沈線で文様施文するが、遺存部少なく文様構成不明。	加曽利ＥⅣ式
201	D-256	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
202	D-259№2	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	遺存部最上位は口縁部文様帯と想定される。口縁部文様帯を区画する沈線に半截竹管状工具を使用の可能性あり。胴部は２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
203	D-263№2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
204	D-268№3	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	肩部文様帯は隆帯で楕円形に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、隆帯に沿って撫でを施す。胴部は単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
205	D-268№4	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は口縁直下に沈線を巡らし、隆帯を連弧状に施すことにより半月状に区画する。区画内には隆帯に沿って沈線を施文後、斜位沈線を充填する。区画連結部には隆帯による渦巻文を配す。胴部は連結部の渦巻文の中心をずらして、２条一組の沈線を垂下して縦位区画する。区画内には斜位沈線を施す。縦位沈線間には円形刺突を充填する。	加曽利ＥⅢ式
206	D-268№5	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に指頭押圧状の凹みを巡らす。押圧により口縁の一部が小波状を呈する。胴部は横位のナデが顕著であり意匠化される。	後期
207	D-268西	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＬＲ縄文を横位施文する。	中期
208	D-268西	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文縦位施文する。	中期
209	D-290№3	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部の1/3～底部	底部より開いて立ち上がる器形。無文。	中期
210	D-294	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
211	D-295№2	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部に無文帯を有し、沈線を横位波状に巡らす。沈線を逆Ｕ字状に施し、横位波状沈線と入り組み状に配す。逆Ｕ字状の区画内には単節ＬＲ縄文を縦位施文後、沈線を斜位に施す。	加曽利ＥⅣ式
212	D-299№2	深鉢	不良	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁を呈する。両脇に沈線を伴う隆帯を巡らし、隆帯上に円形押圧を配す。胴部は沈線を逆Ｕ字状または横位波状に施すと想定される。無節Ｌ縄文を縦位施文する。摩滅している。	加曽利ＥⅣ式
213	D-301№16	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯で区画し、区画内には単節ＬＲ縄文を横位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。	加曽利ＥⅢ式
214	D-301№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を垂下して縦位区画し、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
215	D-301	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	底部	単節ＬＲ縄文を横位施文する。	中期
216	D-313№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を垂下して縦位区画し、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式

217	D-314№2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する隆帯を巡らす。隆帯上辺縁には沈線が伴い、下辺縁は撫でを施す。縄文施文するが、縄文原体不明。	加曽利ＥⅣ式
218	D-314	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	集合沈線を綾杉状に施す。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
219	D-316	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	無節Ｌ縄文を口縁直下には横位施文し、下位には縦位施文する。２条一組の沈線を逆Ｕ字状に施す。沈線間は無文。	加曽利ＥⅣ式
220	D-327№1	深鉢	不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に無文帯を有す。口縁部文様帯は隆帯で楕円形・渦巻文と連結した楕円形に区画し、区画内には矢羽根状沈線を充填後、隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には両端蕨手状の沈線を配す。	加曽利ＥⅢ式（曽利系）
221	D-331	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を垂下し、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	中期
222	D-339№1	鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部は無文。口縁部無文帯と胴部文様帯を区画する隆帯が巡り、隆帯の一部は庇状を呈する。胴部文様帯には隆帯で渦巻文を施す。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
223	D-344	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する沈線が巡る。下位には単節ＲＬ縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅣ式
224	D-344 D-356	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	櫛歯状工具による条線を横位弧状に施す。	加曽利ＥⅣ式
225	D-346№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	舌状把手を有する。口縁部文様帯は頸部に横位弧状の沈線を施して区画し、隆帯で舌状把手下に渦巻文を配す。区画内には単節ＬＲ縄文を縦位施文する。胴部は２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
226	D-360№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部	無文。内面に黒色付着物あり。	中期
227	D-360	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線と隆帯を垂下して縦位区画する。区画内には無節Ｌ縄文を横位施文する区画と縦位施文する区画とがある。	加曽利ＥⅢ式
228	D-369	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内に櫛歯状工具による条線を波状・横Ｕ字状に施す。	加曽利ＥⅢ式
229	D-374	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯で区画し、区画内には無節Ｌ縄文を縦位施文する。胴部は隆帯を垂下して縦位区画し、無節Ｌ縄文を縦位・斜位施文する。無節Ｌ縄文は隆帯上にも施文される。	加曽利ＥⅢ式
230	D-379	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	櫛歯状工具による波状条線を垂下する。	中期
231	D-422	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
232	D-440	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、複節ＲＬＲ縄文を縦位施文後、蛇行沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
233	D-452	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を縦位に施し、沈線で逆Ｕ字状に区画する。区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。縦位沈線と逆Ｕ字状区画文の間に蕨手状沈線を配す。	加曽利ＥⅢ式
234	D-456	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は沈線が伴う隆帯で渦巻文を施す。単節ＲＬ縄文を横位・斜位施文する。	加曽利ＥⅢ式
235	D-462	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・黒雲母含	底部破片	無文。	中期
236	D-464	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部破片	単節ＲＬ縄文を縦位・横位に施文後、沈線を施す。口縁部付近は隆帯で区画。	加曽利ＥⅢ式
237	D-468	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・黒雲母含	口縁部破片	平口縁。口縁部文様帯は隆帯で区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を施文する。	加曽利ＥⅢ式
238	D-472	深鉢	良好	白色粒・砂礫含	口縁部～胴部上位1/2	キャリパー形を呈する。口縁部７単位、胴部10単位の文様。地文に口縁部縦位、胴部綾杉状の短沈線。口縁部、隆帯と渦巻文による枠状の区画。胴部、２条一組の縦位沈線間に地文。内面、横位ないし斜位の撫で。	加曽利ＥⅢ式（郷土式）
239	U-1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部の1/3	遺存部最上位に口縁部文様帯の一部と想定される横位隆帯あり。２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、無節Ｌ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
240	P-14	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に単節ＬＲ縄文を横位施文し、沈線を斜位に施す。遺存部最下位には単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式

241	P-22	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	沈線を逆Ｕ字状に施し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式
242	P-35	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画後、櫛歯状工具による条線を縦位弧状に施す。	加曽利ＥⅢ式
243	P-35	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁を呈する。両脇に幅広の撫でを伴う微隆起線を巡らし、微隆起線上に単節ＬＲ縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅣ式
244	P-51	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部直下に沈線を巡らし、下位に櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式
245	P-75	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を斜位に施し、単節ＬＲ縄文を縦位・横位施文する。沈線間は無文。	加曽利ＥⅣ式
246	P-79	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	下辺縁に沈線を伴う隆帯を巡らし、単節ＲＬ縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅣ式
247	P-80	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を垂下して縦位区画し、付加条縄文を施文する。	加曽利ＥⅢ式
248	P-81	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	両辺縁に撫でを伴う隆帯で口縁部文様帯を区画すると想定される。区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
249	E-2d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	遺存部最左端に縦位隆帯の痕跡あり。無節Ｌ縄文を縦位施文後、縦方向の撫でを施す。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
250	E-2d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	櫛歯状工具による条線を波状・コンパス文状に縦位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
251	J-3d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	無節Ｌ縄文を縦位施文後、２条一組の沈線を垂下して縦位区画する。	加曽利ＥⅢ式
252	J-4a J-4d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	幅広の撫でを伴う隆帯を斜位に施す。胴部は２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
253	J-4c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線で上下交互にＵ字状・逆Ｕ字状に区画する。逆Ｕ字状区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。Ｕ字状区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、蕨手状沈線を施す。Ｕ字状区画下には蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅣ式
254	J-4d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に２条一組の沈線を巡らし、沈線間に円形押圧を施す。下位には櫛歯状工具による条線を縦位・斜位施文する。	加曽利ＥⅣ式
255	J-5a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	沈線で文様施文するが、遺存部少なく文様構成不明。単節ＲＬ縄文を口縁直下にのみ横位に施文し、下位には縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式
256	J-5c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	把手を有する。口縁部文様帯は隆帯で楕円形に区画し、区画内を無文とする。胴部は沈線を垂下して縦位区画する。	加曽利ＥⅢ式
257	J-5c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
258	K-4b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	渦巻文と想定される２条一組の沈線文を施し、単節ＲＬ縄文を縦位・横位施文する。	加曽利ＥⅣ式
259	K-4d	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部で内屈する平縁口縁。無文。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
260	K-5b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	横位のナデが顕著であり意匠化される。	中期後半
261	K-5b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に２条一組の沈線を巡らし、沈線間に円形押圧を施す。下位には櫛歯状工具による条線を斜位施文後、沈線を横Ｕ字状に施す。	加曽利ＥⅣ式
262	K-5b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	把手を有する。幅狭の口縁部無文帯を区画する細い沈線が巡る。沈線下位には半截竹管状工具による平行沈線で綾杉文を施文し、細い沈線を縦位・縦位波状に施す。	加曽利ＥⅣ式
263	K-5b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、蛇行沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
264	L-5b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を伴う隆帯を垂下し、綾杉状沈線を施す。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式

265	K-5c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＬＲ縄文を縦位施文と、０段多条ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
266	K-5d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	隆帯で渦巻文を配し、２条の隆帯を斜位に施す。櫛歯状工具による条線を縦位・斜位施文する。	加曽利Ｅ併行
267	K-5d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画後、櫛歯状工具による波状条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
268	K-5d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画後、櫛歯状工具による条線を縦位弧状・横位弧状に施す。	加曽利ＥⅢ式
269	K-5d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を垂下して縦位区画し、櫛歯状工具による条線を波状・コンパス文状に縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
270	K-6c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を垂下して縦位区画し、櫛歯状工具による条線を波状・コンパス文状に縦位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
271	K-7c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲ縄文を縦位施文後、蛇行沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
272	L-2d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	遺存部最上位に口縁部文様帯の一部と想定される隆帯を横位弧状に施し、下位を無文とする。隆帯で区画し、区画内には単節ＬＲ縄文を横位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。	加曽利ＥⅡ～Ⅲ式
273	L-5b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	口縁部文様帯を区画する下辺縁に沈線を伴う隆帯を巡らす。口縁部文様帯には列点状刺突文を配す。胴部は上端が逆Ｕ字状につながった外辺縁に沈線を伴う２条一組の隆帯を垂下して縦位区画する。区画内には片辺縁に沈線を伴う蛇行隆帯を垂下し、櫛歯状工具による条線を斜位に施す。斜位条線は隆帯上に施文されたり、隆帯に伴う沈線の施文前後両方に施される。	加曽利Ｅ併行
274	L-5b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部の1/2	単節ＬＲ縄文を縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	加曽利ＥⅢ式
275	L-7a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＬＲ縄文を縦位施文後、２条一組の沈線で渦巻文を施すと想定される。沈線間は無文。	加曽利ＥⅣ式
276	M-3a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線をＵ字状に施す。単節ＲＬ縄文を縦位・横位施文する。沈線間は無文。	加曽利ＥⅣ式
277	1B-17b	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を横位に施し、沈線下位には単節ＲＬ縄文を横位施文し、沈線上位には下位と条の傾きを変えて縄文施文するが、縄文原体不明。	加曽利ＥⅣ式
278	1B-17c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯で楕円形に区画すると想定される。区画内には単節ＬＲ縄文を縦位施文後、隆帯に沿ってと口縁直下に沈線を施す。	加曽利ＥⅡ～Ⅲ式
279	1C-15a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁を呈する。半截竹管状工具による集合沈線を口縁に沿ってと、横位弧状・斜位に施す。	諸磯ｂ式
280	1D-8d	鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部を無文とする。胴部文様帯は隆帯を横位に施し、単節ＲＬ縄文を横位施文後、隆帯に沿って撫でを施す。横位隆帯に沿う撫でが楕円状を呈するため、隆帯も楕円状を呈する可能性あり。	加曽利ＥⅢ式
281	1D-23d周辺	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	沈線を巡らし、下位には菱形の押圧を施す。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
282	1D-24c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯で区画し、区画内には単節ＬＲ縄文を縦位・横位・斜位に施文後、隆帯に沿って沈線を施す。	加曽利ＥⅢ式
283	1E-6a	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する沈線を巡らし、下位に２条一組の沈線を逆Ｕ字状に施し、単節ＬＲ縄文を縦位施文する。沈線間は無文。	加曽利ＥⅣ式
284	1E-6a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯で楕円形に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。胴部は単節ＲＬ縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅢ式
285	1E-6b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する隆帯を巡らし、隆帯に沿って撫でを施す。横位隆帯上辺縁の撫では幅が広い。下位には撫でを施した後に、無節Ｌ縄文を斜位施文する。	加曽利ＥⅣ式
286	1E-6c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線でΠ状に区画し、区画内には単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式
287	1E-6c	鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部直下を横撫でし、無文帯とする。下位には櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式
288	1E-6d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する隆帯とそれに沿う沈線を巡らす。２条一組の微隆起線で区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。微隆起線内は無文。	加曽利ＥⅣ式

289	1E-7a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する沈線を巡らす。下位には１条または２条一組の沈線で逆Ｕ字状に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文と複節ＲＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式
290	1E-7d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部	沈線を縦位施文する。	加曽利Ｅ式
291	1E-8a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	前傾し上端部が平らになる舌状把手を有す。舌状把手上端部から口唇部に、蕨手状沈線を施す。。外面には舌状把手下に沈線で円形に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
292	1E-20a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する沈線を巡らす。下位には短沈線を斜位に施す。	加曽利ＥⅣ式
293	1F-7b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯で枠状に区画し、区画内には枠状隆帯と連結する隆帯と沈線で渦巻文を施し、単節ＬＲ縄文を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。胴部には単節ＬＲ縄文を斜位施文する。	加曽利ＥⅢ式
294	1F-7b	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部破片	櫛歯状工具による条線を縦位弧状に重ねて施す。断面に粘土接合を易くするための刻み目を施す。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
295	1F-9a	深鉢	不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
296	1G-24a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	遺存部上位は口縁部文様帯と想定される。口縁部文様帯は沈線で区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。胴部は櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
297	1G-24d	鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する沈線が巡る。下位には無節Ｌ縄文を縦位・横位施文する。	加曽利ＥⅣ式
298	1G-24d	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線でＵ字状に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、沈線で文様施文する。２条一組の縦位沈線とＵ字状区画文の間に蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅣ式
299	1G-25a	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部破片	無節Ｌ縄文を縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	加曽利ＥⅢ式
300	1H-24周辺一括	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部上位	舌状把手を有する。舌状把手下に彫りの深い沈線で下位の欠けた円形を施し、間を開けて沈線で逆Ｕ字状に区画する。区画内は無文。櫛歯状工具による条線を縦位弧状に重ねて施す。舌状把手下のみ横位弧状に施す。	加曽利Ｅ式
301	1H-24b 1H-24周辺	鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部下位～底部の一部	無節Ｌ縄文を縦位施文する。	中期後半
302	K-6c	ミニチュア土器	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁付近～底部	底部より丸みを持って立ち上がり、頸部で屈曲する器形。内外面撫で。無文。	中期後半
303	K-7c	深鉢	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	脚部	無文。外面撫で。	中期後半
304	K-6d	器台	やや不良	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	底部	器台か。外面に沈線。底面に３か所の突起跡（脚跡か）。	中期後半
305	J-4c	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	脚部	４つの脚が付くと想定される。２条一組の沈線を胴部下位を３単位にＵ字状に区画後、胴部下位と脚部を区画する沈線を巡らす。	後期
306	J-2住10区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	無文。内外面共によく研磨する。内外面・口唇部に赤色塗彩あり。	中期後半
307	D-260№1	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・結晶片岩・小石含	胴部破片	無文。外面よく研磨する。内外面に赤色塗彩あり。	中期後半
308	D-360	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を横位に施し、沈線文様の一部か円形押圧の一部が遺存する。外面に赤色塗彩あり。	中期後半
309	J-4c	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	波状口縁を呈する。沈線で文様施文するが、遺存部少なく文様構成不明。内外面に赤色塗彩あり。	中期後半

第22表　行田大道南横道西遺跡　縄文土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期/型式
			①焼成	③胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
310	J-1住8区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁直下を肥厚させ、三角印刻文を配す。半截竹管状工具による平行沈線を縦位・斜位施文する。	五領ヶ台式

311	J-1住6区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・結晶片岩含	胴部上位	遺存部上位は半截竹管状工具による平行沈線を斜位施文後、三角印刻文を施す。遺存部下位は半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、三角印刻文を上下交互に施す。	五領ヶ台式
312	J-1住P-4	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	胴部上位	半截竹管状工具による横位平行沈線（半隆起線状）を施し、下位に斜位平行沈線（半隆起線状）を綾杉状に施す。横位平行沈線と斜位平行沈線によりできる逆三角形は半肉彫状を呈する。	五領ヶ台式
313	J-2住4区№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部～胴部上位の1/3	４単位の波状口縁と想定される。口縁部は内湾し、胴部上位で括れる器形。口縁直下と頸部に沈線を巡らし、口縁部文様帯を区画する。口縁部文様帯は、沈線で楕円形に区画し、区画内には櫛歯状工具による波状条線を縦位に施す。胴部は波状条線を縦位施文後、２条一組の沈線を垂下して縦位区画する。沈線間は磨り消し。口縁部文様帯の波状条線は、沈線で消されている部分と、沈線上に施文されている部分とがある。胴部の文様も、波状条線が向って左側の垂下沈線には消されるが、右側は垂下沈線上に施される。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
314	J-2住4区№2	深鉢	普通	砂粒・白色粒含	口縁部～胴部上位の1/4	内湾する平縁口縁。口縁直下に単節ＲＬ縄文を横位施文し、以下を縦位施文することにより口縁部直下のみ羽状縄文を構成する。単節ＲＬ縄文を縦位施文後、逆Ｕ字状沈線を施す。沈線間は磨り消し。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
315	J-3住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	内湾する平縁口縁。口縁直下に浅い沈線を巡らす。２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
316	J-3住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	口縁部破片	平縁口縁。口縁下に沈線を巡らした後、口縁と沈線の間に丸棒状工具による円形刺突を施す。沈線で曲線を基調とした文様を施す。	加曽利ＥⅢ式
317	J-3住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	口縁部破片	内湾する平縁口縁。口縁内面を肥厚させる。遺存部においては無文。	加曽利ＥⅢ式
318	J-3住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部～胴部上位の破片	内湾する平縁口縁。口縁部文様帯は剥落が著しいが、隆帯と沈線で楕円形に区画すると想定される。区画内には、単節ＲＬ縄文を横位・斜位施文する。胴部は単節ＲＬ縄文を横位施文後、蕨手状沈線を垂下させる。逆Ｕ字状沈線を施し、沈線間を無文とする。	加曽利ＥⅢ式
319	J-3住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	口縁部～胴部上位の破片	緩やかな波状口縁と想定される。口縁に沿って巡らした沈線により口縁部無文帯を区画するが、一部に縄文が遺存する。横位沈線直下には単節ＲＬ縄文を横位施文する。胴部には縦位・斜位施文後、２条一組の沈線で逆Ｕ字状に区画するが、外側の沈線の最上部は沈線が途切れる。区画内には蕨手状沈線を垂下させる。	加曽利ＥⅢ式
320	J-3住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	口縁部～胴部下位	口縁部は内湾し、胴部上位で括れる器形。口縁部文様帯は、隆帯と沈線で楕円形に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。胴部は２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位・斜位施文する。	加曽利ＥⅢ式
321	J-3住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	内湾する平縁口縁。口縁内面を肥厚させる。沈線で逆Ｕ字状に区画し、区画内に単節ＬＲ縄文縦位施文する。逆Ｕ字状沈線と逆Ｕ字状沈線の間に沈線を垂下させる。	加曽利ＥⅢ式
322	J-3住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	平縁口縁。半截竹管状工具による刺突を施す。	前期後半
323	J-3住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部中位破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、蛇行沈線を垂下する。沈線間には沈線でＵ字状に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。Ｕ字状沈線下に蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
324	J-3住1区1層№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・石英含	完形	括れずに底部から口縁部に向って大きく開く器形。歪みが著しい。把手を有する平縁口縁で、把手上端から内面にかけて沈線により渦巻文を施す。把手正面に施された沈線による渦巻文の端部が、口縁に沿って右回りに廻る。沈線に沿ってもう一条の沈線を廻らし、沈線間に竹管と想定される工具による刺突を施す。櫛歯状工具による条線を弧状・渦巻状・∞状に施文後、沈線と蕨手状沈線をセットにして垂下させ、胴部を７区画に分割する。分割の間隔は不揃いである。沈線と蕨手状沈線の間は磨り消しているが、一部に条線が残る。内面に黒色付着物あり。	加曽利ＥⅢ式
325	J-3住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	口縁部文様帯か？隆帯で区画し、区画内には円形刺突を施す。隆帯下位にも円形刺突を施す。	加曽利ＥⅢ式
326	J-3住1区1層 J-3住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部～胴部上位の1/2	口縁部は平縁口縁で内湾し、胴部上位で括れる器形。口縁部文様帯は、隆帯と沈線で円形と楕円形に区画し、区画内には単節ＬＲ縄文を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。文様と文様の連結部・円形と楕円形区画の境に円形刺突を施す。胴部は単節ＬＲ縄文を縦位施文後、２条一組の沈線を垂下して縦位区画する。沈線間は磨り消し。縄文施文部には端部蕨手状の蛇行沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
327	J-3住1区1層 J-3住3区1層	鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部～胴部下位の1/3	口縁部がわずかに内湾する。櫛歯状工具による条線を縦位に施す。	加曽利ＥⅢ式
328	J-3住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	底部	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、一部の区画内には無節Ｌ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
329	J-3住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	底部の1/3	沈線を垂下して縦位区画後、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。遺存部においては、無文部と縄文施文部を交互に配す。	加曽利ＥⅢ式
330	J-3住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	底部の1/4	櫛歯状工具による条線を縦位に施す。内面に黒色付着物あり。	加曽利ＥⅢ式
331	J-3住1区1層№2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部上位～底部	括れずに胴部上位に向って開く器形。口縁部文様帯はほとんどが欠損しているが、隆帯とそれに伴う撫でにより、楕円形に区画していると想定される。区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。口縁部文様帯下位から胴部下位にかけて蕨手状隆帯が垂下し、胴部を４区画に分割する。分割の間隔は等間隔ではないが規則性を持つ。蕨手状隆帯４条のうち、２条が剥落している。楕円形区画文と蕨手状隆帯の間に、蕨手状沈線を横位に施す。	加曽利ＥⅢ式
332	J-3住1区1層 J-3住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	胴部中位～底部	胴部中位で括れる器形。単節ＲＬ縄文を縦位施文後、２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、胴部を８区画に分割する。沈線間は磨り消しが施されるが、一区間のみ全く消されていない。縦位沈線も３条を垂下する部分がある。縄文施文部には蛇行沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式

333	J-3住2区№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	胴部中位～底部	沈線を垂下し、一部に単節ＲＬ縄文を縦位施文する。遺存部最上位に横位の沈線あり。	加曽利ＥⅢ式
334	J-3住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・雲母含	口縁部～胴部下位の1/3破片	把手を有する口縁。把手内面を肥圧させ、沈線による渦巻文を施す。把手外面は隆帯で円形もしくは楕円形に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。把手の付け根部分には円形刺突を施す。口縁部文様帯は、沈線を横位弧状に施すことにより区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位・縦位施文する。胴部は単節ＲＬ縄文を縦位・斜位施文後、２条一組の沈線を垂下して縦位区画する。沈線間は磨り消し。把手下の沈線間に蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
335	J-3住3区1層 J-3住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	口縁部～胴部中位の1/2	内湾する平縁口縁。口縁に沿って廻らした沈線により口縁部無文帯を区画する。複節ＲＬＲ縄文施文後、２条一組の沈線で逆Ｕ字状に区画する。一部の外側の沈線は波状を呈する。逆Ｕ字状沈線の区画内と波状沈線下に蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
336	J-3住3区1層 J-3住3区1層№3	深鉢	良好	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部上位の1/2	内湾する平縁口縁で、胴部上位で括れる器形。口縁内面を肥厚させる。口縁部に横位の波状沈線を施し、口縁と横位波状沈線内に単節ＲＬ縄文を口縁直下には横位施文し、下位には縦位施文することにより羽状縄文を構成する。胴部は沈線で逆Ｕ字状に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。逆Ｕ字状沈線と逆Ｕ字状沈線の間に蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
337	J-3住3区1層	深鉢	良好	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	内湾する平縁口縁で、胴部上位で括れる器形。口縁内面を肥厚させる。口縁部に横位の波状沈線を施し、口縁と横位波状沈線内に単節ＲＬ縄文を口縁直下には横位施文し、下位には縦位施文することにより羽状縄文を構成する。胴部は沈線で逆Ｕ字状に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。逆Ｕ字状沈線と逆Ｕ字状沈線の間に蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
338	J-3住4区1層	両耳壺	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	口縁部～胴部中位	口縁部は無文で直立し、胴上位に強い張りを有する。口縁部と胴部の境は隆帯で区画し、一対の橋状把手を貼付するが、片方を欠損する。上端が舌状に突出した橋状把手には、沈線をＳ字状に施す。胴部上位には隆帯と沈線で楕円形に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文する。胴部には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
339	J-3住3区1層	深鉢	良好	砂粒・白色粒・黒色粒含	口縁部破片～胴部中位	内湾する平縁口縁で、胴部中位でわずかに括れる。口縁に把手を有すると想定されるが、把手は欠損している。口縁内面を肥圧させる。口縁部文様帯は、隆帯で円形・楕円形を組み合わせて区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位・斜位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。欠損している把手は、遺存部においては円形区画文上に配される。口縁部文様帯下位は無文となり、器形変換点に横位の沈線を巡らし、下位には沈線で逆Ｕ字状に区画し、区画内に単節ＲＬ縄文を施す。外面口縁部に黒色付着物あり。	加曽利ＥⅢ式
340	J-3住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円形に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文後、隆帯に沿って沈線・撫でを施す。	加曽利ＥⅢ式
341	J-3住3区1層№3	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	底部	沈線を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
342	J-3住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部上位～底部	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
343	J-3住炉№6	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	底部	３条一組の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
344	J-3住P-1	深鉢	良好	砂粒・白色粒・黒色粒・雲母含	口縁部～胴部上位の破片	直立する胴部から口縁部が内湾する器形。口縁に二つ以上の突起を有する。口唇部に刻みを施し、直下に２条の沈線を口縁に沿って廻らす。沈線下位は無文となる。器形変換点より下位に、半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。横位平行沈線の最上段には刺突を施し、数段下には縦位の短沈線を高さを交互に変えて施文する。遺存部最下位に縦位の平行沈線あり。	五領ヶ台式
345	J-4住炉U-1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部～胴部上位の1/2	４単位の波状口縁と想定される。口縁部文様帯は、隆帯で楕円形に区画し、波頂部下に渦巻文を配す。区画内には、櫛歯状工具による条線を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。胴部にも、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。口縁部外面に黒色付着物あり。	加曽利ＥⅢ式
346	J-4住炉№1	深鉢	不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部～胴部中位	口縁部はやや内湾する平縁口縁で、胴部上位にわずかに括れを有する。口縁部文様帯は、隆帯で区画された楕円形と、隆帯による渦巻文とがセットで構成され、５区画に分割される。区画内には櫛歯状工具による条線を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。胴部は、口縁部文様帯の連結部下に２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。全体的に摩滅が著しい。	加曽利ＥⅢ式
347	J-4住炉内	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	底部	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲ縄文を施す。	加曽利ＥⅢ式
348	J-6住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	櫛歯状工具による条線を縦位施文後、横位の沈線を施す。	加曽利ＥⅢ式
349	J-7住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	強く内湾する平縁口縁。口縁部文様帯は、口縁直下に隆帯を巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内には撚糸文？施文後、隆帯に沿って沈線を施す。頸部は無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
350	J-7住2区1層	鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	内湾する平縁口縁。口縁内面を肥厚させる。口縁直下に沈線を巡らし、隆帯による渦巻文を施す。内外面に赤色塗彩の痕跡あり。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
351	J-7住2区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	内湾する平縁口縁。口縁内面を肥厚させる。口縁直下に沈線を巡らす。内外面に赤色塗彩の痕跡あり。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
352	J-7住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	器形変換点に横位の隆帯を施す。半截竹管状工具による平行沈線を縦位施文後、粘土紐を渦巻状・波状に配す。	曽利系？
353	J-7住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	撚糸文を縦位施文する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式

354a	J-8住2a区1層	壺	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部上位～胴部下位の破片	354bと同一個体。口縁部文様帯は、隆帯と沈線で区画された楕円形と、隆帯による渦巻文がセットで施される。区画内には、円形刺突を施す。胴部は、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
354b	J-8住2a区№2	壺	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部上位の1/4～底部	354aと同一個体。口縁部文様帯を構成する隆帯と沈線の一部が遺存する。胴部は、櫛歯状工具による条線を縦位施文後、底部付近を横方向に削る。	
355	J-8住2a区№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部～胴部中位	４単位の波状口縁。口縁部文様帯は、隆帯と沈線で楕円形に区画し、波頂部下には隆帯による渦巻文を配す。区画内には、櫛歯状工具による条線を縦位・斜位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。胴部は、２条一組の沈線を垂下して７区画に分割する。区画内には、櫛歯状工具による綾杉状条線を施す。口縁部外面に黒色付着物あり。	加曽利ＥⅢ式
356	J-8住2a区1層	壺	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部上位の破片	口縁部は外反して立ち上がり、胴上位に強い張りを有する。口縁部無文帯を区画する隆帯が巡る。肩部文様帯は隆帯で渦巻文と連結する楕円形に区画する。区画内には円形刺突を施し、隆帯に沿って沈線を施す。内外面に赤色塗彩の痕跡あり。	加曽利ＥⅢ式
357	J-8住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	胴部破片	単節ＲＬ縄文と単節ＬＲ縄文を横位施文することにより羽状縄文を構成する。	前期後半
358	J-8住4a区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	底部の1/2	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利Ｅ式
359	J-9住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する波状口縁の波頂部。器形変換点より上位には、刻みの施された浮線文を口縁に沿ってと縦位・斜位に施す。器形変換点より下位には、刻みの施された浮線文を横位に施す。	諸磯ｂ式
360	J-9住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	胴上位の破片と想定される。単節ＲＬ縄文を横位施文後、刻みの施された浮線文を斜位・縦位の弧状・横位に施す。	諸磯ｂ式
361	J-9住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	刻みの施された浮線文を横位に施す。地文に縄文を持つが、縄文原体は不明。	諸磯ｂ式
362	J-9住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	遺存部上位には、列点状刺突文を横位に施す。遺存部下位には、刻みの施された浮線文を横位に施す。	諸磯ｂ式
363	J-9住6区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	単節ＲＬ縄文と無節Ｌ縄文を横位施文することにより羽状縄文を構成する。	前期前半
364	J-9住8区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施文後、結節浮線文を口縁に沿ってと斜位に施す。２個一対の小円形貼付文を配す。	諸磯c式
365	J-9住12区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・繊維含	口縁部破片	単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	前期前半(関山式)
366	J-9住3区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・石英・繊維含	口縁部破片	単節ＲＬ縄文と単節ＬＲ縄文を横位施文することにより羽状縄文を構成させ、半截竹管状工具による平行沈線を口縁に沿って施す。	前期前半(関山式)
367	J-9住12区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・石英・繊維含	胴部破片	遺存部全面に縄文施文されるが、縄文原体不明。内面に黒色付着物あり。	前期前半(関山式)
368	J-9住13区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	付加条縄文を羽状に施文後、遺存部最上位には、半截竹管状工具による平行沈線を横位に短く連続して施し、縦位の刺突を配す。	前期前半(関山式)
369	J-10住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	櫛歯状工具による条線を縦位・斜位施文後、口縁に沿って沈線を巡らす。２条一組の沈線を横位波状に施し、下位には逆Ｕ字状沈線を配す。条線は沈線で消されている部分と、沈線上に施文されている部分とがある。	加曽利ＥⅣ式
370	J-10住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁直下に２条一組の沈線を巡らし、沈線間に円形押圧を施す。下位には櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式
371	J-10住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	櫛歯状工具による条線を縦位施文後、蕨手状沈線を垂下する。２条一組の沈線で逆Ｕ字状に区画し、区画内には鍵の手状沈線を施す。沈線間は無文。	加曽利ＥⅣ式
372	J-10住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	わずかに内湾する平縁口縁。口縁部文様帯は沈線を巡らして隆帯で区画する。区画内には隆帯に沿って沈線を施文後、単節RL縄文を横位・斜位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
373	J-10住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	内湾する平縁口縁。口縁部に無文帯を有す。半截竹管状工具を右から左へ斜めに刺突する。遺存部においては２段に施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
374	J-10住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を、器形変換点より上位には横位に施し、変換点より下位には斜位に施して羽状に施文後、半截竹管状工具による結節浮線文を縦位に施し、円形貼付文を配す。遺存部最下位に穿孔あり。	諸磯c式
375	J-10住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	単節ＲＬ縄文施文後、刻みの施されない浮線文を縦位に、刻みの施された浮線文を横位に施す。浮線文は扁平である。	諸磯ｂ式
376	J-10住3区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	胴部破片	胴部上位の破片と想定される。隆帯を横位に施し、沈線で渦巻文を施文する。	加曽利ＥⅢ式

377	J-10住4区1層	壺	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部～胴部上位の破片	口縁部は無文で直立し、胴上位に張りを有する。口縁部と胴部の境は隆帯で区画し、一対の橋状把手を貼付すると想定されるが、片方を欠損する。橋状把手には、沈線を逆Ｓ字状に施す。肩部文様帯は隆帯で円形・楕円形に区画する。楕円形区画内には櫛歯状工具による条線を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。胴部には櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
378	J-10住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を横位施文後、刻みの施された浮線文を横位に施し、刻みの施されない浮線文を縦位・Ｘ字状に施す。	諸磯ｂ式
379	J-11住4区	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を横位施文後、刻みの施された浮線文を横位・斜位・縦位の弧状に施す。	諸磯ｂ式
380	J-12住2区1層	鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部内面を肥厚する。口縁部無文帯下位に、半截竹管状工具による平行沈線を縦位に施す。	加曽利Ｅ式
381	J-12住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を縦位施文後、沈線を横Ｕ字状に施す。沈線を伴う蕨手状蛇行隆帯を垂下する。	加曽利Ｅ式併行
382	J-13住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	単節ＬＲ縄文を縦位施文し、逆Ｕ字状沈線を施す。	加曽利ＥⅢ式
383	J-13住U-1	深鉢	良好	砂礫・白色粒	口縁部～胴部上位の1/2	キャリパー形を呈する。７単位の文様。口縁部は、隆帯と２個一組の渦巻文により枠状に区画する。胴部は、地文として単節ＲＬ縄文を施文する。２条一組、縁辺に沈線を伴う隆帯が垂下する。内面は、横位ないし斜位の撫でを施す。	加曽利ＥⅢ式
384	J-14住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部中位の1/3	無文。	加曽利ＥⅢ式
385	J-14住1区1層	深鉢	良好	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部上位の破片	波状口縁を呈する。口縁部文様帯は、隆帯と沈線で楕円形に区画し、区画内に単節ＲＬ縄文を施す。楕円形区画の連結部には円形刺突を配す。胴部は、沈線で逆Ｕ字状と沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＲＬ縄文施文後、蛇行沈線を垂下させる。	加曽利ＥⅢ式
386	J-15住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・雲母・石英含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を斜位に施す。刺突の施された円形を周りを三叉文で囲むことにより描き出す。	中期前葉
387	J-15住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を横位・縦位・逆Ｕ字状に施す。逆Ｕ字状の区画内には、爪形文を施す。逆Ｕ字状に施された半隆起線文上には、左右交互から短沈線が施文される。横位沈線と逆U字状区画の接点に三叉文あり。	中期前葉
388	J-15住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・雲母・石英含	胴部破片	隆帯と半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を斜位に施す。	中期前葉
389	J-15住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を斜位・横位に施文後、棒状・ボタン状貼付文を配す。	諸磯c式
390	J-15住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＬＲ縄文を横位施文後、半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を横位・矢羽根状に施す。	五領ヶ台式
391	J-15住炉№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	胴部破片	両脇にキャタピラ文を伴う隆帯を縦位・横位基調に施す。キャタピラ文脇には沈線が施される。２条一組の沈線を垂下する。	勝坂式
392	J-16住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部	撚糸文を縦位施文する。	加曽利Ｅ式
393	J-16住7区1層	深鉢	良好	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	強く内湾する平縁口縁。口縁部文様帯は、口縁直下に上辺縁に沈線を伴う隆帯を巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内には単節RL縄文を横位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には、上面に渦巻状沈線を施す突起を配す。突起下には単節RL縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
394	J-16住6区2層	深鉢	良好	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	３条の隆帯を垂下して縦位区画し、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。一部の条線は波状となる。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
395	J-16住7区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部	撚糸文を縦位施文する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
396	J-16住1区 J-16住6区2層 J-16住11区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部下位～底部	単節ＲＬ縄文を横位・斜位施文する。底面に網代痕。内面に黒色付着物あり。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
397	J-16住8区2層	深鉢	良好	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は、口縁直下に隆帯を巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内には縦位沈線を施文後、隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には、土器に向って左面に渦巻状沈線を施す突起を配す。無文を意識した頸部の一部に単節ＲＬ縄文の縦位施文あり。胴部文様帯を区画すると想定される横位沈線を３条施す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
398	J-16住11区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は、口縁直下に隆帯を巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には、上面に渦巻状沈線を施す突起を配す。無文を意識した頸部には、突起部下のみに単節ＲＬ縄文を横位施文すると想定されるが、摩滅により詳細不明。半截竹管状工具による横位平行沈線により区画された胴部文様帯には、単節ＲＬ縄文を縦位施文後、同工具による平行沈線を垂下する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式

399	J-16住11区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部文様帯は、口縁直下に隆帯を巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内には撚糸文を施文後、隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には、上面に渦巻状沈線を施す突起を配す。頸部は無文。外面頸部に黒色付着物あり。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
400	J-16住14区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	僅かに内湾する波状口縁。口唇部を肥厚させる。口縁部文様帯は単節ＲＬ縄文を横位施文後、隆帯と沈線で文様施文する。文様は斜位の隆沈線が刺突の施された丸状隆沈線の下位で連結し、連結部下位を肥圧させる。肥厚部には、丸棒状工具による刺突を３ヶ所斜め下から刺突する。肥厚部より刺突の施された隆沈線が、横位に施される。	中期後半
401	J-17住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	沈線を口縁に沿って２条廻らす。下段の沈線に穿孔あり。櫛歯状工具による条線を縦位施文後、沈線を横位・斜位に施す。	中期後半
402	J-18住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・石英含	胴部破片	隆帯で連弧状に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、一部に縦位沈線が施される。隆帯に沿って沈線を施す。区画外は無文。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
403	J-18住3区№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部中位～底部	胴部に緩やかな膨らみを持つ器形。単節ＲＬ縄文を縦位施文後、口縁部文様帯と胴部文様帯を区画すると想定される横位沈線を施す。横位沈線下位には、３条一組の沈線を垂下して６区画に分割する。区画内には蛇行沈線を垂下する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
404	J-18住6区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部上位	一対の橋状把手を貼付し、上部に突起を配す。突起の上面には円形刺突を施す。土器に向って右側の橋状把手には、刺突から沈線が逆ハ字状に施される。土器に向って左側の橋状把手は、無文とする。口縁部文様帯は、橋状把手と結合する隆帯により区画される。橋状把手・突起間を沈線で楕円形に２分割、計４分割すると想定される。区画内には縦位沈線が施される。胴部は単節ＲＬ縄文が一部に施文され、端部が結合した半截竹管状工具による平行沈線を横位・縦位に施し、蛇行沈線を垂下する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
405	J-18住6区№1	小形深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部の1/4～底部	胴部下位が僅かに膨らみ、頸部から口縁に向かって開く器形。歪みが著しい。単節ＲＬ縄文を縦位施文後、半截竹管状工具による平行沈線を頸部に巡らす。胴部は、同工具による平行沈線を縦位・Ｌ字状に施す。粗雑な作りである。	中期後半
406	J-18住6区№3	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	口縁部無文帯を区画する隆帯を横位に巡らす。胴部は、横位隆帯より２条の隆帯が連弧状に垂下して区画し、区画内には単節ＬＲ縄文を縦位・斜位に施す。隆帯連結部には渦巻状沈線を配す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
407	J-18住6区S-4	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	波状口縁を呈する。口唇部を肥厚させる。口縁部文様帯は隆帯で半月形に区画し、区画内には縦位沈線を充填し、一部隆帯に沿って沈線を施す。半月形の隆帯に沿って１条の隆帯を沿わせる。頸部は単節ＲＬ縄文を横位・縦位施文する。口縁部文様帯の隆帯の連結部分が波状口縁の波頂部となる。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
408	J-18住6区S-4	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を縦位施文する。内面に黒色付着物あり。	中期後半
409	J-18住6区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	逆方向の斜位沈線と斜位隆帯を重複させ格子目状に施文後、２条の横位隆帯を施し、横位隆帯をつなぐ縦位の短隆帯を配す。	曽利系
410	J-18住6区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部の2/3	単節RL縄文を縦位施文後、２条一組の沈線を垂下して縦位区画する。区画内には沈線を垂下する。	加曽利Ｅ式
411	J-18住6区№2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部	遺存部においては無文。	加曽利Ｅ式
412	J-18住7区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部内面上端は厚みを有し、断面三角形の稜状を呈する。口縁部には幅広の無文帯を有す。遺存部最下位には、上下交互から刺突を施した隆帯を巡らす。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
413	J-18住9区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は、単節RL縄文を横位施文後、上辺縁に半截竹管状工具による平行沈線が伴う隆帯を横位に施す。	加曽利Ｅ式
414	J-18住10区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・雲母・小石含	口縁部破片	波状口縁の波頂部。口縁直下に沈線を廻巡らし、波頂部で渦巻状を呈する。口縁部文様帯は、波頂部から延びた隆帯で楕円形に区画し、区画内に単節ＲＬ縄文を横位・縦位施文後、隆帯に沿って沈線を巡らす。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
415	J-18住10区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	無文帯を区画する２条の横位隆帯が巡り、橋状把手が貼付される。橋状把手の上位には、隆帯が施され隆帯間に刺突が配される。両面には沈線が施される。橋状把手の付け根には、隆帯による渦巻文を配す。単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
416	J-18住10区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	刻みの施された隆帯を横位弧状・楕円形に区画し、区画内には半截竹管状工具による平行沈線を充填する。横位弧状隆帯の上辺縁には、半截竹管状工具による爪形文を横位に連続して施す。環状突起を配す。	勝坂式
417	J-18住10区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を放射状に施文された小瘤を貼付後、同工具による平行沈線を縦位に施す。縦位平行沈線間には、中心に縦位平行沈線の通る綾杉状沈線を施文後、横位平行沈線を施す。横位平行沈線の最上段には爪形文を配す。小瘤貼付文より刻みの施された隆帯と沈線を斜位に施す。	勝坂式
418	J-18住11区№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・雲母・小石含	胴部下位～底部	単節ＲＬ縄文を縦位施文後、３条一組の沈線を垂下して４区画に区分けする。区画内には蛇行沈線を垂下する。	加曽利Ｅ式
419	J-18住11区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	口縁部破片	口縁直下に断面三角形となる口唇部、もしくは２条の横位隆帯が廻ると想定されるが、遺存部最上位は剥落している。横位隆帯より両脇に沈線の伴う隆帯を斜位に施す。半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施す。	加曽利Ｅ式
420	J-18住11区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒含	胴部破片	上面と正面に刺突の施された瘤状隆帯を貼付する。隆帯と沈線を横位・縦位に施し、刺突を配す。	加曽利Ｅ式
421	J-18住12区1層	鉢？	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部内面上端は厚みを有し、断面三角形の稜状を呈する。半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を横位・斜位に施し区画する。区画内には斜位沈線を配す。	加曽利Ｅ式

422	J-18住炉	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を横位施文後、瘤状隆帯を中心に横位沈線が施され、隆帯と沈線がハ字状に広がる。隆帯上にも単節ＲＬ縄文が施文される。	加曽利Ｅ式
423	J-18住炉	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・石英含	口縁部破片	僅かに内湾する波状口縁。口縁部文様帯は、口縁無文部下に１条の隆帯、口縁部文様帯下に２条の隆帯を施し区画する。区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。	加曽利ＥⅢ式
424	J-18住P-4	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	把手を有する口縁。把手部上面には渦巻状沈線を施す。口縁部文様帯は、両脇に沈線を伴う隆帯で区画する。区画内には単節RL縄文を横位施文する。	加曽利Ｅ式
425	J-19住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯で楕円形に区画し、区画内には沈線を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を巡らす。楕円形区画文と楕円形区画文の間には、隆帯による渦巻文を配す。楕円形区画文下位の下辺縁に単節ＲＬ縄文が横位施文される。	加曽利ＥⅡ式
426	J-19住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	キャタピラ文の施された隆帯を横位に、両脇にキャタピラ文が施された隆帯を弧状に配し区画する。区画内には、間に刻み目の施された沈線で渦巻文を施す。	勝坂式
427	J-19住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯で区画し、区画文の連結部に隆帯による渦巻文を配す。胴部は２条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	中期後半
428	J-19住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁の波頂部。口縁直下に隆帯を廻らし、波頂部で渦巻状を呈する。２条の隆帯を垂下し、沈線で渦巻文を配す。内面に断面三角形の隆帯を横位に施す。	中期後半
429	J-19住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	内面口唇部を折り返して肥厚させる。半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施す。	中期後半
430	J-19住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁の波頂部。口縁直下に刻みの施された２条の隆帯を巡らし、波頂部で渦巻状を呈する。渦巻状隆帯から刻み目の施された２条の隆帯と沈線を垂下して縦位区画する。区画内には単節ＲＬ縄文施文後、２条一組の横位並行沈線を施すが、左右の区画で高さを変えている。	加曽利ＥⅡ式
431	J-19住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	単節ＬＲ結節縄文横転がし。	前期末葉（十三菩提式）
432	J-20住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・雲母・小石含	口縁部破片	突起を有する平縁口縁と推定される。口縁部内面上端は厚みを有し、断面三角形の稜状を呈する。隆帯をく字状に区画し、区画内には半截竹管状工具による平行沈線を逆三角形に施し、中心に三角印刻文を配す。隆帯で文様を描くが、剥落が著しく文様構成は不明。半円形の刺突を施す。	中期前半
433	J-20住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	幅の狭い口縁部無文帯を区画する下辺縁に沈線を伴う隆帯が巡る。隆帯下位には、沈線を縦位施文する。	中期前半
434	J-20住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・雲母・小石含	胴部破片	隆帯と沈線を横位・斜位に施す。遺存部最下位の沈線を斜位弧状に施す。	中期前半
435	J-20住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・雲母・小石含	胴部破片	隆帯を斜位に施し、端部を渦巻状にして瘤状貼付文とする。瘤状貼付文上には、半截竹管状工具による平行沈線を縦位施文する。２条の斜位隆帯を結合させて瘤状貼付文とする。貼付文上には刺突の施された沈線を施す。隆帯を縦位弧状・横位に配す。	中期前半（焼町）
436	J-20住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	刻みの施された環状隆帯を貼付し、脇に三叉文を配す。環状隆帯より綾杉状沈線が施された隆帯を垂下する。環状隆帯から縦位隆帯には半裁竹管状工具による平行沈線が伴う。	中期前葉
437	J-20住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部	２条の沈線を垂下して縦位区画し、複節ＬＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利Ｅ式
438	J-21住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁内面を肥厚させる波状口縁。口縁部文様帯は沈線を巡らし、隆帯による渦巻文と連結する２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより区画する。区画内には沈線を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。口縁直下の横位沈線内には円形刺突を配す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
439	J-21住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を縦位施文後、同工具により横Ｕ字状・曲線文を描く。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
440	J-21住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	器形変換部に隆帯で渦巻文を配し、長方形で区画する。区画内には連続する山形文を施す。半截竹管状工具による平行沈線を重弧文に施し、重弧文内には同工具による縦位平行沈線を充填する。	五領ヶ台式
441	J-21住5区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を斜位に施す。	諸磯ｂ式
442	J-21住5区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	№572と同一個体。隆帯と沈線で渦巻文を施し、渦巻文より隆帯と沈線を垂下する。半截竹管状工具による平行沈線を強く縦位施文することにより、断面三角形の隆起状を呈する。内面に黒色付着物あり。	中期後半
443	J-21住5区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	№571と同一個体。半截竹管状工具による平行沈線を強く縦位施文することにより、断面三角形の隆起状を呈する。内面に黒色付着物あり。	中期後半
444	J-21住6区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部を折り返して肥厚させる。櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	中期後半
445	J-21住7区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁内面を肥厚させる。口縁直下と器形変換点に、口縁部文様帯を区画する半截竹管状工具による平行沈線を巡らす。区画内には同工具による平行沈線を縦位・斜位に施文後、沈線を逆方向に斜位に施し斜格子状文を施す。器形変換点の横位平行沈線下位には、平行沈線を斜位に施す。	五領ヶ台式

446	J-21住7区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	両脇に沈線を伴う２条の隆帯を横位に施し、両脇に沈線を伴う２条の隆帯と蕨手状沈線を垂下して縦位区画する。縦位隆帯はＵ字状連結部を有する。区画内には、半截竹管状工具による平行沈線をＵ字状・縦位弧状・斜位に施す。	五領ヶ台式
447	J-21住3区2層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	外面口唇部を肥厚させる。遺存部においては無文。内外面ともに丁寧な磨きを施す。	中期前葉
448	J-21住3区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	幅の狭い口縁部無文帯を区画する半截竹管状工具による平行沈線を横位に施す。平行沈線より沈線を垂下して縦位区画し、区画内には綾杉状沈線を施す。	中期後半 曽利系
449	J-21住3区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・雲母・石英含	口縁部破片	内湾する平縁口縁。口縁内面を肥厚させる。口縁直下から半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施文後、横位隆帯を施す。	中期前葉
450	J-21住3区2層 J-21住7区2層 J-21住11区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部直下に無文帯を有す。口縁部文様帯を区画する隆帯が巡る。横位隆帯内には隆帯で楕円形に区画し、区画内には撚糸文を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を巡らす。区画連結部には隆帯による渦巻文を配す。胴部は撚糸文を縦位施文する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
451	J-21住5区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	隆帯を横位に施し、半截竹管状工具による平行沈線を綾杉状に配す。	中期後半 曽利系
452	J-21住7区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部文様帯は、２条の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内には縦位の沈線を施す。区画連結部には、渦巻状隆帯を施す。頸部には縄文施文するが、押圧が弱く縄文原体不明。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
453	J-21住7区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施文後、隆帯で渦巻文を配す。	加曽利Ｅ式
454	J-21住7区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁直下に２条の横位並行沈線を施す。沈線間に棒状工具による刺突を、上下に高低差を付け交互に施す。結果、沈線間は波状隆帯状を呈する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
455	J-21住7区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を縦位施文後、並行沈線を山形に施す。器形変換点には、２条の横位並行沈線を巡らし、沈線間に棒状工具による刺突を、上下に高低差を付け交互に施す。結果、沈線間は波状隆帯状を呈する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
456	J-21住10区2層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	そろばん形を呈する器形。肩部文様帯を区画する隆帯が巡り、隆帯下位を無文とする。肩部文様帯は、半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施文後、上下の隆帯を連結するように両脇に沈線を伴う隆帯を渦巻状に配す。同工具による平行沈線を矢羽根状に施文後、沈線を横位波状に施す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
457	J-21住12区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に半截竹管状工具による並行沈線を横位に３条巡らす。２条～３条の沈線を山形に施し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
458	J-21住炉内	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部直下に半截竹管状工具による平行沈線を横位に施し、沈線間に刺突を配す。内面に赤彩の痕跡あり。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
459	J-21住炉U-1	深鉢	普通	白色粒・砂礫・ﾁｬｰﾄ	口縁部～胴部下位の3/5	キャリパー形を呈する。口縁部４単位の文様。地文として撚糸文Ｌ。口縁部、隆帯と渦巻文による枠状の区画。胴部は地文のみ。内面、横位ないし斜位の撫で。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
460	J-21住南ｻﾌﾞﾄﾚ	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯を口縁に沿って巡らし、沈線を施された幅広の隆帯、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には、土器に向って左面に渦巻状沈線を施す突起を配す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
461	J-21住南ｻﾌﾞﾄﾚ	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	沈線を連続する横位山形に施し、単節ＲＬ縄文を斜位施文する。	中期後半
462	J-21住	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部	無文。内面に赤色塗彩痕。	加曽利Ｅ式
463	J-22住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・雲母・小石含	口縁部～胴部下位の2/3	湾曲の弱いキャリパー形を呈す。隆帯と沈線で渦巻文と逆Ｕ字状文を連結させ、縦位区画する。区画内及び口縁直下に半截竹管状工具による平行沈線を綾杉状に施す。一部の区画内は斜位沈線となる。並んだ逆Ｕ字状文の隆帯上にのみ刺突が施される。	中期後半 曽利系
464	J-22住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	胴部破片	突起と結合する横位の隆帯を２条巡らす。突起両面には渦巻状沈線が施される。突起下には穿孔あり。内面には横位隆帯を施し、穿孔を囲うように沈線を巡らす。	中期後半
465	J-22住1区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	遺存部においては無文。	加曽利Ｅ式
466	J-22住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁を呈する。波頂部より隆帯を垂下した痕跡あり。２条一組の隆帯で口縁部文様帯を半月状に区画する。２条一組の隆帯は途中結合し瘤状を呈する。区画内には半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施文後、口縁直下と隆帯に沿って沈線を施す。頸部にも同工具による平行沈線を斜位施文する。胴部の無文帯を区画する隆帯と沈線が巡る。口縁部文様帯内に穿孔あり。	加曽利Ｅ式
467	J-22住1区1層	器台	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	器受部～脚部1/3	脚部中央に穿孔あり。穿孔を囲うように隆帯を施し、隆帯に沿って沈線を巡らす。	加曽利E式
468	J-22住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	突起を有する平縁口縁。口縁部文様帯は波頂部より続く隆帯を口縁に沿って巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内には半截竹管状工具による平行沈線を縦位に施文後、連弧状隆帯の上辺縁にのみ沈線を施す。波頂部下に区画連結部を設け、隆帯と沈線による渦巻文が配される。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式

469	J-22住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部文様帯は口縁直下に隆帯を巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には、渦巻状沈線を施す突起を配す。頸部には単節RL縄文を縦位施文後、上辺縁にのみ沈線を伴う隆帯を巡らす。隆帯下位は無文とする。胴部文様帯を区画する２条の隆帯が巡る。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
470	J-22住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部文様帯は口縁直下に隆帯を巡らし、２条の隆帯と沈線で楕円形に区画する。区画内には半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施文後、区画内の斜位沈線から延びる沈線を隆帯と沈線に沿わせる。頸部は無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
471	J-22住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	底部	単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利Ｅ式
472	J-22住P-1	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部内面上端は厚みを有し、断面三角形の稜状を呈する。外面口縁部直下を肥厚させる。遺存部においては無文。	加曽利Ｅ式
473	J-22住P-3	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は口縁直下に隆帯を巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には、上面に渦巻状沈線を施す突起を配す。頸部は無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
474	J-23住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁内面を肥厚させる。下辺縁に沈線を伴う隆帯を口縁直下に、胴部無文帯を区画する隆帯を横位に施し、口縁部文様帯を区画する。区画内には、半截竹管状工具による平行沈線を縦位・Ｕ字・逆Ｕ字状に施文後、下位の隆帯に沿って沈線を施す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
475	J-23住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部文様帯は口縁直下に隆帯を巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内には沈線を縦位に施文後、隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には、上面に渦巻状沈線を施す突起を配す。頸部は無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
476	J-23住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	突起より口縁部文様帯を区画する下位の横位隆帯まで橋状把手が貼付される。突起から橋状把手にかけて上端を渦巻文とする蛇行沈線が施文される。沈線の下端には刺突文が施される。口縁部文様帯は口縁直下に橋状把手と連結する隆帯を巡らし、２条一組の隆帯を横位に施すことにより区画する。区画内には単節RL縄文を横位施文後、２条一組の横位隆帯の上位隆帯端部を渦巻状に施し、隆帯に沿って沈線を施す。渦巻文は橋状把手を挟んで対向させる。頸部は無文。内面に黒色付着物あり。	加曽利Ｅ式
477	J-23住3区U-1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部～胴部上位	湾曲の弱いキャリパー形を呈す。口縁部文様帯は、口縁直下に沈線を巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内には単節ＬＲ縄文を横位施文する。区画連結部には、上面に渦巻状沈線を施す突起を配す。頸部は無文。胴上位には、単節ＬＲ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
478	J-23住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を縦位施文後、沈線を伴う２条の隆帯を弧状・縦位に施す。同工具によりＵ字・逆Ｕ字に区画し、区画内には爪形文を配す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
479	J-23住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を縦位施文後、胴部文様帯を区画する並行沈線を横位に３条施し、端部を結合して横Ｕ字状とする。横Ｕ字状沈線の上位を無文とする。遺存部においては２条の並行沈線を垂下して縦位区画する。区画内には並行沈線で曲線文を描き、横位並行沈線と曲線文をつなぐ縦位並行沈線間には刺突が施される。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
480	J-24住U-1	深鉢	不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	頸部で屈曲し口縁部が緩やかに内湾しながら開く器形。平縁口縁に把手が付くと想定される。口縁部内面上端は厚みを有し、断面三角形の稜状を呈する。外面口縁部直下を肥厚させる。地文は持たずに隆帯で把手下に文様を描くが、剥落が著しいため文様構成は不明。器形変換点に隆帯を横位に施し、隆帯上に単節ＲＬ縄文を施文する。器面全面の摩滅が著しい。	中期前半
481	J-26住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部文様帯は、横位隆帯と楕円形沈線により区画する。区画内には沈線を縦位に施す。区画連結部には土器に向って左面に渦巻状沈線を施す小突起を配す。頸部は無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
482	J-26住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	平縁口縁に把手が付くが、把手は欠損している。口縁部文様帯は、口縁に沿った沈線と横位沈線で区画される。区画内には円形刺突文を充填し、把手下に沈線による渦巻文を配す。胴部は２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、地文に縄文施文後、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。地文の縄文原体は不明。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
483	J-26住1区1層	台付鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	台部	単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利Ｅ式
484	J-26住1区拡張	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	幅広の隆帯を斜位から縦位施文し、隆帯状に２条の沈線を施す。沈線内には円形刺突を配す。半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を縦位に施す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
485	J-26住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	両辺縁に沈線を伴う隆帯を垂下して縦位区画する。縦位隆帯はＵ字状連結部を有すと想定される。中心に縦位沈線の通る綾杉状沈線を施す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
486	J-26住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	幅広で扁平な隆帯を横位に施す。横位隆帯上位には縄文施文するが、縄文原体不明。下位には並行沈線で曲線文を描き、横位隆帯と曲線文を縦位短沈線でつなぐ。楕円形刺突文が配される。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
487	J-26住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部の1/2	単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
488	J-26住1区2層 J-26住3区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部上位の1/4	口縁直下に隆帯を巡らし、隆帯の上辺縁に円形刺突を施す。隆帯下位を無文とし、胴部文様帯を区画する隆帯を巡らす。横位隆帯より上端が結合した２条の隆帯を垂下して縦位区画する。縦位隆帯には逆Ｕ字状の連結部あり。単節ＲＬ縄文を２条の縦位隆帯上と区画内に縦位施文する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
489	J-26住1区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は口縁直下に隆帯を巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより楕円形に区画する。区画内には沈線を縦位に施文後、隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には、上面に渦巻状沈線を施す突起を配す。頸部は無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
490	J-26住1区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	屈曲する平縁口縁。屈曲部を境として上位には単節ＲＬ縄文を横位施文し、下位には単節ＲＬ縄文を縦位施文することにより羽状縄文を構成する。頸部には横位の沈線を施す。内外面に黒色付着物あり。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式

491	J-26住1区2層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	遺存部においては無文。穿孔あり。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
492	J-26住2区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部が強く内湾する器形。頸部の器形変換点に扁平の隆帯を巡らし、上辺縁に口縁直下の幅狭の無文帯を区画する沈線が巡る。横位隆帯より連鎖状の隆帯が垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄を縦位・横位施文部と文様施文部を区画する。文様施文部には縄文を磨り消し後、半截竹管状工具による平行沈線を縦位施文し、平行沈線間の幅を広く設けた部分には、横位弧状沈線を高さを変えて交互に配す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
493	J-26住2区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部	遺存部においては無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
494	J-26住3区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口唇部が角頭状に肥厚する。隆帯と沈線で曲線文・渦巻文を施す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
495	J-26住4区2層	深鉢	良好	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部上位の破片	口縁部は強く内彎し、頸部で括れる器形。口縁部は無文。頸部の器形変換点下に矢羽根状に刻みの施された隆帯を横位に施す。胴部には沈線で文様施文するが、遺存部少なく文様構成不明。角押文を施す。	勝坂式
496	J-26住炉内	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより区画する。区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文後、口縁直下と隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には、上面に渦巻状沈線を施す突起を配す。頸部は無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
497	J-29住P-3	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	内面に稜を有す。遺存部においては無文。	中期
498	J-31住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・雲母・石英含	口縁部破片	口縁部文様帯を区画すると想定される隆帯を横位に巡らし、区画内には波状隆帯を施す。	阿玉台式
499	J-31住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	幅広で扁平な隆帯を横位・縦位弧状に施す。縦位弧状隆帯上には、単節ＬＲ縄文を横位施文する。単節ＬＲ縄文を縦位施文後、半截竹管状工具による３条の平行沈線（半隆起線文）を縦位弧状隆帯に沿って施す。	中期前半
500a	J-32住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	№548 №549と同一個体。小波状口縁を呈す。口縁内面に沿って微隆起線を巡らす。口縁部文様帯には連結した２条の隆帯をＣ字状に施す。口縁直下から棒状工具による短沈線を上から下に縦位に施す。沈線を２条横位に施し、沈線間に棒状工具による刺突を上下交互に施すことにより、波状を構成する。	加曽利ＥⅡ式
500b	J-32住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	№547 №549と同一個体。小波状口縁を呈す。口縁内面に沿って微隆起線を巡らす。口縁部文様帯には隆帯で楕円形に区画し、区画内には口縁直下から棒状工具による短沈線を上から下に縦位に施す。沈線を２条横位に施し、沈線間に棒状工具による刺突を上下交互に施すことにより、波状を構成する。頸部にも短沈線を縦位施文後、同様の文様を施す。	
500c	J-32住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	№547 №548と同一個体。口縁内面に口縁に沿って微隆起線を巡らす。口縁直下から棒状工具による短沈線を上から下に縦位に施す。沈線を２条横位に施し、沈線間に棒状工具による刺突を上下交互に施すことにより、波状を構成する。横位沈線下位には口縁直下と同様の文様を施す。	
501	J-32住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯で渦巻文を配し、楕円形に区画する。区画内には縄文施文後、隆帯に沿って撫でを施す。頸部にも縄文施文するが、縄文原体不明。	加曽利ＥⅢ式
502	J-33住6区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	舌状把手を有する平縁口縁。口縁部文様帯は口縁に沿って沈線を巡らし、隆帯で楕円形に区画する。区画内には隆帯に沿って沈線を施文後、単節ＲＬ縄文を横位施文する。舌状把手下に隆帯による渦巻文を配す。胴部は、口縁部文様帯直下より２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
503	J-33住７区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	幅広の口縁部無文帯を区画する沈線を巡らす。横位沈線下位には、半截竹管状工具による平行沈線内に刺突を施し垂下して縦位区画する。区画内には同工具による平行沈線を斜位に施す。	中期後半
504	J-33住７区1層	壺	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部は外反すると想定され、胴部は「く」状に屈曲する。頸部文様帯と胴部文様帯を区画する隆帯が巡る。頸部文様帯は隆帯で楕円形に区画し、区画内には丸棒状工具による刺突を充填後、隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には隆帯による渦巻文を配し、渦巻文の上端が突起状を呈す。楕円区画文下には端部蕨手状沈線を横位に配す。胴部は単節ＲＬ縄文を縦位・横位施文する。	加曽利ＥⅢ式
505	J-33住9区	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	把手を有する平縁口縁であるが、把手を欠損している。口縁部内面上端は厚みを有し、断面三角形の稜状を呈す。口縁直下に巡る隆帯と、口縁部文様帯を区画する頸部の隆帯をＸ状の把手が連結する。Ｘ状把手は欠損する把手下に配される。Ｘ状把手の側面には蕨手状沈線が施される。口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円形に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文後、棒状工具による縦位沈線を充填する。区画連結部には土器に向って左面に渦巻文沈線を施す突起を配す。楕円形区画文と口縁部文様帯を区画する横位隆帯をつなぐ粘土紐を縦位に貼付する。頸部は無文。	加曽利ＥⅢ式
506	J-33住10区	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部上位の1/3	４単位の舌状把手を有すと想定されるキャリパー形の器形。口縁部文様帯は舌状把手下に沈線で渦巻文を配し、下位に沈線で楕円形に区画する。区画内には、櫛歯状工具による波状条線を施す。胴部には２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内には同工具による波状条線を垂下し、蛇行沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
507	J-33住10区	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口辺部～胴部上位の1/3	胴部上位に強い張りを有する。口縁部無文帯を区画する断面三角形の隆帯が巡る。隆帯の一部が突起状に突出する。胴部には櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
508	J-33住10区	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部	遺存部においては無文。	中期後半
509	J-33住10区	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部下位～底部	２条一組の沈線を垂下して胴部を５単位に縦位区画し、区画内には櫛歯状工具による条線を斜位に施す。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式

510	J-33住炉2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	内面口唇部が肥厚する。口縁部文様帯は沈線で楕円形に区画すると想定される。区画内には櫛歯状工具による条線を渦巻状に施す。	加曽利ＥⅢ式
511	J-33住炉内	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口唇部に粘土を断面三角形に接ぐことにより、内面は稜状を呈し、外面は肥厚して段を有す。断面三角形の隆帯を横位に施す。半截竹管状工具による平行沈線を横位に施し、横位沈線に接して山形隆帯を施す。	中期前半
512	J-33住南	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	内面口唇部が肥厚する。口縁部文様帯は沈線で楕円形に区画し、区画内に櫛歯状工具による条線を縦位に施す。胴部は２条の沈線を垂下し、櫛歯状工具による条線を縦位に施す。	加曽利ＥⅢ式
513	J-33住南	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口辺部破片	口縁部文様帯は隆帯で渦巻文を施す。胴部は沈線を垂下して縦位区画後、棒状工具による沈線を斜位に施す。縦位沈線は等間隔に垂下され、区画内の文様は遺存部においては文様施文部と無文部が交互ではない。口縁部の隆帯による渦巻文下に無文部を配す。	加曽利ＥⅢ式
514	J-35住4区№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部下位	湾曲の弱いキャリパー形を呈す。内面口唇部を肥厚させ、口端部に沈線を巡らす。口縁部は無文。胴下位を除いた胴部全面に単節ＬＲ縄文を横位・斜位施文後、半截竹管状工具による平行沈線を横位に施し、胴部文様帯を区画する。胴部には横位沈線より同工具による平行沈線を弧状・渦巻状に施す。弧状・渦巻状文様の始点と終点に小渦巻文を配す。渦巻文下端より平行沈線を垂下させ、弧状区画内には端部を連結させてＵ字状にした平行沈線を垂下する。弧状区画文と渦巻文間に平行沈線を縦位に施し、横位弧状の平行沈線と連結させて弧状区画文と渦巻文をつなぐ。	加曽利ＥⅠ式
515	J-35住4区№2	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部の1/6～底部	口縁部が内屈気味に立ち上がる。口縁部内面上端は厚みを有し断面三角形の稜状を呈し、外面口縁部直下に隆帯を巡らすことにより口端部が平滑となる。遺存部においては無文。内面に赤色塗彩の痕跡あり。	加曽利ＥⅠ式
516	J-36住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・繊維含	口縁部破片	口縁に沿って隆帯を施す。隆帯上を含む遺存部全面に０段多条ＲＬ縄文を横位施文する。	前期前半
517	J-36住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・繊維含	口縁部破片	肥厚させた口唇部と横位隆帯の間に単節ＲＬ縄文の側面圧痕文を斜位に施す。横位隆帯下には単節ＲＬ縄文を縦位・横位施文する。	前期前半
518	J-37住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・繊維含	口縁部破片	有段口縁。撚糸側面圧痕文を横位・斜位に施す。撚糸を折り返して使用することにより、折り返し部分が円形の圧痕文となる。円形圧痕文が縦位に並ぶ。	前期前半
519	J-37住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文の横位施文と、原体不明の縄文で羽状を構成する。	前期前半
520	J-37住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	単節ＲＬ縄文の横位施文と、単節ＲＬの縦位施文で羽状を構成する。	前期前半
521	T-2 №1	深鉢	不良	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・金雲母含	ほぼ完形	棒状工具押圧による口唇部への連続刺突文。胴部上位は、横位方向の単沈線施文後、交互の連続刺突及び円形の連続刺突を施す。胴部は単沈線による方形区画後、連続刺突を施す。土器が脆く、破片摩滅により接合不可能。	五領ヶ台式
522	T-2 3区1層(混入)	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部上位の破片	幅狭の口縁部無文帯を区画する沈線が巡る。合撚縄文を施文後、蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅣ式
523	T-2 4区1層（混入）	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯で楕円形に区画し、複節ＬＲＬ縄文を横位施文後隆帯に沿って沈線を施す。	加曽利ＥⅢ式
524	D-1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口辺部破片	口縁部文様帯を区画すると想定される２条の隆帯を横位に巡らす。横位隆帯上位には沈線を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。	加曽利ＥⅢ式
525	D-4	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	櫛歯状工具による条線を口縁に沿って施し、下位には山形に施す。	中期前半
526	D-5	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に円形刺突を巡らす。蕨手状沈線を垂下し、沈線で逆Ｕ字状に区画する。区画内には単節ＬＲ縄文を斜位施文する。	加曽利ＥⅢ式
527	D-22	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁を呈すると想定される。口唇部を肥厚させることにより口端部が平滑になる。単節ＲＬ縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅢ式
528	D-35	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、区画内に単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
529	D-36	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	舌状把手を有する平縁口縁。内面口唇部を肥厚させる。口縁直下の無文帯を区画する微隆起線が巡る。２条の隆帯を横位弧状に施し、無節Ｌ縄文を縦位施文する。	中期後半
530	D-38	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条の微隆起線でＵ字状に区画すると想定される。区画内には単節ＬＲ縄文を縦位施文後、微隆起線に沿って撫でを施す。	加曽利ＥⅣ式
531	D-48	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・雲母含	口縁部破片	口縁部内面上端は厚みを有し稜状を呈する。外面口縁部直下に隆帯を巡らすことにより口端部が平滑となる。隆帯の下辺縁に半截竹管状工具による刺突を半截部を上にして施す。遺存部下位にも同様の施文を横位に施す。	阿玉台式
532	D-51	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＬＲ縄文を横位施文し、遺存部最上位に横位沈線を施す。器面全面の摩滅が著しい。	中期後半

533	D-69	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	内面に隆帯を横位に施す。立体的に造形される。双環状突起を配し、沈線を施した横位隆帯を挟んだ下位には環状突起を配す。彫りの深い単沈線で双環状突起を囲う。双環状突起も左右で高さが異なるなど捻れた印象を受ける。	中期前半（焼町）
534	D-76	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	口縁部内面上端は厚みを有し断面三角形の稜状を呈する。遺存部においては無文。外面に黒色付着物あり。	加曽利Ｅ式
535	D-83	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下の無文帯を区画する沈線が巡る。沈線で曲線文を描き、単節ＬＲ縄文を斜位施文する。	加曽利ＥⅢ式
536	D-84	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は口縁直下に隆帯を巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内は隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には、上面に渦巻状沈線を施す突起を配す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
537	D-85	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁を呈すると想定される。口縁部無文帯を区画する微隆起線を巡らす。微隆起線下位には沈線で弧状に文様施文するが遺存部少なく文様構成不明。	加曽利ＥⅣ式
538	D-87	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	摩滅が著しく文様不明。縄文施文をするか？	加曽利Ｅ式
539	D-88	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部1/3	摩滅が著しく文様不明。沈線が垂下している可能性あり。	加曽利Ｅ式
540	D-89	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を横位施文後、半截竹管状工具による集合沈線を横位に施す。	諸磯ｂ式
541	D-95	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	隆帯を横位に施し、下辺縁に半截竹管状工具またはヘラ状工具によるキャタピラ文を縦位に施す。キャタピラ文の下端には、半截竹管状工具を半截部を上にして刺突し沿わせる。沈線で文様施文するが遺存部少なく文様構成不明。	勝坂式
542	D-95	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	撚糸側面圧痕文を斜位に施し、菱形文を構成する。	前期前半
543	D-98	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	爪形文を施された隆帯で曲線文を描く。隆帯に沿って半截竹管状工具による平行沈線を施す。	勝坂式
544	D-99	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・雲母含	胴部破片	１条の隆帯を垂下し左右に分離させ、横位に施す。隆帯には沈線が沿う。爪形文を横位に配す。	阿玉台式
545	D-99	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	中期
546	D-105	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を器形変換点には横位に施し、横位平行沈線の上位・下位には斜位に施す。	五領ヶ台式
547	D-107	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	遺存部最上位に隆帯の痕跡があり、欠損している隆帯に沿うと想定される沈線を横位・縦位弧状に施す。沈線に沿って半截竹管状工具またはヘラ状工具によるキャタピラ文を配す。キャタピラ文の端には、角押文を施す。	勝坂式
548	D-112	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に沈線を巡らし、櫛歯状工具による条線を横位・渦巻に施す。	加曽利Ｅ式
549	D-113	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	半截竹管状工具による集合沈線を斜位に施し、棒状貼付文を配す。	諸磯ｃ式
550	D-119	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	遺存部においては横位に３条の結節浮線文を施す。	諸磯ｃ～十三菩提式
551	D-120	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・雲母含	口縁部破片	波状口縁を呈する。内面は口縁に沿って２条と頸部に遺存部においては１条の角押文を横位に施す。外面は両脇に角押文を伴う隆帯を２条横位に巡らし、口縁部文様帯を区画する。口縁部文様帯には口縁に沿って角押文を２条以上（口縁直下は剥落しているため条数不明）巡らす。横位隆帯と接して角押文を傾きを変えて斜位に施し、斜位角押文の上端には角押文を連弧状に施す。口縁部の角押文と連弧状の角押文の間は無文。	五領ヶ台式
552	D-121	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は瘤状突起に中央に沈線を伴う隆帯が渦巻状に巻き付き、隆帯の端部が延びて方形に区画すると想定される。区画内には撚糸文？施文後、隆帯に沿って沈線を巡らし縦位弧状沈線を施す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
553	D-121	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・雲母含	胴部破片	単節縄文施文後、結節浮線文を遺存部においては横位に４条施す。縄文原体不明。	諸磯ｃ～十三菩提式
554	D-126	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁を呈すか。沈線で渦巻文を施す。口縁直下に穿孔あり。外面に黒色付着物あり。	中期後半
555	D-133	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部破片	内湾する平縁口縁。口縁直下に単節ＲＬ縄文を横位に施し、以下を縦位施文することにより口縁部直下のみ羽状縄文を構成する。単節ＲＬ縄文施文後、逆Ｕ字状沈線を施す。沈線間は磨り消し。逆Ｕ字状沈線と逆Ｕ字状沈線間に蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅣ式
556	D-137	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁。半截竹管状工具による集合沈線を口縁に沿ってと斜位に施す。	諸磯ｂ式

557	D-140	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部中位～底部の1/3	沈線を垂下して縦位区画する。一部の区画内に単節ＬＲ縄文を縦位施文し疎らに施す。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
558	D-142	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に沈線を巡らし、沈線で逆Ｕ字状に区画する。区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅣ式
559	D-144	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	ヘラ状工具による並行沈線を綾杉状に施す。	中期前半
560	D-151	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	№971は同一個体か？口唇部に隆帯を巡らし、隆帯の下辺縁に沈線を施す。撚糸文を施文後、幅広の隆帯上に沈線を引くことにより２条一組に見える隆帯とそれに沿う沈線により曲線文を描き、沈線が垂下する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
561	D-151	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	№970は同一個体か？口唇部に隆帯を巡らし、隆帯の下辺縁に沈線を施す。撚糸文を施文後、幅広の隆帯上に沈線を引くことにより２条一組に見える隆帯と、それに沿う沈線により渦巻文・曲線文を描く。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
562	D-153	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	幅広の撫でを伴う微隆起線を口縁に沿って巡らし、単節ＲＬ縄文を横位施文する。	加曽利ＥⅣ式
563	D-153	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・雲母含	口縁部破片	突起が付されていたと想定される。欠損している突起下より隆帯が垂下し、口縁直下の横位隆帯と頸部の横位隆帯と結合することにより口縁部文様帯を楕円形に区画する。楕円形に区画する隆帯には半截竹管状工具による押し引きが伴い、区画内には斜位に押し引きされる。	阿玉台式
564	D-154	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	押圧の施された隆帯がＶ字状に施され、瘤状貼付文を経てアーチ状を描くと想定される。彫りの深い沈線が隆帯脇に沿うのを基本とし、ほぼ全面に施される。	中期前半（焼町）
565	D-154	深鉢	普通	砂粒･白色粒･黒色粒	口縁部破片	地文が集合沈線で円形、耳たぶ状貼付文を施す。	諸磯ｃ式
566	D-154	深鉢	普通	砂粒･白色粒･黒色粒･小石含	口頸部破片	屈曲部に沈線、結節浮線文を施す。	十三菩提式
567	D-154	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	撚糸文を縦位施文後、沈線を遺存部においては２条横位に施し、下位に波状沈線を遺存部においては２段施す。	加曽利ＥⅢ式
568	D-159	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する隆帯を巡らす。横位隆帯下位には、	加曽利ＥⅢ式
569	D-160	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁を呈する。内面波頂部には円形押圧が施される。外面は単節ＲＬ縄文を横位・縦位に施文後、２条一組の並行沈線を横位弧状に施す。２条の沈線間は無文。	加曽利ＥⅢ式
570	D-160	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	単節ＲＬ縄文を横位・縦位施文後、口唇部に撫でを施し、口端部より断面三角形の微隆起線を垂下する。２条一組の微隆起線で渦巻文を描く。渦巻文の中心は口唇部より垂下する微隆起線の下に配される。２条の微隆起線間は無文。	加曽利ＥⅢ式
571	D-160№2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	隆帯を横位に施す。	加曽利Ｅ式
572	D-163	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
573	D-163	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口辺部～胴部破片	口縁部文様帯は隆帯と沈線で区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文する。胴部は２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
574	D-172	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	口縁部破片	横位の集合沈線文に円形、耳朶状貼付文を施す。口唇部は肥厚し、折り返しの貼付文を施す。	諸磯ｃ式
575	D-172	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁。単節ＲＬ縄文を縦位施文後、沈線を垂下して、区画内を磨り消す。	加曽利ＥⅣ式
576	D-174	鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口辺部～胴部破片	口縁部は無文。胴部には隆帯で区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を横位施文後、隆帯に沿って撫でを施す。	加曽利ＥⅢ式
577	D-174	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	縄文施文するが、摩滅が著しく縄文原体不明。	中期
578	D-188	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	舌状把手を有する平縁口縁。口縁直下に１条の沈線を巡らす。口縁部は隆帯で区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
579	D-190	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＬＲ縄文を縦位施文後、半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を３条クランク状に施す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
580	D-190	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	撚糸文を縦位施文する。	中期後半

581	D-195	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁を呈する。単節ＲＬ縄文を横位施文後、半截竹管状工具による集合沈線を横位に施す。	諸磯ｂ式
582	D-223	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を横位・斜位に施す。	中期
583	D-223	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・雲母含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を横位施文する。	中期前半
584	D-223	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・繊維含	胴部破片	遺存部最上位に半截竹管状工具によるコンパス文を横位に施す。単節ＲＬ縄文と単節ＬＲ縄文を結束し羽状を構成する。	前期前半(関山式)
585	D-234	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を斜位・縦位鋸歯状に施す。	中期前半
586	D-235	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	胴部上位において顕著に内屈する。単節ＲＬ縄文を横位施文後、刻みの施された浮線文を横位・斜位に施す。外面に黒色付着物あり。	諸磯ｂ式
587	D-239	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・雲母含	胴部破片	単節ＬＲ縄文を横位施文する。	五領ヶ台式
588	D-249№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・雲母含	胴部下位～底部	輪積痕を意匠化したヒダ状の文様を施文後、隆帯を４条垂下して胴部を４分割する。	阿玉台式
589	D-249	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・雲母含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を遺存部においては３条垂下し、円形の沈線を施す。結束縄文を縦位に施文する。	五領ヶ台式
590	D-255	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＬＲ縄文を縦位施文後、遺存部左端に縦位の撫でを施す。	中期
591	D-258	深鉢	普通	砂粒･白色粒･黒色粒･雲母･小石含	口縁部破片	屈曲した口唇部に連続刺突文。口縁は隆帯による楕円区画で、内側には連続刺突文。	阿玉台式
592	D-258	深鉢	普通	砂粒･白色粒･黒色粒･小石含	口縁部破片	無節Ｌ縄文を縦位に施す。	加曽利ＥⅢ式
593	D-265	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を垂下して縦位区画し、区画内には同工具による綾杉状沈線を施す。	加曽利ＥⅢ式
594	D-268	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部下位～底部の破片	半截竹管状工具による平行沈線を横位に施し、横位区画内には同工具による鋸歯状文を施文する。	十三菩提式
595	D-269	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を横位施文後、結節浮線文を横位に施す。	諸磯ｃ～十三菩提式
596	D-271	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	器形変換点に断面三角形の隆帯を横位に巡らす。横位隆帯の上位は無文。下位には粘土紐を渦巻状に巻き円形に整形した貼付文を横位に並べて配す。押圧の施された隆帯を２条一組で垂下する。２条の内の１条は貼付文の間から垂下し、後の１条は貼付文の下から垂下する。半截竹管状工具または丸棒状工具による縦位沈線を充填する。	中期前半
597	D-281	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	縦位弧状沈線を垂下して縦位区画後、区画内に複節ＲＬＲ縄文を縦位・横位施文する。無文部には蕨手状沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
598	D-288	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
599	D-288	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部破片	遺存部においては無文。底部より剝離した断面に黒色付着物あり。	中期後半
600	D-291	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部上位～底部	２条一組の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文するが、遺存部最上位のみ横位施文する。２条一組の沈線により胴部を８単位に分割する。	加曽利ＥⅢ式
601	D-292№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部中位	２条一組または３条一組の沈線を垂下して縦位区画する。区画内には蛇行沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
602	D-299	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＲＬ縄文を横位施文後、刻みの施された浮線文を横位に３段施す。刻みの施されない浮線文を縦位・斜位に施す。	諸磯ｂ式
603	D-306	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	完形	口縁部無文帯を区画する彫りの深い３条の沈線が頸部に巡る。胴部には撚糸文を縦位施文する。	勝坂式～加曽利ＥⅠ式
604	D-306	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	頸部～底部	頸部に横位沈線を巡し、部には撚糸文を縦位施文する。	勝坂式～加曽利ＥⅠ式

605	D-310	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	胴部文様帯を区画すると想定される横位隆帯を遺存部においては２条巡らした後、半截竹管状工具による平行沈線を縦位に施文後、蛇行隆帯を垂下する。	中期後半曽利系
606	D-311	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	把手が付されると想定される。撚りの細かい単節ＬＲ縄文を斜位施文後、沈線を伴う２条一組の隆帯で渦巻文を描く。	加曽利ＥⅠ式
607	D-312	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	膨らんだ胴部より頸部で括れ、口縁に向かって開きながら内湾する。遺存部においては無文。内面に黒色付着物あり。	中期
608	D-314	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口辺部破片	口縁部文様帯で隆帯と沈線で区画すると想定される。沈線で渦巻文を施す。内面全面剥落している。	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式
609	D-314	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部	単節ＲＬ縄文を斜位施文する。	加曽利Ｅ式
610	D-315	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を横位に巡らし、沈線間に三角印刻文を上下交互に配す。	五領ヶ台式
611	D-323	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部無文帯を区画する沈線が巡る。沈線下位には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、幅広の撫でを伴う微隆起線を横位・斜位に施す。外面口縁部に黒色付着物あり。	加曽利ＥⅢ式
612	D-323	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	沈線を伴う隆帯を垂下して縦位区画し、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
613	D-328	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	刻みの施された浮線文を横位に施す。地文に単節縄文を施文するが、縄文原体不明。	諸磯ｂ式
614	D-335	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	矢羽根状に刻みの施された横位隆帯から刻みの施されない隆帯を縦位弧状に垂下する。隆帯には１条または２条の沈線が沿う。彫りの深くない並行沈線を横位・縦位弧状に施す。	勝坂式
615	D-336	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部が強く内湾する器形。遺存部においては無文。	中期
616	D-337	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	単節ＲＬ縄文を縦位に施す。前前段反撚か。	中期
617	D-344	深鉢	良好	白色粒・砂礫	口縁部～胴部上位3/5	突起・口縁部２単位の文様。突起部～胴部文様帯にわたり、刻み、貼付文、沈線を伴う隆帯。口頸部無文。隆帯で縦に区画されるほか、上下横位に区画され、刻み列と隆帯を主とする胴部文様帯。内面、横位ないし斜位の撫で。	勝坂Ⅲ式
618	D-351U-1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部中位～底部の1/3	撚糸文を縦位施文する。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
619	D-355	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は口縁直下に隆帯を巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月形に区画する。区画内には無節Ｌ縄文を横位施文後、隆帯に沿って沈線を巡らす。	加曽利ＥⅠ式
620	D-355U-4	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部の1/3～底部	撚糸文を縦位施文後、Ｕ字状に連結した２条一組の隆帯を数段垂下し蕨手状に施す。胴部最大径部分には、半截竹管状工具による３条の平行沈線を横位に巡らす。	勝坂式～加曽利ＥⅠ式
621a 621b	D-356	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	刻みの施された隆帯をＵ字状に施す。Ｕ字状隆帯に沿ってキャタピラ文と１条の結節沈線文が沿う。内面に黒色付着物あり。	勝坂式
622	D-359№1	壺	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部上位の破片	口縁部を無文とする。頸部文様帯は隆帯で楕円形に区画し、区画内には棒状工具による沈線を縦位施文後隆帯に沿って沈線を施す区画と、円形刺突を施す区画とがある。区画連結部に渦巻文または円形区画を配す。胴部は無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
623	D-364拡張	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部中位の破片	舌状把手を有する平縁口縁。舌状把手には円形押圧が施される。口縁部文様帯は隆帯で楕円形に区画し、区画内には丸棒状工具による沈線を縦位に施す。区画連結部には、左面に渦巻状沈線を施す突起を配す。頸部は無文とし、胴部には単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
624	D-364	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は隆帯で楕円形に区画し、区画内には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には隆帯と沈線で渦巻文を配す。胴部には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	加曽利ＥⅡ～Ⅲ式
625	D-364	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口端部より口縁部文様帯に短い隆帯を貼付することにより小波状を呈する口縁。口縁部文様帯は沈線でトレースされた横位Ｓ字状隆帯を連結させる。横位Ｓ字状隆帯より上位は、遺存部においては無文。下位には単節ＲＬ縄文を斜位施文する。内面に黒色付着物あり。	加曽利ＥⅡ～Ⅲ式
626	D-364拡張	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁部文様帯は口縁直下に隆帯を巡らし、２条一組の隆帯を連弧状に施すことにより半月状に区画する。、区画内には丸棒状工具による沈線を縦位施文後、一部の隆帯に沿って沈線を施す。区画連結部には左面に渦巻状沈線を施した突起が配されると想定されるが、欠損している。頸部は無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
627	D-364	鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口辺部～胴部上位の破片	口縁部と胴部を区画する刻みの施された隆帯が巡り、隆帯は渦巻状沈線を施した突起に連結する。口縁部は横位隆帯に沈線と円形刺突が沿う。胴部は突起より隆帯が垂下して縦位区画し、区画内には綾杉状沈線を配す。	加曽利Ｅ併行
628	D-364拡張	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部～胴部1/3	口縁直下に無文帯を有す。口縁部文様帯を区画する隆帯が無文部下と頸部に巡る。区画内には上位の隆帯に連結する隆帯と、下位の隆帯に連結する隆帯で渦巻文を描く。沈線による斜位・縦位・綾杉文を充填する。脆い土器。２条一組の隆帯を垂下して縦位区画する。隆帯は連結し逆Ｕ字状を呈する。単節ＲＬ縄文を縦位に施す。	勝坂式～加曽利ＥⅠ式

629	D-370№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部破片	地文は単節ＲＬ縄文と無節Ｌ縄文を重ねて表面を調整。縦位結節縄文Ｌ施文。表面をヘラ状工具で削る。	五領ヶ台式
630	D-372	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・雲母・小石含	口縁部破片	地文縦位単節ＬＲ縄文施文後、	五領ヶ台式
631	D-372	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部の1/3	半截竹管状工具による平行沈線を半隆起線状に縦位・斜位・横位弧状に施した後、篦状工具による彫りが浅く細い平行沈線を斜位に施すことにより斜格子目文状を呈する。底部直上に三角印刻文を横位に配す。	五領ヶ台式
632	D-379№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒含	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線を半隆起線状に横位・斜位・鋸歯状に施す。横位平行沈線は結節沈線と結節沈線でないものを上下交互に配す。遺存部が少ないため詳細は不明であるが、鋸歯状文は三角印刻文と三角文とを交互に配すと想定される。	五領ヶ台式
633	D-381	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口唇部に刺突。口縁部に平行する沈線。縦位の貼付文の周りを二重の連続刺突文。連続刺突文による文様の周りに三角刺突。	五領ヶ台式
634	D-382	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部の1/5	単節ＲＬ縄文を側面圧痕する。	中期前半
635	D-383	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	半截竹管状工具の腹面による平行沈線を数段横位に施す。横位平行沈線より半截竹管状工具の背面による並行沈線を垂下する。単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	中期前半
636	D-385	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・雲母含	底部の1/4	単節ＬＲ縄文を斜位施文後、半截竹管状工具による平行沈線を垂下する。	五領ヶ台式
637	D-396	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁に沿って２条の結節沈線を巡らす。結節沈線を伴う横位の蕨手状隆帯を施す。	阿玉台式
638	D-398	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・雲母含	口縁部破片	口唇部は厚みを有し文様施文される。口唇部の文様は、内面口縁部から口唇部中央にかけて交互刺突を施し、口縁直下に１条の微隆起線を巡らす。外面も同様に口縁部から口唇部中央にかけて交互刺突を施す。口唇部中央には列点状刺突を配す。外面口縁直下に沈線と波状沈線を１条ずつ巡らす。Ｕ字状・逆Ｕ字状沈線を縦位に対向させて配し、横位の蕨手状沈線を施す。	五領ヶ台式
639	D-400	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	内面頸部と想定される部分に隆帯を巡らす。外面遺存部最上位の横位隆帯（２条一組か）に円形？隆帯が連結する。２条一組の隆帯をクランク状に施す。クランク状隆帯には半截竹管状工具による平行沈線を伴う。向って右の区画内には単節ＬＲ縄文を斜位施文し、向って左の区画内には無節Ｌ？縄文を横位施文する。隆帯上には単節ＲＬ縄文を横位施文する。	勝坂Ⅲ～加曽利ＥⅠ式
640	S-6	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	緩い波状口縁を呈する。単節ＬＲ縄文を横位施文後、半截竹管状工具による並行沈線を３条横位に施す。上段の平行沈線間は短沈線を左右交互に斜位施文することによる鋸歯状を呈する。横位沈線下位には同工具による平行沈線を弧状に施し、弧状区画内には１条の沈線を垂下する。	五領ヶ台式
641	U-1	深鉢	良好	白色粒・砂礫・ﾁｬｰﾄ	口縁部～底部3/5	緩やかなキャリパー形を呈する。口縁部８単位、胴部７単位の文様。単節縄文ＲＬ。口縁部、下向きの弧線をつなぐように蛇行する沈線文。胴部、細い逆Ｕ字状の沈線間に縄文。内面、横位ないし斜位のナデ。	加曽利ＥⅢ式
642	U-2	深鉢	良好	白色粒・砂礫	口縁部～胴部上位1/2	緩やかなキャリパー形を呈する。口縁部６単位、胴部７単位の文様。単節縄文ＬＲ。口縁部、低い隆帯と楕円形の沈線による枠状の区画。胴部、２条一組の縦位沈線内に縄文。内面、横位ないし斜位の撫で。	加曽利ＥⅢ式
643	U-5№1	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	キャリパー形を呈する。口縁部文様帯は隆帯で渦巻文と連結する楕円形に区画する。区画内には隆帯に沿って沈線を施文後、単節ＲＬ縄文を横位施文する。胴部は単節ＲＬ縄文を縦位施文後、２条一組の沈線を垂下して縦位区画する。	加曽利ＥⅢ式
644	U-5№2	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	キャリパー形を呈する。口縁部文様帯は口縁直下に隆帯を巡らし、隆帯で渦巻文と連結する楕円形に区画する。区画内には単節ＬＲ縄文を縦位施文後、隆帯に沿って沈線を施す。胴部は単節ＬＲ縄文を縦位施文後、口縁部の隆帯による渦巻文の中心をずらした下に逆Ｕ字状沈線を垂下して縦位区画する。逆Ｕ字状沈線間は無文。縄文施文部には蛇行沈線を垂下する。	加曽利ＥⅢ式
645	P-56	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	器形変換点に横位沈線を施す。横位沈線下位には丸棒状工具による並行沈線を縦位・斜位・渦巻状に施す。	加曽利ＥⅠ式
646	P-56	ミニチュア土器	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	1/3	半截竹管状工具による平行沈線状の文様を斜位に施すが、施文が薄く意図しての文様か不明。	中期
647	P-61	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	渦巻状の把手。沈線と刺突により文様を構成。	中期前半
648	P-69	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口縁直下に幅広の半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を巡らす。上段の平行沈線間には刺突を上下・左右交互に施文する。平行沈線下位には単節ＲＬ縄文を縦位施文後、平行沈線を垂下し縦位区画する。	加曽利ＥⅢ式
649	P-70	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	２条一組の隆帯とそれに沿う撫でにより縦位区画後、単節ＲＬ縄文を縦位施文する。	加曽利ＥⅢ式
650	2M-42	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	内外面の口端部に結節浮線文を巡らせ、間に斜位の結節浮線文を施す。外面には結節浮線文を口縁直下に横位に施し、下位には鋸歯状に施す。	十三菩提式

651	2M-47	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	内面は折り返され肥厚し、半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施す。外面口端部付近にも平行沈線を内面とは逆の斜位に施す。内面から口唇部を通り外面にかけて棒状貼付文を配し、耳状貼付文内に半截竹管状工具による円形刺突の施されたボタン状貼付文を配す。耳状貼付文下に棒状貼付文を施す。	諸磯ｃ式
652	2Q-40	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口端部の結節浮線文と頸部の横位結節浮線文で口縁部を横位に区画する。区画内には結節浮線文を鋸歯状に施し、三角印刻文を配す。	十三菩提式
653	2X-42	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	波状口縁を呈すると想定される。無節Ｌ縄文を横位施文後、結節浮線文を横位に数段施す。結節浮線文の１段目と２段目の間には横位波状の粘土紐を貼付する。	十三菩提式
654	3A-38	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	単節ＬＲ縄文を横位施文後、結節浮線文を横位に施す。	諸磯ｃ式
655	3A-43	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	結節浮線文を縦位に施す。地文に縄文施文するが、縄文原体不明。	諸磯ｃ式
656	3B-36	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・繊維含	口縁部破片	櫛歯状工具による縦位列点状刺突を口縁に沿って施す。刺突文の下位には半截竹管状工具による平行沈線を横位・斜位に、櫛歯状工具による列点状刺突を菱形に施す。菱形文内は無文。	有尾式
657	3D-45	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を密に斜位に施文後、結節浮線文を縦位に施す。小型のボタン状貼付文を配す。	諸磯ｃ式
658	3D-45	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を密に横位に施文後、結節浮線文を縦位に施す。ボタン状貼付文を配す。	諸磯ｃ式
659	3G-44	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	内面口縁部を断面三角形状に肥厚させ、口端部に結節浮線文を巡らす。口唇部および外面口端部にも結節浮線文を巡らす。単節ＲＬ縄文を横位施文後、口端部の結節浮線文と頸部の横位結節浮線文で口縁部を横位に区画する。区画内には逆位の三角印刻文を施し、三角印刻文に沿って斜位の結節浮線文を施す。	十三菩提式
660	3H-40	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・雲母含	口縁部破片	小波状口縁を呈する。単節ＲＬ縄文を横位施文後、結節浮線文を口縁に沿ってと横位に施す。	十三菩提式
661	3H-40	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を半隆起線状に横位・斜位・横位弧状に施す。３文様の接点に三角印刻文を配す。	十三菩提式
662	3H-43	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	底部破片	半截竹管状工具による結節沈線文を横位・横位弧状に施す。三角印刻文を配す。	十三菩提式
663	C-11区	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石・雲母含	口縁部破片	波状口縁を呈する。口唇部に刻み目を施す。半截竹管状工具による平行沈線を半隆起線状に口縁に沿ってと、頸部に横位に巡らし、口縁部を横位に区画する。区画内には平行沈線を矢羽根状に施す。	五領ヶ台式
664	J-7住1区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	器形変換点に段を有す。内外面共によく研磨される。外面に赤色塗彩あり。	中期
665	J-7住2区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	隆帯と沈線で文様を描く。内外面共によく研磨される。外面に赤色塗彩あり。	中期
666	J-16住6区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	半截竹管状工具による平行沈線を横位に施す。外面全面に赤色塗彩あり。	中期
667	J-16住11区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	大きく外反する器形。口唇部を肥厚させ文様施文する。口唇部文様は沈線による渦巻文を配し、半截竹管状工具による結節沈線を３条施す。内外面・口唇部に赤色塗彩あり。	加曽利ＥⅠ式
668	J-18住6区S-4	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口唇部は角頭状を呈する。内面に稜を有し、屈曲して外反する器形と想定される。外面に１条の沈線が巡る。内面よく研磨される。外面・口唇部に赤色塗彩あり。	加曽利ＥⅠ式
669	J-18住6区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口唇部が角頭状を呈する。内面に稜を有し、外反する器形。無文。内外面共によく研磨される。内外面・口唇部に赤色塗彩あり。	中期
670	J-18住6区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	幅広の隆帯上に沈線を縦位・横位・横Ｕ字状に施す。隆帯に沿って沈線を巡らす。内外面に赤色塗彩あり。	中期
671	J-18住6区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	遺存部においては無文。内外面共によく研磨される。内面に赤色塗彩あり。	中期
672	J-18住10区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	遺存部においては無文。内外面共によく研磨される。内面に赤色塗彩あり。	中期
673	J-21住11区2層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	遺存部においては無文。内面よく研磨される。内面に赤色塗彩あり。	中期
674	J-21住南ｻﾌﾞﾄﾚ	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	屈曲点付近と想定される。遺存部においては無文。外面に赤色塗彩あり。	中期

675	J-21住炉内	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	遺存部においては無文。内面に赤色塗彩あり。	中期
676	J-21住11区2層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	遺存部においては無文。内面に赤色塗彩あり。	中期
677	J-21住東ｻﾌﾞﾄﾚ	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	屈曲点付近と想定される。遺存部においては無文。内面に赤色塗彩あり。	中期
678	J-22住1区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	遺存部においては無文。内面よく研磨される。内面に赤色塗彩あり。	中期
679	J-23住2区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口唇部が角頭状を呈する。内面に稜を有し、外反する器形。無文。内外面共によく研磨される。内外面・口唇部に赤色塗彩あり。	中期
680	J-23住ｻﾌﾞﾄﾚ北	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	把手部破片	把手部破片と想定される。把手の外面輪郭に沿って隆帯を施し、隆帯上に半截竹管状工具背面による押し引きを施す。把手部中央に円形の穿孔を施し、穿孔に沿って隆帯を巡らす。隆帯脇には同工具による刺突（一部押し引き）を施す。上面・側面・外面に赤色塗彩あり。	中期
681	J-26住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	外面に隆帯の剥落痕あり。内外面・口唇部に赤色塗彩あり。	中期
682	J-26住1区2層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	遺存部においては無文。内外面・口唇部に赤色塗彩あり。	中期
683	J-28住1区	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	遺存部においては無文。内面よく研磨される。内面に赤色塗彩あり。	中期
684	J-28住1区	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口唇部は角頭状を呈し、屈曲して外反する器形と想定される。内面に稜を有し内稜下のナデ込みが顕著。外面に１条の沈線が巡る。内外面よく研磨される。内外面・口唇部に赤色塗彩あり。	中期前半
685	J-33住7区1層	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口唇部が角頭状を呈する。内面に稜を有し、外反する器形。無文。内外面共によく研磨される。内外面・口唇部に赤色塗彩あり。	中期前半
686	D-97	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	遺存部においては無文。内面に赤色塗彩あり。	中期
687	D-310	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	体部破片	屈曲点付近と想定される。遺存部においては無文。内外面よく研磨される。内面に赤色塗彩あり。	中期
688	D-314	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	胴部破片	遺存部においては無文。内面に赤色塗彩あり。	中期
689	D-364	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	口唇部が角頭状を呈する。内面に稜を有し、外反する器形。無文。内外面共によく研磨される。内外面・口唇部に赤色塗彩あり。	中期前半

第23表　西横野西部地区遺跡群　縄文時代土製品観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	③胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	N23 D-228	土偶	良好	砂粒・白色粒・黒色粒含	頭部の一部	鈍い褐色。顔面は目鼻付近は押厚、撫でにより整形し、目・鼻穴は刺突で表現。全体は撫でにより整形。	中期
2	N23 D-105	粘土塊	良好	砂粒・白色粒・黒色粒含	－	鈍い黄褐色。断面凸状。表面左の抉りは人為的。表面に細かい凹凸あり。やや軟質で脆い。	中期
3	N23 J-5住(1H-21c)	粘土塊	良好	砂粒・白色粒・黒色粒含	－	鈍い黄褐色。部分的に黒褐色。表面に凹凸、被熱によるヒビあり。表面は脆い。断面楕円形。表面下部に人為的な凹みがある。	中期
4	N23 1F-9a	不明	良好	砂粒・白色粒含	欠損	鈍い橙褐色。棒状。整形は撫で。	中期
5	N23 1H-22b	不明	良好	細砂粒・小石含	完形	赤褐色。楕円形のタブレット状に粘土を貼り付け３か所の凸状を形成。表面は撫でによる調整。焼成の状態から縄文時代でない可能性がある。	縄文か
6	N24 2O-49	不明	良好	砂粒・白色粒含	欠損	鈍い橙褐色。中央に細い穿孔（径約1mm)。整形は撫で。	中期

7	N24 B区49区	円盤	良好	砂粒・白色粒・黒色粒含	完形	鈍い黒褐色。42mm×38mm。深鉢の破片を転用。無文。縁辺を打ち欠いて整形。	中期後半
8	N24 3J-49	円盤	良好	砂粒・白色粒・黒色粒含	完形	鈍い橙褐色。31mm×31mm。深鉢の破片を転用。沈線と縄文。縁辺を打ち欠いて整形。	中期後半
9	N24 T-2	円盤	良好	砂粒・白色粒・黒色粒含	完形	鈍い黄褐色。径約69mm。土器底部を転用。縁辺を打ち欠いて整形。	中期後半
10	N24 J-26住4区2層	円盤	良好	砂粒・白色粒・黒色粒・小石含	完形	鈍い褐色。径約75mm。土器底部を転用。縁辺を打ち欠いて整形。	

第24表　西横野西部地区遺跡群　弥生時代・古代・中世土器観察表

挿図番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	③胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	N21 M-1 B-5区	甕	良好	砂粒・白色粒・黒色粒含	胴部破片	地文は条痕文。平行沈線文。	弥生前期末
2	N20 M-1 C-5区	甕	良好	砂粒・白色粒・黒色粒含	胴部破片	地文は条痕文（細）。	弥生前期末
3	N20 M-1 C-5区	甕	良好	砂粒・白色粒・小石含	胴部破片	地文は条痕文（細）。	弥生前期末
4	N24 D-399№1	浅鉢	普通	砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・小石含	口縁部破片	三角形の切れ込みを入れたような波状口縁を呈し、大きく外反する器形。口縁部に穿孔あり。口縁直下には単節ＬＲ縄文を横位施文するが、体部においては横位施文を基本にランダムに施文する。縄文施文後、２条一組の並行沈線で口縁部には横位に、体部には工字文を連結した文様を施す。沈線間は磨り消し。縄文施文部のみに赤色塗彩する。	弥生中期前半
6	N20 M-1C-4区№1	土師器坏	良好	細砂粒・小石含	口縁部破片	内面：横撫で。タール状の黒色付着物あり。外面：横撫で。体部下部ヘラ削り。	8世紀
7	N21 M-1B-6区№7	須恵器蓋	還元焔	細砂粒含	縁破片	内外面：ロクロ整形。内面縁にカエリが付く。	8世紀
8	N21 M-1B-6区№4	須恵器小型甕	還元焔	細砂粒含	口縁部破片	ロクロ整形。外面自然釉付着。	8世紀
9	N21 M-1C-1区№2	須恵器甕	還元焔	細砂粒含	胴部破片	外面叩き目。外面自然釉付着。	8世紀
10	N21 M-1C-1区№1	須恵器甕	還元焔	細砂粒含	胴部破片	外面叩き目。	8世紀
11	N21 M-1B-6区№8	須恵器甕	還元焔	細砂粒・小石含	胴部破片	ロクロ整形。外面黒灰色。	8世紀
12	N20 B区20区	須恵器壺	還元焔	細砂粒・黒色粒含	底部破片	ロクロ整形。底部高台付。外面に自然釉付着（少）。	8世紀
13	N24 2T-41	土師質土器坏	酸化焼成焔	細砂粒・黒色粒・小石含	1／4	ロクロ整形。底部回転糸切り。かわらけ	中世

西横野西部地区遺跡群（行田・八城地区）と妙義山

行田大道南横道東遺跡・行田大道北横道東遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　全景

写真図版 2

行田大道北横道東遺跡（平成28年度調査区）　全景

行田大道北横道東遺跡　Ｊ－１号住居跡

Ｊ－１号住居址　深鉢出土状況

行田大道北横道東遺跡　土坑群

行田大道南横道東遺跡　全景

二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　全景

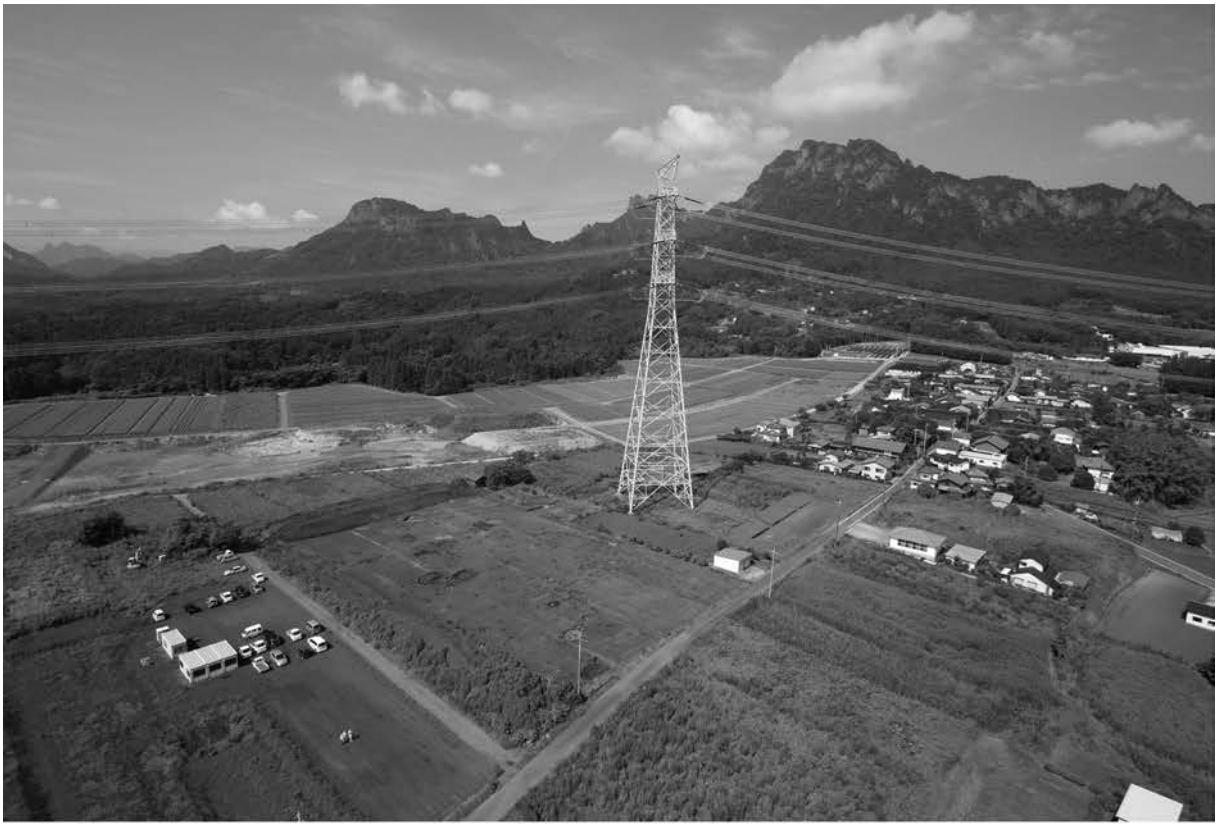
二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　土坑群

二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　J－4 号住居跡

二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　土坑

二軒在家二本杉Ⅱ遺跡　妙義道

写真図版 4



行田大道南横道西遺跡　全景

行田大道南横道西遺跡　A区全景

行田大道南横道西遺跡　A区住居群

行田大道南横道西遺跡　B － 1 区

行田大道南横道西遺跡　B － 2 区

行田大道南横道西遺跡　B － 3 区

行田大道南横道西遺跡　C － 5 区

写真図版 6

行田地区の M － 1 号溝（行田大道南横道東遺跡）

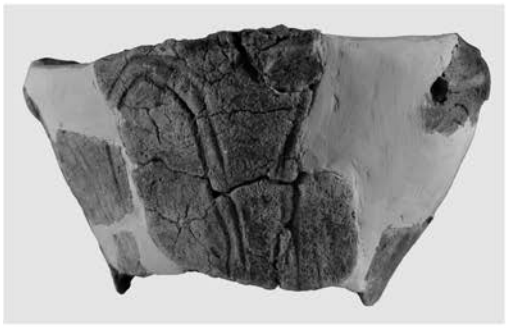
行田大道南横道東遺跡 M － 1 号溝 A 区

行田大道南横道東遺跡 M － 1 号溝 C 区

行田大道南横道東遺跡 M － 1 号溝 B 区

行田大道南横道東遺跡 M － 1 号溝 B 区土層断面

N22 J-1号住居跡（97）


N23 J-5号住居跡（113）

N23 D-472号土坑（238）

N24 J-3号住居跡（320）

N22 J-2号住居跡（101）

N22 J-2号住居跡（104）

N23 J-5号住居跡（130）

N24 J-3号住居跡（326）

N24 J-3号住居跡（324）

N24 J-3号住居跡（331）

N22 J-1号住居跡（100）

N22 J-3号住居跡（106）

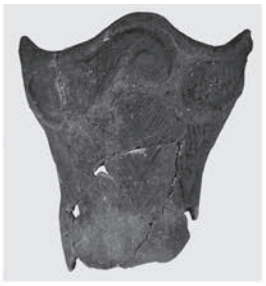
N23 J-5号住居跡（111）

N24 J-3号住居跡（335）

N24 J-4号住居跡（345）

写真図版 8

N24 J-4号住居跡（346）


N24 J-8号住居跡（355）

N24 J-13号住居跡（383）

N24 J-21号住居跡（459）

N24 J-22号住居跡（463）

N24 J-23号住居跡（477）

N24 D-306号土坑（603）

N24 D-291号土坑（600）

N24 J-9号住居跡（233）

N24 J-9号住居跡（234）

N24 J-33号住居跡（391）

N24 D-344号土坑（617）

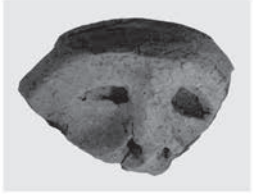
N24 U-1号埋設土器（641）

N22 I-4a（41）

N22 D-281号土坑（71）

N24 P-59（430）

N24 D-247号土坑（394）


N23 D-228号土坑（1）

N24 D-399（4）

発掘調査報告書　抄録

ふりがな	にしよこのせいぶちくいせきぐん（おくなだにほんすぎはらひがしにいせき・おくなだいちこづかいせき・おくなだだいどうみなみよこみちひがしいせき・おくなだだいどうきたよこみちひがしいせき・おくなだだいどうみなみよこみちにしいせき・にけんざいけにほんすぎにいせき）
書　名	西横野西部地区遺跡群（行田二本杉原東Ⅱ遺跡・行田市子塚遺跡・行田大道南横道東遺跡・行田大道北横道東遺跡・行田大道南横道西遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡）
副書名	県営農地整備事業・県営水利施設等整備事業松義西部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編著者名	井上慎也・株式会社火山灰考古学研究所
編集機関	安中市教育委員会
編集機関所在地	379-0292　群馬県安中市松井田町新堀245　　TEL　027-382-1111
発行年	西暦2020年（令和２年）３月23日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
行田二本杉原東Ⅱ（おくなだにほんすぎはらひがしに）	安中市松井田町行田字二本杉原東　地内（あんなかしまついだまちおくなだ にほんすぎはらひがし）	102113	№U185 N-19 N-19B	36° 29′ 82″	138° 79′ 33″	20141210～20150303 20170110～20170207	630㎡ 130㎡	県営農地整備事業・県営水利施設等整備事業松義西部地区事業
行田市子塚（おくだいちこづか）	安中市松井田町行田字市子塚　地内（あんなかしまついだまちおくなだ いちこづか）		№U185 N-20 N-20B	36° 30′ 01″	138° 79′ 15″	20130508～20131011 20141210～20150303	700㎡ 1,330㎡	
行田大道南横道東（おくなだだいどうみなみよこみちひがし）	安中市松井田町行田字大道南横道東　地内（あんなかしまついだまちおくなだ だいどうみなみよこみちひがし）		№U185 N-21 N-21B	36° 30′ 10″	138° 78′ 93″	20130508～20131011 20141210～20150303 20150511～20150831 20160512～20160720	2,430㎡ 3,520㎡ 1,640㎡	
行田大道北横道東（おくなだだいどうきたよこみちひがし）	安中市松井田町行田字大道北横道東　地内（あんなかしまついだまちおくなだ だいどうきたよこみちひがし）		№U185 N-22 N-22B	36° 30′ 27″	138° 78′ 97″	20141210～20150303 20150511～20150831 20160512～20160720	 250㎡ 2,000㎡	
行田大道南横道西（おくなだだいどうみなみよこみちにし）	安中市松井田町行田字大道南横道西　地内（あんなかしまついだまちおくなだ だいどうみなみよこみちにし）		№U185 N-24	36° 30′ 30″	138° 78′ 35″	20170110～20170207 20170501～20170914	700㎡ 8,300㎡	
二軒在家二本杉Ⅱ（にけんざいけにほんすぎに）	安中市松井田町二軒在家字二本杉、行田字市子塚・大道南横道東　地内（あんなかし まついだまち にけんざいけ にほんすぎ おくなだ いちこづか だいどうみなみよこみちひがし）		№U185 N-23 N-23B N-23C	36° 30′ 20″	138° 79′ 01″	20150511～20150831 20170110～20170207	2,350㎡ 280㎡	

所収遺跡名	種	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
行田二本杉原東Ⅱ	集落 その他	縄文 奈良・平安	縄文前中期包含層 奈良・平安溝（牧区画溝）	縄文土器（前期有尾・黒浜式、諸磯ｂ式、諸磯ｃ式、十三菩提式、五領ヶ台式、阿玉台式、勝坂式、加曽利Ｅ式）、石器・石製品（石鏃、石錐、石匙、打製石斧、磨製石斧、弥生石鏃、石棒他）、土偶、土師器・須恵器（坏・甕）、中世土器（かわらけ）	縄文中期を主体とする集落。集落は、居住域と墓域(土坑墓群)に分けられる。 出土土器は、在地の加曽利Ｅ式を主体とする土器群に異系統の土器群（曽利式、郷戸式他）が供伴する。 縄文中期の黒曜石を石材とした製石鏃製作が主体。 横野台地に分布する牧関連遺構である安中市と富岡市との境界付近に存在する区画溝（南側）を確認。 近世妙義道の一部を確認。
行田市子塚	集落 その他	縄文 奈良・平安	縄文中期包含層・土坑 奈良・平安溝（牧区画溝）		
行田大道南横道東	集落 その他	縄文 奈良・平安	縄文前中期包含層・土坑 奈良・平安溝（牧区画溝）・住居		
行田大道北横道東	集落	縄文 中近世	縄文中期住居・土坑（土坑群） 中近溝		
行田大道南横道西	集落	縄文 中世	縄文中期住居・土坑（土坑群）・集石・埋設土器 中世炭窯		
二軒在家二本杉Ⅱ	集落 その他	縄文 中近世	縄文中期住居・土坑（土坑群）、埋設土器 中近世道路状遺構（妙義道）・炭窯		

西 横 野 西 部 地 区 遺 跡 群

行田二本杉原東Ⅱ遺跡・行田市子塚遺跡
行田大道南横道東遺跡・行田大道北横道東遺跡
行田大道南横道西遺跡・二軒在家二本杉Ⅱ遺跡

県営農地整備事業・県営水利施設等整備事業
松義西部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　日　　令和２年３月 23 日

編集・発行　　安中市教育委員会
群馬県安中市松井田町新堀 245

印　　刷　　上毎印刷工業株式会社
群馬県前橋市天川大島町 305-1